

【公開版】

日本原燃株式会社	
資料番号	共通 06 <u>R 6</u>
提出年月日	令和 3 年 <u>9 月 21 日</u>

設工認に係る補足説明資料

本文（基本設計方針、仕様表等）、
添付書類（計算書、説明書）、添付図面で記載すべき事項

目 次

1. 概要.....	1
2. 申請書本文（基本設計方針、仕様表等）に記載すべき事項.....	1
3. 添付書類（計算書、説明書）、添付図面.....	13
4. 補足説明資料.....	15
5. 準拠規格及び基準.....	15
6. 類型化展開の考え方.....	16

添付－1 基本設計方針の作業フロー、添付書類（説明書、計算書）の作業フロー

添付－2 基本設計方針、工事の方法の変更前記載事項の既工認等との紐づけ

添付－3 様式－7を用いた発電炉との記載の比較

添付－4 基本設計方針の申請書毎の対象整理

添付－5 仕様表記載項目の設定

添付－6 仕様表展開表

添付－7 仕様表記載例

添付－8 設工認申請設備選定フロー

添付－9 基本設計方針等から添付書類へ展開すべき事項の展開

添付－10 添付書類の発電炉との比較

参考 仕様表対象機器の選定に係る手引き（案）

■：商業機密の観点から公開できない箇所

1. 概要

- 本資料は、再処理施設、MOX燃料加工施設（ウラン濃縮加工施設）における申請書として必要な書類の作成において、設工認申請書の各書類で記載すべき事項などについて補足説明を行うものである。
- 新規制基準を受けた設工認申請では、既設工認から申請書で説明すべき事項が変更となったことから、申請書本文（基本設計方針、仕様表等）、添付書類（計算書、説明書）、添付図面で記載すべき事項・記載方法、補足説明資料の位置づけを明確にする必要がある。
- そのため、申請書本文（基本設計方針、仕様表等）、添付書類（計算書、説明書）、添付図面の記載方針を示すとともに、発電炉の実績を踏まえた記載程度の整理及び既認可での記載事項との関係の整理の考え方を示す。

2. 申請書本文（基本設計方針、仕様表等）に記載すべき事項

(1) 基本設計方針（添付－1参照）

①記載方針

a. 基本事項

- 設工認申請書の基本設計方針については、事業変更許可申請との整合及び技術基準規則への適合の観点で、設備設計における設計の概念、基本的な考え方等を記載する。
- 記載の形式については、先に新規制基準を踏まえた設工認の認可を得ている発電炉の記載を参考とし、新規制基準を踏まえた変更点が明確になるよう前後表とする。
- 変更後の記載については、新規制基準による規則要求の変更有無を踏まえ、「新規制基準の要求により、過去の設計方針からの記載事項の変更が生じるもの」として、様式-7で事業変更許可申請書の本文、添付書類記載事項をもとに設計の概念、基本的な考え方等として基本設計方針に記載する事項とした内容を記載する。
- 変更前の記載については、上述の変更後の記載をもとに、既設工認で設計方針等として示していたもの、明示していないものの既設工認の記載を詳細展開した内容であり、従前から設計上実施していたものを抽出し、記載する。さらに、法令、従前の許可等から同様の設計を行っていた事項、従前から実施していたものが法令変更によって追加記載事項になった事項等についても、記載の適正化として変更前に記載する。
- 変更前の記載方針は、同じく前後表の形式で記載する「工事の方法」でも同様である。

- 具体的に変更前に記載する事項としては、「既設工認に記載されている内容と同様（同義を含む）」、「既設工認に記載されている内容と全く同じではないが、既設工認の記載を詳細展開した内容であり、設計上実施していたもの」、「その他既設工認に記載されていないが同様の設計を行っていたこと等の理由から記載の適正化を図ったもの」である。
- 上記の変更前記載事項に係る分類及び分類ごとの例を以下に示す。また、基本設計方針の変更前記載事項の既工認等との紐づけの例を添付－2に示す。

分 類	分類例
既設工認に記載されている内容と同様（同義を含む）： 	<p><基本設計方針></p> <p>Sクラスの安全機能を有する施設は、その供用中に大きな影響を及ぼすおそれがある地震動（以下、「基準地震動」という）による地震力に対してその安全機能が損なわれるおそれがないように設計する。</p> <p><既設工認等></p> <p>Sクラスの安全機能を有する施設は、その供用中に大きな影響を及ぼすおそれがある地震動（以下「基準地震動」という。）による地震力に対してその安全機能が損なわれるおそれがないように設計する。</p>
既設工認に記載されている内容と全く同じではないが、既設工認の記載を詳細展開した内容であり、設計上実施していたもの： 	<p><基本設計方針></p> <p>管理区域内の汚染のおそれのある部屋の床及び人が触れるおそれのある壁の表面、除染が容易で腐食し難い材料で仕上げる設計とする。</p> <p>i. 工程室の床、壁及び天井に対して樹脂系塗料等で平滑に仕上げを行う。</p> <p>ii. 密封された核燃料物質等を取り扱う室並びに混合酸化物貯蔵容器を受け入れる室及び保管する室については、床及び壁に対してのみ樹脂系塗料等で平滑に仕上げを行う。</p> <p>iii. 上記 i. 及び ii. 以外の管理区域は、床及び壁に対して樹脂系塗料等で平滑に仕上げを行う。</p> <p>なお、壁の樹脂系塗料等で平滑に仕上げを行う範囲は、人が歩行するときに肩が当たらない高さ程度までとする。</p> <p><既設工認></p> <p>本申請に係る建物のうち、汚染のおそれのある部屋の床及び人が触れるおそれのある壁の表面は、表面を腐食し難い樹脂系塗料等で平滑に仕上げ、除染しやすい設計としている。</p>
その他既設工認に記載されていないが同様の設計を行っていたこと等の理	<p><基本設計方針></p> <p>2.1.2 容器等の主要な溶接部に係る検査</p> <p>容器等の主要な溶接部に係る使用前事業者検査は、技術基準第15条第1項</p>

<p>由から記載の適正化を図ったもの： <input type="checkbox"/></p>	<p>第3号及び第31条第1項第2号並びに加工施設の技術基準に関する規則の解釈(以下「技術基準解釈」という。)に適合するよう、以下の(1)及び(2)の工程ごとに検査を実施する。</p> <p>(1) あらかじめ確認する事項</p> <p>次の①及び②については、容器等の主要な溶接部の溶接をしようとする前に、技術基準解釈 別記 別紙-2溶接施工法認証標準及び別紙-3溶接士技能認証標準に従い、第2.1.2-1表、第2.1.2-2表に示す検査を行う。</p> <p>① 溶接施工法に関すること</p> <p>② 溶接士の技能に関すること</p> <p>→耐圧試験または漏えい試験(溶接部に係る検査)に係る事項は、既工認から加工施設、再処理施設、特定廃棄物埋設施設及び特定廃棄物管理施設の溶接の技術基準(平成12年総理府令第123号)または発電用原子力設備規格、設計・建設規格に準拠して実施しており、変更はない。</p>
--	--

②記載すべき事項

- 基本設計方針は、申請対象設備で担保すべき機能・性能に関する基本的な要求を満たすための設計の概念、基本的な考え方を記載するものである。
- そのため、事業変更許可申請書本文及び安全設計に係る添付書類を踏まえ作成する様式-7をもとに、許可整合の観点から様式-7で事業変更許可申請書の本文、添付書類記載事項をもとに設計の概念、基本的な考え方等として基本設計方針に記載する事項とした内容を記載する。
- この際、機能・性能を発揮するための具体的な数値等については、次項目の仕様表に記載することを基本とするが、取り扱う核燃料物質の性状(同位体組成、富化度等)、工程ごとの生産に係る処理能力等の事業変更許可申請書 本文に記載した数値等については、基本設計方針に記載する。また、事業変更許可申請書 添付書類に記載した数値等については仕様表に示す数値等を設定するための前提条件(設工認での安全設計における設計条件)となる以下の数値等を基本設計方針に記載することとし、それ以外の設備容量等は、設工認の添付書類に記載する。
- なお、安全機能を損なわないことを確認する際の許容値等の基本設計方針での示し方は、直接的に設計条件に該当しないため、可能な限り数値を使用せず文章で表現することとし、文章で表現することが難しい場合は数値として記載する。
 - ✓ 外部衝撃に係る以下の設計条件
 - (竜巻) 荷重条件に用いる竜巻の最大風速、設計飛来物の荷重条件に

用いる飛来物の大きさ、最大速度

(外部火災) 許可で算出した火炎輻射強度、輻射強度、防火帯の幅の設定、危険限界距離の設定に用いる爆発の爆風圧、近隣の火災及び爆発源となる産業施設の抽出範囲 (10 km範囲内)

(火山) 許可で設定した降下火砕物の層厚、密度、間接的影響に係る外部電源喪失の考慮期間 (7日間)

(その他) 想定する落雷の規模

(航空機防護) 衝撃荷重に係る条件となる航空機の諸元、貫通厚さの算定に用いるエンジンの質量、エンジンの給気口直径、エンジンの衝突速度

- ✓ 火災に係る耐火能力 (3時間以上)、3時間耐火に設計上必要な施設共通の最小厚さ、設計条件である水素・アルゴン混合ガス中水素最高濃度、水素ガス漏えい検知の漏えい検知設定値、消火用水供給系の水量設定値、凍結深度等
- 上記以外として、事業変更許可申請書本文において、設備の構成としての系統数や予備を含めた必要量として個数のみを約束している事項 (事業変更許可申請書添付書類で仕様を設定している機器等 (仕様表対象機器) を除く) については、許可整合の観点で踏まえ設工認申請書の基本設計方針において、事業変更許可申請書に示した個数を記載し、添付書類 (安全機能を有する施設及び重大事故等対処設備が使用される条件の下における健全性に関する説明書、設備別記載事項の設定根拠に関する説明書等) において具体的な個数やその考え方等を展開する。
- また、事業変更許可申請書本文で必要な数量等を一式として示しているもののうち、系統で安全機能を達成する設備については、「(2) 仕様表③申請対象設備の選定」に示す方法により安全機能を達成するために必要な機器等を抽出し、基本設計方針、仕様表等で必要な機器の機能、性能等を示す。
- 設工認が詳細設計を示すものであることを踏まえ、基本設計方針において“等”の記載を必要最低限とする。基本設計方針で“等”を記載するケースとしては、基本設計方針の他の項目で等の内容を詳細に記述している場合、添付書類で設備の構成、構造を踏まえたうえで詳細設計を展開する場合や保安規定に基づき策定する保全計画で内容を明確にする場合等であり、これらの理由については「共通 00 共通的な補足説明について」において技術基準規則の各条文への展開として作成する別紙 1 で明確にする。
- 設計で参考とした内規 (規制庁ガイド) については、審査を合理的に進

めるための共通的な考え方等が示されたものであり、規制庁ガイドに依らずとも技術的に妥当な考え方に基づいた基準適合性を示すことが可能である。このため、基準適合性を示すための必須条件ではないことから、以下の条件に該当する場合にのみ、規制庁ガイドの名称を基本設計方針に記載する。

(1) 事業変更許可申請書の本文において規制庁ガイドの名称が記載されている場合

(2) 事業変更許可申請書の添付書類において規制庁ガイドの名称が記載され、かつ、設工認の基本設計方針を展開するうえで当該ガイドの名称を明記することが必要な場合

- この場合に、基本設計方針には規制庁ガイドの名称のみで個別の改正年は記載しないこととし、添付書類あるいは準拠規格及び基準において年度等を参照することを明示することにより特定する。
- これと同様に、基準適合性の説明のために用いる規格基準についても、基本設計方針においてはその名称のみの記載とし、年版の指定による特定については、添付書類あるいは準拠規格及び基準において示す。

③発電炉の実績を踏まえた記載程度の整理

- 基本設計方針の記載方針や記載すべき事項は、前述のとおりであるが、記載の適切性の向上として、先行する発電炉との比較を行う。
- 様式－7での許可整合による展開を行った基本設計方針の記載事項と同じ項目として展開されている発電炉の記載を比較し、事業変更許可申請書本文、添付書類のうち、基本設計方針として記載することが必要な事項を抽出し、記載を追加する。
- 上記の目的に照らして、規則等の記載を展開していること、同じ設備がないことなどの理由で記載に差異が生じているものは、基本設計方針への記載の展開は行わない。

④分割申請における基本設計方針の展開

a. 基本設計方針の申請書単位での展開の整理

- 分割申請を行う場合、各申請書において基本設計方針の全ての項目が対象とならないことから、基本設計方針の項目ごとの記載事項とそれが関係する施設、設備及びそれが申請される申請書との関係を明確にする必要がある。
- そのため、基本設計方針は、様式－6, 7での展開を考慮し、要求種別、分割申請全体を考慮したどの申請書で申請するどの設備と紐づくかを

明確にする。

- そのうえで、各申請書の対象となる基本設計方針を設定する。(添付ー4 参照)
- 基本設計方針の要求種別は、先行する発電炉を踏まえると基本方針(冒頭宣言、定義)、設置要求、機能要求(①又は②)、評価要求、運用要求に分類されるため、申請対象設備との関係で技術基準への適合性をどの申請書で説明するかを設定する。そのうえで技術基準適合性を説明する申請書で基本方針に係る事項を申請し、要求種別と対象設備との関係を踏まえて、説明が必要な申請書において基本設計方針を展開する。ただし、基本方針に該当する基本設計方針で個別の設備の設計方針との繋がりがあある事項については、当該個別設備を申請する申請書で申請することとする。
- 技術基準適合性を説明する申請書等で基本設計方針を示す際に、1.1、(1)、a.等の項目単位の一部が申請対象となる場合には、項目番号、項目名称を記載したうえで、後次回申請となることを示す。その場合に、単に後次回申請で示すことだけではなく、後次回以降の申請で申請対象となる設備名称との関係を示し、その設備と合わせて申請する旨を記載する。
- 要求種別のうち、設置要求、機能要求(①又は②)、評価要求に対する分類の考え方等は、以下のとおり。

要求種別	分類の考え方
設置要求	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業変更許可申請書、技術基準規則において、設備、機器を設置することを約束し、その設置する設備、機器に性能、機能を要求しないもの(元々設置する機器が、所要機能を達成するためのものとして汎用的に設計され、設置することで適合説明するもの)。 例：出入管理設備、通信連絡設備等 <ul style="list-style-type: none"> ● 検査では、設備、機器が設置(据付、外観、状態確認)されていることを確認する。
機能要求①	<ul style="list-style-type: none"> ● 設置する設備、機器に一定の機能を要求するもので、機能を達成することを系統構成及び設備構成によって説明するもの。 ● 検査では、機能を達成するための系統構成を確認する
機能要求②	<ul style="list-style-type: none"> ● 設置する設備、機器に技術基準の要求事項を満足するために必要な具体的な仕様(数値)によって適合説明するもの 例：個々の設備、機器が所要の機能、性能を発揮するうえで当該数値を満足するよう詳細設計～設計の妥当性確認まで実施するもの <ul style="list-style-type: none"> ● 検査では、具体的な数値に関する検査(材料、寸法、耐圧、機能確認検査等)により必要な仕様が確保されていることを確認する。
評価要求	<ul style="list-style-type: none"> ● 設置する設備、機器が期待する機能を達成することを適合説明

	<p>するために試験、評価、計算を必要とするもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 検査では、試験、評価、計算によって機能を達成することを確認した条件に合致するかを確認する。
運用要求	<ul style="list-style-type: none"> ● 運用要求は保安規定等でその運用を担保するもの。

b. 分割申請における1項及び2項同時申請に対する考慮

- 【共通01：1項申請と2更申請の区分】に記載の通り、今回の再処理施設及びMOX燃料加工施設の設工認申請においては、「しゅん工範囲及び未しゅん工範囲」並びに「認可済み範囲及び未申請範囲」が混在するため、同時に1項申請及び2項申請を実施する。
- したがって、同時に申請する1項申請及び2項申請において、同じ内容の基本設計方針を記載するものがある。^{※1}

※1【例】再処理施設におけるF施設（しゅん工範囲）と再処理本体（未しゅん工範囲）

- この場合、申請及び審査の重複や混在を防ぐため、主となる申請側にて基本設計方針を記載することとし、従となる申請側は、主となる申請の基本設計方針を読み込むこととする。
再処理施設及びMOX燃料加工施設における具体的な記載方針は以下の通り。

a) 再処理施設

- 再処理施設の建設時の設工認は、全て認可済みであり、一部においてしゅん工施設（使用済燃料の受入れおよび貯蔵に係る施設）はあるものの、大部分の施設については、未しゅん工施設（再処理設備本体等に係る施設）であることから、再処理施設の設工認においては、2項申請を主たる申請とする。

b) MOX燃料加工施設

- MOX燃料加工施設については、【共通01：1項申請と2更申請の区分】で示したとおり、燃料加工建屋／洞道、原料粉末受入工程／粉末調整工程等の認可済みの施設はあるものの、大部分の施設については未申請である。そのため、MOX燃料加工施設の設工認においては1項申請を主たる申請とする。

(2) 仕様表

①記載方針

- 仕様表は、申請対象設備で発揮すべき機能・性能に関する設備が具備、実現するための要件を具体的な数値等で記載するものである。

- そのため、仕様表には技術基準適合性、事業変更許可で示した機能・性能が、基準等へ適合していることを説明するうえで必要な、構造、性能等に係る具体的な数値等を示す。
- 排気風量、フィルタの除染性能等の廃棄施設に係る設備の機能・性能に係る事項、核燃料物質の貯蔵能力、廃棄物の保管廃棄能力等の施設の安全設計上の要求事項に係る具体的な数値等についても仕様表に示すものとする。
- また、変更申請においては、既設工認において仕様表を示していることから、新規制基準を踏まえた変更点が明確になるよう前後表の形で示す。
- 仕様表記載項目は、発電炉別表第二及び工認手続きガイドを参考とし設定する。

②記載すべき事項

- 仕様表においては、設工認申請対象設備で担保すべき機能・性能に関する具体的な数値等として、技術基準の条文ごとの要求事項をベースとして要求される機能・性能の重要度等を踏まえ、設備の構造・強度に関する仕様等を記載する。
- 設工認申請対象設備は、許可整合、技術基準適合の観点で、重要度分類や要求される機能、性能を踏まえて選定する（設工認申請対象設備の選定の考え方は、③参照）ものとし、さらに、施設の特徴（機器等の数が膨大且つ重要度が高いものから低いものまで混在して多岐に亘ること、非密封の核燃料物質等を連続的なプロセスで取り扱っており、動的な機能で公衆への影響を低減していること）を踏まえ、設工認申請対象設備から以下の観点に該当すること及び発揮すべき機能・性能に関する設備が具備、実現するための要件を具体的な数値で示す必要のある設備、機器を仕様表対象として選定する。仕様表対象機器の選定に係る手引きを参考として示す。
- ✓ 機能の喪失により、公衆又は放射線業務従事者に放射線障害を及ぼすおそれがあるもの及び運転時における異常な過渡変化時、設計基準事故時又は重大事故時等において公衆又は放射線業務従事者に及ぼすおそれがある放射線障害を防止するため、放射性物質又は放射線が工場外へ放出されることを抑制し、又は防止するための設備（安全上重要な施設、重大事故等対処施設、耐震Sクラス設備、常設耐震重要重大事故等対処設備及び1.2倍の基準地震動による地震力により機能喪失しない設備）（以下「耐震重要施設等」という。）のうち主要な機器等）

- ✓ 通常運転状態において公衆又は放射線業務従事者に及ぼすおそれがある放射線障害を防止するため、放射性物質又は放射線が核燃料施設を設置する工場等外へ放出されることを抑制し、又は防止するための設備（安全機能を有する施設のうち、核燃料物質等の貯蔵・保管・廃棄機能に係る確認を必要とする使用済燃料の貯蔵施設、製品貯蔵施設及び放射性廃棄物の廃棄施設（気体・液体・固体）の主要な機器等）
- ✓ 事業変更許可申請書本文に記載している再処理、MOX燃料加工を行うための設備（使用済燃料又は核燃料物質等を含む溶液又は粉末を取り扱う主要な機器等）
- ✓ 自然現象、人為事象、火災、溢水その他の核燃料施設の安全性を損なわせる原因となるおそれがある事象等の設計想定事象に対する安全上重要な施設、重大事故等対処施設、耐震重要施設等の機器等の機能喪失を防止する設備（安全機能を有する施設のうち、その他加工施設、その他再処理設備の附属施設、その他廃棄物管理設備の附属施設の火災防護設備、溢水防護設備、竜巻防護対策設備等の主要な機器等）
- また、仕様表対象機器の選定を統一的行うため、機器の種類観点で 23 機種（大分類） に分類する。さらに仕様表作成（記載項目）を統一的行うこと及び添付書類（設定根拠書）との関係を踏まえ、23 機種の機能・性能に応じ 36 分類（中分類） に細分化したうえで、仕様表の基本的パターンとする。
- 仕様表には、上述の基本的なパターンを考慮し、以下の事項を記載することとし、具体的な記載項目については、発電炉別表第二及び工認手続きガイドを参考とするとともに当社の設備の特徴を踏まえて設定する。（添付－5 参照）
 - ✓ 共通事項：名称、種類又は主要構造、個数、系統名、設置場所等
 - ✓ 設計条件情報：地盤の支持力度、核的・化学的・熱的制限値、最高使用温度、最高使用圧力、容量、漏えい率等
 - ✓ 仕様情報：材料及び寸法、防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ）、原動機の回転速度、力率、検出器の種類、計測範囲、警報動作範囲等
- 仕様表の記載方針については、作成要領に反映し、展開する。また、仕様表記載項目及び仕様表の記載例（既設工認、発電炉との比較を含めた比較表）を添付－6，7に示す。
- 仕様表への記載方法として、発電炉の実績を踏まえて設定した主な考え方を以下に示す。これらの考え方は、仕様表の作成方法としてガイド等

に定める。

- 仕様表の記載項目は、発電炉別表第二及び工認手続きガイドを参考に設定することとし、既設工認仕様表記載項目で今回の設工認で仕様表に記載しない項目（既設工認仕様表の特記事項（搬送設備の落下防止インターロック、保温材の設置、計装設備の安全上重要な施設の系統分離等）等）については、記載項目の重要度、記載内容に応じて基本設計方針、添付書類、添付図面のいずれかに展開する。
- 仕様表の記載項目については、上述のように 36 分類（中分類）を基本とし、記載項目が同分類の対象となる機器全てをカバーできる項目とする。ただし、機器によって記載項目に該当する機能、性能がない場合には、当該項目を「－」として、対象としない理由を仕様表の注釈に記載する。
※具体的に作成する仕様表記載例は、36 分類（中分類）を基本とするが、可能な限り当該項目が「－」となる理由を記載することができないように類似する構造分類ごとの仕様表記載例を作成する。
- 臨界管理や遮蔽体の有無のように機種の中で、一部の該当機器にのみ適用される仕様項目については、機種共通の仕様項目とはせず、該当機器にのみ仕様項目を追加する。この追加仕様項目は、添付一 6 の付属構造に示す。
- インターロックとして仕様表に展開する機器等は、設備の重要度、基本設計方針における要求種別、技術基準適合性等との関係を踏まえ、以下のものとする。
 - i. 安全保護回路、安全上重要な施設のインターロック、重大事故等の対処に必要なインターロック（代替可溶性中性子吸収材緊急供給回路等）及び技術基準規則の警報設備等として適合性説明を行うインターロック
 - ii. 事業変更許可申請書 添付書類で示したインターロックのうち熱的、化学的制限値等の技術基準規則に係るインターロック
 - iii. 上記以外の事業変更許可申請書 本文で名称やその機能等を示したインターロック
- 上記 i ～ iii については、基本設計方針においてインターロックの名称、機能等を記載し、仕様表にて展開する。
- 上記以外の事業変更許可申請書添付書類のみに記載したインターロックについては、当該インターロックを設置する個別施設（計測制御設備等）の基本設計方針において、運転時・停止時等の施設の運転状態を想定される範囲内で制御することを記載し、添付書類、添付図面

において具体的なインターロックの機能等を展開する。

- 温度高により設備を停止する等のインターロックの仕様表への具体的な展開については、インターロックを作動させる検出端となる計器と機器の停止等の動作に係るインターロック（停止回路等）の各々について仕様表を設定する。また、インターロックの動作内容については、基本設計方針に記載するとともに、インターロックの仕様表において作動設定値の注釈として機器を停止する等の動作内容を記載する。
- なお、搬送設備の落下防止、転倒防止のインターロックのように設定値を要しないものについては、基本設計方針においてインターロックの機能等を記載し、当該インターロックに係る機器の仕様表の注釈に設定するインターロックの機能を記載する。
- 警報装置については、i～iiiに該当する計器を仕様表にて展開する。なお、警報機能は、警報装置を設置する個別施設（計測制御設備等）の基本設計方針において、運転時・停止時等の施設の運転状態を想定される範囲内で監視すること等の設計方針を記載し、仕様表において警報動作値を記載する。それ以外の事業変更許可申請書添付書類に示した警報装置については、基本設計方針は上記と同様の展開とし、添付書類、添付図面において具体的な警報装置、機能等を展開する。
- 主配管、主ダクトについては、既設工認の仕様表では備考欄に記載していた配管番号等による対象を特定するための番号は記載せず、発電炉と同様に配管名称のみで示す記載とし、添付図面に対象となる配管に番号を記載するとともに、図面の別紙として仕様表の抜粋と図面に示した番号を紐づけて記載することにより、対象を特定できるようにする。
- 主配管及び主ダクトについては、用途、仕様範囲等を明確化するため、以下の範囲で細分化し、各境界を踏まえた From-to がわかるような名称とする。主配管等の名称は、原則として以下に示す例の通り仕様表対象の機器間における設計基準対象施設、重大事故等対処設備等の用途及び仕様範囲が同一となる範囲を細分化しすぎない程度に区切って名称を付ける。

【例：主配管等の名称】

- ✓ プロセス系統：「主配管（○○ポンプ～△△貯槽）」、「主配管（○○ポンプ～△△配管合流部）」、「主配管（○○ポンプ～弁（弁番号）」

- ✓ 換気系統：「主ダクト（〇〇室～△△フィルタ）」、「主ダクト（〇〇室～△△ダクト合流部）」、「主ダクト（〇〇室～ダンパ（ダンパ番号）」
 - ✓ 仕様表対象機器等を跨いでも、用途、仕様範囲等が変わらない場合は、「〇〇～△△～□□」等として、できる限り1つに纏める
- また、分岐、合流部における名称については、「〇〇ポンプ出口配管合流部」など上流、下流といった当該設備の容器やポンプ等といった主要機器との関係性がわかるような名称を付ける。
 - なお、「③設工認申請対象設備の選定」の結果として抽出した機器等を設備リストに反映する際、配管やダクトについては、説明対象となる技術基準適合性の項目が同じものは、上述の From-to で分解せず、配管一式等として纏めて示すこととする。
 - 管台及び管継手については、強度評価の対象となるもので J I S 等の規格に基づいたものを除き、異材継手等の特殊なものは仕様表に展開し、添付図面で外径、厚さ、材料等を記載する。
 - 機器、計器等の取り付け箇所については、機器の機能、性能を達成するためにその取り付け位置（システムの独立性、位置的分散等）が重要なものは、その取り付け位置や保管場所等が特定できる記載とし、それ以外のものについては、系統名称などどの設備に設置するかが認識できる程度の記載とする。
 - 同一名称、仕様等の機器、計器で「設置室（設置床）」「溢水防護上の区画番号」「溢水防護上の配慮が必要な高さ」のうち、2つの要素が異なるものが存在する場合は、仕様表の注釈に機器番号及び計器番号を記載し、添付図面との関係で対象が特定できるようにする。
 - 主要材料及び主要寸法に係る記載については、共通の要求事項である材料及び構造、耐震に係る強度評価等に関係するもの、及び臨界防止、火災、遮蔽、閉じ込め、重大事故等対処に係る容量等の機能、性能の設計条件を伴う部位に係るものを仕様表へ展開する。
 - ✓ 主要材料に係る記載については、上述する設計条件を満足していることを示すためその材料を特定し、材料検査で確認する対象であることが分かるよう材料番号（例 SUS304 等）を記載する。なお、強度評価等を伴わず、火災に対して機器等が不燃性であることを示すものについては要求事項が達成できるよう材料名（例：炭素鋼、ステンレス鋼等）を記載する。
 - ✓ 主要寸法に係る記載については、臨界防止、火災、遮蔽（遮蔽材厚

さ)、閉じ込め、容量等の機能、性能の条件を伴う主要寸法を記載するものを対象として、これら設計条件を満足していることを示すためその具体的な部位名称と寸法(数値)を記載し、寸法検査で確認する対象であることが分かるよう数値を記載する。なお、それ以外に係る寸法の記載については、事業変更許可申請書の記載事項及び地震による損傷の防止の要求事項が達成できるよう機器全体の構造に係る寸法(高さ、幅、奥行き等)を記載する。

- 最高使用温度、最高使用圧力については、容器、管等の設計として耐圧強度評価の対象となる機種を対象として、設計条件を満足していることを示すために仕様表に記載する。
- また、仕様表の変更前後の記載方法は、発電炉での考え方と同様とし、「新規基準による追加要求により仕様に追加、変更が生じるもの」、「更新により仕様が変わるもの」、「新規に設置するもの」を変更後に記載する。なお、「既認可から仕様が変わらないもの」、「既認可に記載がないが、既設として設置済みであり、従前から施設の一部として設計、管理され、記載の適正化として追加するもの」は変更前に記載する。

③ 設工認申請対象設備の選定

- 設工認申請対象設備は、技術基準への適合のために必要なものであり、安全機能との関係を踏まえて選定する必要がある。
- そのため、基本設計方針の記載内容ごとに要求種別と対応する設備を抽出することで、事業変更許可申請書で担保した事項を実現するための設備(許可整合)、及び、技術基準の要求事項を満足するための設備(技術基準適合)を選定する。
- 基本設計方針の記載方針等については、本資料の2.(1)に示したとおりであり、基本設計方針の項目ごとの要求種別と関係する設備との関係を示すことにより、事業変更許可申請書で担保した事項を実現するための設備(許可整合)及び技術基準の要求事項を満足するための設備(技術基準適合)を網羅的に選定する。
- また、上記設工認申請対象設備の抽出において、要求される安全機能(設計要件)の重要度に応じて、設工認申請書における記載グレード(以下のa.～c.のとおり)を分類する。
 - a. 仕様表対象設備(①)
 - ✓ 技術基準等の要求事項を達成するため、その機能、性能に係る仕様項目(温度、圧力、容量等)を示すことにより適合性を説明する設備

b. 基本設計方針に個別名称を記載する設備 (②-a)

- ✓ 技術基準等の要求事項を達成するため、仕様項目を示す必要はないが許可及び技術基準において設置（系統構成含む）することを明示している設備（仕様表対象以外）

例) 照明設備、通信連絡設備、火災防護設備（火災感知器、消火器等）、ホイールローダ等

c. a, b 以外の設備 (②-b)

例) 主配管以外のテストライン、バイパスライン、ベント・ドレンライン等、保守用の機器、ケーブル、安全避難通路、不法侵入の防止に係る機器等

- 基本設計方針で示す要求種別のうち、機能要求②は仕様表対象とすべき設備を示すこととなり、設置要求や機能要求①については基本設計方針で対象設備や系統構成により設計を達成する設備を示すことになる。このため、事業変更許可、技術基準の要求事項を明確化したうえで、設計情報（設備構成情報等を示す設計図書）をもとにその安全機能（設計要件）の達成に必要な設備（申請対象設備）を仕様表対象設備、基本設計方針対象設備に分類する。（添付－８ 参照）
- また、施設を構成する設備等には、機器単体で技術基準への適合や基本設計を達成するものと系統として技術基準への適合や基本設計を達成するものがあり、特に系統として安全機能（設計要件）を達成するものに対しては、当該系統の中で安全機能に関係する対象範囲や対象機器を抽出することが必要である。
- 上記の系統として安全機能（設計要件）を達成するものに対して、安全機能に関係する対象範囲や対象機器を抽出する方法として、設備構成情報等を示す設計図書に対する色塗りを行う。
- 設計情報（設備構成情報等を示す設計図書）として、エンジニアリングフローダイアグラム、計装ループブロック図、構造図、系統図等を対象とする。
- また、今回の設工認申請は複数回に分割して申請することを計画しており、各申請回次に含まれる設備の抽出が抜けなく行われることが重要であるため、基本設計方針のうち、機能要求②に該当する項目に関する設備をリスト化する。そのうち系統として安全機能（設計要件）を達成するものを明確化し、その対象設備と設計情報（設備構成情報等を示す設計図書）及び色塗り結果とを紐づけすることにより、対象範囲や対象機器の抽出を抜けなく行う。

- 上記の機能要求②に対する安全機能（設計要件）を達成するために必要な機器等の抽出については、分割申請計画の妥当性を説明するうえで必要となることから、分割申請の初回の申請においてその結果を反映する。
- 一方、試験運転中の再処理施設については、新規制基準を受けて新に追加する機器以外は、設工認の認可を得ており、既工認において上述の安全機能（設計要件）との関係を踏まえると必須ではない機器等も系統説明図として申請対象となっている。
- そのため、検査対象機器の範囲を明確化することを目的として、改めて安全機能（設計要件）の関係から、既工認の系統説明図等に対して基本設計方針における要求種別①、設置要求の設備として設工認申請対象となる機器等の選定を行う。これは設工認申請のために必須の事項ではなく、今後の検査の準備を念頭に選定に係る作業を実施する。
- 上述の設工認申請対象設備の選定の実施については、「共通09 申請対象設備の選定」に示す。

3. 添付書類（計算書、説明書）、添付図面

(1) 添付書類（添付—1 参照）

①記載方針

- 添付書類には、事業変更許可どおりであること、技術基準へ適合することを示すために基本設計方針から詳細設計に展開すべき事項として必要な評価対象となる施設、評価方法（評価条件、判断基準）、評価結果等を示す。
- 技術基準適合性等を説明するために必要な添付書類としては、核燃料物質の臨界防止に関する説明書、耐震性に関する説明書、加工施設の自然現象等による損傷の防止に関する説明書、強度に関する説明書、安全設備及び重大事故等対処設備が使用される条件のもとにおける健全性に関する説明書、設備別記載事項の設定根拠に関する説明書等がある。変更申請においては、添付資料の全体構成を示したうえで、新規制基準を踏まえた変更点が明確になるよう、変更のないものは添付書類の表紙に変更がないことを示したうえで、既設工認申請との対応関係を明確にする。
- また、添付書類には、基本設計で示した設計の基本的な概念を設計の目的を踏まえて設計の仕様へ展開することや設計の目的を達成できることを評価するなど基本設計方針等から詳細設計へ展開すべき事項を漏れなく展開する必要があることから、様式—6での整理も踏まえ基本設

計方針から添付書類へ展開すべき事項を展開する。

- 「2. 申請書本文（基本設計方針、仕様表等）に記載すべき事項（1）基本設計方針」に示した申請対象設備との関係で抽出した基本設計方針の対象に対して、上述の展開を行うこととし、基本設計方針等から添付書類へ展開すべき事項の展開に使用する記載フォーマットを添付－9に示す。具体的な記載の展開については、「共通00 共通的な補足説明について」において技術基準規則の各条文への展開として作成する別紙2、別紙3で行う。
- 分割申請における各申請書での添付書類の記載事項については、添付書類の項目単位で上述の別紙2，3において申請対象の基本設計方針、申請対象設備との関係を踏まえて記載の展開を設定する。

②記載すべき事項

- 添付書類では、申請設備との関係を踏まえ、基本設計方針から詳細設計に展開すべき事項を抜けなく展開するものとし、基本設計方針や仕様表に記載される内容及び設備仕様により、要求仕様が満足されていることを具体的に評価・説明する。このため、評価・説明に用いる入力条件、環境条件、出力値、評価式、参考文献等、評価・説明に関する条件や資料等を記載する。
- 添付書類での記載内容については、事業変更許可申請書の添付書類、安全審査時に作成した整理資料の記載をもとに検討するものとし、記載程度等については、先行する発電炉の記載を参考とする。

③発電炉の実績を踏まえた記載程度の整理

- 添付書類に記載すべき事項等は、上述の通りであるが、詳細設計としての記載程度については先行する発電炉の記載と比較を行うことで、記載の適切性の向上を図る。
- 添付書類の記載は、許可整合の観点で整理した基本設計方針と事業変更許可申請書の添付書類、安全審査時に作成した整理資料の記載をもとに展開することを前提とする。発電炉との比較においては、基本設計方針の記載の比較を行った項目を対象とし、プラント固有として基本設計方針で比較を行っていない箇所は対象としないものとする。
- 添付書類の発電炉との比較の例を添付－10に示す。具体的な記載の展開については、「共通00 共通的な補足説明について」において技術基準規則の各条文への展開として作成する別紙4で行う。上述の別紙4では、別紙2，3での分割申請における各申請書での添付書類記載事項の

展開や発電炉の記載を踏まえて、申請対象とする記載を設定することとする。

(2) 添付図面

①記載方針

- 添付図面については、基本設計方針、仕様表、添付書類に関連する設計を図示することにより明確にできるものについて、配置図、系統図、構造図等を示す。
- 新規制基準を踏まえた変更点が明確になるよう変更対応表等で既設工認申請との対応関係を明確にする。

4. 補足説明資料

- 技術基準への適合性の説明に必要な設工認申請書の本文記載事項及び計算等の結果を示す添付書類・添付図面に対し、その設計を行う根拠や、設計条件として採用している数値のエビデンス、一般産業品に適用する規格基準等、設備設計の妥当性を示すためのバックデータを、補足説明資料として示す。
- そのため、補足説明資料では、設工認申請の添付書類に記載する入力条件、環境条件、出力値、評価式、参考文献等、評価・説明に関する条件や資料等を事業変更許可で示した設計方針からどのように展開したか、あるいは判断基準を設定した根拠は何か等について具体的に説明する。
- 特に、事業変更許可において、具体的な判断基準となる値等を示さず、基本的概念を示している場合は、以下に示す事項が、詳細設計の妥当性を示すうえで重要となることから、根拠となる規格・基準、試験データ等をもとに説明する。
 - ・ 事業変更許可で示した基本的概念を判断基準に展開した具体的根拠
 - ・ 前提となる条件設定の保守性や適切性
 - ・ 評価方法の妥当性
- 補足説明資料として、補足説明すべき事項の抽出の方法については、「共通07 添付書類等を踏まえた補足説明すべき項目の明確化」に示す。

5. 準拠規格及び基準

- 設計に用いる準拠規格及び基準については、設工認申請書の本文もしくは添付書類に記載する。
- 本文における準拠規格及び基準は、事業変更許可申請書との整合及び技術基準への適合性の観点から、設計全体に関係するものとして基本設計方針等に係る申請対象設備の設計、製作等に使用する規格及び基準を記

載するものとし、新規制基準を踏まえた変更点が明確になるよう変更前後表の形式とする。

- 上記については、「適合すべき基準に関連する炉規制関連法令」及び「技術基準に規定される性能を満足させるための基本的なもの」とし、「技術基準規則解釈」に引用されるもの等とする。

例：炉規法、炉規則、技術基準規則、JSME、JEAC、JEAG、JIS、ASME 他。

- 記載にあたっては、前述の2.(1)②での内容を踏まえて記載する。
- 準拠規格及び基準のうち、原子力施設で従前から適用されているASME等を除き国外の規格基準を適用する場合は、当該規格が何に使用される（対象設備や評価等の対象）かを、変更前後表の注記で明確にする。
- 添付書類における準拠規格及び基準については、添付書類で示す詳細設計に係る構造設計、評価、計算等で引用する規格及び基準が特定できるように記載する。

6. 類型化展開の考え方

- 「日本原燃株式会社再処理施設に係る設計及び工事の計画の認可の審査、使用前事業者検査の確認等の進め方について」（令和2年6月24日付け）で示された「耐震Sクラス、安全上重要な施設及び重大事故等対処施設については、施設の種類、構造、評価手法等により類型化したうえで、各類型を代表する設備機器等について審査を行う。代表設備機器等の選定は施設横断的に行う。」等を踏まえ、事業者として合理的かつ効果的に設工認申請を行うため、申請項目に対して類似するものの評価方法、計算手法等を類型化することを検討する。
- 「共通02 事業変更許可申請書で新規制基準を受けて追加等した項目の明確化」、「共通03：（技術基準規則）新規制基準を受けて追加等された要求事項及び変更等した項目の明確化」で明確化した今回の設工認申請で申請すべき事項に対して、技術基準の要求事項を踏まえた各基本設計方針の要求種別に着目し、要求種別を評価要求として分類した事項に係る評価手法、解析手法等を施設の種類、構造、評価手法等により類型化する。
- 上記の要求種別は、基本方針、機能要求、評価要求、運用要求に分類される。基本方針については、設計の方針を説明するものであり、機能要求は、個別の機器に係る技術基準規則の要求事項等に対して個々の設備の構造等により、その機能を達成できることを説明するものである。また、評価要求は要求事項等を達成するために評価条件、評価方法、判断基準を設定し、評価、解析を行うものであり、運用要求は保安規定等で

その運用を担保するものである。

- そのため、類型化により合理的かつ効率的な設工認申請に繋がる対象としては、基本設計方針の要求種別が機能要求及び評価要求とした事項であると考えらる。
- 機能要求については、「個々の設備の構造等により、その機能を達成できることを説明するもの」であることから、申請する施設を「施設の種類」ごとに類型化することで申請書の合理化及び効率化を図ることが可能となる。
- 評価要求については、評価・解析等の手法の類似性[※]に着目し類型化を行うことにより、「評価・解析の方法が同じであれば、どれか一つの評価・解析の方法を説明することでその他も同様」という説明が可能となる。

※「評価・解析等の手法の類似性」は、「設備の種類」又は「構造」に着目して整理されるものと、「評価・解析手法」そのものに着目して整理されるものがあると考えられ、その内容に応じて類型化の観点を使い分ける。

- また、設工認申請書の構成としても、評価手法単位で記載をまとめることで、同じ記載（解析モデルや評価式）を省略でき、申請書の合理化及び効率化を図ることが可能となる。具体的には、代表機器の項で解析モデルや評価式を全て記載し、その他の機器の項では「代表機器の項と同じ」として記載物量を低減することに繋げる。なお、技術基準規則要求の内容によっては、複数の「評価・解析」の結果の組合せでもって適合性を示す場合がある。
- 機能要求に対しては、個々の設備の構造等により、その機能を達成することを説明することとし、評価要求については、解析コードや計算式を用いて数値を算定し、その結果が判定基準を満足していることを説明する。
- この際、以下の観点で類型化を行う。
 - ✓ 耐震評価：主に設備の種類に着目
 - ✓ 耐圧、強度評価：主に構造に着目
 - ✓ 重大事故等対処設備が使用される区域の線量等：評価・解析手法に着目
- 例えば、添付書類の評価対象、評価方法、評価条件等において、代表となる設備（類型化の同一グループで最初に申請する設備等）に対して評価方法や評価条件を示し、その他類似の設備を示したうえで、それらは同一の評価方法等によって評価を行うことを示す。

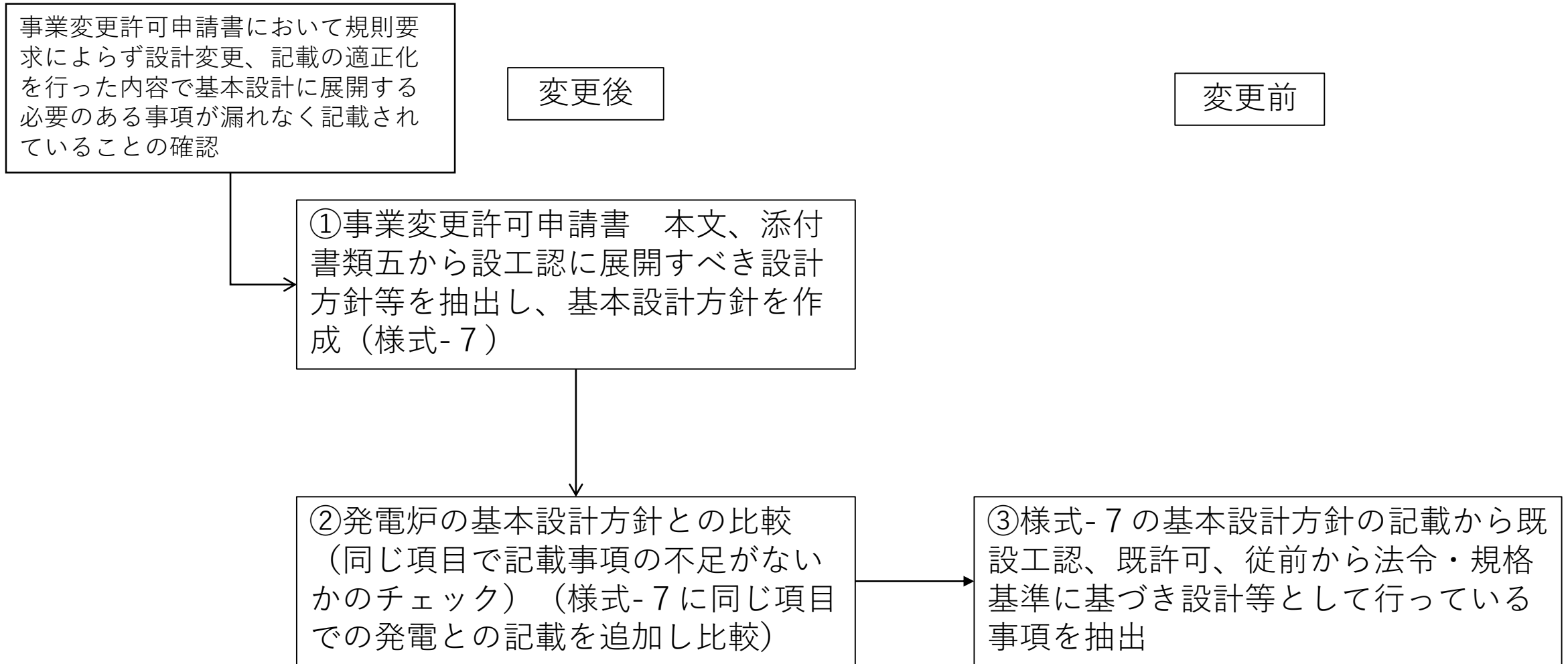
- なお、MOX燃料加工施設では、分割申請において、基本設計方針の評価要求、機能要求となる同じ項目が複数の設備、申請書に展開されるものがあることから、基本設計方針の各項目がどの申請書でどの設備に対して展開されるかを整理したうえで、各項目の設計の類似性を確認し、類型化を行う。
- 上記については、「共通00 共通的な補足説明について」において技術基準規則の各条文への展開として作成するとした補足説明資料番号00の別紙3で、添付書類の構成及び各申請書での添付書類記載事項の展開方法により整理結果を示す。

以 上

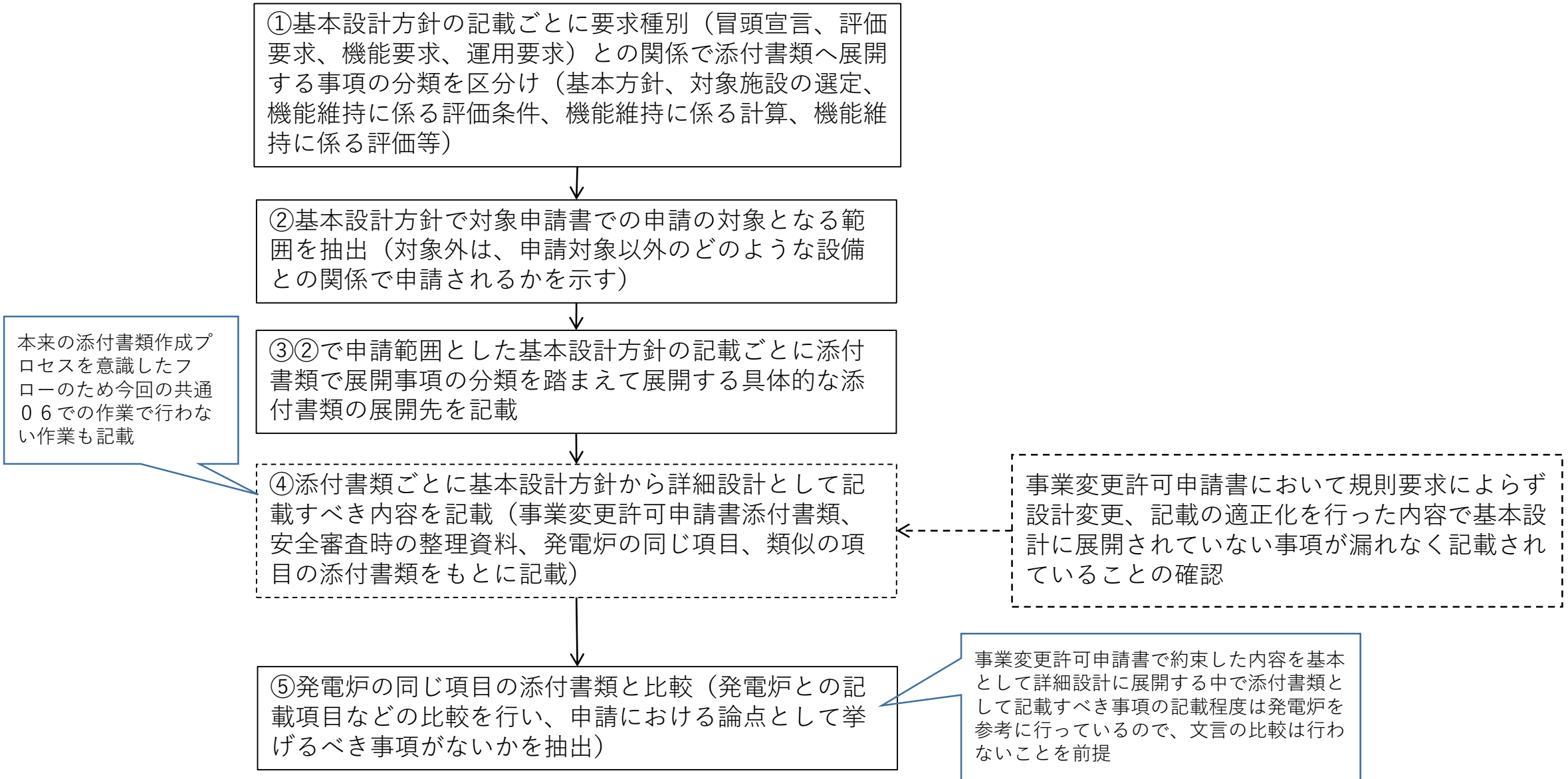
基本設計方針の作業フロー、添付書類（説明書、計算書）の作業フロー

【基本設計方針の作業フロー】

< 前後表の形式 >



【新共通06：添付書類（説明書、計算書）の作業フロー】



基本設計方針、工事の方法の変更前記載事項の既工認等との紐づけ

基本設計方針の変更前の記載事項に対し、既認可等との紐づけを示す。
 ※変更後の記載の確認を行った後に示す。

	変 更 前	変 更 後
地盤①-1	<p>2. 地盤 既設工認 本文</p> <p>安全機能を有する施設のうち、地震の発生によって生じるおそれがあるその安全機能の喪失に起因する放射線による公衆への影響の程度が特に大きい施設(以下「耐震重要施設」という。)及びそれらを支支持する建物・構築物は、その供用中に大きな影響を及ぼすおそれがある地震動(以下「基準地震動」という。)による地震力が作用した場合においても、接地圧に対する十分な支持性能を有する地盤に設置する。</p>	<p>2. 地盤</p> <p>安全機能を有する施設のうち、地震の発生によって生じるおそれがあるその安全機能の喪失に起因する放射線による公衆への影響の程度が特に大きい施設(以下「耐震重要施設」という。)及びそれらを支支持する建物・構築物、若しくは重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設は、その供用中に大きな影響を及ぼすおそれがある地震動(以下「基準地震動」という。)による地震力が作用した場合においても、接地圧に対する十分な支持性能を有する地盤に設置する。</p>
地盤②-1 地盤②-2 地盤②-3 地盤②-4 地盤②-5	<p>既許可 添付書類三</p> <p>また、上記に加え、基準地震動による地震力が作用することによって弱面上のずれが発生しないことも含め、基準地震動による地震力に対する支持性能を有する地盤に設置する。</p> <p>安全機能を有する施設のうち、耐震重要施設以外の安全機能を有する施設については、耐震重要度分類の各クラスに応じて算定する地震力が作用した場合においても、接地圧に対する十分な支持力を有する地盤に設置する。</p>	<p>また、上記に加え、基準地震動による地震力が作用することによって弱面上のずれが発生しないことも含め、基準地震動による地震力に対する支持性能を有する地盤に設置する。</p> <p>安全機能を有する施設のうち、耐震重要施設以外の安全機能を有する施設については、耐震重要度分類の各クラスに応じて算定する地震力が作用した場合、若しくは、重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備以外の常設重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設については、代替する機能を有する安全機能を有する施設が属する耐震重要度分類のクラスに適用される地震力が作用した場合においても、接地圧に対する十分な支持力を有する地盤に設置する。</p>
MOX① 共-0009 H	<p>安全機能を有する施設のうち、耐震重要施設は、地震発生に伴う地殻変動によって生じる支持地盤の傾斜及び撓み並びに地震発生に伴う建物・構築物間の不等沈下、液状化及び揺すり込み沈下の周辺地盤の変状により、その安全機能が損なわれるおそれがない地盤に設置する。</p> <p>安全機能を有する施設のうち、耐震重要施設は、将来活動する可能性のある断層等の露頭がない地盤に設置する。</p> <p>安全機能を有する施設に係る建物・構築物を設置する地盤の支持性能については、基準地震動による地震力又は静的地震力により生じる施設の接地圧が、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく許容限界に対して、妥当な余裕を有するよう設計する。</p>	<p>安全機能を有する施設のうち、耐震重要施設、若しくは常設重大事故等対処設備を支持する建物・構築物は、地震発生に伴う地殻変動によって生じる支持地盤の傾斜及び撓み並びに地震発生に伴う建物・構築物間の不等沈下、液状化及び揺すり込み沈下の周辺地盤の変状により、その安全機能、若しくは重大事故に至るおそれのある事故(設計基準事故を除く。)又は重大事故(以下「重大事故等」という。)に対処するために必要な機能が損なわれるおそれがない地盤に設置する。</p> <p>安全機能を有する施設のうち、耐震重要施設、若しくは常設重大事故等対処設備を支持する建物・構築物は、将来活動する可能性のある断層等の露頭がない地盤に設置する。</p> <p>安全機能を有する施設及び重大事故等対処施設に係る建物・構築物を設置する地盤の支持性能については、基準地震動による地震力又は静的地震力により生じる施設の接地圧が、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく許容限界に対して、妥当な余裕を有するよう設計する。</p>

既設工認に記載はないが、地盤については、技術基準の変更により要求事項が明確化されたものであり、既設工認時から基本設計方針に変更がないため、変更前に記載。なお、既許可(2010/5/13)にて、支持力、すべり、沈下に対して安全性を有していることを記載している。

1.、1.1、(1)等の項目単位で変更前の記載から変更がない場合は、変更なしとする。
 変更がある項目のみを変更事項を含め変更後に記載する。

変更前の記載は、変更後の記載事項から記載の適正化で対応可能な部分を抜き出して記載

要求事項との対比表 第〇条 (〇〇) (1 / 〇)

技術基準規則	設工認申請書 基本設計方針	事業変更許可申請書 本文	事業変更許可申請書 添付書類五	発電炉工認 基本設計方針	備考
					(発電炉との差異の理由を記載)

項目単位で発電炉の基本設計方針との比較を行う。
 対応する記載がないものについては、施設固有のものなど差の理由を備考に記載する。

- 凡例
- 黄色ハッチング：発電炉と同様の記載事項
 - 灰色ハッチング：基本設計方針に記載しない事項
 - 一重下線：基本設計方針に記載する事項（丸数字で紐づけ）
 - 二重下線：発電炉と差異のある記載事項
 - 青字：発電炉との差異の理由
 - 赤字：追記・修正箇所及びその理由

項目 番号	基本設計方針	要求種別	主な設備	展開事項	添付書類 構成	添付書類 説明内容	第1回申請					第2回申請					
							説明対象	申請対象設備 (2項変更①)	仕様表	添付書類	添付書類における記載	説明対象	申請対象設備 (2項変更②)	申請対象設備 (1項新規①)	仕様表	添付書類	添付書類における記載
1																	
2																	
3																	
4																	
5																	
6																	
7																	
8																	
9																	
10																	

項目 番号	基本設計方針	要求種別	第3回申請						第4回申請					
			説明対象	申請対象設備 (2項変更③)	申請対象設備 (1項新規②)	仕様表	添付書類	添付書類における記載	説明対象	申請対象設備 (2項変更④)	申請対象設備 (1項新規③)	仕様表	添付書類	添付書類における記載
1														
2														
3														
4														
5														
6														
7														
8														
9														
10														

凡例
 ・「説明対象」について
 ○：当該申請回次で新規に記載する項目又は当該申請回次で記載を追記する項目
 △：当該申請回次以前から記載しており、記載内容に変更がない項目
 -：当該申請回次で記載しない項目

仕様表記載項目の設定
(再処理の例)

条文	仕様表記載項目	具体的な記載内容
一	<ul style="list-style-type: none"> ・ 名称 ・ 種類又は主要構造 ・ 個数 ・ 系統名 ・ 取付箇所 ・ 主要材料 ・ 主要寸法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各機器に共通して記載すべき項目として対象特定（名称、数量、設置場所等）、機器の種類又は主要構造（事業変更許可記載事項）を記載する。 ・ 主要材料、主要寸法については、設備の各種評価に用いるインプットとしての基本的な内容を必要に応じて記載する。
第四条 臨界防止	<ul style="list-style-type: none"> ・ 容量 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨界防止機能に係る溶液の濃度、質量管理に必要なとなる容器等の容量を記載する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 核的制限値 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨界安全管理表に記載している設備について、臨界計算に用いる計算条件及び設計条件の制限値（設備の面間最小距離、溶液中の Pu 濃度、内径等）を記載する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要材料 ・ 主要寸法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨界防止機能に係る中性子吸収材の材料、容器等の寸法、材料を記載する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検出器の種類 ・ 計測範囲 ・ 警報作動範囲 ・ 設定値 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨界の検知・警報機能に係る臨界警報装置の計測範囲等を記載する。
第五条 第三十二条 地盤 第六条 第三十三条 地震	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地盤の支持力度 ・ MMR の強度 ・ 支持地盤 ・ 杭の強度 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地盤又は杭基礎に設置する建物・構築物及び屋外設置設備について、設置圧に対する十分な支持力を担保するための地盤の支持力度及び MMR の強度、杭の強度を記載する。杭基礎の場合、支持地盤を記載する。
第八条 外部衝撃	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要材料 ・ 主要寸法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飛来物防護設備（飛来物防護ネット、防護板等）の材料及び寸法（線径等）を記載する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 耐火被覆種類 ・ 耐火被覆厚さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熱影響により安全機能を失うおそれがある外部火災防護対象設備について、耐火被覆の種類と厚さを記載する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遮熱板高さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熱影響により安全機能を失うおそれがある外部火災防護対象設備について、遮熱板の高さを記載する。

仕様表記載項目の設定
 (再処理の例)

条文	仕様表記載項目	具体的な記載内容
第十条 閉じ込め	・容量	・閉じ込め、漏えい対処機能に係るファンの風量、ポンプの流量、容器の容量、熱交換器の設計熱交換量を記載する。
	・伝熱面積	・閉じ込め機能に係る熱交換器の伝熱面積を記載する。
	・吐出圧力	・閉じ込め、漏えい対処機能に係るポンプの吐出圧力を記載する。
	・漏れ率 ・開口部風速	・閉じ込め機能に係るグローブボックスの漏れ率、フードの開口部風速を記載する。
	・主要材料 ・主要寸法	・閉じ込め、漏えい対処機能に係る設備（容器、熱交換器等）の材料及び寸法を記載する。
	・原動機	・閉じ込め、漏えい対処機能に係るポンプ、ファンの容量を担保するための原動機の出力等を記載する。
	・検出器の種類 ・計測範囲 ・設定値	・漏えい検知機能に係る計測装置の計測範囲等を記載する。
第十一条 第三十五条 火災	・容量	・消火機能に係る容量（容器の容量、ポンプの流量等）を記載する。
	・揚程又は吐出圧力	・消火機能に係るポンプの揚程又は吐出圧力を記載する。
	・主要材料 ・主要寸法	・耐火機能に係る火災区域構造物の材料、寸法を記載する。
	・原動機	・消火機能に係るポンプの容量を担保するための原動機の出力等を記載する。
	・駆動方式	・消火機能（消火ガス放出によるGB内雰囲気維持）に係るダンパの駆動方式を記載する。 ・爆発防止機能を担保するため、水素濃度高により作動する遮断弁の駆動方式を記載する。
	・検出器の種類 ・計測範囲 ・警報作動範囲	・火災の発生防止機能に係る計測装置の計測範囲等を記載する。
第十二条 溢水 第十三条	・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ）	・溢水及び薬品防護機能に係る防護対象設備の必要高さ及び防護対象設備の区画番号を記載する。

仕様表記載項目の設定
(再処理の例)

条文	仕様表記載項目	具体的な記載内容
薬品	・防護上の区画番号	
	・主要材料 ・主要寸法	・溢水及び薬品防護機能に係る防水区画構築物（堰、防水扉、止水板及び蓋等）の材料及び寸法を記載する。
	・駆動方式 ・閉止時間	・溢水及び薬品防護機能を担保する蒸気遮断弁の駆動方式、閉止時間を記載する。
第十七条 第三十七条 材料/構造	・最高使用温度 ・最高使用圧力	・安全上重要な施設、溶接検査対象設備、重大事故等対処設備に係る容器及び管の耐圧強度評価において、機器の設計条件として最高使用圧力、最高使用温度を記載する。
	・主要材料 ・主要寸法	・安全上重要な施設、溶接検査対象設備、重大事故等対処設備に係る容器及び管の強度評価の際に使用する箇所の材料及び寸法（腐食の考慮を含む）を記載する。
第十八条 搬送設備	・容量	・核燃料物質、放射性廃棄物の搬送能力に係るクレーン等の定格荷重を記載する。
第十九条 貯蔵施設	・容量	・核燃料物質、放射性廃棄物の貯蔵・保管能力を担保するラック/ピット/棚、保管・廃棄エリアの容量（貯蔵能力）を記載する。 ・崩壊熱除去機能に係るポンプ（プール水の冷却・浄化等）の流量、ファン（換気設備）の風量、熱交換器の設計熱交換量を記載する。 ・プール水浄化機能に係るろ過装置の容量を記載する。
	・揚程又は吐出圧力	・崩壊熱除去機能に係るポンプ（プール水の冷却・浄化等）の揚程又は吐出圧力を記載する。
	・原動機	・崩壊熱除去機能に係るポンプ、ファンの容量を担保するための原動機の出力量等を記載する。
	・検出器の種類 ・計測範囲 ・警報作動範囲	・漏えい検知機能に係る計測装置の計測範囲等を記載する。
第二十条 第四十七条 計測制御	・検出器の種類 ・計測範囲 ・警報動作範囲	・計測機能に係る計測装置の種類、計測範囲、警報動作範囲、及びインターロックの設定値、起動に要する信号の個数、起動信号を発生させない条件を記

仕様表記載項目の設定
(再処理の例)

条文	仕様表記載項目	具体的な記載内容
第二十一条 放管 第二十二条 安全保護回路 第四十九条 監視測定	<ul style="list-style-type: none"> ・設定値 ・起動に要する信号の個数 ・起動信号を発生させない条件 	載する。
第二十三条 第四十八条 制御室	<ul style="list-style-type: none"> ・容量 ・主要材料 ・主要寸法 ・効率 ・設計上の空気流入率 ・原動機 ・検出器の種類 ・計測範囲 ・警報動作範囲 	<ul style="list-style-type: none"> ・制御室の居住性維持機能に係るファンの風量を記載する。 ・制御室の居住性維持に係る遮蔽材の材料及び寸法（厚さ）を記載する。 ・制御室の居住性維持機能に係るフィルタの捕集効率を記載する。 ・制御室の居住性維持に係るファンの設計上の空気流入率を記載する。 ・制御室の居住性維持に係るファンの容量を担保するための原動機の出力等を記載する。 ・制御室の居住性維持機能に係る有毒ガス検知器の計測範囲等を記載する。
第三十条 第五十条 緊急時対策所	<ul style="list-style-type: none"> ・容量 ・主要材料 ・主要寸法 ・効率 ・設計上の空気流入率 ・原動機 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対策所の居住性維持機能に係るファンの風量、加圧ユニットの容量を記載する。 ・緊急時対策所の居住性維持に係る遮蔽材の材料及び寸法（厚さ）を記載する。 ・緊急時対策所の居住性維持機能に係るフィルタの捕集効率を記載する。 ・緊急時対策所の居住性維持に係るファンの設計上の空気流入率を記載する。 ・緊急時対策所の居住性維持に係るファンの容量を担保するための原動機の出力等を記載する。
第二十四条 廃棄施設	<ul style="list-style-type: none"> ・主要材料 ・主要寸法 ・効率 	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄機能（海洋放出）に係る海洋放出管の寸法、材料を記載する。 ・廃棄機能（核燃料物質の除去）に係る気体の廃棄施設のフィルタについて、効率（捕集効率、除去効率）を記載する。
第二十五条	<ul style="list-style-type: none"> ・容量 	・放射性固体廃棄物の保管廃棄に係るラック/ピット

仕様表記載項目の設定
(再処理の例)

条文	仕様表記載項目	具体的な記載内容
保管廃棄施設		/棚、容器、保管・廃棄エリアの容量（貯蔵容量）を記載する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要材料 ・ 主要寸法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放射性固体廃棄物の保管廃棄に係るラック/ピット/棚、容器、保管・廃棄エリアの材料、寸法を記載する。 ・ 自然通風による崩壊熱除去に必要な風量を確保するために冷却空気流路の材料、寸法（シャフト高さ等）を記載する。
第二十七条 遮蔽	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要材料 ・ 主要寸法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遮蔽機能（制御室遮蔽、緊急時対策所遮蔽を含む）に係る遮蔽材及び遮蔽材寸法（厚さ）を記載する。
第二十八条 換気設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 容量 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 換気能力に係る換気施設のファンの容量（風量）を記載する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効率 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄能力（核燃料物質の除去）に係る気体の廃棄施設のフィルタについて、効率（補集効率）を記載する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原動機 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 換気機能に係るファンの容量を担保するための原動機の出力等を記載する。
第二十九条 保安電源設備 第四十六条 電源設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 容量 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電源供給能力に係る電気設備（発電機、変圧器、遮断器、電源盤、無停電電源装置、蓄電池等）の容量を記載する。 ・ 電源供給能力に係る非常用発電機に係る起動用の空気だめの容量を記載する。 ・ 電源供給能力に係る非常用発電機に燃料を供給するための燃料ポンプの容量を記載する。 ・ 電源供給能力に係る容器（燃料タンク、タンクローリ、軽油貯槽等）の容量を記載する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 吐出圧力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電源供給能力に係る非常用発電機に燃料を供給するための燃料ポンプの吐出圧力を記載する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電圧 ・ 電流 ・ 遮断電流 ・ 遮断時間 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電気盤の損壊を防止するための遮断器の仕様として電圧、電流、遮断電流、遮断時間を記載する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電圧 ・ 電流 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電線路機能に係る電気設備の仕様として、電圧、電流、相、周波数、盤の寸法を記載する。

仕様表記載項目の設定
(再処理の例)

条文	仕様表記載項目	具体的な記載内容
	<ul style="list-style-type: none"> ・相 ・周波数 ・主要寸法 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・原動機 ・回転速度 ・起動時間 ・出口の圧力 ・燃料 ・力率 ・電圧 ・結線法 ・冷却方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・非常用発電機の電源供給能力に係る仕様として、回転速度、起動時間、過給機の出口の圧力、力率、電圧、結線法、冷却方法、燃料(種類、消費量)等の仕様を記載する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・原動機 	<ul style="list-style-type: none"> ・電源供給機能に係るポンプの容量を担保するための原動機の出力等を記載する。
第三十八条 臨界事故	<ul style="list-style-type: none"> ・容量 	<ul style="list-style-type: none"> ・可溶性中性子吸収材供給に係る供給量を担保するため中性子吸収材供給槽の貯蔵容量を記載する。 ・臨界発生時にセル内の配管の加圧状態を解消するための廃ガス貯留槽の貯蔵容量を記載する。 ・廃ガス貯留に係る圧縮機の容量、空気貯槽の容量、ポンプの容量(流量)を記載する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・最高使用温度 ・最高使用圧力 	<ul style="list-style-type: none"> ・重大事故等対処設備に係る配管、容器の耐圧強度評価で使用する機器の設計条件として最高使用圧力、最高使用温度を記載する。 ※DB 条文と数値が異なる場合は併記し注記に重大事故等対処時の条件であることを記載する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・揚程又は吐出圧力 	<ul style="list-style-type: none"> ・廃ガス貯留に係るポンプの揚程又は吐出圧力を記載する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・吹出圧力、吹出量、吹出場所 	<ul style="list-style-type: none"> ・廃ガス貯留に係る逃がし弁の吹出圧力、吹出量、吹出場所を記載する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・主要材料 ・主要寸法 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨界発生時の水素掃気に係る主配管(可搬型ホース等)の寸法、材料を記載する。 ・可溶性中性子吸収材供給に係る供給弁の寸法、材料を記載する。 ・廃ガス貯留に係る逃がし弁の寸法、材料を記載する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・駆動方式 	<ul style="list-style-type: none"> ・可溶性中性子吸収材供給に係る供給弁の駆動方式

仕様表記載項目の設定
(再処理の例)

条文	仕様表記載項目	具体的な記載内容
		を記載する。
	・原動機	・重大事故等対処条文に係る各ポンプ、ファン等の容量を担保するための原動機の出力等を記載する。
第三十九条 蒸発乾固	・容量	・水供給設備の未沸騰状態維持に係るポンプの容量（流量）を記載する。 ・代替セル排気機能に係るファンの容量（風量）を記載する。
	・最高使用温度 ・最高使用圧力	・重大事故等対処設備に係る配管、容器の耐圧強度評価で使用する機器の設計条件として最高使用圧力、最高使用温度を記載する。 ※DB 条文と数値が異なる場合は併記し注記に重大事故等対処時の条件であることを記載する。
	・揚程又は吐出圧力	・水供給設備の未沸騰状態維持に係るポンプの揚程又は吐出圧力を記載する。
	・主要材料 ・主要寸法	・代替安全冷却水系に係る主配管（可搬型ホース等）の寸法、材料を記載する。
	・原動機	・重大事故等対処条文に係る各ポンプ、ファンの容量を担保するための原動機の出力等を記載する。
	第四十条 水素爆発	・容量
	・最高使用温度 ・最高使用圧力	・重大事故等対処設備に係る配管、容器の耐圧強度評価で使用する機器の設計条件として最高使用圧力、最高使用温度を記載する。 ※DB 条文と数値が異なる場合は併記し注記に重大事故等対処時の条件であることを記載する。
	・効率	・セル導出及び代替セル排気時の放射性物質の除去機能を担保するフィルタの除去効率を記載する。
	・原動機	・重大事故等対処条文に係るファンの容量を担保するための原動機の出力等を記載する。
第四十一条 有機溶媒等による火災又は	・容量	・火災又は爆発の発生時にセル内の配管の加圧状態を解消するための廃ガス貯留槽の貯蔵容量を記載する。

仕様表記載項目の設定
(再処理の例)

条文	仕様表記載項目	具体的な記載内容
爆発		・ 廃ガス貯留に係る圧縮機の容量、空気貯槽の容量、ポンプの容量（流量）を記載する。
	・ 最高使用温度 ・ 最高使用圧力	・ 重大事故等対処設備に係る配管、容器の耐圧強度評価で使用する機器の設計条件として最高使用圧力、最高使用温度を記載する。 ※DB 条文と数値が異なる場合は併記し注記に重大事故等対処時の条件であることを記載する。
	・ 揚程又は吐出圧力	・ 廃ガス貯留に係るポンプの揚程又は吐出圧力を記載する。
	・ 吹出圧力、吹出量、吹出場所	・ 廃ガス貯留に係る逃がし弁の吹出圧力、吹出量、吹出場所を記載する。
	・ 主要材料 ・ 主要寸法	・ 廃ガス貯留に係る逃がし弁の寸法、材料を記載する。 ・ プルトニウム濃縮缶の加熱蒸気を停止するための隔離弁の寸法、材料を記載する。
	・ 駆動方式	・ プルトニウム濃縮缶の加熱蒸気を停止するための隔離弁の駆動方式を記載する。
	・ 原動機	・ 重大事故等対処条文に係るポンプの容量を担保するための原動機の出力等を記載する。
第四十二条 使用済燃料貯蔵槽の冷却	・ 容量	・ 注水機能、スプレー機能を担保するためのポンプの容量（流量）を記載する。
	・ 最高使用温度 ・ 最高使用圧力	・ 重大事故等対処設備に係る配管、容器の耐圧強度評価で使用する機器の設計条件として最高使用圧力、最高使用温度を記載する。 ※DB 条文と数値が異なる場合は併記し注記に重大事故等対処時の条件であることを記載する。
	・ 揚程又は吐出圧力	・ 注水機能、スプレー機能を担保するためのポンプの揚程又は吐出圧力を記載する。
	・ 主要材料 ・ 主要寸法	・ 注水機能、スプレー機能を担保するための主配管（可搬型ホース等）の寸法、材料を記載する。
	・ 原動機	・ 重大事故等対処条文に係るポンプの容量を担保するための原動機の出力等を記載する。
第四十四条 放出抑制	・ 容量	・ 注水機能、放水機能を担保するためのポンプの容量（流量）を記載する。
	・ 揚程又は吐出圧力	・ 注水機能、放水機能を担保するためのポンプの揚

仕様表記載項目の設定
 (再処理の例)

条文	仕様表記載項目	具体的な記載内容
		程又は吐出圧力を記載する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要材料 ・ 主要寸法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 注水機能、放水機能を担保するための主配管（可搬型ホース等）の寸法、材料を記載する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原動機 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重大事故等対処条文に係るポンプの容量を担保するための原動機の出力等を記載する。
第四十五条 水の供給	<ul style="list-style-type: none"> ・ 容量 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水供給設備の貯水機能を担保するための容器の貯水容量を記載する。 ・ 水供給機能を担保するためのポンプの容量を記載する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最高使用温度 ・ 最高使用圧力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重大事故等対処設備に係る配管、容器の耐圧強度評価で使用する機器の設計条件として最高使用圧力、最高使用温度を記載する。 ※DB 条文と数値が異なる場合は併記し注記に重大事故等対処時の条件であることを記載する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 揚程又は吐出圧力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水供給機能を担保するためのポンプの揚程又は吐出圧力を記載する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要材料 ・ 主要寸法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水供給設備の貯水機能を担保するための容器の寸法、材料（ライニング材）を記載する。 ・ 水供給機能を担保するための主配管（可搬型ホース等）の寸法、材料を記載する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計測範囲 	<ul style="list-style-type: none"> 水供給設備において用いる水位計、流量計の計測範囲等を記載する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原動機 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重大事故等対処条文に係るポンプの容量を担保するための原動機の出力等を記載する。
(MOX)第三十三 条閉じ込める 機能の喪失対 処設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 容量 	<ul style="list-style-type: none"> ・ SA 火災の消火機能を担保するため容器(消火ガスボンベ)の容量を記載する。 ・ 閉じ込める機能の回復作業ためのファン（可搬型排風機）の容量(風量)を記載する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最高使用温度 ・ 最高使用圧力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重大事故等対処設備に係る配管、容器の耐圧強度評価で使用する機器の設計条件として最高使用圧力、最高使用温度を記載する。 ※DB 条文と数値が異なる場合は併記し注記に重大事故等対処時の条件であることを記載する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要材料 ・ 主要寸法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 閉じ込める機能喪失の対処のための主配管（可搬型ダクト等）の寸法、材料を記載する。

仕様表記載項目の設定
(再処理の例)

条文	仕様表記載項目	具体的な記載内容
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効率 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 閉じ込める機能の回復作業のためのフィルタの捕集効率を記載する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原動機 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重大事故等対処条文に係るファンの容量を担保するための原動機の出力等を記載する。
第七条 津波 第九条 不法侵入 第十四条 安全避難通路 第十五条 安重施設 第十六条 安有施設 第二十六条 汚染防止 第三十一条 通信連絡設備 第三十四条 津波 第四十三条 漏えい防止 第五十一条 通信連絡設備	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置、系統構成等に係る要求事項であるため、基本設計方針において設計方針を記載する。

仕様表記載例 1-1 【機種：容器】
 [常設][構造分類：円筒型][付属構造：臨界管理]

既認可の仕様表		仕様表案		要求事項の整理		発電炉類似設備要目表		備考																																																																																																																																																																																																
<p>工程情報を示す項目であり、設備仕様と直接関係しない項目であるため、仕様表に記載しない。</p> <p>主要設備リストで展開。</p>		<table border="1"> <tr><th colspan="2">名称</th><th>変更前</th><th>変更後</th></tr> <tr><td colspan="2">名称</td><td>〇〇液受槽 (0000-00)</td><td></td></tr> <tr><td colspan="2">種類</td><td>〇〇</td><td></td></tr> <tr><td>臨界管理</td><td>核的制限値</td><td>プルトニウム最大濃度</td><td>g・Pu/ℓ</td></tr> <tr><td colspan="2">容量</td><td>m³/個</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td colspan="2">最高使用圧力</td><td>MPa</td><td>〇〇^{*2}</td></tr> <tr><td colspan="2">最高使用温度</td><td>℃</td><td>〇〇^{*2}</td></tr> <tr><td rowspan="7">主要寸法</td><td>胴内径</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td></tr> <tr><td>胴板厚さ</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td></tr> <tr><td>鏡板厚さ</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td></tr> <tr><td>平板厚さ</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1,3}</td></tr> <tr><td>入口管台外径</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1,3}</td></tr> <tr><td>入口管台厚さ</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1,3}</td></tr> <tr><td>出口管台外径</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1,3}</td></tr> <tr><td>出口管台厚さ</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1,3}</td></tr> <tr><td>マンホール管台外径</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1,3}</td></tr> <tr><td>マンホール管台厚さ</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1,3}</td></tr> <tr><td>マンホール平板厚さ</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1,3}</td></tr> <tr><td>全高</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td></tr> <tr><td rowspan="3">主要材料</td><td>胴板</td><td>—</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>鏡板</td><td>—</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>マンホール平板</td><td>—</td><td>〇〇^{*3}</td></tr> <tr><td colspan="2">個数</td><td>—</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td rowspan="5">取付箇所</td><td>系統名 (ライン名)</td><td>—</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>設置床</td><td>—</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>溢水防護上の区画番号</td><td>—</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>—</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>化学薬品防護上の区画番号</td><td>—</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>化学薬品防護上の配慮が必要な高さ</td><td>—</td><td>〇〇</td></tr> </table>		名称		変更前	変更後	名称		〇〇液受槽 (0000-00)		種類		〇〇		臨界管理	核的制限値	プルトニウム最大濃度	g・Pu/ℓ	容量		m ³ /個	〇〇	最高使用圧力		MPa	〇〇 ^{*2}	最高使用温度		℃	〇〇 ^{*2}	主要寸法	胴内径	mm	〇〇 ^{*1}	胴板厚さ	mm	〇〇 ^{*1}	鏡板厚さ	mm	〇〇 ^{*1}	平板厚さ	mm	〇〇 ^{*1,3}	入口管台外径	mm	〇〇 ^{*1,3}	入口管台厚さ	mm	〇〇 ^{*1,3}	出口管台外径	mm	〇〇 ^{*1,3}	出口管台厚さ	mm	〇〇 ^{*1,3}	マンホール管台外径	mm	〇〇 ^{*1,3}	マンホール管台厚さ	mm	〇〇 ^{*1,3}	マンホール平板厚さ	mm	〇〇 ^{*1,3}	全高	mm	〇〇 ^{*1}	主要材料	胴板	—	〇〇	鏡板	—	〇〇	マンホール平板	—	〇〇 ^{*3}	個数		—	〇〇	取付箇所	系統名 (ライン名)	—	〇〇	設置床	—	〇〇	溢水防護上の区画番号	—	〇〇	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	〇〇	化学薬品防護上の区画番号	—	〇〇	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	—	〇〇	<p>容器に係る要求事項は次頁に示す。</p> <p><仕様表記載例 共通反映事項> 以降記載例も同じ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前回提出時から本欄「要求事項の整理」は、各条文の共通00別紙2を用いて、別紙2「要求種別」欄が機能要求②となる「基本設計方針」、「仕様」を機種分類ごとに抽出して作成することとした。(初回申請の条文の別紙2及び仕様表記載例について優先して反映。) 各条文の共通00別紙2に修正が発生した場合は、仕様表記載例も適宜更新する。 また、条文間の仕様の記載程度のばらつきについて現在整理中である。 <p>「配慮が必要な高さ」については、溢水と化学薬品で異なることを確認。仕様項目については条文担当者と調整中。(以降同じ)</p>		<p>(2) 容器の名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料及び個数</p> <table border="1"> <thead> <tr><th colspan="2">名称</th><th>変更前</th><th>変更後</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>名</td><td>種</td><td>復水貯蔵タンク</td><td></td></tr> <tr><td>容</td><td>量</td><td>たて置円筒形^{*1} (2000^{*2})</td><td></td></tr> <tr><td>最</td><td>高 使 用 圧 力</td><td>MPa</td><td>静水頭^{*3}</td></tr> <tr><td>最</td><td>高 使 用 温 度</td><td>℃</td><td>66</td></tr> <tr><td rowspan="10">主 要 寸 法</td><td>胴 内 径^{*4}</td><td>mm</td><td>13400^{*2}</td></tr> <tr><td>胴 板 厚 さ^{*5}</td><td>mm</td><td>(20^{*2})</td></tr> <tr><td>底 板 厚 さ^{*5}</td><td>mm</td><td>(20^{*2})</td></tr> <tr><td>平 板 (屋 根) 厚 さ^{*5}</td><td>mm</td><td>9^{*2}</td></tr> <tr><td>入 口 管 台 外 径^{*7}</td><td>mm</td><td>114.3^{*2, *6}</td></tr> <tr><td>入 口 管 台 厚 さ^{*7}</td><td>mm</td><td>(6.0^{*2, *6})</td></tr> <tr><td>入 口 管 台 外 径^{*8}</td><td>mm</td><td>114.3^{*2, *6}</td></tr> <tr><td>入 口 管 台 厚 さ^{*8}</td><td>mm</td><td>(6.0^{*2, *6})</td></tr> <tr><td>出 口 管 台 外 径^{*9}</td><td>mm</td><td>508.0^{*2, *6}</td></tr> <tr><td>出 口 管 台 厚 さ^{*9}</td><td>mm</td><td>(16.0^{*2, *6})</td></tr> <tr><td rowspan="5">材 料</td><td>出 口 管 台 外 径^{*10}</td><td>mm</td><td>267.4^{*2, *6}</td></tr> <tr><td>出 口 管 台 厚 さ^{*10}</td><td>mm</td><td>(9.3^{*2, *6})</td></tr> <tr><td>出 口 管 台 外 径^{*11}</td><td>mm</td><td>165.2^{*2, *6}</td></tr> <tr><td>出 口 管 台 厚 さ^{*11}</td><td>mm</td><td>(7.1^{*2, *6})</td></tr> <tr><td>胴マンホール管台外径</td><td>mm</td><td>624.0^{*2, *6}</td></tr> <tr><td>胴マンホール管台厚さ</td><td>mm</td><td>(12.0^{*2, *6})</td></tr> <tr><td>胴マンホール平板厚さ</td><td>mm</td><td>(19^{*2, *12})</td></tr> <tr><td>高</td><td>さ</td><td>mm</td><td>16000^{*2}</td></tr> <tr><td>材</td><td>質</td><td>板</td><td>SM41C^{*13}</td></tr> <tr><td>底</td><td>板</td><td>—</td><td>SM41C^{*13}</td></tr> <tr><td>胴</td><td>マンホール平板</td><td>—</td><td>SM41C^{*13}</td></tr> <tr><td>個</td><td>数</td><td>—</td><td>2</td></tr> </tbody> </table> <p>注記 *1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「全溶接鋼板製円筒形固定屋根地上貯槽」と記載。 *2: 公称値を示す。 *3: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。 *4: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。 *5: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。</p>		名称		変更前	変更後	名	種	復水貯蔵タンク		容	量	たて置円筒形 ^{*1} (2000 ^{*2})		最	高 使 用 圧 力	MPa	静水頭 ^{*3}	最	高 使 用 温 度	℃	66	主 要 寸 法	胴 内 径 ^{*4}	mm	13400 ^{*2}	胴 板 厚 さ ^{*5}	mm	(20 ^{*2})	底 板 厚 さ ^{*5}	mm	(20 ^{*2})	平 板 (屋 根) 厚 さ ^{*5}	mm	9 ^{*2}	入 口 管 台 外 径 ^{*7}	mm	114.3 ^{*2, *6}	入 口 管 台 厚 さ ^{*7}	mm	(6.0 ^{*2, *6})	入 口 管 台 外 径 ^{*8}	mm	114.3 ^{*2, *6}	入 口 管 台 厚 さ ^{*8}	mm	(6.0 ^{*2, *6})	出 口 管 台 外 径 ^{*9}	mm	508.0 ^{*2, *6}	出 口 管 台 厚 さ ^{*9}	mm	(16.0 ^{*2, *6})	材 料	出 口 管 台 外 径 ^{*10}	mm	267.4 ^{*2, *6}	出 口 管 台 厚 さ ^{*10}	mm	(9.3 ^{*2, *6})	出 口 管 台 外 径 ^{*11}	mm	165.2 ^{*2, *6}	出 口 管 台 厚 さ ^{*11}	mm	(7.1 ^{*2, *6})	胴マンホール管台外径	mm	624.0 ^{*2, *6}	胴マンホール管台厚さ	mm	(12.0 ^{*2, *6})	胴マンホール平板厚さ	mm	(19 ^{*2, *12})	高	さ	mm	16000 ^{*2}	材	質	板	SM41C ^{*13}	底	板	—	SM41C ^{*13}	胴	マンホール平板	—	SM41C ^{*13}	個	数	—	2		
名称		変更前	変更後																																																																																																																																																																																																					
名称		〇〇液受槽 (0000-00)																																																																																																																																																																																																						
種類		〇〇																																																																																																																																																																																																						
臨界管理	核的制限値	プルトニウム最大濃度	g・Pu/ℓ																																																																																																																																																																																																					
容量		m ³ /個	〇〇																																																																																																																																																																																																					
最高使用圧力		MPa	〇〇 ^{*2}																																																																																																																																																																																																					
最高使用温度		℃	〇〇 ^{*2}																																																																																																																																																																																																					
主要寸法	胴内径	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																																																					
	胴板厚さ	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																																																					
	鏡板厚さ	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																																																					
	平板厚さ	mm	〇〇 ^{*1,3}																																																																																																																																																																																																					
	入口管台外径	mm	〇〇 ^{*1,3}																																																																																																																																																																																																					
	入口管台厚さ	mm	〇〇 ^{*1,3}																																																																																																																																																																																																					
	出口管台外径	mm	〇〇 ^{*1,3}																																																																																																																																																																																																					
出口管台厚さ	mm	〇〇 ^{*1,3}																																																																																																																																																																																																						
マンホール管台外径	mm	〇〇 ^{*1,3}																																																																																																																																																																																																						
マンホール管台厚さ	mm	〇〇 ^{*1,3}																																																																																																																																																																																																						
マンホール平板厚さ	mm	〇〇 ^{*1,3}																																																																																																																																																																																																						
全高	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																																																						
主要材料	胴板	—	〇〇																																																																																																																																																																																																					
	鏡板	—	〇〇																																																																																																																																																																																																					
	マンホール平板	—	〇〇 ^{*3}																																																																																																																																																																																																					
個数		—	〇〇																																																																																																																																																																																																					
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	〇〇																																																																																																																																																																																																					
	設置床	—	〇〇																																																																																																																																																																																																					
	溢水防護上の区画番号	—	〇〇																																																																																																																																																																																																					
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	〇〇																																																																																																																																																																																																					
	化学薬品防護上の区画番号	—	〇〇																																																																																																																																																																																																					
化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	—	〇〇																																																																																																																																																																																																						
名称		変更前	変更後																																																																																																																																																																																																					
名	種	復水貯蔵タンク																																																																																																																																																																																																						
容	量	たて置円筒形 ^{*1} (2000 ^{*2})																																																																																																																																																																																																						
最	高 使 用 圧 力	MPa	静水頭 ^{*3}																																																																																																																																																																																																					
最	高 使 用 温 度	℃	66																																																																																																																																																																																																					
主 要 寸 法	胴 内 径 ^{*4}	mm	13400 ^{*2}																																																																																																																																																																																																					
	胴 板 厚 さ ^{*5}	mm	(20 ^{*2})																																																																																																																																																																																																					
	底 板 厚 さ ^{*5}	mm	(20 ^{*2})																																																																																																																																																																																																					
	平 板 (屋 根) 厚 さ ^{*5}	mm	9 ^{*2}																																																																																																																																																																																																					
	入 口 管 台 外 径 ^{*7}	mm	114.3 ^{*2, *6}																																																																																																																																																																																																					
	入 口 管 台 厚 さ ^{*7}	mm	(6.0 ^{*2, *6})																																																																																																																																																																																																					
	入 口 管 台 外 径 ^{*8}	mm	114.3 ^{*2, *6}																																																																																																																																																																																																					
	入 口 管 台 厚 さ ^{*8}	mm	(6.0 ^{*2, *6})																																																																																																																																																																																																					
	出 口 管 台 外 径 ^{*9}	mm	508.0 ^{*2, *6}																																																																																																																																																																																																					
	出 口 管 台 厚 さ ^{*9}	mm	(16.0 ^{*2, *6})																																																																																																																																																																																																					
材 料	出 口 管 台 外 径 ^{*10}	mm	267.4 ^{*2, *6}																																																																																																																																																																																																					
	出 口 管 台 厚 さ ^{*10}	mm	(9.3 ^{*2, *6})																																																																																																																																																																																																					
	出 口 管 台 外 径 ^{*11}	mm	165.2 ^{*2, *6}																																																																																																																																																																																																					
	出 口 管 台 厚 さ ^{*11}	mm	(7.1 ^{*2, *6})																																																																																																																																																																																																					
	胴マンホール管台外径	mm	624.0 ^{*2, *6}																																																																																																																																																																																																					
胴マンホール管台厚さ	mm	(12.0 ^{*2, *6})																																																																																																																																																																																																						
胴マンホール平板厚さ	mm	(19 ^{*2, *12})																																																																																																																																																																																																						
高	さ	mm	16000 ^{*2}																																																																																																																																																																																																					
材	質	板	SM41C ^{*13}																																																																																																																																																																																																					
底	板	—	SM41C ^{*13}																																																																																																																																																																																																					
胴	マンホール平板	—	SM41C ^{*13}																																																																																																																																																																																																					
個	数	—	2																																																																																																																																																																																																					
<p>下流工程（臨界安全管理外である低レベル廃液処理設備以降）の臨界安全のために、下流工程に移送する溶液中のプルトニウム濃度を有意量以下に管理する。</p> <p>構造図：第3.2.4.1.12-6図に示す。</p> <p>基本設計方針に展開</p> <p>添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除</p>		<p>注記 *1: 公称値を示す。 *2: 重大事故時等における使用時の値を示す。 *3: 既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。</p>		<p><仕様表記載例 共通反映事項> 以降記載例も同じ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 仕様表の項目ごとに、凡例のとおり「①機種毎に統一して記載する項目」、「②構造分類に係る項目」及びそれ以外の「③〇〇に係る追加仕様項目」に分類している。 ①は機種に共通して記載する項目を示している。該当しない場合は、「—」として注釈で該当しない理由を記載する。 ②は同じ機種でも構造により主要寸法や主要材料の記載部位が変わる項目を示している。 ③は機種によらず対象装置毎に、該当要否を判断し、該当する場合は仕様表に追加する仕様項目を示している。 		<p>機種で統一して記載する仕様項目</p> <p>構造分類に係る仕様項目</p> <p>臨界管理に係る追加仕様項目</p>																																																																																																																																																																																																		

仕様表記載例 1-1【機種：容器】
 [常設][構造分類：円筒型][付属構造：臨界管理]

要求事項の整理

備考

機能要求② 様式-6,7		主な仕様 (詳細設計)
技術基準		
第四条 核燃料物質の臨界防止	<p>単一ユニットの臨界安全設計に当たり、これらの管理に対して適切な臨界管理を行う体系の未臨界確保のために設定する値（以下「核的制限値」という。）を設定する。</p> <p>なお、プルトニウム溶液を内包する機器は、原則として液体の核燃料物質を内包する機器において、濃度に制限値を設定する必要がないように設計する形状寸法管理（以下「全濃度安全形状寸法管理」という。）及び必要に応じて中性子吸収材を併用した設計とする。</p> <p>複数ユニットの臨界安全設計に当たり、単一ユニット相互間の中性子相互干渉を考慮し、直接的に計量可能な単一ユニット相互間の配置、間接的に管理可能な単一ユニット相互間の配置、中性子吸収材の配置及び形状寸法について適切な核的制限値を設定する。核的制限値の設定に当たっては、単一ユニット相互間の中性子の吸収効果、減速条件及び反射条件に関し、核燃料物質移動時の核燃料物質の落下、転倒及び接近の可能性も踏まえ、それぞれの想定される変動の範囲において、反応度が最も大きくなる場合を仮定し、計算コードの計算誤差を含めて、十分な安全余裕を見込んで設定する。</p> <p>複数ユニットの核的制限値の維持については、十分な構造強度をもつ構造材を使用する等適切な対策を講ずる設計とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 核的制限値 主要寸法 主要材料
第十条 閉じ込めの機能	<p>液体状の使用済燃料等を内包する系統及び機器を設置する室の床には漏えい液受皿を設置し、万一液体状の使用済燃料等が漏えいした場合は、漏えいを検知し、漏えいの拡大を防止するとともに、漏えいした液の移送及び処理ができる設計とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 容量 主要材料 主要寸法
第十一条 第三十五条 火災等による損傷の防止	<p>消火設備は、想定される火災の性質に応じた十分な容量として、消防法施行規則、又は試験により確認した消火剤容量を配備する設計とする。</p> <p>消火用水供給系の水源は、消防法施行令及び危険物の規制に関する規則に基づくとともに、2時間の最大放水量に対し十分な容量を有する設計とする。また、緊急時対策建屋の水源は、消防法施行令に基づくとともに、2時間の最大放水量に対し十分な容量を有する設計とする。</p> <p>消火用水供給系の水源として、ろ過水貯槽（廃棄物管理施設、MOX燃料加工施設と共用（以下同じ。））及び消火用水貯槽（廃棄物管理施設、MOX燃料加工施設と共用（以下同じ。））を設置し、多重性を有する設計とする。緊急時対策建屋の消火用水供給系の水源は、消火水槽、建屋近傍に防火水槽を設置し、多重性を有する設計とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 名称 種類 容量 最高使用圧力 最高使用温度 主要寸法 主要材料 個数 取付箇所
第十二条 溢水防護	<p>発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 取付箇所 防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） 防護上の区画番号
第十三条 化学薬品防護	<p>発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水（以下「没液」という。）により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 取付箇所 防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） 防護上の区画番号
第十七条 第三十七条 材料及び構造	<p>a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。</p> <p>b. 常設重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。</p> <p>c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。</p> <p>a. 容器等は、最高使用圧力、最高使用温度及び機械的荷重が負荷されている状態（以下「設計上定める条件」という。）において、全体的な変形を弾性域に抑える設計とする。</p> <p>(3) 座屈による破壊の防止 容器等は、設計上定める条件において、座屈が生じない設計とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主要材料 主要材料 主要材料 最高使用圧力 最高使用温度 主要寸法 主要材料
第十九条 使用済燃料の貯蔵施設等	<p>燃料貯蔵プールは、BWR使用済燃料集合体1,500t・UPr（うち、使用済燃料集合体平均濃縮度が2.0wt%を超えるもの11.8t・UPr）、PWR使用済燃料集合体1,500t・UPr（うち、使用済燃料集合体平均濃縮度が2.0wt%を超えるもの27.6t・UPr）、合計貯蔵容量3,000t・UPrを有し、最大再処理能力800t・UPr/yでの再処理に対して受け入れた燃料を3年間以上貯蔵することができる設計とする。</p> <p>燃料貯蔵プール、チャンネルボックス・バーナブルポイズン取扱ピット、燃料移送水路及び燃料送出しピット（以下「燃料貯蔵プール及びこれに隣接するピット等」という。）の内面は、漏水を防止するためステンレス鋼を内張りし、さらに、排水口を設けない構造とするとともに、燃料貯蔵プール及びこれに隣接するピット等に接続された配管が破損してもプール水が流出しないように逆止弁を設置する設計とする。</p> <p>補給水設備は、補給水槽に貯蔵した水を燃料取出し準備設備、プール水浄化系、燃料貯蔵プール・ピット等、燃焼度計測装置、液体廃棄物の廃棄施設（低レベル廃液処理設備の一部）及び固体廃棄物の廃棄施設（廃樹脂貯蔵系の一部）にそれぞれの要求に応じて補給でき、プール水位を所定のレベルに保つことにより、プール水による崩壊熱の除去機能及び遮蔽機能が確保できる設計とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 容量 最高使用温度 最高使用圧力 主要材料 主要寸法 容量
第二十五条 保管廃棄施設	<p>a. 廃樹脂貯蔵系</p> <p>b. インル・エントピース貯蔵系</p> <p>c. チャンネルボックス・バーナブルポイズン貯蔵系 C B・B P貯蔵系は、低レベル固体廃棄物処理設備のC B・B P処理系等から発生するC B・B Pの処理物を詰めたドラム缶又は角型容器を貯蔵する系であり、チャンネルボックス・バーナブルポイズン処理建屋に設置する。</p> <p>d. 第1低レベル廃棄物貯蔵系 第1低レベル廃棄物貯蔵系は、使用済燃料の受入れ及び貯蔵に係る施設から発生する低レベル固体廃棄物処理設備の雑固体廃棄物処理系で処理しない雑固体を詰めたドラム缶又は角型容器、低レベル固体廃棄物処理設備の低レベル濃縮廃液処理系から発生する低レベル濃縮廃液の固化体を詰めたドラム缶及び各種施設のうち使用済燃料の受入れ及び貯蔵に係る施設を除く施設から発生する低レベル固体廃棄物処理設備の雑固体廃棄物処理系で処理しない雑固体のうち、プルトニウムを含む溶液若しくは粉末又は高レベル廃液による汚染のおそれのない雑固体であるセル及びグローブボックス以外から発生する雑固体を詰めたドラム缶又は角型容器を貯蔵する系であり、第1低レベル廃棄物貯蔵建屋に設置する設計とする。</p> <p>e. 使用済燃料受入れ・貯蔵建屋低レベル廃棄物貯蔵系 使用済燃料受入れ・貯蔵建屋低レベル廃棄物貯蔵系は、使用済燃料の受入れ及び貯蔵に係る施設から発生する低レベル固体廃棄物処理設備の雑固体廃棄物処理系で処理しない雑固体を詰めたドラム缶を貯蔵する系であり、使用済燃料受入れ・貯蔵建屋地下2階及び地下3階に設置する。</p> <p>f. 第2低レベル廃棄物貯蔵系</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主要寸法 主要材料 容量 主要寸法 容量 主要寸法

仕様表記載例 1-1 【機種：容器】
 [常設][構造分類：円筒型][付属構造：臨界管理]

要求事項の整理		備考
	<p>(a) 第1貯蔵系 第2低レベル廃棄物貯蔵系の第1貯蔵系は、低レベル固体廃棄物処理設備の低レベル濃縮廃液処理系から発生する低レベル濃縮廃液の処理物及び固化体、廃溶媒処理系から発生する廃溶媒の処理物、雑固体廃棄物処理系から発生する雑固体の処理物等、各種施設から発生する低レベル固体廃棄物処理設備の雑固体廃棄物処理系で処理しない雑固体を詰めたドラム缶又は角型容器並びにMOX燃料加工施設から発生する雑固体が詰められたドラム缶又は角型容器を貯蔵する系であり、第2低レベル廃棄物貯蔵建屋の地上1階に設置する設計とする。</p> <p>(b) 第2貯蔵系 第2低レベル廃棄物貯蔵系の第2貯蔵系は、低レベル固体廃棄物処理設備の低レベル濃縮廃液処理系から発生する低レベル濃縮廃液の処理物及び固化体、廃溶媒処理系から発生する廃溶媒の処理物、雑固体廃棄物処理系から発生する雑固体の処理物等、各種施設から発生する低レベル固体廃棄物処理設備の雑固体廃棄物処理系で処理しない雑固体を詰めたドラム缶又は角型容器並びにMOX燃料加工施設から発生する雑固体を詰めたドラム缶又は角型容器を貯蔵する系であり、第2低レベル廃棄物貯蔵建屋の地下1階、地下2階及び地下3階に設置する設計とする。ただし、よう素フィルタは、第2低レベル廃棄物貯蔵建屋地下2階のフィルタ貯蔵室に貯蔵する設計とする。</p> <p>g. 第4低レベル廃棄物貯蔵系 第4低レベル廃棄物貯蔵系は、使用済燃料の受入れ及び貯蔵に係る施設から発生する低レベル固体廃棄物処理設備の雑固体廃棄物処理系で処理しない雑固体を詰めたドラム缶又は角型容器、低レベル固体廃棄物処理設備の低レベル濃縮廃液処理系から発生する低レベル濃縮廃液の固化体を詰めたドラム缶及び各種施設のうち使用済燃料の受入れ及び貯蔵に係る施設を除く施設から発生する低レベル固体廃棄物処理設備の雑固体廃棄物処理系で処理しない雑固体のうち、セル及びグローブボックス以外から発生する雑固体を詰めたドラム缶又は角型容器を貯蔵する系であり、第4低レベル廃棄物貯蔵建屋に設置する設計とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主要材料 ・主要寸法 ・容量
第二十九条 保安電源設備	<p>重油タンク及び燃料油貯蔵タンクは、7日間の外部電源喪失を仮定しても、設計基準事故に対処するために必要な第1非常用ディーゼル発電機2台及び第2非常用ディーゼル発電機2台をそれぞれ7日間運転することにより必要とする電力を供給できる容量以上の燃料を事業所内に貯蔵する設計とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・名前 ・種類 ・容量 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料 ・個数 ・取付箇所
第三十条 第五十条 緊急時対策所	<p>緊急時対策建屋換気設備のうち、緊急時対策建屋加圧ユニットは、軽作業による二酸化炭素発生量及び「労働安全衛生規則」で定める二酸化炭素の許容濃度を考慮して算出した必要換気量を踏まえ、約50人の非常時対策組織の要員が2日間とどまるために必要となる容量を有する設計とする。</p> <p>MOX燃料加工施設と共用する緊急時対策建屋換気設備の緊急時対策建屋加圧ユニットは、気体状の放射性物質が大気中へ大規模に放出するおそれがある場合において、待機室の居住性を確保するため、待機室を正圧化し、待機室内へ気体状の放射性物質の侵入を防止するとともに、酸素濃度及び二酸化炭素濃度を活動に支障がない範囲に維持するために必要となる容量を有する設計とする。</p> <p>重油貯槽は、緊急時対策建屋用発電機を7日間以上の連続運転ができる燃料を貯蔵する設計とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・名称 ・種類 ・個数 ・取付箇所 ・容量 ・最高使用温度 ・最高使用圧力 ・主要寸法 ・主要材料
第三十八条 臨界事故の拡大を防止するための設備	<p>魔ガス貯留設備の魔ガス貯留槽は、臨界事故又はTBP等の錯体の急激な分解反応が発生した場合において、臨界事故又はTBP等の錯体の急激な分解反応により発生した放射性物質を含む気体を貯留するために必要な容量を有する設計とするとともに、動的機器である魔ガス貯留設備の空気圧縮機及び弁は、多重化した設計とし、魔ガス貯留設備は、前処理建屋及び精製建屋に必要な系列数を設置する設計とする。</p> <p>魔ガス貯留設備は、臨界事故の発生を仮定する機器及びTBP等の錯体の急激な分解反応の発生を仮定する機器ごとに、重大事故等への対処に必要な設備数を確保する設計とする。</p> <p>重大事故時可溶性中性子吸収材供給系の重大事故時可溶性中性子吸収材供給槽には、未臨界に移行するために必要な可溶性中性子吸収材を内包できる設計とする。</p> <p>重大事故時可溶性中性子吸収材供給系の重大事故時可溶性中性子吸収材供給槽は、化学薬品を内包するため、化学薬品の漏えい原とならないよう設計することとし、具体的には適切な材料を選定し、耐震性を確保し及び誤操作による漏えいを防止できる設計とする。</p> <p>重大事故時可溶性中性子吸収材供給系の重大事故時可溶性中性子吸収材供給槽は、臨界事故が発生した機器を未臨界に移行するために必要となる可溶性中性子吸収材量に対して容量に十分な余裕を有して可溶性中性子吸収材を内包できる設計とし、前処理建屋に必要な系列数を設置する設計とする。</p> <p>代替可溶性中性子吸収材緊急供給系の代替可溶性中性子吸収材緊急供給槽には、未臨界に移行するために必要な可溶性中性子吸収材を内包できる設計とする。</p> <p>代替可溶性中性子吸収材緊急供給系の代替可溶性中性子吸収材緊急供給槽は、化学薬品を内包するため、化学薬品の漏えい原とならないよう設計することとし、具体的には適切な材料を選定し、耐震性を確保し及び誤操作による漏えいを防止できる設計とする。</p> <p>代替可溶性中性子吸収材緊急供給系の代替可溶性中性子吸収材緊急供給槽は、臨界事故が発生した機器を未臨界に移行するために必要となる可溶性中性子吸収材量に対して容量に十分な余裕を有して可溶性中性子吸収材を内包できる設計とし、前処理建屋に必要な系列数を設置する設計とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・核的制限値 ・容量 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料 ・個数
第三十九条 冷却機能の喪失による蒸発乾固に対処するための設備	<p>代替安全冷却水系の可搬型排水受槽は、想定される重大事故等時において、冷却に使用した排水を受けるために必要な容量を有する設計とするとともに、保有数は、必要数及び予備として故障時のバックアップを含め十分な台数以上を確保する設計とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・容量 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・伝熱面積 ・主要寸法 ・主要材料 ・個数 ・取付箇所 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・材料 ・個数 ・取付箇所 ・容量 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・伝熱面積 ・主要寸法 ・主要材料 ・個数 ・取付箇所 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・材料

仕様表記載例 1-1 【機種：容器】

[常設][構造分類：円筒型][付属構造：臨界管理]

要求事項の整理

要求事項の整理			備考
第四十条 放射線分解により発生する水素による爆発に対処するための設備	[Redacted]	・個数 ・取付箇所	
	代替安全圧縮空気系の機器圧縮空気自動供給ユニットに切り替えるまでの間、未然防止濃度未滿を維持するために必要な流量を確保する設計とする。	・容量 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料 ・個数 ・取付箇所	
	[Redacted]		
第四十一条 有機溶媒等による火災又は爆発に対処するための設備	代替安全圧縮空気系の圧縮空気自動供給系、機器圧縮空気自動供給ユニット及び圧縮空気手動供給ユニットは、操作の時間を考慮し、必要な圧縮空気流量を確保するために必要な量の圧縮空気を有する設計とする。		
	[Redacted]		
	代替安全圧縮空気系は、安全圧縮空気系の水素補給機能の喪失を想定し、その範囲が系統で機能喪失する水素確保に対処することから、当該系統の範囲ごとに重大事故等への対処に必要な設備を確保する設計とする。	・容量 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料 ・個数	
第四十五条 重大事故等への対処に必要な水の供給設備	廃ガス貯留設備の廃ガス貯留槽は、臨界事故又はT B P等の錯体の急激な分解反応が発生した場合において、臨界事故又はT B P等の錯体の急激な分解反応により発生した放射性物質を含む気体を貯留するために必要な容量を有する設計とするとともに、動的機器である廃ガス貯留設備の空気圧縮機及び弁は、多重化した設計とし、廃ガス貯留設備は、前処理建屋及び精製建屋に必要な系列数を設置する設計とする。		
	廃ガス貯留設備は、臨界事故の発生を仮定する機器及びT B P等の錯体の急激な分解反応の発生を仮定する機器ごとに、重大事故等への対処に必要な設備数を確保する設計とする。		
	廃ガス貯留設備は、T B P等の錯体の急激な分解反応により瞬間的に上昇する温度及び圧力の影響を考慮しても機能を損なわない設計とする。		
許可整合	重大事故等への対処を継続して行うために、重大事故等へ対処する水源である第1貯水槽へ水を補給するため、第2貯水槽の水を大型移送ポンプ車及び可搬型建屋外ホースを経由して、第1貯水槽へ補給できる設計とする。	・種類 ・容量 ・寸法 ・取付箇所 ・個数 ・材料	
	重大事故等への対処を継続して行うために、重大事故等へ対処する水源である第1貯水槽へ水を補給するため、敷地外の水源から水を大型移送ポンプ車及び可搬型建屋外ホースを経由して、第1貯水槽へ補給できる設計とする。	・取付箇所	
	水供給設備の第1貯水槽及び第2貯水槽は、給水処理設備の純水貯槽と共通要因によって同時にその機能が損なわれるおそれがないよう、第1保管庫・貯水所及び第2保管庫・貯水所に設置することにより、給水処理設備の純水貯槽と位置的分散を図る設計とする。	・容量	
	MOX燃料加工施設と共用する水供給設備の第1貯水槽は、重大事故等への対処に必要な水を供給できる容量を有する設計とする。		
	MOX燃料加工施設と共用する水供給設備の第2貯水槽は、大量の水が必要となる重大事故等への対処を継続させるために水供給設備の第1貯水槽へ水を補給できる容量を有する設計とする。	・主要材料	
	水供給設備の第1貯水槽及び第2貯水槽は、コンクリート構造とすることで汽水による腐食を考慮した設計とする。	・容量	

仕様表記載例 1-2 【機種：容器】

[常設][構造分類：板状型][付属構造：臨界管理, 熱交換器]

既認可の仕様表				仕様表案				要求事項の整理				発電炉類似設備要目表				備考															
<p>工程情報を示す項目であり、設備仕様と直接関係しない項目であるため、仕様表に記載しない。</p> <p>主要設備リストで展開。</p>				<p>名称</p> <p>第1よう素追出し槽 A,B (0000-00,00) たて置板状形</p>				<p>変更前</p> <p>第1よう素追出し槽 A,B (0000-00)</p>				<p>変更後</p>				<p>技術基準</p> <p>機能要求②</p> <p>主な仕様 (詳細設計)</p>															
<p>名 称</p>				<p>種 類</p>				<p>種類</p>				<p>技術基準</p>				<p>機能要求②</p>				<p>主な仕様 (詳細設計)</p>											
<p>機器の種類</p> <p>本体</p> <p>加熱ジャケット部</p> <p>冷却ジャケット部</p>				<p>核的制限値</p> <p>ウラン及びプルトニウム最大濃度</p> <p>可溶性中性子吸収材濃度(ガドリニウム)</p>				<p>臨界管理</p> <p>核的制限値</p> <p>ウラン及びプルトニウム最大濃度</p> <p>可溶性中性子吸収材濃度(ガドリニウム)</p>				<p>第十条 閉じ込めの機能</p> <p>安全機能を有する施設は、使用済燃料等から発生する崩壊熱を適切に除去することとし、使用済燃料等を含む溶液の崩壊熱による機器内での沸騰を防止する設計とする。</p>				<p>機要要求②</p> <p>様式-6,7</p>				<p>容量</p> <p>容量</p> <p>設計熱交換量</p>				<p>容量</p> <p>容量</p> <p>設計熱交換量</p>				<p>その他容器に係る要求事項は1-1と同様</p>			
<p>設計条件</p> <p>標準濃度</p> <p>βγ</p> <p>α</p> <p>U</p> <p>Pu</p> <p>耐震クラス</p> <p>流体の種類</p> <p>本体</p> <p>加熱ジャケット部</p> <p>冷却ジャケット部</p> <p>伝熱面積</p> <p>加熱ジャケット部</p> <p>冷却ジャケット部</p>				<p>容量</p> <p>最高使用圧力</p> <p>加熱ジャケット部</p> <p>冷却ジャケット部</p> <p>最高使用温度</p> <p>加熱ジャケット部</p> <p>冷却ジャケット部</p> <p>伝熱面積</p> <p>加熱ジャケット部</p> <p>冷却ジャケット部</p>				<p>容量</p> <p>最高使用圧力</p> <p>加熱ジャケット部</p> <p>冷却ジャケット部</p> <p>最高使用温度</p> <p>加熱ジャケット部</p> <p>冷却ジャケット部</p> <p>伝熱面積</p> <p>加熱ジャケット部</p> <p>冷却ジャケット部</p>				<p>最高使用圧力</p> <p>加熱ジャケット部</p> <p>冷却ジャケット部</p> <p>最高使用温度</p> <p>加熱ジャケット部</p> <p>冷却ジャケット部</p> <p>伝熱面積</p> <p>加熱ジャケット部</p> <p>冷却ジャケット部</p>				<p>最高使用圧力</p> <p>加熱ジャケット部</p> <p>冷却ジャケット部</p> <p>最高使用温度</p> <p>加熱ジャケット部</p> <p>冷却ジャケット部</p> <p>伝熱面積</p> <p>加熱ジャケット部</p> <p>冷却ジャケット部</p>				<p>最高使用圧力</p> <p>加熱ジャケット部</p> <p>冷却ジャケット部</p> <p>最高使用温度</p> <p>加熱ジャケット部</p> <p>冷却ジャケット部</p> <p>伝熱面積</p> <p>加熱ジャケット部</p> <p>冷却ジャケット部</p>				<p>最高使用圧力</p> <p>加熱ジャケット部</p> <p>冷却ジャケット部</p> <p>最高使用温度</p> <p>加熱ジャケット部</p> <p>冷却ジャケット部</p> <p>伝熱面積</p> <p>加熱ジャケット部</p> <p>冷却ジャケット部</p>							
<p>仕様</p> <p>主要寸法</p> <p>槽長さ</p> <p>槽幅(内側)</p> <p>側壁板厚さ</p> <p>ふた板厚さ</p> <p>底板厚さ</p> <p>加熱ジャケット厚さ</p> <p>冷却ジャケット厚さ</p> <p>全高</p> <p>側壁板</p> <p>ふた板</p> <p>底板</p> <p>加熱ジャケット</p> <p>冷却ジャケット</p>				<p>主要寸法</p> <p>槽長さ</p> <p>槽幅(内側)</p> <p>側壁板厚さ</p> <p>ふた板厚さ</p> <p>底板厚さ</p> <p>加熱ジャケット厚さ</p> <p>冷却ジャケット厚さ</p> <p>全高</p> <p>側壁板</p> <p>ふた板</p> <p>底板</p> <p>加熱ジャケット</p> <p>冷却ジャケット</p>				<p>主要寸法</p> <p>槽長さ</p> <p>槽幅(内側)</p> <p>側壁板厚さ</p> <p>ふた板厚さ</p> <p>底板厚さ</p> <p>加熱ジャケット厚さ</p> <p>冷却ジャケット厚さ</p> <p>全高</p> <p>側壁板</p> <p>ふた板</p> <p>底板</p> <p>加熱ジャケット</p> <p>冷却ジャケット</p>				<p>主要寸法</p> <p>槽長さ</p> <p>槽幅(内側)</p> <p>側壁板厚さ</p> <p>ふた板厚さ</p> <p>底板厚さ</p> <p>加熱ジャケット厚さ</p> <p>冷却ジャケット厚さ</p> <p>全高</p> <p>側壁板</p> <p>ふた板</p> <p>底板</p> <p>加熱ジャケット</p> <p>冷却ジャケット</p>				<p>主要寸法</p> <p>槽長さ</p> <p>槽幅(内側)</p> <p>側壁板厚さ</p> <p>ふた板厚さ</p> <p>底板厚さ</p> <p>加熱ジャケット厚さ</p> <p>冷却ジャケット厚さ</p> <p>全高</p> <p>側壁板</p> <p>ふた板</p> <p>底板</p> <p>加熱ジャケット</p> <p>冷却ジャケット</p>				<p>主要寸法</p> <p>槽長さ</p> <p>槽幅(内側)</p> <p>側壁板厚さ</p> <p>ふた板厚さ</p> <p>底板厚さ</p> <p>加熱ジャケット厚さ</p> <p>冷却ジャケット厚さ</p> <p>全高</p> <p>側壁板</p> <p>ふた板</p> <p>底板</p> <p>加熱ジャケット</p> <p>冷却ジャケット</p>				<p>主要寸法</p> <p>槽長さ</p> <p>槽幅(内側)</p> <p>側壁板厚さ</p> <p>ふた板厚さ</p> <p>底板厚さ</p> <p>加熱ジャケット厚さ</p> <p>冷却ジャケット厚さ</p> <p>全高</p> <p>側壁板</p> <p>ふた板</p> <p>底板</p> <p>加熱ジャケット</p> <p>冷却ジャケット</p>							
<p>注記</p> <p>①：公称値を示す。</p> <p>②：溶解槽に供給した硝酸溶液中の硝酸ガドリニウム濃度。</p> <p>③：既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p> <p>④：重大事故時等における使用時の値を示す。</p>				<p>注記</p> <p>①：公称値を示す。</p> <p>②：溶解槽に供給した硝酸溶液中の硝酸ガドリニウム濃度。</p> <p>③：既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p> <p>④：重大事故時等における使用時の値を示す。</p>				<p>注記</p> <p>①：公称値を示す。</p> <p>②：溶解槽に供給した硝酸溶液中の硝酸ガドリニウム濃度。</p> <p>③：既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p> <p>④：重大事故時等における使用時の値を示す。</p>				<p>注記</p> <p>①：公称値を示す。</p> <p>②：溶解槽に供給した硝酸溶液中の硝酸ガドリニウム濃度。</p> <p>③：既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p> <p>④：重大事故時等における使用時の値を示す。</p>				<p>注記</p> <p>①：公称値を示す。</p> <p>②：溶解槽に供給した硝酸溶液中の硝酸ガドリニウム濃度。</p> <p>③：既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p> <p>④：重大事故時等における使用時の値を示す。</p>				<p>注記</p> <p>①：公称値を示す。</p> <p>②：溶解槽に供給した硝酸溶液中の硝酸ガドリニウム濃度。</p> <p>③：既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p> <p>④：重大事故時等における使用時の値を示す。</p>											
<p>構造図・第3.2.2.1-2図に示す。</p> <p>注記①：溶解槽に供給した硝酸溶液中の硝酸ガドリニウム濃度。</p> <p>②：単位は (kg/cm³)。</p>				<p>構造図・第3.2.2.1-2図に示す。</p> <p>注記①：溶解槽に供給した硝酸溶液中の硝酸ガドリニウム濃度。</p> <p>②：単位は (kg/cm³)。</p>				<p>構造図・第3.2.2.1-2図に示す。</p> <p>注記①：溶解槽に供給した硝酸溶液中の硝酸ガドリニウム濃度。</p> <p>②：単位は (kg/cm³)。</p>				<p>構造図・第3.2.2.1-2図に示す。</p> <p>注記①：溶解槽に供給した硝酸溶液中の硝酸ガドリニウム濃度。</p> <p>②：単位は (kg/cm³)。</p>				<p>構造図・第3.2.2.1-2図に示す。</p> <p>注記①：溶解槽に供給した硝酸溶液中の硝酸ガドリニウム濃度。</p> <p>②：単位は (kg/cm³)。</p>				<p>構造図・第3.2.2.1-2図に示す。</p> <p>注記①：溶解槽に供給した硝酸溶液中の硝酸ガドリニウム濃度。</p> <p>②：単位は (kg/cm³)。</p>											
<p>添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除</p>				<p>添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除</p>				<p>添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除</p>				<p>添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除</p>				<p>添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除</p>															
<p>基本設計方針に展開</p>				<p>基本設計方針に展開</p>				<p>基本設計方針に展開</p>				<p>基本設計方針に展開</p>				<p>基本設計方針に展開</p>															
<p>機種で統一して記載する仕様項目</p>				<p>機種で統一して記載する仕様項目</p>				<p>機種で統一して記載する仕様項目</p>				<p>機種で統一して記載する仕様項目</p>				<p>機種で統一して記載する仕様項目</p>															
<p>構造分類に係る仕様項目</p>				<p>構造分類に係る仕様項目</p>				<p>構造分類に係る仕様項目</p>				<p>構造分類に係る仕様項目</p>				<p>構造分類に係る仕様項目</p>															
<p>臨界管理に係る追加仕様項目</p>				<p>臨界管理に係る追加仕様項目</p>				<p>臨界管理に係る追加仕様項目</p>				<p>臨界管理に係る追加仕様項目</p>				<p>臨界管理に係る追加仕様項目</p>															
<p>熱交換器に係る追加仕様項目</p>				<p>熱交換器に係る追加仕様項目</p>				<p>熱交換器に係る追加仕様項目</p>				<p>熱交換器に係る追加仕様項目</p>				<p>熱交換器に係る追加仕様項目</p>															

仕様表記載例 1-3 【機種：容器】

[常設][構造分類：環状型][付属構造：臨界管理，熱交換器]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<p>工程情報を示す項目であり、設備仕様と直接関係しない項目であるため、仕様表に記載しない。</p> <p>主要設備リストで展開。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: 8px;"> <tr><td>名称</td><td>—</td><td>プルトニウム溶液受槽(0000-00)</td></tr> <tr><td>種類</td><td>—</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>機器の種類</td><td>本体</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>コイル部</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>臨界管理</td><td>—</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>核的制限値</td><td>最大液厚み</td><td>mm 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>中性子吸収材最小厚み(カドミウム)</td><td>mm 〇〇</td></tr> <tr><td>標準濃度</td><td>βγ</td><td>Bq/cm² 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>α</td><td>α Bq/cm² 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>U</td><td>g/l 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>Pu</td><td>g/l 〇〇</td></tr> <tr><td>耐震クラス</td><td>—</td><td>〇〇 (〇〇)¹⁾</td></tr> <tr><td>流体の種類</td><td>本体</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>コイル部</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>容量</td><td>—</td><td>nm³/個 〇〇</td></tr> <tr><td>本体</td><td>最高使用圧力</td><td>MPa 〇〇²⁾</td></tr> <tr><td></td><td>最高使用温度</td><td>℃ 〇〇</td></tr> <tr><td>コイル部</td><td>最高使用圧力</td><td>MPa 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>最高使用温度</td><td>℃ 〇〇</td></tr> <tr><td>伝熱面積</td><td>—</td><td>nm²/個 〇〇</td></tr> <tr><td>主要寸法</td><td>外胴内径</td><td>mm 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>内胴外径</td><td>mm 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>外胴板厚さ</td><td>mm 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>内胴板厚さ</td><td>mm 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>胴上板厚さ</td><td>mm 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>胴底板厚さ</td><td>mm 〇〇³⁾ (〇〇)⁴⁾</td></tr> <tr><td></td><td>冷却コイル外径</td><td>mm 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>冷却コイル厚さ</td><td>mm 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>外側中性子吸収材厚さ</td><td>mm 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>内側中性子吸収材厚さ</td><td>mm 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>全高</td><td>mm 〇〇</td></tr> <tr><td>主要材料</td><td>外胴板</td><td>— 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>内胴板</td><td>— 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>胴上板</td><td>— 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>胴底板</td><td>— 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>冷却コイル</td><td>— 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>中性子吸収材</td><td>— 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>中性子減速材</td><td>— 〇〇</td></tr> <tr><td>個数</td><td>—</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>特記事項</td><td colspan="2">(1) 電気設備に関する技術基準に定める省令第10条及び第11条に準拠した接地網に接地する。</td></tr> </table> <p>構造図：第3.2.4.2-21図に示す。 注記1)：〇 内は、臨界の発生防止の観点の耐震クラスを示す。 2)：単位は (kg/cm²) 3)：胴底板上面は傾斜を有し、最小厚さ部：〇〇mm、最大厚さ部：〇〇mmとなる。 4)：漏えい液取出し口の切欠部により、胴底板が最も薄くなる部位の厚さを示す。</p> <p>添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除</p> <p>主要設備リストに展開</p> <p>基本設計方針に展開</p> <p>旧単位系記載のため、SI単位系表記に統一することに伴い適正化。</p>	名称	—	プルトニウム溶液受槽(0000-00)	種類	—	〇〇	機器の種類	本体	〇〇		コイル部	〇〇	臨界管理	—	〇〇	核的制限値	最大液厚み	mm 〇〇		中性子吸収材最小厚み(カドミウム)	mm 〇〇	標準濃度	βγ	Bq/cm ² 〇〇		α	α Bq/cm ² 〇〇		U	g/l 〇〇		Pu	g/l 〇〇	耐震クラス	—	〇〇 (〇〇) ¹⁾	流体の種類	本体	〇〇		コイル部	〇〇	容量	—	nm ³ /個 〇〇	本体	最高使用圧力	MPa 〇〇 ²⁾		最高使用温度	℃ 〇〇	コイル部	最高使用圧力	MPa 〇〇		最高使用温度	℃ 〇〇	伝熱面積	—	nm ² /個 〇〇	主要寸法	外胴内径	mm 〇〇		内胴外径	mm 〇〇		外胴板厚さ	mm 〇〇		内胴板厚さ	mm 〇〇		胴上板厚さ	mm 〇〇		胴底板厚さ	mm 〇〇 ³⁾ (〇〇) ⁴⁾		冷却コイル外径	mm 〇〇		冷却コイル厚さ	mm 〇〇		外側中性子吸収材厚さ	mm 〇〇		内側中性子吸収材厚さ	mm 〇〇		全高	mm 〇〇	主要材料	外胴板	— 〇〇		内胴板	— 〇〇		胴上板	— 〇〇		胴底板	— 〇〇		冷却コイル	— 〇〇		中性子吸収材	— 〇〇		中性子減速材	— 〇〇	個数	—	〇〇	特記事項	(1) 電気設備に関する技術基準に定める省令第10条及び第11条に準拠した接地網に接地する。		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: 8px;"> <tr><td>名称</td><td>—</td><td>プルトニウム溶液受槽(0000-00)</td></tr> <tr><td>種類</td><td>—</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>臨界管理</td><td>核的制限値</td><td>最大液厚み mm 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>中性子吸収材最小厚み(カドミウム) mm 〇〇</td></tr> <tr><td>容量</td><td>—</td><td>nm³/個 〇〇</td></tr> <tr><td>本体</td><td>最高使用圧力</td><td>MPa 〇〇²⁾</td></tr> <tr><td></td><td>最高使用温度</td><td>℃ 〇〇²⁾</td></tr> <tr><td>コイル部</td><td>最高使用圧力</td><td>MPa 〇〇²⁾</td></tr> <tr><td></td><td>最高使用温度</td><td>℃ 〇〇²⁾</td></tr> <tr><td>伝熱面積</td><td>—</td><td>nm²/個 〇〇</td></tr> <tr><td>主要寸法</td><td>外胴内径</td><td>mm 〇〇³⁾</td></tr> <tr><td></td><td>内胴外径</td><td>mm 〇〇³⁾</td></tr> <tr><td></td><td>外胴板厚さ</td><td>mm 〇〇³⁾</td></tr> <tr><td></td><td>内胴板厚さ</td><td>mm 〇〇³⁾</td></tr> <tr><td></td><td>胴上板厚さ</td><td>mm 〇〇³⁾</td></tr> <tr><td></td><td>胴底板厚さ</td><td>mm 〇〇³⁾(〇〇³⁾)⁴⁾</td></tr> <tr><td></td><td>冷却コイル外径</td><td>mm 〇〇³⁾</td></tr> <tr><td></td><td>冷却コイル厚さ</td><td>mm 〇〇³⁾</td></tr> <tr><td></td><td>外側中性子吸収材厚さ</td><td>mm 〇〇³⁾</td></tr> <tr><td></td><td>内側中性子吸収材厚さ</td><td>mm 〇〇³⁾</td></tr> <tr><td></td><td>全高</td><td>mm 〇〇³⁾</td></tr> <tr><td>主要材料</td><td>外胴板</td><td>— 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>内胴板</td><td>— 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>胴上板</td><td>— 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>胴底板</td><td>— 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>冷却コイル</td><td>— 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>中性子吸収材</td><td>— 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>中性子減速材</td><td>— 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>個数</td><td>— 〇〇</td></tr> <tr><td>取付箇所</td><td>系統名(ライン名)</td><td>— 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>設置床</td><td>— 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>溢水防護上の区画番号</td><td>— 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>— 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>化学薬品防護上の区画番号</td><td>— 〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>化学薬品防護上の配慮が必要な高さ</td><td>— 〇〇</td></tr> </table> <p>注記 *1：公称値を示す。 *2：重大事故時等における使用時の値を示す。 *3：胴底板上面は傾斜を有し、最小厚さ部：〇〇mm、最大厚さ部：〇〇mmとなる。 *4：漏えい液取出し口の切欠部により、胴底板が最も薄くなる部位の厚さを示す。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: 8px;"> <tr><td>〇</td><td>機種で統一して記載する仕様項目</td></tr> <tr><td>■</td><td>構造分類に係る仕様項目</td></tr> <tr><td>■</td><td>臨界管理に係る追加仕様項目</td></tr> <tr><td>■</td><td>熱交換器に係る追加仕様項目</td></tr> </table>	名称	—	プルトニウム溶液受槽(0000-00)	種類	—	〇〇	臨界管理	核的制限値	最大液厚み mm 〇〇			中性子吸収材最小厚み(カドミウム) mm 〇〇	容量	—	nm ³ /個 〇〇	本体	最高使用圧力	MPa 〇〇 ²⁾		最高使用温度	℃ 〇〇 ²⁾	コイル部	最高使用圧力	MPa 〇〇 ²⁾		最高使用温度	℃ 〇〇 ²⁾	伝熱面積	—	nm ² /個 〇〇	主要寸法	外胴内径	mm 〇〇 ³⁾		内胴外径	mm 〇〇 ³⁾		外胴板厚さ	mm 〇〇 ³⁾		内胴板厚さ	mm 〇〇 ³⁾		胴上板厚さ	mm 〇〇 ³⁾		胴底板厚さ	mm 〇〇 ³⁾ (〇〇 ³⁾) ⁴⁾		冷却コイル外径	mm 〇〇 ³⁾		冷却コイル厚さ	mm 〇〇 ³⁾		外側中性子吸収材厚さ	mm 〇〇 ³⁾		内側中性子吸収材厚さ	mm 〇〇 ³⁾		全高	mm 〇〇 ³⁾	主要材料	外胴板	— 〇〇		内胴板	— 〇〇		胴上板	— 〇〇		胴底板	— 〇〇		冷却コイル	— 〇〇		中性子吸収材	— 〇〇		中性子減速材	— 〇〇		個数	— 〇〇	取付箇所	系統名(ライン名)	— 〇〇		設置床	— 〇〇		溢水防護上の区画番号	— 〇〇		溢水防護上の配慮が必要な高さ	— 〇〇		化学薬品防護上の区画番号	— 〇〇		化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	— 〇〇	〇	機種で統一して記載する仕様項目	■	構造分類に係る仕様項目	■	臨界管理に係る追加仕様項目	■	熱交換器に係る追加仕様項目	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: 8px;"> <tr><td>技術基準</td><td>機能要求②</td><td>主な仕様(詳細設計)</td></tr> <tr><td>第十条 閉じ込めの機能</td><td>様式-6,7 安全機能を有する施設は、使用済燃料等から発生する崩壊熱を適切に除去することとし、使用済燃料等を含む溶液の崩壊熱による機器内での沸騰を防止する設計とする。</td><td>・容量 ・伝熱面積 ・主要材料 ・主要寸法</td></tr> </table> <p>その他容器に係る要求事項は1-1と同様</p>	技術基準	機能要求②	主な仕様(詳細設計)	第十条 閉じ込めの機能	様式-6,7 安全機能を有する施設は、使用済燃料等から発生する崩壊熱を適切に除去することとし、使用済燃料等を含む溶液の崩壊熱による機器内での沸騰を防止する設計とする。	・容量 ・伝熱面積 ・主要材料 ・主要寸法	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: 8px;"> <tr><td>名称</td><td>—</td><td>サージタンク</td></tr> <tr><td>種類</td><td>—</td><td>たて置円筒形</td></tr> <tr><td>容量</td><td>m³/個</td><td>4.5^{*)}</td></tr> <tr><td>最高使用圧力</td><td>MPa</td><td>静水頭</td></tr> <tr><td>最高使用温度</td><td>℃</td><td>65.6</td></tr> <tr><td>胴内径</td><td>mm</td><td>1500^{*)}</td></tr> <tr><td>胴板厚さ</td><td>mm</td><td>9.0^{*)}</td></tr> <tr><td>鏡板厚さ</td><td>mm</td><td>9.0^{*)}</td></tr> <tr><td>鏡板の形状に係る寸法</td><td>mm</td><td>1500^{*)} (鏡板中央部内半径)</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>150^{*)} (鏡板の丸み半径)</td></tr> <tr><td>平板厚さ</td><td>mm</td><td>9.0^{*)}</td></tr> <tr><td>出口管台外径</td><td>mm</td><td>165.2^{*)}</td></tr> <tr><td>出口管台厚さ</td><td>mm</td><td>7.1^{*)}</td></tr> <tr><td>マンホール管台外径</td><td>mm</td><td>457.2^{*)}</td></tr> <tr><td>マンホール管台厚さ</td><td>mm</td><td>12.0^{*)}</td></tr> <tr><td>マンホール平板厚さ</td><td>mm</td><td>30.0^{*)}</td></tr> <tr><td>高さ</td><td>mm</td><td>2820^{*)}</td></tr> <tr><td>材料</td><td>胴板</td><td>SM41A</td></tr> <tr><td></td><td>鏡板</td><td>SM41A</td></tr> <tr><td></td><td>マンホール平板</td><td>SM41A</td></tr> <tr><td>個数</td><td>—</td><td>1</td></tr> <tr><td>取付箇所</td><td>系統名(ライン名)</td><td>原子炉補機冷却系サージタンク 原子炉補機冷却系</td></tr> <tr><td></td><td>設置床</td><td>EL. 46.50 m</td></tr> <tr><td></td><td>溢水防護上の区画番号</td><td>—</td></tr> <tr><td></td><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>—</td></tr> </table> <p>注記 *1：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *2：公称値を示す。</p>	名称	—	サージタンク	種類	—	たて置円筒形	容量	m ³ /個	4.5 ^{*)}	最高使用圧力	MPa	静水頭	最高使用温度	℃	65.6	胴内径	mm	1500 ^{*)}	胴板厚さ	mm	9.0 ^{*)}	鏡板厚さ	mm	9.0 ^{*)}	鏡板の形状に係る寸法	mm	1500 ^{*)} (鏡板中央部内半径)			150 ^{*)} (鏡板の丸み半径)	平板厚さ	mm	9.0 ^{*)}	出口管台外径	mm	165.2 ^{*)}	出口管台厚さ	mm	7.1 ^{*)}	マンホール管台外径	mm	457.2 ^{*)}	マンホール管台厚さ	mm	12.0 ^{*)}	マンホール平板厚さ	mm	30.0 ^{*)}	高さ	mm	2820 ^{*)}	材料	胴板	SM41A		鏡板	SM41A		マンホール平板	SM41A	個数	—	1	取付箇所	系統名(ライン名)	原子炉補機冷却系サージタンク 原子炉補機冷却系		設置床	EL. 46.50 m		溢水防護上の区画番号	—		溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	<p>管台については、強度評価の対象となるものでJIS等に基づいたものを除く特殊なものを仕様表に記載する。</p> <p style="text-align: center;">変更なし</p>
名称	—	プルトニウム溶液受槽(0000-00)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
種類	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
機器の種類	本体	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	コイル部	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
臨界管理	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
核的制限値	最大液厚み	mm 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	中性子吸収材最小厚み(カドミウム)	mm 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
標準濃度	βγ	Bq/cm ² 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	α	α Bq/cm ² 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	U	g/l 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	Pu	g/l 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
耐震クラス	—	〇〇 (〇〇) ¹⁾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
流体の種類	本体	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	コイル部	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
容量	—	nm ³ /個 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
本体	最高使用圧力	MPa 〇〇 ²⁾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	最高使用温度	℃ 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
コイル部	最高使用圧力	MPa 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	最高使用温度	℃ 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
伝熱面積	—	nm ² /個 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
主要寸法	外胴内径	mm 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	内胴外径	mm 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	外胴板厚さ	mm 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	内胴板厚さ	mm 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	胴上板厚さ	mm 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	胴底板厚さ	mm 〇〇 ³⁾ (〇〇) ⁴⁾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	冷却コイル外径	mm 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	冷却コイル厚さ	mm 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	外側中性子吸収材厚さ	mm 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	内側中性子吸収材厚さ	mm 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	全高	mm 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
主要材料	外胴板	— 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	内胴板	— 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	胴上板	— 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	胴底板	— 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	冷却コイル	— 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	中性子吸収材	— 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	中性子減速材	— 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
個数	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
特記事項	(1) 電気設備に関する技術基準に定める省令第10条及び第11条に準拠した接地網に接地する。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
名称	—	プルトニウム溶液受槽(0000-00)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
種類	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
臨界管理	核的制限値	最大液厚み mm 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
		中性子吸収材最小厚み(カドミウム) mm 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
容量	—	nm ³ /個 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
本体	最高使用圧力	MPa 〇〇 ²⁾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	最高使用温度	℃ 〇〇 ²⁾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
コイル部	最高使用圧力	MPa 〇〇 ²⁾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	最高使用温度	℃ 〇〇 ²⁾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
伝熱面積	—	nm ² /個 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
主要寸法	外胴内径	mm 〇〇 ³⁾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	内胴外径	mm 〇〇 ³⁾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	外胴板厚さ	mm 〇〇 ³⁾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	内胴板厚さ	mm 〇〇 ³⁾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	胴上板厚さ	mm 〇〇 ³⁾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	胴底板厚さ	mm 〇〇 ³⁾ (〇〇 ³⁾) ⁴⁾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	冷却コイル外径	mm 〇〇 ³⁾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	冷却コイル厚さ	mm 〇〇 ³⁾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	外側中性子吸収材厚さ	mm 〇〇 ³⁾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	内側中性子吸収材厚さ	mm 〇〇 ³⁾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	全高	mm 〇〇 ³⁾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
主要材料	外胴板	— 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	内胴板	— 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	胴上板	— 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	胴底板	— 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	冷却コイル	— 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	中性子吸収材	— 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	中性子減速材	— 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	個数	— 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
取付箇所	系統名(ライン名)	— 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	設置床	— 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	溢水防護上の区画番号	— 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	— 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	化学薬品防護上の区画番号	— 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	— 〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
〇	機種で統一して記載する仕様項目																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
■	構造分類に係る仕様項目																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
■	臨界管理に係る追加仕様項目																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
■	熱交換器に係る追加仕様項目																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
技術基準	機能要求②	主な仕様(詳細設計)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
第十条 閉じ込めの機能	様式-6,7 安全機能を有する施設は、使用済燃料等から発生する崩壊熱を適切に除去することとし、使用済燃料等を含む溶液の崩壊熱による機器内での沸騰を防止する設計とする。	・容量 ・伝熱面積 ・主要材料 ・主要寸法																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
名称	—	サージタンク																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
種類	—	たて置円筒形																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
容量	m ³ /個	4.5 ^{*)}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
最高使用圧力	MPa	静水頭																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
最高使用温度	℃	65.6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
胴内径	mm	1500 ^{*)}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
胴板厚さ	mm	9.0 ^{*)}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
鏡板厚さ	mm	9.0 ^{*)}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
鏡板の形状に係る寸法	mm	1500 ^{*)} (鏡板中央部内半径)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
		150 ^{*)} (鏡板の丸み半径)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
平板厚さ	mm	9.0 ^{*)}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
出口管台外径	mm	165.2 ^{*)}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
出口管台厚さ	mm	7.1 ^{*)}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
マンホール管台外径	mm	457.2 ^{*)}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
マンホール管台厚さ	mm	12.0 ^{*)}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
マンホール平板厚さ	mm	30.0 ^{*)}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
高さ	mm	2820 ^{*)}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
材料	胴板	SM41A																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	鏡板	SM41A																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	マンホール平板	SM41A																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
個数	—	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
取付箇所	系統名(ライン名)	原子炉補機冷却系サージタンク 原子炉補機冷却系																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	設置床	EL. 46.50 m																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	溢水防護上の区画番号	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												

仕様表記載例 1-4【機種：容器】

[常設][構造分類：ライニング型][付属構造：-]

既認可の仕様表		仕様表案		要求事項の整理		発電炉類似設備要目表			備考																																																																																								
<p>工程情報を示す項目であり、設備仕様と直接関係しない項目であるため、仕様表に記載しない。</p> <p>主要設備リストで展開。</p> <table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>-</td> <td>貯蔵プールA, B (0000-00)</td> </tr> <tr> <td>機器の種類</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>耐震クラス</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>流体の種類</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> </table>		名称	-	貯蔵プールA, B (0000-00)	機器の種類	-	〇〇	耐震クラス	-	〇〇	流体の種類	-	〇〇	<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>変更前</td> <td>変更後</td> </tr> <tr> <td>名称</td> <td>貯蔵プールA, B (0000-00)</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>-</td> <td>〇〇^{*2}</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td>m</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>m</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>深さ</td> <td>m</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>ライニング板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>主要材料 (ライニング)</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> </table>		名称	変更前	変更後	名称	貯蔵プールA, B (0000-00)	変更なし	種類	-	〇〇	容量	-	〇〇 ^{*2}	たて	m	〇〇 ^{*1}	横	m	〇〇 ^{*1}	深さ	m	〇〇 ^{*1}	ライニング板厚さ	mm	〇〇 ^{*1}	主要材料 (ライニング)	-	〇〇	個数	-	〇〇	<p>容器に係る要求事項は1-1と同様</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種類</td> <td>-</td> <td>使用済燃料プール^{*1}</td> <td>使用済燃料プール^{*13}</td> </tr> <tr> <td>容 量</td> <td>燃料集合体</td> <td>ステンレス鋼内張りプール形 (ラック貯蔵方式)</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>主 寸</td> <td>制御棟</td> <td>2250</td> <td>134</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">要 寸</td> <td>たて</td> <td>10363^{*2, *3, *4}</td> <td rowspan="10">変更なし</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>12192^{*2, *3, *5}</td> </tr> <tr> <td>深さ</td> <td>11913^{*2, *6}</td> </tr> <tr> <td>ライニング材厚さ^{*7}</td> <td>(6^{*2, *9}), (12^{*2, *3, *12})</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">壁</td> <td>東</td> <td>2154^{*2, *3, *10}</td> </tr> <tr> <td>西</td> <td>2154^{*2, *3, *10}</td> </tr> <tr> <td>南</td> <td>1570^{*2, *3, *10}</td> </tr> <tr> <td>北</td> <td>2000^{*2, *3, *10}</td> </tr> <tr> <td>底</td> <td>1599^{*2, *3, *10}</td> </tr> <tr> <td>材 料</td> <td>ライニング材^{*11}</td> <td>SUS304</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>壁</td> <td>鉄筋コンクリート^{*8}</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「使用済燃料貯蔵プール」と記載。 *2: 公称値を示す。 *3: 使用済燃料プール内のりを示す。 *4: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「10.4 m」と記載。記載内容は設計図書による。 *5: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「12.2 m」と記載。記載内容は設計図書による。 *6: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「11.9 m」と記載。記載内容は設計図書による。 *7: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内張り材厚さ (最小)」と記載。 *8: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和48年4月9日付け47公第12076号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-5 原子炉建屋の強度計算書」による。 *9: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *10: 内張り材を含む厚さを示す。 *11: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内張り材」と記載。 *12: ゲート部の厚さを示す。 *13: 使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備 (代替燃料プール注水系, 代替燃料プール冷却系) と兼用する。</p>			名称		変更前	変更後	種類	-	使用済燃料プール ^{*1}	使用済燃料プール ^{*13}	容 量	燃料集合体	ステンレス鋼内張りプール形 (ラック貯蔵方式)	変更なし	主 寸	制御棟	2250	134	要 寸	たて	10363 ^{*2, *3, *4}	変更なし	横	12192 ^{*2, *3, *5}	深さ	11913 ^{*2, *6}	ライニング材厚さ ^{*7}	(6 ^{*2, *9}), (12 ^{*2, *3, *12})	壁	東	2154 ^{*2, *3, *10}	西	2154 ^{*2, *3, *10}	南	1570 ^{*2, *3, *10}	北	2000 ^{*2, *3, *10}	底	1599 ^{*2, *3, *10}	材 料	ライニング材 ^{*11}	SUS304	個 数	壁	鉄筋コンクリート ^{*8}			1	<p>壁厚さ・壁の材料については、当該建屋の仕様を示す。</p>
名称	-	貯蔵プールA, B (0000-00)																																																																																															
機器の種類	-	〇〇																																																																																															
耐震クラス	-	〇〇																																																																																															
流体の種類	-	〇〇																																																																																															
名称	変更前	変更後																																																																																															
名称	貯蔵プールA, B (0000-00)	変更なし																																																																																															
種類	-	〇〇																																																																																															
容量	-	〇〇 ^{*2}																																																																																															
たて	m	〇〇 ^{*1}																																																																																															
横	m	〇〇 ^{*1}																																																																																															
深さ	m	〇〇 ^{*1}																																																																																															
ライニング板厚さ	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																															
主要材料 (ライニング)	-	〇〇																																																																																															
個数	-	〇〇																																																																																															
名称		変更前	変更後																																																																																														
種類	-	使用済燃料プール ^{*1}	使用済燃料プール ^{*13}																																																																																														
容 量	燃料集合体	ステンレス鋼内張りプール形 (ラック貯蔵方式)	変更なし																																																																																														
主 寸	制御棟	2250	134																																																																																														
要 寸	たて	10363 ^{*2, *3, *4}	変更なし																																																																																														
	横	12192 ^{*2, *3, *5}																																																																																															
	深さ	11913 ^{*2, *6}																																																																																															
	ライニング材厚さ ^{*7}	(6 ^{*2, *9}), (12 ^{*2, *3, *12})																																																																																															
	壁	東		2154 ^{*2, *3, *10}																																																																																													
		西		2154 ^{*2, *3, *10}																																																																																													
		南		1570 ^{*2, *3, *10}																																																																																													
		北		2000 ^{*2, *3, *10}																																																																																													
	底	1599 ^{*2, *3, *10}																																																																																															
	材 料	ライニング材 ^{*11}		SUS304																																																																																													
個 数	壁	鉄筋コンクリート ^{*8}																																																																																															
		1																																																																																															
<p>特記事項</p> <p>(1) カーのプール水の漏洩に対し、漏えい水を収集し、移送できるものとする。 (2) 万一のハル・エンドピースドラムの落下時にもプール水を保持できる構造とし、ハル・エンドピースドラム落下の可能性のない場所のみライニング板厚さ〇mmとする。 (3) ライニングプレートは、コンクリート躯体に埋設する下地材に溶接固定する。 (4) 耐震クラスは貯蔵プールの構造強度を委ねている壁及び床の耐震クラスとする。</p>		<p>取付箇所</p> <table border="1"> <tr> <td>名称 (フライング)</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>化学薬品防護上の区画番号</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>化学薬品防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> </table> <p>注記 *1: 公称値を示す。 *2: 既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。</p> <table border="1"> <tr> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> </table>		名称 (フライング)	-	〇〇	設置床	-	〇〇	溢水防護上の区画番号	-	〇〇	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	〇〇	化学薬品防護上の区画番号	-	〇〇	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	-	〇〇	機種で統一して記載する仕様項目	構造分類に係る仕様項目	<p>貯水槽等は、ライニングが受ける圧力を躯体コンクリートで受け持つため、最高使用温度、最高使用圧力の項目を記載していない。</p>																																																																									
名称 (フライング)	-	〇〇																																																																																															
設置床	-	〇〇																																																																																															
溢水防護上の区画番号	-	〇〇																																																																																															
溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	〇〇																																																																																															
化学薬品防護上の区画番号	-	〇〇																																																																																															
化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	-	〇〇																																																																																															
機種で統一して記載する仕様項目																																																																																																	
構造分類に係る仕様項目																																																																																																	
<p>構造図：第3.2.3.4.1-1図に示す。</p> <p>基本設計方針で展開。</p> <p>添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除</p>																																																																																																	

仕様表記載例 1-5【機種：容器】

[常設][構造分類：ミキサセトラ][付属構造：臨界管理]

既認可の仕様表					仕様表案					要求事項の整理			発電炉類似設備要目表	備考																																																																																																																																															
<p>工程情報を示す項目であり、設備仕様と直接関係しない項目であるため、仕様表に記載しない。</p> <p>主要設備リストで展開。</p>					<table border="1"> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td>プルトニウム洗浄器</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">種類</td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">臨界管理</td> <td rowspan="2">核的制限値</td> <td>最大液厚み</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>中性子吸収材厚み(カドミウム)</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">面間最小距離</td> <td>TBP 洗浄器/プルトニウム洗浄器</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>m³/個</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">設計条件</td> <td rowspan="2">水相</td> <td>β</td> <td>γ</td> <td>Bq/cm³</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>α</td> <td>α</td> <td>Bq/cm³</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">標準濃度</td> <td>U</td> <td>g/l</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>P</td> <td>u</td> <td>g/l</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">有機相</td> <td>β</td> <td>γ</td> <td>Bq/cm³</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>α</td> <td>α</td> <td>Bq/cm³</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>U</td> <td>g/l</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>耐露クラス</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>流体の種類</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>m³/個</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">仕様</td> <td rowspan="5">主要寸法</td> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">高さ</td> <td>深さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>底板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>せき高さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">主要材料</td> <td>側壁板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>ミキサ室蓋板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>セトラ室蓋板厚さ(内側部/外側部)</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>中性子吸収材厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>全高</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">段</td> <td>側壁板</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>ふた板</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>底板</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>中性子吸収材</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">個</td> <td>中性子減速材</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>段数</td> <td>個</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ミキサ</td> <td>原動機の種類</td> <td>個</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>個</td> <td>〇〇</td> </tr> </table>					名称		変更前	変更後	名称		プルトニウム洗浄器		種類		〇〇		臨界管理	核的制限値	最大液厚み	mm	〇〇	中性子吸収材厚み(カドミウム)	mm	〇〇	面間最小距離	TBP 洗浄器/プルトニウム洗浄器	mm	〇〇	容量	m ³ /個	〇〇	設計条件	水相	β	γ	Bq/cm ³	〇〇	α	α	Bq/cm ³	〇〇	標準濃度	U	g/l	〇〇	P	u	g/l	〇〇	有機相	β	γ	Bq/cm ³	〇〇	α	α	Bq/cm ³	〇〇	U	g/l	〇〇	耐露クラス				〇〇	流体の種類				〇〇	容量	m ³ /個	〇〇	最高使用圧力	MPa	〇〇	最高使用温度	℃	〇〇	仕様	主要寸法	たて	mm	〇〇	横	mm	〇〇	高さ	深さ	mm	〇〇	底板厚さ	mm	〇〇	せき高さ	mm	〇〇	主要材料	側壁板厚さ	mm	〇〇	ミキサ室蓋板厚さ	mm	〇〇	セトラ室蓋板厚さ(内側部/外側部)	mm	〇〇	中性子吸収材厚さ	mm	〇〇	全高	mm	〇〇	段	側壁板	mm	〇〇	ふた板	mm	〇〇	底板	mm	〇〇	中性子吸収材	mm	〇〇	個	中性子減速材	mm	〇〇	段数	個	〇〇	ミキサ	原動機の種類	個	〇〇	個数	個	〇〇	<table border="1"> <tr> <th>技術基準</th> <th>機能要求②</th> <th>主な仕様(詳細設計)</th> </tr> <tr> <td>許可整合</td> <td>様式-6,7</td> <td>ミキサ 原動機の種類 個数</td> </tr> </table> <p>その他容器に係る要求事項は1-1と同様</p>			技術基準	機能要求②	主な仕様(詳細設計)	許可整合	様式-6,7	ミキサ 原動機の種類 個数	<p><発電炉の要目表なし></p>	
名称		変更前	変更後																																																																																																																																																										
名称		プルトニウム洗浄器																																																																																																																																																											
種類		〇〇																																																																																																																																																											
臨界管理	核的制限値	最大液厚み	mm	〇〇																																																																																																																																																									
		中性子吸収材厚み(カドミウム)	mm	〇〇																																																																																																																																																									
	面間最小距離	TBP 洗浄器/プルトニウム洗浄器	mm	〇〇																																																																																																																																																									
		容量	m ³ /個	〇〇																																																																																																																																																									
設計条件	水相	β	γ	Bq/cm ³	〇〇																																																																																																																																																								
		α	α	Bq/cm ³	〇〇																																																																																																																																																								
	標準濃度	U	g/l	〇〇																																																																																																																																																									
		P	u	g/l	〇〇																																																																																																																																																								
	有機相	β	γ	Bq/cm ³	〇〇																																																																																																																																																								
		α	α	Bq/cm ³	〇〇																																																																																																																																																								
	U	g/l	〇〇																																																																																																																																																										
	耐露クラス				〇〇																																																																																																																																																								
	流体の種類				〇〇																																																																																																																																																								
	容量	m ³ /個	〇〇																																																																																																																																																										
最高使用圧力	MPa	〇〇																																																																																																																																																											
最高使用温度	℃	〇〇																																																																																																																																																											
仕様	主要寸法	たて	mm	〇〇																																																																																																																																																									
		横	mm	〇〇																																																																																																																																																									
		高さ	深さ	mm	〇〇																																																																																																																																																								
			底板厚さ	mm	〇〇																																																																																																																																																								
		せき高さ	mm	〇〇																																																																																																																																																									
	主要材料	側壁板厚さ	mm	〇〇																																																																																																																																																									
		ミキサ室蓋板厚さ	mm	〇〇																																																																																																																																																									
		セトラ室蓋板厚さ(内側部/外側部)	mm	〇〇																																																																																																																																																									
		中性子吸収材厚さ	mm	〇〇																																																																																																																																																									
		全高	mm	〇〇																																																																																																																																																									
段	側壁板	mm	〇〇																																																																																																																																																										
	ふた板	mm	〇〇																																																																																																																																																										
	底板	mm	〇〇																																																																																																																																																										
	中性子吸収材	mm	〇〇																																																																																																																																																										
個	中性子減速材	mm	〇〇																																																																																																																																																										
	段数	個	〇〇																																																																																																																																																										
ミキサ	原動機の種類	個	〇〇																																																																																																																																																										
	個数	個	〇〇																																																																																																																																																										
技術基準	機能要求②	主な仕様(詳細設計)																																																																																																																																																											
許可整合	様式-6,7	ミキサ 原動機の種類 個数																																																																																																																																																											
<p>特記事項</p> <p>(1) 電気設備に関する技術基準を定める省令第10条及び第11条に準拠した接地網に接地する。</p> <p>(2) [Redacted]</p> <p>(3) [Redacted]</p> <p>基本設計方針に展開</p> <p>添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除</p> <p>構造図：第3.2.4.2-6図に示す</p>					<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> <tr> <td>名称</td> <td>プルトニウム洗浄器</td> <td></td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">臨界管理</td> <td rowspan="2">核的制限値</td> <td>最大液厚み</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>中性子吸収材厚み(カドミウム)</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">面間最小距離</td> <td>TBP 洗浄器/プルトニウム洗浄器</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>m³/個</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">主要寸法</td> <td rowspan="2">高さ</td> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">高さ</td> <td>深さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>底板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>せき高さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>側壁板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>ミキサ室蓋板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>セトラ室蓋板厚さ(内側部/外側部)</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>中性子吸収材厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>全高</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主要材料</td> <td>側壁板</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>ふた板</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>底板</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>中性子吸収材</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">段</td> <td>中性子減速材</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>段数</td> <td>個</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ミキサ</td> <td>原動機の種類</td> <td>個</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>個</td> <td>〇〇</td> </tr> </table> <p>注記 *1: 公称値を示す。 *2: 重大事故時等における使用時の値を示す。</p> <table border="1"> <tr> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> <tr> <td>臨界管理に係る追加仕様項目</td> </tr> </table>					名称	変更前	変更後	名称	プルトニウム洗浄器		種類	〇〇		臨界管理	核的制限値	最大液厚み	mm	〇〇	中性子吸収材厚み(カドミウム)	mm	〇〇	面間最小距離	TBP 洗浄器/プルトニウム洗浄器	mm	〇〇	容量	m ³ /個	〇〇	主要寸法	高さ	たて	mm	〇〇 ^{*1}	横	mm	〇〇 ^{*1}	高さ	深さ	mm	〇〇 ^{*1}	底板厚さ	mm	〇〇 ^{*1}	せき高さ	mm	〇〇 ^{*1}	側壁板厚さ	mm	〇〇 ^{*1}	ミキサ室蓋板厚さ	mm	〇〇 ^{*1}	セトラ室蓋板厚さ(内側部/外側部)	mm	〇〇 ^{*1}	中性子吸収材厚さ	mm	〇〇 ^{*1}	全高	mm	〇〇 ^{*1}	主要材料	側壁板	mm	〇〇	ふた板	mm	〇〇	底板	mm	〇〇	中性子吸収材	mm	〇〇	段	中性子減速材	mm	〇〇	段数	個	〇〇	ミキサ	原動機の種類	個	〇〇	個数	個	〇〇	機種で統一して記載する仕様項目	構造分類に係る仕様項目	臨界管理に係る追加仕様項目	<table border="1"> <tr> <th>技術基準</th> <th>機能要求②</th> <th>主な仕様(詳細設計)</th> </tr> <tr> <td>許可整合</td> <td>様式-6,7</td> <td>ミキサ 原動機の種類 個数</td> </tr> </table> <p>その他容器に係る要求事項は1-1と同様</p>			技術基準	機能要求②	主な仕様(詳細設計)	許可整合	様式-6,7	ミキサ 原動機の種類 個数	<p><発電炉の要目表なし></p>																																																			
名称	変更前	変更後																																																																																																																																																											
名称	プルトニウム洗浄器																																																																																																																																																												
種類	〇〇																																																																																																																																																												
臨界管理	核的制限値	最大液厚み	mm	〇〇																																																																																																																																																									
		中性子吸収材厚み(カドミウム)	mm	〇〇																																																																																																																																																									
	面間最小距離	TBP 洗浄器/プルトニウム洗浄器	mm	〇〇																																																																																																																																																									
		容量	m ³ /個	〇〇																																																																																																																																																									
主要寸法	高さ	たて	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																									
		横	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																									
	高さ	深さ	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																									
		底板厚さ	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																									
	せき高さ	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																										
	側壁板厚さ	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																										
	ミキサ室蓋板厚さ	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																										
	セトラ室蓋板厚さ(内側部/外側部)	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																										
	中性子吸収材厚さ	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																										
	全高	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																										
主要材料	側壁板	mm	〇〇																																																																																																																																																										
	ふた板	mm	〇〇																																																																																																																																																										
	底板	mm	〇〇																																																																																																																																																										
	中性子吸収材	mm	〇〇																																																																																																																																																										
段	中性子減速材	mm	〇〇																																																																																																																																																										
	段数	個	〇〇																																																																																																																																																										
ミキサ	原動機の種類	個	〇〇																																																																																																																																																										
	個数	個	〇〇																																																																																																																																																										
機種で統一して記載する仕様項目																																																																																																																																																													
構造分類に係る仕様項目																																																																																																																																																													
臨界管理に係る追加仕様項目																																																																																																																																																													
技術基準	機能要求②	主な仕様(詳細設計)																																																																																																																																																											
許可整合	様式-6,7	ミキサ 原動機の種類 個数																																																																																																																																																											

仕様表記載例 1-6 【機種：容器】

[常設][構造分類：パルスカラム][付属構造：臨界管理]

既認可の仕様表				仕様表案				要求事項の整理		発電炉類似設備要目表		備考		
<p>工程情報を示す項目であり、設備仕様に直接関係しない項目であるため、仕様表に記載しない。</p> <p>主要設備リストで展開。</p>								容器に係る要求事項は1-1と同様		発電炉の要目表なし				
設計条件	名称	逆抽出塔(0000-00)			名称	逆抽出塔(0000-00)								
	機器の種類	本体	逆抽出塔		種類	逆抽出塔								
	臨界管理	部位	上部	シャフト部・下部		部位	上部	シャフト部・下部						
		最大液厚み	mm	00	-		最大液厚み	mm	00	-				
		最大内径	mm	-	00		最大内径	mm	-	00				
		中性子吸収材厚み(カドミウム)	mm	00	-		中性子吸収材厚み(カドミウム)	mm	00	-				
		抽出塔/核分裂生成物洗浄塔	mm	00		抽出塔/核分裂生成物洗浄塔	mm	00						
	標準濃度	水相	βγ	Bq/cm ²	00		水相	βγ	Bq/cm ²	00				
			α	Bq/cm ²	00			α	Bq/cm ²	00				
			U	g/l	-			U	g/l	-				
			Pu	g/l	00			Pu	g/l	00				
		有機相	βγ	Bq/cm ²	00		有機相	βγ	Bq/cm ²	00				
	耐震	流体の種類	クラス	00		流体の種類	クラス	00						
		容量	最大使用圧力	MPa	00		容量	m ³ /個	00					
			最高使用温度	℃	00			最高使用温度	℃	00				
			パルスレグ	MPa	00 ^{*1}			パルスレグ	MPa	00 ^{*2}				
			パルスレグ	℃	00			パルスレグ	℃	00 ^{*2}				
	仕様	主要寸法	部位	上部	シャフト部・下部		本体	部位	上部	シャフト部・下部				
			外胴内径	mm	00	-		外胴内径	mm	00 ^{*1}	-			
			胴内径	mm	-	00		胴内径	mm	-	00 ^{*1}			
外胴板厚さ			mm	00	-			外胴板厚さ	mm	00 ^{*1}	-			
内胴板厚さ			mm	00	-			内胴板厚さ	mm	00 ^{*1}	-			
ふた板厚さ			mm	00	-			ふた板厚さ	mm	00 ^{*1}	-			
胴板厚さ			mm	-	00			胴板厚さ	mm	-	00 ^{*1}			
鏡板厚さ			mm	-	00			鏡板厚さ	mm	-	00 ^{*1}			
環状部幅			mm	00	-			環状部幅	mm	00 ^{*1}	-			
中性子吸収材厚さ(カドミウム)			mm	00	-			中性子吸収材厚さ(カドミウム)	mm	00 ^{*1}	-			
全高		mm	00		全高	mm	00 ^{*1}							
パルスレグ		外径(下部/上部)	mm	00		パルスレグ	外径(下部/上部)	mm	00 ^{*1}					
		厚さ(下部/上部)	mm	00			厚さ(下部/上部)	mm	00 ^{*1}					
		部位	上部	シャフト部・下部			部位	上部	シャフト部・下部					
		外胴板	mm	00	-		外胴板	mm	00	-				
	内胴板	mm	00	-			内胴板	mm	00	-				
主要材料	胴板	mm	-	00		胴板	mm	-	00					
	ふた板	mm	-	00		ふた板	mm	-	00					
	鏡板	mm	-	00		鏡板	mm	-	00					
	中性子吸収材	mm	00	-		中性子吸収材	mm	00	-					
	中性子減速材	mm	-	00		中性子減速材	mm	-	00					
個数	パルスレグ	mm	00		パルスレグ	mm	00							
取付箇所	系統名(ライン名)	mm	00		系統名(ライン名)	mm	00							
	設置床	mm	00		設置床	mm	00							
	溢水防護上の区画番号	mm	00		溢水防護上の区画番号	mm	00							
	溢水防護上の配慮が必要高さ	mm	00		溢水防護上の配慮が必要高さ	mm	00							
	化学薬品防護上の区画番号	mm	00		化学薬品防護上の区画番号	mm	00							
化学薬品防護上の配慮が必要高さ	mm	00		化学薬品防護上の配慮が必要高さ	mm	00								
特記事項	<p>(1) 電気設備に関する技術基準を定める省令第10条及び第11条</p> <p>(2) [Redacted]</p> <p>(3) [Redacted]</p>													
基本設計方針に展開														
添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除														
構造図：第3.2.4.2-6図に示す。														
注記1)：〇〇は溶液の放射線分解により発生する水素の爆発を適切に防止するための水素掃気機能を維持するため、構造強度上〇〇クラスとする施設を示す。()内は、臨界の発生防止の観点の耐震クラスを示す。														
注記2)：単位は(kg/cm ²)	旧単位系記載のため、SI単位系表記に統一することに伴い適正化。													
	<p>機種で統一して記載する仕様項目</p> <p>構造分類に係る仕様項目</p> <p>臨界管理に係る追加仕様項目</p>													

仕様表記載例 1-7【機種：容器】

[常設][構造分類：蒸発缶][付属構造：臨界管理, 熱交換器]

既認可の仕様表			仕様表案			要求事項の整理			発電炉類似設備要目表			備考											
<p>工程情報を示す項目であり、設備仕様と直接関係しない項目であるため、仕様表に記載しない。</p> <p>主要設備リストで展開。</p>			<p>ブルトニウム濃縮缶加熱部</p>			<p>ブルトニウム濃縮缶</p>			<table border="1"> <tr> <th>技術基準</th> <th>機能要求② 様式-6,7</th> <th>主な仕様 (詳細設計)</th> </tr> <tr> <td>第十条 閉じ込めの機能</td> <td>安全機能を有する施設は、使用済燃料等から発生する崩壊熱を適切に除去することとし、使用済燃料等を含む溶液の崩壊熱による機器内での沸騰を防止する設計とする。</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 容量 伝熱面積 主要材料 主要寸法 </td> </tr> <tr> <td>許可整合</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>その他容器に係る要求事項は1-1と同様</p>			技術基準	機能要求② 様式-6,7	主な仕様 (詳細設計)	第十条 閉じ込めの機能	安全機能を有する施設は、使用済燃料等から発生する崩壊熱を適切に除去することとし、使用済燃料等を含む溶液の崩壊熱による機器内での沸騰を防止する設計とする。	<ul style="list-style-type: none"> 容量 伝熱面積 主要材料 主要寸法 	許可整合					
技術基準	機能要求② 様式-6,7	主な仕様 (詳細設計)																					
第十条 閉じ込めの機能	安全機能を有する施設は、使用済燃料等から発生する崩壊熱を適切に除去することとし、使用済燃料等を含む溶液の崩壊熱による機器内での沸騰を防止する設計とする。	<ul style="list-style-type: none"> 容量 伝熱面積 主要材料 主要寸法 																					
許可整合																							
設計条件	機器の種類	管側	—	〇〇	核的制限値	加熱部	mm	〇〇	容量	容量	m ³ /個	〇〇	最高使用圧力	加熱部管側	MPa	(外圧)〇〇 ² (内圧)〇〇 ²							
		胴側	—	〇〇		液抜き部	mm	〇〇		処理容量	m ³ /h/個	〇〇		加熱部胴側	MPa	〇〇 ²							
	臨界管理	管	—	〇〇	最大内径	気液分離部下	mm	〇〇	設計熱交換量	設計熱交換量	kW/個	〇〇	管側最高使用圧力	気液分離部	MPa	(外圧)〇〇 ² (内圧)〇〇 ²							
		胴	—	〇〇		気液分離部上	mm	〇〇		設計蒸発量	kg/h/個	〇〇		液抜き部	MPa	(外圧)〇〇 ² (内圧)〇〇 ²							
	標準濃度	核的制限値・最大内径・加熱部		mm	〇〇	伝熱面積	伝熱面積		m ² /個	〇〇	最高使用温度	加熱部管側	°C	〇〇 ²	最高使用温度	加熱部管側	°C	〇〇 ²					
		βγ	Bq/cm ²	〇〇	管側		加熱部胴側	°C	〇〇 ²	胴側最高使用圧力		加熱部胴側	°C	〇〇 ²		胴側最高使用温度	加熱部胴側	°C	〇〇 ²				
		α	α Bq/cm ²	〇〇			管側	液抜き部	°C			〇〇 ²	伝熱	液抜き部			°C	〇〇 ²	伝熱	液抜き部	°C	〇〇 ²	
		U	g/l	〇〇	胴側		液抜き部	°C	〇〇 ²	個		伝熱管外径		mm		〇〇	個	伝熱管外径		mm	〇〇		
	Pu	g/l	〇〇	耐震クラス	—	〇〇 (〇〇) ¹⁾	主要寸法	伝熱管厚さ	mm		〇〇	主要材料	管側	鏡板厚さ	mm	〇〇							
	耐震クラス			—	〇〇 (〇〇) ¹⁾	最高使用圧力		管側	鏡板厚さ	mm	〇〇		最高使用温度	胴側	鏡板厚さ	mm	〇〇						
	流体の種類	管側	—	〇〇	伝熱管外径		管側	鏡板厚さ	mm	〇〇	最高使用温度	管側		鏡板厚さ	mm	〇〇	伝熱管厚さ	管側	鏡板厚さ	mm	〇〇		
		胴側	—	〇〇		伝熱管厚さ	mm	〇〇	全高	管側		鏡板厚さ	mm	〇〇	伝熱管厚さ	mm		〇〇					
	容量	容量	m ³ /個	〇〇	全高	管側	鏡板厚さ	mm		〇〇	上部胴内径	管側	鏡板厚さ	mm	〇〇	上部連絡管外径	管側	鏡板厚さ	mm	〇〇			
		処理容量	m ³ /h/個	〇〇		胴側	鏡板厚さ	mm	〇〇	上部胴板厚さ		mm	〇〇	上部連絡管厚さ	mm		〇〇	上部連絡管厚さ	mm	〇〇			
	管側	最高使用圧力	MPa	(外圧)〇〇 ² (内圧)〇〇 ²	伝熱管外径	胴側	鏡板厚さ	mm	〇〇	上部鏡板厚さ	mm	〇〇	下部連絡管外径	mm	〇〇	下部連絡管厚さ	mm	〇〇					
		最高使用温度	°C	〇〇		伝熱管厚さ	mm	〇〇	円すい胴板厚さ	mm	〇〇	下部連絡管厚さ	mm	〇〇	濃縮液連結管外径	mm	〇〇	濃縮液連結管厚さ	mm	〇〇			
	胴側	最高使用圧力	MPa	(外圧)〇〇 ² (内圧)〇〇 ²	全高	管側	鏡板厚さ	mm	〇〇	下部胴内径	mm	〇〇	濃縮液連結管厚さ	mm	〇〇	胴内径	mm	〇〇					
		最高使用温度	°C	〇〇		伝熱管厚さ	mm	〇〇	下部胴板厚さ	mm	〇〇	胴板厚さ	mm	〇〇	平板厚さ	mm	〇〇	円すい鏡板	mm	〇〇			
	伝熱	伝熱面積	m ² /個	〇〇	全高	管側	鏡板厚さ	mm	〇〇	下部鏡板厚さ	mm	〇〇	全高	mm	〇〇	廃ガス連結管外径	mm	〇〇					
		管側	—	〇〇		伝熱管外径	mm	〇〇	全高	mm	〇〇	廃ガス連結管厚さ	mm	〇〇	廃ガス連結管厚さ	mm	〇〇						
個	伝熱管外径	mm	〇〇	全高	管側	鏡板厚さ	mm	〇〇	上部連絡管外径	mm	〇〇	上部連絡管厚さ	mm	〇〇	下部連絡管外径	mm	〇〇						
	伝熱管厚さ	mm	〇〇		伝熱管厚さ	mm	〇〇	上部鏡板厚さ	mm	〇〇	下部連絡管厚さ	mm	〇〇	濃縮液連結管外径	mm	〇〇	濃縮液連結管厚さ	mm	〇〇				
特記事項	(1) 電気設備に関する技術基準に定める省令第10条及び第11条に準拠した接地網		〇〇	全高	管側	鏡板厚さ	mm	〇〇	下部胴内径	mm	〇〇	下部胴板厚さ	mm	〇〇	上部連絡管外径	mm	〇〇						
	(2) [Redacted]		〇〇		伝熱管外径	mm	〇〇	下部鏡板厚さ	mm	〇〇	全高	mm	〇〇	上部連絡管厚さ	mm	〇〇	下部連絡管厚さ	mm	〇〇				
構造図：第3.2.4.2-21図に示す			〇〇	上部連絡管外径	管側	鏡板厚さ	mm	〇〇	上部鏡板厚さ	mm	〇〇	下部連絡管外径	mm	〇〇	濃縮液連結管外径	mm	〇〇						
注記1)：〇〇は溶液の放射性分解により発生する水素の爆発を適切に防止するための水素掃気機能を維持するため、構造強度上〇〇クラスとする施設を示す。()内は、臨界の発生防止の観点の耐震クラスを示す。			〇〇		伝熱管厚さ	mm	〇〇	上部鏡板厚さ	mm	〇〇	下部連絡管厚さ	mm	〇〇	濃縮液連結管厚さ	mm	〇〇	胴内径	mm	〇〇				
2)：単位は (kg/cm ²)			〇〇	下部連絡管外径	mm	〇〇	円すい胴板厚さ	mm	〇〇	下部胴内径	mm	〇〇	下部胴板厚さ	mm	〇〇	下部鏡板厚さ	mm	〇〇					
基本設計方針に展開			〇〇	全高	mm	〇〇	全高	mm	〇〇	全高	mm	〇〇	全高	mm	〇〇	全高	mm	〇〇					
添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除			〇〇	上部連絡管厚さ	mm	〇〇	全高	mm	〇〇	上部連絡管外径	mm	〇〇	上部連絡管厚さ	mm	〇〇	下部連絡管外径	mm	〇〇					
旧単位系記載のため、SI単位系表記に統一することに伴い適正化。			〇〇	下部連絡管厚さ	mm	〇〇	上部連絡管外径	mm	〇〇	上部連絡管厚さ	mm	〇〇	下部連絡管外径	mm	〇〇	下部連絡管厚さ	mm	〇〇					
			〇〇	濃縮液連結管外径	mm	〇〇	濃縮液連結管厚さ	mm	〇〇	胴内径	mm	〇〇	胴板厚さ	mm	〇〇	平板厚さ	mm	〇〇					
			〇〇	濃縮液連結管厚さ	mm	〇〇	全高	mm	〇〇	全高	mm	〇〇	全高	mm	〇〇	全高	mm	〇〇					
			〇〇	廃ガス連結管外径	mm	〇〇	廃ガス連結管厚さ	mm	〇〇	廃ガス連結管外径	mm	〇〇	廃ガス連結管厚さ	mm	〇〇	廃ガス連結管外径	mm	〇〇					
			〇〇	廃ガス連結管厚さ	mm	〇〇	廃ガス連結管厚さ	mm	〇〇	廃ガス連結管厚さ	mm	〇〇	廃ガス連結管厚さ	mm	〇〇	廃ガス連結管厚さ	mm	〇〇					

機種で統一して記載する仕様項目
構造分類に係る仕様項目
臨界管理に係る追加仕様項目
熱交換器に係る追加仕様項目

仕様表記載例 1-7【機種：容器】

[常設][構造分類：蒸発缶][付属構造：臨界管理, 熱交換器]

既認可の仕様表				仕様表案				要求事項の整理		発電炉類似設備要目表		備考				
設計条件	工程情報を示す項目であり、設備仕様に直接関係しない項目であるため、仕様表に記載しない。			主要設備リストで展開。												
	機器の種類	種類	—	〇〇	フルトニウム濃縮缶 気液分離部											
		核的制限値	最大内径	—	〇〇											
			標準濃度	$\beta\gamma$	Bq/cm ³	〇〇										
				α	Bq/cm ³	〇〇										
	U	g/l		〇〇												
	流体の種類	耐震クラス	—	〇〇												
		容量 (設計蒸発量)	気液分離部	—	〇〇											
			液抜き部	—	〇〇											
	仕様	気液分離部	最高使用圧力	MPa	(外圧)〇〇 (内圧)〇〇											
			最高使用温度	℃	〇〇											
			液抜き部	最高使用圧力	MPa	(外圧)〇〇 (内圧)〇〇										
				最高使用温度	℃	〇〇										
				上部胴内径	mm	〇〇										
		上部胴板厚さ		mm	〇〇											
主要寸法		接続部	上部鏡板厚さ	mm	〇〇											
			円すい胴板厚さ	mm	〇〇											
			下部胴内径	mm	〇〇											
			下部胴板厚さ	mm	〇〇											
			下部鏡板厚さ	mm	〇〇											
		液抜き部	全高	mm	〇〇											
			上部連絡管外径	mm	〇〇											
			上部連絡管厚さ	mm	〇〇											
			下部連絡管外径	mm	〇〇											
	下部連絡管厚さ		mm	〇〇												
主要材料	気液分離部	濃縮液連絡管外径	mm	〇〇												
		濃縮液連絡管厚さ	mm	〇〇												
		廃ガス連絡管外径	mm	〇〇												
		廃ガス連絡管厚さ	mm	〇〇												
		胴内径	mm	〇〇												
	液抜き部	胴板厚さ	mm	〇〇												
		平板厚さ	mm	〇〇												
		円すい鏡板厚さ	mm	〇〇												
		全高	mm	〇〇												
		上部胴板	—	〇〇												
接続部	上部鏡板	—	〇〇													
	円すい胴板	—	〇〇													
	下部胴板	—	〇〇													
	下部鏡板	—	〇〇													
	上部連絡管	—	〇〇													
液抜き部	濃縮液連絡管	—	〇〇													
	廃ガス連絡管	—	〇〇													
	下部連絡管	—	〇〇													
個数	胴板	—	〇〇													
	平板	—	〇〇													
特記事項				—												
構造図： 第 3.2.4.2-21 図に示す。																
注記 1)： ○は溶液の放射線分解により発生する水素の爆発を適切に防止するための水素掃気機能を維持するため、構造強度上〇クラスとする施設を示す。()内は、臨界の発生防止の観点の耐震クラスを示す。																
2)： 単位は (kg/cm ³)																
基本設計方針に展開																
添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除																
旧単位系記載のため、SI 単位系表記に統一することに伴い適正化。																
				変更前				変更後								
				管側 胴板				—		〇〇						
				管側 鏡板				—		〇〇						
				胴側 胴板				—		〇〇						
				胴側 鏡板				—		〇〇						
				管伝熱管				—		〇〇						
				気液分離部 上部 胴板				—		〇〇						
				気液分離部 上部 鏡板				—		〇〇						
				気液分離部 円すい胴板				—		〇〇						
				気液分離部 下部 胴板				—		〇〇						
				気液分離部 下部 鏡板				—		〇〇						
				接続部 上部連絡管				—		〇〇						
				接続部 濃縮液連絡管				—		〇〇						
				接続部 下部連絡管				—		〇〇						
				液抜き部 胴板				—		〇〇						
				液抜き部 平板				—		〇〇						
				液抜き部 円すい鏡板				—		〇〇						
				廃ガス連絡管				—		〇〇						
				個数				—		〇〇						
				系統名 (ライン名)				—		〇〇						
				設置床				—		〇〇						
				溢水防護上の区画番号				—		—		〇〇				
				溢水防護上の配慮が必要な高さ				—		—		〇〇				
				化学薬品防護上の区画番号				—		—		〇〇				
				化学薬品防護上の配慮が必要な高さ				—		—		〇〇				
				取付箇所												
				注記 *1：公称値を示す。												
				*2：重大事故時等における使用時の値を示す。												
				*3：セル内における配管接合部に異材継手を使用する。												
				*4												
				フルトニウム濃縮缶加熱部特記事項(2)												

仕様表記載例 1-8 【機種：容器】

[常設][構造分類：ポンペ][付属構造：-]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																																																																										
<p><既認可仕様表なし></p>	<table border="1" data-bbox="736 289 1347 758"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">種類</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">容量</td> <td>L/個</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td>〇〇^{*3}</td> </tr> <tr> <td colspan="2">最高使用温度</td> <td>℃</td> <td>〇〇^{*3}</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主要寸法</td> <td>外径</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>胴部厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>底部厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td colspan="2">主要材料</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">個数</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">取付箇所</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>化学薬品防護上の区画番号</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>化学薬品防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="736 758 1347 842">注記 *1：公称値を示す。 *2：既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。 *3：重大事故時等における使用時の値を示す。</p> <table border="1" data-bbox="825 877 1205 940"> <tr> <td style="background-color: #e0e0e0;"> </td> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #c0c0c0;"> </td> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> </table>	名称		変更前	変更後	種類		-	〇〇	容量		L/個	〇〇	最高使用圧力		MPa	〇〇 ^{*3}	最高使用温度		℃	〇〇 ^{*3}	主要寸法	外径	mm	〇〇 ^{*1}	高さ	mm	〇〇 ^{*1}	胴部厚さ	mm	〇〇 ^{*1}	底部厚さ	mm	〇〇 ^{*1}	主要材料		-	〇〇	個数		-	〇〇	取付箇所	系統名(ライン名)	-	〇〇	設置床	-	〇〇	溢水防護上の区画番号	-	-	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	-	化学薬品防護上の区画番号	-	-	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	-	-		機種で統一して記載する仕様項目		構造分類に係る仕様項目	<p data-bbox="1371 268 1626 296">容器に係る要求事項は1-1と同様</p>	<table border="1" data-bbox="2012 275 2647 972"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">名 称</td> <td>-</td> <td>ハロンポンペ (ほう酸水注入系ポンプA用)</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>一般難目なし容器</td> </tr> <tr> <td>容 量</td> <td>L/個</td> <td>-</td> <td>68以上(68*)</td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 圧 力</td> <td>MPa</td> <td>-</td> <td>5.2</td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 温 度</td> <td>℃</td> <td>-</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主 要 寸 法</td> <td>外 径</td> <td>mm</td> <td>265.0*</td> </tr> <tr> <td>高 さ</td> <td>mm</td> <td>1500*</td> </tr> <tr> <td>胴 部 厚 さ</td> <td>mm</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>底 部 厚 さ</td> <td>mm</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>材 料</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>マンガン鋼</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取 付 箇 所</td> <td>系 統 名 (ラ イ ン 名)</td> <td>-</td> <td>ハロンポンペ (ほう酸水注入系ポンプA用) 消火系</td> </tr> <tr> <td>設 置 床</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="2012 972 2190 999">注記 *：公称値を示す。</p>	名称		変更前	変更後	名 称		-	ハロンポンペ (ほう酸水注入系ポンプA用)	種 類	-	-	一般難目なし容器	容 量	L/個	-	68以上(68*)	最 高 使 用 圧 力	MPa	-	5.2	最 高 使 用 温 度	℃	-	40	主 要 寸 法	外 径	mm	265.0*	高 さ	mm	1500*	胴 部 厚 さ	mm	-	底 部 厚 さ	mm	-	材 料	-	-	マンガン鋼	個 数	-	-	3	取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	-	ハロンポンペ (ほう酸水注入系ポンプA用) 消火系	設 置 床	-	-	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	-	-	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	-	-	
名称		変更前	変更後																																																																																																																											
種類		-	〇〇																																																																																																																											
容量		L/個	〇〇																																																																																																																											
最高使用圧力		MPa	〇〇 ^{*3}																																																																																																																											
最高使用温度		℃	〇〇 ^{*3}																																																																																																																											
主要寸法	外径	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																											
	高さ	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																											
	胴部厚さ	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																											
	底部厚さ	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																											
主要材料		-	〇〇																																																																																																																											
個数		-	〇〇																																																																																																																											
取付箇所	系統名(ライン名)	-	〇〇																																																																																																																											
	設置床	-	〇〇																																																																																																																											
	溢水防護上の区画番号	-	-																																																																																																																											
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	-																																																																																																																											
	化学薬品防護上の区画番号	-	-																																																																																																																											
	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	-	-																																																																																																																											
	機種で統一して記載する仕様項目																																																																																																																													
	構造分類に係る仕様項目																																																																																																																													
名称		変更前	変更後																																																																																																																											
名 称		-	ハロンポンペ (ほう酸水注入系ポンプA用)																																																																																																																											
種 類	-	-	一般難目なし容器																																																																																																																											
容 量	L/個	-	68以上(68*)																																																																																																																											
最 高 使 用 圧 力	MPa	-	5.2																																																																																																																											
最 高 使 用 温 度	℃	-	40																																																																																																																											
主 要 寸 法	外 径	mm	265.0*																																																																																																																											
	高 さ	mm	1500*																																																																																																																											
	胴 部 厚 さ	mm	-																																																																																																																											
	底 部 厚 さ	mm	-																																																																																																																											
材 料	-	-	マンガン鋼																																																																																																																											
個 数	-	-	3																																																																																																																											
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	-	ハロンポンペ (ほう酸水注入系ポンプA用) 消火系																																																																																																																											
	設 置 床	-	-																																																																																																																											
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	-	-																																																																																																																											
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	-	-																																																																																																																											

仕様表記載例 1-9 【機種：容器】

[可搬] [構造分類：円筒型(車両)] [付属構造：-]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																																																																																																																								
<p><既認可仕様表なし></p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種類</td> <td>-</td> <td></td> <td>軽油用タンクローリ (0000-00)</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>kL/個</td> <td></td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td></td> <td>〇〇^{*2}</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td></td> <td>〇〇^{*2}</td> </tr> <tr> <td rowspan="14">主要寸法</td> <td>胴長径</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>胴短径</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>胴板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>鏡板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>鏡板長径</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>鏡板短径</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>排出口管台外径</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>排出口管台厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>マンホール管台外径</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>マンホール管台厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>マンホールふた厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>全高</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>車両全長</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1&3}</td> </tr> <tr> <td>車両全幅</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1&3}</td> </tr> <tr> <td>車両高さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1&3}</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要材料</td> <td>胴板</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>鏡板</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>マンホールふた</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">取付箇所</td> <td>-</td> <td>保管場所： ・〇〇保管場所 T.M.S.L. 約〇〇m 取付箇所 ・〇〇付近 T.M.S.L. 約〇〇m</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：公称値を示す。 *2：重大事故時等における使用時の値を示す。 *3：車両の概略寸法を示す参考値であり、各種評価には使用しない。</p> <table border="1"> <tr> <td style="background-color: #e0e0e0;">■</td> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #c0c0c0;">■</td> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> </table>	名称		変更前	変更後	種類	-		軽油用タンクローリ (0000-00)	容量	kL/個		〇〇	最高使用圧力	MPa		〇〇 ^{*2}	最高使用温度	℃		〇〇 ^{*2}	主要寸法	胴長径	mm	〇〇 ^{*1}	胴短径	mm	〇〇 ^{*1}	胴板厚さ	mm	〇〇 ^{*1}	鏡板厚さ	mm	〇〇 ^{*1}	鏡板長径	mm	〇〇 ^{*1}	鏡板短径	mm	〇〇 ^{*1}	排出口管台外径	mm	〇〇 ^{*1}	排出口管台厚さ	mm	〇〇 ^{*1}	マンホール管台外径	mm	〇〇 ^{*1}	マンホール管台厚さ	mm	〇〇 ^{*1}	マンホールふた厚さ	mm	〇〇 ^{*1}	全高	mm	〇〇 ^{*1}	車両全長	mm	〇〇 ^{*1&3}	車両全幅	mm	〇〇 ^{*1&3}	車両高さ	mm	〇〇 ^{*1&3}	主要材料	胴板	-	〇〇	鏡板	-	〇〇	マンホールふた	-	〇〇	個数	-	〇〇		取付箇所		-	保管場所： ・〇〇保管場所 T.M.S.L. 約〇〇m 取付箇所 ・〇〇付近 T.M.S.L. 約〇〇m	■	機種で統一して記載する仕様項目	■	構造分類に係る仕様項目	<p>容器に係る要求事項は1-1と同様</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名称</td> <td>-</td> <td>タンクローリ^{*1}</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>-</td> <td>横置円形</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>kL/個</td> <td>4.0以上 (4.0^{*2})</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力^{*3}</td> <td>kPa</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度^{*3}</td> <td>℃</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td rowspan="14">主要寸法</td> <td>胴長径</td> <td>mm</td> <td>1800^{*2}</td> </tr> <tr> <td>胴短径</td> <td>mm</td> <td>930^{*2}</td> </tr> <tr> <td>胴板厚さ</td> <td>mm</td> <td>3.2^{*2}</td> </tr> <tr> <td>鏡板厚さ</td> <td>mm</td> <td>3.2^{*2}</td> </tr> <tr> <td>鏡板の形状に係る寸法</td> <td>mm</td> <td>1800^{*2} (鏡板長径) 80^{*2} (鏡板短径の2分の1)</td> </tr> <tr> <td>排出口管台外径</td> <td>mm</td> <td>137.9^{*2}</td> </tr> <tr> <td>排出口管台厚さ</td> <td>mm</td> <td>2.8 (3.2^{*2})</td> </tr> <tr> <td>マンホール管台外径</td> <td>mm</td> <td>406.4^{*2}</td> </tr> <tr> <td>マンホール管台厚さ</td> <td>mm</td> <td>3.2^{*2}</td> </tr> <tr> <td>マンホールふた厚さ</td> <td>mm</td> <td>3.2^{*2}</td> </tr> <tr> <td>全長</td> <td>mm</td> <td>3350^{*2}</td> </tr> <tr> <td>車両全長</td> <td>mm</td> <td>5910^{*2}</td> </tr> <tr> <td>車両全幅</td> <td>mm</td> <td>2200^{*2}</td> </tr> <tr> <td>車両高さ</td> <td>mm</td> <td>2460^{*2}</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">材料</td> <td>胴板</td> <td>-</td> <td>SAPH400, SS400</td> </tr> <tr> <td>鏡板</td> <td>-</td> <td>SAPH400</td> </tr> <tr> <td>マンホールふた</td> <td>-</td> <td>SAPH400</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>-</td> <td>2 (予備3)</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>取付箇所</td> <td>-</td> <td>保管場所： ・可搬型重大事故等対処設備保管場所 (西側) EL. 約 23 m ・可搬型重大事故等対処設備保管場所 (南側) EL. 約 25 m ・可搬型重大事故等対処設備予備機置場 EL. 約 8 m 上記3箇所のうち、可搬型重大事故等対処設備保管場所 (西側) 及び可搬型重大事故等対処設備保管場所 (南側) に各2個、3箇所のいずれかに残り1個を保管する。 取付箇所： (・屋外 EL. 約 23 m 又は約 25 m 可搬型設備用軽油タンク付近^{*4})</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：非常用電源設備のうち非常用発電装置 (可搬型代替低圧電源車、室素供給装置用電源車) の燃料設備と兼用する。 *2：公称値を示す。 *3：重大事故時等における使用時の値を示す。 *4：燃料油の吸入箇所を示す。</p>	変更前		変更後	名称	-	タンクローリ ^{*1}	種類	-	横置円形	容量	kL/個	4.0以上 (4.0 ^{*2})	最高使用圧力 ^{*3}	kPa	24	最高使用温度 ^{*3}	℃	40	主要寸法	胴長径	mm	1800 ^{*2}	胴短径	mm	930 ^{*2}	胴板厚さ	mm	3.2 ^{*2}	鏡板厚さ	mm	3.2 ^{*2}	鏡板の形状に係る寸法	mm	1800 ^{*2} (鏡板長径) 80 ^{*2} (鏡板短径の2分の1)	排出口管台外径	mm	137.9 ^{*2}	排出口管台厚さ	mm	2.8 (3.2 ^{*2})	マンホール管台外径	mm	406.4 ^{*2}	マンホール管台厚さ	mm	3.2 ^{*2}	マンホールふた厚さ	mm	3.2 ^{*2}	全長	mm	3350 ^{*2}	車両全長	mm	5910 ^{*2}	車両全幅	mm	2200 ^{*2}	車両高さ	mm	2460 ^{*2}	材料	胴板	-	SAPH400, SS400	鏡板	-	SAPH400	マンホールふた	-	SAPH400	個数	-	2 (予備3)	変更前		変更後	取付箇所	-	保管場所： ・可搬型重大事故等対処設備保管場所 (西側) EL. 約 23 m ・可搬型重大事故等対処設備保管場所 (南側) EL. 約 25 m ・可搬型重大事故等対処設備予備機置場 EL. 約 8 m 上記3箇所のうち、可搬型重大事故等対処設備保管場所 (西側) 及び可搬型重大事故等対処設備保管場所 (南側) に各2個、3箇所のいずれかに残り1個を保管する。 取付箇所： (・屋外 EL. 約 23 m 又は約 25 m 可搬型設備用軽油タンク付近 ^{*4})	
名称		変更前	変更後																																																																																																																																																																									
種類	-		軽油用タンクローリ (0000-00)																																																																																																																																																																									
容量	kL/個		〇〇																																																																																																																																																																									
最高使用圧力	MPa		〇〇 ^{*2}																																																																																																																																																																									
最高使用温度	℃		〇〇 ^{*2}																																																																																																																																																																									
主要寸法	胴長径	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																									
	胴短径	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																									
	胴板厚さ	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																									
	鏡板厚さ	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																									
	鏡板長径	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																									
	鏡板短径	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																									
	排出口管台外径	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																									
	排出口管台厚さ	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																									
	マンホール管台外径	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																									
	マンホール管台厚さ	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																									
	マンホールふた厚さ	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																									
	全高	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																									
	車両全長	mm	〇〇 ^{*1&3}																																																																																																																																																																									
	車両全幅	mm	〇〇 ^{*1&3}																																																																																																																																																																									
車両高さ	mm	〇〇 ^{*1&3}																																																																																																																																																																										
主要材料	胴板	-	〇〇																																																																																																																																																																									
	鏡板	-	〇〇																																																																																																																																																																									
	マンホールふた	-	〇〇																																																																																																																																																																									
個数	-	〇〇																																																																																																																																																																										
取付箇所		-	保管場所： ・〇〇保管場所 T.M.S.L. 約〇〇m 取付箇所 ・〇〇付近 T.M.S.L. 約〇〇m																																																																																																																																																																									
■	機種で統一して記載する仕様項目																																																																																																																																																																											
■	構造分類に係る仕様項目																																																																																																																																																																											
変更前		変更後																																																																																																																																																																										
名称	-	タンクローリ ^{*1}																																																																																																																																																																										
種類	-	横置円形																																																																																																																																																																										
容量	kL/個	4.0以上 (4.0 ^{*2})																																																																																																																																																																										
最高使用圧力 ^{*3}	kPa	24																																																																																																																																																																										
最高使用温度 ^{*3}	℃	40																																																																																																																																																																										
主要寸法	胴長径	mm	1800 ^{*2}																																																																																																																																																																									
	胴短径	mm	930 ^{*2}																																																																																																																																																																									
	胴板厚さ	mm	3.2 ^{*2}																																																																																																																																																																									
	鏡板厚さ	mm	3.2 ^{*2}																																																																																																																																																																									
	鏡板の形状に係る寸法	mm	1800 ^{*2} (鏡板長径) 80 ^{*2} (鏡板短径の2分の1)																																																																																																																																																																									
	排出口管台外径	mm	137.9 ^{*2}																																																																																																																																																																									
	排出口管台厚さ	mm	2.8 (3.2 ^{*2})																																																																																																																																																																									
	マンホール管台外径	mm	406.4 ^{*2}																																																																																																																																																																									
	マンホール管台厚さ	mm	3.2 ^{*2}																																																																																																																																																																									
	マンホールふた厚さ	mm	3.2 ^{*2}																																																																																																																																																																									
	全長	mm	3350 ^{*2}																																																																																																																																																																									
	車両全長	mm	5910 ^{*2}																																																																																																																																																																									
	車両全幅	mm	2200 ^{*2}																																																																																																																																																																									
	車両高さ	mm	2460 ^{*2}																																																																																																																																																																									
材料	胴板	-	SAPH400, SS400																																																																																																																																																																									
	鏡板	-	SAPH400																																																																																																																																																																									
	マンホールふた	-	SAPH400																																																																																																																																																																									
個数	-	2 (予備3)																																																																																																																																																																										
変更前		変更後																																																																																																																																																																										
取付箇所	-	保管場所： ・可搬型重大事故等対処設備保管場所 (西側) EL. 約 23 m ・可搬型重大事故等対処設備保管場所 (南側) EL. 約 25 m ・可搬型重大事故等対処設備予備機置場 EL. 約 8 m 上記3箇所のうち、可搬型重大事故等対処設備保管場所 (西側) 及び可搬型重大事故等対処設備保管場所 (南側) に各2個、3箇所のいずれかに残り1個を保管する。 取付箇所： (・屋外 EL. 約 23 m 又は約 25 m 可搬型設備用軽油タンク付近 ^{*4})																																																																																																																																																																										

仕様表記載例 1-10【機種：容器】

[常設] [構造分類：漏えい液受皿] [付属構造：臨界管理]

既認可の仕様表		仕様表案		要求事項の整理		発電炉類似設備要目表		備考																																																																																																																																																																																												
(1/2)	構造図で展開。	<table border="1"> <tr><th>機種の統一</th><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>構造分類</th><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>臨界管理</th><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>主要材料</th><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>個数</th><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>寸法</th><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>寸法</th><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>寸法</th><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>寸法</th><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>寸法</th><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> </table>	機種の統一	○	○	○	○	○	○	構造分類	○	○	○	○	○	○	臨界管理	○	○	○	○	○	○	主要材料	○	○	○	○	○	○	個数	○	○	○	○	○	○	寸法	○	○	○	○	○	○	寸法	○	○	○	○	○	○	寸法	○	○	○	○	○	○	寸法	○	○	○	○	○	○	寸法	○	○	○	○	○	○	<table border="1"> <tr><th>名称</th><td>漏えい液受皿 (00-00)</td><td>変更前</td><td>変更後</td></tr> <tr><th>種類</th><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>臨界管理</th><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>核的制限値</th><td>mm</td><td>mm</td><td>mm</td></tr> <tr><th>高さ</th><td>mm</td><td>mm</td><td>mm</td></tr> <tr><th>厚さ</th><td>mm</td><td>mm</td><td>mm</td></tr> <tr><th>主要材料</th><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>個数</th><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>系統名(ライン名)</th><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>設置床</th><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>溢水防護上の区画番号</th><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>溢水防護上の配慮が必要な高さ</th><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>化学薬品防護上の区画番号</th><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>化学薬品防護上の配慮が必要な高さ</th><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> </table> <p>注記 *1: 公称値を示す。 *2: 記載の適正化を行う。既設工認申請書には「H」と記載。 *3: 記載の適正化を行う。既設工認申請書には「t」と記載。</p> <table border="1"> <tr><td>機種で統一して記載する仕様項目</td></tr> <tr><td>構造分類に係る仕様項目</td></tr> <tr><td>臨界管理に係る追加仕様項目</td></tr> </table> <p>漏えい液受皿は受皿が受ける圧力を躯体コンクリートで受け持つため、最高使用温度、最高使用圧力の項目を記載していない。</p>	名称	漏えい液受皿 (00-00)	変更前	変更後	種類	○	○	○	臨界管理	○	○	○	核的制限値	mm	mm	mm	高さ	mm	mm	mm	厚さ	mm	mm	mm	主要材料	○	○	○	個数	○	○	○	系統名(ライン名)	○	○	○	設置床	○	○	○	溢水防護上の区画番号	○	○	○	溢水防護上の配慮が必要な高さ	○	○	○	化学薬品防護上の区画番号	○	○	○	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	○	○	○	機種で統一して記載する仕様項目	構造分類に係る仕様項目	臨界管理に係る追加仕様項目	<p>容器に係る要求事項は1-1と同様</p>	<table border="1"> <tr><th>名称</th><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>種類</th><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>高さ</th><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>厚さ</th><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>系統名(ライン名)</th><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>設置床</th><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>溢水防護上の区画番号</th><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>溢水防護上の配慮が必要な高さ</th><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>化学薬品防護上の区画番号</th><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>化学薬品防護上の配慮が必要な高さ</th><td>○</td><td>○</td></tr> </table>	名称	○	○	種類	○	○	高さ	○	○	厚さ	○	○	系統名(ライン名)	○	○	設置床	○	○	溢水防護上の区画番号	○	○	溢水防護上の配慮が必要な高さ	○	○	化学薬品防護上の区画番号	○	○	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	○	○	<table border="1"> <tr><th>名称</th><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>種類</th><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>高さ</th><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>厚さ</th><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>系統名(ライン名)</th><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>設置床</th><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>溢水防護上の区画番号</th><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>溢水防護上の配慮が必要な高さ</th><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>化学薬品防護上の区画番号</th><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><th>化学薬品防護上の配慮が必要な高さ</th><td>○</td><td>○</td></tr> </table> <p>注記 *1: 浸水防護施設のうち内郭浸水防護設備と兼用する。 *2: 浸水防護施設のうち内郭浸水防護設備に使用する場合は事項を記載。 *3: EL○○mからの高さ。 *4: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「 」と記載。 *5: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「 」と記載。 *6: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「 cm以上」と記載。</p>	名称	○	○	種類	○	○	高さ	○	○	厚さ	○	○	系統名(ライン名)	○	○	設置床	○	○	溢水防護上の区画番号	○	○	溢水防護上の配慮が必要な高さ	○	○	化学薬品防護上の区画番号	○	○	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	○	○	<p>発電炉の要目表なし 構造としては堰に近い ため部分的に参照</p> <p>床、壁の塗装については基本設計方針、添付書類で展開する。</p>
			機種の統一	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																											
			構造分類	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																											
			臨界管理	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																											
			主要材料	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																											
			個数	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																											
			寸法	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																											
			寸法	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																											
			寸法	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																											
			寸法	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																											
寸法	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																														
名称	漏えい液受皿 (00-00)	変更前	変更後																																																																																																																																																																																																	
種類	○	○	○																																																																																																																																																																																																	
臨界管理	○	○	○																																																																																																																																																																																																	
核的制限値	mm	mm	mm																																																																																																																																																																																																	
高さ	mm	mm	mm																																																																																																																																																																																																	
厚さ	mm	mm	mm																																																																																																																																																																																																	
主要材料	○	○	○																																																																																																																																																																																																	
個数	○	○	○																																																																																																																																																																																																	
系統名(ライン名)	○	○	○																																																																																																																																																																																																	
設置床	○	○	○																																																																																																																																																																																																	
溢水防護上の区画番号	○	○	○																																																																																																																																																																																																	
溢水防護上の配慮が必要な高さ	○	○	○																																																																																																																																																																																																	
化学薬品防護上の区画番号	○	○	○																																																																																																																																																																																																	
化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	○	○	○																																																																																																																																																																																																	
機種で統一して記載する仕様項目																																																																																																																																																																																																				
構造分類に係る仕様項目																																																																																																																																																																																																				
臨界管理に係る追加仕様項目																																																																																																																																																																																																				
名称	○	○																																																																																																																																																																																																		
種類	○	○																																																																																																																																																																																																		
高さ	○	○																																																																																																																																																																																																		
厚さ	○	○																																																																																																																																																																																																		
系統名(ライン名)	○	○																																																																																																																																																																																																		
設置床	○	○																																																																																																																																																																																																		
溢水防護上の区画番号	○	○																																																																																																																																																																																																		
溢水防護上の配慮が必要な高さ	○	○																																																																																																																																																																																																		
化学薬品防護上の区画番号	○	○																																																																																																																																																																																																		
化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	○	○																																																																																																																																																																																																		
名称	○	○																																																																																																																																																																																																		
種類	○	○																																																																																																																																																																																																		
高さ	○	○																																																																																																																																																																																																		
厚さ	○	○																																																																																																																																																																																																		
系統名(ライン名)	○	○																																																																																																																																																																																																		
設置床	○	○																																																																																																																																																																																																		
溢水防護上の区画番号	○	○																																																																																																																																																																																																		
溢水防護上の配慮が必要な高さ	○	○																																																																																																																																																																																																		
化学薬品防護上の区画番号	○	○																																																																																																																																																																																																		
化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	○	○																																																																																																																																																																																																		
主要設備リストで展開。	<table border="1"> <tr><th>名称</th><td>放射線配管分岐第1セル 再処理第5種容器</td></tr> <tr><th>名称</th><td>放射線配管分岐第2セル 再処理第5種容器</td></tr> <tr><th>名称</th><td>加水分配槽セル 再処理第5種容器</td></tr> <tr><th>名称</th><td>アルトニウム供給 再処理第5種容器</td></tr> <tr><th>名称</th><td>アルトニウム一時貯 留再処理第5種容器</td></tr> <tr><th>名称</th><td>アルトニウム積貯塔セル 再処理第5種容器</td></tr> </table>	名称	放射線配管分岐第1セル 再処理第5種容器	名称	放射線配管分岐第2セル 再処理第5種容器	名称	加水分配槽セル 再処理第5種容器	名称	アルトニウム供給 再処理第5種容器	名称	アルトニウム一時貯 留再処理第5種容器	名称	アルトニウム積貯塔セル 再処理第5種容器	<p>再処理第5種容器</p>	<p>再処理第5種容器</p>	<p>再処理第5種容器</p>	<p>再処理第5種容器</p>	<p>再処理第5種容器</p>	<p>再処理第5種容器</p>	<p>再処理第5種容器</p>	<p>再処理第5種容器</p>																																																																																																																																																																															
		名称	放射線配管分岐第1セル 再処理第5種容器																																																																																																																																																																																																	
		名称	放射線配管分岐第2セル 再処理第5種容器																																																																																																																																																																																																	
		名称	加水分配槽セル 再処理第5種容器																																																																																																																																																																																																	
		名称	アルトニウム供給 再処理第5種容器																																																																																																																																																																																																	
		名称	アルトニウム一時貯 留再処理第5種容器																																																																																																																																																																																																	
		名称	アルトニウム積貯塔セル 再処理第5種容器																																																																																																																																																																																																	

仕様表記載例 2-1 【機種：運搬・製品容器】

[可搬] [構造分類：円筒型] [付属構造：臨界管理]

既認可の仕様表		仕様表案		要求事項の整理		発電炉類似設備要目表		備考																																																																																																																																																																
<p>工程情報を示す項目であり、設備仕様と直接関係しない項目であるため、仕様表に記載しない。</p> <p>主要設備リストで展開</p> <table border="1"> <tr><td>名称</td><td>貯蔵バスケット</td></tr> <tr><td>機種</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>機種の種類</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>臨界管理</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>核的制限値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>中性子吸収材最小厚み(カドミウム)</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>面間最小距離</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>ウラン酸化物貯蔵容器</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>耐震クラス</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>容量</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>最高使用温度</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>幅</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>全高</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>内筒内径</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>内筒厚さ</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>内筒間距離</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>中性子吸収材厚さ(カドミウム)</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>中性子減速材厚さ(カドミウム)</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>バスケット本体</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>貯蔵容器固定板</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>外筒</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>内筒</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>中性子吸収材</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>中性子減速材</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>個数</td><td>〇〇</td></tr> </table> <p>特記事項</p> <p>基本設計方針で展開</p> <p>注記 1) : JIS K 6922-1 の規定による。</p> <p>添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除</p>		名称	貯蔵バスケット	機種	〇〇	機種の種類	〇〇	臨界管理	〇〇	核的制限値	〇〇	中性子吸収材最小厚み(カドミウム)	〇〇	面間最小距離	〇〇	ウラン酸化物貯蔵容器	〇〇	耐震クラス	〇〇	容量	〇〇	最高使用温度	〇〇	幅	〇〇	全高	〇〇	内筒内径	〇〇	内筒厚さ	〇〇	内筒間距離	〇〇	中性子吸収材厚さ(カドミウム)	〇〇	中性子減速材厚さ(カドミウム)	〇〇	バスケット本体	〇〇	貯蔵容器固定板	〇〇	外筒	〇〇	内筒	〇〇	中性子吸収材	〇〇	中性子減速材	〇〇	個数	〇〇	<table border="1"> <tr><td>名称</td><td>貯蔵バスケット</td></tr> <tr><td>種類</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>中性子吸収材最小厚み(カドミウム)</td><td>mm</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>面間最小距離</td><td>mm</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>容量</td><td>体/個</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>最高使用温度</td><td>℃</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>幅</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td></tr> <tr><td>全高</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td></tr> <tr><td>内筒内径</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td></tr> <tr><td>内筒厚さ</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td></tr> <tr><td>内筒間距離</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td></tr> <tr><td>中性子吸収材厚さ(カドミウム)</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td></tr> <tr><td>中性子減速材厚さ(カドミウム)</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td></tr> <tr><td>バスケット本体</td><td>mm</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>貯蔵容器固定板</td><td>mm</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>外筒</td><td>mm</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>内筒</td><td>mm</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>中性子吸収材</td><td>mm</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>中性子減速材</td><td>mm</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>個数</td><td>個</td><td>〇〇</td></tr> </table> <p>注記 *1: 公称値を示す。 *2: 記載の適正化。既設工認申請書には「本体材料」と記載。</p> <table border="1"> <tr><td>機種で統一して記載する仕様項目</td></tr> <tr><td>構造分類に係る仕様項目</td></tr> <tr><td>臨界管理に係る追加仕様項目</td></tr> </table>		名称	貯蔵バスケット	種類	〇〇	中性子吸収材最小厚み(カドミウム)	mm	〇〇	面間最小距離	mm	〇〇	容量	体/個	〇〇	最高使用温度	℃	〇〇	幅	mm	〇〇 ^{*1}	全高	mm	〇〇 ^{*1}	内筒内径	mm	〇〇 ^{*1}	内筒厚さ	mm	〇〇 ^{*1}	内筒間距離	mm	〇〇 ^{*1}	中性子吸収材厚さ(カドミウム)	mm	〇〇 ^{*1}	中性子減速材厚さ(カドミウム)	mm	〇〇 ^{*1}	バスケット本体	mm	〇〇	貯蔵容器固定板	mm	〇〇	外筒	mm	〇〇	内筒	mm	〇〇	中性子吸収材	mm	〇〇	中性子減速材	mm	〇〇	個数	個	〇〇	機種で統一して記載する仕様項目	構造分類に係る仕様項目	臨界管理に係る追加仕様項目	<table border="1"> <tr><td>技術基準</td><td>機能要求②</td><td>主な仕様(詳細設計)</td></tr> <tr><td>第四条 核燃料物質の臨界防止</td><td>単一ユニットの臨界安全設計に当たり、これらの管理に対して適切な臨界管理を行う体系の未臨界確保のために設定する値(以下「核的制限値」という。)を設定する。 なお、フルトリウム溶液を内包する機器は、原則として液体の核燃料物質を内包する機器において、濃度に制限値を設定する必要があるように設計する形状寸法管理(以下「全濃度安全形状寸法管理」という。)及び必要に応じて中性子吸収材を併用した設計とする。 複数ユニットの臨界安全設計に当たり、単一ユニット相互間の中性子相互干渉を考慮し、直接的に計量可能な単一ユニット相互間の配置、間接的に管理可能な単一ユニット相互間の配置、中性子吸収材の配置及び形状寸法について適切な核的制限値を設定する。 核的制限値の設定に当たっては、単一ユニット相互間の中性子の吸収効果、減速条件及び反射条件に関し、核燃料物質移動時の核燃料物質の落下、転倒及び接近の可能性も踏まえ、それぞれの想定される変動の範囲において、反応度が最も大きくなる場合を仮定し、計算コードの計算誤差を含めて、十分な安全余裕を見込んで設定する。 複数ユニットの核的制限値の維持については、十分な構造強度をもつ構造材を使用する等適切な対策を</td><td>・核的制限値 ・主要寸法 ・主要材料</td></tr> <tr><td>第十七条 第三十七条 材料及び構造</td><td>a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。 b. 常設重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。</td><td>・核的制限値 ・主要寸法 ・主要材料</td></tr> <tr><td>第十九条 使用済燃料の貯蔵施設等</td><td>a. 容器等は、最高使用圧力、最高使用温度及び機械的荷重が負荷されている状態(以下「設計上定める条件」という。)において、全体的な変形を弾性域に抑える設計とする。 (3) 座屈による破壊の防止 容器等は、設計上定める条件において、座屈が生じない設計とする。 燃料貯蔵プールは、BWR使用済燃料集合体1,500 t・UPr(うち、使用済燃料集合体平均濃縮度が2.0wt%を超えるもの 11.8 t・UPr)、PWR使用済燃料集合体1,500 t・UPr(うち、使用済燃料集合体平均濃縮度が2.0wt%を超えるもの 27.6 t・UPr)、合計貯蔵容量3,000 t・UPrを有し、最大再処理能力800 t・UPr/yでの再処理に対して受け入れた燃料を3年間以上貯蔵することができる設計とする。 補給水設備は、補給水槽に貯蔵した水を燃料取出し準備設備、プール水浄化系、燃料貯蔵プール・ピット等、燃焼度計測装置、液体廃棄物の廃棄施設(低レベル廃液処理設備の一部)及び固体廃棄物の廃棄施設(廃樹脂貯蔵系の一部)にそれぞれの要求に応じて補給でき、プール水位を所定のレベルに保つことにより、プール水による崩壊熱の除去機能及び遮蔽機能が確保できる設計とする。</td><td>・核的制限値 ・主要寸法 ・主要材料 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料 ・容量</td></tr> <tr><td>許可整合</td><td></td><td>・容量</td></tr> </table>		技術基準	機能要求②	主な仕様(詳細設計)	第四条 核燃料物質の臨界防止	単一ユニットの臨界安全設計に当たり、これらの管理に対して適切な臨界管理を行う体系の未臨界確保のために設定する値(以下「核的制限値」という。)を設定する。 なお、フルトリウム溶液を内包する機器は、原則として液体の核燃料物質を内包する機器において、濃度に制限値を設定する必要があるように設計する形状寸法管理(以下「全濃度安全形状寸法管理」という。)及び必要に応じて中性子吸収材を併用した設計とする。 複数ユニットの臨界安全設計に当たり、単一ユニット相互間の中性子相互干渉を考慮し、直接的に計量可能な単一ユニット相互間の配置、間接的に管理可能な単一ユニット相互間の配置、中性子吸収材の配置及び形状寸法について適切な核的制限値を設定する。 核的制限値の設定に当たっては、単一ユニット相互間の中性子の吸収効果、減速条件及び反射条件に関し、核燃料物質移動時の核燃料物質の落下、転倒及び接近の可能性も踏まえ、それぞれの想定される変動の範囲において、反応度が最も大きくなる場合を仮定し、計算コードの計算誤差を含めて、十分な安全余裕を見込んで設定する。 複数ユニットの核的制限値の維持については、十分な構造強度をもつ構造材を使用する等適切な対策を	・核的制限値 ・主要寸法 ・主要材料	第十七条 第三十七条 材料及び構造	a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。 b. 常設重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。	・核的制限値 ・主要寸法 ・主要材料	第十九条 使用済燃料の貯蔵施設等	a. 容器等は、最高使用圧力、最高使用温度及び機械的荷重が負荷されている状態(以下「設計上定める条件」という。)において、全体的な変形を弾性域に抑える設計とする。 (3) 座屈による破壊の防止 容器等は、設計上定める条件において、座屈が生じない設計とする。 燃料貯蔵プールは、BWR使用済燃料集合体1,500 t・UPr(うち、使用済燃料集合体平均濃縮度が2.0wt%を超えるもの 11.8 t・UPr)、PWR使用済燃料集合体1,500 t・UPr(うち、使用済燃料集合体平均濃縮度が2.0wt%を超えるもの 27.6 t・UPr)、合計貯蔵容量3,000 t・UPrを有し、最大再処理能力800 t・UPr/yでの再処理に対して受け入れた燃料を3年間以上貯蔵することができる設計とする。 補給水設備は、補給水槽に貯蔵した水を燃料取出し準備設備、プール水浄化系、燃料貯蔵プール・ピット等、燃焼度計測装置、液体廃棄物の廃棄施設(低レベル廃液処理設備の一部)及び固体廃棄物の廃棄施設(廃樹脂貯蔵系の一部)にそれぞれの要求に応じて補給でき、プール水位を所定のレベルに保つことにより、プール水による崩壊熱の除去機能及び遮蔽機能が確保できる設計とする。	・核的制限値 ・主要寸法 ・主要材料 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料 ・容量	許可整合		・容量	<table border="1"> <tr><td>名称</td><td>旧炉内構造物運搬用容器</td></tr> <tr><td>種類</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>最高使用温度</td><td>℃</td></tr> <tr><td>全長</td><td>mm</td></tr> <tr><td>胴内径</td><td>mm</td></tr> <tr><td>胴板厚さ</td><td>mm</td></tr> <tr><td>上ふた板厚さ</td><td>mm</td></tr> <tr><td>下ふた板厚さ</td><td>mm</td></tr> <tr><td>材料</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>個数</td><td>〇</td></tr> <tr><td>種類</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>冷却方法</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>胴板厚さ</td><td>mm</td></tr> <tr><td>上ふた板厚さ</td><td>mm</td></tr> <tr><td>吊りふた板厚さ</td><td>mm</td></tr> <tr><td>下ふた板厚さ</td><td>mm</td></tr> <tr><td>材料</td><td>〇〇</td></tr> </table> <p>(注1) 公称値</p> <p>う。また、全長はこの二次蓋(厚さ 〇〇 mm、材料: 〇〇)を含む。</p> <p>*3: 公称値を示す。 *4: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚さ」と記載。 *5: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「〇〇」と記載。記載内容は、平成 年 月 日付け平成 原第 号にて認可された工事計画の添付図面「第2図 使用済燃料乾式貯蔵容器(タイプII)(全体)」による。 *6: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「プレート厚さ」と記載。 *7: 胴と一体構造である。 *8: 構造強度部材であり、遮蔽機能も有する部材である。 *9: サポートシリンダを示す。 *10: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「中性子遮へい体」と記載。 *11: トラネオン周辺部の最小厚さは 〇〇 mmとなる。 *12: 別紙 〇〇 規格表参照。 *13: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「底部中性子遮へい体カバー」と記載。 *14: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「一次蓋中性子遮へい体カバー」と記載。 *15: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「密封監視機能付縦置円筒型」と記載。</p>		名称	旧炉内構造物運搬用容器	種類	〇〇	最高使用温度	℃	全長	mm	胴内径	mm	胴板厚さ	mm	上ふた板厚さ	mm	下ふた板厚さ	mm	材料	〇〇	個数	〇	種類	〇〇	冷却方法	〇〇	胴板厚さ	mm	上ふた板厚さ	mm	吊りふた板厚さ	mm	下ふた板厚さ	mm	材料	〇〇	
名称	貯蔵バスケット																																																																																																																																																																							
機種	〇〇																																																																																																																																																																							
機種の種類	〇〇																																																																																																																																																																							
臨界管理	〇〇																																																																																																																																																																							
核的制限値	〇〇																																																																																																																																																																							
中性子吸収材最小厚み(カドミウム)	〇〇																																																																																																																																																																							
面間最小距離	〇〇																																																																																																																																																																							
ウラン酸化物貯蔵容器	〇〇																																																																																																																																																																							
耐震クラス	〇〇																																																																																																																																																																							
容量	〇〇																																																																																																																																																																							
最高使用温度	〇〇																																																																																																																																																																							
幅	〇〇																																																																																																																																																																							
全高	〇〇																																																																																																																																																																							
内筒内径	〇〇																																																																																																																																																																							
内筒厚さ	〇〇																																																																																																																																																																							
内筒間距離	〇〇																																																																																																																																																																							
中性子吸収材厚さ(カドミウム)	〇〇																																																																																																																																																																							
中性子減速材厚さ(カドミウム)	〇〇																																																																																																																																																																							
バスケット本体	〇〇																																																																																																																																																																							
貯蔵容器固定板	〇〇																																																																																																																																																																							
外筒	〇〇																																																																																																																																																																							
内筒	〇〇																																																																																																																																																																							
中性子吸収材	〇〇																																																																																																																																																																							
中性子減速材	〇〇																																																																																																																																																																							
個数	〇〇																																																																																																																																																																							
名称	貯蔵バスケット																																																																																																																																																																							
種類	〇〇																																																																																																																																																																							
中性子吸収材最小厚み(カドミウム)	mm	〇〇																																																																																																																																																																						
面間最小距離	mm	〇〇																																																																																																																																																																						
容量	体/個	〇〇																																																																																																																																																																						
最高使用温度	℃	〇〇																																																																																																																																																																						
幅	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																						
全高	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																						
内筒内径	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																						
内筒厚さ	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																						
内筒間距離	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																						
中性子吸収材厚さ(カドミウム)	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																						
中性子減速材厚さ(カドミウム)	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																						
バスケット本体	mm	〇〇																																																																																																																																																																						
貯蔵容器固定板	mm	〇〇																																																																																																																																																																						
外筒	mm	〇〇																																																																																																																																																																						
内筒	mm	〇〇																																																																																																																																																																						
中性子吸収材	mm	〇〇																																																																																																																																																																						
中性子減速材	mm	〇〇																																																																																																																																																																						
個数	個	〇〇																																																																																																																																																																						
機種で統一して記載する仕様項目																																																																																																																																																																								
構造分類に係る仕様項目																																																																																																																																																																								
臨界管理に係る追加仕様項目																																																																																																																																																																								
技術基準	機能要求②	主な仕様(詳細設計)																																																																																																																																																																						
第四条 核燃料物質の臨界防止	単一ユニットの臨界安全設計に当たり、これらの管理に対して適切な臨界管理を行う体系の未臨界確保のために設定する値(以下「核的制限値」という。)を設定する。 なお、フルトリウム溶液を内包する機器は、原則として液体の核燃料物質を内包する機器において、濃度に制限値を設定する必要があるように設計する形状寸法管理(以下「全濃度安全形状寸法管理」という。)及び必要に応じて中性子吸収材を併用した設計とする。 複数ユニットの臨界安全設計に当たり、単一ユニット相互間の中性子相互干渉を考慮し、直接的に計量可能な単一ユニット相互間の配置、間接的に管理可能な単一ユニット相互間の配置、中性子吸収材の配置及び形状寸法について適切な核的制限値を設定する。 核的制限値の設定に当たっては、単一ユニット相互間の中性子の吸収効果、減速条件及び反射条件に関し、核燃料物質移動時の核燃料物質の落下、転倒及び接近の可能性も踏まえ、それぞれの想定される変動の範囲において、反応度が最も大きくなる場合を仮定し、計算コードの計算誤差を含めて、十分な安全余裕を見込んで設定する。 複数ユニットの核的制限値の維持については、十分な構造強度をもつ構造材を使用する等適切な対策を	・核的制限値 ・主要寸法 ・主要材料																																																																																																																																																																						
第十七条 第三十七条 材料及び構造	a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。 b. 常設重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。	・核的制限値 ・主要寸法 ・主要材料																																																																																																																																																																						
第十九条 使用済燃料の貯蔵施設等	a. 容器等は、最高使用圧力、最高使用温度及び機械的荷重が負荷されている状態(以下「設計上定める条件」という。)において、全体的な変形を弾性域に抑える設計とする。 (3) 座屈による破壊の防止 容器等は、設計上定める条件において、座屈が生じない設計とする。 燃料貯蔵プールは、BWR使用済燃料集合体1,500 t・UPr(うち、使用済燃料集合体平均濃縮度が2.0wt%を超えるもの 11.8 t・UPr)、PWR使用済燃料集合体1,500 t・UPr(うち、使用済燃料集合体平均濃縮度が2.0wt%を超えるもの 27.6 t・UPr)、合計貯蔵容量3,000 t・UPrを有し、最大再処理能力800 t・UPr/yでの再処理に対して受け入れた燃料を3年間以上貯蔵することができる設計とする。 補給水設備は、補給水槽に貯蔵した水を燃料取出し準備設備、プール水浄化系、燃料貯蔵プール・ピット等、燃焼度計測装置、液体廃棄物の廃棄施設(低レベル廃液処理設備の一部)及び固体廃棄物の廃棄施設(廃樹脂貯蔵系の一部)にそれぞれの要求に応じて補給でき、プール水位を所定のレベルに保つことにより、プール水による崩壊熱の除去機能及び遮蔽機能が確保できる設計とする。	・核的制限値 ・主要寸法 ・主要材料 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料 ・容量																																																																																																																																																																						
許可整合		・容量																																																																																																																																																																						
名称	旧炉内構造物運搬用容器																																																																																																																																																																							
種類	〇〇																																																																																																																																																																							
最高使用温度	℃																																																																																																																																																																							
全長	mm																																																																																																																																																																							
胴内径	mm																																																																																																																																																																							
胴板厚さ	mm																																																																																																																																																																							
上ふた板厚さ	mm																																																																																																																																																																							
下ふた板厚さ	mm																																																																																																																																																																							
材料	〇〇																																																																																																																																																																							
個数	〇																																																																																																																																																																							
種類	〇〇																																																																																																																																																																							
冷却方法	〇〇																																																																																																																																																																							
胴板厚さ	mm																																																																																																																																																																							
上ふた板厚さ	mm																																																																																																																																																																							
吊りふた板厚さ	mm																																																																																																																																																																							
下ふた板厚さ	mm																																																																																																																																																																							
材料	〇〇																																																																																																																																																																							

仕様表記載例 2-2 【機種：運搬・製品容器】

[可搬] [構造分類：箱・ラック型] [付属構造：遮蔽設備]

既認可の仕様表		仕様表案		要求事項の整理		発電炉類似設備要目表		備考																																																																																																									
<p>第1-5表 機器仕様</p> <p>許可番号(日付) 平成17・04・20原第18号(平成22年5月13日)</p> <p>主要な設備及び機器の種類 貯蔵施設 ペレット一時保管設備 ペレット一時保管装置</p> <p>許可との対応 付属設備</p> <p>設備・機器名称 ○○○パレット ①○○○パレット ②○○○パレット</p> <p>設置場所 燃料加工建屋地下0階 ○○室</p> <p>変更内容 新設</p> <p>数量 ①○○○パレット-1:○○基 ②○○○パレット-2:○○基</p>		<p>●.ペレット一時保管貯蔵設備 (●) 運搬・製品容器</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">名称*2</td> <td>○○○</td> <td>○○○</td> <td>○○○</td> <td>○○○</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2">パレット-1</td> <td colspan="2">パレット-2</td> </tr> <tr> <td colspan="2">種類*3</td> <td>—</td> <td>○○式</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td colspan="2">容量</td> <td>—</td> <td>○○</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td colspan="2">最高使用温度</td> <td>—</td> <td>○○</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要寸法*5</td> <td>たて*6</td> <td>mm</td> <td>○○*1</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>横*7</td> <td>mm</td> <td>○○*1</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>○○*1</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td colspan="2">主要材料*8</td> <td>—</td> <td>○○</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td colspan="2">個数*9</td> <td>—</td> <td>○○</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">遮蔽体</td> <td rowspan="4">高さ</td> <td>側面</td> <td>mm</td> <td>○○</td> <td>○○</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>前面</td> <td>mm</td> <td>○○</td> <td>○○</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>後面</td> <td>mm</td> <td>○○</td> <td>○○</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>底面</td> <td>mm</td> <td>○○</td> <td>○○</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>—</td> <td>○○</td> <td>(密度 ○○</td> <td>○○</td> <td>(密度 ○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(○ ○○</td> <td>(○○) ○○</td> <td>kg/m³以上)</td> <td>kg/m³以上)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				変更前		変更後		名称*2		○○○	○○○	○○○	○○○			パレット-1		パレット-2		種類*3		—	○○式	—	—	容量		—	○○	—	—	最高使用温度		—	○○	—	—	主要寸法*5	たて*6	mm	○○*1	—	—	横*7	mm	○○*1	—	—	高さ	mm	○○*1	—	—	主要材料*8		—	○○	—	—	個数*9		—	○○	○○	○○	遮蔽体	高さ	側面	mm	○○	○○	○○	○○	前面	mm	○○	○○	○○	○○	後面	mm	○○	○○	○○	○○	底面	mm	○○	○○	○○	○○	主要材料	—	○○	(密度 ○○	○○	(密度 ○○	○○			(○ ○○	(○○) ○○	kg/m ³ 以上)	kg/m ³ 以上)		<p>技術基準</p> <p>機能要求② 様式-6 様式-7</p> <p>主な仕様 (詳細設計)</p> <p>第四条 臨界</p> <p>(b) 燃料棒、貯蔵マガジン及び組立マガジンを取り扱う工程では、形状寸法管理を基本とし、単一ユニットは設備・機器に設定する。</p> <p>(c) 混合酸化物貯蔵容器及び燃料集合体を取り扱う工程では、体数管理とし、単一ユニットは設備・機器に設定する。</p> <p>a. 複数ユニットの設定 単一ユニット相互間、十分な厚さのコンクリート等の設置又は単一ユニット相互間の距離を確保することにより、核的に安全な配置とする。</p> <p>a. 形状寸法管理 形状寸法管理は、核燃料物質を取り扱う設備・機器の構造又は機構により核的制限値を維持する設計とする。形状寸法管理のうち、混合酸化物貯蔵容器及び燃料集合体を体数で管理する単一ユニットは、体数管理に分類する。また、核燃料物質を取り扱う容器は、通常の取扱条件において容易に変形しない構造材を用いる設計とする。</p> <p>(a) 混合酸化物貯蔵容器及び燃料集合体は、工程内の取扱いにおいて核燃料物質質量に変化がない。このため、混合酸化物貯蔵容器及び燃料集合体を体数で管理する単一ユニットにおいては、構成する設備・機器が構造的に核的制限値以下の体数でなければ取り扱えない設計とする。</p> <p>第二十二条 遮蔽</p> <p>放射線業務従事者の立入頻度及び立入時間を考慮し、遮蔽設計の基準となる線量率を設定するとともに、管理区域を線量率に応じて適切に区分し、区分ごとの基準線量率を満足するよう遮蔽設備を設置する設計とする。</p> <p>遮蔽設備に開口部又は貫通部がある場合で、開口部又は貫通部により遮蔽設計の基準となる線量率を超えるおそれのある場合には、以下に示すような放射線の漏えいを防止するための措置を講じ、遮蔽設計の基準となる線量率を満足する設計とする。</p> <p>a. 建屋壁遮蔽に開口部を設ける場合、人が容易に接近できないような場所（通路の行き止まり部、高所等）へ設置する。</p> <p>b. 遮蔽設備を貫通する搬送路、ダクト、配管については、開口部及び貫通部が線源を直接見通さないような場所に設置する。</p> <p>c. 遮蔽設備の開口部及び貫通部には、遮蔽扉、遮蔽蓋又は補助遮蔽を設置する措置を講ずる。</p>		<p>該当する施設なし</p>		<p>備考</p>	
		変更前		変更後																																																																																																													
名称*2		○○○	○○○	○○○	○○○																																																																																																												
		パレット-1		パレット-2																																																																																																													
種類*3		—	○○式	—	—																																																																																																												
容量		—	○○	—	—																																																																																																												
最高使用温度		—	○○	—	—																																																																																																												
主要寸法*5	たて*6	mm	○○*1	—	—																																																																																																												
	横*7	mm	○○*1	—	—																																																																																																												
	高さ	mm	○○*1	—	—																																																																																																												
主要材料*8		—	○○	—	—																																																																																																												
個数*9		—	○○	○○	○○																																																																																																												
遮蔽体	高さ	側面	mm	○○	○○	○○	○○																																																																																																										
		前面	mm	○○	○○	○○	○○																																																																																																										
		後面	mm	○○	○○	○○	○○																																																																																																										
		底面	mm	○○	○○	○○	○○																																																																																																										
	主要材料	—	○○	(密度 ○○	○○	(密度 ○○	○○																																																																																																										
		(○ ○○	(○○) ○○	kg/m ³ 以上)	kg/m ³ 以上)																																																																																																												
<p>一般仕様</p> <p>形式 —</p> <p>主要な構成材 ○○</p> <p>寸法(単位:mm) ○○○パレット-1, ○○○パレット-2 幅 :○○ 奥行:○○ 高さ:○○</p> <p>その他の構成機器 —</p> <p>その他の性能 —</p> <p>核燃料物質の状態 ペレット</p> <p>核燃料物質の臨界防止 —</p> <p>火災等による損傷の防止 —</p> <p>耐震性 —</p> <p>材料及び構造 —</p> <p>閉じ込めの機能 —</p> <p>しゃへい</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">○○パレット-1</th> </tr> <tr> <th>部位</th> <th>主要材料</th> <th>厚さ</th> <th>密度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">側面</td> <td>○○○</td> <td>○○以上</td> <td>○○以上</td> </tr> <tr> <td>○○○</td> <td>○○以上</td> <td>○○以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">前面</td> <td>○○○</td> <td>○○以上</td> <td>○○以上</td> </tr> <tr> <td>○○○</td> <td>○○以上</td> <td>○○以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">後面</td> <td>○○○</td> <td>○○以上</td> <td>○○以上</td> </tr> <tr> <td>○○○</td> <td>○○以上</td> <td>○○以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">底面</td> <td>○○○</td> <td>○○以上</td> <td>○○以上</td> </tr> <tr> <td>○○○</td> <td>○○以上</td> <td>○○以上</td> </tr> <tr> <th colspan="4">○○パレット-2</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">側面</td> <td>○○○</td> <td>○○以上</td> <td>○○以上</td> </tr> <tr> <td>○○○</td> <td>○○以上</td> <td>○○以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">前面</td> <td>○○○</td> <td>○○以上</td> <td>○○以上</td> </tr> <tr> <td>○○○</td> <td>○○以上</td> <td>○○以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">後面</td> <td>○○○</td> <td>○○以上</td> <td>○○以上</td> </tr> <tr> <td>○○○</td> <td>○○以上</td> <td>○○以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">底面</td> <td>○○○</td> <td>○○以上</td> <td>○○以上</td> </tr> <tr> <td>○○○</td> <td>○○以上</td> <td>○○以上</td> </tr> </tbody> </table>		○○パレット-1				部位	主要材料	厚さ	密度	側面	○○○	○○以上	○○以上	○○○	○○以上	○○以上	前面	○○○	○○以上	○○以上	○○○	○○以上	○○以上	後面	○○○	○○以上	○○以上	○○○	○○以上	○○以上	底面	○○○	○○以上	○○以上	○○○	○○以上	○○以上	○○パレット-2				側面	○○○	○○以上	○○以上	○○○	○○以上	○○以上	前面	○○○	○○以上	○○以上	○○○	○○以上	○○以上	後面	○○○	○○以上	○○以上	○○○	○○以上	○○以上	底面	○○○	○○以上	○○以上	○○○	○○以上	○○以上	<p>注記</p> <p>*1:公称値を示す。</p> <p>*2:記載の適正化。既設工認では「設備・機器名称」と記載。</p> <p>*3:記載の適正化。既設工認では「形式」と記載。</p> <p>*4:記載の適正化。既設工認では「核燃料物質の臨界防止」と記載。</p> <p>*5:記載の適正化。既設工認では「寸法(単位:mm)」と記載。</p> <p>*6:記載の適正化。既設工認では「奥行」と記載。</p> <p>*7:記載の適正化。既設工認では「幅」と記載。</p> <p>*8:記載の適正化。既設工認では「主要な構成材」と記載。</p> <p>*9:記載の適正化。既設工認では「数量」と記載。</p> <table border="1"> <tr> <td style="background-color: #e0e0e0;"> </td> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #d0d0d0;"> </td> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #c0c0c0;"> </td> <td>遮蔽設備に係る追加仕様項目</td> </tr> </table>			機種で統一して記載する仕様項目		構造分類に係る仕様項目		遮蔽設備に係る追加仕様項目	<p>工程情報であり設計条件ではないため削除する。</p>		<p>遮蔽体 ・主要材料 ・厚さ</p>																																	
○○パレット-1																																																																																																																	
部位	主要材料	厚さ	密度																																																																																																														
側面	○○○	○○以上	○○以上																																																																																																														
	○○○	○○以上	○○以上																																																																																																														
前面	○○○	○○以上	○○以上																																																																																																														
	○○○	○○以上	○○以上																																																																																																														
後面	○○○	○○以上	○○以上																																																																																																														
	○○○	○○以上	○○以上																																																																																																														
底面	○○○	○○以上	○○以上																																																																																																														
	○○○	○○以上	○○以上																																																																																																														
○○パレット-2																																																																																																																	
側面	○○○	○○以上	○○以上																																																																																																														
	○○○	○○以上	○○以上																																																																																																														
前面	○○○	○○以上	○○以上																																																																																																														
	○○○	○○以上	○○以上																																																																																																														
後面	○○○	○○以上	○○以上																																																																																																														
	○○○	○○以上	○○以上																																																																																																														
底面	○○○	○○以上	○○以上																																																																																																														
	○○○	○○以上	○○以上																																																																																																														
	機種で統一して記載する仕様項目																																																																																																																
	構造分類に係る仕様項目																																																																																																																
	遮蔽設備に係る追加仕様項目																																																																																																																

仕様表記載例 2-1 【機種：運搬・製品容器】
 [可搬] [構造分類：箱・ラック型] [付属構造：臨界管理]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考						
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="92 390 290 464">その他事業許可で求める仕様</td> <td data-bbox="290 390 685 464">収納パレットで使用するポリエチレンは、ステンレス鋼製のカバーで覆い極力露出しない構造とする。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="92 464 290 516">添付図</td> <td data-bbox="290 464 685 516">第2.2-7図 ○○○パレット構造図 第2.2-7図 ○○○パレット構造図</td> </tr> <tr> <td data-bbox="92 516 290 548">特記事項</td> <td data-bbox="290 516 685 548">-</td> </tr> </table>	その他事業許可で求める仕様	収納パレットで使用するポリエチレンは、ステンレス鋼製のカバーで覆い極力露出しない構造とする。	添付図	第2.2-7図 ○○○パレット構造図 第2.2-7図 ○○○パレット構造図	特記事項	-	<p>火災の基本方針/添付書類で展開</p>		<p>該当する施設なし</p>	
その他事業許可で求める仕様	収納パレットで使用するポリエチレンは、ステンレス鋼製のカバーで覆い極力露出しない構造とする。									
添付図	第2.2-7図 ○○○パレット構造図 第2.2-7図 ○○○パレット構造図									
特記事項	-									
<p>注1 技術基準に対する仕様の補足説明</p> <p>(1) 核燃料物質の臨界防止</p> <p>収納パレット-1には、第2.-5表に示す焼結ボートを収納する。収納パレット-2には、焼結ボート又は第4.-5表に示すパレット保管容器を収納する。</p> <p>注2 技術基準に対する仕様の補足説明</p> <p>(1) シャヘイ</p> <p>本シャヘイ体は、「イ.建物」の添付図「第1.2-1図 その他のシャヘイ扉の構造図」に示されるシャヘイ扉<D9>、<D10>及び<D11>のシャヘイ評価で考慮する補助シャヘイである。本機器仕様では、焼結ボート等を収納する収納パレットの側面部、前面部、後面部及び底面部の仕様を示す。収納パレットは、収納する焼結ボート等の形状に応じて2種類がある。</p> <p>各棚上部の仕様は、パレット一時保管棚(第2.-1表、第2.-2表、第2.-3表参照)に示す。</p> <p>注3 その他事業許可で求める仕様の補足説明</p> <p>(1) 収納パレットで使用するポリエチレンは可燃性であるため、不燃性のステンレス鋼製のカバーで覆い露出しない構造として火災による損傷を防止する。</p>	<p>添付書類で展開</p>									

仕様表記載例3【機種：ろ過装置】

[常設] [構造分類：-] [付属構造：-]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備目表	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
<p>工程情報を示す項目であり、設備仕様と直接関係しない項目であるため、仕様表に記載しない。</p> <p>主要設備リストで展開。</p> <table border="1"> <tr><td>名称</td><td>-</td><td>〇〇ろ過装置 A,B(0000-00)</td></tr> <tr><td>種類</td><td>-</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>機器の種類</td><td>-</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>標準濃度 \ B \ ャ</td><td>Bq/cm</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>耐震クラス</td><td>-</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>流体の種類</td><td>-</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>容量</td><td>m³/h/個</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>最高使用圧力</td><td>MPa</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>最高使用温度</td><td>℃</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>胴内径</td><td>mm</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>胴板厚さ</td><td>mm</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>鏡板厚さ</td><td>mm</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>全高</td><td>mm</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>胴板</td><td>-</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>鏡板</td><td>-</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>個数</td><td>-</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>特記事項</td><td>-</td><td>〇〇</td></tr> </table> <p>構造図：第3.2.2.2.7-3図及び第3.2.2.7-4図 注記 1：単位は (kg/cm)</p> <p>基本設計方針に展開</p> <p>添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除</p> <p>旧単位系記載のため、SI単位系表記に統一することに伴い適正化。</p>	名称	-	〇〇ろ過装置 A,B(0000-00)	種類	-	〇〇	機器の種類	-	〇〇	標準濃度 \ B \ ャ	Bq/cm	〇〇	耐震クラス	-	〇〇	流体の種類	-	〇〇	容量	m ³ /h/個	〇〇	最高使用圧力	MPa	〇〇	最高使用温度	℃	〇〇	胴内径	mm	〇〇	胴板厚さ	mm	〇〇	鏡板厚さ	mm	〇〇	全高	mm	〇〇	胴板	-	〇〇	鏡板	-	〇〇	個数	-	〇〇	特記事項	-	〇〇	<table border="1"> <tr><td>名称</td><td>-</td><td>〇〇ろ過装置 A,B(0000-00)</td></tr> <tr><td>種類</td><td>-</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>容量</td><td>m³/h/個</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>最高使用圧力</td><td>MPa</td><td>〇〇^{*2}</td></tr> <tr><td>最高使用温度</td><td>℃</td><td>〇〇^{*2}</td></tr> <tr><td>胴内径</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td></tr> <tr><td>胴板厚さ</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td></tr> <tr><td>鏡板厚さ</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td></tr> <tr><td>鏡板中央部内半径</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1,3}</td></tr> <tr><td>鏡板隅丸み半径</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1,3}</td></tr> <tr><td>入口管台外径</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1,3}</td></tr> <tr><td>入口管台厚さ</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1,3}</td></tr> <tr><td>出口管台外径</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1,3}</td></tr> <tr><td>出口管台厚さ</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1,3}</td></tr> <tr><td>本体フランジ厚さ</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1,3}</td></tr> <tr><td>平板厚さ</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1,3}</td></tr> <tr><td>全高</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td></tr> <tr><td>胴板</td><td>-</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>鏡板</td><td>-</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>平板</td><td>-</td><td>〇〇^{*3}</td></tr> <tr><td>フランジ</td><td>-</td><td>〇〇^{*3}</td></tr> <tr><td>個数</td><td>-</td><td>〇〇</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><td>系統名 (ライン名)</td><td>-</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>設置床</td><td>-</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>溢水防護上の区画番号</td><td>-</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>-</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>化学薬品防護上の区画番号</td><td>-</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>化学薬品防護上の配慮が必要な高さ</td><td>-</td><td>〇〇</td></tr> </table> <p>注記 *1：公称値を示す。 *2：重大事故時等における使用時の値を示す。 *3：既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。</p> <table border="1"> <tr><td>機種で統一して記載する仕様項目</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>構造分類に係る仕様項目</td><td>〇〇</td></tr> </table>	名称	-	〇〇ろ過装置 A,B(0000-00)	種類	-	〇〇	容量	m ³ /h/個	〇〇	最高使用圧力	MPa	〇〇 ^{*2}	最高使用温度	℃	〇〇 ^{*2}	胴内径	mm	〇〇 ^{*1}	胴板厚さ	mm	〇〇 ^{*1}	鏡板厚さ	mm	〇〇 ^{*1}	鏡板中央部内半径	mm	〇〇 ^{*1,3}	鏡板隅丸み半径	mm	〇〇 ^{*1,3}	入口管台外径	mm	〇〇 ^{*1,3}	入口管台厚さ	mm	〇〇 ^{*1,3}	出口管台外径	mm	〇〇 ^{*1,3}	出口管台厚さ	mm	〇〇 ^{*1,3}	本体フランジ厚さ	mm	〇〇 ^{*1,3}	平板厚さ	mm	〇〇 ^{*1,3}	全高	mm	〇〇 ^{*1}	胴板	-	〇〇	鏡板	-	〇〇	平板	-	〇〇 ^{*3}	フランジ	-	〇〇 ^{*3}	個数	-	〇〇	系統名 (ライン名)	-	〇〇	設置床	-	〇〇	溢水防護上の区画番号	-	〇〇	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	〇〇	化学薬品防護上の区画番号	-	〇〇	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	-	〇〇	機種で統一して記載する仕様項目	〇〇	構造分類に係る仕様項目	〇〇	<table border="1"> <tr><td>技術基準</td><td>機能要求② 様式-6,7</td><td>主な仕様 (詳細設計)</td></tr> <tr><td>第十二条 溢水防護</td><td>発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ (以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td><td>取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ (機能喪失高さ) ・防護上の区画番号</td></tr> <tr><td>第十三条 化学薬品防護</td><td>発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ (以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水 (以下「没液」という。)により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td><td>取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ (機能喪失高さ) ・防護上の区画番号</td></tr> <tr><td>第十七条 材料及び構造</td><td>a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。 b. 常設重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。 c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。</td><td>・主要材料</td></tr> <tr><td>第十九条 使用済燃料の貯蔵施設等</td><td>燃料貯蔵プールは、BWR使用済燃料集合体1,500t・UPr (うち、使用済燃料集合体平均濃縮度が2.0wt%を超えるもの 11.8t・UPr)、PWR使用済燃料集合体1,500t・UPr (うち、使用済燃料集合体平均濃縮度が2.0wt%を超えるもの 27.6t・UPr)、合計貯蔵容量3,000t・UPrを有し、最大再処理能力800t・UPr/yでの再処理に対して受け入れた燃料を3年間以上貯蔵することができる設計とする。 プール水浄化系は、水の純度及び透明度を維持するため、燃料取出しピット、燃料置きピット及びチャンネルボックス・バーナブルボイゾン取扱ピットの越流せきから越流するプール水をポンプで昇圧し、ろ過装置及び脱塩装置で過及び脱塩した後、燃料取出しピット、燃料置きピット及びチャンネルボックス・バーナブルボイゾン取扱ピットへ戻す設計とする。同時に、燃料貯蔵プール及び燃料送出しピットから越流するプール水を、ポンプで昇圧し、一部を脱塩装置で脱塩した後、燃料貯蔵プール及び燃料送出しピットへ戻す設計とする。</td><td>・容量</td></tr> <tr><td>許可整合</td><td></td><td>・容量</td></tr> </table>	技術基準	機能要求② 様式-6,7	主な仕様 (詳細設計)	第十二条 溢水防護	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ (以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ (機能喪失高さ) ・防護上の区画番号	第十三条 化学薬品防護	発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ (以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水 (以下「没液」という。)により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ (機能喪失高さ) ・防護上の区画番号	第十七条 材料及び構造	a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。 b. 常設重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。 c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。	・主要材料	第十九条 使用済燃料の貯蔵施設等	燃料貯蔵プールは、BWR使用済燃料集合体1,500t・UPr (うち、使用済燃料集合体平均濃縮度が2.0wt%を超えるもの 11.8t・UPr)、PWR使用済燃料集合体1,500t・UPr (うち、使用済燃料集合体平均濃縮度が2.0wt%を超えるもの 27.6t・UPr)、合計貯蔵容量3,000t・UPrを有し、最大再処理能力800t・UPr/yでの再処理に対して受け入れた燃料を3年間以上貯蔵することができる設計とする。 プール水浄化系は、水の純度及び透明度を維持するため、燃料取出しピット、燃料置きピット及びチャンネルボックス・バーナブルボイゾン取扱ピットの越流せきから越流するプール水をポンプで昇圧し、ろ過装置及び脱塩装置で過及び脱塩した後、燃料取出しピット、燃料置きピット及びチャンネルボックス・バーナブルボイゾン取扱ピットへ戻す設計とする。同時に、燃料貯蔵プール及び燃料送出しピットから越流するプール水を、ポンプで昇圧し、一部を脱塩装置で脱塩した後、燃料貯蔵プール及び燃料送出しピットへ戻す設計とする。	・容量	許可整合		・容量	<table border="1"> <tr><td>名</td><td>称</td><td>変更前</td><td>変更後</td></tr> <tr><td>種</td><td>類</td><td>フィルタ脱塩器</td><td></td></tr> <tr><td>容</td><td>量</td><td>たて置円筒形^{*1} (125^{*2})</td><td></td></tr> <tr><td>最</td><td>高</td><td>使用圧力</td><td>MPa 1.38^{*2}</td></tr> <tr><td>最</td><td>高</td><td>使用温度</td><td>℃ 94</td></tr> <tr><td>胴</td><td>内</td><td>径</td><td>mm 1100^{*2}</td></tr> <tr><td>胴</td><td>板</td><td>厚さ^{*4}</td><td>mm 上部胴体^{*4}: (13^{*2}・^{*5}) 下部胴体^{*4}: (13^{*2}・^{*5})</td></tr> <tr><td>鏡</td><td>板</td><td>厚さ^{*7}</td><td>mm (13^{*2})</td></tr> <tr><td>鏡</td><td>板</td><td>の</td><td>形状に係る寸法</td><td>mm 1100^{*2}・^{*4} (鏡板中央部内半径)</td></tr> <tr><td>鏡</td><td>板</td><td>の</td><td>隅丸み半径</td><td>mm 110^{*2}・^{*4} (鏡板隅の丸み半径)</td></tr> <tr><td>入</td><td>口</td><td>管</td><td>台</td><td>外</td><td>径</td><td>mm 165.2^{*2}・^{*4}</td></tr> <tr><td>入</td><td>口</td><td>管</td><td>台</td><td>厚</td><td>さ</td><td>mm (7.1^{*2}・^{*4})</td></tr> <tr><td>出</td><td>口</td><td>管</td><td>台</td><td>外</td><td>径</td><td>mm 165.2^{*2}・^{*4}</td></tr> <tr><td>出</td><td>口</td><td>管</td><td>台</td><td>厚</td><td>さ</td><td>mm (7.1^{*2}・^{*4})</td></tr> <tr><td>本</td><td>体</td><td>フ</td><td>ラ</td><td>ン</td><td>ジ</td><td>厚</td><td>さ</td><td>mm (7.0^{*2}・^{*4})</td></tr> <tr><td>平</td><td>板</td><td>厚</td><td>さ</td><td>mm (110^{*2}・^{*4})</td></tr> <tr><td>高</td><td>さ</td><td>mm 2538^{*2}・^{*4}</td></tr> <tr><td>胴</td><td>板</td><td>材</td><td>質</td><td>上</td><td>部</td><td>胴</td><td>体</td><td>SB42^{*11}</td></tr> <tr><td>胴</td><td>板</td><td>材</td><td>質</td><td>下</td><td>部</td><td>胴</td><td>体</td><td>SUS304^{*12}</td></tr> <tr><td>平</td><td>板</td><td>材</td><td>質</td><td>SUS304</td></tr> <tr><td>本</td><td>体</td><td>フ</td><td>ラ</td><td>ン</td><td>ジ</td><td>材</td><td>質</td><td>SF45^{*14}</td></tr> <tr><td>本</td><td>体</td><td>フ</td><td>ラ</td><td>ン</td><td>ジ</td><td>材</td><td>質</td><td>SF45^{*14}</td></tr> <tr><td>個</td><td>数</td><td>-</td><td>2</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><td>系</td><td>統</td><td>名</td><td>変更前</td><td>変更後</td></tr> <tr><td>(</td><td>ラ</td><td>イ</td><td>ン</td><td>名</td><td>)</td><td>フィルタ脱塩器A 燃料プール冷却 浄化系^{*13}</td><td>フィルタ脱塩器B 燃料プール冷却 浄化系^{*13}</td></tr> <tr><td>設</td><td>置</td><td>床</td><td>EL.38.80 a^{*14}</td><td>EL.38.80 a^{*14}</td></tr> <tr><td>溢</td><td>水</td><td>防</td><td>護</td><td>上</td><td>の</td><td>区</td><td>画</td><td>番</td><td>号</td><td>-</td></tr> <tr><td>溢</td><td>水</td><td>防</td><td>護</td><td>上</td><td>の</td><td>配</td><td>慮</td><td>が</td><td>必</td><td>要</td><td>な</td><td>高</td><td>さ</td><td>-</td></tr> </table> <p>注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒形 (四脚支持)」と記載。 *2：公称値を示す。 *3：SI単位に換算したもの。 *4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。 *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚 13mm」と記載。 *6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和51年8月30日付け建設発第98号にて届け出した工事計画の添付書類「III-1-5 燃料プール冷却浄化系機器・配管の規格計算書」のうち、「III-1-5-2 フィルタ脱塩器 (III-1-4-2)」による。 *7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。 *8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全長」と記載。 *9：記載の適正化を行う。既工事計画書には、脚からベントフランジ中心までの高さである「4035」と記載。記載内容は、設計図書による。 *10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。 *11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴 SB42」と記載。 *12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴 SUS304」と記載。 *13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「上蓋板」と記載。 *14：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SF45」と記載。 *15：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和51年8月30日付け建設発第98号にて届け出した工事計画の添付図面「第6-2図 燃料プール冷却浄化系系統図 (その2)」による。 *16：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p>	名	称	変更前	変更後	種	類	フィルタ脱塩器		容	量	たて置円筒形 ^{*1} (125 ^{*2})		最	高	使用圧力	MPa 1.38 ^{*2}	最	高	使用温度	℃ 94	胴	内	径	mm 1100 ^{*2}	胴	板	厚さ ^{*4}	mm 上部胴体 ^{*4} : (13 ^{*2} ・ ^{*5}) 下部胴体 ^{*4} : (13 ^{*2} ・ ^{*5})	鏡	板	厚さ ^{*7}	mm (13 ^{*2})	鏡	板	の	形状に係る寸法	mm 1100 ^{*2} ・ ^{*4} (鏡板中央部内半径)	鏡	板	の	隅丸み半径	mm 110 ^{*2} ・ ^{*4} (鏡板隅の丸み半径)	入	口	管	台	外	径	mm 165.2 ^{*2} ・ ^{*4}	入	口	管	台	厚	さ	mm (7.1 ^{*2} ・ ^{*4})	出	口	管	台	外	径	mm 165.2 ^{*2} ・ ^{*4}	出	口	管	台	厚	さ	mm (7.1 ^{*2} ・ ^{*4})	本	体	フ	ラ	ン	ジ	厚	さ	mm (7.0 ^{*2} ・ ^{*4})	平	板	厚	さ	mm (110 ^{*2} ・ ^{*4})	高	さ	mm 2538 ^{*2} ・ ^{*4}	胴	板	材	質	上	部	胴	体	SB42 ^{*11}	胴	板	材	質	下	部	胴	体	SUS304 ^{*12}	平	板	材	質	SUS304	本	体	フ	ラ	ン	ジ	材	質	SF45 ^{*14}	本	体	フ	ラ	ン	ジ	材	質	SF45 ^{*14}	個	数	-	2	系	統	名	変更前	変更後	(ラ	イ	ン	名)	フィルタ脱塩器A 燃料プール冷却 浄化系 ^{*13}	フィルタ脱塩器B 燃料プール冷却 浄化系 ^{*13}	設	置	床	EL.38.80 a ^{*14}	EL.38.80 a ^{*14}	溢	水	防	護	上	の	区	画	番	号	-	溢	水	防	護	上	の	配	慮	が	必	要	な	高	さ	-	<p>変更なし</p> <p>変更なし</p>
名称	-	〇〇ろ過装置 A,B(0000-00)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
種類	-	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
機器の種類	-	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
標準濃度 \ B \ ャ	Bq/cm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
耐震クラス	-	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
流体の種類	-	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
容量	m ³ /h/個	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
最高使用圧力	MPa	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
最高使用温度	℃	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
胴内径	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
胴板厚さ	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
鏡板厚さ	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
全高	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
胴板	-	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
鏡板	-	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
個数	-	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
特記事項	-	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
名称	-	〇〇ろ過装置 A,B(0000-00)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
種類	-	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
容量	m ³ /h/個	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
最高使用圧力	MPa	〇〇 ^{*2}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
最高使用温度	℃	〇〇 ^{*2}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
胴内径	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
胴板厚さ	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
鏡板厚さ	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
鏡板中央部内半径	mm	〇〇 ^{*1,3}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
鏡板隅丸み半径	mm	〇〇 ^{*1,3}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
入口管台外径	mm	〇〇 ^{*1,3}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
入口管台厚さ	mm	〇〇 ^{*1,3}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
出口管台外径	mm	〇〇 ^{*1,3}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
出口管台厚さ	mm	〇〇 ^{*1,3}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
本体フランジ厚さ	mm	〇〇 ^{*1,3}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
平板厚さ	mm	〇〇 ^{*1,3}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
全高	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
胴板	-	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
鏡板	-	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
平板	-	〇〇 ^{*3}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
フランジ	-	〇〇 ^{*3}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
個数	-	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
系統名 (ライン名)	-	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
設置床	-	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
溢水防護上の区画番号	-	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
化学薬品防護上の区画番号	-	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	-	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
機種で統一して記載する仕様項目	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
構造分類に係る仕様項目	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
技術基準	機能要求② 様式-6,7	主な仕様 (詳細設計)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
第十二条 溢水防護	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ (以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ (機能喪失高さ) ・防護上の区画番号																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
第十三条 化学薬品防護	発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ (以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水 (以下「没液」という。)により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ (機能喪失高さ) ・防護上の区画番号																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
第十七条 材料及び構造	a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。 b. 常設重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。 c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。	・主要材料																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
第十九条 使用済燃料の貯蔵施設等	燃料貯蔵プールは、BWR使用済燃料集合体1,500t・UPr (うち、使用済燃料集合体平均濃縮度が2.0wt%を超えるもの 11.8t・UPr)、PWR使用済燃料集合体1,500t・UPr (うち、使用済燃料集合体平均濃縮度が2.0wt%を超えるもの 27.6t・UPr)、合計貯蔵容量3,000t・UPrを有し、最大再処理能力800t・UPr/yでの再処理に対して受け入れた燃料を3年間以上貯蔵することができる設計とする。 プール水浄化系は、水の純度及び透明度を維持するため、燃料取出しピット、燃料置きピット及びチャンネルボックス・バーナブルボイゾン取扱ピットの越流せきから越流するプール水をポンプで昇圧し、ろ過装置及び脱塩装置で過及び脱塩した後、燃料取出しピット、燃料置きピット及びチャンネルボックス・バーナブルボイゾン取扱ピットへ戻す設計とする。同時に、燃料貯蔵プール及び燃料送出しピットから越流するプール水を、ポンプで昇圧し、一部を脱塩装置で脱塩した後、燃料貯蔵プール及び燃料送出しピットへ戻す設計とする。	・容量																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
許可整合		・容量																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
名	称	変更前	変更後																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
種	類	フィルタ脱塩器																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
容	量	たて置円筒形 ^{*1} (125 ^{*2})																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
最	高	使用圧力	MPa 1.38 ^{*2}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
最	高	使用温度	℃ 94																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
胴	内	径	mm 1100 ^{*2}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
胴	板	厚さ ^{*4}	mm 上部胴体 ^{*4} : (13 ^{*2} ・ ^{*5}) 下部胴体 ^{*4} : (13 ^{*2} ・ ^{*5})																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
鏡	板	厚さ ^{*7}	mm (13 ^{*2})																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
鏡	板	の	形状に係る寸法	mm 1100 ^{*2} ・ ^{*4} (鏡板中央部内半径)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
鏡	板	の	隅丸み半径	mm 110 ^{*2} ・ ^{*4} (鏡板隅の丸み半径)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
入	口	管	台	外	径	mm 165.2 ^{*2} ・ ^{*4}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
入	口	管	台	厚	さ	mm (7.1 ^{*2} ・ ^{*4})																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
出	口	管	台	外	径	mm 165.2 ^{*2} ・ ^{*4}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
出	口	管	台	厚	さ	mm (7.1 ^{*2} ・ ^{*4})																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
本	体	フ	ラ	ン	ジ	厚	さ	mm (7.0 ^{*2} ・ ^{*4})																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
平	板	厚	さ	mm (110 ^{*2} ・ ^{*4})																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
高	さ	mm 2538 ^{*2} ・ ^{*4}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
胴	板	材	質	上	部	胴	体	SB42 ^{*11}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
胴	板	材	質	下	部	胴	体	SUS304 ^{*12}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
平	板	材	質	SUS304																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
本	体	フ	ラ	ン	ジ	材	質	SF45 ^{*14}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
本	体	フ	ラ	ン	ジ	材	質	SF45 ^{*14}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
個	数	-	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
系	統	名	変更前	変更後																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
(ラ	イ	ン	名)	フィルタ脱塩器A 燃料プール冷却 浄化系 ^{*13}	フィルタ脱塩器B 燃料プール冷却 浄化系 ^{*13}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
設	置	床	EL.38.80 a ^{*14}	EL.38.80 a ^{*14}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
溢	水	防	護	上	の	区	画	番	号	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
溢	水	防	護	上	の	配	慮	が	必	要	な	高	さ	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			

仕様表記載例 4-1 【機種：熱交換器】

[常設] [構造分類：チューブ型] [付属構造：-]

既認可の仕様表				仕様表案				要求事項の整理		発電炉類似設備要目表			備考																																																																																				
<p>工程情報を示す項目であり、設備仕様と直接関係しない項目であるため、仕様表に記載しない。</p> <p>主要設備リストで展開。</p>				<p>名称 高レベル廃液濃縮缶凝縮器</p> <p>種類 〇〇</p> <p>容量 処理容量 m³/h/個 〇〇</p> <p>設計熱交換量 kW/個 〇〇</p> <p>最高使用圧力 管側 MPa 〇〇^{*2}</p> <p>胴側 MPa 〇〇^{*2}</p> <p>最高使用温度 管側 °C 〇〇^{*2}</p> <p>胴側 °C 〇〇^{*2}</p> <p>伝熱面積 m²/個 〇〇</p> <p>管側 胴内径 mm 〇〇^{*1}</p> <p>胴側 胴板厚さ mm 〇〇^{*1}</p> <p>鏡板厚さ mm 〇〇^{*1}</p> <p>鏡板長径 mm 〇〇^{*1*}</p> <p>鏡板短径 mm 〇〇^{*1*}</p> <p>胴フランジ厚さ mm 〇〇^{*1*}</p> <p>管板厚さ mm 〇〇^{*1}</p> <p>伝熱管外径 mm 〇〇^{*1}</p> <p>伝熱管厚さ mm 〇〇^{*1}</p> <p>全高 mm 〇〇^{*1}</p> <p>管側 胴板 mm 〇〇</p> <p>胴側 鏡板 mm 〇〇</p> <p>管板厚さ mm 〇〇</p> <p>伝熱管外径 mm 〇〇</p> <p>伝熱管厚さ mm 〇〇</p> <p>全高 mm 〇〇</p> <p>管側 胴板 mm 〇〇</p> <p>胴側 鏡板 mm 〇〇</p> <p>管板厚さ mm 〇〇</p> <p>伝熱管数 〇〇</p>				<p>熱交換器に係る要求事項は次頁に示す。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名称</td> <td>排ガス復水器</td> <td></td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>横置U字管式</td> <td></td> </tr> <tr> <td>容量 (設計熱交換量)</td> <td>MW/個 (4.86^{*2, *})</td> <td></td> </tr> <tr> <td>管側 最高使用圧力</td> <td>MPa 0.86^{*1}</td> <td></td> </tr> <tr> <td>胴側 最高使用温度</td> <td>°C 538</td> <td></td> </tr> <tr> <td>胴側 最高使用圧力</td> <td>MPa 2.41^{*1}</td> <td></td> </tr> <tr> <td>胴側 最高使用温度</td> <td>°C 538</td> <td></td> </tr> <tr> <td>伝熱面積</td> <td>m²/個 (207^{*2})</td> <td></td> </tr> <tr> <td>管側 胴内径</td> <td>mm 900^{*2}</td> <td></td> </tr> <tr> <td>胴側 胴板厚さ</td> <td>mm (16^{*2})</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鏡板厚さ</td> <td>mm (16.0^{*2, *})</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鏡板の形状に係る寸法</td> <td>mm 900.0^{*2, *} (鏡板長径)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>mm 225.0^{*2, *} (鏡板短径の2分の1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>冷却水入口管台外径</td> <td>mm 165.2^{*2, *}</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>冷却水入口管台厚さ</td> <td>mm (7.1^{*2, *})</td> <td></td> </tr> <tr> <td>冷却水出口管台外径</td> <td>mm 165.2^{*2, *}</td> <td></td> </tr> <tr> <td>冷却水出口管台厚さ</td> <td>mm (7.1^{*2, *})</td> <td></td> </tr> <tr> <td>胴フランジ厚さ</td> <td>mm (60.0^{*2, *})</td> <td></td> </tr> <tr> <td>胴側 胴内径</td> <td>mm 900^{*2}</td> <td></td> </tr> <tr> <td>胴側 胴板厚さ</td> <td>mm (30^{*2})</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鏡板厚さ</td> <td>mm (30.0^{*2, *})</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鏡板の形状に係る寸法</td> <td>mm 900.0^{*2, *} (鏡板長径)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>mm 225.0^{*2, *} (鏡板短径の2分の1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>排ガス入口管台外径</td> <td>mm 267.4^{*2, *}</td> <td></td> </tr> <tr> <td>排ガス入口管台厚さ</td> <td>mm (9.3^{*2, *})</td> <td></td> </tr> <tr> <td>排ガス出口管台外径</td> <td>mm 114.3^{*2, *}</td> <td></td> </tr> <tr> <td>排ガス出口管台厚さ</td> <td>mm (6.0^{*2, *})</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			変更前		変更後	名称	排ガス復水器		種類	横置U字管式		容量 (設計熱交換量)	MW/個 (4.86 ^{*2, *})		管側 最高使用圧力	MPa 0.86 ^{*1}		胴側 最高使用温度	°C 538		胴側 最高使用圧力	MPa 2.41 ^{*1}		胴側 最高使用温度	°C 538		伝熱面積	m ² /個 (207 ^{*2})		管側 胴内径	mm 900 ^{*2}		胴側 胴板厚さ	mm (16 ^{*2})		鏡板厚さ	mm (16.0 ^{*2, *})		鏡板の形状に係る寸法	mm 900.0 ^{*2, *} (鏡板長径)			mm 225.0 ^{*2, *} (鏡板短径の2分の1)		冷却水入口管台外径	mm 165.2 ^{*2, *}	変更なし	冷却水入口管台厚さ	mm (7.1 ^{*2, *})		冷却水出口管台外径	mm 165.2 ^{*2, *}		冷却水出口管台厚さ	mm (7.1 ^{*2, *})		胴フランジ厚さ	mm (60.0 ^{*2, *})		胴側 胴内径	mm 900 ^{*2}		胴側 胴板厚さ	mm (30 ^{*2})		鏡板厚さ	mm (30.0 ^{*2, *})		鏡板の形状に係る寸法	mm 900.0 ^{*2, *} (鏡板長径)			mm 225.0 ^{*2, *} (鏡板短径の2分の1)		排ガス入口管台外径	mm 267.4 ^{*2, *}		排ガス入口管台厚さ	mm (9.3 ^{*2, *})		排ガス出口管台外径	mm 114.3 ^{*2, *}		排ガス出口管台厚さ	mm (6.0 ^{*2, *})		<p>備考</p>
変更前		変更後																																																																																															
名称	排ガス復水器																																																																																																
種類	横置U字管式																																																																																																
容量 (設計熱交換量)	MW/個 (4.86 ^{*2, *})																																																																																																
管側 最高使用圧力	MPa 0.86 ^{*1}																																																																																																
胴側 最高使用温度	°C 538																																																																																																
胴側 最高使用圧力	MPa 2.41 ^{*1}																																																																																																
胴側 最高使用温度	°C 538																																																																																																
伝熱面積	m ² /個 (207 ^{*2})																																																																																																
管側 胴内径	mm 900 ^{*2}																																																																																																
胴側 胴板厚さ	mm (16 ^{*2})																																																																																																
鏡板厚さ	mm (16.0 ^{*2, *})																																																																																																
鏡板の形状に係る寸法	mm 900.0 ^{*2, *} (鏡板長径)																																																																																																
	mm 225.0 ^{*2, *} (鏡板短径の2分の1)																																																																																																
冷却水入口管台外径	mm 165.2 ^{*2, *}	変更なし																																																																																															
冷却水入口管台厚さ	mm (7.1 ^{*2, *})																																																																																																
冷却水出口管台外径	mm 165.2 ^{*2, *}																																																																																																
冷却水出口管台厚さ	mm (7.1 ^{*2, *})																																																																																																
胴フランジ厚さ	mm (60.0 ^{*2, *})																																																																																																
胴側 胴内径	mm 900 ^{*2}																																																																																																
胴側 胴板厚さ	mm (30 ^{*2})																																																																																																
鏡板厚さ	mm (30.0 ^{*2, *})																																																																																																
鏡板の形状に係る寸法	mm 900.0 ^{*2, *} (鏡板長径)																																																																																																
	mm 225.0 ^{*2, *} (鏡板短径の2分の1)																																																																																																
排ガス入口管台外径	mm 267.4 ^{*2, *}																																																																																																
排ガス入口管台厚さ	mm (9.3 ^{*2, *})																																																																																																
排ガス出口管台外径	mm 114.3 ^{*2, *}																																																																																																
排ガス出口管台厚さ	mm (6.0 ^{*2, *})																																																																																																
<p>注記 *1: 公称値を示す。 *2: 重大事故時等における使用時の値を示す。 *3: 既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。</p>				<p>注記 *1: S1単位に換算したもの。 *2: 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *3: 公称値を示す。 *4: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。 *5: 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和54年11月2日付け54資庁第11618号にて認可された工事計画の添付書類「1-3 排ガス復水器の規格計算書」による。 *6: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「管板厚」と記載。 *7: 記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴フランジと管板厚を含めた厚さである「114 mm」と記載。記載内容は、昭和54年11月2日付け54資庁第11618号にて認可された工事計画の添付書類「1-3 排ガス復水器の規格計算書」による。 *8: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「伝熱管内厚」と記載。 *9: 記載の適正化を行う。既工事計画書には、管側鏡板端部から排ガス入口管台端部までの全長である「4890 mm」を記載。 *10: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「仕切室」と記載。 *11: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体」と記載。</p>				<p>変更なし</p>		<p>変更なし</p>																																																																																							
<p>溝造図：第3.2.2.1.1.1-3図に示す。 注記 1)：単位は (kcal/h/個)。 2)：単位は (kg/cm)</p> <p>添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除</p> <p>旧単位系記載のため、SI単位系表記に統一することに伴い適正化。</p>				<p>機種で統一して記載する仕様項目</p> <p>構造分類に係る仕様項目</p>																																																																																													

仕様表記載例 4-1 【機種：熱交換器】

[常設] [構造分類：チューブ型] [付属構造：－]

要求事項の整理

要求事項の整理			備考
	機能要求② 様式-6,7	主な仕様 (詳細設計)	
<p>第四条 核燃料物質の臨界防止</p>	<p>単一ユニットの臨界安全設計に当たり、これらの管理に対して適切な臨界管理を行う体系の未臨界確保のために設定する値（以下「核的制限値」という。）を設定する。</p> <p>なお、フルトリウム溶液を内包する機器は、原則として液体の核燃料物質を内包する機器において、濃度に制限値を設定する必要がないように設計する形状寸法管理（以下「全濃度安全形状寸法管理」という。）及び必要に応じて中性子吸収材を併用した設計とする。</p> <p>複数ユニットの臨界安全設計に当たり、単一ユニット相互間の中性子相互干渉を考慮し、直接的に計量可能な単一ユニット相互間の配置、間接的に管理可能な単一ユニット相互間の配置、中性子吸収材の配置及び形状寸法について適切な核的制限値を設定する。核的制限値の設定に当たっては、単一ユニット相互間の中性子の吸収効果、減速条件及び反射条件に関し、核燃料物質移動時の核燃料物質の落下、転倒及び接近の可能性も踏まえ、それぞれの想定される変動の範囲において、反応度が最も大きくなる場合を仮定し、計算コードの計算誤差を含めて、十分な安全余裕を見込んで設定する。</p> <p>複数ユニットの核的制限値の維持については、十分な構造強度をもつ構造材を使用する等適切な対策を講ずる設計とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・核的制限値 ・主要寸法 ・主要材料 <ul style="list-style-type: none"> ・核的制限値 ・主要寸法 ・主要材料 <ul style="list-style-type: none"> ・核的制限値 ・主要寸法 ・主要材料 	
<p>第十条 閉じ込めの機能</p>	<p>安全機能を有する施設は、使用済燃料等から発生する崩壊熱を適切に除去することとし、使用済燃料等を含む溶液の崩壊熱による機器内での沸騰を防止する設計とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・容量 ・伝熱面積 ・主要材料 ・主要寸法 ・原動機 	
<p>第十二条 溢水防護</p>	<p>発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。</p> <p>防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。</p> <p>また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号 	
<p>第十三条 化学薬品防護</p>	<p>発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。</p> <p>防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水（以下「没液」という。）により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。</p> <p>また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号 	
<p>第十七条 第三十七条 材料及び構造</p>	<p>a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。</p> <p>b. 常設重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。</p> <p>c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。</p> <p>a. 容器等は、最高使用圧力、最高使用温度及び機械的荷重が負荷されている状態（以下「設計上定める条件」という。）において、全体的な変形を弾性域に抑える設計とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主要材料 ・主要材料 ・主要材料 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料 	
<p>許可整合</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・容量 	

仕様表記載例 4-2 【機種：熱交換器】

[常設] [構造分類：プレート型] [付属構造：-]

既認可の仕様表			仕様表案			要求事項の整理			発電炉類似設備要目表			備考				
<p>工程情報を示す項目であり、設備仕様と直接関係しない項目であるため、仕様表に記載しない。</p> <p>主要設備リストで展開。</p>			<p>安全冷却水 2 中間熱交換器 (0000-000) プレート式</p>			<p>安全冷却水 2 中間熱交換器 (0000-000) プレート式</p>			<p>熱交換器に係る要求事項は4-1と同様</p>			<p>(1) 熱交換器の名称、種類、容量、最高使用圧力(管側及び胴側の別に記載すること。)、最高使用温度(管側及び胴側の別に記載すること。)、伝熱面積、主要寸法、材料、個数及び取付箇所(常設及び可搬型の別に記載すること。)</p>				
名	称	-	名称	変更前	変更後				名	称	変更前	変更後				
種	類	-	種類	-	プレート式				種	類	-	代替燃料プール冷却系熱交換器 プレート式				
設計条件	機器の種類	-	容量	設計熱交換量	kW/個	〇〇				容量(設計熱交換量)	MW/個	2.31以上(2.31*)				
	耐震クラス	-	最高使用圧力	1次側	MPa	〇〇 ^{*3}				最高使用圧力 ^{*2}	MPa	0.98				
	1次側流体の種類	-	最高使用圧力	2次側	MPa	〇〇 ^{*3}				最高使用温度 ^{*2}	℃	80				
	2次側流体の種類	-	最高使用温度	1次側	℃	〇〇 ^{*3}				最高使用圧力 ^{*2}	MPa	0.98				
	容量(設計熱交換量)	kW/個	〇〇(〇〇) ¹⁾	最高使用温度	2次側	℃	〇〇 ^{*3}				最高使用温度 ^{*2}	℃	66			
	1次側最高使用圧力	MPa	〇〇(〇〇) ²⁾	伝熱面積			m ² /個	〇〇								
	1次側最高使用温度	℃	〇〇	伝熱板幅	mm	〇〇 ^{*1*}	変更なし									
	2次側最高使用圧力	MPa	〇〇(〇〇) ²⁾	伝熱板高さ	mm	〇〇 ^{*1*}										
	2次側最高使用温度	℃	〇〇	伝熱板厚さ	mm	〇〇 ^{*1*}										
	伝熱面積	m ² /個	〇〇	側板間長さ	mm	〇〇 ^{*1*}										
仕様	主要寸法	全長	mm	mm	〇〇 ^{*1}				伝熱面積	m ² /個						
	主要材料	全幅	mm	mm	〇〇				伝熱板幅	mm	358 ^{*1}					
		全高	mm	mm	〇〇				伝熱板高さ	mm	932 ^{*1}					
		側板	mm	mm	〇〇				伝熱板厚さ	mm	0.7 ^{*1}					
個	個	個	mm	mm	〇〇 ^{*1}				側板間長さ	mm	778 ^{*1}					
構造図：第3.2.2.2-7図に示す			側板厚さ	mm	〇〇 ^{*1*}				側板厚さ	mm	(70.0 ^{*1})					
注記 1): 単位は (kcal/h/個)。			全長	mm	〇〇 ^{*1}				全長	mm	1671 ^{*1}					
注記 2): 単位は (kg/cm ²)			側板	mm	〇〇				材料側板	-	SGV410					
添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除			伝熱板	mm	〇〇				材料伝熱板	-	SUS36L相当 ()					
旧単位系記載のため、SI 単位系表記に統一することに伴い適正化。			個数	-	〇〇				個	-	1					
			系統名(ライン名)	-	〇〇				取付箇所	系統名(ライン名)	-	代替燃料プール冷却系熱交換器 代替燃料プール冷却系				
			設置床	-	〇〇				設置床	-	() EL.29.00 m					
			溢水防護上の区画番号	-	-	〇〇				溢水防護上の区画番号	-	-				
			溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	-	〇〇				溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	-				
			化学薬品防護上の区画番号	-	-	〇〇										
			化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	-	-	〇〇										
			注記 *1: 公称値を示す。													
			*2: 記載の適正化。既設工認申請書には「全高」と記載。													
			*3: 重大事故時等における使用時の値を示す。													
			*4: 既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。													
			<table border="1"> <tr> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> </table>			機種で統一して記載する仕様項目	構造分類に係る仕様項目									
機種で統一して記載する仕様項目																
構造分類に係る仕様項目																

仕様表記載例 4-3 【機種：熱交換器】

[常設] [構造分類：冷却塔] [付属構造：地盤・基礎，耐火被覆]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																																																																																																					
<p>②基本設計方針で展開。</p> <p>①主要設備リストで展開。</p> <p>名称：安全冷却水 B 冷却塔</p> <p>種類：—</p> <p>機器の種類：—</p> <p>耐震クラス：—</p> <p>航空機に対する防護：—</p> <p>設計条件</p> <p>流体の種類：—</p> <p>容量 (設計熱交換量) MW/個</p> <p>最高使用圧力 MPa ○○</p> <p>最高使用温度 ℃ ○○</p> <p>伝熱面積 (フィン外表面) m²/個 ○○</p> <p>仕様</p> <p>冷却塔</p> <p>主要寸法</p> <p>全長 mm ○○</p> <p>全幅 mm ○○</p> <p>全高 mm ○○</p> <p>伝熱管 (内管) mm ○○</p> <p>材料 ヘッダー — ○○</p> <p>個数</p> <p>特記事項</p> <p>注記</p> <p>1)：単位は (kcal/h/個)</p> <p>2)：単位は (kg/cm²)</p> <p>4)：安全冷却水 B 冷却塔基礎の主要寸法は以下とする。 南北方向：○m (外壁外面寸法) 東西方向：○m (外壁外面寸法) 厚さ：○m</p> <p>5)：安全冷却水 B 冷却塔基礎の主要材料は、以下とする。 鉄筋：JIS G 3112 (鉄筋コンクリート用棒綱) に定める SD345 コンクリート：JASS5 の規定による普通コンクリート 設計基準強度 σ_{N/mm^2} (○kgf/cm²) マンメイドロック (コンクリート)：設計基準強度 σ_{N/mm^2} (○kgf/cm²)</p> <p>6)：安全冷却水 B 冷却塔基礎の支持地盤の許容支持力は、鷹架層の許容支持力として、重要な建物・構築物ごとに定まる値の最小値とし、長期：○MPa (○kgf/cm²)、短期：○MPa (○kgf/cm²) とす</p> <p>旧単位系記載のため、SI 単位系表記に統一することに伴い適正化。</p> <p>④耐震性に関する計算書で展開</p> <p>地盤、基礎の仕様項目については、仕様表記載例 23a-1 の建屋の仕様表記載例を踏まえ検討中。</p>	<p>仕様表案</p> <p>変更前 変更後</p> <p>名称：安全冷却水 B 冷却塔 (00-0000)</p> <p>種類：—</p> <p>支持地盤の許容支持力 MPa</p> <p>支持地盤の極限支持力 MPa</p> <p>マンメイドロックの強度 N/mm²</p> <p>容量</p> <p>設計熱交換量 MW/個</p> <p>設計冷却空気流量 kg/h</p> <p>最高使用圧力 MPa</p> <p>最高使用温度 ℃</p> <p>伝熱面積 (伝熱管及びフィン外表面)^{*2} m²/個</p> <p>主要寸法</p> <p>全長 mm</p> <p>全幅 mm</p> <p>全高 mm</p> <p>伝熱管 (内管) mm</p> <p>主要材料</p> <p>フィン mm</p> <p>ヘッダー mm</p> <p>耐火被覆</p> <p>種類 —</p> <p>厚さ mm</p> <p>遮熱板^{*4*}</p> <p>高さ (原動機側) mm</p> <p>高さ (減速機側) mm</p> <p>原動機</p> <p>種類 —</p> <p>出力 kW/個</p> <p>ファン台数 台</p> <p>個数</p> <p>取付箇所</p> <p>系統名 (ライン名) —</p> <p>設置床 —</p> <p>溢水防護上の区画番号 —</p> <p>溢水防護上の配慮が必要な高さ —</p> <p>化学薬品防護上の区画番号 —</p> <p>化学薬品防護上の配慮が必要な高さ —</p> <p>注記</p> <p>*1：公称値を示す。</p> <p>*2：記載の適正化を行う。既設工認には「伝熱面積 (フィン外表面)」と記載。</p> <p>*3：既設工認の仕様表に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。</p> <p>*4：建築基準法第 2 条 第七号に基づく国土交通大臣の認定番号 FP060CN-0000 を取得した主材および下塗り材を使用する。</p> <p>*5：航空機墜落火災による熱影響に対し、機能維持のために必要な部材を塗装対象とする。支持架構については、火災直近の部材は塗装対象とし、別紙「離隔距離表」に基づき塗装範囲を決定する。板厚が表に記載されていない場合は、表に記載されている板厚の内、薄い側の離隔距離を用いる。</p> <p>*6：主材厚さを示す。</p> <p>*7：原動機および減速機を対象とする。</p> <p>*8：遮熱板は耐火被覆を施工する。</p> <p>別紙</p> <p>安全上重要な施設に対する離隔距離表[*]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材料^①</th> <th>板厚^② (mm)</th> <th>必要離隔距離 (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="12">炭素鋼^③</td><td>38^④</td><td>1^⑤</td></tr> <tr><td>28^④</td><td>2^⑤</td></tr> <tr><td>22^④</td><td>3^⑤</td></tr> <tr><td>19^④</td><td>5^⑤</td></tr> <tr><td>14^④</td><td>7^⑤</td></tr> <tr><td>13^④</td><td>8^⑤</td></tr> <tr><td>11^④</td><td>9^⑤</td></tr> <tr><td>9^④</td><td>11^⑤</td></tr> <tr><td>8^④</td><td>12^⑤</td></tr> <tr><td>8.4^④</td><td>14^⑤</td></tr> <tr><td>8^④</td><td>15^⑤</td></tr> <tr><td>4.5^④</td><td>18^⑤</td></tr> <tr><td>3.9^④</td><td>19^⑤</td></tr> <tr><td>3.2^④</td><td>20^⑤</td></tr> <tr><td>2.11^④</td><td>23^⑤</td></tr> <tr><td>1.2^④</td><td>25^⑤</td></tr> <tr><td>20^④</td><td>4^⑤</td></tr> <tr><td>16^④</td><td>8^⑤</td></tr> <tr><td>12^④</td><td>8^⑤</td></tr> <tr><td>9^④</td><td>11^⑤</td></tr> </tbody> </table> <p>① 機種で統一して記載する仕様項目</p> <p>② 構造分類に係る仕様項目</p> <p>③ 耐火被覆に係る追加仕様項目</p> <p>④ 地盤・基礎に係る追加仕様項目</p>	材料 ^①	板厚 ^② (mm)	必要離隔距離 (m)	炭素鋼 ^③	38 ^④	1 ^⑤	28 ^④	2 ^⑤	22 ^④	3 ^⑤	19 ^④	5 ^⑤	14 ^④	7 ^⑤	13 ^④	8 ^⑤	11 ^④	9 ^⑤	9 ^④	11 ^⑤	8 ^④	12 ^⑤	8.4 ^④	14 ^⑤	8 ^④	15 ^⑤	4.5 ^④	18 ^⑤	3.9 ^④	19 ^⑤	3.2 ^④	20 ^⑤	2.11 ^④	23 ^⑤	1.2 ^④	25 ^⑤	20 ^④	4 ^⑤	16 ^④	8 ^⑤	12 ^④	8 ^⑤	9 ^④	11 ^⑤	<p>要求事項の整理</p> <p>技術基準</p> <p>機能要求^②</p> <p>様式-6, 7</p> <p>主仕様 (詳細設計)</p> <p>第五条</p> <p>安全機能を有する施設</p> <p>2. 地盤</p> <p>安全機能を有する施設のうち、地震の発生によって生じるおそれがあるその安全機能の喪失に起因する放射線による公衆への影響の程度が特に大きい施設 (以下「耐震重要施設」という。) 及びそれらを支持する建物・構築物、若しくは重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設については、自重や運転時の荷重等に加え、その供用中に大きな影響を及ぼすおそれがある地震動 (以下「基準地震動」という。) による地盤力が作用した場合においても、接地圧に対する十分な支持性能を有する地盤に設置する。</p> <p>安全機能を有する施設のうち、耐震重要施設以外の建物・構築物については、自重や運転時の荷重等に加え、耐震重要度分類の各クラスに応じて算定する地盤力が作用した場合、若しくは、重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備以外の常設耐震重要重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設については、自重や運転時の荷重等に加え、代替する機能を有する安全機能を有する施設が属する耐震重要度分類のクラスに適用される地盤力が作用した場合においても、接地圧に対する十分な支持性能を有する地盤に設置する。</p> <p>また、上記の安全機能を有する施設の建物・構築物にあっては、自重や運転時の荷重等と弾性設計用地震動による地震力又は静的地震力との組み合わせにより算定される接地圧について、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の極限支持力に対して、適当な余裕を有するよう設計する。</p> <p>また、上記の安全機能を有する施設の建物・構築物にあっては、自重や運転時の荷重等と静的地震力及び動的な地震力 (Bクラスの共振影響検討に係るもの又はBクラスの施設の機能を代替する常設耐震重要重大事故等対処設備の共振影響検討に係るもの) との組み合わせにより算定される接地圧に対して、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の短期許容支持力を許容限界とする。</p> <p>安全機能を有する施設のうち、Bクラス及びCクラスの施設の地盤、若しくは、重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備以外の常設耐震重要重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設の建物・構築物及び機器・配管系の地盤においては、自重や運転時の荷重等と、静的地震力及び動的な地震力 (Bクラスの共振影響検討に係るもの又はBクラスの施設の機能を代替する常設耐震重要重大事故等対処設備の共振影響検討に係るもの) との組み合わせにより算定される接地圧について、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の短期許容支持力を許容限界とする。</p> <p>安全機能を有する施設のうち、Bクラス及びCクラスの施設の地盤、若しくは、重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備以外の常設耐震重要重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設の建物・構築物及び機器・配管系の地盤においては、自重や運転時の荷重等と、静的地震力及び動的な地震力 (Bクラスの共振影響検討に係るもの又はBクラスの施設の機能を代替する常設耐震重要重大事故等対処設備の共振影響検討に係るもの) との組み合わせにより算定される接地圧について、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の短期許容支持力を許容限界とする。</p> <p>第八条</p> <p>外部からの衝撃による破損防止 (外部火災)</p> <p>熱影響により外部火災防護対象施設の安全機能を損なうおそれがある場合には、1時間耐火の大臣認定を取得した耐火被覆を施工する。駆動部等が耐火被覆を施工できない部材は、遮熱板で囲むことにより安全機能を損なわない設計とする。</p> <p>・支持地盤の極限支持力</p> <p>・マンメイドロックの強度</p> <p>・支持地盤の短期許容支持力</p> <p>・マンメイドロックの強度</p> <p>・耐火被覆種類</p> <p>・耐火被覆厚さ</p> <p>・遮熱板高さ (原動機側)</p> <p>・遮熱板高さ (減速機側)</p>	<p>発電炉類似設備要目表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名</td> <td>タンクベント冷却器</td> <td></td> </tr> <tr> <td>種</td> <td>たて置直管式^{*1}</td> <td></td> </tr> <tr> <td>容量 (設計熱交換量)^{*2}</td> <td>kW/個</td> <td>69.3^{*3, *4}</td> </tr> <tr> <td>管 側 最高使用圧力</td> <td>kPa</td> <td>(負圧) 5</td> </tr> <tr> <td>管 側 最高使用温度</td> <td>℃</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>胴 側 最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td>0.86</td> </tr> <tr> <td>胴 側 最高使用温度</td> <td>℃</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>伝熱面積</td> <td>m²/個</td> <td>16.57^{*3}</td> </tr> <tr> <td>胴 内 径^{*5}</td> <td>mm</td> <td>350^{*3}</td> </tr> <tr> <td>胴 板 厚 さ^{*6}</td> <td>mm</td> <td>(10^{*3})</td> </tr> <tr> <td>胴 板 厚 さ^{*6}</td> <td>mm</td> <td>(10^{*3})</td> </tr> <tr> <td>胴 板 の 形 状 に 係 る 寸 法</td> <td>mm</td> <td>350.0^{*3, *7} (鏡板長径)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>mm</td> <td>87.5^{*3, *7} (鏡板短径の2分の1)</td> </tr> <tr> <td>ガス入口管台外径</td> <td>mm</td> <td>216.3^{*3, *9}</td> </tr> <tr> <td>ガス入口管台厚さ</td> <td>mm</td> <td>(8.2^{*3, *9})</td> </tr> <tr> <td>ガス出口管台外径</td> <td>mm</td> <td>267.4^{*3, *9}</td> </tr> <tr> <td>ガス出口管台厚さ</td> <td>mm</td> <td>(15.1^{*3, *9})</td> </tr> </tbody> </table> <p>(続き)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>胴 内 径^{*10}</td> <td>mm</td> <td>350^{*3}</td> </tr> <tr> <td>胴 板 厚 さ^{*11}</td> <td>mm</td> <td>(10^{*3})</td> </tr> <tr> <td>水入口管台外径</td> <td>mm</td> <td>60.5^{*3, *9}</td> </tr> <tr> <td>水入口管台厚さ</td> <td>mm</td> <td>(8.7^{*3, *9})</td> </tr> <tr> <td>管 板 厚 さ</td> <td>mm</td> <td>(25^{*3})</td> </tr> <tr> <td>伝熱管外径</td> <td>mm</td> <td>25.4^{*3}</td> </tr> <tr> <td>伝熱管厚さ</td> <td>mm</td> <td>(2.6^{*3})</td> </tr> <tr> <td>フランジ厚さ</td> <td>mm</td> <td>(36.0^{*3, *7})</td> </tr> <tr> <td>高 さ^{*12}</td> <td>mm</td> <td>3568^{*3}</td> </tr> <tr> <td>胴 板</td> <td>—</td> <td>SM400A</td> </tr> <tr> <td>胴 板</td> <td>—</td> <td>SM400A</td> </tr> <tr> <td>胴 板</td> <td>—</td> <td>SM400A</td> </tr> <tr> <td>管 板</td> <td>—</td> <td>S25C</td> </tr> <tr> <td>伝熱管</td> <td>—</td> <td>SUS304TB</td> </tr> <tr> <td>フランジ</td> <td>—</td> <td>S25C^{*7}</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記</p> <p>*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形固定管板式」と記載。</p> <p>*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「容量」と記載。</p> <p>*3：公称値を示す。</p> <p>*4：S I 単位に換算したもの。</p> <p>*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室内径」と記載。</p> <p>*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室胴部厚さ」と記載。</p> <p>*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、平成8年9月17日付け発管業発第118号にて届け出した工事計画の部付書類「2 強度計算書」のうち、「2-1 タンクベント冷却器強度計算書」による。</p> <p>*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室鏡板厚さ」と記載。</p> <p>*9：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p> <p>*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体内径」と記載。</p> <p>*11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体厚さ」と記載。</p> <p>*12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載。</p>	名	変更前	変更後	名	タンクベント冷却器		種	たて置直管式 ^{*1}		容量 (設計熱交換量) ^{*2}	kW/個	69.3 ^{*3, *4}	管 側 最高使用圧力	kPa	(負圧) 5	管 側 最高使用温度	℃	65	胴 側 最高使用圧力	MPa	0.86	胴 側 最高使用温度	℃	65	伝熱面積	m ² /個	16.57 ^{*3}	胴 内 径 ^{*5}	mm	350 ^{*3}	胴 板 厚 さ ^{*6}	mm	(10 ^{*3})	胴 板 厚 さ ^{*6}	mm	(10 ^{*3})	胴 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	350.0 ^{*3, *7} (鏡板長径)		mm	87.5 ^{*3, *7} (鏡板短径の2分の1)	ガス入口管台外径	mm	216.3 ^{*3, *9}	ガス入口管台厚さ	mm	(8.2 ^{*3, *9})	ガス出口管台外径	mm	267.4 ^{*3, *9}	ガス出口管台厚さ	mm	(15.1 ^{*3, *9})	名	変更前	変更後	胴 内 径 ^{*10}	mm	350 ^{*3}	胴 板 厚 さ ^{*11}	mm	(10 ^{*3})	水入口管台外径	mm	60.5 ^{*3, *9}	水入口管台厚さ	mm	(8.7 ^{*3, *9})	管 板 厚 さ	mm	(25 ^{*3})	伝熱管外径	mm	25.4 ^{*3}	伝熱管厚さ	mm	(2.6 ^{*3})	フランジ厚さ	mm	(36.0 ^{*3, *7})	高 さ ^{*12}	mm	3568 ^{*3}	胴 板	—	SM400A	胴 板	—	SM400A	胴 板	—	SM400A	管 板	—	S25C	伝熱管	—	SUS304TB	フランジ	—	S25C ^{*7}	個 数	—	1	<p>備考</p> <p>空冷式の熱交換器が発電炉に無い場合、別の型式の熱交換器より冷却機能に係る項目を参照する。</p> <p>管台の概形については、構造図に示す。</p> <p>伝熱管の概形については、構造図に示す。</p> <p>航空機墜落による火災により熱影響がある支持架構の柱等に施す耐火塗装の種類及び厚さを記載する。</p> <p>溢水、化学薬品影響を考慮し、取付箇所の項目を追加。</p> <p>ファンによる冷却機能の担保のために冷却空気流量と原動機の仕様を追加。</p>
材料 ^①	板厚 ^② (mm)	必要離隔距離 (m)																																																																																																																																																							
炭素鋼 ^③	38 ^④	1 ^⑤																																																																																																																																																							
	28 ^④	2 ^⑤																																																																																																																																																							
	22 ^④	3 ^⑤																																																																																																																																																							
	19 ^④	5 ^⑤																																																																																																																																																							
	14 ^④	7 ^⑤																																																																																																																																																							
	13 ^④	8 ^⑤																																																																																																																																																							
	11 ^④	9 ^⑤																																																																																																																																																							
	9 ^④	11 ^⑤																																																																																																																																																							
	8 ^④	12 ^⑤																																																																																																																																																							
	8.4 ^④	14 ^⑤																																																																																																																																																							
	8 ^④	15 ^⑤																																																																																																																																																							
	4.5 ^④	18 ^⑤																																																																																																																																																							
3.9 ^④	19 ^⑤																																																																																																																																																								
3.2 ^④	20 ^⑤																																																																																																																																																								
2.11 ^④	23 ^⑤																																																																																																																																																								
1.2 ^④	25 ^⑤																																																																																																																																																								
20 ^④	4 ^⑤																																																																																																																																																								
16 ^④	8 ^⑤																																																																																																																																																								
12 ^④	8 ^⑤																																																																																																																																																								
9 ^④	11 ^⑤																																																																																																																																																								
名	変更前	変更後																																																																																																																																																							
名	タンクベント冷却器																																																																																																																																																								
種	たて置直管式 ^{*1}																																																																																																																																																								
容量 (設計熱交換量) ^{*2}	kW/個	69.3 ^{*3, *4}																																																																																																																																																							
管 側 最高使用圧力	kPa	(負圧) 5																																																																																																																																																							
管 側 最高使用温度	℃	65																																																																																																																																																							
胴 側 最高使用圧力	MPa	0.86																																																																																																																																																							
胴 側 最高使用温度	℃	65																																																																																																																																																							
伝熱面積	m ² /個	16.57 ^{*3}																																																																																																																																																							
胴 内 径 ^{*5}	mm	350 ^{*3}																																																																																																																																																							
胴 板 厚 さ ^{*6}	mm	(10 ^{*3})																																																																																																																																																							
胴 板 厚 さ ^{*6}	mm	(10 ^{*3})																																																																																																																																																							
胴 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	350.0 ^{*3, *7} (鏡板長径)																																																																																																																																																							
	mm	87.5 ^{*3, *7} (鏡板短径の2分の1)																																																																																																																																																							
ガス入口管台外径	mm	216.3 ^{*3, *9}																																																																																																																																																							
ガス入口管台厚さ	mm	(8.2 ^{*3, *9})																																																																																																																																																							
ガス出口管台外径	mm	267.4 ^{*3, *9}																																																																																																																																																							
ガス出口管台厚さ	mm	(15.1 ^{*3, *9})																																																																																																																																																							
名	変更前	変更後																																																																																																																																																							
胴 内 径 ^{*10}	mm	350 ^{*3}																																																																																																																																																							
胴 板 厚 さ ^{*11}	mm	(10 ^{*3})																																																																																																																																																							
水入口管台外径	mm	60.5 ^{*3, *9}																																																																																																																																																							
水入口管台厚さ	mm	(8.7 ^{*3, *9})																																																																																																																																																							
管 板 厚 さ	mm	(25 ^{*3})																																																																																																																																																							
伝熱管外径	mm	25.4 ^{*3}																																																																																																																																																							
伝熱管厚さ	mm	(2.6 ^{*3})																																																																																																																																																							
フランジ厚さ	mm	(36.0 ^{*3, *7})																																																																																																																																																							
高 さ ^{*12}	mm	3568 ^{*3}																																																																																																																																																							
胴 板	—	SM400A																																																																																																																																																							
胴 板	—	SM400A																																																																																																																																																							
胴 板	—	SM400A																																																																																																																																																							
管 板	—	S25C																																																																																																																																																							
伝熱管	—	SUS304TB																																																																																																																																																							
フランジ	—	S25C ^{*7}																																																																																																																																																							
個 数	—	1																																																																																																																																																							

仕様表記載例 4-4 【機種：熱交換器】

[常設] [構造分類：冷凍機] [付属構造：-]

既認可の仕様表		仕様表案		要求事項の整理		発電炉類似設備要目表		備考																																																																																																																																											
<p>構造図で展開。</p> <table border="1"> <tr> <th>備考</th> <th>構造</th> <th>種類</th> <th>主要材料</th> <th>寸法</th> <th>最高使用温度</th> <th>最高使用圧力</th> <th>容量</th> <th>耐震</th> <th>名称</th> </tr> <tr> <td></td> <td>u-22</td> <td>r-4</td> <td>b-1</td> <td>h-1</td> <td>h-1</td> <td>h-1</td> <td></td> <td></td> <td>安全冷水A B 冷凍機</td> </tr> </table> <p>主要設備リストで展開</p> <p>添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除</p> <p>単線結線図で展開</p>		備考	構造	種類	主要材料	寸法	最高使用温度	最高使用圧力	容量	耐震	名称		u-22	r-4	b-1	h-1	h-1	h-1			安全冷水A B 冷凍機	<p>構造図で展開。</p> <table border="1"> <tr> <th>備考</th> <th>構造</th> <th>種類</th> <th>主要材料</th> <th>寸法</th> <th>最高使用温度</th> <th>最高使用圧力</th> <th>容量</th> <th>耐震</th> <th>名称</th> </tr> <tr> <td></td> <td>2</td> <td>2¹⁾</td> <td>1¹⁾</td> <td>1¹⁾</td> <td>1¹⁾</td> <td>1¹⁾</td> <td></td> <td></td> <td>安全冷水A B 冷凍機</td> </tr> </table> <p>注記 1) : 2018.2.2.2.2.2.1 図 安全冷水系 一部の取外し可能な機器等の構造図中の当該機器の該当番号を示す。 2) : A.S. / 号の安全冷水の配管の寸法を示す。 3) : 1.0mmの公差を示す。 4) : 外径を示す。 5) : 上部の管台を含めた高さを示す。 6) : 本図面は、非常用取付部を指す。</p>		備考	構造	種類	主要材料	寸法	最高使用温度	最高使用圧力	容量	耐震	名称		2	2 ¹⁾	1 ¹⁾	1 ¹⁾	1 ¹⁾	1 ¹⁾			安全冷水A B 冷凍機	<p>熱交換器に係る要求事項は4-1と同様</p>		<p><発電炉要目表なし></p>		<p>備考</p>																																																																																																			
備考	構造	種類	主要材料	寸法	最高使用温度	最高使用圧力	容量	耐震	名称																																																																																																																																										
	u-22	r-4	b-1	h-1	h-1	h-1			安全冷水A B 冷凍機																																																																																																																																										
備考	構造	種類	主要材料	寸法	最高使用温度	最高使用圧力	容量	耐震	名称																																																																																																																																										
	2	2 ¹⁾	1 ¹⁾	1 ¹⁾	1 ¹⁾	1 ¹⁾			安全冷水A B 冷凍機																																																																																																																																										
<p>注記 1) : 2018.2.2.2.2.2.1 図 安全冷水系 一部の取外し可能な機器等の構造図中の当該機器の該当番号を示す。 2) : A.S. / 号の安全冷水の配管の寸法を示す。 3) : 1.0mmの公差を示す。 4) : 外径を示す。 5) : 上部の管台を含めた高さを示す。 6) : 本図面は、非常用取付部を指す。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">種類</td> <td>安全冷水A 冷凍機 (〇〇-〇〇)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>設計熱交換量</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">最高使用圧力</td> <td>スクリーン圧縮機</td> <td>kW/個</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>油分離器</td> <td>MPa</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>凝縮器</td> <td>MPa</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>油冷却器</td> <td>MPa</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">最高使用温度</td> <td>スクリーン圧縮機</td> <td>°C</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>油分離器</td> <td>°C</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>凝縮器</td> <td>°C</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>油冷却器</td> <td>°C</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">伝熱面積</td> <td>m²/個</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="12">主要寸法</td> <td>スクリーン圧縮機</td> <td>高さ^{*2}</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">油分離器</td> <td>胴内径^{*3}</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>胴板厚さ^{*4}</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>鏡板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1*6}</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">凝縮器</td> <td>鏡板長径</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1*6}</td> </tr> <tr> <td>鏡板短径</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1*6}</td> </tr> <tr> <td>高さ^{*2}</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1*7}</td> </tr> <tr> <td>胴内径^{*3}</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">油冷却器</td> <td>胴板厚さ^{*4}</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>鏡板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1*6}</td> </tr> <tr> <td>鏡板長径</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1*6}</td> </tr> <tr> <td>鏡板短径</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1*6}</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要材料</td> <td>スクリーン圧縮機</td> <td>胴板</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>油分離器</td> <td>鏡板</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>凝縮器</td> <td>胴板</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>油冷却器</td> <td>鏡板</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>鏡板</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>胴板</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>鏡板</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">個数</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">設置床</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">化学薬品防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">化学薬品防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> </tbody> </table> <p>変更なし</p>		名称		変更前	変更後	種類		安全冷水A 冷凍機 (〇〇-〇〇)		容量	設計熱交換量	—	〇〇	最高使用圧力	スクリーン圧縮機	kW/個	〇〇	油分離器	MPa	〇〇	凝縮器	MPa	〇〇	油冷却器	MPa	〇〇	最高使用温度	スクリーン圧縮機	°C	〇〇	油分離器	°C	〇〇	凝縮器	°C	〇〇	油冷却器	°C	〇〇	伝熱面積		m ² /個	〇〇	主要寸法	スクリーン圧縮機	高さ ^{*2}	mm	〇〇 ^{*1}	油分離器	胴内径 ^{*3}	mm	〇〇 ^{*1}	胴板厚さ ^{*4}	mm	〇〇 ^{*1}	鏡板厚さ	mm	〇〇 ^{*1*6}	凝縮器	鏡板長径	mm	〇〇 ^{*1*6}	鏡板短径	mm	〇〇 ^{*1*6}	高さ ^{*2}	mm	〇〇 ^{*1*7}	胴内径 ^{*3}	mm	〇〇 ^{*1}	油冷却器	胴板厚さ ^{*4}	mm	〇〇 ^{*1}	鏡板厚さ	mm	〇〇 ^{*1*6}	鏡板長径	mm	〇〇 ^{*1*6}	鏡板短径	mm	〇〇 ^{*1*6}	主要材料	スクリーン圧縮機	胴板	—	〇〇	油分離器	鏡板	—	〇〇	凝縮器	胴板	—	〇〇	取付箇所	油冷却器	鏡板	—	〇〇	鏡板	—	〇〇	胴板	—	〇〇	鏡板	—	〇〇	個数		—	〇〇	系統名 (ライン名)		—	〇〇	設置床		—	〇〇	溢水防護上の区画番号		—	〇〇	溢水防護上の配慮が必要な高さ		—	〇〇	化学薬品防護上の区画番号		—	〇〇	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ		—	〇〇	<p>注記 *1: 公称値を示す。 *2: 記載の適正化を行う。既設工認申請書には「H」と記載。 *3: 記載の適正化を行う。既設工認申請書には「D」と記載。 *4: 記載の適正化を行う。既設工認申請書には「t」と記載。 *5: 記載の適正化を行う。既設工認申請書には「L」と記載。 *6: 既設工認の仕様表に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *7: 上部の管台を含めた高さを示す。</p>		<table border="1"> <tr> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> </table>		機種で統一して記載する仕様項目	構造分類に係る仕様項目
名称		変更前	変更後																																																																																																																																																
種類		安全冷水A 冷凍機 (〇〇-〇〇)																																																																																																																																																	
容量	設計熱交換量	—	〇〇																																																																																																																																																
最高使用圧力	スクリーン圧縮機	kW/個	〇〇																																																																																																																																																
	油分離器	MPa	〇〇																																																																																																																																																
	凝縮器	MPa	〇〇																																																																																																																																																
	油冷却器	MPa	〇〇																																																																																																																																																
最高使用温度	スクリーン圧縮機	°C	〇〇																																																																																																																																																
	油分離器	°C	〇〇																																																																																																																																																
	凝縮器	°C	〇〇																																																																																																																																																
	油冷却器	°C	〇〇																																																																																																																																																
伝熱面積		m ² /個	〇〇																																																																																																																																																
主要寸法	スクリーン圧縮機	高さ ^{*2}	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																															
	油分離器	胴内径 ^{*3}	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																															
		胴板厚さ ^{*4}	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																															
		鏡板厚さ	mm	〇〇 ^{*1*6}																																																																																																																																															
	凝縮器	鏡板長径	mm	〇〇 ^{*1*6}																																																																																																																																															
		鏡板短径	mm	〇〇 ^{*1*6}																																																																																																																																															
		高さ ^{*2}	mm	〇〇 ^{*1*7}																																																																																																																																															
		胴内径 ^{*3}	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																															
	油冷却器	胴板厚さ ^{*4}	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																															
		鏡板厚さ	mm	〇〇 ^{*1*6}																																																																																																																																															
		鏡板長径	mm	〇〇 ^{*1*6}																																																																																																																																															
		鏡板短径	mm	〇〇 ^{*1*6}																																																																																																																																															
主要材料	スクリーン圧縮機	胴板	—	〇〇																																																																																																																																															
	油分離器	鏡板	—	〇〇																																																																																																																																															
	凝縮器	胴板	—	〇〇																																																																																																																																															
取付箇所	油冷却器	鏡板	—	〇〇																																																																																																																																															
	鏡板	—	〇〇																																																																																																																																																
	胴板	—	〇〇																																																																																																																																																
	鏡板	—	〇〇																																																																																																																																																
個数		—	〇〇																																																																																																																																																
系統名 (ライン名)		—	〇〇																																																																																																																																																
設置床		—	〇〇																																																																																																																																																
溢水防護上の区画番号		—	〇〇																																																																																																																																																
溢水防護上の配慮が必要な高さ		—	〇〇																																																																																																																																																
化学薬品防護上の区画番号		—	〇〇																																																																																																																																																
化学薬品防護上の配慮が必要な高さ		—	〇〇																																																																																																																																																
機種で統一して記載する仕様項目																																																																																																																																																			
構造分類に係る仕様項目																																																																																																																																																			

仕様表記載例 4-5 【機種：熱交換器】

[常設] [構造分類：ボイラ] [付属構造：-]

既認可の仕様表		仕様表案		要求事項の整理		発電炉類似設備要目表		備考						
備考		名称	変更前	変更後	熱交換器に係る要求事項は4-1と同様		補助ボイラ							
構造 ¹⁾	〇〇	種類	蒸気発生器 (0000-00)				種 類		-					
個数	〇〇	容量	蒸気発生量 t/h	〇〇			最大蒸発量		t/h/個					
主要材料	胴板	最高使用圧力	管側	MPa (内圧)〇〇 ²⁾ /(外圧)〇〇 ²⁾			最高使用圧力		MPa					
			胴側	MPa (内圧)〇〇 ²⁾ /(外圧)〇〇 ²⁾			最高使用圧力		MPa					
寸法	L (mm)	最高使用温度	管側	°C 〇〇 ³⁾			最高使用温度		°C					
			胴側	°C 〇〇 ³⁾			最高使用温度		°C					
			t (mm)	〇〇			伝熱面積		放射加熱部	m ²				
D (mm)	-	容量 (t/個)	〇〇			伝熱面積		接触加熱部	m ²					
			耐腐クラス	〇〇			伝熱面積		計	m ²				
							排出ガス量		m ³ /h/個 [normal]	2.90×10 ⁴ (湿りガス)				
機器の種類	-	機器の種類	-				ばい煙量		m ³ /h/個 [normal]					
名称	蒸気発生器 (0000-0000)	名称	蒸気発生器 (0000-00)				ばい煙濃度		g/m ³ [normal]					
注記 1) : 第4.2.3.2-1図 分配設備 その他の重要な機器等の構造中の当該機器の該当番号を示す。 2) : 単位は (kg/cm ²)。		注記 *1: 公称値を示す。 *2: 記載の適正化を行う。既設工認申請書には「D」と記載。 *3: 記載の適正化を行う。既設工認申請書には「t」と記載。 *4: 記載の適正化を行う。既設工認申請書には「L」と記載。 *5: 重大事故時等における使用時の値を示す。 *6: 既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。				ばい煙濃度		空素酸化物濃度 ppm	150 (O ₂ 4%換算乾きガス中)					
添付書類に位置づけを変更したため、記載を削除		主要設備リストで展開。		旧単位系記載のため、SI単位系表記に統一することに伴い適正化。		個数		-	2					
		<table border="1"> <tr> <td>〇〇</td> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td>〇〇</td> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> </table>		〇〇	機種で統一して記載する仕様項目	〇〇	構造分類に係る仕様項目							
〇〇	機種で統一して記載する仕様項目													
〇〇	構造分類に係る仕様項目													

仕様表記載例 5a-1【機種：ポンプ】

[常設] [構造分類：うず巻式] [付属構造：-]

既認可の仕様表				仕様表案				要求事項の整理		発電炉類似設備要目表			備考																																																																																																																																																																																																																																																														
<p>主要設備リストで展開。</p> <table border="1"> <tr><td>名称</td><td>-</td><td>プール水浄化系ポンプ (燃料取出しピット水ポンプ) A、B (0000-00)</td></tr> <tr><td>種類</td><td>-</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>耐震クラス</td><td>-</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>定格容量</td><td>m³/h/個</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>定格揚程</td><td>m</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>主要材料 ケーシング 個数</td><td>-</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>種類</td><td>-</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>出力</td><td>kW/個</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>個数</td><td>-</td><td>〇〇</td></tr> </table> <p>構造図：第 3.1.2.4.2-3 図に示す。</p> <p>添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除</p>				名称	-	プール水浄化系ポンプ (燃料取出しピット水ポンプ) A、B (0000-00)	種類	-	〇〇	耐震クラス	-	〇〇	定格容量	m ³ /h/個	〇〇	定格揚程	m	〇〇	主要材料 ケーシング 個数	-	〇〇	種類	-	〇〇	出力	kW/個	〇〇	個数	-	〇〇	<table border="1"> <tr><td>名称</td><td>-</td><td>プール水浄化系ポンプ (燃料取出しピット水ポンプ) A、B (0000-00)</td><td>変更前</td><td>変更後</td></tr> <tr><td>種類</td><td>-</td><td>〇〇</td><td>〇〇</td><td>変更なし</td></tr> <tr><td>容量^{*2}</td><td>m³/h/個</td><td>〇〇</td><td>〇〇</td><td></td></tr> <tr><td>揚程^{*3}</td><td>m</td><td>〇〇</td><td>〇〇</td><td></td></tr> <tr><td>最高使用圧力</td><td>MPa</td><td>〇〇^{*4}</td><td>〇〇^{*4}</td><td></td></tr> <tr><td>最高使用温度</td><td>℃</td><td>〇〇^{*4}</td><td>〇〇^{*4}</td><td></td></tr> <tr><td>吸込口径</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td><td>〇〇^{*1}</td><td></td></tr> <tr><td>吐出口径</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td><td>〇〇^{*1}</td><td></td></tr> <tr><td>ケーシング厚さ</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td><td>〇〇^{*1}</td><td></td></tr> <tr><td>たて</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td><td>〇〇^{*1}</td><td></td></tr> <tr><td>横</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td><td>〇〇^{*1}</td><td></td></tr> <tr><td>高さ</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td><td>〇〇^{*1}</td><td></td></tr> <tr><td>ケーシング 個数</td><td>-</td><td>〇〇</td><td>〇〇</td><td></td></tr> <tr><td>系統名 (ライン名)</td><td>-</td><td>〇〇</td><td>〇〇</td><td></td></tr> <tr><td>設置床</td><td>-</td><td>〇〇</td><td>〇〇</td><td></td></tr> <tr><td>溢水防護上の区画番号</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>化学薬品防護上の区画番号</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>化学薬品防護上の配慮が必要な高さ</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>種類</td><td>-</td><td>〇〇</td><td>〇〇</td><td></td></tr> <tr><td>出力</td><td>kW/個</td><td>〇〇</td><td>〇〇</td><td></td></tr> <tr><td>個数</td><td>-</td><td>〇〇</td><td>〇〇</td><td></td></tr> <tr><td>取付箇所</td><td>-</td><td>〇〇</td><td>〇〇</td><td></td></tr> </table> <p>注記</p> <ul style="list-style-type: none"> *1：公称値を示す。 *2：記載の適正化。既設工認申請書には「定格容量」と記載。 *3：記載の適正化。既設工認申請書には「定格揚程」と記載。 *4：重大事故時等における使用時の値を示す。 *5：既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。 <table border="1"> <tr><td>機種で統一して記載する仕様項目</td></tr> <tr><td>構造分類に係る仕様項目</td></tr> </table>				名称	-	プール水浄化系ポンプ (燃料取出しピット水ポンプ) A、B (0000-00)	変更前	変更後	種類	-	〇〇	〇〇	変更なし	容量 ^{*2}	m ³ /h/個	〇〇	〇〇		揚程 ^{*3}	m	〇〇	〇〇		最高使用圧力	MPa	〇〇 ^{*4}	〇〇 ^{*4}		最高使用温度	℃	〇〇 ^{*4}	〇〇 ^{*4}		吸込口径	mm	〇〇 ^{*1}	〇〇 ^{*1}		吐出口径	mm	〇〇 ^{*1}	〇〇 ^{*1}		ケーシング厚さ	mm	〇〇 ^{*1}	〇〇 ^{*1}		たて	mm	〇〇 ^{*1}	〇〇 ^{*1}		横	mm	〇〇 ^{*1}	〇〇 ^{*1}		高さ	mm	〇〇 ^{*1}	〇〇 ^{*1}		ケーシング 個数	-	〇〇	〇〇		系統名 (ライン名)	-	〇〇	〇〇		設置床	-	〇〇	〇〇		溢水防護上の区画番号	-	-	-	〇〇	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	-	-	〇〇	化学薬品防護上の区画番号	-	-	-	〇〇	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	-	-	-	〇〇	種類	-	〇〇	〇〇		出力	kW/個	〇〇	〇〇		個数	-	〇〇	〇〇		取付箇所	-	〇〇	〇〇		機種で統一して記載する仕様項目	構造分類に係る仕様項目	<p>ポンプに係る要求事項は次頁に示す。</p>		<p>(2) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)</p> <p>・常設</p> <table border="1"> <tr><td>名称</td><td>-</td><td>燃料プール冷却浄化系ポンプ^{*1}</td><td>変更前</td><td>変更後</td></tr> <tr><td>種類</td><td>-</td><td>うず巻形^{*2}</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>容量</td><td>m³/h/個</td><td>124.9以上^{*3} (124.9^{*4})</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>揚程^{*5}</td><td>m</td><td>91.4以上^{*3} (91.4^{*4})</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>最高使用圧力</td><td>MPa</td><td>1.37^{*5}</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>最高使用温度</td><td>℃</td><td>65.6^{*5}</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>吸込内径</td><td>mm</td><td>150^{*4、*6}</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>吐出内径</td><td>mm</td><td>80^{*4、*6}</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>ケーシング厚さ</td><td>mm</td><td>14.0^{*3、*4}</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>たて</td><td>mm</td><td>185^{*4、*6}</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>横</td><td>mm</td><td>968^{*3、*4}</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>高さ</td><td>mm</td><td>704^{*4、*6}</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>材料 ケーシング^{*7}</td><td>-</td><td>SC46</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>個数</td><td>-</td><td>2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>系統名 (ライン名)</td><td>-</td><td>燃料プール冷却浄化系ポンプ 燃料プール冷却浄化系^{*8}</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>設置床</td><td>-</td><td>EL.29.00 m^{*3}</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>溢水防護上の区画番号</td><td>-</td><td>-</td><td></td><td>RB-4-19</td></tr> <tr><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>-</td><td>-</td><td></td><td>EL.29.20 m 以上</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><td>種類</td><td>-</td><td>誘導電動機^{*8}</td><td>変更前</td><td>変更後</td></tr> <tr><td>出力</td><td>kW/個</td><td>55</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>個数</td><td>-</td><td>2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>取付箇所</td><td>-</td><td>ポンプと同じ^{*2}</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>注記</p> <ul style="list-style-type: none"> *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「ポンプ」と記載。 *2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「横軸単段うず巻型」と記載。 *3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *4：公称値を示す。 *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全揚程」と記載。 *6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 51 年 8 月 30 日付け建築第 98 号にて届け出した工事計画書の添付図面「第 6-5 図 燃料プール冷却浄化系ポンプ外形図」による。 *7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鋼」と記載。 *8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「三相誘導電動機」と記載。 			名称	-	燃料プール冷却浄化系ポンプ ^{*1}	変更前	変更後	種類	-	うず巻形 ^{*2}			容量	m ³ /h/個	124.9以上 ^{*3} (124.9 ^{*4})			揚程 ^{*5}	m	91.4以上 ^{*3} (91.4 ^{*4})			最高使用圧力	MPa	1.37 ^{*5}			最高使用温度	℃	65.6 ^{*5}			吸込内径	mm	150 ^{*4、*6}			吐出内径	mm	80 ^{*4、*6}			ケーシング厚さ	mm	14.0 ^{*3、*4}			たて	mm	185 ^{*4、*6}			横	mm	968 ^{*3、*4}			高さ	mm	704 ^{*4、*6}			材料 ケーシング ^{*7}	-	SC46			個数	-	2			系統名 (ライン名)	-	燃料プール冷却浄化系ポンプ 燃料プール冷却浄化系 ^{*8}			設置床	-	EL.29.00 m ^{*3}			溢水防護上の区画番号	-	-		RB-4-19	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	-		EL.29.20 m 以上	種類	-	誘導電動機 ^{*8}	変更前	変更後	出力	kW/個	55			個数	-	2			取付箇所	-	ポンプと同じ ^{*2}			
名称	-	プール水浄化系ポンプ (燃料取出しピット水ポンプ) A、B (0000-00)																																																																																																																																																																																																																																																																									
種類	-	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																									
耐震クラス	-	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																									
定格容量	m ³ /h/個	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																									
定格揚程	m	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																									
主要材料 ケーシング 個数	-	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																									
種類	-	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																									
出力	kW/個	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																									
個数	-	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																									
名称	-	プール水浄化系ポンプ (燃料取出しピット水ポンプ) A、B (0000-00)	変更前	変更後																																																																																																																																																																																																																																																																							
種類	-	〇〇	〇〇	変更なし																																																																																																																																																																																																																																																																							
容量 ^{*2}	m ³ /h/個	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																								
揚程 ^{*3}	m	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																								
最高使用圧力	MPa	〇〇 ^{*4}	〇〇 ^{*4}																																																																																																																																																																																																																																																																								
最高使用温度	℃	〇〇 ^{*4}	〇〇 ^{*4}																																																																																																																																																																																																																																																																								
吸込口径	mm	〇〇 ^{*1}	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																																																																																																																								
吐出口径	mm	〇〇 ^{*1}	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																																																																																																																								
ケーシング厚さ	mm	〇〇 ^{*1}	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																																																																																																																								
たて	mm	〇〇 ^{*1}	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																																																																																																																								
横	mm	〇〇 ^{*1}	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																																																																																																																								
高さ	mm	〇〇 ^{*1}	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																																																																																																																								
ケーシング 個数	-	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																								
系統名 (ライン名)	-	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																								
設置床	-	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																								
溢水防護上の区画番号	-	-	-	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																							
溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	-	-	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																							
化学薬品防護上の区画番号	-	-	-	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																							
化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	-	-	-	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																							
種類	-	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																								
出力	kW/個	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																								
個数	-	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																								
取付箇所	-	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																								
機種で統一して記載する仕様項目																																																																																																																																																																																																																																																																											
構造分類に係る仕様項目																																																																																																																																																																																																																																																																											
名称	-	燃料プール冷却浄化系ポンプ ^{*1}	変更前	変更後																																																																																																																																																																																																																																																																							
種類	-	うず巻形 ^{*2}																																																																																																																																																																																																																																																																									
容量	m ³ /h/個	124.9以上 ^{*3} (124.9 ^{*4})																																																																																																																																																																																																																																																																									
揚程 ^{*5}	m	91.4以上 ^{*3} (91.4 ^{*4})																																																																																																																																																																																																																																																																									
最高使用圧力	MPa	1.37 ^{*5}																																																																																																																																																																																																																																																																									
最高使用温度	℃	65.6 ^{*5}																																																																																																																																																																																																																																																																									
吸込内径	mm	150 ^{*4、*6}																																																																																																																																																																																																																																																																									
吐出内径	mm	80 ^{*4、*6}																																																																																																																																																																																																																																																																									
ケーシング厚さ	mm	14.0 ^{*3、*4}																																																																																																																																																																																																																																																																									
たて	mm	185 ^{*4、*6}																																																																																																																																																																																																																																																																									
横	mm	968 ^{*3、*4}																																																																																																																																																																																																																																																																									
高さ	mm	704 ^{*4、*6}																																																																																																																																																																																																																																																																									
材料 ケーシング ^{*7}	-	SC46																																																																																																																																																																																																																																																																									
個数	-	2																																																																																																																																																																																																																																																																									
系統名 (ライン名)	-	燃料プール冷却浄化系ポンプ 燃料プール冷却浄化系 ^{*8}																																																																																																																																																																																																																																																																									
設置床	-	EL.29.00 m ^{*3}																																																																																																																																																																																																																																																																									
溢水防護上の区画番号	-	-		RB-4-19																																																																																																																																																																																																																																																																							
溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	-		EL.29.20 m 以上																																																																																																																																																																																																																																																																							
種類	-	誘導電動機 ^{*8}	変更前	変更後																																																																																																																																																																																																																																																																							
出力	kW/個	55																																																																																																																																																																																																																																																																									
個数	-	2																																																																																																																																																																																																																																																																									
取付箇所	-	ポンプと同じ ^{*2}																																																																																																																																																																																																																																																																									

仕様表記載例 5a-1【機種：ポンプ】

[常設][構造分類：うず巻き][付属構造：ー]

要求事項の整理

要求事項の整理		備考
技術基準	機能要求② 様式-6,7	主な仕様 (詳細設計)
第十条 閉じ込めの機能	安全機能を有する施設は、使用済燃料等から発生する崩壊熱を適切に除去することとし、使用済燃料等を含む溶液の崩壊熱による機器内での沸騰を防止する設計とする。 液体状の使用済燃料等を内包する系統及び機器を収納するセル等の床にはステンレス鋼製の漏えい液受皿を設置し、万一液体状の使用済燃料等がセル等に漏えいした場合は、漏えい検知装置により漏えいを検知し、漏えいの拡大を防止するとともに、スチームジェットポンプ、ポンプ又は重力流により漏えいした液の性状に応じて定めた移送先に移送することで、安全に処理できる設計とする。 管理区域外から液体状の使用済燃料等を内包するセル内の設備へ冷却水、加熱蒸気、その他の熱媒を供給する場合は、管理区域内で熱交換器を介することで、使用済燃料等を含む流体を環境に流出しない設計とする。	・容量 ・吐出圧力 ・主要材料 ・主要寸法 ・原動機 ・容量 ・吐出圧力 ・原動機 ・容量
第十一条 第三十五条 火災等による損傷の防止	(1) 消火設備の消火剤の容量 消火設備は、想定される火災の性質に応じた十分な容量として、消防法施行規則、又は試験により確認した消火剤容量を配備する設計とする。 (2) 消火設備の系統構成 a. 消火用水供給系の多重性又は多様性 消火用水供給系の水源として、ろ過水貯槽（廃棄物管理施設、MOX燃料加工施設と共用（以下同じ。））及び消火用水貯槽（廃棄物管理施設、MOX燃料加工施設と共用（以下同じ。））を設置し、多重性を有する設計とする。 緊急時対策建屋の消火用水供給系の水源は、消火水槽、建屋近傍に防火水槽を設置し、多重性を有する設計とする。 消火用水系の消火ポンプは、必要量を送水可能な電動機駆動消火ポンプ（廃棄物管理施設、MOX燃料加工施設と共用（以下同じ。））に加え、ディーゼル駆動消火ポンプ（廃棄物管理施設、MOX燃料加工施設と共用（以下同じ。））を1台ずつ設置することで、多様性を有する設計とする。また、消火配管内を加圧状態に保持するため、機器の単一故障を想定し、圧力調整用消火ポンプ（廃棄物管理施設、MOX燃料加工施設と共用（以下同じ。））を2基設ける設計とする。 また、緊急時対策建屋の消火ポンプは電動駆動消火ポンプを2台設置することで、多重性を有する設計とする。	・名称 ・種類 ・容量 ・出力 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・材料 ・個数 ・取付箇所 ・原動機
第十二条 溢水防護	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。 防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号
第十三条 化学薬品防護	発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。 防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水（以下「没液」という。）により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号
第十七条 第三十七条 材料及び構造	a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。 b. 常設重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。 a. 容器等は、最高使用圧力、最高使用温度及び機械的荷重が負荷されている状態（以下「設計上定める条件」という。）において、全体的な変形を弾性域に抑える設計とする。 (3) 座屈による破壊の防止 容器等は、設計上定める条件において、座屈が生じない設計とする。	・主要材料 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料
第十九条 使用済燃料の貯蔵施設等	プール水冷却系は、2系列あり、熱交換器3基及びポンプ3台を設置する。 プール水は、その他再処理設備の附属施設の安全冷却水系からプール水冷却系に供給する冷却水と熱交換器を介して熱交換し、冷却される。 プール水冷却系は、燃料貯蔵プール・ビット等を使用済燃料集合体を容量いっぱい貯蔵した場合でも、1系列で崩壊熱を除去し、燃料貯蔵プール水温を65℃以下に保ち、燃料貯蔵プール・ビット等の構造物の健全性を維持できる設計とする。 2系列運転の場合は、燃料貯蔵プールの水温を50℃以下に維持する設計とする。 プール水浄化系は、水の純度及び透明度を維持するため、燃料取出しビット、燃料仮置きビット及びチャンネルボックス・バーナブルボイゾン取扱ビットの越流せきから越流するプール水をポンプで昇圧し、ろ過装置及び脱塩装置でろ過及び脱塩した後、燃料取出しビット、燃料仮置きビット及びチャンネルボックス・バーナブルボイゾン取扱ビットへ戻す設計とする。また、燃料貯蔵プール及び燃料送出しビットから越流するプール水を、ポンプで昇圧し、一部を脱塩装置で脱塩した後、燃料貯蔵プール及び燃料送出しビットへ戻す設計とする。 補給水設備は、補給水槽に貯蔵した水を燃料取出し準備設備、プール水浄化系、燃料貯蔵プール・ビット等、燃焼度計測装置、液体廃棄物の廃棄施設（低レベル廃液処理設備の一部）及び固体廃棄物の廃棄施設（廃樹脂貯蔵系の一部）にそれぞれの要求に応じて補給でき、プール水位を所定のレベルに保つことにより、プール水による崩壊熱の除去機能及び遮蔽機能が確保できる設計とする。	・容量 ・揚程又は吐出圧力 ・原動機
第三十条 第五十条 緊急時対策所	緊急時対策建屋電源設備の燃料油移送ポンプは、多重性を有する設計とする。 MOX燃料加工施設と共用する緊急時対策建屋電源設備の燃料油移送ポンプは、緊急時対策建屋用発電機の連続運転に必要な燃料を供給できるポンプ容量を有する台数及び、動機機器の単一故障を考慮した予備を含めた台数以上設置することで、多重性を有する設計とする。	・名称 ・種類 ・個数 ・取付箇所 ・容量 ・揚程 ・最高使用温度 ・最高使用圧力 ・主要寸法 ・主要材料 ・原動機
第三十九条 冷却機能の喪失による蒸発乾固に対処するための設備	代替安全冷却水系の可搬型中型移送ポンプは、「冷却機能の喪失による蒸発乾固」の発生を仮定する機器に内包する溶液の冷却、同機器への注水及び代替換気設備のセル導出設備の凝縮器が所定の除熱能力を発揮するために必要な給水流量を有する設計とする。また、保有数は、必要数並びに予備として故障時及び保守点検による待機除外時のバックアップを含め十分な台数以上を確保する設計とする。 代替安全冷却水系の可搬型中型移送ポンプは、同時に発生する可能性のある事故への対処も含めて必要な容量を確保する設計とする。	・容量 ・吐出圧力 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料 ・個数 ・取付箇所 ・原動機
第四十二条 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための設備	代替注水設備は、燃料仮置きビット、燃料貯蔵プール及び燃料送出しビット（以下、「燃料貯蔵プール等」という。）の冷却機能又は注水機能が喪失し、又は燃料貯蔵プール等からの小規模な水の漏えいその他の要因により燃料貯蔵プール等の水位が低下した場合において、燃料貯蔵プール等へ注水し水位を維持することにより、使用済燃料を冷却し、及び放射線を遮蔽できる設計とする。 代替注水設備の可搬型中型移送ポンプは、燃料貯蔵プール等へ注水するために必要な注水流量を有する設計とする。また、保有数は、必要数並びに予備として故障時及び点検保守による待機除外時のバックアップを含め十分な台数以上を確保する設計とする。	・容量 ・吐出圧力 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料 ・個数 ・取付箇所 ・原動機
第四十四条	燃料貯蔵プール等からの大量の水の漏えいその他の要因により燃料貯蔵プール等の水位が異常に低下し、工場等外への放射線の放出に至るおそれがある場合、工場等外への放射線の放出を抑制するために、大型移送ポンプ車から供給する水を、可搬型建屋外ホース及び可搬型建屋内ホースを介して燃料貯蔵プール等へ注水できる設計とする。	・種類 ・容量 ・吐出圧力

仕様表記載例 5a-1 【機種：ポンプ】

[常設] [構造分類：うず巻式] [付属構造：－]

要求事項の整理

要求事項の整理			備考	
工場等外への放射性物質等の放出を抑制するための設備		<ul style="list-style-type: none"> ・主要寸法 ・主要材料 ・原動機 ・取付箇所 ・個数 		
		注水設備の大型移送ポンプ車は、燃料貯蔵プール等へ大容量の注水を行うための必要な容量を有する設計とする。		<ul style="list-style-type: none"> ・容量
		燃料貯蔵プール等への水のスプレーで使用する大型移送ポンプ車は、燃料貯蔵プール等へ水をスプレーするために必要な容量を有する設計とするとともに、保有数は、必要な台数を有する設計とし、「7.13.1 放水設備」の大型移送ポンプ車を兼用する。		<ul style="list-style-type: none"> ・個数
		注水設備の大型移送ポンプ車は、汽水の影響に対して耐腐食性材料を使用する設計とする。		<ul style="list-style-type: none"> ・主要材料
		使用済燃料受入れ・貯蔵建屋、前処理建屋、分離建屋、精製建屋、ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋及び高レベル廃液ガラス固化建屋において重大事故等が発生し、大気中への放射性物質の放出に至るおそれがある場合、放射性物質の放出を抑制するために、可搬型放水砲の設置場所を任意に設定し、大型移送ポンプ車から供給する水を、可搬型建屋外ホースを介して可搬型放水砲へ供給し、建物へ放水できる設計とする。		<ul style="list-style-type: none"> ・種類 ・容量 ・吐出圧力 ・主要寸法
		再処理施設の各建物周辺における航空機衝突による航空機燃料火災、化学火災の対応を行うために、可搬型放水砲の設置場所を任意に設定し、大型移送ポンプ車から水及び泡消火薬剤（2m3）を、可搬型建屋外ホースを介して可搬型放水砲へ供給することで、放水による消火活動を行い、航空機燃料火災、化学火災に対応できる設計とする。		<ul style="list-style-type: none"> ・主要材料 ・原動機 ・取付箇所 ・個数
		MOX燃料加工施設と共用する大気中への放射性物質の放出を抑制するために使用する放水設備の大型移送ポンプ車は、使用済燃料受入れ・貯蔵建屋、前処理建屋、分離建屋、精製建屋、ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋及び高レベル廃液ガラス固化建屋の最高点である屋上全般にわたって放水設備の可搬型放水砲で放水するための水を供給する設計とする。		<ul style="list-style-type: none"> ・容量 ・個数
		放水設備の可搬型放水砲で放水する最大の容量に対して再処理施設の各建物で同時放水を可能にするために、放水設備の大型移送ポンプ車は、必要な容量を有する設計とするとともに、保有数は必要数並びに予備として故障時のバックアップ及び保守点検による待機除外時のバックアップを含め十分な台数を確保する設計とする。		<ul style="list-style-type: none"> ・種類 ・容量 ・吐出圧力 ・主要寸法 ・主要材料 ・原動機 ・取付箇所 ・個数
		MOX燃料加工施設と共用する再処理施設の各建物周辺における航空機衝突による航空機燃料火災、化学火災に使用する放水設備の大型移送ポンプ車は、再処理施設の各建物周辺における航空機衝突による航空機燃料火災、化学火災に対応するために放水設備の可搬型放水砲で放水するための水を供給する設計とする。		<ul style="list-style-type: none"> ・種類 ・容量 ・吐出圧力 ・主要寸法 ・主要材料 ・原動機 ・取付箇所 ・個数
		放水設備の大型移送ポンプ車及び可搬型放水砲は、汽水の影響に対して耐腐食性材料を使用する設計とする。		<ul style="list-style-type: none"> ・主要材料
第四十五条 重大事故等への対処に必要となる水の供給設備		重大事故等への対処を継続して行うために、重大事故等へ対処する水源である第1貯水槽へ水を補給するため、第2貯水槽の水を大型移送ポンプ車及び可搬型建屋外ホースを経由して、第1貯水槽へ補給できる設計とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・種類 ・容量 ・吐出圧力 ・主要寸法 ・主要材料 ・原動機 ・取付箇所 ・個数 	
		重大事故等への対処を継続して行うために、重大事故等へ対処する水源である第1貯水槽へ水を補給するため、敷地外の水源から水を大型移送ポンプ車及び可搬型建屋外ホースを経由して、第1貯水槽へ補給できる設計とする。		
		MOX燃料加工施設と共用する水供給設備の大型移送ポンプ車は、重大事故等への対処に必要となる水を補給するために必要な容量を有する設計とするとともに、保有数は、必要数及び予備として故障時のバックアップを含め十分な台数を確保する設計とする。		
許可整合		水供給設備の大型移送ポンプ車は、汽水の影響に対して耐腐食性材料を使用する設計とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・容量 ・個数 	
			<ul style="list-style-type: none"> ・主要材料 	

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考
			<p>*4: 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設のうち使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備（代替燃料プール注水系）として使用する場合は値を示す。</p> <p>*5: 残留熱除去設備（格納容器圧力逃がし装置）、原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の圧力逃がし装置（格納容器圧力逃がし装置）として使用する場合は値を示す。</p> <p>*6: 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（代替格納容器スプレイ冷却系）として使用する場合は値を示す。</p> <p>*7: 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（格納容器下部注水系）として使用する場合は値を示す。</p> <p>*8: 残留熱除去設備（代替水源供給設備）及び非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（代替水源供給設備）、核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設のうち使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備（代替水源供給設備）、原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（代替水源供給設備）及び圧力低減設備その他の安全設備の圧力逃がし装置（代替水源供給設備）として使用する場合は値を示す。</p> <p>*9: 本系統、核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設のうち使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備（代替燃料プール注水系）、原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（代替格納容器スプレイ冷却系）を同時に実施する場合は値を示す。</p> <p>*10: 公称値を示す。</p> <p>*11: 当該取付箇所は、本系統並びに残留熱除去設備（代替水源供給設備）及び非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（代替水源供給設備）、核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設のうち使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備（代替水源供給設備）、原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（代替水源供給設備）及び圧力低減設備その他の安全設備の圧力逃がし装置（代替水源供給設備）として使用する場合は取付箇所を示す。</p>	

仕様表記載例 5a-3 【機種：ポンプ】

[常設] [構造分類：往復形] [付属構造：ー]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																																																																																																																																																												
既認可に仕様表なし	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>〇〇〇ポンプ (0000-00)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種類</td> <td>ー</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>m³/h/個</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>吐出圧力</td> <td>MPa</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>吸込口径</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>吐出口径</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>ケーシング厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>ケーシング</td> <td>ー</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>ー</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>系統名(ライン名)</td> <td>ー</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>ー</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>ー</td> <td>ー</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>ー</td> <td>ー</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>ー</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>出力</td> <td>kW/個</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>ー</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td>ー</td> <td>〇〇</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1: 公称値を示す。</p> <table border="1"> <tr> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> <td></td> </tr> <tr> <td>構造分類に係る仕様項目</td> <td></td> </tr> </table>	名称		〇〇〇ポンプ (0000-00)	種類	ー	〇〇	容量	m ³ /h/個	〇〇	吐出圧力	MPa	〇〇	最高使用圧力	MPa	〇〇	最高使用温度	℃	〇〇	吸込口径	mm	〇〇 ^{*1}	吐出口径	mm	〇〇 ^{*1}	ケーシング厚さ	mm	〇〇 ^{*1}	たて	mm	〇〇 ^{*1}	横	mm	〇〇 ^{*1}	高さ	mm	〇〇 ^{*1}	ケーシング	ー	〇〇	個数	ー	〇〇	系統名(ライン名)	ー	〇〇	設置床	ー	〇〇	溢水防護上の区画番号	ー	ー	溢水防護上の配慮が必要な高さ	ー	ー	種類	ー	〇〇	出力	kW/個	〇〇	個数	ー	〇〇	取付箇所	ー	〇〇	機種で統一して記載する仕様項目		構造分類に係る仕様項目		<table border="1"> <thead> <tr> <th>技術基準</th> <th>機能要求② 様式-6,7</th> <th>主な仕様 (詳細設計)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第十一条 火災等による 損傷の防止</td> <td>a. 消火設備の消火剤の容量 消火設備は、想定される火災の性質に応じた十分な容量として、消防法施行規則及び試験結果に基づき算出した消火剤容量を配備する設計とする。</td> <td>名称、種類、容量、揚程、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数、取付箇所</td> </tr> <tr> <td>第十二条 溢水防護</td> <td>発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。 防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td> <td>取付箇所(区画番号、配慮が必要な高さ)</td> </tr> <tr> <td>第十五条 第三十一条 材料及び構造</td> <td>・耐震重要度に応じた地震力に十分耐えることができる設計 ・基準地震動による地震力に対してその安全機能が損なわれるおそれがない設計</td> <td>・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要材料</td> </tr> <tr> <td>第二十条 廃棄施設</td> <td>5.2.1.1 低レベル廃液処理設備 低レベル廃液処理設備は、分析設備の分析済液処理装置から発生する廃液、試薬調整器具の洗浄水等及び放出管理分析設備から発生する廃液並びに管理区域内で発生する空調機器ドレン水等を区分して、それぞれ低レベル廃液処理設備の検査槽に受け入れ、廃液中に含まれて放出される放射性物質を合理的に達成できる限り少なくするため、必要に応じて、希釈、ろ過又は吸着の処理を行い、廃液貯槽に送液する設計とする。廃液貯槽で受け入れた廃液は、必要に応じて、希釈、ろ過又は吸着の処理を行い、廃液中の放射性物質の濃度が線量告示に定められた周辺監視区域外の水中の濃度限度以下であることを確認した後、排水口から排出する設計とする。 5.2.1.3 海洋放出管理系 海洋放出管理系は、MOX燃料加工施設の排水口から排出した排水を再処理施設の第1放出前貯槽及び第1海洋放出ポンプを経由して海洋放出管の海洋放出口から海洋へ放出する設計とする。</td> <td>・容量 ・揚程又は吐出圧力 ・寸法 ・個数 ・原動機(種類)(出力)(個数)(取付箇所)</td> </tr> <tr> <td>第二十二条 遮蔽</td> <td>放射線業務従事者の立入頻度及び立入時間を考慮し、遮蔽設計の基準となる線量率を設定するとともに、管理区域を線量率に応じて適切に区分し、区分ごとの基準線量率を満足するよう遮蔽設備を設置する設計とする。 遮蔽設備に開口部又は貫通部がある場合で、開口部又は貫通部により遮蔽設計の基準となる線量率を超えるおそれのある場合には、以下に示すような放射線の漏えいを防止するための措置を講じ、遮蔽設計の基準となる線量率を満足する設計とする。 a. 建屋壁遮蔽に開口部を設ける場合、人が容易に接近できないような場所(通路の行き止まり部、高所等)へ設置する。 b. 遮蔽設備を貫通する搬送路、ダクト、配管については、開口部及び貫通部が線源を直接見通さないような場所に設置する。 c. 遮蔽設備の開口部及び貫通部には、遮蔽扉、遮蔽蓋又は補助遮蔽を設置する措置を講ずる。</td> <td>遮蔽体 ・主要材料 ・厚さ ※遮蔽体を有する場合は記載する。</td> </tr> </tbody> </table>	技術基準	機能要求② 様式-6,7	主な仕様 (詳細設計)	第十一条 火災等による 損傷の防止	a. 消火設備の消火剤の容量 消火設備は、想定される火災の性質に応じた十分な容量として、消防法施行規則及び試験結果に基づき算出した消火剤容量を配備する設計とする。	名称、種類、容量、揚程、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数、取付箇所	第十二条 溢水防護	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。 防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所(区画番号、配慮が必要な高さ)	第十五条 第三十一条 材料及び構造	・耐震重要度に応じた地震力に十分耐えることができる設計 ・基準地震動による地震力に対してその安全機能が損なわれるおそれがない設計	・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要材料	第二十条 廃棄施設	5.2.1.1 低レベル廃液処理設備 低レベル廃液処理設備は、分析設備の分析済液処理装置から発生する廃液、試薬調整器具の洗浄水等及び放出管理分析設備から発生する廃液並びに管理区域内で発生する空調機器ドレン水等を区分して、それぞれ低レベル廃液処理設備の検査槽に受け入れ、廃液中に含まれて放出される放射性物質を合理的に達成できる限り少なくするため、必要に応じて、希釈、ろ過又は吸着の処理を行い、廃液貯槽に送液する設計とする。廃液貯槽で受け入れた廃液は、必要に応じて、希釈、ろ過又は吸着の処理を行い、廃液中の放射性物質の濃度が線量告示に定められた周辺監視区域外の水中の濃度限度以下であることを確認した後、排水口から排出する設計とする。 5.2.1.3 海洋放出管理系 海洋放出管理系は、MOX燃料加工施設の排水口から排出した排水を再処理施設の第1放出前貯槽及び第1海洋放出ポンプを経由して海洋放出管の海洋放出口から海洋へ放出する設計とする。	・容量 ・揚程又は吐出圧力 ・寸法 ・個数 ・原動機(種類)(出力)(個数)(取付箇所)	第二十二条 遮蔽	放射線業務従事者の立入頻度及び立入時間を考慮し、遮蔽設計の基準となる線量率を設定するとともに、管理区域を線量率に応じて適切に区分し、区分ごとの基準線量率を満足するよう遮蔽設備を設置する設計とする。 遮蔽設備に開口部又は貫通部がある場合で、開口部又は貫通部により遮蔽設計の基準となる線量率を超えるおそれのある場合には、以下に示すような放射線の漏えいを防止するための措置を講じ、遮蔽設計の基準となる線量率を満足する設計とする。 a. 建屋壁遮蔽に開口部を設ける場合、人が容易に接近できないような場所(通路の行き止まり部、高所等)へ設置する。 b. 遮蔽設備を貫通する搬送路、ダクト、配管については、開口部及び貫通部が線源を直接見通さないような場所に設置する。 c. 遮蔽設備の開口部及び貫通部には、遮蔽扉、遮蔽蓋又は補助遮蔽を設置する措置を講ずる。	遮蔽体 ・主要材料 ・厚さ ※遮蔽体を有する場合は記載する。	<p>4 ほう酸水注入設備に係る次の事項</p> <p>4.1 ほう酸水注入系</p> <p>(1) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所(常設及び可搬型の別に記載すること。)</p> <p>・常設</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名 称</td> <td></td> <td>ほう酸水注入ポンプ*1</td> <td>ほう酸水注入ポンプ*2</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td>ー</td> <td>往復形*3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>容 量</td> <td>m³/h/個</td> <td>9.78 以上 (9.78*4,*5)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>吐 出 圧 力*6</td> <td>MPa</td> <td>8.5 以上*6 (8.5*4,*5)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 圧 力</td> <td>MPa</td> <td>吸込側 1.04*7 吐出側 9.66*7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 温 度</td> <td>℃</td> <td>66*7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>主 要 寸 法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>吸 込 内 径</td> <td>mm</td> <td>65.9*4,*7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>吐 出 内 径</td> <td>mm</td> <td>38.4*4,*7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ケーシング厚さ</td> <td>mm</td> <td>11.8*4,*7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>た て</td> <td>mm</td> <td>1820*4,*8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>2100*4,*8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高 さ</td> <td>mm</td> <td>1250*4,*8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>材 質</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ケーシング*9</td> <td>ー</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ケーシングカバー</td> <td>ー</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>ー</td> <td>2*10</td> <td></td> </tr> <tr> <td>取 付 箇 所</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>系 統 名 (ライン名)</td> <td>ー</td> <td>ほう酸水注入ポンプA ほう酸水注入系*7</td> <td>ほう酸水注入ポンプB ほう酸水注入系*7</td> </tr> <tr> <td>設 置 床</td> <td>ー</td> <td>EL. 38.80 m*7</td> <td>EL. 38.80 m*7</td> </tr> <tr> <td>溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号</td> <td>ー</td> <td></td> <td>RB-5-3</td> </tr> <tr> <td>溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ</td> <td>ー</td> <td></td> <td>EL. 39.26 m 以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>(続き)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原 動 機</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td>ー</td> <td>誘導電動機*11</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出 力</td> <td>kW/個</td> <td>37</td> <td></td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>ー</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>取 付 箇 所</td> <td>ー</td> <td>ポンプと同じ*7</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ポンプ」と記載。 *2: 原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備(ほう酸水注入系)及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備(ほう酸水注入系)と兼用する。 *3: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「水平3速ブランチポンプ」と記載。 *4: 公称値を示す。 *5: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「163 l/min」と記載。 *6: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「全揚程 870 m」と記載。 *7: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *8: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和50年11月7日付け50資庁第11107号にて認可された工事計画の添付図面「第3-18図 ほう酸水注入系ポンプ組立外形図」による。 *9: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「接液部」と記載。 *10: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「2(常用1, 予備1)」と記載。 *11: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「3相誘導電動機」と記載。</p>			変更前	変更後	名 称		ほう酸水注入ポンプ*1	ほう酸水注入ポンプ*2	種 類	ー	往復形*3		容 量	m ³ /h/個	9.78 以上 (9.78*4,*5)		吐 出 圧 力*6	MPa	8.5 以上*6 (8.5*4,*5)		最 高 使 用 圧 力	MPa	吸込側 1.04*7 吐出側 9.66*7		最 高 使 用 温 度	℃	66*7		主 要 寸 法				吸 込 内 径	mm	65.9*4,*7		吐 出 内 径	mm	38.4*4,*7		ケーシング厚さ	mm	11.8*4,*7		た て	mm	1820*4,*8		横	mm	2100*4,*8		高 さ	mm	1250*4,*8		材 質				ケーシング*9	ー			ケーシングカバー	ー			個 数	ー	2*10		取 付 箇 所				系 統 名 (ライン名)	ー	ほう酸水注入ポンプA ほう酸水注入系*7	ほう酸水注入ポンプB ほう酸水注入系*7	設 置 床	ー	EL. 38.80 m*7	EL. 38.80 m*7	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	ー		RB-5-3	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	ー		EL. 39.26 m 以上			変更前	変更後	原 動 機				種 類	ー	誘導電動機*11		出 力	kW/個	37		個 数	ー	2		取 付 箇 所	ー	ポンプと同じ*7		<p>ケーシングカバーを有するポンプの場合は仕様表に記載する。</p>
名称		〇〇〇ポンプ (0000-00)																																																																																																																																																																																																														
種類	ー	〇〇																																																																																																																																																																																																														
容量	m ³ /h/個	〇〇																																																																																																																																																																																																														
吐出圧力	MPa	〇〇																																																																																																																																																																																																														
最高使用圧力	MPa	〇〇																																																																																																																																																																																																														
最高使用温度	℃	〇〇																																																																																																																																																																																																														
吸込口径	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																																																														
吐出口径	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																																																														
ケーシング厚さ	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																																																														
たて	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																																																														
横	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																																																														
高さ	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																																																														
ケーシング	ー	〇〇																																																																																																																																																																																																														
個数	ー	〇〇																																																																																																																																																																																																														
系統名(ライン名)	ー	〇〇																																																																																																																																																																																																														
設置床	ー	〇〇																																																																																																																																																																																																														
溢水防護上の区画番号	ー	ー																																																																																																																																																																																																														
溢水防護上の配慮が必要な高さ	ー	ー																																																																																																																																																																																																														
種類	ー	〇〇																																																																																																																																																																																																														
出力	kW/個	〇〇																																																																																																																																																																																																														
個数	ー	〇〇																																																																																																																																																																																																														
取付箇所	ー	〇〇																																																																																																																																																																																																														
機種で統一して記載する仕様項目																																																																																																																																																																																																																
構造分類に係る仕様項目																																																																																																																																																																																																																
技術基準	機能要求② 様式-6,7	主な仕様 (詳細設計)																																																																																																																																																																																																														
第十一条 火災等による 損傷の防止	a. 消火設備の消火剤の容量 消火設備は、想定される火災の性質に応じた十分な容量として、消防法施行規則及び試験結果に基づき算出した消火剤容量を配備する設計とする。	名称、種類、容量、揚程、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数、取付箇所																																																																																																																																																																																																														
第十二条 溢水防護	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。 防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所(区画番号、配慮が必要な高さ)																																																																																																																																																																																																														
第十五条 第三十一条 材料及び構造	・耐震重要度に応じた地震力に十分耐えることができる設計 ・基準地震動による地震力に対してその安全機能が損なわれるおそれがない設計	・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要材料																																																																																																																																																																																																														
第二十条 廃棄施設	5.2.1.1 低レベル廃液処理設備 低レベル廃液処理設備は、分析設備の分析済液処理装置から発生する廃液、試薬調整器具の洗浄水等及び放出管理分析設備から発生する廃液並びに管理区域内で発生する空調機器ドレン水等を区分して、それぞれ低レベル廃液処理設備の検査槽に受け入れ、廃液中に含まれて放出される放射性物質を合理的に達成できる限り少なくするため、必要に応じて、希釈、ろ過又は吸着の処理を行い、廃液貯槽に送液する設計とする。廃液貯槽で受け入れた廃液は、必要に応じて、希釈、ろ過又は吸着の処理を行い、廃液中の放射性物質の濃度が線量告示に定められた周辺監視区域外の水中の濃度限度以下であることを確認した後、排水口から排出する設計とする。 5.2.1.3 海洋放出管理系 海洋放出管理系は、MOX燃料加工施設の排水口から排出した排水を再処理施設の第1放出前貯槽及び第1海洋放出ポンプを経由して海洋放出管の海洋放出口から海洋へ放出する設計とする。	・容量 ・揚程又は吐出圧力 ・寸法 ・個数 ・原動機(種類)(出力)(個数)(取付箇所)																																																																																																																																																																																																														
第二十二条 遮蔽	放射線業務従事者の立入頻度及び立入時間を考慮し、遮蔽設計の基準となる線量率を設定するとともに、管理区域を線量率に応じて適切に区分し、区分ごとの基準線量率を満足するよう遮蔽設備を設置する設計とする。 遮蔽設備に開口部又は貫通部がある場合で、開口部又は貫通部により遮蔽設計の基準となる線量率を超えるおそれのある場合には、以下に示すような放射線の漏えいを防止するための措置を講じ、遮蔽設計の基準となる線量率を満足する設計とする。 a. 建屋壁遮蔽に開口部を設ける場合、人が容易に接近できないような場所(通路の行き止まり部、高所等)へ設置する。 b. 遮蔽設備を貫通する搬送路、ダクト、配管については、開口部及び貫通部が線源を直接見通さないような場所に設置する。 c. 遮蔽設備の開口部及び貫通部には、遮蔽扉、遮蔽蓋又は補助遮蔽を設置する措置を講ずる。	遮蔽体 ・主要材料 ・厚さ ※遮蔽体を有する場合は記載する。																																																																																																																																																																																																														
		変更前	変更後																																																																																																																																																																																																													
名 称		ほう酸水注入ポンプ*1	ほう酸水注入ポンプ*2																																																																																																																																																																																																													
種 類	ー	往復形*3																																																																																																																																																																																																														
容 量	m ³ /h/個	9.78 以上 (9.78*4,*5)																																																																																																																																																																																																														
吐 出 圧 力*6	MPa	8.5 以上*6 (8.5*4,*5)																																																																																																																																																																																																														
最 高 使 用 圧 力	MPa	吸込側 1.04*7 吐出側 9.66*7																																																																																																																																																																																																														
最 高 使 用 温 度	℃	66*7																																																																																																																																																																																																														
主 要 寸 法																																																																																																																																																																																																																
吸 込 内 径	mm	65.9*4,*7																																																																																																																																																																																																														
吐 出 内 径	mm	38.4*4,*7																																																																																																																																																																																																														
ケーシング厚さ	mm	11.8*4,*7																																																																																																																																																																																																														
た て	mm	1820*4,*8																																																																																																																																																																																																														
横	mm	2100*4,*8																																																																																																																																																																																																														
高 さ	mm	1250*4,*8																																																																																																																																																																																																														
材 質																																																																																																																																																																																																																
ケーシング*9	ー																																																																																																																																																																																																															
ケーシングカバー	ー																																																																																																																																																																																																															
個 数	ー	2*10																																																																																																																																																																																																														
取 付 箇 所																																																																																																																																																																																																																
系 統 名 (ライン名)	ー	ほう酸水注入ポンプA ほう酸水注入系*7	ほう酸水注入ポンプB ほう酸水注入系*7																																																																																																																																																																																																													
設 置 床	ー	EL. 38.80 m*7	EL. 38.80 m*7																																																																																																																																																																																																													
溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	ー		RB-5-3																																																																																																																																																																																																													
溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	ー		EL. 39.26 m 以上																																																																																																																																																																																																													
		変更前	変更後																																																																																																																																																																																																													
原 動 機																																																																																																																																																																																																																
種 類	ー	誘導電動機*11																																																																																																																																																																																																														
出 力	kW/個	37																																																																																																																																																																																																														
個 数	ー	2																																																																																																																																																																																																														
取 付 箇 所	ー	ポンプと同じ*7																																																																																																																																																																																																														

仕様表記載例 5b【機種：ポンプ（特殊ポンプ）】

[常設] [構造分類：流体噴射駆動式] [付属構造：ー]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																																																																																				
<p><既認可仕様表なし></p>	<table border="1" data-bbox="736 289 1347 804"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td>〇〇ポンプA (0000-00)^{*2}</td> <td></td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>ー</td> <td>〇〇</td> <td rowspan="10">変更なし</td> </tr> <tr> <td>容量(流量)</td> <td>m³/h/個</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">主要寸法</td> <td>蒸気供給管台外径</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>蒸気供給管台厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>入口管台外径</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>入口管台厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>出口管台外径</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>出口管台厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td colspan="2">主要材料</td> <td>ー</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">個数</td> <td>ー</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">取付箇所</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>ー</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>ー</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>ー</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要高さ</td> <td>ー</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>化学薬品防護上の区画番号</td> <td>ー</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>化学薬品防護上の配慮が必要高さ</td> <td>ー</td> <td>〇〇</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="736 804 1347 867">注記 *1: 公称値を示す。 *2: 既設工認申請書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。</p> <table border="1" data-bbox="825 947 1205 1010"> <tr> <td style="background-color: #e0e0e0;"></td> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #c0c0c0;"></td> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> </table>			変更前	変更後	名称		〇〇ポンプA (0000-00) ^{*2}		種類	ー	〇〇	変更なし	容量(流量)	m ³ /h/個	〇〇	最高使用圧力	MPa	〇〇	最高使用温度	℃	〇〇	主要寸法	蒸気供給管台外径	mm	〇〇 ^{*1}	蒸気供給管台厚さ	mm	〇〇 ^{*1}	入口管台外径	mm	〇〇 ^{*1}	入口管台厚さ	mm	〇〇 ^{*1}	出口管台外径	mm	〇〇 ^{*1}	出口管台厚さ	mm	〇〇 ^{*1}	主要材料		ー	〇〇	個数		ー	〇〇	取付箇所	系統名(ライン名)	ー	〇〇	設置床	ー	〇〇	溢水防護上の区画番号	ー	〇〇	溢水防護上の配慮が必要高さ	ー	〇〇	化学薬品防護上の区画番号	ー	〇〇	化学薬品防護上の配慮が必要高さ	ー	〇〇		機種で統一して記載する仕様項目		構造分類に係る仕様項目	<table border="1" data-bbox="1371 275 1982 1381"> <thead> <tr> <th rowspan="2">技術基準</th> <th colspan="2">機能要求②</th> <th rowspan="2">主な仕様 (詳細設計)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">様式-6,7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第十条 閉じ込めの機能</td> <td>液体状の使用済燃料等を内包する系統及び機器を収容するセル等の床にはステンレス鋼製の漏えい液受皿を設置し、万一液体状の使用済燃料等がセル等に漏えいした場合は、漏えい検知装置により漏えいを検知し、漏えいの拡大を防止するとともに、スチームジェットポンプ、ポンプ又は重力流により漏えいした液の性状に応じて定めた移送先に移送することで、安全に処理できる設計とする。</td> <td></td> <td>・容量</td> </tr> <tr> <td>第十二条 溢水防護</td> <td>発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td> <td></td> <td>取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ(機能喪失高さ) ・防護上の区画番号</td> </tr> <tr> <td>第十三条 化学薬品防護</td> <td>発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水(以下「没液」という。)により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td> <td></td> <td>取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ(機能喪失高さ) ・防護上の区画番号</td> </tr> <tr> <td>第十七条 材料及び構造</td> <td>a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。 b. 常設重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。 a. 容器等は、最高使用圧力、最高使用温度及び機械的荷重が負荷されている状態(以下「設計上定める条件」という。)において、全体的な変形を弾性域に抑える設計とする。 (3) 座屈による破壊の防止 容器等は、設計上定める条件において、座屈が生じない設計とする。</td> <td></td> <td>・主要材料 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料</td> </tr> </tbody> </table>	技術基準	機能要求②		主な仕様 (詳細設計)	様式-6,7		第十条 閉じ込めの機能	液体状の使用済燃料等を内包する系統及び機器を収容するセル等の床にはステンレス鋼製の漏えい液受皿を設置し、万一液体状の使用済燃料等がセル等に漏えいした場合は、漏えい検知装置により漏えいを検知し、漏えいの拡大を防止するとともに、スチームジェットポンプ、ポンプ又は重力流により漏えいした液の性状に応じて定めた移送先に移送することで、安全に処理できる設計とする。		・容量	第十二条 溢水防護	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。		取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ(機能喪失高さ) ・防護上の区画番号	第十三条 化学薬品防護	発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水(以下「没液」という。)により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。		取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ(機能喪失高さ) ・防護上の区画番号	第十七条 材料及び構造	a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。 b. 常設重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。 a. 容器等は、最高使用圧力、最高使用温度及び機械的荷重が負荷されている状態(以下「設計上定める条件」という。)において、全体的な変形を弾性域に抑える設計とする。 (3) 座屈による破壊の防止 容器等は、設計上定める条件において、座屈が生じない設計とする。		・主要材料 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料	<table border="1" data-bbox="2006 275 2653 758"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td>ジェットポンプ</td> <td>ジェットポンプ^{*4}</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">種別</td> <td>名</td> <td colspan="2">流体噴射駆動式</td> </tr> <tr> <td>ノズル内径</td> <td>mm</td> <td rowspan="6">変更なし</td> </tr> <tr> <td>混合室内径</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>混合室全長</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>ディフューザ全長</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>ライザ外径</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>ライザ厚さ</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">寸法</td> <td>ディフューザ外径</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>ディフューザ厚さ</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">材料</td> <td>種別</td> <td>SCS13相当</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>SUS304相当</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>SUS304TP相当</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="2006 758 2653 915">注記 *1: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *2: 公称値を示す。 *3: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和51年4月8日付け51資庁第468号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-2-6 ジェットポンプの耐震性についての計算書」による。 *4: 原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備(残留熱除去系)と兼用する。</p>			変更前	変更後	名称		ジェットポンプ	ジェットポンプ ^{*4}	種別	名	流体噴射駆動式		ノズル内径	mm	変更なし	混合室内径	mm	混合室全長	mm	ディフューザ全長	mm	ライザ外径	mm	ライザ厚さ	mm	寸法	ディフューザ外径	mm	ディフューザ厚さ	mm	個数	20	材料	種別	SCS13相当	材料	SUS304相当	材料	SUS304TP相当	<p data-bbox="2677 352 2870 394">耐圧評価上使用しない</p> <p data-bbox="2677 474 2870 558">入口管台外径・厚さに該当 出口管台外径・厚さに該当</p>
		変更前	変更後																																																																																																																																					
名称		〇〇ポンプA (0000-00) ^{*2}																																																																																																																																						
種類	ー	〇〇	変更なし																																																																																																																																					
容量(流量)	m ³ /h/個	〇〇																																																																																																																																						
最高使用圧力	MPa	〇〇																																																																																																																																						
最高使用温度	℃	〇〇																																																																																																																																						
主要寸法	蒸気供給管台外径	mm		〇〇 ^{*1}																																																																																																																																				
	蒸気供給管台厚さ	mm		〇〇 ^{*1}																																																																																																																																				
	入口管台外径	mm		〇〇 ^{*1}																																																																																																																																				
	入口管台厚さ	mm		〇〇 ^{*1}																																																																																																																																				
	出口管台外径	mm		〇〇 ^{*1}																																																																																																																																				
出口管台厚さ	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																						
主要材料		ー	〇〇																																																																																																																																					
個数		ー	〇〇																																																																																																																																					
取付箇所	系統名(ライン名)	ー	〇〇																																																																																																																																					
	設置床	ー	〇〇																																																																																																																																					
	溢水防護上の区画番号	ー	〇〇																																																																																																																																					
	溢水防護上の配慮が必要高さ	ー	〇〇																																																																																																																																					
	化学薬品防護上の区画番号	ー	〇〇																																																																																																																																					
化学薬品防護上の配慮が必要高さ	ー	〇〇																																																																																																																																						
	機種で統一して記載する仕様項目																																																																																																																																							
	構造分類に係る仕様項目																																																																																																																																							
技術基準	機能要求②		主な仕様 (詳細設計)																																																																																																																																					
	様式-6,7																																																																																																																																							
第十条 閉じ込めの機能	液体状の使用済燃料等を内包する系統及び機器を収容するセル等の床にはステンレス鋼製の漏えい液受皿を設置し、万一液体状の使用済燃料等がセル等に漏えいした場合は、漏えい検知装置により漏えいを検知し、漏えいの拡大を防止するとともに、スチームジェットポンプ、ポンプ又は重力流により漏えいした液の性状に応じて定めた移送先に移送することで、安全に処理できる設計とする。		・容量																																																																																																																																					
第十二条 溢水防護	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。		取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ(機能喪失高さ) ・防護上の区画番号																																																																																																																																					
第十三条 化学薬品防護	発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水(以下「没液」という。)により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。		取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ(機能喪失高さ) ・防護上の区画番号																																																																																																																																					
第十七条 材料及び構造	a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。 b. 常設重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。 a. 容器等は、最高使用圧力、最高使用温度及び機械的荷重が負荷されている状態(以下「設計上定める条件」という。)において、全体的な変形を弾性域に抑える設計とする。 (3) 座屈による破壊の防止 容器等は、設計上定める条件において、座屈が生じない設計とする。		・主要材料 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料																																																																																																																																					
		変更前	変更後																																																																																																																																					
名称		ジェットポンプ	ジェットポンプ ^{*4}																																																																																																																																					
種別	名	流体噴射駆動式																																																																																																																																						
	ノズル内径	mm	変更なし																																																																																																																																					
	混合室内径	mm																																																																																																																																						
	混合室全長	mm																																																																																																																																						
	ディフューザ全長	mm																																																																																																																																						
	ライザ外径	mm																																																																																																																																						
ライザ厚さ	mm																																																																																																																																							
寸法	ディフューザ外径	mm																																																																																																																																						
	ディフューザ厚さ	mm																																																																																																																																						
	個数	20																																																																																																																																						
材料	種別	SCS13相当																																																																																																																																						
	材料	SUS304相当																																																																																																																																						
	材料	SUS304TP相当																																																																																																																																						

仕様表記載例6【機種：圧縮機】
[常設][構造分類：－][付属構造：－]

既認可の仕様表		仕様表案		要求事項の整理		発電炉類似設備要目表		備考																																																																																																																																																		
<p>主要設備リストで展開。</p> <table border="1"> <tr><td>名称</td><td>安全空気圧縮装置A, B, C (0000-0000)</td></tr> <tr><td>種類</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>耐震クラス</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>定格容量</td><td>m³/h/個 〇〇</td></tr> <tr><td>吐出圧力</td><td>MPa 〇〇</td></tr> <tr><td>出力</td><td>kW/個 〇〇</td></tr> <tr><td>主要寸法 全高</td><td>mm 〇〇^{*1}</td></tr> <tr><td>主要材料 フレーム</td><td>〇〇^{*1}</td></tr> <tr><td>個数</td><td>〇〇</td></tr> </table> <p>特記事項 (1) 本設備は、非常用所内電源系統に接続する。 (2) 本設備は、空気圧縮機、後置冷却器、後置冷却器ドレンセパレータ等により構成される。</p> <p>構造図： 第3.2.1.2.1-4図に示す。</p> <p>基本設計方針、系統図で展開</p> <p>添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除</p>		名称	安全空気圧縮装置A, B, C (0000-0000)	種類	〇〇	耐震クラス	〇〇	定格容量	m³/h/個 〇〇	吐出圧力	MPa 〇〇	出力	kW/個 〇〇	主要寸法 全高	mm 〇〇 ^{*1}	主要材料 フレーム	〇〇 ^{*1}	個数	〇〇	<table border="1"> <tr><td>名称</td><td>安全空気圧縮装置A, B, C (0000-0000)</td><td>変更前</td><td>変更後</td></tr> <tr><td>種類</td><td>〇〇</td><td>〇〇</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>定格容量</td><td>m³/h/個</td><td>〇〇</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>吐出圧力</td><td>MPa</td><td>〇〇</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>主要寸法 たて</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td><td>〇〇^{*1}</td></tr> <tr><td>主要寸法 幅</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td><td>〇〇^{*1}</td></tr> <tr><td>主要寸法 高さ</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td><td>〇〇^{*1}</td></tr> <tr><td>主要材料 フレーム</td><td>〇〇</td><td>〇〇^{*1}</td><td>〇〇^{*1}</td></tr> <tr><td>個数</td><td>〇〇</td><td>〇〇</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>系統名(ライン名)</td><td>〇〇</td><td>〇〇</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>設置床</td><td>〇〇</td><td>〇〇</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>溢水防護上の区画番号</td><td>〇〇</td><td>〇〇</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>〇〇</td><td>〇〇</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>化学薬品防護上の区画番号</td><td>〇〇</td><td>〇〇</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>化学薬品防護上の配慮が必要な高さ</td><td>〇〇</td><td>〇〇</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>種類</td><td>〇〇^{*3}</td><td>〇〇^{*3}</td><td>〇〇^{*3}</td></tr> <tr><td>出力</td><td>kW/個</td><td>〇〇</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>個数</td><td>〇〇</td><td>〇〇^{*3}</td><td>〇〇^{*3}</td></tr> <tr><td>取付箇所</td><td>〇〇</td><td>〇〇^{*3}</td><td>〇〇^{*3}</td></tr> </table> <p>注記 *1：公称値を示す。 *2：重大事故時等における使用時の値を示す。 *3：既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。</p> <table border="1"> <tr><td>機種で統一して記載する仕様項目</td></tr> <tr><td>構造分類に係る仕様項目</td></tr> </table>		名称	安全空気圧縮装置A, B, C (0000-0000)	変更前	変更後	種類	〇〇	〇〇	〇〇	定格容量	m³/h/個	〇〇	〇〇	吐出圧力	MPa	〇〇	〇〇	主要寸法 たて	mm	〇〇 ^{*1}	〇〇 ^{*1}	主要寸法 幅	mm	〇〇 ^{*1}	〇〇 ^{*1}	主要寸法 高さ	mm	〇〇 ^{*1}	〇〇 ^{*1}	主要材料 フレーム	〇〇	〇〇 ^{*1}	〇〇 ^{*1}	個数	〇〇	〇〇	〇〇	系統名(ライン名)	〇〇	〇〇	〇〇	設置床	〇〇	〇〇	〇〇	溢水防護上の区画番号	〇〇	〇〇	〇〇	溢水防護上の配慮が必要な高さ	〇〇	〇〇	〇〇	化学薬品防護上の区画番号	〇〇	〇〇	〇〇	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	〇〇	〇〇	〇〇	種類	〇〇 ^{*3}	〇〇 ^{*3}	〇〇 ^{*3}	出力	kW/個	〇〇	〇〇	個数	〇〇	〇〇 ^{*3}	〇〇 ^{*3}	取付箇所	〇〇	〇〇 ^{*3}	〇〇 ^{*3}	機種で統一して記載する仕様項目	構造分類に係る仕様項目	<table border="1"> <tr><td>技術基準</td><td>機能要求② 様式-6,7</td><td>主な仕様 (詳細設計)</td></tr> <tr><td>第十二条 溢水防護</td><td>発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td><td>取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ(機能喪失高さ) ・防護上の区画番号</td></tr> <tr><td>第十三条 化学薬品防護</td><td>発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水(以下「没液」という。)により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td><td>取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ(機能喪失高さ) ・防護上の区画番号</td></tr> <tr><td>第十七条 第三十七条 材料及び構造</td><td>a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。 b. 常設重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。 (3) 座屈による破壊の防止 容器等は、設計上定める条件において、座屈が生じない設計とする。</td><td>・主要材料</td></tr> <tr><td>第三十八条 臨界事故の拡大を防止するための設備</td><td>廃ガス貯留設備の廃ガス貯留槽は、臨界事故又はTBP等の錯体の急激な分解反応が発生した場合において、臨界事故又はTBP等の錯体の急激な分解反応により発生した放射性物質を含む気体を貯留するために必要な容量を有する設計とするとともに、動的機器である廃ガス貯留設備の空気圧縮機及び弁は、多重化した設計とし、廃ガス貯留設備は、前処理建屋及び精製建屋に必要な系列数を設置する設計とする。</td><td>・容量 ・吐出圧力 ・主要寸法 ・主要材料 ・個数 ・原動機 ・取付箇所</td></tr> <tr><td>第四十条 放射線分解により発生する水素による</td><td>代替安全圧縮空気系は、可搬型空気圧縮機と水素掃気配管・弁又は機器圧縮空気供給配管・弁を可搬型建屋外ホース、可搬型建屋内ホースを用いて接続した上で、可搬型空気圧縮機を運転することで、放射線分解により発生する水素による爆発の発生を仮定する機器</td><td>・種類 ・定格容量 ・吐出圧力 ・主要寸法 ・主要材料</td></tr> </table>		技術基準	機能要求② 様式-6,7	主な仕様 (詳細設計)	第十二条 溢水防護	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ(機能喪失高さ) ・防護上の区画番号	第十三条 化学薬品防護	発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水(以下「没液」という。)により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ(機能喪失高さ) ・防護上の区画番号	第十七条 第三十七条 材料及び構造	a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。 b. 常設重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。 (3) 座屈による破壊の防止 容器等は、設計上定める条件において、座屈が生じない設計とする。	・主要材料	第三十八条 臨界事故の拡大を防止するための設備	廃ガス貯留設備の廃ガス貯留槽は、臨界事故又はTBP等の錯体の急激な分解反応が発生した場合において、臨界事故又はTBP等の錯体の急激な分解反応により発生した放射性物質を含む気体を貯留するために必要な容量を有する設計とするとともに、動的機器である廃ガス貯留設備の空気圧縮機及び弁は、多重化した設計とし、廃ガス貯留設備は、前処理建屋及び精製建屋に必要な系列数を設置する設計とする。	・容量 ・吐出圧力 ・主要寸法 ・主要材料 ・個数 ・原動機 ・取付箇所	第四十条 放射線分解により発生する水素による	代替安全圧縮空気系は、可搬型空気圧縮機と水素掃気配管・弁又は機器圧縮空気供給配管・弁を可搬型建屋外ホース、可搬型建屋内ホースを用いて接続した上で、可搬型空気圧縮機を運転することで、放射線分解により発生する水素による爆発の発生を仮定する機器	・種類 ・定格容量 ・吐出圧力 ・主要寸法 ・主要材料	<table border="1"> <tr><td>名称</td><td>窒素供給装置</td></tr> <tr><td>種類</td><td>圧力変動吸着式</td></tr> <tr><td>容量</td><td>m³/h/個 [normal] 200以上(220^{*1}) [窒素純度99%において]</td></tr> <tr><td>吐出圧力</td><td>MPa 0.5以上(0.5^{*1})</td></tr> <tr><td>主要寸法 たて</td><td>mm 1200^{*1}</td></tr> <tr><td>主要寸法 幅</td><td>mm 2000^{*1}</td></tr> <tr><td>主要寸法 高さ</td><td>mm 1800^{*1}</td></tr> <tr><td>主要寸法 車両全長</td><td>mm 8640^{*1}</td></tr> <tr><td>主要寸法 車両全幅</td><td>mm 2495^{*1}</td></tr> <tr><td>主要寸法 車両高さ</td><td>mm 3705^{*1}</td></tr> <tr><td>個数</td><td>2(予備2)</td></tr> <tr><td>取付箇所</td><td>保管場所： ・可搬型重大事故等対処設備保管場所(西側) EL.約23m ・可搬型重大事故等対処設備保管場所(南側) EL.約25m 上記2箇所にそれぞれ2台ずつ保管する。 取付箇所： ・屋外EL.約8m 原子炉建屋付近</td></tr> <tr><td>原動機 種類</td><td>誘導電動機</td></tr> <tr><td>原動機 出力</td><td>kW/個 75</td></tr> <tr><td>原動機 個数</td><td>2(予備2)</td></tr> <tr><td>原動機 取付箇所</td><td>圧縮機と同じ</td></tr> </table> <p>注記 *1：公称値を示す。 *2：重大事故時等における使用時の値を示す。</p>		名称	窒素供給装置	種類	圧力変動吸着式	容量	m³/h/個 [normal] 200以上(220 ^{*1}) [窒素純度99%において]	吐出圧力	MPa 0.5以上(0.5 ^{*1})	主要寸法 たて	mm 1200 ^{*1}	主要寸法 幅	mm 2000 ^{*1}	主要寸法 高さ	mm 1800 ^{*1}	主要寸法 車両全長	mm 8640 ^{*1}	主要寸法 車両全幅	mm 2495 ^{*1}	主要寸法 車両高さ	mm 3705 ^{*1}	個数	2(予備2)	取付箇所	保管場所： ・可搬型重大事故等対処設備保管場所(西側) EL.約23m ・可搬型重大事故等対処設備保管場所(南側) EL.約25m 上記2箇所にそれぞれ2台ずつ保管する。 取付箇所： ・屋外EL.約8m 原子炉建屋付近	原動機 種類	誘導電動機	原動機 出力	kW/個 75	原動機 個数	2(予備2)	原動機 取付箇所	圧縮機と同じ	<p>車両式の設備でないため記載しない</p>
名称	安全空気圧縮装置A, B, C (0000-0000)																																																																																																																																																									
種類	〇〇																																																																																																																																																									
耐震クラス	〇〇																																																																																																																																																									
定格容量	m³/h/個 〇〇																																																																																																																																																									
吐出圧力	MPa 〇〇																																																																																																																																																									
出力	kW/個 〇〇																																																																																																																																																									
主要寸法 全高	mm 〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																									
主要材料 フレーム	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																									
個数	〇〇																																																																																																																																																									
名称	安全空気圧縮装置A, B, C (0000-0000)	変更前	変更後																																																																																																																																																							
種類	〇〇	〇〇	〇〇																																																																																																																																																							
定格容量	m³/h/個	〇〇	〇〇																																																																																																																																																							
吐出圧力	MPa	〇〇	〇〇																																																																																																																																																							
主要寸法 たて	mm	〇〇 ^{*1}	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																							
主要寸法 幅	mm	〇〇 ^{*1}	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																							
主要寸法 高さ	mm	〇〇 ^{*1}	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																							
主要材料 フレーム	〇〇	〇〇 ^{*1}	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																							
個数	〇〇	〇〇	〇〇																																																																																																																																																							
系統名(ライン名)	〇〇	〇〇	〇〇																																																																																																																																																							
設置床	〇〇	〇〇	〇〇																																																																																																																																																							
溢水防護上の区画番号	〇〇	〇〇	〇〇																																																																																																																																																							
溢水防護上の配慮が必要な高さ	〇〇	〇〇	〇〇																																																																																																																																																							
化学薬品防護上の区画番号	〇〇	〇〇	〇〇																																																																																																																																																							
化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	〇〇	〇〇	〇〇																																																																																																																																																							
種類	〇〇 ^{*3}	〇〇 ^{*3}	〇〇 ^{*3}																																																																																																																																																							
出力	kW/個	〇〇	〇〇																																																																																																																																																							
個数	〇〇	〇〇 ^{*3}	〇〇 ^{*3}																																																																																																																																																							
取付箇所	〇〇	〇〇 ^{*3}	〇〇 ^{*3}																																																																																																																																																							
機種で統一して記載する仕様項目																																																																																																																																																										
構造分類に係る仕様項目																																																																																																																																																										
技術基準	機能要求② 様式-6,7	主な仕様 (詳細設計)																																																																																																																																																								
第十二条 溢水防護	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ(機能喪失高さ) ・防護上の区画番号																																																																																																																																																								
第十三条 化学薬品防護	発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水(以下「没液」という。)により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ(機能喪失高さ) ・防護上の区画番号																																																																																																																																																								
第十七条 第三十七条 材料及び構造	a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。 b. 常設重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。 (3) 座屈による破壊の防止 容器等は、設計上定める条件において、座屈が生じない設計とする。	・主要材料																																																																																																																																																								
第三十八条 臨界事故の拡大を防止するための設備	廃ガス貯留設備の廃ガス貯留槽は、臨界事故又はTBP等の錯体の急激な分解反応が発生した場合において、臨界事故又はTBP等の錯体の急激な分解反応により発生した放射性物質を含む気体を貯留するために必要な容量を有する設計とするとともに、動的機器である廃ガス貯留設備の空気圧縮機及び弁は、多重化した設計とし、廃ガス貯留設備は、前処理建屋及び精製建屋に必要な系列数を設置する設計とする。	・容量 ・吐出圧力 ・主要寸法 ・主要材料 ・個数 ・原動機 ・取付箇所																																																																																																																																																								
第四十条 放射線分解により発生する水素による	代替安全圧縮空気系は、可搬型空気圧縮機と水素掃気配管・弁又は機器圧縮空気供給配管・弁を可搬型建屋外ホース、可搬型建屋内ホースを用いて接続した上で、可搬型空気圧縮機を運転することで、放射線分解により発生する水素による爆発の発生を仮定する機器	・種類 ・定格容量 ・吐出圧力 ・主要寸法 ・主要材料																																																																																																																																																								
名称	窒素供給装置																																																																																																																																																									
種類	圧力変動吸着式																																																																																																																																																									
容量	m³/h/個 [normal] 200以上(220 ^{*1}) [窒素純度99%において]																																																																																																																																																									
吐出圧力	MPa 0.5以上(0.5 ^{*1})																																																																																																																																																									
主要寸法 たて	mm 1200 ^{*1}																																																																																																																																																									
主要寸法 幅	mm 2000 ^{*1}																																																																																																																																																									
主要寸法 高さ	mm 1800 ^{*1}																																																																																																																																																									
主要寸法 車両全長	mm 8640 ^{*1}																																																																																																																																																									
主要寸法 車両全幅	mm 2495 ^{*1}																																																																																																																																																									
主要寸法 車両高さ	mm 3705 ^{*1}																																																																																																																																																									
個数	2(予備2)																																																																																																																																																									
取付箇所	保管場所： ・可搬型重大事故等対処設備保管場所(西側) EL.約23m ・可搬型重大事故等対処設備保管場所(南側) EL.約25m 上記2箇所にそれぞれ2台ずつ保管する。 取付箇所： ・屋外EL.約8m 原子炉建屋付近																																																																																																																																																									
原動機 種類	誘導電動機																																																																																																																																																									
原動機 出力	kW/個 75																																																																																																																																																									
原動機 個数	2(予備2)																																																																																																																																																									
原動機 取付箇所	圧縮機と同じ																																																																																																																																																									

仕様表記載例6【機種：圧縮機】
 [常設][構造分類：－][付属構造：－]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考
		<p>る爆発に 対処する ための設 備</p> <p>へ圧縮空気を供給し、水素濃度を可燃限界濃度未満に維持できる設計とする。</p> <p>代替安全圧縮空気系の可搬型空気圧縮機は軽油を燃料とし、対処のために必要な燃料は、補機駆動用燃料補給設備から補給が可能な設計とする。</p> <p>代替安全圧縮空気系の可搬型空気圧縮機は、想定される重大事故等時において、放射線分解により発生する水素による爆発の発生を仮定する機器を可燃限界濃度未満に維持するために必要な圧縮空気供給量を有する設計とするとともに、保有数は、必要数並びに予備として故障時及び保守点検による待機除外時のバックアップを含め十分な台数以上を確保する設計とする。</p> <p>代替安全圧縮空気系の可搬型空気圧縮機は、同時に発生する可能性のある事故への対処を含めて、事象進展に応じた使用の状態を踏まえた、必要な容量を確保した設計とする。</p> <p>代替安全圧縮空気系の可搬型空気圧縮機は、水素掃気機能の喪失及び冷却機能の喪失による蒸発乾固が同時に発生した場合においても、可燃限界濃度未満を維持するために必要な量を確保した設計とする。</p> <p>代替安全圧縮空気系の可搬型空気圧縮機は、放射線分解により発生する水素による爆発の発生を仮定する機器へ圧縮空気を供給するとともに、計装設備への圧縮空気を供給する場合に必要な圧縮空気供給量を有する設計とし、兼用できる設計とする。</p> <p>第四十一 条 有機溶媒 等による 火災又は 爆発に対 処するた めの設備</p> <p>種類 ・定格容量 ・吐出圧力 ・主要寸法 ・主要材料 ・個数 ・原動機 ・取付箇所</p> <p>へ圧縮空気を供給し、水素濃度を可燃限界濃度未満に維持できる設計とする。</p> <p>代替安全圧縮空気系の可搬型空気圧縮機は、放射線分解により発生する水素による爆発の発生を仮定する機器へ圧縮空気を供給するとともに、計装設備への圧縮空気を供給する場合に必要な圧縮空気供給量を有する設計とし、兼用できる設計とする。</p>		

仕様表記載例7【機種：ファン】

[常設][構造分類：遠心式/ルーツ式/ターボ式][付属構造：-]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																																																																																																																									
<p>工程情報を示す項目であり、設備仕様と直接関係しない項目であるため、仕様表に記載しない。</p> <p>主要設備リストで展開。</p> <table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>—</td> <td>中央制御室排風機A、B ()</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td>遠心式</td> </tr> <tr> <td>設計条件</td> <td>耐震クラス</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>流体の種類</td> <td>—</td> <td>空気</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">仕様</td> <td>容量</td> <td>m³/h/個 ○○○</td> </tr> <tr> <td>主要寸法 全高</td> <td>mm ○○○</td> </tr> <tr> <td>主要材料 ケーシング</td> <td>— ○○○</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>— ○○○</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td>—</td> <td>本設備は、非常用所内電源系統に接続する。</td> </tr> </table> <p>構造図：第3.2.4.1-2図に示す。</p> <p>単線結線図で展開。</p> <p>添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除</p>	名称	—	中央制御室排風機A、B ()	種類	—	遠心式	設計条件	耐震クラス	A	流体の種類	—	空気	仕様	容量	m ³ /h/個 ○○○	主要寸法 全高	mm ○○○	主要材料 ケーシング	— ○○○	個数	— ○○○	特記事項	—	本設備は、非常用所内電源系統に接続する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td>—</td> <td>中央制御室排風機 (0000-000)</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">主要寸法</td> <td>種類</td> <td>—</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>m³/h/個</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>吸込口径</td> <td>mm</td> <td>○○^{*1*}</td> </tr> <tr> <td>吐出口径</td> <td>mm</td> <td>○○^{*1*}</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>○○^{*1*}</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要材料</td> <td>幅</td> <td>mm</td> <td>○○^{*1*}</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>○○^{*1*}</td> </tr> <tr> <td>ケーシング</td> <td>—</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">機</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>—</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>化学薬品防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>化学薬品防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>種類^{*2}</td> <td>—</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>出力^{*2}</td> <td>kW/個</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>個数^{*2}</td> <td>—</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>取付箇所^{*2}</td> <td>—</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原動機</td> <td>種類</td> <td>—</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>出力</td> <td>kW/個</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td colspan="2">設計上の空気の流入率</td> <td>回/h</td> <td>○○</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：公称値を示す。 *2：既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。</p> <table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td>□</td> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> </table>	名称		変更前	変更後	名称		—	中央制御室排風機 (0000-000)	主要寸法	種類	—	○○	容量	m ³ /h/個	○○	吸込口径	mm	○○ ^{*1*}	吐出口径	mm	○○ ^{*1*}	たて	mm	○○ ^{*1*}	主要材料	幅	mm	○○ ^{*1*}	高さ	mm	○○ ^{*1*}	ケーシング	—	○○	機	系統名(ライン名)	—	○○	設置床	—	○○	溢水防護上の区画番号	—	—	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—	化学薬品防護上の区画番号	—	—	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	—	—	取付箇所	種類 ^{*2}	—	○○	出力 ^{*2}	kW/個	○○	個数 ^{*2}	—	○○	取付箇所 ^{*2}	—	○○	原動機	種類	—	○○	出力	kW/個	○○	設計上の空気の流入率		回/h	○○	○	機種で統一して記載する仕様項目	□	構造分類に係る仕様項目	<p>ファンに係る要求事項は次頁に示す。</p>	<p>(5) 排風機の名称、種類、容量、主要寸法、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所(常設及び可搬型の別に記載すること。)並びに設計上の空気の流入率</p> <p>・常設</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td>中央制御室換気系フィルタ系ファン^{*1}</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">排風機</td> <td>種類</td> <td>—</td> <td>遠心式^{*2}</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>m³/h/個^{*3}</td> <td>5100以上(5100^{*4})</td> </tr> <tr> <td>吸込口径</td> <td>mm</td> <td>450^{*4}</td> </tr> <tr> <td>吐出口径</td> <td>mm</td> <td>350^{*4}×500^{*4}</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>1415^{*4}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主要寸法</td> <td>幅</td> <td>mm</td> <td>1132^{*4}</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>1020^{*4}</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>—</td> <td>中央制御室換気系フィルタ系ファン 中央制御室換気系^{*5}</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>EL.23.00 m^{*5}</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>CS-3-1</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td>EL.23.00 m以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">原動機</td> <td>種類</td> <td>—</td> <td>誘導電動機^{*5}</td> </tr> <tr> <td>出力</td> <td>kW/個</td> <td>7.5^{*5}</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td>2^{*5}</td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td>—</td> <td>排風機と同じ^{*5}</td> </tr> <tr> <td colspan="2">設計上の空気の流入率</td> <td>回/h</td> <td>1.0^{*5}</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「排風機」と記載。 *2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「遠心」と記載。 *3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「m³/hr」と記載。 *4：公称値を示す。 *5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p>	名称		変更前	変更後	名称		中央制御室換気系フィルタ系ファン ^{*1}	—	排風機	種類	—	遠心式 ^{*2}	容量	m ³ /h/個 ^{*3}	5100以上(5100 ^{*4})	吸込口径	mm	450 ^{*4}	吐出口径	mm	350 ^{*4} ×500 ^{*4}	たて	mm	1415 ^{*4}	主要寸法	幅	mm	1132 ^{*4}	高さ	mm	1020 ^{*4}	個数	—	2	取付箇所	系統名(ライン名)	—	中央制御室換気系フィルタ系ファン 中央制御室換気系 ^{*5}	設置床	—	EL.23.00 m ^{*5}	溢水防護上の区画番号	—	CS-3-1	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	EL.23.00 m以上	原動機	種類	—	誘導電動機 ^{*5}	出力	kW/個	7.5 ^{*5}	個数	—	2 ^{*5}	取付箇所	—	排風機と同じ ^{*5}	設計上の空気の流入率		回/h	1.0 ^{*5}	<p>備考</p>
名称	—	中央制御室排風機A、B ()																																																																																																																																																																											
種類	—	遠心式																																																																																																																																																																											
設計条件	耐震クラス	A																																																																																																																																																																											
流体の種類	—	空気																																																																																																																																																																											
仕様	容量	m ³ /h/個 ○○○																																																																																																																																																																											
	主要寸法 全高	mm ○○○																																																																																																																																																																											
	主要材料 ケーシング	— ○○○																																																																																																																																																																											
	個数	— ○○○																																																																																																																																																																											
特記事項	—	本設備は、非常用所内電源系統に接続する。																																																																																																																																																																											
名称		変更前	変更後																																																																																																																																																																										
名称		—	中央制御室排風機 (0000-000)																																																																																																																																																																										
主要寸法	種類	—	○○																																																																																																																																																																										
	容量	m ³ /h/個	○○																																																																																																																																																																										
	吸込口径	mm	○○ ^{*1*}																																																																																																																																																																										
	吐出口径	mm	○○ ^{*1*}																																																																																																																																																																										
	たて	mm	○○ ^{*1*}																																																																																																																																																																										
主要材料	幅	mm	○○ ^{*1*}																																																																																																																																																																										
	高さ	mm	○○ ^{*1*}																																																																																																																																																																										
	ケーシング	—	○○																																																																																																																																																																										
機	系統名(ライン名)	—	○○																																																																																																																																																																										
	設置床	—	○○																																																																																																																																																																										
	溢水防護上の区画番号	—	—																																																																																																																																																																										
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—																																																																																																																																																																										
	化学薬品防護上の区画番号	—	—																																																																																																																																																																										
	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	—	—																																																																																																																																																																										
取付箇所	種類 ^{*2}	—	○○																																																																																																																																																																										
	出力 ^{*2}	kW/個	○○																																																																																																																																																																										
	個数 ^{*2}	—	○○																																																																																																																																																																										
	取付箇所 ^{*2}	—	○○																																																																																																																																																																										
原動機	種類	—	○○																																																																																																																																																																										
	出力	kW/個	○○																																																																																																																																																																										
設計上の空気の流入率		回/h	○○																																																																																																																																																																										
○	機種で統一して記載する仕様項目																																																																																																																																																																												
□	構造分類に係る仕様項目																																																																																																																																																																												
名称		変更前	変更後																																																																																																																																																																										
名称		中央制御室換気系フィルタ系ファン ^{*1}	—																																																																																																																																																																										
排風機	種類	—	遠心式 ^{*2}																																																																																																																																																																										
	容量	m ³ /h/個 ^{*3}	5100以上(5100 ^{*4})																																																																																																																																																																										
	吸込口径	mm	450 ^{*4}																																																																																																																																																																										
	吐出口径	mm	350 ^{*4} ×500 ^{*4}																																																																																																																																																																										
	たて	mm	1415 ^{*4}																																																																																																																																																																										
主要寸法	幅	mm	1132 ^{*4}																																																																																																																																																																										
	高さ	mm	1020 ^{*4}																																																																																																																																																																										
個数	—	2																																																																																																																																																																											
取付箇所	系統名(ライン名)	—	中央制御室換気系フィルタ系ファン 中央制御室換気系 ^{*5}																																																																																																																																																																										
	設置床	—	EL.23.00 m ^{*5}																																																																																																																																																																										
	溢水防護上の区画番号	—	CS-3-1																																																																																																																																																																										
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	EL.23.00 m以上																																																																																																																																																																										
原動機	種類	—	誘導電動機 ^{*5}																																																																																																																																																																										
	出力	kW/個	7.5 ^{*5}																																																																																																																																																																										
	個数	—	2 ^{*5}																																																																																																																																																																										
取付箇所	—	排風機と同じ ^{*5}																																																																																																																																																																											
設計上の空気の流入率		回/h	1.0 ^{*5}																																																																																																																																																																										

仕様表記載例7【機種：ファン】

[常設][構造分類：遠心式/ルーツ式/ターボ式][付属構造：-]

要求事項の整理		備考
技術基準	機能要求② 様式-6,7	主な仕様 (詳細設計)
第十条 閉じ込めの機能	設計基準事故時においても、可能な限り負圧維持、漏えい及び逆流防止の機能が確保される設計とするとともに、一部の換気系統の機能が損なわれた場合においても、再処理施設全体として気体の閉じ込め機能を確保する設計とする。 安全機能を有する施設は、使用済燃料等から発生する崩壊熱を適切に除去することとし、使用済燃料等を含む溶液の崩壊熱による機器内での沸騰を防止する設計とする。 使用済燃料等を内包する系統及び機器、セル等及び室並びにセル等及び室を収納する建屋は、気体廃棄物の廃棄施設により負圧に維持する設計とする。 プルトニウムを含む溶液及び高レベル廃液を内包する系統及び機器、ウランを非密封で大量に取り扱う系統、機器、セル等及びこれらを収納する建屋は、原則として、常時負圧に保ち、それぞれの気圧は、原則として、建屋、セル等並びに、系統及び機器の順に気圧が低くなる設計とする。	・容量 ・原動機
第十二条 溢水防護	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。 防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号
第十三条 化学薬品防護	発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。 防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水（以下「没液」という。）により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号
第十七条 第三十七条 材料及び構造	a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。 b. 常設重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。 a. 容器等は、最高使用圧力、最高使用温度及び機械的荷重が負荷されている状態（以下「設計上定める条件」という。）において、全体的な変形を弾性域に抑える設計とする。 (3) 座屈による破壊の防止 容器等は、設計上定める条件において、座屈が生じない設計とする。	・主要材料 ・主要材料 ・主要材料 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料
第二十八条 換気設備	汚染のおそれのある区域からの排気は、高性能粒子フィルタ及び固化セル換気系前置フィルタユニットでろ過した後、主排気筒、北換気筒及び低レベル廃棄物処理建屋換気筒の排気口から排出する設計とする。	・容量 ・原動機
第三十条 第五十条 緊急時対策所	緊急時対策建屋換気設備の緊急時対策建屋送風機及び緊急時対策建屋排風機は、多重性を有する設計とする。 MOX燃料加工施設と共用する緊急時対策建屋換気設備の緊急時対策建屋送風機及び緊急時対策建屋排風機は、緊急時対策所内の居住性を確保するために必要な台数及び動的機器の単一故障を考慮した予備を含めた台数以上を有する設計とする。また、緊急時対策建屋フィルタユニットは、緊急時対策所内の居住性を確保するために必要な基数及び故障時バックアップを含めた基数以上を有する設計とする。 緊急時対策建屋換気設備は、溢水量を考慮し、影響を受けない高さへの設置及び被水防護する設計とする。	・名称 ・種類 ・個数 ・取付箇所 ・容量 ・主要寸法 ・主要材料 ・設計上の空気の流入率 ・原動機
許可整合		・容量

仕様表記載例8【機種：フィルタ】

[常設] [構造分類：－] [付属構造：遮蔽設備]

要求事項の整理		備考
	機能要求② 様式-6,7	主な仕様 (詳細設計)
第十二条 溢水防護	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。 防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号
第十三条 化学薬品防護	発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。 防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水（以下「没液」という。）により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号
第十七条 第三十七条 材料及び構造	a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。 b. 常設重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。 a. 容器等は、最高使用圧力、最高使用温度及び機械的荷重が負荷されている状態（以下「設計上定める条件」という。）において、全体的な変形を弾性域に抑える設計とする。 (3) 座屈による破壊の防止 容器等は、設計上定める条件において、座屈が生じない設計とする。	・主要材料 ・主要材料 ・主要材料 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料
第二十四条 廃棄施設	気体廃棄物の廃棄施設に設けるろ過装置は、ミストフィルタ、高性能粒子フィルタ及びよう素フィルタによりろ過する設計としている。ミストフィルタ、高性能粒子フィルタは前後の差圧を測定し、適切にフィルタの交換を行う設計とする。よう素フィルタは、定期的によう素フィルタ出口のよう素濃度を測定し、適切にフィルタの交換を行う設計とする。また、ミストフィルタ、高性能粒子フィルタ及びよう素フィルタの周辺に十分な空間を確保し、フィルタ交換が容易な設計とする。	・効率 ・個数
第二十七条 遮蔽	(1) 安全機能を有する施設は、平常時において再処理施設からの直接線及びスカイシャイン線による周辺監視区域外の線量を遮蔽設備の適切な設置及び再処理施設と周辺監視区域境界までの距離を確保することにより、合理的に達成できる限り低減し、周辺監視区域外における線量限度を十分に下回る設計とする。 (4) 建屋内の遮蔽設計に当たっては、放射線業務従事者の作業場所への立入り頻度及び立入り時間を考慮した遮蔽設計区分を設けるとともに、区分ごとに放射線業務従事者の被ばく低減に留意した基準線量率を定め、これを満足するよう遮蔽設備を設計する。	・主要寸法 ・主要材料
第二十八条 換気設備	汚染のおそれのある区域からの排気は、高性能粒子フィルタ及び固定セル換気系前置フィルタユニットでろ過した後、主排気筒、北換気筒及び低レベル廃棄物処理建屋換気筒の排気口から排出する設計とする。 換気設備は、汚染のおそれのある区域からの排気を高性能粒子フィルタで浄化でき、前後の差圧を測定できる設計とする。さらに高性能粒子フィルタの周辺に十分な空間を確保し、フィルタ交換が容易な設計とする。	・効率 ・個数
第三十条 第五十条 緊急時対策所	MOX燃料加工施設と共用する緊急時対策建屋換気設備の緊急時対策建屋送風機及び緊急時対策建屋排風機は、緊急時対策所内の居住性を確保するために必要な台数及び動的機器の単一故障を考慮した予備を含めた台数以上を有する設計とする。また、緊急時対策建屋フィルタユニットは、緊急時対策所内の居住性を確保するために必要な基数及び故障時バックアップを含めた基数以上を有する設計とする。 緊急時対策建屋換気設備は、溢水量を考慮し、影響を受けない高さへの設置及び被水防護する設計とする。	・名称 ・種類 ・個数 ・取付箇所 ・容量 ・最高使用温度 ・最高使用圧力 ・効率 ・主要寸法 ・主要材料
許可整合		・容量

仕様表記載例 9-1 【機種：主要弁】

[常設] [構造分類：弁] [付属構造：閉止時間]

既認可の仕様表		仕様表案		要求事項の整理		発電炉類似設備要目表				備考																																																																																																				
備考 2) 3)	構造	個数	主要材料 (弁箱)	方法 (呼び径A)	種類	名称 セル内クーラ冷却水供給弁 A~J (0000-0000)	<p>注記 ①：第 4.2.1.4.8-1 図 高レベル廃液ガラス固化建屋換気設備 その他の重要な構造中の当該機器の番号を示す。 ②：耐震重要度分類上 A プラスの配管 (00-000-00) に言及して配管設計を行う。 ③：弁は自動閉鎖時に「閉」の状態となる。</p>				<p>添付書類に位置づけを変更したため、記載を削除。</p> <p>主要設備リストで展開。</p> <p>基本設計方針で展開。</p>																																																																																																			
												名称		セル内クーラ冷却水供給弁 A~J (0000-0000)		変更前		変更後																																																																																												
												種類		種類		種類		種類																																																																																												
												最高使用圧力		MPa		-		〇〇 ^{*2}																																																																																												
												最高使用温度		℃		-		〇〇 ^{*2}																																																																																												
												呼び径		-		-		〇〇 ^{*1}																																																																																												
												弁箱厚さ		mm		〇〇 ^{*1*3}		〇〇 ^{*1*3}																																																																																												
弁ふた厚さ		mm		〇〇 ^{*1*3}		〇〇 ^{*1*3}																																																																																																								
弁箱		-		〇〇		〇〇																																																																																																								
弁体		-		〇〇 ^{*3}		〇〇 ^{*3}																																																																																																								
駆動方法		-		〇〇 ^{*3}		〇〇 ^{*3}																																																																																																								
閉止時間		s		〇〇 ^{*3}		〇〇 ^{*3}																																																																																																								
個数		-		〇〇		〇〇																																																																																																								
系統名 (フィン右)		-		〇〇		〇〇																																																																																																								
設置床		-		〇〇		〇〇																																																																																																								
取水箇所		-		-		〇〇																																																																																																								
溢水防護上の区画番号		-		-		〇〇																																																																																																								
溢水防護上の配慮が必要な高さ		-		-		〇〇																																																																																																								
化学薬品防護上の区画番号		-		-		〇〇																																																																																																								
化学薬品防護上の配慮が必要な高さ		-		-		〇〇																																																																																																								
注記		注記		注記		注記																																																																																																								
*1: 公称値を示す。		*1: 公称値を示す。		*1: 公称値を示す。		*1: 公称値を示す。																																																																																																								
*2: 重大事故時等における使用時の値を示す。		*2: 重大事故時等における使用時の値を示す。		*2: 重大事故時等における使用時の値を示す。		*2: 重大事故時等における使用時の値を示す。																																																																																																								
*3: 既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。		*3: 既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。		*3: 既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。		*3: 既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。																																																																																																								
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #e0e0e0;"> </td> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #e0ffe0;"> </td> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #ffe0ff;"> </td> <td>閉止時間に係る追加仕様項目</td> </tr> </table>			機種で統一して記載する仕様項目		構造分類に係る仕様項目		閉止時間に係る追加仕様項目	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #e0e0e0;"> </td> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #e0ffe0;"> </td> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #ffe0ff;"> </td> <td>閉止時間に係る追加仕様項目</td> </tr> </table>			機種で統一して記載する仕様項目		構造分類に係る仕様項目		閉止時間に係る追加仕様項目	<p>【様式-6,7の整理により要求機能②としたもの】</p> <p>技術基準</p> <p>要求機能② 様式-6,7</p> <p>主な使用 (詳細設計)</p> <p>第十二条 溢水防護 発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ (以下「機能喪失高さ」という。) を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。</p> <p>第十三条 化学薬品防護 発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ (以下「機能喪失高さ」という。) を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水 (以下「没液」という。) により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。</p> <p>第十七条 第三十七条 材料及び構造 a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。 b. 常設重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。</p> <p>第三十八条 臨界事故の拡大を防止するための設備 重大事故時可溶性中性子吸収材供給回路の臨界検知用放射線検出器により、臨界事故が発生した機器周辺の線量率の上昇を検出し、臨界事故が発生したと判定したことを条件とし、直ちに経路上の弁を開放することにより、自動で臨界事故が発生した機器に、重力流により可溶性中性子吸収材を供給し、10 分以内に可溶性中性子吸収材の供給が完了できる設計とする。 また、弁を多重化すること等により、臨界事故時に確実に可溶性中性子吸収材を供給できる設計とする。</p> <p>第四十一条 有機溶媒等による火災又は爆発に対処するための設備 <ul style="list-style-type: none"> 種類 最高使用圧力 最高使用温度 主要寸法 主要材料 駆動方法 閉止時間 個数 </p>		<p>ニ 主要弁の名称、種類、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、駆動方法、個数及び取水箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)</p> <p>・常設</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>変更前*</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名</td> <td>称</td> <td>CI2-126</td> <td colspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>種</td> <td>類</td> <td>止め弁</td> <td colspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>最</td> <td>高 使 用 圧 力</td> <td>MPa</td> <td>12.06</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>最</td> <td>高 使 用 温 度</td> <td>℃</td> <td>66</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主</td> <td rowspan="2">呼 び 径</td> <td rowspan="2">-</td> <td>25 A (入口側) /</td> <td rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td>25 A (出口側)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">寸</td> <td rowspan="2">弁 箱 厚 さ</td> <td rowspan="2">mm</td> <td> </td> <td rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td> </td> </tr> <tr> <td rowspan="2">法</td> <td rowspan="2">弁 ふ た 厚 さ</td> <td rowspan="2">mm</td> <td> </td> <td rowspan="2">変更なし</td> </tr> <tr> <td> </td> </tr> <tr> <td>材</td> <td>弁</td> <td>箱</td> <td>-</td> <td>SUS304 相当</td> </tr> <tr> <td>料</td> <td>弁</td> <td>ふ</td> <td>た</td> <td>-</td> <td>SUS304 相当</td> </tr> <tr> <td>取</td> <td>駆 動 方 法</td> <td>-</td> <td colspan="2">空気作動</td> </tr> <tr> <td>個</td> <td>数</td> <td>-</td> <td colspan="2">185</td> </tr> <tr> <td>取</td> <td>系 統 名</td> <td>-</td> <td colspan="2">CI2-126</td> </tr> <tr> <td>付</td> <td>(ラ イ ン 名)</td> <td>-</td> <td colspan="2">制御棒駆動水圧系</td> </tr> <tr> <td>設</td> <td>置 床</td> <td>-</td> <td>EL. 20.30 m</td> <td>EL. 20.30 m</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">箇</td> <td rowspan="2">溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号</td> <td rowspan="2">-</td> <td>RB-3-3</td> <td>RB-3-4</td> </tr> <tr> <td>EL. 21.29 m 以上</td> <td>EL. 21.75 m 以上</td> </tr> <tr> <td>所</td> <td>溢 水 防 護 上 の 配 慮 が必要 な 高 さ</td> <td>-</td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 * : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p>		名称		変更前*	変更後		名	称	CI2-126	変更なし		種	類	止め弁	変更なし		最	高 使 用 圧 力	MPa	12.06	変更なし	最	高 使 用 温 度	℃	66	変更なし	主	呼 び 径	-	25 A (入口側) /	変更なし	25 A (出口側)	寸	弁 箱 厚 さ	mm		変更なし		法	弁 ふ た 厚 さ	mm		変更なし		材	弁	箱	-	SUS304 相当	料	弁	ふ	た	-	SUS304 相当	取	駆 動 方 法	-	空気作動		個	数	-	185		取	系 統 名	-	CI2-126		付	(ラ イ ン 名)	-	制御棒駆動水圧系		設	置 床	-	EL. 20.30 m	EL. 20.30 m	箇	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	-	RB-3-3	RB-3-4	EL. 21.29 m 以上	EL. 21.75 m 以上	所	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が必要 な 高 さ	-		
	機種で統一して記載する仕様項目																																																																																																													
	構造分類に係る仕様項目																																																																																																													
	閉止時間に係る追加仕様項目																																																																																																													
	機種で統一して記載する仕様項目																																																																																																													
	構造分類に係る仕様項目																																																																																																													
	閉止時間に係る追加仕様項目																																																																																																													
名称		変更前*	変更後																																																																																																											
名	称	CI2-126	変更なし																																																																																																											
種	類	止め弁	変更なし																																																																																																											
最	高 使 用 圧 力	MPa	12.06	変更なし																																																																																																										
最	高 使 用 温 度	℃	66	変更なし																																																																																																										
主	呼 び 径	-	25 A (入口側) /	変更なし																																																																																																										
			25 A (出口側)																																																																																																											
寸	弁 箱 厚 さ	mm		変更なし																																																																																																										
法	弁 ふ た 厚 さ	mm		変更なし																																																																																																										
材	弁	箱	-	SUS304 相当																																																																																																										
料	弁	ふ	た	-	SUS304 相当																																																																																																									
取	駆 動 方 法	-	空気作動																																																																																																											
個	数	-	185																																																																																																											
取	系 統 名	-	CI2-126																																																																																																											
付	(ラ イ ン 名)	-	制御棒駆動水圧系																																																																																																											
設	置 床	-	EL. 20.30 m	EL. 20.30 m																																																																																																										
箇	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	-	RB-3-3	RB-3-4																																																																																																										
			EL. 21.29 m 以上	EL. 21.75 m 以上																																																																																																										
所	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が必要 な 高 さ	-																																																																																																												

仕様表記載例 9-1 【機種：主要弁】

[常設] [構造分類：弁] [付属構造：閉止時間]

		<div data-bbox="1495 161 1822 281" style="background-color: black; width: 100%; height: 57px;"></div> <div data-bbox="1495 281 1822 443" style="background-color: black; width: 100%; height: 77px;"></div> <div data-bbox="1495 443 1822 625" style="background-color: black; width: 100%; height: 87px;"></div> <div data-bbox="1495 625 1822 808" style="background-color: black; width: 100%; height: 87px;"></div> <div data-bbox="1495 808 1822 890" style="background-color: black; width: 100%; height: 39px;"></div> <div data-bbox="1495 890 1822 972" style="background-color: black; width: 100%; height: 39px;"></div>		
--	--	---	--	--

廃ガス貯留設備の廃ガス貯留槽は、臨界事故又はT B P等の錯体の急激な分解反応が発生した場合において、臨界事故又はT B P等の錯体の急激な分解反応により発生した放射性物質を含む気体を貯留するために必要な容量を有する設計とする。また、動的機器である廃ガス貯留設備の空気圧縮機及び弁は、多重化した設計とし、廃ガス貯留設備は、前処理建屋及び精製建屋に必要な系列数を設置する設計とする。

廃ガス貯留設備は、臨界事故の発生を仮定する機器及びT B P等の錯体の急激な分解反応の発生を仮定する機器ごとに、重大事故等への対処に必要な設備数を確保する設計とする。

廃ガス貯留設備は、T B P等の錯体の急激な分解反応により瞬間的に上昇する温度及び圧力の影響を考慮しても機能を損なわない設計とする。

仕様表記載例 9-2 【機種：主要弁】
 [常設] [構造分類：ダンパ] [付属構造：閉止時間]

既認可の仕様表				仕様表案				要求事項の整理				発電炉類似設備要目表				備考
名	称	種類	個数	寸法 ¹⁾	主要材料	備考	建屋給気閉止ダンパ (0000-0000)	建屋給気閉止ダンパ (0000-0000)	変更前	変更後	ダンパに係る要求事項は09-1と同様	変更前	変更後	備考	3)	
																W (mm)
注記 1) 寸法は呼び寸法を示す。 2) 第 4.2.1.4.2-2 図 分離建屋換気設備 その他の重要な機器等構造図中の当該機器の番号を示す。 3) 建屋給気閉止ダンパ 0000-0000、0000、0000 は外部電源喪失時に閉鎖する外部電源喪失により、警報を発する。																
添付書類に位置づけを変更したため、記載を削除。 主要設備リストで展開。 基本設計方針で展開。																
注記 *1: 公称値を示す。 *2: 記載の適正化を行う。既設工認申請書では「W」及び「H」と記載。 *3: 既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *4: 重大事故時等における使用時の値を示す。																
取付箇所 系統名 (ライン名) ー ー 設置床 ー ー 溢水防護上の区画番号 ー ー 溢水防護上の配慮が必要な高さ ー ー 化学薬品防護上の区画番号 ー ー 化学薬品防護上の配慮が必要な高さ ー ー																
注記 * : 既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。																
圧力容器に設置する弁ではないため、漏えい率は仕様表項目に記載しない。																

仕様表記載例 10【機種：安全弁及び逃がし弁】

[常設] [構造分類：－] [付属構造：－]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
<p><既認可仕様表なし></p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">種類</td> <td>○○安全弁 (0000-0000) *2*3</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>吹出圧力</td> <td>MPa</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>吹出量</td> <td>kg/h/個</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>吹出場所</td> <td>－</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主要寸法</td> <td>呼び径</td> <td>mm</td> <td>○○^{*1}</td> </tr> <tr> <td>のど部の径</td> <td>mm</td> <td>○○^{*1}</td> </tr> <tr> <td>弁座口の径</td> <td>mm</td> <td>○○^{*1}</td> </tr> <tr> <td>リフト</td> <td>mm</td> <td>○○以上^{*1}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主要材料</td> <td>弁箱</td> <td>－</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>駆動方法</td> <td>－</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">取付箇所</td> <td>個数</td> <td>－</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>系統名(ライン名)</td> <td>－</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>－</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>－</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>－</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>化学薬品防護上の区画番号</td> <td>－</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>化学薬品防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>－</td> <td>○○</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：公称値を示す。 *2：既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。 *3：自動減圧機能を有する。</p> <table border="1"> <tr> <td>□</td> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> </table>	名称		変更前	変更後	種類		○○安全弁 (0000-0000) *2*3	○○	吹出圧力	MPa	○○	○○	吹出量	kg/h/個	○○	○○	吹出場所	－	○○	○○	主要寸法	呼び径	mm	○○ ^{*1}	のど部の径	mm	○○ ^{*1}	弁座口の径	mm	○○ ^{*1}	リフト	mm	○○以上 ^{*1}	主要材料	弁箱	－	○○	駆動方法	－	○○	取付箇所	個数	－	○○	系統名(ライン名)	－	○○	設置床	－	○○	溢水防護上の区画番号	－	○○	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－	○○	化学薬品防護上の区画番号	－	○○	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	－	○○	□	機種で統一して記載する仕様項目	■	構造分類に係る仕様項目	<p>【様式-6,7の整理により要求機能②としたもの】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>技術基準</th> <th>要求機能② 様式-6,7</th> <th>主な使用 (詳細設計)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第十二条 溢水防護</td> <td>発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td> <td>取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ(機能喪失高さ) ・防護上の区画番号</td> </tr> <tr> <td>第十三条 化学薬品防護</td> <td>発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水(以下「没液」という。)により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td> <td>取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ(機能喪失高さ) ・防護上の区画番号</td> </tr> <tr> <td>第十七条 第三十七条 材料及び構造</td> <td>a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。 b. 常設重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。</td> <td>・主要材料</td> </tr> <tr> <td>第三十八条 臨界事故の拡大を防止するための設備</td> <td>・臨界事故が発生した設備に接続する換気系統の配管の流路を遮断するために必要な設備及び換気系統の配管内が加圧状態になった場合にセル内に設置された配管の外部へ放射性物質を排出するために必要な設備</td> <td>・吹出圧力a ・吹出量 ・吹出場所 ・駆動方法 ・主要寸法 ・主要材料</td> </tr> </tbody> </table>	技術基準	要求機能② 様式-6,7	主な使用 (詳細設計)	第十二条 溢水防護	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ(機能喪失高さ) ・防護上の区画番号	第十三条 化学薬品防護	発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水(以下「没液」という。)により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ(機能喪失高さ) ・防護上の区画番号	第十七条 第三十七条 材料及び構造	a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。 b. 常設重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。	・主要材料	第三十八条 臨界事故の拡大を防止するための設備	・臨界事故が発生した設備に接続する換気系統の配管の流路を遮断するために必要な設備及び換気系統の配管内が加圧状態になった場合にセル内に設置された配管の外部へ放射性物質を排出するために必要な設備	・吹出圧力a ・吹出量 ・吹出場所 ・駆動方法 ・主要寸法 ・主要材料	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="15">(1) 安全弁及び逃がし弁の仕様、種類、吹出圧力、吹出量、主要寸法、材料、駆動方法、設置(注:設置は機能喪失を有する場合はその設置を行うこと)。取付箇所及び付属構造</th> </tr> <tr> <th>名 称</th> <th>既 認 可</th> <th>案 内</th> <th>案 外</th> <th>案 外</th> <th>案 外</th> <th>案 外</th> <th>案 外</th> <th>案 外</th> <th>案 外</th> <th>案 外</th> <th>案 外</th> <th>案 外</th> <th>案 外</th> <th>案 外</th> <th>案 外</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>溢水防護</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>吹出圧力</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>吹出量</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>吹出場所</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>呼び径</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>のど部の径</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>弁座口の径</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>リフト</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>弁箱</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>駆動方法</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>系統名(ライン名)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>化学薬品防護上の区画番号</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>化学薬品防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	(1) 安全弁及び逃がし弁の仕様、種類、吹出圧力、吹出量、主要寸法、材料、駆動方法、設置(注:設置は機能喪失を有する場合はその設置を行うこと)。取付箇所及び付属構造															名 称	既 認 可	案 内	案 外	案 外	案 外	案 外	案 外	案 外	案 外	案 外	案 外	案 外	案 外	案 外	案 外	溢水防護	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	吹出圧力	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	吹出量	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	吹出場所	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	呼び径	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	のど部の径	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	弁座口の径	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	リフト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	弁箱	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	駆動方法	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	個数	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	系統名(ライン名)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	設置床	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	溢水防護上の区画番号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	溢水防護上の配慮が必要な高さ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	化学薬品防護上の区画番号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	<p>備考 *1：既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *2：既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成19年10月20日付け発効後第14号にて追加した工業計測の計測値(注:3.主要規格は安全弁の取付と構造)による。 *3：既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *4：公称値を示す。 *5：自動減圧機能を有する弁を示す。 *6：機能喪失防護を有する弁を示す。 *7：本設備に取付又は取換する。 *8：1:8の吹出し自動減圧機能を有する弁(注:22-F103, C, F, R, L, R)を含む。</p>
名称		変更前	変更後																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
種類		○○安全弁 (0000-0000) *2*3	○○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
吹出圧力	MPa	○○	○○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
吹出量	kg/h/個	○○	○○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
吹出場所	－	○○	○○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
主要寸法	呼び径	mm	○○ ^{*1}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	のど部の径	mm	○○ ^{*1}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	弁座口の径	mm	○○ ^{*1}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	リフト	mm	○○以上 ^{*1}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
主要材料	弁箱	－	○○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	駆動方法	－	○○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
取付箇所	個数	－	○○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	系統名(ライン名)	－	○○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	設置床	－	○○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	溢水防護上の区画番号	－	○○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－	○○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	化学薬品防護上の区画番号	－	○○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	－	○○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
□	機種で統一して記載する仕様項目																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
■	構造分類に係る仕様項目																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
技術基準	要求機能② 様式-6,7	主な使用 (詳細設計)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
第十二条 溢水防護	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ(機能喪失高さ) ・防護上の区画番号																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
第十三条 化学薬品防護	発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水(以下「没液」という。)により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ(機能喪失高さ) ・防護上の区画番号																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
第十七条 第三十七条 材料及び構造	a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。 b. 常設重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。	・主要材料																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
第三十八条 臨界事故の拡大を防止するための設備	・臨界事故が発生した設備に接続する換気系統の配管の流路を遮断するために必要な設備及び換気系統の配管内が加圧状態になった場合にセル内に設置された配管の外部へ放射性物質を排出するために必要な設備	・吹出圧力a ・吹出量 ・吹出場所 ・駆動方法 ・主要寸法 ・主要材料																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
(1) 安全弁及び逃がし弁の仕様、種類、吹出圧力、吹出量、主要寸法、材料、駆動方法、設置(注:設置は機能喪失を有する場合はその設置を行うこと)。取付箇所及び付属構造																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
名 称	既 認 可	案 内	案 外	案 外	案 外	案 外	案 外	案 外	案 外	案 外	案 外	案 外	案 外	案 外	案 外																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
溢水防護	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
吹出圧力	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
吹出量	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
吹出場所	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
呼び径	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
のど部の径	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
弁座口の径	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
リフト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
弁箱	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
駆動方法	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
個数	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
系統名(ライン名)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
設置床	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
溢水防護上の区画番号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
溢水防護上の配慮が必要な高さ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
化学薬品防護上の区画番号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					

仕様表記載例 11-1 【機種：主配管】

[常設] [構造分類：配管] [付属構造：-]

既認可の仕様表				仕様表案				要求事項の整理				発電炉類似設備要目表				備考																																																																																																																																																																									
<p>②系統図で示す。</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">設計条件</th> <th colspan="2">仕様</th> <th colspan="2">備考</th> </tr> <tr> <td>機器の種類</td> <td>耐震クラス</td> <td>流体の種類</td> <td>最高使用圧力 (MPa)</td> <td>最高使用温度 (°C)</td> <td>配管番号</td> </tr> <tr> <td>安全冷却水系</td> <td>As</td> <td>冷却水</td> <td>(OO) 1)</td> <td>OO</td> <td>OO OO OO OO OO OO</td> </tr> <tr> <td>名称</td> <td colspan="2">安全冷却水 B 冷却塔まわり配管 (0000-000)</td> <td>最高使用圧力 (MPa)</td> <td>最高使用温度 (°C)</td> <td>材料</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>OO</td> <td>OO</td> <td>OO</td> </tr> </table> <p>注記 X) : 単位は (kg/cm²)</p> <p>①主要設備リストで示す。</p> <p>旧単位系記載のため、SI 単位系表記に統一することに伴い適正化。</p> <p>工程情報を示す項目であり、設備仕様に直接関係しない項目であるため、仕様表に記載しない</p>				設計条件		仕様		備考		機器の種類	耐震クラス	流体の種類	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	配管番号	安全冷却水系	As	冷却水	(OO) 1)	OO	OO OO OO OO OO OO	名称	安全冷却水 B 冷却塔まわり配管 (0000-000)		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	材料				OO	OO	OO	<p>変更前</p> <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>最高使用圧力 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>外径 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>主要材料</th> </tr> <tr> <td>安全冷却水系</td> <td>OO</td> <td>OO</td> <td>OO^{#1}</td> <td>OO^{#1}</td> <td>OO</td> </tr> <tr> <td>安全冷却水 B 冷却塔～前処理建屋^{#2}</td> <td>OO</td> <td>OO</td> <td>OO^{#1}</td> <td>OO^{#1}</td> <td>OO</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>OO^{#1}</td> <td>OO^{#1}</td> <td>OO</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>OO^{#1}</td> <td>OO^{#1}</td> <td>OO</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>OO^{#1}</td> <td>OO^{#1}</td> <td>OO</td> </tr> </table> <p>変更後</p> <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>最高使用圧力 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>外径 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>主要材料</th> </tr> <tr> <td>安全冷却水系</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし^{#3}</td> <td>変更なし^{#4}</td> </tr> </table> <p>注記 *1: 公称値を示す。 *2: 記載の適正化を行う。既設工認申請書には「安全冷却水 B 冷却塔 (0000-000) まわり配管」と記載。 *3: 公称値を示す。</p>				名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	主要材料	安全冷却水系	OO	OO	OO ^{#1}	OO ^{#1}	OO	安全冷却水 B 冷却塔～前処理建屋 ^{#2}	OO	OO	OO ^{#1}	OO ^{#1}	OO				OO ^{#1}	OO ^{#1}	OO				OO ^{#1}	OO ^{#1}	OO				OO ^{#1}	OO ^{#1}	OO	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	主要材料	安全冷却水系	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし ^{#3}	変更なし ^{#4}	<p>要求事項の整理</p> <p>主配管に係る要求事項は次頁に示す。</p>				<p>発電炉類似設備要目表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>表</th> <th>名称</th> <th>最高使用圧力 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>外径 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>材料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">非</td> <td rowspan="2">原子炉建屋空気出入口管</td> <td>0.014^{#5}</td> <td>72</td> <td>606.6</td> <td>12.0^{#6}</td> <td>384HA</td> </tr> <tr> <td>0.014^{#5}</td> <td>72</td> <td>606.4</td> <td>12.0^{#6}</td> <td>384HB</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">用</td> <td rowspan="2">冷却水配管</td> <td>0.014^{#5}</td> <td>72</td> <td>606.6</td> <td>12.0^{#6}</td> <td>384HA</td> </tr> <tr> <td>0.014^{#5}</td> <td>72</td> <td>606.6</td> <td>12.0^{#6}</td> <td>384HA</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ガ</td> <td rowspan="2">原子炉建屋空気出入口管</td> <td>0.014^{#5}</td> <td>72</td> <td>305.4^{#7}</td> <td>12.0^{#6}</td> <td>384HA^{#8}</td> </tr> <tr> <td>0.014^{#5}</td> <td>72</td> <td>305.6</td> <td>12.0^{#6}</td> <td>384HA^{#8}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ス</td> <td rowspan="2">原子炉建屋空気出入口管</td> <td>0.014^{#5}</td> <td>72</td> <td>606.6</td> <td>12.0^{#6}</td> <td>384HA</td> </tr> <tr> <td>0.014^{#5}</td> <td>72</td> <td>606.6</td> <td>12.0^{#6}</td> <td>384HA</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">構</td> <td rowspan="2">原子炉建屋空気出入口管</td> <td>0.014^{#5}</td> <td>72</td> <td>305.4^{#7}</td> <td>12.0^{#6}</td> <td>384HA^{#8}</td> </tr> <tr> <td>0.014^{#5}</td> <td>72</td> <td>305.6</td> <td>12.0^{#6}</td> <td>384HA^{#8}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">造</td> <td rowspan="2">原子炉建屋空気出入口管</td> <td>0.014^{#5}</td> <td>72</td> <td>606.6</td> <td>12.0^{#6}</td> <td>384HA</td> </tr> <tr> <td>0.014^{#5}</td> <td>72</td> <td>606.6</td> <td>12.0^{#6}</td> <td>384HA</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">系</td> <td rowspan="2">原子炉建屋空気出入口管</td> <td>0.014^{#5}</td> <td>72</td> <td>305.4^{#7}</td> <td>12.0^{#6}</td> <td>384HA^{#8}</td> </tr> <tr> <td>0.014^{#5}</td> <td>72</td> <td>305.6</td> <td>12.0^{#6}</td> <td>384HA^{#8}</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1: 公称値を示す。 *2: S 1 単位に換算した値。 *3: 既設工認申請書に記載しないため、記載の適正化を行う。記載内容は、既設工認申請書「図 1-2 原子炉建屋空気出入口管の仕様表」による。 *4: 既設工認申請書に記載しないため、記載の適正化を行う。記載内容は、既設工認申請書「図 1-2 原子炉建屋空気出入口管の仕様表」による。 *5: 本設備は既設の設備である。 *6: 最大事故時における使用時の値を示す。 *7: 1 層を示す。 *8: 記載の適正化を行う。既設工認申請書には「原子炉建屋空気出入口管より原子炉建屋空気出入口管まで」と記載。 *9: 記載の適正化を行う。既設工認申請書には「原子炉建屋空気出入口管より原子炉建屋空気出入口管まで」と記載。 *10: 記載の適正化を行う。既設工認申請書には「原子炉建屋空気出入口管より原子炉建屋空気出入口管まで」と記載。</p>				表	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	非	原子炉建屋空気出入口管	0.014 ^{#5}	72	606.6	12.0 ^{#6}	384HA	0.014 ^{#5}	72	606.4	12.0 ^{#6}	384HB	用	冷却水配管	0.014 ^{#5}	72	606.6	12.0 ^{#6}	384HA	0.014 ^{#5}	72	606.6	12.0 ^{#6}	384HA	ガ	原子炉建屋空気出入口管	0.014 ^{#5}	72	305.4 ^{#7}	12.0 ^{#6}	384HA ^{#8}	0.014 ^{#5}	72	305.6	12.0 ^{#6}	384HA ^{#8}	ス	原子炉建屋空気出入口管	0.014 ^{#5}	72	606.6	12.0 ^{#6}	384HA	0.014 ^{#5}	72	606.6	12.0 ^{#6}	384HA	構	原子炉建屋空気出入口管	0.014 ^{#5}	72	305.4 ^{#7}	12.0 ^{#6}	384HA ^{#8}	0.014 ^{#5}	72	305.6	12.0 ^{#6}	384HA ^{#8}	造	原子炉建屋空気出入口管	0.014 ^{#5}	72	606.6	12.0 ^{#6}	384HA	0.014 ^{#5}	72	606.6	12.0 ^{#6}	384HA	系	原子炉建屋空気出入口管	0.014 ^{#5}	72	305.4 ^{#7}	12.0 ^{#6}	384HA ^{#8}	0.014 ^{#5}	72	305.6	12.0 ^{#6}	384HA ^{#8}	備考
設計条件		仕様		備考																																																																																																																																																																																					
機器の種類	耐震クラス	流体の種類	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	配管番号																																																																																																																																																																																				
安全冷却水系	As	冷却水	(OO) 1)	OO	OO OO OO OO OO OO																																																																																																																																																																																				
名称	安全冷却水 B 冷却塔まわり配管 (0000-000)		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	材料																																																																																																																																																																																				
			OO	OO	OO																																																																																																																																																																																				
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	主要材料																																																																																																																																																																																				
安全冷却水系	OO	OO	OO ^{#1}	OO ^{#1}	OO																																																																																																																																																																																				
安全冷却水 B 冷却塔～前処理建屋 ^{#2}	OO	OO	OO ^{#1}	OO ^{#1}	OO																																																																																																																																																																																				
			OO ^{#1}	OO ^{#1}	OO																																																																																																																																																																																				
			OO ^{#1}	OO ^{#1}	OO																																																																																																																																																																																				
			OO ^{#1}	OO ^{#1}	OO																																																																																																																																																																																				
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	主要材料																																																																																																																																																																																				
安全冷却水系	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし ^{#3}	変更なし ^{#4}																																																																																																																																																																																				
表	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料																																																																																																																																																																																			
非	原子炉建屋空気出入口管	0.014 ^{#5}	72	606.6	12.0 ^{#6}	384HA																																																																																																																																																																																			
		0.014 ^{#5}	72	606.4	12.0 ^{#6}	384HB																																																																																																																																																																																			
用	冷却水配管	0.014 ^{#5}	72	606.6	12.0 ^{#6}	384HA																																																																																																																																																																																			
		0.014 ^{#5}	72	606.6	12.0 ^{#6}	384HA																																																																																																																																																																																			
ガ	原子炉建屋空気出入口管	0.014 ^{#5}	72	305.4 ^{#7}	12.0 ^{#6}	384HA ^{#8}																																																																																																																																																																																			
		0.014 ^{#5}	72	305.6	12.0 ^{#6}	384HA ^{#8}																																																																																																																																																																																			
ス	原子炉建屋空気出入口管	0.014 ^{#5}	72	606.6	12.0 ^{#6}	384HA																																																																																																																																																																																			
		0.014 ^{#5}	72	606.6	12.0 ^{#6}	384HA																																																																																																																																																																																			
構	原子炉建屋空気出入口管	0.014 ^{#5}	72	305.4 ^{#7}	12.0 ^{#6}	384HA ^{#8}																																																																																																																																																																																			
		0.014 ^{#5}	72	305.6	12.0 ^{#6}	384HA ^{#8}																																																																																																																																																																																			
造	原子炉建屋空気出入口管	0.014 ^{#5}	72	606.6	12.0 ^{#6}	384HA																																																																																																																																																																																			
		0.014 ^{#5}	72	606.6	12.0 ^{#6}	384HA																																																																																																																																																																																			
系	原子炉建屋空気出入口管	0.014 ^{#5}	72	305.4 ^{#7}	12.0 ^{#6}	384HA ^{#8}																																																																																																																																																																																			
		0.014 ^{#5}	72	305.6	12.0 ^{#6}	384HA ^{#8}																																																																																																																																																																																			

仕様表記載例 11-1 【機種：主配管】

[常設] [構造分類：配管] [付属構造：－]

要求事項の整理		備考
技術基準	機能要求② 様式-6,7	主な仕様 (詳細設計)
第十一条 第三十五条 火災等による損傷の防止	<p>(1) 消火設備の消火剤の容量 消火設備は、想定される火災の性質に応じた十分な容量として、消防法施行規則、又は試験により確認した消火剤容量を配備する設計とする。</p> <p>(2) 消火設備の系統構成 a. 消火用水供給系の多重性又は多様性 消火用水供給系の水源として、ろ過水貯槽（廃棄物管理施設、MOX 燃料加工施設と共用（以下同じ。））及び消火用水貯槽（廃棄物管理施設、MOX 燃料加工施設と共用（以下同じ。））を設置し、多重性を有する設計とする。 緊急時対策建屋の消火用水供給系の水源は、消火水槽、建屋近傍に防火水槽を設置し、多重性を有する設計とする。 消火用水系の消火ポンプは、必要量を送水可能な電動機駆動消火ポンプ（廃棄物管理施設、MOX 燃料加工施設と共用（以下同じ。））に加え、ディーゼル駆動消火ポンプ（廃棄物管理施設、MOX 燃料加工施設と共用（以下同じ。））を1台ずつ設置することで、多様性を有する設計とするとともに、消火配管内を加圧状態に保持するため、機器の単一故障を想定し、圧力調整用消火ポンプ（廃棄物管理施設、MOX 燃料加工施設と共用（以下同じ。））を2基設ける設計とする。 また、緊急時対策建屋の消火ポンプは電動駆動消火ポンプを2台設置することで、多重性を有する設計とする。</p> <p>b. 水平距離6m以上の離隔距離の確保、火災感知設備及び自動消火設備の設置による分離 互いに相違する系列の最重要設備は、水平距離間には仮置きするものを含め可燃性物質が存在しないようにし、系列間を6m以上の離隔距離により分離する設計とし、かつ、火災感知設備及び自動消火設備を設置することで系統間を分離する設計とする。</p> <p>c. 1時間耐火隔壁による分離、火災感知設備及び自動消火設備の設置による分離 互いに相違する系列の最重要設備を1時間の耐火能力を有する隔壁で分離し、かつ、火災感知設備及び自動消火設備を設置することで系統間を分離する設計とする。</p> <p>b. 制御室床下コンクリートビットの影響軽減対策 制御室床下コンクリートビットに関しては、敷設する互いに相違する系列のケーブルについては、1時間以上の耐火能力を有する分離板又は障壁で分離する設計とする。 また、固有の信号を発生する異なる種類の火災感知器を組み合わせて設置し、火災の発生場所が特定できる設計とする。 制御室からの手動操作により早期の起動が可能な固定式ガス消火設備を設置する設計とする。 なお、最重要設備には該当しないが使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の制御室についても同等の設計とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・名称 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要材料 ・主要寸法
第十七条 第三十七条 材料及び構造	<p>a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。</p> <p>b. 常設重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。</p> <p>c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。</p> <p>a. 容器等は、最高使用圧力、最高使用温度及び機械的荷重が負荷されている状態（以下「設計上定める条件」という。）において、全体的な変形を弾性域に抑える設計とする。</p> <p>(1) 延性破断の防止 b. 容器等のうちダクトにあつては、最高使用圧力、最高使用温度及び機械的荷重が負荷されている状態（以下「設計上定める条件」という。）において、延性破断に至る塑性変形を生じない設計とする。</p> <p>(2) 疲労破壊の防止 容器等に属する伸縮継手にあつては、設計上定める条件で応力が繰り返し加わる場合において、疲労破壊が生じない設計とする。</p> <p>(3) 座屈による破壊の防止 容器等は、設計上定める条件において、座屈が生じない設計とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主要材料 ・主要材料 ・主要材料 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料
第二十四条 廃棄施設	液体廃棄物の廃棄施設は、放出管理が行える海洋放出管理系を経て十分な拡散効果を有する海洋放出口から放出する設計とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・主要寸法
第三十八条 臨界事故の拡大を防止するための設備	<p>臨界事故時水素滞留設備は、臨界事故の発生を仮定する機器及びT B P等の船体の急激な分解反応の発生を仮定する機器ごとに、重大事故等への対処に必要な設備数を確保する設計とする。</p> <p>臨界事故時水素掃気系は、臨界事故の発生を仮定する機器ごとに、重大事故等への対処に必要な設備数を確保する。</p> <p>臨界事故時水素掃気系の可搬型建屋内ホースは、複数の敷設ルートで対処できるよう必要数を複数の敷設ルートに確保するとともに、建屋内に保管するホースについては十分な本数以上の予備を含めた個数を必要数として確保する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料 ・主要寸法 ・主要材料
第三十九条 冷却機能の喪失による蒸発乾固に対処するための設備	<p>冷却機能の喪失による蒸発乾固の発生を仮定する機器への注水及び放射線分解により発生する水素による爆発の圧縮空気の供給のために兼用して使用する代替安全冷却水素の機器注水配管・弁は、それぞれの機能に必要な容量が確保できる接続口を設ける設計とする。</p> <p>代替安全冷却水系の可搬型建屋内ホースのうち、内部ループへの通水、「冷却機能の喪失による蒸発乾固」の発生を仮定する機器への注水、代替換気設備のセル導出設備の凝縮器等への通水に使用する可搬型建屋内ホースは、複数の敷設ルートで対処できるよう必要数を複数の敷設ルートに確保するとともに、建屋内に保管するホースについては予備を含めた個数を必要数として確保する設計とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料 ・個数 ・取付箇所

仕様表記載例 11-1【機種：主配管】

[常設] [構造分類：配管] [付属構造：－]

要求事項の整理

		備考
第四十条 放射線分解により発生する水素による爆発に対処するための設備		<ul style="list-style-type: none"> 最高使用圧力 最高使用温度 主要寸法 主要材料 個数 取付箇所
		<ul style="list-style-type: none"> 最高使用圧力 最高使用温度 主要寸法 主要材料
	代替安全圧縮空気系の機器圧縮空気自動供給ユニットに切り替えるまでの間、未然防止濃度未満を維持するために必要な流量を確保する設計とする。	
		<ul style="list-style-type: none"> 最高使用圧力 最高使用温度 主要寸法 主要材料 個数 取付箇所
	接続口で「冷却機能の喪失による蒸発乾固」の発生を仮定する機器への注水及び放射線分解により発生する水素による爆発の発生を仮定する機器への圧縮空気の供給のために兼用して使用する代替安全圧縮空気系の水素掃気配管・弁及び機器圧縮空気供給配管・弁は、それぞれの機能に必要な容量が確保できる接続口を設ける設計とする。	<ul style="list-style-type: none"> 最高使用圧力 最高使用温度 主要寸法 主要材料
	<p>代替安全圧縮空気系の可搬型建屋外ホース及び可搬型建屋内ホースは、複数の敷設ルートで対処できるよう必要数を複数の敷設ルートに確保するとともに、建屋内に保管するホースについては予備を含めた個数を必要数として確保する設計とする。</p> <p>代替安全圧縮空気系は、安全圧縮空気系の水素掃気機能の喪失を想定し、その範囲が系統で機能喪失する水素爆発に対処することから、当該系統の範囲ごとに重大事故等への対処に必要な設備を確保する設計とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 最高使用圧力 最高使用温度 主要寸法 主要材料 個数 取付箇所 主要材料
第四十一条 有機溶媒等による火災又は爆発に対処するための設備		<ul style="list-style-type: none"> 最高使用圧力 最高使用温度 主要寸法 主要材料
		<ul style="list-style-type: none"> 最高使用圧力 最高使用温度 主要寸法 主要材料
第四十二条 使用済燃料貯蔵槽の冷却のための設備	代替注水設備は、燃料置きピット、燃料貯蔵プール及び燃料送出しピット（以下、「燃料貯蔵プール等」という。）の冷却機能又は注水機能が喪失し、又は燃料貯蔵プール等からの小規模な水の漏えいその他の要因により燃料貯蔵プール等の水位が低下した場合において、燃料貯蔵プール等へ注水し水位を維持することにより、使用済燃料を冷却し、及び放射線を遮蔽できる設計とする。	<ul style="list-style-type: none"> 最高使用圧力 最高使用温度 主要寸法 主要材料 個数 取付箇所
	代替注水設備は、耐熱性及び耐水性を有する材質とすることで、使用済燃料受入れ・貯蔵建屋内の環境温度、環境湿度を考慮しても機能を損なわない設計とする。	
	スプレー設備は、燃料貯蔵プール等からの大量の水の漏えいその他の要因により燃料貯蔵プール等の水位が異常に低下した場合において、燃料貯蔵プール等へ水をスプレーすることにより、燃料貯蔵プール等内の使用済燃料の著しい損傷の進行を緩和し、及び放射性物質又は放射線の大気中への著しい放出による影響を緩和できる設計とする。	<ul style="list-style-type: none"> 最高使用圧力 最高使用温度 主要寸法 主要材料 個数 取付箇所
	スプレー設備の可搬型スプレーヘッドは、燃料貯蔵プール等へ水をスプレーするために、注水設備の大型移送ポンプ車からの送水により必要なスプレー流量を有する設計とするとともに、保有数は、必要数及び予備として故障時のバックアップを含め十分な基数以上を確保する設計とする。	<ul style="list-style-type: none"> 個数
	スプレー設備は、耐熱性及び耐水性を有する材質とすることで、使用済燃料受入れ・貯蔵建屋内の環境温度、環境湿度を考慮しても機能を損なわない設計とする。	<ul style="list-style-type: none"> 主要材料
	スプレー設備の可搬型スプレーヘッドは、汽水の影響に対してアルミニウム合金を使用する設計とする。	
	漏えい抑制設備のサイフォンブレーカは、プール水冷却系の配管の破断によるサイフォン効果が発生した場合において、サイフォン効果を停止することにより、燃料貯蔵プール等からの小規模な水の漏えいを抑制できる設計とする。	<ul style="list-style-type: none"> 最高使用圧力 最高使用温度 主要寸法 主要材料
	漏えい抑制設備のサイフォンブレーカは、プール水冷却系の配管が破断した際に発生を想定するサイフォン効果を停止するために必要な孔径を有する設計とする。	<ul style="list-style-type: none"> 主要寸法
	漏えい抑制設備は、耐熱性及び耐水性を有する材質とすることで、使用済燃料受入れ・貯蔵建屋内の環境温度、環境湿度を考慮しても機能を損なわない設計とする。	<ul style="list-style-type: none"> 主要材料
	燃料貯蔵プール等からの大量の水の漏えいその他の要因により燃料貯蔵プール等の水位が異常に低下し、工場等外への放射線の放出に至るおそれがある場合、工場等外への放射線の放出を抑制するために、大型移送ポンプ車から供給する水を、可搬型建屋外ホース及び可搬型建屋内ホースを介して燃料貯蔵プール等へ注水できる設計とする。	<ul style="list-style-type: none"> 最高使用圧力 最高使用温度 主要寸法 主要材料 個数 取付箇所
第四十四条 工場等外への放射性物質等の放出を抑制するための設備	注水設備の可搬型建屋外ホースは、重大事故等への対処に必要な流量を確保するための必要数を確保することに加えて、予備として故障時バックアップを確保する設計とする。	<ul style="list-style-type: none"> 個数
	注水設備の可搬型建屋内ホースは、重大事故等への対処に必要な流量を確保することに加えて、予備として故障時バックアップを確保する設計とする。	
	使用済燃料受入れ・貯蔵建屋、前処理建屋、分離建屋、精製建屋、ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋及び高レベル廃液ガラス固化建屋において重大事故等が発生し、大気中への放射性物質の放出に至るおそれがある場合、放射性物質の放出を抑制するために、可搬型放水砲の設置場所を任意に設定し、大型移送ポンプ車から供給する水を、可搬型建屋外ホースを介して可搬型放水砲へ供給し、建物へ放水できる設計とする。	<ul style="list-style-type: none"> 最高使用圧力 最高使用温度 主要寸法 主要材料 個数 取付箇所
	再処理施設の各建物周辺における航空機衝突による航空機燃料火災、化学火災の対応を行うために、可搬型放水砲の設置場所を任意に設定し、大型移送ポンプ車から水及び泡消火薬剤（2m3）を、可搬型建屋外ホースを介して可搬型放水砲へ供給することで、放水による消火活動を行い、航空機燃料火災、化学火災に対応できる設計とする。	
	MOX燃料加工施設と共用する大気中への放射性物質の放出を抑制するために使用する放水設備の大型移送ポンプ車は、使用済燃料受入れ・貯蔵建屋、前処理建屋、分離建屋、精製建屋、ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋及び高レベル廃液ガラス固化建屋の最高点である屋上全般にわたって放水設備の可搬型放水砲で放水するための水を供給する設計とする。	
	MOX燃料加工施設と共用する再処理施設の各建物周辺における航空機衝突による航空機燃料火災、化学火災に使用する放水設備の大型移送ポンプ車は、再処理施設の各建物周辺における航空機衝突による航空機燃料火災、化学火災に対応するために放水設備の可搬型放水砲で放水するための水を供給する設計とする。	
	MOX燃料加工施設と共用する大気中への放射性物質の放出を抑制するために使用する放水設備の可搬型放水砲は、使用済燃料受入れ・貯蔵建屋、前処理建屋、分離建屋、精製建屋、ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋及び高レベル廃液ガラス固化建屋の最高点である屋上全般にわたって放水するために必要な容量を有する設計とするとともに、保有数は、必要数及び予備として故障時バックアップを含め十分な基数を確保する設計とする。	<ul style="list-style-type: none"> 個数
	MOX燃料加工施設と共用する放水設備の可搬型建屋外ホースは、重大事故等への対処に必要な流量を確保するため、保有数は、必要数及び予備として故障時バックアップを含め十分な数量を確保する設計とする。	
第四十五条 重大事故等への対処に必要な水の供給設備	重大事故等への対処を継続して行うために、重大事故等へ対処する水源である第1貯水槽へ水を補給するため、第2貯水槽の水を大型移送ポンプ車及び可搬型建屋外ホースを経由して、第1貯水槽へ補給できる設計とする。	<ul style="list-style-type: none"> 最高使用圧力 最高使用温度 主要寸法 主要材料 個数
	重大事故等への対処を継続して行うために、重大事故等へ対処する水源である第1貯水槽へ水を補給するため、敷地外の水源から水を大型移送ポンプ車及び可搬型建屋外ホースを経由して、第1貯水槽へ補給できる設計とする。	

仕様表記載例 11-1 【機種：主配管】

[常設] [構造分類：配管] [付属構造：－]

要求事項の整理				備考
		MOX燃料加工施設と共用する水供給設備の可搬型建屋外ホースは、重大事故等への対処に必要な流路を確保するため、保有数は、必要数及び予備として故障時のバックアップを含め十分な数量を確保する設計とする。	・取付箇所 ・個数	
	許可整合			

仕様表記載例 11-2 【機種：主配管】

[常設] [構造分類：ダクト] [付属構造：－]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																																																																														
<p>MOXの既認可に仕様表なし</p>	<p>変更前</p> <table border="1" data-bbox="742 283 1187 1659"> <tr> <td>名称</td> <td>○ ○ ○</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力 (kPa)</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度 (°C)</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>外径 (mm)</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>厚さ (mm)</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>○ ○ ○</td> </tr> </table> <p>変更後</p> <table border="1" data-bbox="742 283 1187 955"> <tr> <td>名称</td> <td>○ ○ ○</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力 (kPa)</td> <td>○ ○ ○</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度 (°C)</td> <td>○ ○ ○</td> </tr> <tr> <td>外径 (mm)</td> <td>○ ○ ○ × ○ ○ ○</td> </tr> <tr> <td>厚さ (mm)</td> <td>○ ○ ○ × ○ ○ ○</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>○ ○ ○</td> </tr> </table> <p>注記 □ *1：公称値を示す。 *2：当該ダクトは大気圧付近の圧力で使用するダクトであり、その機能及び構想上の耐圧機能を必要としないため、最高使用圧力を設定しない。 *3：角ダクトの寸法を示す。</p> <p>機種で統一して記載する仕様項目</p>	名称	○ ○ ○	最高使用圧力 (kPa)	－	最高使用温度 (°C)	－	外径 (mm)	－	厚さ (mm)	－	主要材料	○ ○ ○	名称	○ ○ ○	最高使用圧力 (kPa)	○ ○ ○	最高使用温度 (°C)	○ ○ ○	外径 (mm)	○ ○ ○ × ○ ○ ○	厚さ (mm)	○ ○ ○ × ○ ○ ○	主要材料	○ ○ ○	<p>【様式-6,7の整理により機能要求②としたもの】</p> <table border="1" data-bbox="1380 262 1973 1659"> <tr> <th>技術基準</th> <th>機能要求② 様式-6,7</th> <th>主な使用 (詳細設計)</th> </tr> <tr> <td>第十一条 火災</td> <td> a. 消火設備の消火剤の容量 消火設備は、想定される火災の性質に応じた十分な容量として、消防法施行規則及び試験結果に基づき算出した消火剤容量を配備する設計とする。 ただし、グローブボックス内の消火を行う不活性ガス消火装置(グローブボックス消火装置)については、グローブボックスの給気量を下回るように消火ガスを放出するとともに、消火ガス放出開始から所定の時間で放出を完了できる設計とする。 また、複数連結したグローブボックスについては、消火ガスの放出単位を設定し、その放出単位の給気量の合計値を下回るように消火ガスを放出するとともに、消火ガス放出開始から所定の時間で放出を完了できる設計とし、消火剤容量は最も大きな放出単位を消火できる量以上を配備する。 </td> <td> ・名称 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・外径 ・厚さ ・主要材料 </td> </tr> <tr> <td>第十五条 第三十一条 材料及び構造</td> <td> 8.2.1.1 材料について (1) 機械的強度及び化学的成分 a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。 b. 重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。 </td> <td> ・主要材料 </td> </tr> <tr> <td>第二十条 廃棄</td> <td> 5.2.1.1 低レベル廃液処理設備 低レベル廃液処理設備は、分析設備の分析済液処理装置から発生する廃液、試薬調整器具の洗浄水等及び放出管理分析設備から発生する廃液並びに管理区域内で発生する空調機器ドレン水等を区分して、それぞれ低レベル廃液処理設備の検査槽に受け入れ、廃液中に含まれて放出される放射性物質を合理的に達成できる限り少なくするため、必要に応じて、希釈、ろ過又は吸着の処理を行い、廃液貯槽に送液する設計とする。 廃液貯槽で受け入れた廃液は、必要に応じて、希釈、ろ過又は吸着の処理を行い、廃液中の放射性物質の濃度が線量告示に定められた周辺監視区域外の水中の濃度限度以下であることを確認した後、排水口から排出する設計とする。 5.2.1.3 海洋放出管理系 海洋放出管理系は、MOX燃料加工施設の排水口から排出した排水を再処理施設の第1放出前貯槽及び第1海洋放出ポンプを経由して海洋放出管の海洋放出口から海洋へ放出する設計とする。 </td> <td> ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要材料 ・外径及び厚さ </td> </tr> </table>	技術基準	機能要求② 様式-6,7	主な使用 (詳細設計)	第十一条 火災	a. 消火設備の消火剤の容量 消火設備は、想定される火災の性質に応じた十分な容量として、消防法施行規則及び試験結果に基づき算出した消火剤容量を配備する設計とする。 ただし、グローブボックス内の消火を行う不活性ガス消火装置(グローブボックス消火装置)については、グローブボックスの給気量を下回るように消火ガスを放出するとともに、消火ガス放出開始から所定の時間で放出を完了できる設計とする。 また、複数連結したグローブボックスについては、消火ガスの放出単位を設定し、その放出単位の給気量の合計値を下回るように消火ガスを放出するとともに、消火ガス放出開始から所定の時間で放出を完了できる設計とし、消火剤容量は最も大きな放出単位を消火できる量以上を配備する。	・名称 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・外径 ・厚さ ・主要材料	第十五条 第三十一条 材料及び構造	8.2.1.1 材料について (1) 機械的強度及び化学的成分 a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。 b. 重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。	・主要材料	第二十条 廃棄	5.2.1.1 低レベル廃液処理設備 低レベル廃液処理設備は、分析設備の分析済液処理装置から発生する廃液、試薬調整器具の洗浄水等及び放出管理分析設備から発生する廃液並びに管理区域内で発生する空調機器ドレン水等を区分して、それぞれ低レベル廃液処理設備の検査槽に受け入れ、廃液中に含まれて放出される放射性物質を合理的に達成できる限り少なくするため、必要に応じて、希釈、ろ過又は吸着の処理を行い、廃液貯槽に送液する設計とする。 廃液貯槽で受け入れた廃液は、必要に応じて、希釈、ろ過又は吸着の処理を行い、廃液中の放射性物質の濃度が線量告示に定められた周辺監視区域外の水中の濃度限度以下であることを確認した後、排水口から排出する設計とする。 5.2.1.3 海洋放出管理系 海洋放出管理系は、MOX燃料加工施設の排水口から排出した排水を再処理施設の第1放出前貯槽及び第1海洋放出ポンプを経由して海洋放出管の海洋放出口から海洋へ放出する設計とする。	・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要材料 ・外径及び厚さ	<p>発電炉類似設備要目表</p> <table border="1" data-bbox="2018 283 2552 1260"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>外径 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>最高使用圧力 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>材料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給気ダクト(分岐部その1)</td> <td>901.6×901.6</td> <td>0.9^{*1}</td> <td>0.9^{*1}</td> <td>50^{*2}</td> <td>50C</td> </tr> <tr> <td>給気ダクト(分岐部その2)</td> <td>902×902</td> <td>1.0^{*1}</td> <td>1.0^{*1}</td> <td>50^{*2}</td> <td>50C</td> </tr> <tr> <td>給気ダクト(分岐部その3)</td> <td>651.2×651.2</td> <td>0.9^{*1}</td> <td>0.9^{*1}</td> <td>50^{*2}</td> <td>50C</td> </tr> <tr> <td>給気ダクト(分岐部その4)</td> <td>501.2×501.2</td> <td>0.9^{*1}</td> <td>0.9^{*1}</td> <td>50^{*2}</td> <td>50C</td> </tr> <tr> <td>給気ダクト(分岐部その5)</td> <td>401.2×401.2</td> <td>0.9^{*1}</td> <td>0.9^{*1}</td> <td>50^{*2}</td> <td>50C</td> </tr> <tr> <td>給気ダクト(分岐部その6)</td> <td>401×401</td> <td>0.5^{*1}</td> <td>0.5^{*1}</td> <td>50^{*2}</td> <td>50C</td> </tr> <tr> <td>給気ダクト(分岐部その7)</td> <td>201×201</td> <td>0.5^{*1}</td> <td>0.5^{*1}</td> <td>50^{*2}</td> <td>50C</td> </tr> <tr> <td>給気ダクト(分岐部その8)</td> <td>331×331</td> <td>0.5^{*1}</td> <td>0.5^{*1}</td> <td>50^{*2}</td> <td>50C</td> </tr> <tr> <td>給気ダクト(分岐部その9)</td> <td>411×411</td> <td>0.5^{*1}</td> <td>0.5^{*1}</td> <td>50^{*2}</td> <td>50C</td> </tr> <tr> <td>給気ダクト(分岐部その10)</td> <td>331×331</td> <td>0.5^{*1}</td> <td>0.5^{*1}</td> <td>50^{*2}</td> <td>50C</td> </tr> <tr> <td>給気ダクト(分岐部その11)</td> <td>201×201</td> <td>0.5^{*1}</td> <td>0.5^{*1}</td> <td>50^{*2}</td> <td>50C</td> </tr> <tr> <td>給気ダクト(分岐部その12)</td> <td>131×131</td> <td>0.5^{*1}</td> <td>0.5^{*1}</td> <td>50^{*2}</td> <td>50C</td> </tr> <tr> <td>給気ダクト(分岐部その13)</td> <td>153.2×153.2</td> <td>1.0^{*1}</td> <td>1.0^{*1}</td> <td>50^{*2}</td> <td>SS400</td> </tr> <tr> <td>給気ダクト(分岐部その14)</td> <td>131×131</td> <td>0.5^{*1}</td> <td>0.5^{*1}</td> <td>50^{*2}</td> <td>50C</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：公称値を示す。 *2：重大事故等時における使用時の値を示す。 *3：エッジ(等の継手)にあつては、管上同等以上の厚さのものを用いる。 *4：差し込み継手の差し込み部内径を示す。 *5：差し込み継手の最小寸法を示す。 *6：寸法を示す。</p>	名称	外径 (mm)	厚さ (mm)	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	材料	給気ダクト(分岐部その1)	901.6×901.6	0.9 ^{*1}	0.9 ^{*1}	50 ^{*2}	50C	給気ダクト(分岐部その2)	902×902	1.0 ^{*1}	1.0 ^{*1}	50 ^{*2}	50C	給気ダクト(分岐部その3)	651.2×651.2	0.9 ^{*1}	0.9 ^{*1}	50 ^{*2}	50C	給気ダクト(分岐部その4)	501.2×501.2	0.9 ^{*1}	0.9 ^{*1}	50 ^{*2}	50C	給気ダクト(分岐部その5)	401.2×401.2	0.9 ^{*1}	0.9 ^{*1}	50 ^{*2}	50C	給気ダクト(分岐部その6)	401×401	0.5 ^{*1}	0.5 ^{*1}	50 ^{*2}	50C	給気ダクト(分岐部その7)	201×201	0.5 ^{*1}	0.5 ^{*1}	50 ^{*2}	50C	給気ダクト(分岐部その8)	331×331	0.5 ^{*1}	0.5 ^{*1}	50 ^{*2}	50C	給気ダクト(分岐部その9)	411×411	0.5 ^{*1}	0.5 ^{*1}	50 ^{*2}	50C	給気ダクト(分岐部その10)	331×331	0.5 ^{*1}	0.5 ^{*1}	50 ^{*2}	50C	給気ダクト(分岐部その11)	201×201	0.5 ^{*1}	0.5 ^{*1}	50 ^{*2}	50C	給気ダクト(分岐部その12)	131×131	0.5 ^{*1}	0.5 ^{*1}	50 ^{*2}	50C	給気ダクト(分岐部その13)	153.2×153.2	1.0 ^{*1}	1.0 ^{*1}	50 ^{*2}	SS400	給気ダクト(分岐部その14)	131×131	0.5 ^{*1}	0.5 ^{*1}	50 ^{*2}	50C	<p>備考</p>
名称	○ ○ ○																																																																																																																																	
最高使用圧力 (kPa)	－																																																																																																																																	
最高使用温度 (°C)	－																																																																																																																																	
外径 (mm)	－																																																																																																																																	
厚さ (mm)	－																																																																																																																																	
主要材料	○ ○ ○																																																																																																																																	
名称	○ ○ ○																																																																																																																																	
最高使用圧力 (kPa)	○ ○ ○																																																																																																																																	
最高使用温度 (°C)	○ ○ ○																																																																																																																																	
外径 (mm)	○ ○ ○ × ○ ○ ○																																																																																																																																	
厚さ (mm)	○ ○ ○ × ○ ○ ○																																																																																																																																	
主要材料	○ ○ ○																																																																																																																																	
技術基準	機能要求② 様式-6,7	主な使用 (詳細設計)																																																																																																																																
第十一条 火災	a. 消火設備の消火剤の容量 消火設備は、想定される火災の性質に応じた十分な容量として、消防法施行規則及び試験結果に基づき算出した消火剤容量を配備する設計とする。 ただし、グローブボックス内の消火を行う不活性ガス消火装置(グローブボックス消火装置)については、グローブボックスの給気量を下回るように消火ガスを放出するとともに、消火ガス放出開始から所定の時間で放出を完了できる設計とする。 また、複数連結したグローブボックスについては、消火ガスの放出単位を設定し、その放出単位の給気量の合計値を下回るように消火ガスを放出するとともに、消火ガス放出開始から所定の時間で放出を完了できる設計とし、消火剤容量は最も大きな放出単位を消火できる量以上を配備する。	・名称 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・外径 ・厚さ ・主要材料																																																																																																																																
第十五条 第三十一条 材料及び構造	8.2.1.1 材料について (1) 機械的強度及び化学的成分 a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。 b. 重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。	・主要材料																																																																																																																																
第二十条 廃棄	5.2.1.1 低レベル廃液処理設備 低レベル廃液処理設備は、分析設備の分析済液処理装置から発生する廃液、試薬調整器具の洗浄水等及び放出管理分析設備から発生する廃液並びに管理区域内で発生する空調機器ドレン水等を区分して、それぞれ低レベル廃液処理設備の検査槽に受け入れ、廃液中に含まれて放出される放射性物質を合理的に達成できる限り少なくするため、必要に応じて、希釈、ろ過又は吸着の処理を行い、廃液貯槽に送液する設計とする。 廃液貯槽で受け入れた廃液は、必要に応じて、希釈、ろ過又は吸着の処理を行い、廃液中の放射性物質の濃度が線量告示に定められた周辺監視区域外の水中の濃度限度以下であることを確認した後、排水口から排出する設計とする。 5.2.1.3 海洋放出管理系 海洋放出管理系は、MOX燃料加工施設の排水口から排出した排水を再処理施設の第1放出前貯槽及び第1海洋放出ポンプを経由して海洋放出管の海洋放出口から海洋へ放出する設計とする。	・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要材料 ・外径及び厚さ																																																																																																																																
名称	外径 (mm)	厚さ (mm)	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	材料																																																																																																																													
給気ダクト(分岐部その1)	901.6×901.6	0.9 ^{*1}	0.9 ^{*1}	50 ^{*2}	50C																																																																																																																													
給気ダクト(分岐部その2)	902×902	1.0 ^{*1}	1.0 ^{*1}	50 ^{*2}	50C																																																																																																																													
給気ダクト(分岐部その3)	651.2×651.2	0.9 ^{*1}	0.9 ^{*1}	50 ^{*2}	50C																																																																																																																													
給気ダクト(分岐部その4)	501.2×501.2	0.9 ^{*1}	0.9 ^{*1}	50 ^{*2}	50C																																																																																																																													
給気ダクト(分岐部その5)	401.2×401.2	0.9 ^{*1}	0.9 ^{*1}	50 ^{*2}	50C																																																																																																																													
給気ダクト(分岐部その6)	401×401	0.5 ^{*1}	0.5 ^{*1}	50 ^{*2}	50C																																																																																																																													
給気ダクト(分岐部その7)	201×201	0.5 ^{*1}	0.5 ^{*1}	50 ^{*2}	50C																																																																																																																													
給気ダクト(分岐部その8)	331×331	0.5 ^{*1}	0.5 ^{*1}	50 ^{*2}	50C																																																																																																																													
給気ダクト(分岐部その9)	411×411	0.5 ^{*1}	0.5 ^{*1}	50 ^{*2}	50C																																																																																																																													
給気ダクト(分岐部その10)	331×331	0.5 ^{*1}	0.5 ^{*1}	50 ^{*2}	50C																																																																																																																													
給気ダクト(分岐部その11)	201×201	0.5 ^{*1}	0.5 ^{*1}	50 ^{*2}	50C																																																																																																																													
給気ダクト(分岐部その12)	131×131	0.5 ^{*1}	0.5 ^{*1}	50 ^{*2}	50C																																																																																																																													
給気ダクト(分岐部その13)	153.2×153.2	1.0 ^{*1}	1.0 ^{*1}	50 ^{*2}	SS400																																																																																																																													
給気ダクト(分岐部その14)	131×131	0.5 ^{*1}	0.5 ^{*1}	50 ^{*2}	50C																																																																																																																													

仕様表記載例 11-4 【機種：主配管】

[可搬] [構造分類：ノズル] [付属構造：ー]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																																																																																															
<p>既認可仕様表なし</p>	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="12" style="text-align: center;">変更後</td> </tr> <tr> <td>名称</td> <td>最高使用圧力 (MPa)</td> <td>最高使用温度 (°C)</td> <td>外径 (mm)</td> <td>厚さ (mm)</td> <td>主要材料</td> <td>個数</td> <td>取付箇所</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>〇〇系</td> <td>〇〇^{#3}</td> <td>〇〇^{#5}</td> <td>〇〇^{#1}</td> <td>〇〇^{#1}</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> <td colspan="4"> 保管箇所： ・〇〇 T.M.S.L. 約+〇〇m ・〇〇 T.M.S.L. 約+〇〇m 上記2箇所に〇個ずつ保管する。 取付箇所：〇〇 T.M.S.L. 約+〇〇m (〇個) </td> </tr> <tr> <td colspan="12" style="text-align: center;">変更前</td> </tr> <tr> <td>名称</td> <td>最高使用圧力 (MPa)</td> <td>最高使用温度 (°C)</td> <td>外径 (mm)</td> <td>厚さ (mm)</td> <td>主要材料</td> <td>個数</td> <td>取付箇所</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>〇〇系</td> <td>ー</td> <td>ー</td> <td>ー</td> <td>ー</td> <td>ー</td> <td>ー</td> <td>ー</td> <td colspan="4"> 可搬型放水砲^{#2} 〇〇系 </td> </tr> </table> <p style="font-size: small;">注記 #1：公称値を示す。 #2：可搬型放水砲寸法（公称値）：たて〇〇mm、横〇〇mm、高さ〇〇mm #3：重大事故等対処時における使用時の値を示す。 #4：エルボにあつては、管と同等以上の厚さのものを選定。 #5：メーカー規定によるものとし、完成品として一般産業品の規格及び基準に適合するものであって、使用材料の特性を踏まえた上で、重大事故等時における使用圧力及び使用温度が負荷された状態において強度が確保できるものを使用する。</p>	変更後												名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	主要材料	個数	取付箇所					〇〇系	〇〇 ^{#3}	〇〇 ^{#5}	〇〇 ^{#1}	〇〇 ^{#1}	〇〇	〇〇	〇〇	保管箇所： ・〇〇 T.M.S.L. 約+〇〇m ・〇〇 T.M.S.L. 約+〇〇m 上記2箇所に〇個ずつ保管する。 取付箇所：〇〇 T.M.S.L. 約+〇〇m (〇個)				変更前												名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	主要材料	個数	取付箇所					〇〇系	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	可搬型放水砲 ^{#2} 〇〇系				<p style="text-align: center;">【様式-6,7の整理により要求機能②としたもの】</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">技術基準</th> <th colspan="2">要求機能②</th> </tr> <tr> <th>様式-6,7</th> <th>主な使用（詳細設計）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第十七条 第三十七条 材料及び構造</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的組成を有する材料 設計上定める条件において、全体的な変形を弾性域に抑える設計 設計上定める条件において、座屈が生じない設計 </td> <td> 主要寸法 外径：〇〇mm 厚さ：〇〇mm 主要材料：〇〇 </td> </tr> <tr> <td>第三十六条 重大事故等 対処設備</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 適切な耐圧試験又は漏えい試験を行ったとき、これに耐え、かつ著しい漏えいがない設計とする </td> <td> 最高使用圧力：〇〇MPa 最高使用温度：〇〇°C </td> </tr> <tr> <td>第四十二条 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための設備</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 想定される重大事故等の収束に必要な個数及び容量 </td> <td> 個数：〇〇 最高使用圧力：〇〇MPa 最高使用温度：〇〇°C </td> </tr> <tr> <td>第四十四条 工場外への放射性物質の拡散を抑制するための設備</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 想定される重大事故等が発生した場合における温度、放射線、荷重その他の使用条件において、重大事故等に対処するために必要な機能を有効に発揮する設計 常設重大事故等対処設備と異なる保管場所に保管する </td> <td> 保管箇所： ・〇〇 T.M.S.L. 約+〇〇m ・〇〇 T.M.S.L. 約+〇〇m 上記2箇所に〇個ずつ保管する。 取付箇所：〇〇 T.M.S.L. 約+〇〇m (〇個) </td> </tr> <tr> <td>第四十五条 重大事故等への対処に必要な水の供給設備</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 燃料貯蔵プール等へ注水するために必要な注水流量を有する設計 </td> <td> 主要寸法 外径：〇〇mm 厚さ：〇〇mm 主要材料：〇〇 個数：〇〇 </td> </tr> <tr> <td>許可整合</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	技術基準	要求機能②		様式-6,7	主な使用（詳細設計）	第十七条 第三十七条 材料及び構造	<ul style="list-style-type: none"> 使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的組成を有する材料 設計上定める条件において、全体的な変形を弾性域に抑える設計 設計上定める条件において、座屈が生じない設計 	主要寸法 外径：〇〇mm 厚さ：〇〇mm 主要材料：〇〇	第三十六条 重大事故等 対処設備	<ul style="list-style-type: none"> 適切な耐圧試験又は漏えい試験を行ったとき、これに耐え、かつ著しい漏えいがない設計とする 	最高使用圧力：〇〇MPa 最高使用温度：〇〇°C	第四十二条 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための設備	<ul style="list-style-type: none"> 想定される重大事故等の収束に必要な個数及び容量 	個数：〇〇 最高使用圧力：〇〇MPa 最高使用温度：〇〇°C	第四十四条 工場外への放射性物質の拡散を抑制するための設備	<ul style="list-style-type: none"> 想定される重大事故等が発生した場合における温度、放射線、荷重その他の使用条件において、重大事故等に対処するために必要な機能を有効に発揮する設計 常設重大事故等対処設備と異なる保管場所に保管する 	保管箇所： ・〇〇 T.M.S.L. 約+〇〇m ・〇〇 T.M.S.L. 約+〇〇m 上記2箇所に〇個ずつ保管する。 取付箇所：〇〇 T.M.S.L. 約+〇〇m (〇個)	第四十五条 重大事故等への対処に必要な水の供給設備	<ul style="list-style-type: none"> 燃料貯蔵プール等へ注水するために必要な注水流量を有する設計 	主要寸法 外径：〇〇mm 厚さ：〇〇mm 主要材料：〇〇 個数：〇〇	許可整合			<p style="font-size: x-small;">※ 注記 (ソフトウェア) は、本表、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料（表記及び可搬型）を記載し、可搬型の場合は、個数及び取付箇所を付記すること。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">定 規</th> <th colspan="2">定 規</th> <th colspan="2">定 規</th> <th colspan="2">定 規</th> <th colspan="2">定 規</th> <th colspan="2">定 規</th> </tr> <tr> <th>最高使用圧力 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>外径 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>材料</th> <th>取付箇所</th> <th>最高使用圧力 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>外径 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>材料</th> <th>取付箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: x-small;">注記：#1：同機種の既認可仕様表に記載されている仕様と異なる仕様は、() 内に記載する。#2：本表記載事項に於ける仕様値を示す。 #3：メーカー規定によるものとし、完成品として一般産業品の規格及び基準に適合するものであって、使用材料の特性を踏まえた上で、重大事故等時における使用圧力及び使用温度が負荷された状態において強度が確保できるものを使用する。 #4：必要容量 40 m³ (20 m³、30 m³、40 m³) 及び下向き 1 車に、これらと同数を準備して 1 セット追加の数量を示す。 #5：最高使用圧力である。可搬型貯蔵槽は最大型 (1.5 m 径) 及び大型 (1.2 m 径) 可搬型 (既認可仕様) (規格 4-1) に調整した場合 (15 m、20 m、30 m、40 m) の本表を示す。 #6：既本機寸法 (公称値)：たて 4000 mm、横 1800 mm、高さ 2100 mm。 #7：注本機寸法 (公称値)：たて 4000 mm、横 1800 mm、高さ 2100 mm。 #8：公称値を示す。</p>	定 規		定 規		定 規		定 規		定 規		定 規		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	取付箇所	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	取付箇所	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇													<p>備考</p>
変更後																																																																																																																																																			
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	主要材料	個数	取付箇所																																																																																																																																												
〇〇系	〇〇 ^{#3}	〇〇 ^{#5}	〇〇 ^{#1}	〇〇 ^{#1}	〇〇	〇〇	〇〇	保管箇所： ・〇〇 T.M.S.L. 約+〇〇m ・〇〇 T.M.S.L. 約+〇〇m 上記2箇所に〇個ずつ保管する。 取付箇所：〇〇 T.M.S.L. 約+〇〇m (〇個)																																																																																																																																											
変更前																																																																																																																																																			
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	主要材料	個数	取付箇所																																																																																																																																												
〇〇系	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	可搬型放水砲 ^{#2} 〇〇系																																																																																																																																											
技術基準	要求機能②																																																																																																																																																		
	様式-6,7	主な使用（詳細設計）																																																																																																																																																	
第十七条 第三十七条 材料及び構造	<ul style="list-style-type: none"> 使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的組成を有する材料 設計上定める条件において、全体的な変形を弾性域に抑える設計 設計上定める条件において、座屈が生じない設計 	主要寸法 外径：〇〇mm 厚さ：〇〇mm 主要材料：〇〇																																																																																																																																																	
第三十六条 重大事故等 対処設備	<ul style="list-style-type: none"> 適切な耐圧試験又は漏えい試験を行ったとき、これに耐え、かつ著しい漏えいがない設計とする 	最高使用圧力：〇〇MPa 最高使用温度：〇〇°C																																																																																																																																																	
第四十二条 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための設備	<ul style="list-style-type: none"> 想定される重大事故等の収束に必要な個数及び容量 	個数：〇〇 最高使用圧力：〇〇MPa 最高使用温度：〇〇°C																																																																																																																																																	
第四十四条 工場外への放射性物質の拡散を抑制するための設備	<ul style="list-style-type: none"> 想定される重大事故等が発生した場合における温度、放射線、荷重その他の使用条件において、重大事故等に対処するために必要な機能を有効に発揮する設計 常設重大事故等対処設備と異なる保管場所に保管する 	保管箇所： ・〇〇 T.M.S.L. 約+〇〇m ・〇〇 T.M.S.L. 約+〇〇m 上記2箇所に〇個ずつ保管する。 取付箇所：〇〇 T.M.S.L. 約+〇〇m (〇個)																																																																																																																																																	
第四十五条 重大事故等への対処に必要な水の供給設備	<ul style="list-style-type: none"> 燃料貯蔵プール等へ注水するために必要な注水流量を有する設計 	主要寸法 外径：〇〇mm 厚さ：〇〇mm 主要材料：〇〇 個数：〇〇																																																																																																																																																	
許可整合																																																																																																																																																			
定 規		定 規		定 規		定 規		定 規		定 規																																																																																																																																									
最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	取付箇所	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	取付箇所																																																																																																																																								
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇																																																																																																																																								

機種で統一して記載する仕様項目
 構造分類に係る仕様項目

仕様表記載例 11-5 【機種：主配管】

[可搬] [構造分類：ホース] [付属構造：-]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																							
<p>MOX の既認可に仕様表なし</p>	<p>変更後</p> <table border="1" data-bbox="742 252 1216 1617"> <tr> <td>名称</td> <td>○ ○ ○</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力 (MPa)</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度 (°C)</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>外径 (mm)</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>厚さ (mm)</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>○ ○ ○</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>○ ○ ○</td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td>○ ○ ○</td> </tr> </table> <p>変更前</p> <table border="1" data-bbox="742 1029 1216 1617"> <tr> <td>名称</td> <td>○ ○ ○</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力 (MPa)</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度 (°C)</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>外径 (mm)</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>厚さ (mm)</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>○ ○ ○</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>○ ○ ○</td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td>○ ○ ○</td> </tr> </table> <p>注記○*1：重大事故等時における使用時の値を示す。 ○*2：メーカーにて規定する呼び系を示す。 ○*3：メーカー仕様によるものとし、完成品として一般産業品の規格及び基準に適合するものであって、使用材料の特性を踏まえたとし、重大事故等時における使用圧力及び使用温度が負荷が与えられた状態において強度が担保できるものを使用する。</p>	名称	○ ○ ○	最高使用圧力 (MPa)	-	最高使用温度 (°C)	-	外径 (mm)	-	厚さ (mm)	-	主要材料	○ ○ ○	個数	○ ○ ○	取付箇所	○ ○ ○	名称	○ ○ ○	最高使用圧力 (MPa)	-	最高使用温度 (°C)	-	外径 (mm)	-	厚さ (mm)	-	主要材料	○ ○ ○	個数	○ ○ ○	取付箇所	○ ○ ○	<p>【様式-6,7の整理により機能要求②としたもの】</p> <table border="1" data-bbox="1380 241 1988 1228"> <tr> <th>技術基準</th> <th>機能要求②</th> <th>主な使用 (詳細設計)</th> </tr> <tr> <td>第十一条 火災</td> <td> a. 消火設備の消火剤の容量 消火設備は、想定される火災の性質に応じた十分な容量として、消防法施行規則及び試験結果に基づき算出した消火剤容量を配備する設計とする。 ただし、グローブボックス内の消火を行う不活性ガス消火装置(グローブボックス消火装置)については、グローブボックスの給気量を下回るように消火ガスを放出するとともに、消火ガス放出開始から所定の時間で放出を完了できる設計とする。 また、複数連結したグローブボックスについては、消火ガスの放出単位を設定し、その放出単位の給気量の合計値を下回るように消火ガスを放出するとともに、消火ガス放出開始から所定の時間で放出を完了できる設計とし、消火剤容量は最も大きな放出単位を消火できる量以上に配備する。 </td> <td> ・名称 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・外径 ・厚さ ・主要材料 </td> </tr> <tr> <td>第十五条 第三十一条 材料及び構造</td> <td> 8.2.1.1 材料について (1) 機械的強度及び化学的成分 a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。 b. 重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。 </td> <td> ・主要材料 </td> </tr> <tr> <td></td> <td> 8.2.1.2 構造及び強度について (1) 延性破断の防止 a. 容器等は、最高使用圧力、最高使用温度及び機械的荷重が負荷されている状態 (以下「設計上定める条件」という。) において、全体的な変形を弾性域に抑える設計とする。 (2) 疲労破壊の防止 容器等に属する伸縮継手については、設計上定める条件で応力が繰り返し加わる場合において、疲労破壊が生じない設計とする。 (3) 座屈による破壊の防止 容器等は、設計上定める条件において、座屈が生じない設計とする。 </td> <td> ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料 </td> </tr> </table>	技術基準	機能要求②	主な使用 (詳細設計)	第十一条 火災	a. 消火設備の消火剤の容量 消火設備は、想定される火災の性質に応じた十分な容量として、消防法施行規則及び試験結果に基づき算出した消火剤容量を配備する設計とする。 ただし、グローブボックス内の消火を行う不活性ガス消火装置(グローブボックス消火装置)については、グローブボックスの給気量を下回るように消火ガスを放出するとともに、消火ガス放出開始から所定の時間で放出を完了できる設計とする。 また、複数連結したグローブボックスについては、消火ガスの放出単位を設定し、その放出単位の給気量の合計値を下回るように消火ガスを放出するとともに、消火ガス放出開始から所定の時間で放出を完了できる設計とし、消火剤容量は最も大きな放出単位を消火できる量以上に配備する。	・名称 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・外径 ・厚さ ・主要材料	第十五条 第三十一条 材料及び構造	8.2.1.1 材料について (1) 機械的強度及び化学的成分 a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。 b. 重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。	・主要材料		8.2.1.2 構造及び強度について (1) 延性破断の防止 a. 容器等は、最高使用圧力、最高使用温度及び機械的荷重が負荷されている状態 (以下「設計上定める条件」という。) において、全体的な変形を弾性域に抑える設計とする。 (2) 疲労破壊の防止 容器等に属する伸縮継手については、設計上定める条件で応力が繰り返し加わる場合において、疲労破壊が生じない設計とする。 (3) 座屈による破壊の防止 容器等は、設計上定める条件において、座屈が生じない設計とする。	・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料	<p>発電炉類似設備要目表</p> <table border="1" data-bbox="2018 378 2641 1344"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>仕様</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>取付箇所</td> <td>○ ○ ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>○ ○ ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>名称</td> <td>○ ○ ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力 (MPa)</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>最高使用温度 (°C)</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>外径 (mm)</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>厚さ (mm)</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>○ ○ ○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1: 重大事故等時における使用時の値を示す。 *2: メーカーにて規定する呼び系を示す。 *3: メーカー仕様によるものとし、完成品として一般産業品の規格及び基準に適合するものであって、使用材料の特性を踏まえたとし、重大事故等時における使用圧力及び使用温度が負荷が与えられた状態において強度が担保できるものを使用する。</p>	項目	仕様	備考	取付箇所	○ ○ ○		個数	○ ○ ○		名称	○ ○ ○		最高使用圧力 (MPa)	-		最高使用温度 (°C)	-		外径 (mm)	-		厚さ (mm)	-		主要材料	○ ○ ○		<p>備考</p>
名称	○ ○ ○																																																																										
最高使用圧力 (MPa)	-																																																																										
最高使用温度 (°C)	-																																																																										
外径 (mm)	-																																																																										
厚さ (mm)	-																																																																										
主要材料	○ ○ ○																																																																										
個数	○ ○ ○																																																																										
取付箇所	○ ○ ○																																																																										
名称	○ ○ ○																																																																										
最高使用圧力 (MPa)	-																																																																										
最高使用温度 (°C)	-																																																																										
外径 (mm)	-																																																																										
厚さ (mm)	-																																																																										
主要材料	○ ○ ○																																																																										
個数	○ ○ ○																																																																										
取付箇所	○ ○ ○																																																																										
技術基準	機能要求②	主な使用 (詳細設計)																																																																									
第十一条 火災	a. 消火設備の消火剤の容量 消火設備は、想定される火災の性質に応じた十分な容量として、消防法施行規則及び試験結果に基づき算出した消火剤容量を配備する設計とする。 ただし、グローブボックス内の消火を行う不活性ガス消火装置(グローブボックス消火装置)については、グローブボックスの給気量を下回るように消火ガスを放出するとともに、消火ガス放出開始から所定の時間で放出を完了できる設計とする。 また、複数連結したグローブボックスについては、消火ガスの放出単位を設定し、その放出単位の給気量の合計値を下回るように消火ガスを放出するとともに、消火ガス放出開始から所定の時間で放出を完了できる設計とし、消火剤容量は最も大きな放出単位を消火できる量以上に配備する。	・名称 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・外径 ・厚さ ・主要材料																																																																									
第十五条 第三十一条 材料及び構造	8.2.1.1 材料について (1) 機械的強度及び化学的成分 a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。 b. 重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。	・主要材料																																																																									
	8.2.1.2 構造及び強度について (1) 延性破断の防止 a. 容器等は、最高使用圧力、最高使用温度及び機械的荷重が負荷されている状態 (以下「設計上定める条件」という。) において、全体的な変形を弾性域に抑える設計とする。 (2) 疲労破壊の防止 容器等に属する伸縮継手については、設計上定める条件で応力が繰り返し加わる場合において、疲労破壊が生じない設計とする。 (3) 座屈による破壊の防止 容器等は、設計上定める条件において、座屈が生じない設計とする。	・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料																																																																									
項目	仕様	備考																																																																									
取付箇所	○ ○ ○																																																																										
個数	○ ○ ○																																																																										
名称	○ ○ ○																																																																										
最高使用圧力 (MPa)	-																																																																										
最高使用温度 (°C)	-																																																																										
外径 (mm)	-																																																																										
厚さ (mm)	-																																																																										
主要材料	○ ○ ○																																																																										

仕様表記載例 11-5 【機種：主配管】

[可搬] [構造分類：ホース] [付属構造：－]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																		
MOXの既認可に仕様表なし		<p>【様式-6,7の整理により機能要求②としたもの】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1374 247 1501 289">技術基準</th> <th data-bbox="1501 247 1857 289">機能要求②</th> <th data-bbox="1857 247 1994 289">主な使用 (詳細設計)</th> </tr> <tr> <td colspan="3" data-bbox="1374 289 1994 300">様式-6,7</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1374 300 1501 611"> <p>第二十条 廃棄</p> </td> <td data-bbox="1501 300 1857 611"> <p>5.2.1.1 低レベル廃液処理設備 低レベル廃液処理設備は、分析設備の分析済液処理装置から発生する廃液、試薬調整器具の洗浄水等及び放出管理分析設備から発生する廃液並びに管理区域内で発生する空調機器ドレン水等を区分して、それぞれ低レベル廃液処理設備の検査槽に受け入れ、廃液中に含まれて放出される放射性物質を合理的に達成できる限り少なくするため、必要に応じて、希釈、ろ過又は吸着の処理を行い、廃液貯槽に送液する設計とする。 廃液貯槽で受け入れた廃液は、必要に応じて、希釈、ろ過又は吸着の処理を行い、廃液中の放射性物質の濃度が線量告示に定められた周辺監視区域外の水中の濃度限度以下であることを確認した後、排水口から排出する設計とする。</p> </td> <td data-bbox="1857 300 1994 611"> <ul style="list-style-type: none"> ・種類 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要材料 ・外径及び厚さ </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1374 611 1501 709"></td> <td data-bbox="1501 611 1857 709"> <p>5.2.1.3 海洋放出管理系 海洋放出管理系は、MOX燃料加工施設の排水口から排出した排水を再処理施設の第1放出前貯槽及び第1海洋放出ポンプを経由して海洋放出管の海洋放出口から海洋へ放出する設計とする。</p> </td> <td data-bbox="1857 611 1994 709"> <ul style="list-style-type: none"> ・種類 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要材料 ・外径及び厚さ </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1374 709 1501 1056"> <p>第三十四条 放水</p> </td> <td data-bbox="1501 709 1857 1056"> <p>再処理施設と共用する大気中への放射性物質の拡散を抑制するために使用する放水設備の可搬型放水砲は、燃料加工建屋の最高点である屋上全般にわたって放水するために必要な容量を有する設計とする。保有数は、必要数及び予備として故障時のバックアップを含め十分な台数を確保する設計とする。 再処理施設と共用する燃料加工建屋周辺における航空機衝突による航空機燃料火災に使用する放水設備の可搬型放水砲は、燃料加工建屋周辺における航空機衝突による航空機燃料火災に対応するために必要な容量を有する設計とする。 再処理施設と共用する放水設備の可搬型建屋外ホースは、重大事故等への対処に必要なとなる流路を確保するため、保有数は、必要数及び予備として故障時のバックアップを含め十分な数量を確保する設計とする。</p> </td> <td data-bbox="1857 709 1994 1056"> <ul style="list-style-type: none"> ・外径 ・個数 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1374 1056 1501 1157"> <p>第三十五条 水供給</p> </td> <td data-bbox="1501 1056 1857 1157"> <p>再処理施設と共用する水供給設備の可搬型建屋外ホースは、重大事故等への対処に必要なとなる流路を確保するため、保有数は、必要数及び予備として故障時のバックアップを含め十分な数量を確保する設計とする。</p> </td> <td data-bbox="1857 1056 1994 1157"> <ul style="list-style-type: none"> ・個数 </td> </tr> </tbody> </table>	技術基準	機能要求②	主な使用 (詳細設計)	様式-6,7			<p>第二十条 廃棄</p>	<p>5.2.1.1 低レベル廃液処理設備 低レベル廃液処理設備は、分析設備の分析済液処理装置から発生する廃液、試薬調整器具の洗浄水等及び放出管理分析設備から発生する廃液並びに管理区域内で発生する空調機器ドレン水等を区分して、それぞれ低レベル廃液処理設備の検査槽に受け入れ、廃液中に含まれて放出される放射性物質を合理的に達成できる限り少なくするため、必要に応じて、希釈、ろ過又は吸着の処理を行い、廃液貯槽に送液する設計とする。 廃液貯槽で受け入れた廃液は、必要に応じて、希釈、ろ過又は吸着の処理を行い、廃液中の放射性物質の濃度が線量告示に定められた周辺監視区域外の水中の濃度限度以下であることを確認した後、排水口から排出する設計とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・種類 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要材料 ・外径及び厚さ 		<p>5.2.1.3 海洋放出管理系 海洋放出管理系は、MOX燃料加工施設の排水口から排出した排水を再処理施設の第1放出前貯槽及び第1海洋放出ポンプを経由して海洋放出管の海洋放出口から海洋へ放出する設計とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・種類 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要材料 ・外径及び厚さ 	<p>第三十四条 放水</p>	<p>再処理施設と共用する大気中への放射性物質の拡散を抑制するために使用する放水設備の可搬型放水砲は、燃料加工建屋の最高点である屋上全般にわたって放水するために必要な容量を有する設計とする。保有数は、必要数及び予備として故障時のバックアップを含め十分な台数を確保する設計とする。 再処理施設と共用する燃料加工建屋周辺における航空機衝突による航空機燃料火災に使用する放水設備の可搬型放水砲は、燃料加工建屋周辺における航空機衝突による航空機燃料火災に対応するために必要な容量を有する設計とする。 再処理施設と共用する放水設備の可搬型建屋外ホースは、重大事故等への対処に必要なとなる流路を確保するため、保有数は、必要数及び予備として故障時のバックアップを含め十分な数量を確保する設計とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外径 ・個数 	<p>第三十五条 水供給</p>	<p>再処理施設と共用する水供給設備の可搬型建屋外ホースは、重大事故等への対処に必要なとなる流路を確保するため、保有数は、必要数及び予備として故障時のバックアップを含め十分な数量を確保する設計とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個数 		
		技術基準	機能要求②	主な使用 (詳細設計)																		
様式-6,7																						
<p>第二十条 廃棄</p>	<p>5.2.1.1 低レベル廃液処理設備 低レベル廃液処理設備は、分析設備の分析済液処理装置から発生する廃液、試薬調整器具の洗浄水等及び放出管理分析設備から発生する廃液並びに管理区域内で発生する空調機器ドレン水等を区分して、それぞれ低レベル廃液処理設備の検査槽に受け入れ、廃液中に含まれて放出される放射性物質を合理的に達成できる限り少なくするため、必要に応じて、希釈、ろ過又は吸着の処理を行い、廃液貯槽に送液する設計とする。 廃液貯槽で受け入れた廃液は、必要に応じて、希釈、ろ過又は吸着の処理を行い、廃液中の放射性物質の濃度が線量告示に定められた周辺監視区域外の水中の濃度限度以下であることを確認した後、排水口から排出する設計とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・種類 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要材料 ・外径及び厚さ 																				
	<p>5.2.1.3 海洋放出管理系 海洋放出管理系は、MOX燃料加工施設の排水口から排出した排水を再処理施設の第1放出前貯槽及び第1海洋放出ポンプを経由して海洋放出管の海洋放出口から海洋へ放出する設計とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・種類 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要材料 ・外径及び厚さ 																				
<p>第三十四条 放水</p>	<p>再処理施設と共用する大気中への放射性物質の拡散を抑制するために使用する放水設備の可搬型放水砲は、燃料加工建屋の最高点である屋上全般にわたって放水するために必要な容量を有する設計とする。保有数は、必要数及び予備として故障時のバックアップを含め十分な台数を確保する設計とする。 再処理施設と共用する燃料加工建屋周辺における航空機衝突による航空機燃料火災に使用する放水設備の可搬型放水砲は、燃料加工建屋周辺における航空機衝突による航空機燃料火災に対応するために必要な容量を有する設計とする。 再処理施設と共用する放水設備の可搬型建屋外ホースは、重大事故等への対処に必要なとなる流路を確保するため、保有数は、必要数及び予備として故障時のバックアップを含め十分な数量を確保する設計とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外径 ・個数 																				
<p>第三十五条 水供給</p>	<p>再処理施設と共用する水供給設備の可搬型建屋外ホースは、重大事故等への対処に必要なとなる流路を確保するため、保有数は、必要数及び予備として故障時のバックアップを含め十分な数量を確保する設計とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個数 																				

仕様表記載例 12a-1 【機種：ラック/ピット/棚】

[常設] [構造分類：ラック] [付属構造：臨界管理]

既認可の仕様表				仕様表案				要求事項の整理			発電炉類似設備要目表				備考																																																																																																																																																																						
<p>主要設備リストで展開</p> <table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>燃焼度計測前燃料仮置きラック A, B(00-0000)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>〇〇</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">設計条件</td> <td>使用済燃料集集体平均濃縮度の最大値</td> <td>wt%</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>ラック格子の中心間最小距離</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>耐震クラス</td> <td>—</td> <td></td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">仕様</td> <td>容量</td> <td>体/個</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主要寸法</td> <td>格子の中心間距離</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>内のり</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">本体材料</td> <td>全高</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td></td> <td>〇〇</td> </tr> </table> <p>構造図：第 3.1.2.2-6 図及び第 3.1.2.2-7 図に示す。</p> <p>添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除</p>				名称	燃焼度計測前燃料仮置きラック A, B(00-0000)			種類	〇〇			設計条件	使用済燃料集集体平均濃縮度の最大値	wt%	〇〇	ラック格子の中心間最小距離	mm	〇〇	耐震クラス	—		〇〇	仕様	容量	体/個	〇〇	主要寸法	格子の中心間距離	mm	〇〇	内のり	mm	〇〇	本体材料	全高	mm	〇〇	厚さ	mm	〇〇	個数	—		〇〇	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td>燃焼度計測前燃料仮置きラック A, B(00-0000)</td> <td>変更前</td> <td>変更後</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">種類</td> <td>燃焼度計測前燃料仮置きラック A, B(00-0000)</td> <td>〇〇</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>燃焼度計測前燃料仮置きラック A, B(00-0000)</td> <td>〇〇</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">臨界管理</td> <td>使用済燃料集集体平均濃縮度の最大値</td> <td>wt%</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>ラック格子の中心間最小距離</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">主要寸法</td> <td>容量</td> <td>体/個</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>格子の中心間距離</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>内のり</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>全高</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1,5}</td> <td>〇〇^{*1,5}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主要材料</td> <td>—</td> <td></td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td></td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">取付箇所</td> <td>系統名(フィン名)</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>化学薬品防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>化学薬品防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> </table> <p>注記 *1：公称値を示す。 *2：記載の適正化。既設工認申請書には「本来材料」と記載。 *3：設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。</p> <table border="1"> <tr> <td>■</td> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>臨界管理に係る追加仕様項目</td> </tr> </table>				名称		燃焼度計測前燃料仮置きラック A, B(00-0000)	変更前	変更後	種類	燃焼度計測前燃料仮置きラック A, B(00-0000)	〇〇			燃焼度計測前燃料仮置きラック A, B(00-0000)	〇〇			臨界管理	使用済燃料集集体平均濃縮度の最大値	wt%	〇〇	〇〇	ラック格子の中心間最小距離	mm	〇〇	〇〇	主要寸法	容量	体/個	〇〇	〇〇	格子の中心間距離	mm	〇〇 ^{*1}	〇〇 ^{*1}	内のり	mm	〇〇 ^{*1}	〇〇 ^{*1}	全高	mm	〇〇 ^{*1}	〇〇 ^{*1}	厚さ	mm	〇〇 ^{*1,5}	〇〇 ^{*1,5}	主要材料	—		〇〇	〇〇	—		〇〇	〇〇	取付箇所	系統名(フィン名)	—	〇〇	〇〇	設置床	—	〇〇	〇〇	溢水防護上の区画番号	—	—	〇〇	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—	〇〇	化学薬品防護上の区画番号	—	—	〇〇	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	—	—	〇〇	〇〇	■	機種で統一して記載する仕様項目	■	構造分類に係る仕様項目	■	臨界管理に係る追加仕様項目	<p>技術基準</p> <p>機能要求② 様式-6 様式-7</p> <p>第四条 核燃料物質の臨界防止</p> <p>単一ユニットの臨界安全設計に当たり、これらの管理に対して適切な臨界管理を行う体系の未臨界確保のために設定する値(以下「核的制限値」という。)を設定する。</p> <p>核的制限値 ・主要寸法 ・主要材料</p> <p>なお、プルトニウム溶液を内包する機器は、原則として液体の核燃料物質を内包する機器において、濃度に制限値を設定する必要がないように設計する形状寸法管理(以下「全濃度安全形状寸法管理」という。)及び必要に応じて中性子吸収材を併用した設計とする。</p> <p>核的制限値 ・主要寸法 ・主要材料</p> <p>複数ユニットの臨界安全設計に当たり、単一ユニット相互間の中性子相互干渉を考慮し、直接的に計量可能な単一ユニット相互間の配置、間接的に管理可能な単一ユニット相互間の配置、中性子吸収材の配置及び形状寸法について適切な核的制限値を設定する。</p> <p>核的制限値の設定に当たっては、単一ユニット相互間の中性子の吸収効果、減速条件及び反射条件に関し、核燃料物質移動時の核燃料物質の落下、転倒及び接近の可能性も踏まえ、それぞれの想定される変動の範囲において、反応度が最も大きくなる場合を仮定し、計算コードの計算誤差を含めて、十分な安全余裕を見込んで設定する。</p> <p>複数ユニットの核的制限値の維持については、十分な構造強度をもつ構造材を使用する等適切な対策を講ずる設計とする。</p> <p>核的制限値 ・主要寸法 ・主要材料</p>			<table border="1"> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td colspan="2">変更前</td> <td colspan="2">変更後</td> </tr> <tr> <td>種</td> <td>名</td> <td colspan="2">〇〇〇〇 式</td> <td colspan="2">使用済燃料貯蔵ラック</td> </tr> <tr> <td>容</td> <td>量</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> <td colspan="2" rowspan="5">変更なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主</td> <td>高</td> <td>mm</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>中心間距離</td> <td>mm</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">寸</td> <td>内のり</td> <td>mm</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>厚さ</td> <td>mm</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>材</td> <td>料</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>個</td> <td>数</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> </table> <p>注記 *1：公称値を示す。 *2：記載の適正化を行う。既工事計画書にはベースを含む高さである「〇〇」と記載。記載内容は、設計図書による。 *3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成 年 月 日付け(資序第〇〇号にて認可された工事計画の添付書類「〇〇〇〇〇〇〇〇〇」による。 *4：別紙「〇〇〇〇〇〇規格表」参照。 *5：「〇〇〇〇〇〇設備(〇〇〇〇〇〇系、〇〇〇〇〇〇系)と兼用する。</p>				名称		変更前		変更後		種	名	〇〇〇〇 式		使用済燃料貯蔵ラック		容	量	〇〇	〇〇	変更なし		主	高	mm	mm	中心間距離	mm	mm	寸	内のり	mm	mm	厚さ	mm	mm	材	料	—	—	個	数	〇〇	〇〇	
名称	燃焼度計測前燃料仮置きラック A, B(00-0000)																																																																																																																																																																																				
種類	〇〇																																																																																																																																																																																				
設計条件	使用済燃料集集体平均濃縮度の最大値	wt%	〇〇																																																																																																																																																																																		
	ラック格子の中心間最小距離	mm	〇〇																																																																																																																																																																																		
耐震クラス	—		〇〇																																																																																																																																																																																		
仕様	容量	体/個	〇〇																																																																																																																																																																																		
	主要寸法	格子の中心間距離	mm	〇〇																																																																																																																																																																																	
		内のり	mm	〇〇																																																																																																																																																																																	
	本体材料	全高	mm	〇〇																																																																																																																																																																																	
		厚さ	mm	〇〇																																																																																																																																																																																	
個数	—		〇〇																																																																																																																																																																																		
名称		燃焼度計測前燃料仮置きラック A, B(00-0000)	変更前	変更後																																																																																																																																																																																	
種類	燃焼度計測前燃料仮置きラック A, B(00-0000)	〇〇																																																																																																																																																																																			
	燃焼度計測前燃料仮置きラック A, B(00-0000)	〇〇																																																																																																																																																																																			
臨界管理	使用済燃料集集体平均濃縮度の最大値	wt%	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																	
	ラック格子の中心間最小距離	mm	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																	
主要寸法	容量	体/個	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																	
	格子の中心間距離	mm	〇〇 ^{*1}	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																																	
	内のり	mm	〇〇 ^{*1}	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																																	
	全高	mm	〇〇 ^{*1}	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																																																	
	厚さ	mm	〇〇 ^{*1,5}	〇〇 ^{*1,5}																																																																																																																																																																																	
主要材料	—		〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																	
	—		〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																	
取付箇所	系統名(フィン名)	—	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																	
	設置床	—	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																	
	溢水防護上の区画番号	—	—	〇〇																																																																																																																																																																																	
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—	〇〇																																																																																																																																																																																	
	化学薬品防護上の区画番号	—	—	〇〇																																																																																																																																																																																	
化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	—	—	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																	
■	機種で統一して記載する仕様項目																																																																																																																																																																																				
■	構造分類に係る仕様項目																																																																																																																																																																																				
■	臨界管理に係る追加仕様項目																																																																																																																																																																																				
名称		変更前		変更後																																																																																																																																																																																	
種	名	〇〇〇〇 式		使用済燃料貯蔵ラック																																																																																																																																																																																	
容	量	〇〇	〇〇	変更なし																																																																																																																																																																																	
主	高	mm	mm																																																																																																																																																																																		
	中心間距離	mm	mm																																																																																																																																																																																		
寸	内のり	mm	mm																																																																																																																																																																																		
	厚さ	mm	mm																																																																																																																																																																																		
材	料	—	—																																																																																																																																																																																		
個	数	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																		
第十二条 溢水防護				<p>発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。</p> <p>防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。</p> <p>また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。</p>				取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ(機能喪失高さ) ・防護上の区画番号																																																																																																																																																																													
第十三条 化学薬品防護				<p>発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。</p> <p>防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水(以下「没液」という。)により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。</p> <p>また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。</p>				取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ(機能喪失高さ) ・防護上の区画番号																																																																																																																																																																													
第十七条 第三十七条 材料及び構造				<p>a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。</p> <p>b. 常設重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。</p> <p>c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。</p>				・主要材料 ・主要材料 ・主要材料																																																																																																																																																																													
第十九条 使用済燃料の貯蔵施設等				<p>燃料取出しピット及び燃料仮置きピット内面は、漏水を防止するためステンレス鋼を内張りし、下部に排水口を設けない構造とするとともに、ピットに接続された配管が破損してもピット水が流出しないように逆止弁を設置する設計とする。</p> <p>さらに、燃料取出し設備の燃料取出しピット及び燃料仮置きピットのライニングは、万一の使用済燃料集集体の落下時にも燃料取出しピット水及び燃料仮置きピット水の保持機能を失うような著しい損傷を生じないようにする設計とする。</p>				・主要材料 ・主要寸法																																																																																																																																																																													

仕様表記載例 12a-2 【機種：ラック/ピット/棚】

[常設] [構造分類：ピット/棚] [付属構造：臨界管理、遮蔽設備]

既認可の仕様表		仕様表案		要求事項の整理		発電炉類似設備要目表		備考																																																																																																																				
<p>第1.-2表 機器仕様</p> <p>許可番号(日付) 平成17・04・20原第18号(平成22年5月13日)</p> <p>主要な設備及び機器の種類 核燃料物質の貯蔵施設 ○○○○設備 ○○○○ピット</p> <p>許可との対応 本体</p> <p>設備・機器名称 貯蔵容器一時保管設備 ○○○○○○(PA○○-○-○○)</p> <p>設置場所 燃料加工建屋地下○階 ○○○室</p> <p>変更内容 新設</p> <p>数量 ○台</p> <p>形式 ○○○方式</p> <p>主要な構成材 ○○</p> <p>寸法(単位:mm) ・幅 :○○○ ・奥行:○○○ ・高さ:○○○</p> <p>その他の構成機器</p> <p>その他の性能 最大貯蔵能力 ・○t・HM(○ピット)</p> <p>核燃料物質の状態 粉末</p> <p>核燃料物質の臨界防止 ①単一ユニット又は複数ユニットの区分 ・複数ユニット(配列:○行×○列) ②貯蔵単位 ・混合酸化物貯蔵容器 ③貯蔵する核燃料物質の形態^(注2) ・混合酸化物貯蔵容器:原料MOX粉末 ④貯蔵単位相互間の距離 ・中心間距離(ピット間隔):行方向○mm以上,列方向○mm以上</p> <p>火災等による損傷の防止 ○○○○には不燃性の材料を使用する。</p> <p>耐震性 ○○○ピット ・耐震クラス:Bクラス^(注3) ・主要材料:○○○(○○○,○○○) ・基礎ボルト材質:○○○(○○○) ・基礎ボルト本数:○○○×○○○本 ・基礎ボルト配置:○○○mm×○○○mm ・取付ボルト材質:○○○(○○○) ・取付ボルト本数:○○○×○○○本 ・取付ボルト配置:○○○mm</p> <p>材料及び構造</p> <p>閉じ込めの機能</p> <p>しゃへい</p> <p>換気</p> <p>核燃料物質等による汚染の防止</p> <p>安全上重要な施設 適切な方法により,安全機能を確認するための検査又は試験並びに安全機能を健全に維持するための保守</p>		<p>● ○○○○設備 (●) ピット/棚</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">名称*2</th> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> <tr> <td colspan="2">種類*3</td> <td colspan="2">—</td> <td colspan="2">○○方式</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">臨界管理</td> <td>中心間距離(ピット間隔)*9</td> <td>mm</td> <td>行方向○○以上 列方向○○以上</td> <td>mm</td> <td>行方向○○以上 列方向○○以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">設置する室の壁・床・天井までの距離</td> <td>南壁</td> <td>mm</td> <td>○○○以上</td> <td>mm</td> <td>○○○以上</td> </tr> <tr> <td>北壁</td> <td>mm</td> <td>○○○以上</td> <td>mm</td> <td>○○○以上</td> </tr> <tr> <td>床</td> <td>mm</td> <td>○○○以上</td> <td>mm</td> <td>○○○以上</td> </tr> <tr> <td>天井</td> <td>mm</td> <td>○○○以上</td> <td>mm</td> <td>○○○以上</td> </tr> <tr> <td colspan="2">設置室の周囲の壁厚さ</td> <td>mm</td> <td>○○○以上*10</td> <td>mm</td> <td>○○○以上*10</td> </tr> <tr> <td colspan="2">容量*4</td> <td>t・HM</td> <td>○○ (○○ピット)</td> <td>t・HM</td> <td>○○ (○○ピット)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要寸法*5</td> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>○○○*1</td> <td>mm</td> <td>○○○*1</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>○○○*1</td> <td>mm</td> <td>○○○*1</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>○○○*1</td> <td>mm</td> <td>○○○*1</td> </tr> <tr> <td colspan="2">主要材料*6</td> <td>—</td> <td>○○</td> <td>—</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td colspan="2">個数*7</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">遮蔽体</td> <td>主要寸法</td> <td>厚さ</td> <td>mm</td> <td>mm</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td colspan="2">主要材料</td> <td>—</td> <td>○○ (密度○g/cm³以上)</td> <td>—</td> <td>○○ (密度○g/cm³以上)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">取付箇所*8</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>○○○室 T.M.S.L. ○m*11</td> <td>—</td> <td>○○○室 T.M.S.L. ○m*11</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>○○</td> <td>—</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td colspan="2">溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td>T.M.S.L. ○m以上</td> <td>—</td> <td>T.M.S.L. ○m以上</td> </tr> </table> <p>注記 *1:公称値を示す。 *2:記載の適正化。既設工認では「設備・機器名称」と記載。 *3:記載の適正化。既設工認では「形式」と記載。 *4:記載の適正化。既設工認では「搬送設備」と記載。 *5:記載の適正化。既設工認では「寸法(単位mm)」と記載。 *6:記載の適正化。既設工認では「主要な構成材」と記載。 *7:記載の適正化。既設工認では「数量」と記載。 *8:記載の適正化。既設工認では「設置場所」と記載。 *9:貯蔵単位(混合酸化物貯蔵容器)の配列(○行×○列)を核的に安全な配置とする。 *10:記載内容は,平成○年○月○日付け平成○原第○号にて認可を受けた設工認申請書の「別添イ.燃料加工建屋(その1)及び貯蔵容器搬送用同道(4)設計条件及び仕様 特記事項」において記載したコンクリート厚さによる。 *11:記載内容は,平成○年○月○日付け平成○原第○号にて認可を受けた設工認申請書の本文添付図「第1.-○図組立施設の機器配置図」による。</p> <table border="1"> <tr> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> <tr> <td>臨界管理に係る追加仕様項目</td> </tr> <tr> <td>遮蔽設備に係る追加仕様項目</td> </tr> </table>		名称*2		変更前		変更後		種類*3		—		○○方式		臨界管理	中心間距離(ピット間隔)*9	mm	行方向○○以上 列方向○○以上	mm	行方向○○以上 列方向○○以上	設置する室の壁・床・天井までの距離	南壁	mm	○○○以上	mm	○○○以上	北壁	mm	○○○以上	mm	○○○以上	床	mm	○○○以上	mm	○○○以上	天井	mm	○○○以上	mm	○○○以上	設置室の周囲の壁厚さ		mm	○○○以上*10	mm	○○○以上*10	容量*4		t・HM	○○ (○○ピット)	t・HM	○○ (○○ピット)	主要寸法*5	たて	mm	○○○*1	mm	○○○*1	横	mm	○○○*1	mm	○○○*1	高さ	mm	○○○*1	mm	○○○*1	主要材料*6		—	○○	—	○○	個数*7		—	○	—	○	遮蔽体	主要寸法	厚さ	mm	mm	○○	主要材料		—	○○ (密度○g/cm ³ 以上)	—	○○ (密度○g/cm ³ 以上)	取付箇所*8	系統名(ライン名)	—	—	—	—	設置床	—	○○○室 T.M.S.L. ○m*11	—	○○○室 T.M.S.L. ○m*11	溢水防護上の区画番号	—	○○	—	○○	溢水防護上の配慮が必要な高さ		—	T.M.S.L. ○m以上	—	T.M.S.L. ○m以上	機種で統一して記載する仕様項目	構造分類に係る仕様項目	臨界管理に係る追加仕様項目	遮蔽設備に係る追加仕様項目	<p>技術基準</p> <p>機能要求② 様式-6 様式-7</p> <p>主な仕様 (詳細設計)</p> <p>第四条 核燃料物質の臨界防止 a. 複数ユニットの設定 単一ユニット相互間は,十分な厚さのコンクリート等の設置又は単一ユニット相互間の距離を確保することにより,核的に安全な配置とする。 (d) 核燃料物質を収納する設備・機器の設置に当たっては,通常時に作用している荷重に対して発生する変形が過大とならないように構造強度を持つ構造材を用いて固定する。なお,固定することが困難な設備・機器の場合は,設備・機器の周囲にユニット相互間の間隔を維持するための剛構造物を取り付ける又は設計上,移動範囲を制限する。</p> <p>第十二条 溢水による損傷防止 6.6 防護すべき設備を内包する建屋内で発生する溢水に関する溢水評価及び防護設計方針 6.6.1 没水の影響に対する評価及び防護設計方針 発生を想定する溢水量,溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。 防護すべき設備は,没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また,溢水の流入状態,溢水源からの距離,溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し,機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。</p> <p>第十八条 貯蔵 ウラン貯蔵設備及び燃料集合体貯蔵設備の貯蔵容量は,原料ウラン粉末及び燃料集合体それぞれの輸送を考慮し,MOX燃料加工施設の年間最大処理能力130t・HMに対し,必要な容量を有する設計とする。 また,各工程間の一時保管設備及び貯蔵設備は,次工程への払出しまでに必要な検査等を考慮し,円滑な運転ができる容量を有する設計とする。</p> <p>第二十二条 遮蔽 放射線業務従事者の立入頻度及び立入時間を考慮し,遮蔽設計の基準となる線量率を設定するとともに,管理区域を線量率に応じて適切に区分し,区分ごとの基準線量率を満足するよう遮蔽設備を設置する設計とする。 遮蔽設備に開口部又は貫通部がある場合で,開口部又は貫通部により遮蔽設計の基準となる線量率を超えるおそれのある場合には,以下に示すような放射線の漏えいを防止するための措置を講じ,遮蔽設計の基準となる線量率を満足する設計とする。 a. 建屋壁遮蔽に開口部を設ける場合,人が容易に接近できないような場所(通路の行き止まり部,高所等)へ設置する。 b. 遮蔽設備を貫通する搬送路,ダクト,配管については,開口部及び貫通部が線源を直接見通さないような場所に設置する。 c. 遮蔽設備の開口部及び貫通部には,遮蔽扉,遮蔽蓋又は補助遮蔽を設置する措置を講ずる。</p>		<p>＜発電炉の類似要目表なし＞</p> <p>●仕様表記載例 23a-1【機種:建物・構築物(建屋・洞道)】の既認可仕様表の特記事項「④ 臨界安全上必要がある場合には,中性子相互干渉を考慮する貯蔵施設等の周囲に○cm以上のコンクリートを配置し,核的に隔離する設計とする。」から展開。</p>	
名称*2		変更前		変更後																																																																																																																								
種類*3		—		○○方式																																																																																																																								
臨界管理	中心間距離(ピット間隔)*9	mm	行方向○○以上 列方向○○以上	mm	行方向○○以上 列方向○○以上																																																																																																																							
	設置する室の壁・床・天井までの距離	南壁	mm	○○○以上	mm	○○○以上																																																																																																																						
		北壁	mm	○○○以上	mm	○○○以上																																																																																																																						
	床	mm	○○○以上	mm	○○○以上																																																																																																																							
天井	mm	○○○以上	mm	○○○以上																																																																																																																								
設置室の周囲の壁厚さ		mm	○○○以上*10	mm	○○○以上*10																																																																																																																							
容量*4		t・HM	○○ (○○ピット)	t・HM	○○ (○○ピット)																																																																																																																							
主要寸法*5	たて	mm	○○○*1	mm	○○○*1																																																																																																																							
	横	mm	○○○*1	mm	○○○*1																																																																																																																							
	高さ	mm	○○○*1	mm	○○○*1																																																																																																																							
主要材料*6		—	○○	—	○○																																																																																																																							
個数*7		—	○	—	○																																																																																																																							
遮蔽体	主要寸法	厚さ	mm	mm	○○																																																																																																																							
	主要材料		—	○○ (密度○g/cm ³ 以上)	—	○○ (密度○g/cm ³ 以上)																																																																																																																						
取付箇所*8	系統名(ライン名)	—	—	—	—																																																																																																																							
	設置床	—	○○○室 T.M.S.L. ○m*11	—	○○○室 T.M.S.L. ○m*11																																																																																																																							
	溢水防護上の区画番号	—	○○	—	○○																																																																																																																							
溢水防護上の配慮が必要な高さ		—	T.M.S.L. ○m以上	—	T.M.S.L. ○m以上																																																																																																																							
機種で統一して記載する仕様項目																																																																																																																												
構造分類に係る仕様項目																																																																																																																												
臨界管理に係る追加仕様項目																																																																																																																												
遮蔽設備に係る追加仕様項目																																																																																																																												

	又は修理ができる設計とする。				
搬送設備	—				
警報設備等	—				
廃棄施設	—				
放射線管理施設	—				
非常用電源設備	—				
その他事業許可で求める仕様	—				
添付図	第1.-1図 核燃料物質の貯蔵施設の機器配置図(1/2) 第2.1-1図○○○○○○(PA○○-○-○○)構造図(1/2) 第2.1-2図○○○○○○(PA○○-○-○○)構造図(2/2)				
特記事項	運転管理にて貯蔵量が最大貯蔵能力を超えないように管理する。	保安規定で展開			
注1 技術基準に対する仕様の補足説明	<p>(1) 核燃料物質の臨界防止</p> <p>本装置は、貯蔵単位である混合酸化物貯蔵容器(第1.-3表参照)及び核燃料物質の形態(原料MOX粉末)を管理し、貯蔵単位の配列(○行×○列)が核的に安全な配置となるよう貯蔵単位相互間の距離(行方向○○○mm以上、列方向○○○mm以上)を維持することにより臨界を防止する設計とする。貯蔵する混合酸化物貯蔵容器から最も近い○○○○室の壁・床・天井までの距離について、南壁までの距離○○○mm以上、北壁までの距離○○○mm以上、床までの距離○○○mm以上、及び、天井までの距離○○○mm以上となるように設置する。</p> <p>臨界防止に係る計算結果は、添付書類Ⅰ「核燃料物質の臨界防止に関する説明書」に示す。</p> <p>(2) 火災等による損傷の防止</p> <p>○○○○ピットは安全上重要な施設であるため、不燃性の○○を使用することにより火災による損傷を防止する。</p> <p>(3) 耐震性</p> <p>○○○○ピットは、耐震Bクラスとする。また、耐震設計上の主要な評価部位は装置を直接支持する構造物に固定するボルト(基礎ボルト)及び貯蔵単位相互間の距離を維持するのに必要なボルト(取付ボルト)とする。設備構造設計上の耐震設計結果は、添付書類Ⅲ「主要な加工施設の耐震性に関する説明書」に示す。</p> <p>(4) 安全上重要な施設</p> <p>○○○○ピットは、安全上重要な施設であり、外観検査等により、加工施設の安全を確保する機能のピット間距離の確認は実施できる。また、周囲にメンテナンススペースを設けておりこれらの機能を健全に維持するための保守又は修理が可能である。なお、他の原子力施設と共用しない。</p>	基本設計方針・添付書類で展開	→臨界管理に記載		
注2 貯蔵施設で取り扱う核燃料物質の形態及び設定条件を第1.-5表に示す。					
注3 ○○○○ピットは、基準地震動Ssによる地震力に対して過大な変形等が生じないように設計する。					

仕様表記載例 12b 【機種：ラック/ピット/棚（ガラス固化体貯蔵ピット）】

[常設] [構造分類：－] [付属構造：－]

既認可の仕様表		仕様表案		要求事項の整理		発電炉類似設備要目表		備考	
<p>主要設備リストで展開</p> <p>名称</p> <p>構造図で展開</p> <p>種類</p> <p>設計条件</p> <p>耐震クラス</p> <p>容量</p> <p>構成</p> <p>仕様</p> <p>主要寸法</p> <p>主要材料</p> <p>基数</p> <p>構造図：第3.2.3.2-1図に示す。</p> <p>注記 1)：内面の目視等による観察が可能な構造とする。</p> <p>2)：外気に直接触れる炭素鋼部分について、アルミニウム溶射を施工する。</p> <p>添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除</p> <p>基本設計方針で展開</p>		<p>名称</p> <p>種類</p> <p>容量</p> <p>主要寸法</p> <p>主要材料</p> <p>注記 *1：公称値を示す。 *2：記載の適正化を行う。既設工認では「基数」と記載。</p> <p>機種で統一して記載する仕様項目</p> <p>構造分類に係る仕様項目</p>		<p>技術基準</p> <p>機能要求②</p> <p>機種-6 機種-7</p> <p>主な仕様 (詳細設計)</p> <p>第十七条 材料及び構造</p> <p>第二十五条 保管廃棄施設</p>		<p><発電炉の要目表なし></p>			
<p>高レベル廃液ガラス固化建屋の貯蔵ピット (収納管¹⁾ 通風管)</p> <p>間接自然空冷貯蔵方式</p> <p>収納管 A</p> <p>通風管 A</p> <p>収納管及び通風管 各45本</p> <p>ガラス固化体315本 (ガラス固化体7本/収納管)</p> <p>天井スラブ懸架支持</p> <p>支持架構に固定</p> <p>貯蔵ピット mm 22400×5850×14540 (高さ)</p> <p>収納管 内径 (mm) 442</p> <p>厚さ (mm) 11.4</p> <p>長さ (mm) 13500</p> <p>通風管 内径 (mm) 582</p> <p>長さ (mm) 10500</p> <p>収納管 SM400A (アルミニウム溶射)²⁾</p> <p>通風管 SM400A (アルミニウム溶射)²⁾</p> <p>支持架構 STKR490</p> <p>プレナム形成板 SM400A (アルミニウム溶射)²⁾</p> <p>基数 1</p>		<p>変更前</p> <p>変更後</p> <p>名称</p> <p>高レベル廃液ガラス固化建屋の貯蔵ピット</p> <p>収納管 (0000-0000~0000)</p> <p>通風管 (0000-0000~0000)</p> <p>間接自然空冷貯蔵方式</p> <p>容量</p> <p>収納管及び通風管 各○本</p> <p>ガラス固化体○本</p> <p>ガラス固化体○本/収納管</p> <p>主要寸法</p> <p>貯蔵ピット mm ○○×○○×○○</p> <p>収納管 内径 mm ○○^{*1}</p> <p>厚さ mm ○○^{*1}</p> <p>長さ mm ○○^{*1}</p> <p>通風管 内径 mm ○○^{*1}</p> <p>長さ mm ○○^{*1}</p> <p>主要材料</p> <p>収納管 (アルミニウム溶射)</p> <p>通風管 (アルミニウム溶射)</p> <p>支持架構 (アルミニウム溶射)</p> <p>プレナム形成板 (アルミニウム溶射)</p> <p>基数^{*2} ○○</p>		<p>・使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料</p> <p>・設計上定める条件において、全体的な変形を弾性域に抑える設計</p> <p>・設計上定める条件において、座屈が生じない設計</p> <p>・放射性固体廃棄物の保管廃棄に係る貯蔵ピット、室等の容量を記載する。</p> <p>・自然通風による崩壊熱除去に必要な風量を確保するために冷却空気流路の材料、寸法（シャフト高さ等）を記載する。</p>		<p>主要寸法</p> <p>貯蔵ピット：○○mm</p> <p>収納管内径：○○mm</p> <p>収納管厚さ：○○mm</p> <p>収納管長さ：○○mm</p> <p>通風管内径：○○mm</p> <p>通風管長さ：○○mm</p> <p>主要材料</p> <p>収納管：○○</p> <p>通風管：○○</p> <p>支持架構：○○</p> <p>プレナム形成板：○○</p> <p>容量</p> <p>収納管及び通風管：各○○本</p> <p>ガラス固化体：○○本/収納管</p> <p>個数：○○</p> <p>主要寸法</p> <p>収納管内径：○○mm</p> <p>通風管内径：○○mm</p> <p>主要材料</p> <p>収納管：○○</p> <p>通風管：○○</p>			

仕様表記載例 13-1【機種：搬送設備】
 [常設] [構造分類：クレーン] [付属構造：臨界管理]

既認可の仕様表		仕様表案		要求事項の整理		発電炉類似設備要目表		備考																																																																																									
<p>主要設備リストで展開。</p> <table border="1"> <tr><td>名称</td><td>燃料取出し装置 A, B (00-0000)</td></tr> <tr><td>種類</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>設計条件</td><td>核燃料物質の最大質量 〇〇</td></tr> <tr><td>耐震クラス</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>仕様</td><td>主ホイスト 〇〇 補助ホイスト 〇〇</td></tr> <tr><td>仕様個数</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>特記事項</td><td>(1) つりワイヤの二重化を施す。 (2) フックに脱落防止機構を施す。 (3) 主ホイストは、電源喪失時又はつかみ具駆動用の空気源喪失時にも使用済燃料集合体を保持できる構造とする。 (4) 使用済燃料集合体のつり上げ高さを〇m以下とするインターロックを設けることにより、使用済燃料集合体のつり上げ時にその頂部までの水深を BWR 燃料集合体については〇m以上、PWR 燃料集合体については〇m以上確保できる。 (5) 逸走防止のインターロックを設ける。 (6) 主ホイストには、使用済燃料集合体のつかみ不良及び荷重異常時につり上げを防止するインターロックを設ける。 (7) 使用済燃料集合体の同時取扱いを防止するインターロックを設ける。</td></tr> </table> <p>基本設計方針で展開</p> <p>構造図：第 3.1.1.3-4 図に示す。</p> <p>注記 1)：燃料取出し装置 A, B は基準地震動〇及び〇にて燃料取出しピット及び燃料仮置きピットに波及的影響を与えないように設計する。</p> <p>添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除</p>		名称	燃料取出し装置 A, B (00-0000)	種類	〇〇	設計条件	核燃料物質の最大質量 〇〇	耐震クラス	〇〇	仕様	主ホイスト 〇〇 補助ホイスト 〇〇	仕様個数	〇〇	特記事項	(1) つりワイヤの二重化を施す。 (2) フックに脱落防止機構を施す。 (3) 主ホイストは、電源喪失時又はつかみ具駆動用の空気源喪失時にも使用済燃料集合体を保持できる構造とする。 (4) 使用済燃料集合体のつり上げ高さを〇m以下とするインターロックを設けることにより、使用済燃料集合体のつり上げ時にその頂部までの水深を BWR 燃料集合体については〇m以上、PWR 燃料集合体については〇m以上確保できる。 (5) 逸走防止のインターロックを設ける。 (6) 主ホイストには、使用済燃料集合体のつかみ不良及び荷重異常時につり上げを防止するインターロックを設ける。 (7) 使用済燃料集合体の同時取扱いを防止するインターロックを設ける。	<table border="1"> <tr><td>名称</td><td>燃料取出し装置 A, B (00-0000)</td></tr> <tr><td>種類</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>臨界管理</td><td>核燃料物質の最大質量 〇〇</td></tr> <tr><td>容量</td><td>主ホイスト 〇〇 補助ホイスト 〇〇</td></tr> <tr><td>主要寸法</td><td>走行レール間距離 mm 〇〇^{*1*} クレーン本体ガード距離 mm 〇〇^{*1*} 高さ mm 〇〇^{*1*} クレーン本体ガード幅 mm 〇〇^{*1*} クレーン本体ガード高さ mm 〇〇^{*1*}</td></tr> <tr><td>主要材料</td><td>ガード 〇〇^{*2*}</td></tr> <tr><td>個数</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>取付箇所</td><td>系統名(フィン名) 〇〇 設置床 〇〇 溢水防護上の区画番号 〇〇 溢水防護上の配慮が必要な高さ 〇〇 化学薬品防護上の区画番号 〇〇 化学薬品防護上の配慮が必要な高さ 〇〇</td></tr> </table> <p>注記 *1：公称値を示す。 *2：既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。 *3：本機器は、使用済燃料集合体のつり上げ高さによる停止インターロック(検出器：〇〇)を設ける。</p>		名称	燃料取出し装置 A, B (00-0000)	種類	〇〇	臨界管理	核燃料物質の最大質量 〇〇	容量	主ホイスト 〇〇 補助ホイスト 〇〇	主要寸法	走行レール間距離 mm 〇〇 ^{*1*} クレーン本体ガード距離 mm 〇〇 ^{*1*} 高さ mm 〇〇 ^{*1*} クレーン本体ガード幅 mm 〇〇 ^{*1*} クレーン本体ガード高さ mm 〇〇 ^{*1*}	主要材料	ガード 〇〇 ^{*2*}	個数	〇〇	取付箇所	系統名(フィン名) 〇〇 設置床 〇〇 溢水防護上の区画番号 〇〇 溢水防護上の配慮が必要な高さ 〇〇 化学薬品防護上の区画番号 〇〇 化学薬品防護上の配慮が必要な高さ 〇〇	<table border="1"> <tr><td>技術基準</td><td>機能要求② 様式-6,7</td><td>主な仕様(詳細設計)</td></tr> <tr><td>第四条 核燃料物質の臨界防止</td><td>単一ユニットの臨界安全設計に当たり、これらの管理に対して適切な臨界管理を行う体系の未臨界確保のために設定する値(以下「核的制限値」という。)を設定する。</td><td>・核的制限値 ・主要寸法 ・主要材料</td></tr> <tr><td>第十二条 溢水防護</td><td>発生を想定する化学薬品の漏れ量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏れ経路から算出される化学薬品の漏れ量と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、漏れいた液体状の化学薬品による浸水(以下「浸水」という。)により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏れ源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏れによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td><td>・核的制限値 ・主要寸法 ・主要材料</td></tr> <tr><td>第十三条 化学薬品防護</td><td>発生を想定する化学薬品の漏れ量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏れ経路から算出される化学薬品の漏れ量と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、漏れいた液体状の化学薬品による浸水(以下「浸水」という。)により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏れ源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏れによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td><td>取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ(機能喪失高さ) ・防護上の区画番号</td></tr> <tr><td>第十八条 搬送設備</td><td>使用済燃料等を搬送する設備(以下、「搬送設備」という。)は、搬送物の重量を上回る容量を有する設計とする。</td><td>・容量</td></tr> <tr><td>許可整合</td><td></td><td></td></tr> </table>		技術基準	機能要求② 様式-6,7	主な仕様(詳細設計)	第四条 核燃料物質の臨界防止	単一ユニットの臨界安全設計に当たり、これらの管理に対して適切な臨界管理を行う体系の未臨界確保のために設定する値(以下「核的制限値」という。)を設定する。	・核的制限値 ・主要寸法 ・主要材料	第十二条 溢水防護	発生を想定する化学薬品の漏れ量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏れ経路から算出される化学薬品の漏れ量と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、漏れいた液体状の化学薬品による浸水(以下「浸水」という。)により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏れ源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏れによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。	・核的制限値 ・主要寸法 ・主要材料	第十三条 化学薬品防護	発生を想定する化学薬品の漏れ量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏れ経路から算出される化学薬品の漏れ量と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、漏れいた液体状の化学薬品による浸水(以下「浸水」という。)により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏れ源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏れによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ(機能喪失高さ) ・防護上の区画番号	第十八条 搬送設備	使用済燃料等を搬送する設備(以下、「搬送設備」という。)は、搬送物の重量を上回る容量を有する設計とする。	・容量	許可整合			<p>核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設</p> <p>1 燃料取扱設備に係る次の事項</p> <p>(1) 新燃料又は使用済燃料を取り扱う機器の名称、種類、容量、主要寸法、材料、個数及び取付箇所</p> <table border="1"> <tr><td>名称</td><td>〇〇</td><td>変更後</td></tr> <tr><td>種類</td><td>〇〇〇 f式</td><td></td></tr> <tr><td>容量</td><td>主巻 t 〇〇〇</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>補巻 t 〇〇〇</td><td></td></tr> <tr><td>主要寸法</td><td>走行レール間距離 mm</td><td rowspan="5">変更なし</td></tr> <tr><td></td><td>クレーン本体ガード距離 mm</td></tr> <tr><td></td><td>高さ mm</td></tr> <tr><td></td><td>クレーン本体ガード幅 mm</td></tr> <tr><td></td><td>クレーン本体ガード高さ mm</td></tr> <tr><td>材料</td><td>ガード 〇〇</td><td></td></tr> <tr><td>個数</td><td>〇〇</td><td></td></tr> <tr><td>取付箇所</td><td>系統名(ライン名) 〇〇</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>設置床 EL m^{*2*}</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>溢水防護上の区画番号 〇〇</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ 〇〇</td><td></td></tr> </table> <p>注記 *1：公称値を示す。 *2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成 年 月 日 付け平成 資第 号にて認可された工事計画の添付図面「第 図 構造図」による。 *3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成 年 月 日 付け平成 11・06・25 資第 1 号にて認可された工事計画の添付書類「 」による。</p>		名称	〇〇	変更後	種類	〇〇〇 f式		容量	主巻 t 〇〇〇			補巻 t 〇〇〇		主要寸法	走行レール間距離 mm	変更なし		クレーン本体ガード距離 mm		高さ mm		クレーン本体ガード幅 mm		クレーン本体ガード高さ mm	材料	ガード 〇〇		個数	〇〇		取付箇所	系統名(ライン名) 〇〇			設置床 EL m ^{*2*}			溢水防護上の区画番号 〇〇			溢水防護上の配慮が必要な高さ 〇〇		
名称	燃料取出し装置 A, B (00-0000)																																																																																																
種類	〇〇																																																																																																
設計条件	核燃料物質の最大質量 〇〇																																																																																																
耐震クラス	〇〇																																																																																																
仕様	主ホイスト 〇〇 補助ホイスト 〇〇																																																																																																
仕様個数	〇〇																																																																																																
特記事項	(1) つりワイヤの二重化を施す。 (2) フックに脱落防止機構を施す。 (3) 主ホイストは、電源喪失時又はつかみ具駆動用の空気源喪失時にも使用済燃料集合体を保持できる構造とする。 (4) 使用済燃料集合体のつり上げ高さを〇m以下とするインターロックを設けることにより、使用済燃料集合体のつり上げ時にその頂部までの水深を BWR 燃料集合体については〇m以上、PWR 燃料集合体については〇m以上確保できる。 (5) 逸走防止のインターロックを設ける。 (6) 主ホイストには、使用済燃料集合体のつかみ不良及び荷重異常時につり上げを防止するインターロックを設ける。 (7) 使用済燃料集合体の同時取扱いを防止するインターロックを設ける。																																																																																																
名称	燃料取出し装置 A, B (00-0000)																																																																																																
種類	〇〇																																																																																																
臨界管理	核燃料物質の最大質量 〇〇																																																																																																
容量	主ホイスト 〇〇 補助ホイスト 〇〇																																																																																																
主要寸法	走行レール間距離 mm 〇〇 ^{*1*} クレーン本体ガード距離 mm 〇〇 ^{*1*} 高さ mm 〇〇 ^{*1*} クレーン本体ガード幅 mm 〇〇 ^{*1*} クレーン本体ガード高さ mm 〇〇 ^{*1*}																																																																																																
主要材料	ガード 〇〇 ^{*2*}																																																																																																
個数	〇〇																																																																																																
取付箇所	系統名(フィン名) 〇〇 設置床 〇〇 溢水防護上の区画番号 〇〇 溢水防護上の配慮が必要な高さ 〇〇 化学薬品防護上の区画番号 〇〇 化学薬品防護上の配慮が必要な高さ 〇〇																																																																																																
技術基準	機能要求② 様式-6,7	主な仕様(詳細設計)																																																																																															
第四条 核燃料物質の臨界防止	単一ユニットの臨界安全設計に当たり、これらの管理に対して適切な臨界管理を行う体系の未臨界確保のために設定する値(以下「核的制限値」という。)を設定する。	・核的制限値 ・主要寸法 ・主要材料																																																																																															
第十二条 溢水防護	発生を想定する化学薬品の漏れ量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏れ経路から算出される化学薬品の漏れ量と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、漏れいた液体状の化学薬品による浸水(以下「浸水」という。)により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏れ源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏れによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。	・核的制限値 ・主要寸法 ・主要材料																																																																																															
第十三条 化学薬品防護	発生を想定する化学薬品の漏れ量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏れ経路から算出される化学薬品の漏れ量と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、漏れいた液体状の化学薬品による浸水(以下「浸水」という。)により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏れ源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏れによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ(機能喪失高さ) ・防護上の区画番号																																																																																															
第十八条 搬送設備	使用済燃料等を搬送する設備(以下、「搬送設備」という。)は、搬送物の重量を上回る容量を有する設計とする。	・容量																																																																																															
許可整合																																																																																																	
名称	〇〇	変更後																																																																																															
種類	〇〇〇 f式																																																																																																
容量	主巻 t 〇〇〇																																																																																																
	補巻 t 〇〇〇																																																																																																
主要寸法	走行レール間距離 mm	変更なし																																																																																															
	クレーン本体ガード距離 mm																																																																																																
	高さ mm																																																																																																
	クレーン本体ガード幅 mm																																																																																																
	クレーン本体ガード高さ mm																																																																																																
材料	ガード 〇〇																																																																																																
個数	〇〇																																																																																																
取付箇所	系統名(ライン名) 〇〇																																																																																																
	設置床 EL m ^{*2*}																																																																																																
	溢水防護上の区画番号 〇〇																																																																																																
	溢水防護上の配慮が必要な高さ 〇〇																																																																																																

仕様表記載例（機種：搬送設備）

[常設] [構造分類：コンベア・昇降機構] [付属構造：－]

既認可の仕様表		仕様表案		要求事項の整理		発電炉類似設備要目表		備考																																											
第2-1表 機器仕様		●. ○○○設備 (●) 搬送設備																																																	
対応する加工事業許可	許可番号(日付) 平成17・04・20原第18号(平成22年5月13日)																																																		
一般仕様	主要な設備及び機器の種類	貯蔵施設 ○○○設備																																																	
	許可との対応	付属設備																																																	
	設備・機器名称	○○○設備 ○○○装置 (○○-○-○○)																																																	
	設置場所	○○○建屋地下○階 ○○○室																																																	
	変更内容	新設																																																	
	数量	○台																																																	
	技術基準	形式	○○○方式																																																
		主要な構成材	本体(架台含む)：○○○																																																
		寸法(単位：mm)	○○○装置 ・幅：○○ ・奥行：○○ ・高さ：○○																																																
		その他の構成機器	-																																																
その他の性能		-																																																	
技術基準に対する仕様	核燃料物質の状態	粉末, ペレット																																																	
	核燃料物質の臨界防止	-																																																	
	火災等による損傷の防止	-																																																	
	耐震性	○○○装置 ・耐震クラス：Bクラス																																																	
	材料及び構造	-																																																	
	閉じ込めの機能	-																																																	
	しゃへい	-																																																	
	換気	-																																																	
	核燃料物質等による汚染の防止	-																																																	
	安全上重要な施設	-																																																	
搬送設備	搬送設備	○○○装置 ・定格荷重：○○kg ・動力喪失時に容器の落下を防止するため駆動用モータは無励磁作動ブレーキ付とする。																																																	
	警報設備等	-																																																	
	廃棄施設	-																																																	
	放射線管理施設	-																																																	
	非常用電源設備	-																																																	
	その他事業許可で求める仕様 ^(注5)	グローブボックス内で使用するポリエチレンは、ステンレス鋼製のカバーで覆い極力露出しない構造とする。																																																	
		<table border="1"> <tr> <td>名称*2</td> <td>変更前</td> <td>変更後</td> </tr> <tr> <td>種類*3</td> <td>○○○装置 (PA○○○)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>主要寸法*5</td> <td></td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td>○○*1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>○○*1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>○○*1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>主要材料*6</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>個数*7</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>取付箇所*8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>系統名(ライン名)</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>○○○室 T.M.S.L.○○m*10</td> <td></td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>-</td> <td>○○○</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>-</td> <td>○○○室 T.M.S.L. ○○m</td> </tr> </table>		名称*2	変更前	変更後	種類*3	○○○装置 (PA○○○)		容量	○○		主要寸法*5		変更なし	たて	○○*1		横	○○*1		高さ	○○*1		主要材料*6	○○		個数*7	○○		取付箇所*8			系統名(ライン名)	-	-	設置床	○○○室 T.M.S.L.○○m*10		溢水防護上の区画番号	-	○○○	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	○○○室 T.M.S.L. ○○m						
名称*2	変更前	変更後																																																	
種類*3	○○○装置 (PA○○○)																																																		
容量	○○																																																		
主要寸法*5		変更なし																																																	
たて	○○*1																																																		
横	○○*1																																																		
高さ	○○*1																																																		
主要材料*6	○○																																																		
個数*7	○○																																																		
取付箇所*8																																																			
系統名(ライン名)	-	-																																																	
設置床	○○○室 T.M.S.L.○○m*10																																																		
溢水防護上の区画番号	-	○○○																																																	
溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	○○○室 T.M.S.L. ○○m																																																	
		<p>注記 *1：公称値を示す。 *2：記載の適正化。既設工認では「設備・機器名称」と記載。 *3：記載の適正化。既設工認では「形式」と記載。 *4：記載の適正化。既設工認では「搬送設備」と記載。 *5：記載の適正化。既設工認では「寸法(単位mm)」と記載。 *6：記載の適正化。既設工認では「主要な構成材」と記載。 *7：記載の適正化。既設工認では「数量」と記載。 *8：記載の適正化。既設工認では「設置場所」と記載。 *9：記載内容は、平成○年○月○日付け平成○○原第○号にて認可を受けた設工認申請書の本文添付図「第1-1 図被覆施設の機器配置図(1/2)」による。</p>																																																	
		<table border="1"> <tr> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> </table>		機種で統一して記載する仕様項目	構造分類に係る仕様項目																																														
機種で統一して記載する仕様項目																																																			
構造分類に係る仕様項目																																																			
		<p>工程情報であり設計条件ではないため削除する。</p> <p>主要設備リストで展開。</p> <p>搬送設備の基本方針/添付書類で展開</p> <p>火災の基本方針/添付書類で展開</p>																																																	
				<table border="1"> <tr> <th>技術基準</th> <th>機能要求②</th> <th>主な仕様(詳細設計)</th> </tr> <tr> <td>第四条 臨界</td> <td>様式-6 様式-7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(b) 燃料棒, 貯蔵マガジン及び組立マガジンを取り扱う工程では, 形状寸法管理を基本とし, 単一ユニットは設備・機器に設定する。</td> <td></td> <td>臨界管理 ・核的制限値(寸法, 段数, 中性子吸収材寸法, 中性子吸収材料(密度を含む)) ※臨界管理をする場合は記載する。</td> </tr> <tr> <td>(c) 混合酸化物貯蔵容器及び燃料集合体を取り扱う工程では, 体数管理とし, 単一ユニットは設備・機器に設定する。</td> <td></td> <td>臨界管理 ・核的制限値(体数) ※臨界管理をする場合は記載する。</td> </tr> <tr> <td>(d) ウラン燃料棒を取り扱う工程では, 本数管理とし, 単一ユニットは設備・機器に設定する。</td> <td></td> <td>臨界管理 ・核的制限値(本数) ※臨界管理をする場合は記載する。</td> </tr> <tr> <td>a. 複数ユニットの設定 単一ユニット相互間は, 十分な厚さのコンクリート等の設置又は単一ユニット相互間の距離を確保することにより, 核的に安全な配置とする。</td> <td></td> <td>臨界管理 ・単一ユニットのグループボックス間距離 ・貯蔵設備の貯蔵棚間距離 ・単一ユニット相互間距離 ・設置室周囲の壁厚さ ・壁等までの距離 ※臨界管理をする場合は記載する。</td> </tr> <tr> <td>(d) 核燃料物質を収納する設備・機器の設置に当たっては, 通常時に作用している荷重に対して発生する変形が過大にならないように構造強度を持つ構造材を用いて固定する。なお, 固定することが困難な設備・機器の場合は, 設備・機器の周囲にユニット相互間の間隔を維持するための剛構造物を取り付ける又は設計上, 移動範囲を制限する。</td> <td></td> <td>主要材料 ※臨界管理をする場合は記載する。</td> </tr> <tr> <td>(a) 混合酸化物貯蔵容器及び燃料集合体は, 工程内の取扱いにおいて核燃料物質質量に変化がない。このため, 混合酸化物貯蔵容器及び燃料集合体を体数で管理する単一ユニットにおいては, 構成する設備・機器が構造的に核的制限値以下の体数でなければ取り扱えない設計とする。</td> <td></td> <td>臨界管理 ・核的制限値(体数) ※臨界管理をする場合は記載する。</td> </tr> <tr> <td>(b) 燃料棒を取り扱う工程において形状寸法管理を行う単一ユニットは, 単一ユニットの入口に核的制限値以内に制限するためのゲートを設置するとともに, 燃料棒を平板厚さに対する核的制限値以内で取り扱うように設計する。</td> <td></td> <td>臨界管理 ・核的制限値(寸法) ※臨界管理をする場合は記載する。</td> </tr> <tr> <td>(c) 貯蔵マガジン及び組立マガジンを取り扱う工程において形状寸法管理を行う単一ユニットは, 貯蔵マガジン及び組立マガジンを積み重ねて取り扱うことのない機構とする。</td> <td></td> <td>臨界管理 ・核的制限値(段数) ※臨界管理をする場合は記載する。</td> </tr> <tr> <td>第十二条 溢水防護</td> <td>発生を想定する溢水量, 溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。 防護すべき設備は, 没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また, 溢水の流入状態, 溢水源からの距離, 溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し, 機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td> <td>取付箇所(区画番号, 配慮が必要な高さ)</td> </tr> <tr> <td>第十六条 搬送設備</td> <td>核燃料物質を搬送する設備(人の安全に著しい支障を及ぼすおそれがないものを除く。以下, 「搬送設備」という。)は, 搬送物の重量を上回る容量を有する設計とする。</td> <td>容量</td> </tr> </table>		技術基準	機能要求②	主な仕様(詳細設計)	第四条 臨界	様式-6 様式-7		(b) 燃料棒, 貯蔵マガジン及び組立マガジンを取り扱う工程では, 形状寸法管理を基本とし, 単一ユニットは設備・機器に設定する。		臨界管理 ・核的制限値(寸法, 段数, 中性子吸収材寸法, 中性子吸収材料(密度を含む)) ※臨界管理をする場合は記載する。	(c) 混合酸化物貯蔵容器及び燃料集合体を取り扱う工程では, 体数管理とし, 単一ユニットは設備・機器に設定する。		臨界管理 ・核的制限値(体数) ※臨界管理をする場合は記載する。	(d) ウラン燃料棒を取り扱う工程では, 本数管理とし, 単一ユニットは設備・機器に設定する。		臨界管理 ・核的制限値(本数) ※臨界管理をする場合は記載する。	a. 複数ユニットの設定 単一ユニット相互間は, 十分な厚さのコンクリート等の設置又は単一ユニット相互間の距離を確保することにより, 核的に安全な配置とする。		臨界管理 ・単一ユニットのグループボックス間距離 ・貯蔵設備の貯蔵棚間距離 ・単一ユニット相互間距離 ・設置室周囲の壁厚さ ・壁等までの距離 ※臨界管理をする場合は記載する。	(d) 核燃料物質を収納する設備・機器の設置に当たっては, 通常時に作用している荷重に対して発生する変形が過大にならないように構造強度を持つ構造材を用いて固定する。なお, 固定することが困難な設備・機器の場合は, 設備・機器の周囲にユニット相互間の間隔を維持するための剛構造物を取り付ける又は設計上, 移動範囲を制限する。		主要材料 ※臨界管理をする場合は記載する。	(a) 混合酸化物貯蔵容器及び燃料集合体は, 工程内の取扱いにおいて核燃料物質質量に変化がない。このため, 混合酸化物貯蔵容器及び燃料集合体を体数で管理する単一ユニットにおいては, 構成する設備・機器が構造的に核的制限値以下の体数でなければ取り扱えない設計とする。		臨界管理 ・核的制限値(体数) ※臨界管理をする場合は記載する。	(b) 燃料棒を取り扱う工程において形状寸法管理を行う単一ユニットは, 単一ユニットの入口に核的制限値以内に制限するためのゲートを設置するとともに, 燃料棒を平板厚さに対する核的制限値以内で取り扱うように設計する。		臨界管理 ・核的制限値(寸法) ※臨界管理をする場合は記載する。	(c) 貯蔵マガジン及び組立マガジンを取り扱う工程において形状寸法管理を行う単一ユニットは, 貯蔵マガジン及び組立マガジンを積み重ねて取り扱うことのない機構とする。		臨界管理 ・核的制限値(段数) ※臨界管理をする場合は記載する。	第十二条 溢水防護	発生を想定する溢水量, 溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。 防護すべき設備は, 没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また, 溢水の流入状態, 溢水源からの距離, 溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し, 機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所(区画番号, 配慮が必要な高さ)	第十六条 搬送設備	核燃料物質を搬送する設備(人の安全に著しい支障を及ぼすおそれがないものを除く。以下, 「搬送設備」という。)は, 搬送物の重量を上回る容量を有する設計とする。	容量	<p><発電炉の要目表なし></p>									
技術基準	機能要求②	主な仕様(詳細設計)																																																	
第四条 臨界	様式-6 様式-7																																																		
(b) 燃料棒, 貯蔵マガジン及び組立マガジンを取り扱う工程では, 形状寸法管理を基本とし, 単一ユニットは設備・機器に設定する。		臨界管理 ・核的制限値(寸法, 段数, 中性子吸収材寸法, 中性子吸収材料(密度を含む)) ※臨界管理をする場合は記載する。																																																	
(c) 混合酸化物貯蔵容器及び燃料集合体を取り扱う工程では, 体数管理とし, 単一ユニットは設備・機器に設定する。		臨界管理 ・核的制限値(体数) ※臨界管理をする場合は記載する。																																																	
(d) ウラン燃料棒を取り扱う工程では, 本数管理とし, 単一ユニットは設備・機器に設定する。		臨界管理 ・核的制限値(本数) ※臨界管理をする場合は記載する。																																																	
a. 複数ユニットの設定 単一ユニット相互間は, 十分な厚さのコンクリート等の設置又は単一ユニット相互間の距離を確保することにより, 核的に安全な配置とする。		臨界管理 ・単一ユニットのグループボックス間距離 ・貯蔵設備の貯蔵棚間距離 ・単一ユニット相互間距離 ・設置室周囲の壁厚さ ・壁等までの距離 ※臨界管理をする場合は記載する。																																																	
(d) 核燃料物質を収納する設備・機器の設置に当たっては, 通常時に作用している荷重に対して発生する変形が過大にならないように構造強度を持つ構造材を用いて固定する。なお, 固定することが困難な設備・機器の場合は, 設備・機器の周囲にユニット相互間の間隔を維持するための剛構造物を取り付ける又は設計上, 移動範囲を制限する。		主要材料 ※臨界管理をする場合は記載する。																																																	
(a) 混合酸化物貯蔵容器及び燃料集合体は, 工程内の取扱いにおいて核燃料物質質量に変化がない。このため, 混合酸化物貯蔵容器及び燃料集合体を体数で管理する単一ユニットにおいては, 構成する設備・機器が構造的に核的制限値以下の体数でなければ取り扱えない設計とする。		臨界管理 ・核的制限値(体数) ※臨界管理をする場合は記載する。																																																	
(b) 燃料棒を取り扱う工程において形状寸法管理を行う単一ユニットは, 単一ユニットの入口に核的制限値以内に制限するためのゲートを設置するとともに, 燃料棒を平板厚さに対する核的制限値以内で取り扱うように設計する。		臨界管理 ・核的制限値(寸法) ※臨界管理をする場合は記載する。																																																	
(c) 貯蔵マガジン及び組立マガジンを取り扱う工程において形状寸法管理を行う単一ユニットは, 貯蔵マガジン及び組立マガジンを積み重ねて取り扱うことのない機構とする。		臨界管理 ・核的制限値(段数) ※臨界管理をする場合は記載する。																																																	
第十二条 溢水防護	発生を想定する溢水量, 溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。 防護すべき設備は, 没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また, 溢水の流入状態, 溢水源からの距離, 溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し, 機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所(区画番号, 配慮が必要な高さ)																																																	
第十六条 搬送設備	核燃料物質を搬送する設備(人の安全に著しい支障を及ぼすおそれがないものを除く。以下, 「搬送設備」という。)は, 搬送物の重量を上回る容量を有する設計とする。	容量																																																	

仕様表記載例 (機種: 機械装置_コンベア・昇降機構付)

既認可の仕様表		仕様表案	要求事項の整理			発電炉類似設備要目表	備考
添付図	第1.-1図 貯蔵施設の機器配置図 第2.3-10図 ○○○装置構造図	添付書類で展開	技術基準	機能要求② 様式-6 様式-7	主な仕様 (詳細設計)		
特記事項	-		第二十二 条 遮蔽	放射線業務従事者の立入頻度及び立入時間を考慮し、遮蔽設計の基準となる線量率を設定するとともに、管理区域を線量率に応じて適切に区分し、区分ごとの基準線量率を満足するよう遮蔽設備を設置する設計とする。 遮蔽設備に開口部又は貫通部がある場合で、開口部又は貫通部により遮蔽設計の基準となる線量率を超えるおそれのある場合には、以下に示すような放射線の漏えいを防止するための措置を講じ、遮蔽設計の基準となる線量率を満足する設計とする。 a. 建屋壁遮蔽に開口部を設ける場合、人が容易に接近できないような場所（通路の行き止まり部、高所等）へ設置する。 b. 遮蔽設備を貫通する搬送路、ダクト、配管については、開口部及び貫通部が線源を直接見通さないような場所に設置する。 c. 遮蔽設備の開口部及び貫通部には、遮蔽扉、遮蔽蓋又は補助遮蔽を設置する措置を講ずる。	遮蔽体 ・主要材料 ・厚さ ※遮蔽体を有する場合は記載する。		
注1 技術基準に対する仕様の補足説明 (1) 耐震性 本装置は、耐震 B クラスとする。設備構造設計上の耐震設計結果は、添付書類Ⅲ「主要な加工施設の耐震性に関する説明書」に示す。 (2) 搬送設備 搬送装置は、装置の定格荷重が実用負荷を上回る設計とする。 本装置で取り扱う容器のうち、核燃料物質を収納して重量が最大となるのは、9 缶バスケットを取り扱う場合であり、その重量は約○○kg である。 ○○○装置は、収納パレットへの容器の出し入れ時に、容器底部を保持及び把持し、上下方向に移動させる機器であるため、昇降用モータ及び把持用モータは無励磁作動ブレーキ付とし、電源喪失時に容器が落下しないようにする。 注2 その他事業許可で求める仕様の補足説明 (1) グローブボックス内で使用するポリエチレンは可燃性であるため、不燃性のステンレス鋼製のカバーで覆い露出しない構造として火災による損傷を防止する。							

仕様表記載例 14a-1 【機種：機械装置（廃棄処理機械装置）】

[常設] [構造分類：－] [付属構造：－]

既認可の仕様表		仕様表案		要求事項の整理		発電炉類似設備要目表		備考																																																																																																																																																																																																	
<p>主要設備リストで展開。</p> <table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>－</td> <td>燃焼装置 (00-00)</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>－</td> <td>自然式</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>機器の種類</td> <td>－</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>標準濃度</td> <td>β γ Bq/cm³[normal]</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td></td> <td>α Bq/cm³[normal]</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td></td> <td>P μ g/m³[normal]</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>耐震クラス</td> <td>－</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>流体の種類</td> <td>－</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>廃ガス入口部</td> <td>最高使用圧力 kPa</td> <td>〇〇(〇〇)¹⁾</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td></td> <td>最高使用温度 °C</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>ケーシング</td> <td>最高使用圧力 kPa</td> <td>〇〇(〇〇)¹⁾</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td></td> <td>最高使用温度 °C</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>容量 (設計燃焼熱量)</td> <td>kW</td> <td>〇〇(〇〇)²⁾</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">主要寸法</td> <td>ケーシング 上部胴外径</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>上部胴板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>下部胴外径</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>下部胴板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>鏡板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主要材料</td> <td>全高</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>ケーシング 上部胴板</td> <td>－</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>下部胴板</td> <td>－</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>鏡板</td> <td>－</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>底板</td> <td>－</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>炉材</td> <td>－</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>－</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> </table> <p>構造図・第3.2.3.3.2-3図に示す 注記1)：単位は (kg/cm²) 2)：単位は (kcal/h) 3)：内部雰囲気に触れる炉材に耐火度 35 以上の耐火物、JIS R 2541 3種の耐火物を使用する。</p> <p>添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除</p> <p>基本設計方針に展開</p>		名称	－	燃焼装置 (00-00)	〇〇	種類	－	自然式	〇〇	機器の種類	－	〇〇	〇〇	標準濃度	β γ Bq/cm ³ [normal]	〇〇	〇〇		α Bq/cm ³ [normal]	〇〇	〇〇		P μ g/m ³ [normal]	〇〇	〇〇	耐震クラス	－	〇〇	〇〇	流体の種類	－	〇〇	〇〇	廃ガス入口部	最高使用圧力 kPa	〇〇(〇〇) ¹⁾	〇〇		最高使用温度 °C	〇〇	〇〇	ケーシング	最高使用圧力 kPa	〇〇(〇〇) ¹⁾	〇〇		最高使用温度 °C	〇〇	〇〇	容量 (設計燃焼熱量)	kW	〇〇(〇〇) ²⁾	〇〇	主要寸法	ケーシング 上部胴外径	mm	〇〇	上部胴板厚さ	mm	〇〇	下部胴外径	mm	〇〇	下部胴板厚さ	mm	〇〇	鏡板厚さ	mm	〇〇	主要材料	全高	mm	〇〇	ケーシング 上部胴板	－	〇〇	下部胴板	－	〇〇	鏡板	－	〇〇	底板	－	〇〇	〇〇	炉材	－	〇〇	〇〇	個数	－	〇〇	〇〇	<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>燃焼装置 (00-00)</td> <td>変更前</td> <td>変更後</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>－</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">最高使用圧力</td> <td>廃ガス入口部</td> <td>kPa</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>ケーシング</td> <td>kPa</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">最高使用温度</td> <td>廃ガス入口部</td> <td>°C</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>ケーシング</td> <td>°C</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>容量 (設計燃焼熱量)</td> <td>kW</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">主要寸法</td> <td>ケーシング 上部胴外径</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1)}</td> </tr> <tr> <td>上部胴板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1)}</td> </tr> <tr> <td>下部胴外径</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1)}</td> </tr> <tr> <td>下部胴板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1)}</td> </tr> <tr> <td>鏡板厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1)*2)}</td> </tr> <tr> <td>鏡板長径</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1)*2)}</td> </tr> <tr> <td>鏡板短径</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1)*2)}</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主要材料</td> <td>ケーシング 上部胴板</td> <td>－</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>下部胴板</td> <td>－</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>鏡板</td> <td>－</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>底板</td> <td>－</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">取付箇所</td> <td>炉材</td> <td>－</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>－</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>－</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>－</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>－</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>化学薬品防護上の区画番号</td> <td>－</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>化学薬品防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>－</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> </table> <p>注記 *1：公称値を示す。 *2：既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p> <table border="1"> <tr> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> </table>		名称	燃焼装置 (00-00)	変更前	変更後	種類	－	〇〇	〇〇	最高使用圧力	廃ガス入口部	kPa	〇〇	ケーシング	kPa	〇〇	最高使用温度	廃ガス入口部	°C	〇〇	ケーシング	°C	〇〇	容量 (設計燃焼熱量)	kW	〇〇	〇〇	主要寸法	ケーシング 上部胴外径	mm	〇〇 ^{*1)}	上部胴板厚さ	mm	〇〇 ^{*1)}	下部胴外径	mm	〇〇 ^{*1)}	下部胴板厚さ	mm	〇〇 ^{*1)}	鏡板厚さ	mm	〇〇 ^{*1)*2)}	鏡板長径	mm	〇〇 ^{*1)*2)}	鏡板短径	mm	〇〇 ^{*1)*2)}	主要材料	ケーシング 上部胴板	－	〇〇	下部胴板	－	〇〇	鏡板	－	〇〇	底板	－	〇〇	取付箇所	炉材	－	〇〇	系統名 (ライン名)	－	〇〇	設置床	－	〇〇	溢水防護上の区画番号	－	〇〇	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－	〇〇	化学薬品防護上の区画番号	－	〇〇	〇〇	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	－	〇〇	〇〇	機種で統一して記載する仕様項目	構造分類に係る仕様項目	<table border="1"> <tr> <td>技術基準</td> <td>機能要求② 様式-6,7</td> <td>主な仕様 (詳細設計)</td> </tr> <tr> <td>第十二条 溢水防護</td> <td>発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ (以下「機能喪失高さ」という。) を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td> <td>取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ (機能喪失高さ) ・防護上の区画番号</td> </tr> <tr> <td>第十三条 化学薬品防護</td> <td>発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ (以下「機能喪失高さ」という。) を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水 (以下「没液」という。) により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td> <td>取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ (機能喪失高さ) ・防護上の区画番号</td> </tr> <tr> <td>第十七条 材料及び構造</td> <td>a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。 b. 常設重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。 c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。 a. 容器等は、最高使用圧力、最高使用温度及び機械的荷重が負荷されている状態 (以下「設計上定める条件」という。) において、全体的な変形を弾性域に抑える設計とする。 (3) 座屈による破壊の防止</td> <td>・主要材料 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料</td> </tr> <tr> <td>許可整合</td> <td></td> <td>・容量</td> </tr> </table> <p><発電炉の要目表なし></p>		技術基準	機能要求② 様式-6,7	主な仕様 (詳細設計)	第十二条 溢水防護	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ (以下「機能喪失高さ」という。) を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ (機能喪失高さ) ・防護上の区画番号	第十三条 化学薬品防護	発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ (以下「機能喪失高さ」という。) を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水 (以下「没液」という。) により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ (機能喪失高さ) ・防護上の区画番号	第十七条 材料及び構造	a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。 b. 常設重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。 c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。 a. 容器等は、最高使用圧力、最高使用温度及び機械的荷重が負荷されている状態 (以下「設計上定める条件」という。) において、全体的な変形を弾性域に抑える設計とする。 (3) 座屈による破壊の防止	・主要材料 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料	許可整合		・容量	
名称	－	燃焼装置 (00-00)	〇〇																																																																																																																																																																																																						
種類	－	自然式	〇〇																																																																																																																																																																																																						
機器の種類	－	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																																						
標準濃度	β γ Bq/cm ³ [normal]	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																																						
	α Bq/cm ³ [normal]	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																																						
	P μ g/m ³ [normal]	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																																						
耐震クラス	－	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																																						
流体の種類	－	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																																						
廃ガス入口部	最高使用圧力 kPa	〇〇(〇〇) ¹⁾	〇〇																																																																																																																																																																																																						
	最高使用温度 °C	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																																						
ケーシング	最高使用圧力 kPa	〇〇(〇〇) ¹⁾	〇〇																																																																																																																																																																																																						
	最高使用温度 °C	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																																						
容量 (設計燃焼熱量)	kW	〇〇(〇〇) ²⁾	〇〇																																																																																																																																																																																																						
主要寸法	ケーシング 上部胴外径	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																						
	上部胴板厚さ	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																						
	下部胴外径	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																						
	下部胴板厚さ	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																						
	鏡板厚さ	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																						
主要材料	全高	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																						
	ケーシング 上部胴板	－	〇〇																																																																																																																																																																																																						
	下部胴板	－	〇〇																																																																																																																																																																																																						
	鏡板	－	〇〇																																																																																																																																																																																																						
底板	－	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																																						
炉材	－	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																																						
個数	－	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																																						
名称	燃焼装置 (00-00)	変更前	変更後																																																																																																																																																																																																						
種類	－	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																																						
最高使用圧力	廃ガス入口部	kPa	〇〇																																																																																																																																																																																																						
	ケーシング	kPa	〇〇																																																																																																																																																																																																						
最高使用温度	廃ガス入口部	°C	〇〇																																																																																																																																																																																																						
	ケーシング	°C	〇〇																																																																																																																																																																																																						
容量 (設計燃焼熱量)	kW	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																																						
主要寸法	ケーシング 上部胴外径	mm	〇〇 ^{*1)}																																																																																																																																																																																																						
	上部胴板厚さ	mm	〇〇 ^{*1)}																																																																																																																																																																																																						
	下部胴外径	mm	〇〇 ^{*1)}																																																																																																																																																																																																						
	下部胴板厚さ	mm	〇〇 ^{*1)}																																																																																																																																																																																																						
	鏡板厚さ	mm	〇〇 ^{*1)*2)}																																																																																																																																																																																																						
	鏡板長径	mm	〇〇 ^{*1)*2)}																																																																																																																																																																																																						
	鏡板短径	mm	〇〇 ^{*1)*2)}																																																																																																																																																																																																						
主要材料	ケーシング 上部胴板	－	〇〇																																																																																																																																																																																																						
	下部胴板	－	〇〇																																																																																																																																																																																																						
	鏡板	－	〇〇																																																																																																																																																																																																						
	底板	－	〇〇																																																																																																																																																																																																						
取付箇所	炉材	－	〇〇																																																																																																																																																																																																						
	系統名 (ライン名)	－	〇〇																																																																																																																																																																																																						
	設置床	－	〇〇																																																																																																																																																																																																						
	溢水防護上の区画番号	－	〇〇																																																																																																																																																																																																						
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－	〇〇																																																																																																																																																																																																						
化学薬品防護上の区画番号	－	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																																						
化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	－	〇〇	〇〇																																																																																																																																																																																																						
機種で統一して記載する仕様項目																																																																																																																																																																																																									
構造分類に係る仕様項目																																																																																																																																																																																																									
技術基準	機能要求② 様式-6,7	主な仕様 (詳細設計)																																																																																																																																																																																																							
第十二条 溢水防護	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ (以下「機能喪失高さ」という。) を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ (機能喪失高さ) ・防護上の区画番号																																																																																																																																																																																																							
第十三条 化学薬品防護	発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ (以下「機能喪失高さ」という。) を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水 (以下「没液」という。) により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ (機能喪失高さ) ・防護上の区画番号																																																																																																																																																																																																							
第十七条 材料及び構造	a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。 b. 常設重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。 c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。 a. 容器等は、最高使用圧力、最高使用温度及び機械的荷重が負荷されている状態 (以下「設計上定める条件」という。) において、全体的な変形を弾性域に抑える設計とする。 (3) 座屈による破壊の防止	・主要材料 ・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料																																																																																																																																																																																																							
許可整合		・容量																																																																																																																																																																																																							

仕様表記載例 14b 【機種：機械装置(焼結装置・乾燥装置)】

[常設] [構造分類：－] [付属構造：臨界管理，搬送設備]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																										
<p>MOX 施設の既認可に仕様表なし</p> <div data-bbox="112 619 667 808" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>●仕様表記載例 23a-1【機種：建物・構築物(建屋・洞道)】の既認可仕様表の特記事項「④ 臨界安全上必要がある場合には、中性子相互干渉を考慮する貯蔵施設等の周囲に〇cm 以上のコンクリートを配置し、核的に隔離する設計とする。」から展開。</p> </div>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">名 称</th> <th>焼結炉 (PA000)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種 類</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">臨界管理</td> <td>核的制限値 *² 取扱 P u * 質量</td> <td>kg・Pu* 〇〇</td> </tr> <tr> <td>他の単一ユニットとの相互間</td> <td>mm 〇〇以上</td> </tr> <tr> <td>設置する室の壁・天井までの距離</td> <td>mm 〇〇以上</td> </tr> <tr> <td>設置床からの核燃料物質の取扱高さ</td> <td>mm 〇〇以上</td> </tr> <tr> <td>設置室の周囲の壁等厚さ</td> <td>mm 〇〇以上</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>コンベア</td> <td>kg 〇〇以上</td> </tr> <tr> <td>漏れ率</td> <td>vol%/h</td> <td>〇〇以下</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要寸法</td> <td>たて</td> <td>mm 〇〇*¹</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm 〇〇*¹</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm 〇〇*¹</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">取付箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記：*¹ 公称値を示す。 *² 本機器に単一ユニット (〇〇ユニット) を設定する。 *³ 本機器は、過加熱防止回路によるインターロック(検出器：〇〇〇温度検出器)の信号により炉内温度が熱的制限値〇℃を超える場合には、ヒータ電源を遮断する。</p> <div data-bbox="845 1045 1231 1180" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #e0e0e0; width: 20px;"></td> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #d3d3d3; width: 20px;"></td> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f5f5dc; width: 20px;"></td> <td>臨界管理に係る追加仕様項目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #fff2cc; width: 20px;"></td> <td>搬送設備に係る追加仕様項目</td> </tr> </table> </div> <div data-bbox="742 1218 1350 1312" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>計測装置の仕様表に示すインターロックの仕様と機器の関係を示すため、注記に記載する。</p> </div>	名 称		焼結炉 (PA000)	種 類	—	〇〇	臨界管理	核的制限値 * ² 取扱 P u * 質量	kg・Pu* 〇〇	他の単一ユニットとの相互間	mm 〇〇以上	設置する室の壁・天井までの距離	mm 〇〇以上	設置床からの核燃料物質の取扱高さ	mm 〇〇以上	設置室の周囲の壁等厚さ	mm 〇〇以上	容量	コンベア	kg 〇〇以上	漏れ率	vol%/h	〇〇以下	主要寸法	たて	mm 〇〇* ¹	横	mm 〇〇* ¹	高さ	mm 〇〇* ¹	主要材料	—	〇〇	個数	—	〇〇	取付箇所	系統名 (ライン名)	—	設置床	—	溢水防護上の区画番号	—		溢水防護上の配慮が必要な高さ	—		機種で統一して記載する仕様項目		構造分類に係る仕様項目		臨界管理に係る追加仕様項目		搬送設備に係る追加仕様項目	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">技術基準</th> <th>機能要求②</th> <th rowspan="2">主な仕様 (詳細設計)</th> </tr> <tr> <th>様式-6,7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">第四条 核燃料物質の臨界防止</td> <td>(1) 単一ユニットの臨界安全設計 質量管理を行うグローブボックス、焼結炉等に単一ユニットを設定する。</td> <td>臨界管理 ・核的制限値 (Pu*質量)</td> </tr> <tr> <td>(2) 複数ユニットの臨界安全設計 単一ユニット相互間は、十分な厚さのコンクリート等の設置又は単一ユニット相互間の距離を確保する。</td> <td>臨界管理 ・単一ユニットのグローブボックス間距離※該当する場合には記載する。 ・貯蔵設備の貯蔵棚間距離※該当する場合には記載する。 ・単一ユニット相互間距離 ・設置室の周囲の壁等厚さ ・壁等までの距離</td> </tr> <tr> <td>(d) 核燃料物質を収納する設備・機器の設置に当たっては、通常時に作用している荷重に対して発生する変形が過大とならないように構造強度を持つ構造材を用いて固定する。なお、固定することが困難な設備・機器の場合は、設備・機器の周囲にユニット相互間の間隔を維持するための剛構造物を取り付ける又は設計上、移動範囲を制限する。</td> <td>主要材料</td> </tr> <tr> <td>第十二条 溢水防護</td> <td>発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td> <td>取付箇所 (区画番号、配慮が必要な高さ)</td> </tr> <tr> <td>第十六条 搬送装置</td> <td>核燃料物質を搬送する設備 (人の安全に著しい支障を及ぼすおそれがないものを除く。以下、「搬送設備」という。)は、搬送物の重量を上回る容量を有する設計とする。</td> <td>・容量</td> </tr> <tr> <td>第二十二 条 遮蔽</td> <td>放射線業務従事者の立入頻度及び立入時間を考慮し、遮蔽設計の基準となる線量率を設定するとともに、管理区域を線量率に応じて適切に区分し、区分ごとの基準線量率を満足するよう遮蔽設備を設置する設計とする。 遮蔽設備に開口部又は貫通部がある場合で、開口部又は貫通部により遮蔽設計の基準となる線量率を超えるおそれのある場合には、以下に示すような放射線の漏えいを防止するための措置を講じ、遮蔽設計の基準となる線量率を満足する設計とする。 a. 建屋壁遮蔽に開口部を設ける場合、人が容易に接近できないような場所 (通路の行き止まり部、高所等)へ設置する。 b. 遮蔽設備を貫通する搬送路、ダクト、配管については、開口部及び貫通部が線源を直接見通さないような場所に設置する。 c. 遮蔽設備の開口部及び貫通部には、遮蔽扉、遮蔽蓋又は補助遮蔽を設置する措置を講ずる。</td> <td>遮蔽体 ・主要材料 ・厚さ ※遮蔽体を有する場合は記載する。</td> </tr> </tbody> </table>	技術基準	機能要求②	主な仕様 (詳細設計)	様式-6,7	第四条 核燃料物質の臨界防止	(1) 単一ユニットの臨界安全設計 質量管理を行うグローブボックス、焼結炉等に単一ユニットを設定する。	臨界管理 ・核的制限値 (Pu*質量)	(2) 複数ユニットの臨界安全設計 単一ユニット相互間は、十分な厚さのコンクリート等の設置又は単一ユニット相互間の距離を確保する。	臨界管理 ・単一ユニットのグローブボックス間距離※該当する場合には記載する。 ・貯蔵設備の貯蔵棚間距離※該当する場合には記載する。 ・単一ユニット相互間距離 ・設置室の周囲の壁等厚さ ・壁等までの距離	(d) 核燃料物質を収納する設備・機器の設置に当たっては、通常時に作用している荷重に対して発生する変形が過大とならないように構造強度を持つ構造材を用いて固定する。なお、固定することが困難な設備・機器の場合は、設備・機器の周囲にユニット相互間の間隔を維持するための剛構造物を取り付ける又は設計上、移動範囲を制限する。	主要材料	第十二条 溢水防護	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 (区画番号、配慮が必要な高さ)	第十六条 搬送装置	核燃料物質を搬送する設備 (人の安全に著しい支障を及ぼすおそれがないものを除く。以下、「搬送設備」という。)は、搬送物の重量を上回る容量を有する設計とする。	・容量	第二十二 条 遮蔽	放射線業務従事者の立入頻度及び立入時間を考慮し、遮蔽設計の基準となる線量率を設定するとともに、管理区域を線量率に応じて適切に区分し、区分ごとの基準線量率を満足するよう遮蔽設備を設置する設計とする。 遮蔽設備に開口部又は貫通部がある場合で、開口部又は貫通部により遮蔽設計の基準となる線量率を超えるおそれのある場合には、以下に示すような放射線の漏えいを防止するための措置を講じ、遮蔽設計の基準となる線量率を満足する設計とする。 a. 建屋壁遮蔽に開口部を設ける場合、人が容易に接近できないような場所 (通路の行き止まり部、高所等)へ設置する。 b. 遮蔽設備を貫通する搬送路、ダクト、配管については、開口部及び貫通部が線源を直接見通さないような場所に設置する。 c. 遮蔽設備の開口部及び貫通部には、遮蔽扉、遮蔽蓋又は補助遮蔽を設置する措置を講ずる。	遮蔽体 ・主要材料 ・厚さ ※遮蔽体を有する場合は記載する。	<p><発電炉の要目表なし></p>	
名 称		焼結炉 (PA000)																																																																												
種 類	—	〇〇																																																																												
臨界管理	核的制限値 * ² 取扱 P u * 質量	kg・Pu* 〇〇																																																																												
	他の単一ユニットとの相互間	mm 〇〇以上																																																																												
	設置する室の壁・天井までの距離	mm 〇〇以上																																																																												
	設置床からの核燃料物質の取扱高さ	mm 〇〇以上																																																																												
	設置室の周囲の壁等厚さ	mm 〇〇以上																																																																												
容量	コンベア	kg 〇〇以上																																																																												
漏れ率	vol%/h	〇〇以下																																																																												
主要寸法	たて	mm 〇〇* ¹																																																																												
	横	mm 〇〇* ¹																																																																												
	高さ	mm 〇〇* ¹																																																																												
主要材料	—	〇〇																																																																												
個数	—	〇〇																																																																												
取付箇所	系統名 (ライン名)	—																																																																												
	設置床	—																																																																												
	溢水防護上の区画番号	—																																																																												
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—																																																																												
	機種で統一して記載する仕様項目																																																																													
	構造分類に係る仕様項目																																																																													
	臨界管理に係る追加仕様項目																																																																													
	搬送設備に係る追加仕様項目																																																																													
技術基準	機能要求②	主な仕様 (詳細設計)																																																																												
	様式-6,7																																																																													
第四条 核燃料物質の臨界防止	(1) 単一ユニットの臨界安全設計 質量管理を行うグローブボックス、焼結炉等に単一ユニットを設定する。	臨界管理 ・核的制限値 (Pu*質量)																																																																												
	(2) 複数ユニットの臨界安全設計 単一ユニット相互間は、十分な厚さのコンクリート等の設置又は単一ユニット相互間の距離を確保する。	臨界管理 ・単一ユニットのグローブボックス間距離※該当する場合には記載する。 ・貯蔵設備の貯蔵棚間距離※該当する場合には記載する。 ・単一ユニット相互間距離 ・設置室の周囲の壁等厚さ ・壁等までの距離																																																																												
	(d) 核燃料物質を収納する設備・機器の設置に当たっては、通常時に作用している荷重に対して発生する変形が過大とならないように構造強度を持つ構造材を用いて固定する。なお、固定することが困難な設備・機器の場合は、設備・機器の周囲にユニット相互間の間隔を維持するための剛構造物を取り付ける又は設計上、移動範囲を制限する。	主要材料																																																																												
	第十二条 溢水防護	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 (区画番号、配慮が必要な高さ)																																																																											
第十六条 搬送装置	核燃料物質を搬送する設備 (人の安全に著しい支障を及ぼすおそれがないものを除く。以下、「搬送設備」という。)は、搬送物の重量を上回る容量を有する設計とする。	・容量																																																																												
第二十二 条 遮蔽	放射線業務従事者の立入頻度及び立入時間を考慮し、遮蔽設計の基準となる線量率を設定するとともに、管理区域を線量率に応じて適切に区分し、区分ごとの基準線量率を満足するよう遮蔽設備を設置する設計とする。 遮蔽設備に開口部又は貫通部がある場合で、開口部又は貫通部により遮蔽設計の基準となる線量率を超えるおそれのある場合には、以下に示すような放射線の漏えいを防止するための措置を講じ、遮蔽設計の基準となる線量率を満足する設計とする。 a. 建屋壁遮蔽に開口部を設ける場合、人が容易に接近できないような場所 (通路の行き止まり部、高所等)へ設置する。 b. 遮蔽設備を貫通する搬送路、ダクト、配管については、開口部及び貫通部が線源を直接見通さないような場所に設置する。 c. 遮蔽設備の開口部及び貫通部には、遮蔽扉、遮蔽蓋又は補助遮蔽を設置する措置を講ずる。	遮蔽体 ・主要材料 ・厚さ ※遮蔽体を有する場合は記載する。																																																																												

仕様表記載例（機種：機械装置(機械・検査装置)）
 [常設] [構造分類：粉末処理・加工機械装置] [付属構造：搬送設備]

既認可の仕様表		仕様表案		要求事項の整理		発電炉類似設備要目表		備考		
第2-1表 機器仕様		● ○○○設備 (●) 機械装置		機能要求② 様式-6,7		主な仕様 (詳細設計)				
対応する加工事業許可	許可番号(日付) 平成17・04・20原第18号(平成22年5月13日)	名称*2		変更前	変更後	第四條 核燃料物質の臨界防止		＜発電炉の要目表なし＞		
	主要な設備及び機器の種類	種類*3		○○○装置 (PA○○○)		(b) 燃料棒、貯蔵マガジン及び組立マガジンを取り扱う工程では、形状寸法管理を基本とし、単一ユニットは設備・機器に設定する。		臨界管理 ・核的制限値(寸法,段数,中性子吸収材寸法,中性子吸収材料(密度を含む)) ※臨界管理を行う機械装置に記載する。		
	許可との対応	容量		○○○方式		(c) 混合酸化物貯蔵容器及び燃料集合体を取り扱う工程では、体数管理とし、単一ユニットは設備・機器に設定する。		臨界管理 ・核的制限値(体数) ※臨界管理を行う機械装置に記載する。		
設備・機器名称	○○○設備 予備混合装置(PA○○○)	主要寸法*5		○○○方式		a. 複数ユニットの設定 単一ユニット相互間は、十分な厚さのコンクリート等の設置又は単一ユニット相互間の距離を確保することにより、核的に安全な配置とする。		臨界管理 ・単一ユニットのグローブボックス間距離 ・貯蔵設備の貯蔵棚間距離 ・単一ユニット相互間距離 ・設置室周囲の壁厚さ ・壁・天井までの距離 ※臨界管理を行う機械装置に記載する。		
設置場所	○○○建屋地下○階 ○○○室	主要材料*8		①本体：○○○ ②架台：○○○		(d) 核燃料物質を収納する設備・機器の設置に当たっては、通常時に作用している荷重に対して発生する変形が過大とならないように構造強度を持つ構造材を用いて固定する。なお、固定することが困難な設備・機器の場合は、設備・機器の周囲にユニット相互間の間隔を維持するための剛構造物を取り付ける又は設計上、移動範囲を制限する。		主要材料		
変更内容	新設	個数*9		たて*6	○○*1	(a) 混合酸化物貯蔵容器及び燃料集合体は、工程内の取扱いにおいて核燃料物質に変化がない。このため、混合酸化物貯蔵容器及び燃料集合体を体数で管理する単一ユニットにおいては、構成する設備・機器が構造的に核的制限値以下の体数でなければ取り扱えない設計とする。		②核的制限値(体数) ※臨界管理を行う機械装置に記載する。		
数量	○台	取付		横*7	○○*1	(b) 燃料棒を取り扱う工程において形状寸法管理を行う単一ユニットは、単一ユニットの入口に核的制限値以内に制限するためのゲートを設置するとともに、燃料棒を平板厚さに対する核的制限値以内で取り扱うように設計する。		臨界管理 ・核的制限値(寸法) ※臨界管理を行う機械装置に記載する。		
一般仕様	形式	系統名(ライン名)		高さ	○○*1	(c) 貯蔵マガジン及び組立マガジンを取り扱う工程において形状寸法管理を行う単一ユニットは、貯蔵マガジン及び組立マガジンを積み重ねて取り扱うことのない機構とする。		臨界管理 ・核的制限値(段数) ※臨界管理を行う機械装置に記載する。		
	主要な構成材	設置床		○○○室 T.M.S.L.○○m ^{*12}		第十二條 溢水防護		取付箇所(区画番号,配慮が必要な高さ)		
	寸法(単位:mm)	筒所*10		溢水防護上の区画番号		発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。		また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。		
	その他の構成機器	筒所*10		溢水防護上の配慮が必要な高さ		第十六條 搬送		容量		
その他の性能	注記		*1:公称値を示す。 *2:記載の適正化。既設工認では「設備・機器名称」と記載。 *3:記載の適正化。既設工認では「形式」と記載。 *4:記載の適正化。既設工認では「搬送設備」と記載。 *5:記載の適正化。既設工認では「寸法(単位:mm)」と記載。 *6:記載の適正化。既設工認では「奥行」と記載。 *7:記載の適正化。既設工認では「幅」と記載。 *8:記載の適正化。既設工認では「主要な構成材」と記載。 *9:記載の適正化。既設工認では「数量」と記載。 *10:記載の適正化。既設工認では「設置場所」と記載。 *12:記載内容は、平成○年○月○日付け平成○○原第○号にて認可を受けた設工認申請書の本文添付図「第1-1図被覆施設の機器配置図(1/2)」による。		*1:公称値を示す。 *2:記載の適正化。既設工認では「設備・機器名称」と記載。 *3:記載の適正化。既設工認では「形式」と記載。 *4:記載の適正化。既設工認では「搬送設備」と記載。 *5:記載の適正化。既設工認では「寸法(単位:mm)」と記載。 *6:記載の適正化。既設工認では「奥行」と記載。 *7:記載の適正化。既設工認では「幅」と記載。 *8:記載の適正化。既設工認では「主要な構成材」と記載。 *9:記載の適正化。既設工認では「数量」と記載。 *10:記載の適正化。既設工認では「設置場所」と記載。 *12:記載内容は、平成○年○月○日付け平成○○原第○号にて認可を受けた設工認申請書の本文添付図「第1-1図被覆施設の機器配置図(1/2)」による。		第二十二條 遮蔽		遮蔽体 ・主要材料 ・厚さ ※遮蔽体を設置する機械装置に記載する。	
核燃料物質の状態	粉末	技術基準に対する仕様		機種で統一して記載する仕様項目 構造分類に係る仕様項目 搬送設備に係る追加仕様項目		第二十條 溢水防護		発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。		
核燃料物質の臨界防止	—	注記		機種で統一して記載する仕様項目 構造分類に係る仕様項目 搬送設備に係る追加仕様項目		第十六條 搬送		核燃料物質を搬送する設備(人の安全に著しい支障を及ぼすおそれがないものを除く。以下、「搬送設備」という。)は、搬送物の重量を上回る容量を有する設計とする。		
火災等による損傷の防止	—	注記		機種で統一して記載する仕様項目 構造分類に係る仕様項目 搬送設備に係る追加仕様項目		第二十二條 遮蔽		放射線業務従事者の立入頻度及び立入時間を考慮し、遮蔽設計の基準となる線量率を設定するとともに、管理区域を線量率に応じて適切に区分し、区分ごとの基準線量率を満足するよう遮蔽設備を設置する設計とする。		
耐震性	○○○装置 ・耐震クラス:Bクラス	注記		機種で統一して記載する仕様項目 構造分類に係る仕様項目 搬送設備に係る追加仕様項目		第二十條 溢水防護		また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。		
材料及び構造	—	注記		機種で統一して記載する仕様項目 構造分類に係る仕様項目 搬送設備に係る追加仕様項目		第十六條 搬送		核燃料物質を搬送する設備(人の安全に著しい支障を及ぼすおそれがないものを除く。以下、「搬送設備」という。)は、搬送物の重量を上回る容量を有する設計とする。		
閉じ込めの機能	—	注記		機種で統一して記載する仕様項目 構造分類に係る仕様項目 搬送設備に係る追加仕様項目		第二十二條 遮蔽		遮蔽設備に開口部又は貫通部がある場合で、開口部又は貫通部により遮蔽設計の基準となる線量率を超えるおそれのある場合には、以下に示すような放射線の漏えいを防止するための措置を講じ、遮蔽設計の基準となる線量率を満足する設計とする。		
しゃへい	—	注記		機種で統一して記載する仕様項目 構造分類に係る仕様項目 搬送設備に係る追加仕様項目		第二十條 溢水防護		また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。		
換気	—	注記		機種で統一して記載する仕様項目 構造分類に係る仕様項目 搬送設備に係る追加仕様項目		第十六條 搬送		核燃料物質を搬送する設備(人の安全に著しい支障を及ぼすおそれがないものを除く。以下、「搬送設備」という。)は、搬送物の重量を上回る容量を有する設計とする。		
核燃料物質等による汚染の防止	—	注記		機種で統一して記載する仕様項目 構造分類に係る仕様項目 搬送設備に係る追加仕様項目		第二十二條 遮蔽		遮蔽設備に開口部又は貫通部がある場合で、開口部又は貫通部により遮蔽設計の基準となる線量率を超えるおそれのある場合には、以下に示すような放射線の漏えいを防止するための措置を講じ、遮蔽設計の基準となる線量率を満足する設計とする。		
安全上重要な施設	—	注記		機種で統一して記載する仕様項目 構造分類に係る仕様項目 搬送設備に係る追加仕様項目		第二十條 溢水防護		また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。		
搬送設備等	①搬送コンベア ・定格荷重:○○kg ②リフタ ・定格荷重:○○kg ・動力喪失時に容器の落下を防止するため昇降用モータは無励磁作動ブレーキ付とする。 ③チルタ ・定格荷重:○○kg ・動力喪失時に容器の落下を防止するため容器把持部を機械的にロックする機構を設置する。	注記		機種で統一して記載する仕様項目 構造分類に係る仕様項目 搬送設備に係る追加仕様項目		第十六條 搬送		核燃料物質を搬送する設備(人の安全に著しい支障を及ぼすおそれがないものを除く。以下、「搬送設備」という。)は、搬送物の重量を上回る容量を有する設計とする。		
	工程情報であり設計条件ではないため削除する。	注記		機種で統一して記載する仕様項目 構造分類に係る仕様項目 搬送設備に係る追加仕様項目		第二十二條 遮蔽		遮蔽設備に開口部又は貫通部がある場合で、開口部又は貫通部により遮蔽設計の基準となる線量率を超えるおそれのある場合には、以下に示すような放射線の漏えいを防止するための措置を講じ、遮蔽設計の基準となる線量率を満足する設計とする。		
	主要設備リストで展開。	注記		機種で統一して記載する仕様項目 構造分類に係る仕様項目 搬送設備に係る追加仕様項目		第二十條 溢水防護		また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。		
	搬送設備の基本方針/添付書類で展開	注記		機種で統一して記載する仕様項目 構造分類に係る仕様項目 搬送設備に係る追加仕様項目		第十六條 搬送		核燃料物質を搬送する設備(人の安全に著しい支障を及ぼすおそれがないものを除く。以下、「搬送設備」という。)は、搬送物の重量を上回る容量を有する設計とする。		

仕様表記載例 (機種：機械装置_コンベア・昇降機構付)

既認可の仕様表		仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考
警報設備等	①臨界ユニットの搬出入口に誤搬入防止機構(シャッタ)(PA○○○)を設置する。 ②添加剤投入口に誤投入防止機構(添加剤受入バルブ)(PA○○○)を設置する。	<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">構造図で展開</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">火災の基本方針/添付書類で展開</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;">添付書類で展開</div>			
廃棄施設	—				
放射線管理施設	—				
非常用電源設備	—				
その他事業許可で求める仕様 ^(注5)	①グローブボックス内で使用するポリエチレンは、ステンレス鋼製のカバーで覆い極力露出しない構造とする。 ②搬送コンベアに容器の逸走を防止するため、サイドローラを設置する。				
添付図	第1.-1図 成形施設の機器配置図 第2.1-3図 ○○○装置(PA○○○)構造図 第3.-3図 誤搬入防止機構動作回路図 第3.-4図 誤投入防止機構動作回路図				
特記事項	—				
注1 技術基準に対する仕様の補足説明					
<p>(1) 核燃料物質の臨界防止 本装置は、単一ユニットを設定している○○○装置グローブボックス内に設置する機器であるため、○○○ユニットとして管理する。具体的な仕様は、○○○装置グローブボックスの機器仕様を示す。</p> <p>(2) 耐震性 本装置は、耐震 B クラスとする。設備構造設計上の耐震設計結果は、添付書類Ⅲ「主要な加工施設の耐震性に関する説明書」に示す。</p> <p>(3) 搬送設備 搬送装置は、装置の定格荷重が実用負荷を上回る設計とする。 本装置で取り扱う容器のうち、核燃料物質を収納して重量が最大となるのは、J85(約○○kg)である。なお、装置保守のため取り扱う容器のうち、重量が最大となるのは、秤量器校正用容器(約○○kg)である。 J85は、貯蔵施設の粉末一時保管設備にて申請する。 搬送コンベアは、容器底部を保持し、水平方向に移動させる機器であり、電源喪失時に容器が落下することはない。 リフタは、容器底部を保持し、上下方向に移動させる機器であるため昇降用モータは無励磁作動ブレーキ付とし、電源喪失時に容器が落下しないようにする。 チルタは、容器頭部を把持し、反転する機器であるため、容器把持部を機械的にロックする機構を設置し、電源喪失時に容器が落下しないようにする。</p> <p>(4) 警報設備等 本装置には、誤搬入防止機構を設置し、単一ユニットの核燃料物質量(Pu*質量)が核的制限値以下であることを確認(誤搬入防止機構解除信号)しなければ、核燃料物質の搬入が行えないようにする。また、添加剤の誤投入防止機構を設置し、核燃料物質中の含水率が設定条件以下であることを確認(誤投入防止機構解除信号)しなければ、添加剤の投入が行えないようにする。</p> <p>注2 その他事業許可で求める仕様の補足説明 (1) 本グローブボックス内で使用するポリエチレンは可燃性のため、不燃性のステンレス鋼製のカバーで覆い露出しない構造として火災による損傷を防止する。 (2) 搬送コンベアに容器の逸走を防止するため、容器の両サイドを支持するサイドローラを設置し、グローブボックスの閉じ込めに影響を及ぼさないようにする。</p>					

仕様表記載例 14c-2【機種：機械装置(機械・検査装置)】

[常設] [構造分類：せん断機] [付属構造：臨界管理]

既認可の仕様表				仕様表案				要求事項の整理		発電炉類似設備要目表	備考																																																																																																																													
<p>主要設備リストで展開。</p> <table border="1"> <tr><td>名称</td><td>—</td><td>せん断機 (00-00)</td><td>—</td></tr> <tr><td>種類</td><td>—</td><td>〇〇</td><td>—</td></tr> <tr><td>設計条件</td><td>核的制限値</td><td>核燃料物質の最大質量</td><td>—</td></tr> <tr><td>耐震クラス</td><td>—</td><td>〇〇</td><td>—</td></tr> <tr><td>容量</td><td>—</td><td>〇〇</td><td>—</td></tr> <tr><td rowspan="6">仕様</td><td rowspan="6">主要寸法</td><td>本体長さ</td><td>mm</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>本体幅</td><td>mm</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>本体高さ</td><td>mm</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>全高</td><td>mm</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>せん断刃幅</td><td>mm</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>マガジン幅</td><td>mm</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td rowspan="3">材料</td><td rowspan="3">本体</td><td>せん断刃</td><td>—</td><td>〇〇¹⁾</td></tr> <tr><td>せん断刃</td><td>—</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>個数</td><td>—</td><td>〇〇</td></tr> </table> <p>構造図：第3.2.1.2-1図に示す。 注記 1)：〇〇相当 2)：せん断処理設備の計測制御系にせん断停止系を設ける。</p> <p>添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除</p> <p>基本設計方針に展開</p>				名称	—	せん断機 (00-00)	—	種類	—	〇〇	—	設計条件	核的制限値	核燃料物質の最大質量	—	耐震クラス	—	〇〇	—	容量	—	〇〇	—	仕様	主要寸法	本体長さ	mm	〇〇	本体幅	mm	〇〇	本体高さ	mm	〇〇	全高	mm	〇〇	せん断刃幅	mm	〇〇	マガジン幅	mm	〇〇	材料	本体	せん断刃	—	〇〇 ¹⁾	せん断刃	—	〇〇	個数	—	〇〇	<table border="1"> <tr><td>名称</td><td>—</td><td>せん断機 (00-00)</td><td>変更前</td><td>変更後</td></tr> <tr><td>種類</td><td>—</td><td>〇〇</td><td>—</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td rowspan="2">臨界管理</td><td rowspan="2">核的制限値</td><td rowspan="2">核燃料物質の最大質量</td><td>—</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>—</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td rowspan="6">主要寸法</td><td rowspan="6">容量</td><td>本体長さ</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td></tr> <tr><td>本体幅</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td></tr> <tr><td>本体高さ</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td></tr> <tr><td>全高</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td></tr> <tr><td>せん断刃幅</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td></tr> <tr><td>マガジン幅</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td></tr> <tr><td rowspan="3">主要材料</td><td rowspan="3">本体</td><td>せん断刃</td><td>—</td><td>〇〇^{*2}</td></tr> <tr><td>せん断刃</td><td>—</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>個数</td><td>—</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td rowspan="4">取付箇所</td><td>系統名 (ライン名)</td><td>—</td><td>〇〇</td><td>—</td></tr> <tr><td>設置床</td><td>—</td><td>〇〇</td><td>—</td></tr> <tr><td>溢水防護上の区画番号</td><td>—</td><td>—</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>—</td><td>—</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td rowspan="2">取付箇所</td><td>化学薬品防護上の区画番号</td><td>—</td><td>—</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>化学薬品防護上の配慮が必要な高さ</td><td>—</td><td>—</td><td>〇〇</td></tr> </table> <p>注記 *1：公称値を示す。 *2：〇〇相当</p>				名称	—	せん断機 (00-00)	変更前	変更後	種類	—	〇〇	—	〇〇	臨界管理	核的制限値	核燃料物質の最大質量	—	〇〇	—	〇〇	主要寸法	容量	本体長さ	mm	〇〇 ^{*1}	本体幅	mm	〇〇 ^{*1}	本体高さ	mm	〇〇 ^{*1}	全高	mm	〇〇 ^{*1}	せん断刃幅	mm	〇〇 ^{*1}	マガジン幅	mm	〇〇 ^{*1}	主要材料	本体	せん断刃	—	〇〇 ^{*2}	せん断刃	—	〇〇	個数	—	〇〇	取付箇所	系統名 (ライン名)	—	〇〇	—	設置床	—	〇〇	—	溢水防護上の区画番号	—	—	〇〇	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—	〇〇	取付箇所	化学薬品防護上の区画番号	—	—	〇〇	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	—	—	〇〇	<p>技術基準</p> <p>機能要求② 様式-6.7</p> <p>主な仕様 (詳細設計)</p> <p>第四条 核燃料物質の臨界防止 単一ユニットの臨界安全設計に当たり、これらの管理に対して適切な臨界管理を行う体系の未臨界確保のために設定する値 (以下「核的制限値」という。) を設定する。</p> <p>第十二条 溢水防護 発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ (以下「機能喪失高さ」という。) を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。</p> <p>第十三条 化学薬品防護 発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ (以下「機能喪失高さ」という。) を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水 (以下「没液」という。) により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。</p> <p>第十七条 材料及び構造 a. 安全機能を有する施設の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する設計とする。 b. 常設重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 c. 可搬型重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して日本産業規格等に適合した適切な材料を使用する設計とする。</p> <p>許可整合</p>		<p><発電炉の要目表なし></p>	
名称	—	せん断機 (00-00)	—																																																																																																																																					
種類	—	〇〇	—																																																																																																																																					
設計条件	核的制限値	核燃料物質の最大質量	—																																																																																																																																					
耐震クラス	—	〇〇	—																																																																																																																																					
容量	—	〇〇	—																																																																																																																																					
仕様	主要寸法	本体長さ	mm	〇〇																																																																																																																																				
		本体幅	mm	〇〇																																																																																																																																				
		本体高さ	mm	〇〇																																																																																																																																				
		全高	mm	〇〇																																																																																																																																				
		せん断刃幅	mm	〇〇																																																																																																																																				
		マガジン幅	mm	〇〇																																																																																																																																				
材料	本体	せん断刃	—	〇〇 ¹⁾																																																																																																																																				
		せん断刃	—	〇〇																																																																																																																																				
		個数	—	〇〇																																																																																																																																				
名称	—	せん断機 (00-00)	変更前	変更後																																																																																																																																				
種類	—	〇〇	—	〇〇																																																																																																																																				
臨界管理	核的制限値	核燃料物質の最大質量	—	〇〇																																																																																																																																				
			—	〇〇																																																																																																																																				
主要寸法	容量	本体長さ	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																				
		本体幅	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																				
		本体高さ	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																				
		全高	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																				
		せん断刃幅	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																				
		マガジン幅	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																				
主要材料	本体	せん断刃	—	〇〇 ^{*2}																																																																																																																																				
		せん断刃	—	〇〇																																																																																																																																				
		個数	—	〇〇																																																																																																																																				
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	〇〇	—																																																																																																																																				
	設置床	—	〇〇	—																																																																																																																																				
	溢水防護上の区画番号	—	—	〇〇																																																																																																																																				
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—	〇〇																																																																																																																																				
取付箇所	化学薬品防護上の区画番号	—	—	〇〇																																																																																																																																				
	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	—	—	〇〇																																																																																																																																				
<table border="1"> <tr><td>機種で統一して記載する仕様項目</td></tr> <tr><td>構造分類に係る仕様項目</td></tr> <tr><td>臨界管理に係る追加仕様項目</td></tr> </table>				機種で統一して記載する仕様項目	構造分類に係る仕様項目	臨界管理に係る追加仕様項目																																																																																																																																		
機種で統一して記載する仕様項目																																																																																																																																								
構造分類に係る仕様項目																																																																																																																																								
臨界管理に係る追加仕様項目																																																																																																																																								

仕様表記載例 14c-3 【機種：機械装置(機械・検査装置)】

[常設] [構造分類：検査装置] [付属構造：臨界管理、遮蔽設備]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																																										
<p>MOX 施設の既認可に仕様表なし</p>	<table border="1" data-bbox="736 304 1344 766"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th colspan="2">燃料集合体洗浄装置 (〇〇-〇-〇〇)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種別</td> <td>種別</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">臨界管理</td> <td>核的制限値*2</td> <td>燃料集合体取扱体数</td> <td>体 〇〇</td> </tr> <tr> <td>他の単一ユニットとの相互間隔</td> <td>mm</td> <td>〇〇以上</td> </tr> <tr> <td>設置する室の壁・天井までの距離</td> <td>mm</td> <td>〇〇以上</td> </tr> <tr> <td>設置室の周囲の壁厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇以上*3</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主要寸法</td> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>〇〇*1</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>〇〇*1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主要材料</td> <td>個数</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">遮蔽体</td> <td rowspan="3">主要寸法</td> <td>内側</td> <td>mm 〇〇*1</td> </tr> <tr> <td>中間</td> <td>mm 〇〇*1</td> </tr> <tr> <td>外側</td> <td>mm 〇〇*1</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">取付箇所</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="736 787 1344 913"> 注記：*1：公称値を示す。 *2：本装置に単一ユニット(〇〇ユニット)を設定する。 *3：記載内容は、平成22年10月22日付け平成22・05・21原第9号にて認可を受けた設工認申請書の「別添イ、燃料加工建屋(その1)及び貯蔵容器搬送用同道(4)設計条件及び仕様特記事項」において記載したコンクリート厚さによる。 </p> <table border="1" data-bbox="845 934 1231 1071"> <tr> <td style="background-color: #e0e0e0;"></td> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #d3d3d3;"></td> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #fff2cc;"></td> <td>臨界管理に係る追加仕様項目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #ffe0b2;"></td> <td>遮蔽設備に係る追加仕様項目</td> </tr> </table>	名称		燃料集合体洗浄装置 (〇〇-〇-〇〇)		種別	種別	—	〇〇	臨界管理	核的制限値*2	燃料集合体取扱体数	体 〇〇	他の単一ユニットとの相互間隔	mm	〇〇以上	設置する室の壁・天井までの距離	mm	〇〇以上	設置室の周囲の壁厚さ	mm	〇〇以上*3	主要寸法	たて	mm	〇〇*1	横	mm	〇〇*1	主要材料	個数	—	〇〇	個数	—	〇〇	遮蔽体	主要寸法	内側	mm 〇〇*1	中間	mm 〇〇*1	外側	mm 〇〇*1	取付箇所	系統名(ライン名)	—	〇〇	設置床	—	〇〇	溢水防護上の区画番号	—	—		溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—		機種で統一して記載する仕様項目		構造分類に係る仕様項目		臨界管理に係る追加仕様項目		遮蔽設備に係る追加仕様項目	<table border="1" data-bbox="1374 304 1982 1942"> <thead> <tr> <th>技術基準</th> <th>機能要求②</th> <th>主な仕様(詳細設計)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">第四条 核燃料物質の臨界防止</td> <td>(b) 燃料棒、貯蔵マガジン及び組立マガジンを取り扱う工程では、形状寸法管理を基本とし、単一ユニットは設備・機器に設定する。</td> <td>臨界管理 ・核的制限値(寸法、段数、中性子吸収材寸法、中性子吸収材料(密度を含む)) ※該当する場合に記載する</td> </tr> <tr> <td>(c) 混合酸化物貯蔵容器及び燃料集合体を取り扱う工程では、体数管理とし、単一ユニットは設備・機器に設定する。</td> <td>臨界管理 ・核的制限値(体数)</td> </tr> <tr> <td>a. 複数ユニットの設定 単一ユニット相互間は、十分な厚さのコンクリート等の設置又は単一ユニット相互間の距離を確保することにより、核的に安全な配置とする。</td> <td>臨界管理 ・単一ユニットのグループボックス間距離 ・貯蔵設備の貯蔵間距離 ※該当する場合に記載する</td> </tr> <tr> <td>(d) 核燃料物質を収納する設備・機器の設置に当たっては、通常時に作用している荷重に対して発生する変形が過大とならないように構造強度を持つ構造材を用いて固定する。なお、固定することが困難な設備・機器の場合は、設備・機器の周囲にユニット相互間の間隔を維持するための剛構造物を取り付ける又は設計上、移動範囲を制限する。</td> <td>主要材料</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">第十二条 溢水防護</td> <td>(a) 混合酸化物貯蔵容器及び燃料集合体は、工程内の取扱いにおいて核燃料物質量に変化がない。このため、混合酸化物貯蔵容器及び燃料集合体を体数で管理する単一ユニットにおいては、構成する設備・機器が構造的に核的制限値以下の体数でなければ取り扱えない設計とする。</td> <td>臨界管理 ・核的制限値(体数)</td> </tr> <tr> <td>(b) 燃料棒を取り扱う工程において形状寸法管理を行う単一ユニットは、単一ユニットの入口に核的制限値以内に制限するためのゲートを設置するとともに、燃料棒を平板厚さに対する核的制限値以内で取り扱うように設計する。</td> <td>臨界管理 ・核的制限値(寸法) ※該当する場合に記載する</td> </tr> <tr> <td>(c) 貯蔵マガジン及び組立マガジンを取り扱う工程において形状寸法管理を行う単一ユニットは、貯蔵マガジン及び組立マガジンを積み重ねて取り扱うことのない機構とする。</td> <td>臨界管理 ・核的制限値(段数) ※該当する場合に記載する</td> </tr> <tr> <td>第十六条 搬送</td> <td>核燃料物質を搬送する設備(人の安全に著しい支障を及ぼすおそれがないものを除く。以下、「搬送設備」という。)は、搬送物の重量を上回る容量を有する設計とする。</td> <td>容量 ※搬送設備を有する場合に記載する。</td> </tr> <tr> <td>第二十二條 遮蔽</td> <td>放射線業務従事者の立入頻度及び立入時間を考慮し、遮蔽設計の基準となる線量率を設定するとともに、管理区域を線量率に応じて適切に区分し、区分ごとの基準線量率を満足するよう遮蔽設備を設置する設計とする。 遮蔽設備に開口部又は貫通部がある場合で、開口部又は貫通部により遮蔽設計の基準となる線量率を超えるおそれのある場合には、以下に示すような放射線の漏えいを防止するための措置を講じ、遮蔽設計の基準となる線量率を満足する設計とする。 a. 建屋壁遮蔽に開口部を設ける場合、人が容易に接近できないような場所(通路の行き止まり部、高所等)へ設置する。 b. 遮蔽設備を貫通する搬送路、ダクト、配管については、開口部及び貫通部が線源を直接見通さないような場所に設置する。 c. 遮蔽設備の開口部及び貫通部には、遮蔽扉、遮蔽蓋又は補助遮蔽を設置する措置を講ずる。</td> <td>遮蔽体 ・主要材料 ・厚さ</td> </tr> </tbody> </table>	技術基準	機能要求②	主な仕様(詳細設計)	第四条 核燃料物質の臨界防止	(b) 燃料棒、貯蔵マガジン及び組立マガジンを取り扱う工程では、形状寸法管理を基本とし、単一ユニットは設備・機器に設定する。	臨界管理 ・核的制限値(寸法、段数、中性子吸収材寸法、中性子吸収材料(密度を含む)) ※該当する場合に記載する	(c) 混合酸化物貯蔵容器及び燃料集合体を取り扱う工程では、体数管理とし、単一ユニットは設備・機器に設定する。	臨界管理 ・核的制限値(体数)	a. 複数ユニットの設定 単一ユニット相互間は、十分な厚さのコンクリート等の設置又は単一ユニット相互間の距離を確保することにより、核的に安全な配置とする。	臨界管理 ・単一ユニットのグループボックス間距離 ・貯蔵設備の貯蔵間距離 ※該当する場合に記載する	(d) 核燃料物質を収納する設備・機器の設置に当たっては、通常時に作用している荷重に対して発生する変形が過大とならないように構造強度を持つ構造材を用いて固定する。なお、固定することが困難な設備・機器の場合は、設備・機器の周囲にユニット相互間の間隔を維持するための剛構造物を取り付ける又は設計上、移動範囲を制限する。	主要材料	第十二条 溢水防護	(a) 混合酸化物貯蔵容器及び燃料集合体は、工程内の取扱いにおいて核燃料物質量に変化がない。このため、混合酸化物貯蔵容器及び燃料集合体を体数で管理する単一ユニットにおいては、構成する設備・機器が構造的に核的制限値以下の体数でなければ取り扱えない設計とする。	臨界管理 ・核的制限値(体数)	(b) 燃料棒を取り扱う工程において形状寸法管理を行う単一ユニットは、単一ユニットの入口に核的制限値以内に制限するためのゲートを設置するとともに、燃料棒を平板厚さに対する核的制限値以内で取り扱うように設計する。	臨界管理 ・核的制限値(寸法) ※該当する場合に記載する	(c) 貯蔵マガジン及び組立マガジンを取り扱う工程において形状寸法管理を行う単一ユニットは、貯蔵マガジン及び組立マガジンを積み重ねて取り扱うことのない機構とする。	臨界管理 ・核的制限値(段数) ※該当する場合に記載する	第十六条 搬送	核燃料物質を搬送する設備(人の安全に著しい支障を及ぼすおそれがないものを除く。以下、「搬送設備」という。)は、搬送物の重量を上回る容量を有する設計とする。	容量 ※搬送設備を有する場合に記載する。	第二十二條 遮蔽	放射線業務従事者の立入頻度及び立入時間を考慮し、遮蔽設計の基準となる線量率を設定するとともに、管理区域を線量率に応じて適切に区分し、区分ごとの基準線量率を満足するよう遮蔽設備を設置する設計とする。 遮蔽設備に開口部又は貫通部がある場合で、開口部又は貫通部により遮蔽設計の基準となる線量率を超えるおそれのある場合には、以下に示すような放射線の漏えいを防止するための措置を講じ、遮蔽設計の基準となる線量率を満足する設計とする。 a. 建屋壁遮蔽に開口部を設ける場合、人が容易に接近できないような場所(通路の行き止まり部、高所等)へ設置する。 b. 遮蔽設備を貫通する搬送路、ダクト、配管については、開口部及び貫通部が線源を直接見通さないような場所に設置する。 c. 遮蔽設備の開口部及び貫通部には、遮蔽扉、遮蔽蓋又は補助遮蔽を設置する措置を講ずる。	遮蔽体 ・主要材料 ・厚さ	<p data-bbox="2012 283 2211 304"><発電炉の要目表なし></p>	<p>備考</p>
名称		燃料集合体洗浄装置 (〇〇-〇-〇〇)																																																																																												
種別	種別	—	〇〇																																																																																											
臨界管理	核的制限値*2	燃料集合体取扱体数	体 〇〇																																																																																											
	他の単一ユニットとの相互間隔	mm	〇〇以上																																																																																											
	設置する室の壁・天井までの距離	mm	〇〇以上																																																																																											
	設置室の周囲の壁厚さ	mm	〇〇以上*3																																																																																											
主要寸法	たて	mm	〇〇*1																																																																																											
	横	mm	〇〇*1																																																																																											
主要材料	個数	—	〇〇																																																																																											
	個数	—	〇〇																																																																																											
遮蔽体	主要寸法	内側	mm 〇〇*1																																																																																											
		中間	mm 〇〇*1																																																																																											
		外側	mm 〇〇*1																																																																																											
取付箇所	系統名(ライン名)	—	〇〇																																																																																											
	設置床	—	〇〇																																																																																											
	溢水防護上の区画番号	—	—																																																																																											
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—																																																																																											
	機種で統一して記載する仕様項目																																																																																													
	構造分類に係る仕様項目																																																																																													
	臨界管理に係る追加仕様項目																																																																																													
	遮蔽設備に係る追加仕様項目																																																																																													
技術基準	機能要求②	主な仕様(詳細設計)																																																																																												
第四条 核燃料物質の臨界防止	(b) 燃料棒、貯蔵マガジン及び組立マガジンを取り扱う工程では、形状寸法管理を基本とし、単一ユニットは設備・機器に設定する。	臨界管理 ・核的制限値(寸法、段数、中性子吸収材寸法、中性子吸収材料(密度を含む)) ※該当する場合に記載する																																																																																												
	(c) 混合酸化物貯蔵容器及び燃料集合体を取り扱う工程では、体数管理とし、単一ユニットは設備・機器に設定する。	臨界管理 ・核的制限値(体数)																																																																																												
	a. 複数ユニットの設定 単一ユニット相互間は、十分な厚さのコンクリート等の設置又は単一ユニット相互間の距離を確保することにより、核的に安全な配置とする。	臨界管理 ・単一ユニットのグループボックス間距離 ・貯蔵設備の貯蔵間距離 ※該当する場合に記載する																																																																																												
	(d) 核燃料物質を収納する設備・機器の設置に当たっては、通常時に作用している荷重に対して発生する変形が過大とならないように構造強度を持つ構造材を用いて固定する。なお、固定することが困難な設備・機器の場合は、設備・機器の周囲にユニット相互間の間隔を維持するための剛構造物を取り付ける又は設計上、移動範囲を制限する。	主要材料																																																																																												
第十二条 溢水防護	(a) 混合酸化物貯蔵容器及び燃料集合体は、工程内の取扱いにおいて核燃料物質量に変化がない。このため、混合酸化物貯蔵容器及び燃料集合体を体数で管理する単一ユニットにおいては、構成する設備・機器が構造的に核的制限値以下の体数でなければ取り扱えない設計とする。	臨界管理 ・核的制限値(体数)																																																																																												
	(b) 燃料棒を取り扱う工程において形状寸法管理を行う単一ユニットは、単一ユニットの入口に核的制限値以内に制限するためのゲートを設置するとともに、燃料棒を平板厚さに対する核的制限値以内で取り扱うように設計する。	臨界管理 ・核的制限値(寸法) ※該当する場合に記載する																																																																																												
	(c) 貯蔵マガジン及び組立マガジンを取り扱う工程において形状寸法管理を行う単一ユニットは、貯蔵マガジン及び組立マガジンを積み重ねて取り扱うことのない機構とする。	臨界管理 ・核的制限値(段数) ※該当する場合に記載する																																																																																												
第十六条 搬送	核燃料物質を搬送する設備(人の安全に著しい支障を及ぼすおそれがないものを除く。以下、「搬送設備」という。)は、搬送物の重量を上回る容量を有する設計とする。	容量 ※搬送設備を有する場合に記載する。																																																																																												
第二十二條 遮蔽	放射線業務従事者の立入頻度及び立入時間を考慮し、遮蔽設計の基準となる線量率を設定するとともに、管理区域を線量率に応じて適切に区分し、区分ごとの基準線量率を満足するよう遮蔽設備を設置する設計とする。 遮蔽設備に開口部又は貫通部がある場合で、開口部又は貫通部により遮蔽設計の基準となる線量率を超えるおそれのある場合には、以下に示すような放射線の漏えいを防止するための措置を講じ、遮蔽設計の基準となる線量率を満足する設計とする。 a. 建屋壁遮蔽に開口部を設ける場合、人が容易に接近できないような場所(通路の行き止まり部、高所等)へ設置する。 b. 遮蔽設備を貫通する搬送路、ダクト、配管については、開口部及び貫通部が線源を直接見通さないような場所に設置する。 c. 遮蔽設備の開口部及び貫通部には、遮蔽扉、遮蔽蓋又は補助遮蔽を設置する措置を講ずる。	遮蔽体 ・主要材料 ・厚さ																																																																																												

●仕様表記載例 23a-1【機種：建物・構築物(建屋・洞道)】の既認可仕様表の特記事項「④ 臨界安全上必要がある場合には、中性子相互干渉を考慮する貯蔵施設等の周囲に〇cm以上のコンクリートを配置し、核的に隔離する設計とする。」から展開。

仕様表記載例 15-1【機種：核物質等取扱ボックス】

[常設] [構造分類：グローブボックス] [付属構造：臨界管理、遮蔽設備、漏えい液受皿]

既認可の仕様表		仕様表案				要求事項の整理			発電炉類似設備要目表	備考																																																																																						
<p>第5.-2表 機器仕様</p> <p>対応する加工事業許可</p> <p>許可番号(日付) 平成17・04・20原第18号(平成22年5月13日)</p> <p>主要な設備及び機器の種類 成形施設 粉末調整工程 ○○○処理設備 ○○○グローブボックス</p> <p>許可との対応 本体</p> <p>設備・機器名称 ○○○設備 ○○○グローブボックス(PA0127-B-03700)</p> <p>設置場所 ○○○建屋地下0階 ○○○○室</p> <p>変更内容 新設</p> <p>数量 ○基</p> <p>一般仕様</p> <p>形式 -</p> <p>主要な構成材 ①本体：○○○ ②窓板：○○○</p> <p>寸法(単位：mm) 本体寸法 ・幅：○○ ・奥行：○○ ・高さ：○○</p> <p>その他の構成機器 - (注1)</p> <p>その他の性能 -</p> <p>核燃料物質の状態 粉末</p> <p>核燃料物質の臨界防止 ①単一ユニット又は複数ユニットの区分 ・単一ユニット(○○ユニット) ②臨界管理の方法 ・質量管理 ③核的制限値 ・○○kg・Pu* (形態：MOX粉末-2, MOX粉末-4) ④他の単一ユニットとの相互間隔 ・隣接する単一ユニット：一次混合ユニットB ・単一ユニット間距離：○○mm以上</p> <p>基準に対する</p> <p>火災等による損傷の防止 グローブボックスには窓板を除き可能な限り不燃性又は難燃性の材料を使用する。</p> <p>耐震性 ○○○グローブボックス ・耐震クラス：Bクラス</p> <p>主要設備リストで展開</p> <p>・主要材料(本体)：○○○(○○○,○○○)(耐震サポート)：○○○(○○○) ・基礎ボルト材質：○○○(○○○) ・基礎ボルト本数：○×○本 ・取付ボルト材質：○○○(○○○) ・取付ボルト本数：○×○本 ・取付ボルト配置：○○○mm×○○○mm</p> <p>構造図で展開</p> <p>材料及び構造 -</p>		<p>●：○○○設備 (●) 核物質取扱ボックス</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称*2</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">種類*3</td> <td>-</td> <td>○○○</td> </tr> <tr> <td>核的制限値*11</td> <td>取扱Pu*質量*12</td> <td>kg・Pu*</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>他の単一ユニットとの相互間隔</td> <td></td> <td>mm</td> <td>○○以上</td> </tr> <tr> <td>設置する室の壁・天井までの距離*4</td> <td></td> <td>mm</td> <td>壁 ○○以上 天井 ○○以上</td> </tr> <tr> <td>設置床からの核燃料物質の取扱高さ*4</td> <td></td> <td>mm</td> <td>○○以上</td> </tr> <tr> <td>設置室の周囲の壁厚*13</td> <td></td> <td>mm</td> <td>○○以上</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>Pa</td> <td>○○</td> <td>○○ ○○*16</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td>○○</td> <td>○○ ○○*16</td> </tr> <tr> <td>漏れ率*5</td> <td>vol%/h</td> <td>○○以下</td> <td></td> </tr> <tr> <td>開口部風速*6*14</td> <td>m/s</td> <td>○○以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要寸法*7</td> <td>たて</td> <td>m m</td> <td>○○*1</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>m m</td> <td>○○*1</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>m m</td> <td>○○*1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主要材料*8</td> <td>本体</td> <td>-</td> <td>○○○</td> </tr> <tr> <td>窓板部</td> <td>-</td> <td>○○○</td> </tr> <tr> <td>個数*9</td> <td></td> <td>-</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">遮蔽体</td> <td>主要寸法</td> <td>厚さ</td> <td>m m ○○以上(○○*1)</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td></td> <td>○○○ (密度○○kg/m³以上)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">漏えい液受皿</td> <td rowspan="3">主要寸法</td> <td>たて</td> <td>m m ○○*1</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>m m ○○*1</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>m m ○○*1</td> </tr> <tr> <td>厚さ</td> <td>m m ○○以上(○○*1)</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td></td> <td>-</td> <td>○○○</td> </tr> </tbody> </table> <p> ○○○ 機種で統一して記載する仕様項目 ○○○ 構造分類に係る仕様項目 ○○○ 臨界管理に係る追加仕様項目 ○○○ 遮蔽設備に係る追加仕様項目 ○○○ 漏えい液受皿に係る追加仕様項目 </p>				名称*2		変更前	変更後	種類*3		-	○○○	核的制限値*11	取扱Pu*質量*12	kg・Pu*	○○	他の単一ユニットとの相互間隔		mm	○○以上	設置する室の壁・天井までの距離*4		mm	壁 ○○以上 天井 ○○以上	設置床からの核燃料物質の取扱高さ*4		mm	○○以上	設置室の周囲の壁厚*13		mm	○○以上	最高使用圧力	Pa	○○	○○ ○○*16	最高使用温度	℃	○○	○○ ○○*16	漏れ率*5	vol%/h	○○以下		開口部風速*6*14	m/s	○○以上		主要寸法*7	たて	m m	○○*1	横	m m	○○*1	高さ	m m	○○*1	主要材料*8	本体	-	○○○	窓板部	-	○○○	個数*9		-	○○	遮蔽体	主要寸法	厚さ	m m ○○以上(○○*1)	主要材料		○○○ (密度○○kg/m ³ 以上)	漏えい液受皿	主要寸法	たて	m m ○○*1	横	m m ○○*1	高さ	m m ○○*1	厚さ	m m ○○以上(○○*1)	主要材料		-	○○○	<p>技術基準</p> <p>機能要求② 様式-6 様式-7</p> <p>主な仕様 (詳細設計)</p> <p>第四条 臨界 (a) 粉末及びペレットを取り扱う工程では、質量管理を基本とし、単一ユニットは設備・機器を収納するグローブボックス、焼結炉等に設定する。 (e) 少量の溶液を取り扱う分析設備では、質量管理とし、単一ユニットは設備・機器を収納するグローブボックスに設定する。 a. 複数ユニットの設定 単一ユニット相互間、十分な厚さのコンクリート等の設置又は単一ユニット相互間の距離を確保することにより、核的に安全な配置とする。</p> <p>第十条 閉じ込め グローブボックスは、給気口及び排気口を除き密閉できる設計とする。 また、グローブ1個が破損した場合でもグローブボートの開口部における空気流入風速を設定値以上に維持する設計とする。 また、放射性物質を含む液体を取り扱うグローブボックスは、放射性物質を含む液体が漏えいした場合においてもグローブボックス底部を漏えい液受皿構造とすることにより、グローブボックスに放射性物質を含む液体を閉じ込めることで、放射性物質を含む液体がグローブボックス外に漏えいし難い設計とする。 オープンボートボックス及びフードは、グローブボックス排気設備により開口部からの空気流入風速を確保する設計とする。</p> <p>第十二条 溢水 発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。 防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。</p> <p>第十五条 第三十一条 材料・構造 重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 容器等は、最高使用圧力、最高使用温度及び機械的荷重が負荷されている状態(以下「設計上定める条件」という。)において、全体的な変形を弾性域に抑える設計とする。 容器等に属する伸縮継手については、設計上定める条件で応力が繰り返し加わる場合において、疲労破壊が生じない設計とする。 容器等は、設計上定める条件において、座屈が生じない設計とする。</p> <p>第十二条 遮蔽 放射線業務従事者の立入頻度及び立入時間を考慮し、遮蔽設計の基準となる線量率を設定するとともに、管理区域を線量率に応じて適切に区分し、区分ごとの基準線量率を満足するよう遮蔽設備を設置する設計とする。 遮蔽設備に開口部又は貫通部がある場合、開口部又は貫通部により遮蔽設計の基準となる線量率を超えるおそれのある場合には、以下に示すような放射線の漏えいを防止するための措置を講じ、遮蔽設計の基準となる線量率を満足する設計とする。 a. 建屋壁遮蔽に開口部を設ける場合、人が容易に接近できないような場所(通路の行き止まり部、高所等)へ設置する。 b. 遮蔽設備を貫通する搬送路、ダクト、配管については、開口部及び貫通部が線源を直接見通さないような場所に設置する。 c. 遮蔽設備の開口部及び貫通部には、遮蔽屏、遮蔽蓋又は補助遮蔽を設置する措置を講ずる。</p> <p>第三十三条 閉じ込め 重大事故の発生を仮定するグローブボックスは、核燃料物質等を閉じ込める機能の喪失が発生した場合において、グローブボックスからの漏えいを一定程度抑制できる設計とする。</p>			<p>該当する施設なし</p> <p>漏れ率</p> <p>開口部風速</p> <p>漏えい液受皿 ・主要寸法</p> <p>開口部風速 ※フード、OPBの要求である。</p> <p>取付箇所(区画番号、配慮が必要な高さ)</p> <p>・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料</p> <p>遮蔽体 ・主要材料 ・厚さ</p> <p>漏れ率</p>	<p>●仕様表記載例 23a-1【機種：建物・構築物(建屋・洞道)】の既認可仕様表の特記事項「④ 臨界安全上必要がある場合には、中性子相互干渉を考慮する貯蔵施設等の周囲に○cm以上のコンクリートを配置し、核的に隔離する設計とする。」から展開。</p>
名称*2		変更前	変更後																																																																																													
種類*3		-	○○○																																																																																													
核的制限値*11	取扱Pu*質量*12	kg・Pu*	○○																																																																																													
他の単一ユニットとの相互間隔		mm	○○以上																																																																																													
設置する室の壁・天井までの距離*4		mm	壁 ○○以上 天井 ○○以上																																																																																													
設置床からの核燃料物質の取扱高さ*4		mm	○○以上																																																																																													
設置室の周囲の壁厚*13		mm	○○以上																																																																																													
最高使用圧力	Pa	○○	○○ ○○*16																																																																																													
最高使用温度	℃	○○	○○ ○○*16																																																																																													
漏れ率*5	vol%/h	○○以下																																																																																														
開口部風速*6*14	m/s	○○以上																																																																																														
主要寸法*7	たて	m m	○○*1																																																																																													
	横	m m	○○*1																																																																																													
	高さ	m m	○○*1																																																																																													
主要材料*8	本体	-	○○○																																																																																													
	窓板部	-	○○○																																																																																													
個数*9		-	○○																																																																																													
遮蔽体	主要寸法	厚さ	m m ○○以上(○○*1)																																																																																													
	主要材料		○○○ (密度○○kg/m ³ 以上)																																																																																													
漏えい液受皿	主要寸法	たて	m m ○○*1																																																																																													
		横	m m ○○*1																																																																																													
		高さ	m m ○○*1																																																																																													
	厚さ	m m ○○以上(○○*1)																																																																																														
主要材料		-	○○○																																																																																													

既認可の仕様表		仕様表案				要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考
閉じ込めの機能	給排気口を除き密封できる構造とする。 ・気密性(漏れ率)：〇〇vol%/h以下	仕様表「漏れ率」で展開	取付箇所 *10	系統名(ライン名)	-	-	変更なし	
しゃへい	-	閉込の基本設計方針で展開		設置床	-	〇〇〇室 T.M.S.L.〇〇m*15	〇〇〇室 T.M.S.L.〇〇m	
換気	-	安有の基本設計方針で展開		溢水防護上の区画番号	-	-	〇〇〇	
核燃料物質等による汚染の防止	-			溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	-	〇〇〇室 T.M.S.L.〇〇m	
安全上重要な施設	適切な方法により、安全機能を確認するための検査又は試験並びに安全機能を健全に維持するための保守又は修理ができる設計とする。		注記	*1：公称値を示す。 *2：記載の適正化。既設工認では「設備・機器名称」と記載。 *3：記載の適正化。既設工認では「形式」と記載。 *4：記載の適正化。既設工認では「注2 技術基準に対する仕様の補足説明(1) 核燃料物質の臨界防止」と記載。 *5：記載の適正化。既設工認では「気密性(漏れ率)」と記載。 *6：記載の適正化。既設工認では「その他事業許可で求める仕様」と記載。 *7：記載の適正化。既設工認では「寸法(単位mm)」と記載。 *8：記載の適正化。既設工認では「主要な構成材」と記載。 *9：記載の適正化。既設工認では「数量」と記載。 *10：記載の適正化。既設工認では「設置場所」と記載。 *11：本グローブボックスに単一ユニット(〇〇ユニット)を設定する。 *12：Pu*は、プルトニウム-239、プルトニウム-241及びウラン-235の総称とし、kg・Pu*は、その合計質量とする。 *13：記載内容は、平成22年10月22日付け平成22・05:21原第9号にて認可を受けた設工認申請書の「別添イ.燃料加工建屋(その1)及び貯蔵容器搬送用同道(4)設計条件及び仕様 特記事項」において記載したコンクリート厚さによる。 *14：グローブ1個が破損した場合にグローブポートの開口部における風速を示す。 *15：記載内容は、平成24年6月26日付け平成23・02・24原第6号にて認可を受けた設工認申請書の本文添付図「第1.-1 図被覆施設の機器配置図(1/2)」による。 *16：重大事故等時における使用時の値を示す。				
搬送設備	-							
警報設備等	①グローブボックス内の温度及び温度上昇率が設定値以上となった場合に警報を発する火災警報を設置する。 ・設定値：温度〇℃、温度上昇率〇℃/min ②グローブボックス内の気圧が設置場所に対して設定値以上となった場合に警報を発する負圧警報を設置する。 ・設定値：-〇Pa	グローブボックス温度監視装置の仕様表で展開						
廃棄施設	-	閉じ込めの基本設計方針/添付書類で展開						
放射線管理施設	-							
非常用電源設備	-							
その他事業許可で求める仕様 ^(注3)	グローブ1個が破損した場合にグローブポートの開口部における風速を〇m/s以上とする。	仕様表「開口部風速」で展開						
注1	今回の申請範囲は管台までであり、管台から接続配管等の第1弁まではグローブボックスとして後次回に申請する。	閉込の基本設計方針で展開						
注2	技術基準に対する仕様の補足説明 (1) 核燃料物質の臨界防止 本グローブボックスに単一ユニットを設定する。単一ユニットでは質量管理により、核的制限値を超えないように管理する設計とする。また、単一ユニット間の中性子相互作用については、単一ユニット間距離を維持することにより臨界安全を確保する設計とする。本グローブボックスから〇〇〇室の壁・天井までの距離を〇〇mm以上となるように設置するとともに、〇〇〇室の床から核燃料物質取扱高さ下限までの距離を〇〇mm以上となるように設置する。臨界防止に係る計算結果は、添付書類I「核燃料物質の臨界防止に関する説明書」に示す。仕様表「臨界管理」で展開 (2) 火災等による損傷の防止 本グローブボックスは、安全上重要な施設であるため本体には不燃性の〇〇〇〇を使用し火災による損傷を防止する。ただし、視認性及び耐震性の観点から窓板には〇〇〇〇製の〇〇〇を使用する。 (3) 耐震性 本グローブボックスは、耐震Bクラスとする。また、耐震設計上の主要な評価部位は、グローブボックスを直接支持する構造物に固定するボルト(基礎ボルト、取付ボルト)とする。設備構造設計上の耐震設計結果は、添付書類III「主要な加工施設の耐震性に関する説明書」に示す。 (4) 閉じ込め機能 本グローブボックスは、給排気口を除き密封できる構造とし、漏れ率は〇vol%/h以下とする。給排気口を除き密封できる構造とは、他のグローブボックスと伸縮継手を介して連結し、ユーティリティ配管類に弁類が設置され気密境界を形成できる状態をいう。また、気体廃棄物の廃棄設備によりその内部を設置場所に対して常時負圧に維持する設計とする。常時負圧についての仕様は、気体廃棄物の廃棄設備にて申請する。	添付書類で展開						

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考
<p>(5) 安全上重要な施設 本グローブボックスは、安全上重要な施設であり、外観検査、負圧確認等により、加工施設の安全を確保する機能の負圧維持の確認は実施できる。また、周囲にメンテナンススペースを設けておりこれらの機能を健全に維持するための保守又は修理が可能である。なお、他の原子力施設と共用しない。</p> <p>(6) 警報設備等 本グローブボックスには、グローブボックス内の温度が60℃以上、かつ、温度上昇率が15℃/min以上となった場合に、所定の場所で警報を発するための検出器を設置する。また、グローブボックス内火災の消火のため火災警報信号をガス消火装置(消火設備)に送信する。 本グローブボックスには、グローブボックス内の気圧が設置場所に対して-50Pa以上となった場合に、所定の場所で警報を発するための検出器を設置する。また、負圧警報により窒素循環ファン(窒素循環設備)を停止させるために、負圧警報信号を換気空調設備制御盤(気体廃棄物の廃棄設備)に送信する。</p> <p>注3 Pu*は、プルトニウム-239、プルトニウム-241及びウラン-235の総称とし、kg・Pu*はその合計質量とする。</p> <p>注4 成形施設で取り扱う核燃料物質の形態と核的制限値の設定条件を第1.-6表に示す。 注5 その他事業許可で求める仕様の補足説明</p> <p>(1) グローブ1個が破損をした時は、グローブボックス排風機により外部空気を吸入し開口部における風速0.5m/s以上を確保する。グローブ1個の破損とは、全グローブボックスに対する1個の開口部とする。</p>	<p>添付書類で展開</p> <p>注釈で展開</p> <p>添付書類で展開</p>			

仕様表記載例 15-2 【機種：核物質等取扱ボックス】

[常設] [構造分類：オープンポートボックス] [付属構造：－]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																																			
MOX 施設の既認可に仕様表なし	<p>● ○○○設備 (●) フード</p> <table border="1" data-bbox="742 325 1335 1008"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th colspan="2">○○○オープンポートボックス(○○-○-○○)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td colspan="2">○○○</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>Pa</td> <td colspan="2">—*3</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td colspan="2">○○○</td> </tr> <tr> <td>漏れ率</td> <td>vol%/h</td> <td colspan="2">—*4</td> </tr> <tr> <td>開口部風速*4</td> <td>m/s</td> <td colspan="2">○○○*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要寸法</td> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>○○○*1</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>○○○*1</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>○○○*1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主要材料</td> <td>本体</td> <td>—</td> <td>○○○</td> </tr> <tr> <td>窓板部</td> <td>—</td> <td>○○○</td> </tr> <tr> <td></td> <td>個数</td> <td>—</td> <td>○○○</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>○○○○室 T. M. S. L ○○○m</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：公称値を示す。 *2：通常運転時におけるポート開口部(ポート○箇所開放)の面風速を示す。 *3：本機器は、大気圧付近の圧力で使用するため「—」とする。 *4：本機器は、開口部を有するため「—」とする。</p> <table border="1" data-bbox="845 1228 1231 1291"> <tr> <td>■</td> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> </table>	名称		○○○オープンポートボックス(○○-○-○○)		種類	—	○○○		最高使用圧力	Pa	—*3		最高使用温度	℃	○○○		漏れ率	vol%/h	—*4		開口部風速*4	m/s	○○○*2		主要寸法	たて	mm	○○○*1	横	mm	○○○*1	高さ	mm	○○○*1	主要材料	本体	—	○○○	窓板部	—	○○○		個数	—	○○○	取付箇所	系統名(ライン名)	—	—	設置床	—	○○○○室 T. M. S. L ○○○m	溢水防護上の区画番号	—	—	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—	■	機種で統一して記載する仕様項目	■	構造分類に係る仕様項目	<table border="1" data-bbox="1380 283 2122 1701"> <thead> <tr> <th>技術基準</th> <th>機能要求② 様式-6 様式-7</th> <th>主な仕様 (詳細設計)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第四条 臨界</td> <td>(a) 粉末及びペレットを取り扱う工程では、質量管理を基本とし、単一ユニットは設備・機器を収納するグローブボックス、焼結炉等に設定する。 (e) 少量の溶液を取り扱う分析設備では、質量管理とし、単一ユニットは設備・機器を収納するグローブボックスに設定する。 a. 複数ユニットの設定 単一ユニット相互間は、十分な厚さのコンクリート等の設置又は単一ユニット相互間の距離を確保することにより、核的に安全な配置とする。</td> <td>臨界管理 核的制限値 (Pu*質量) ※臨界管理を実施する場合に記載する。</td> </tr> <tr> <td>第十条 閉じ込め</td> <td>核燃料物質を収納する設備・機器の設置に当たっては、通常時に作用している荷重に対して発生する変形が過大とならぬように構造強度を持つ構造材を用いて固定する。なお、固定することが困難な設備・機器の場合は、設備・機器の周囲にユニット相互間の間隔を維持するための剛構造物を取り付ける又は設計上、移動範囲を制限する。 グローブボックスは、給気口及び排気口を除き密閉できる設計とする。 また、グローブ1個が破損した場合でもグローブポートの開口部における空気流入風速を設定値以上に維持する設計とする。 また、放射性物質を含む液体を取り扱うグローブボックスは、放射性物質を含む液体が漏れいた場合においてもグローブボックス底部を漏えい液受皿構造とすることにより、グローブボックスに放射性物質を含む液体を閉じ込めることで、放射性物質を含む液体がグローブボックス外に漏れし難い設計とする。</td> <td>主要材料 ※臨界管理を実施する場合に記載する。 漏れ率 ※GBの要求である。 開口部風速 ※GBの要求である。 漏えい液受皿 ・主要寸法 ※漏えい液受皿を有する場合に記載する。</td> </tr> <tr> <td>第十二条 溢水</td> <td>オープンポートボックス及びフードは、グローブボックス排気設備により開口部からの空気流入風速を確保する設計とする。 発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。 防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td> <td>開口部風速 取付箇所(区画番号、配慮が必要な高さ)</td> </tr> <tr> <td>第十五条 第三十一条 材料・構造</td> <td>重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 容器等は、最高使用圧力、最高使用温度及び機械的荷重が負荷されている状態(以下「設計上定める条件」という。)において、全体的な変形を弾性域に抑える設計とする。容器等に属する伸縮継手にあつては、設計上定める条件で応力が繰り返し加わる場合において、疲労破壊が生じない設計とする。 容器等は、設計上定める条件において、座屈が生じない設計とする。</td> <td>・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料</td> </tr> <tr> <td>第二十二 条 遮蔽</td> <td>放射線業務従事者の立入頻度及び立入時間を考慮し、遮蔽設計の基準となる線量率を設定するとともに、管理区域を線量率に応じて適切に区分し、区分ごとの基準線量率を満足するよう遮蔽設備を設置する設計とする。 遮蔽設備に開口部又は貫通部がある場合で、開口部又は貫通部により遮蔽設計の基準となる線量率を超えるおそれのある場合には、以下に示すような放射線の漏えいを防止するための措置を講じ、遮蔽設計の基準となる線量率を満足する設計とする。 a. 建屋壁遮蔽に開口部を設ける場合、人が容易に接近できないような場所(通路の行き止まり部、高所等)へ設置する。 b. 遮蔽設備を貫通する搬送路、ダクト、配管については、開口部及び貫通部が線源を直接見通さないような場所に設置する。 c. 遮蔽設備の開口部及び貫通部には、遮蔽扉、遮蔽蓋又は補助遮蔽を設置する措置を講ずる。</td> <td>遮蔽体 ・主要材料 ・厚さ ※遮蔽体を有する場合に、展開する。</td> </tr> <tr> <td>第三十三 条 閉じ込め</td> <td>重大事故の発生を仮定するグローブボックスは、核燃料物質等を閉じ込める機能の喪失が発生した場合において、グローブボックスからの漏えいを一定程度抑制できる設計とする。</td> <td>漏れ率 ※GBの要求である。</td> </tr> </tbody> </table>	技術基準	機能要求② 様式-6 様式-7	主な仕様 (詳細設計)	第四条 臨界	(a) 粉末及びペレットを取り扱う工程では、質量管理を基本とし、単一ユニットは設備・機器を収納するグローブボックス、焼結炉等に設定する。 (e) 少量の溶液を取り扱う分析設備では、質量管理とし、単一ユニットは設備・機器を収納するグローブボックスに設定する。 a. 複数ユニットの設定 単一ユニット相互間は、十分な厚さのコンクリート等の設置又は単一ユニット相互間の距離を確保することにより、核的に安全な配置とする。	臨界管理 核的制限値 (Pu*質量) ※臨界管理を実施する場合に記載する。	第十条 閉じ込め	核燃料物質を収納する設備・機器の設置に当たっては、通常時に作用している荷重に対して発生する変形が過大とならぬように構造強度を持つ構造材を用いて固定する。なお、固定することが困難な設備・機器の場合は、設備・機器の周囲にユニット相互間の間隔を維持するための剛構造物を取り付ける又は設計上、移動範囲を制限する。 グローブボックスは、給気口及び排気口を除き密閉できる設計とする。 また、グローブ1個が破損した場合でもグローブポートの開口部における空気流入風速を設定値以上に維持する設計とする。 また、放射性物質を含む液体を取り扱うグローブボックスは、放射性物質を含む液体が漏れいた場合においてもグローブボックス底部を漏えい液受皿構造とすることにより、グローブボックスに放射性物質を含む液体を閉じ込めることで、放射性物質を含む液体がグローブボックス外に漏れし難い設計とする。	主要材料 ※臨界管理を実施する場合に記載する。 漏れ率 ※GBの要求である。 開口部風速 ※GBの要求である。 漏えい液受皿 ・主要寸法 ※漏えい液受皿を有する場合に記載する。	第十二条 溢水	オープンポートボックス及びフードは、グローブボックス排気設備により開口部からの空気流入風速を確保する設計とする。 発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。 防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	開口部風速 取付箇所(区画番号、配慮が必要な高さ)	第十五条 第三十一条 材料・構造	重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 容器等は、最高使用圧力、最高使用温度及び機械的荷重が負荷されている状態(以下「設計上定める条件」という。)において、全体的な変形を弾性域に抑える設計とする。容器等に属する伸縮継手にあつては、設計上定める条件で応力が繰り返し加わる場合において、疲労破壊が生じない設計とする。 容器等は、設計上定める条件において、座屈が生じない設計とする。	・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料	第二十二 条 遮蔽	放射線業務従事者の立入頻度及び立入時間を考慮し、遮蔽設計の基準となる線量率を設定するとともに、管理区域を線量率に応じて適切に区分し、区分ごとの基準線量率を満足するよう遮蔽設備を設置する設計とする。 遮蔽設備に開口部又は貫通部がある場合で、開口部又は貫通部により遮蔽設計の基準となる線量率を超えるおそれのある場合には、以下に示すような放射線の漏えいを防止するための措置を講じ、遮蔽設計の基準となる線量率を満足する設計とする。 a. 建屋壁遮蔽に開口部を設ける場合、人が容易に接近できないような場所(通路の行き止まり部、高所等)へ設置する。 b. 遮蔽設備を貫通する搬送路、ダクト、配管については、開口部及び貫通部が線源を直接見通さないような場所に設置する。 c. 遮蔽設備の開口部及び貫通部には、遮蔽扉、遮蔽蓋又は補助遮蔽を設置する措置を講ずる。	遮蔽体 ・主要材料 ・厚さ ※遮蔽体を有する場合に、展開する。	第三十三 条 閉じ込め	重大事故の発生を仮定するグローブボックスは、核燃料物質等を閉じ込める機能の喪失が発生した場合において、グローブボックスからの漏えいを一定程度抑制できる設計とする。	漏れ率 ※GBの要求である。	該当する施設なし	備考
名称		○○○オープンポートボックス(○○-○-○○)																																																																																					
種類	—	○○○																																																																																					
最高使用圧力	Pa	—*3																																																																																					
最高使用温度	℃	○○○																																																																																					
漏れ率	vol%/h	—*4																																																																																					
開口部風速*4	m/s	○○○*2																																																																																					
主要寸法	たて	mm	○○○*1																																																																																				
	横	mm	○○○*1																																																																																				
	高さ	mm	○○○*1																																																																																				
主要材料	本体	—	○○○																																																																																				
	窓板部	—	○○○																																																																																				
	個数	—	○○○																																																																																				
取付箇所	系統名(ライン名)	—	—																																																																																				
	設置床	—	○○○○室 T. M. S. L ○○○m																																																																																				
	溢水防護上の区画番号	—	—																																																																																				
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—																																																																																				
■	機種で統一して記載する仕様項目																																																																																						
■	構造分類に係る仕様項目																																																																																						
技術基準	機能要求② 様式-6 様式-7	主な仕様 (詳細設計)																																																																																					
第四条 臨界	(a) 粉末及びペレットを取り扱う工程では、質量管理を基本とし、単一ユニットは設備・機器を収納するグローブボックス、焼結炉等に設定する。 (e) 少量の溶液を取り扱う分析設備では、質量管理とし、単一ユニットは設備・機器を収納するグローブボックスに設定する。 a. 複数ユニットの設定 単一ユニット相互間は、十分な厚さのコンクリート等の設置又は単一ユニット相互間の距離を確保することにより、核的に安全な配置とする。	臨界管理 核的制限値 (Pu*質量) ※臨界管理を実施する場合に記載する。																																																																																					
第十条 閉じ込め	核燃料物質を収納する設備・機器の設置に当たっては、通常時に作用している荷重に対して発生する変形が過大とならぬように構造強度を持つ構造材を用いて固定する。なお、固定することが困難な設備・機器の場合は、設備・機器の周囲にユニット相互間の間隔を維持するための剛構造物を取り付ける又は設計上、移動範囲を制限する。 グローブボックスは、給気口及び排気口を除き密閉できる設計とする。 また、グローブ1個が破損した場合でもグローブポートの開口部における空気流入風速を設定値以上に維持する設計とする。 また、放射性物質を含む液体を取り扱うグローブボックスは、放射性物質を含む液体が漏れいた場合においてもグローブボックス底部を漏えい液受皿構造とすることにより、グローブボックスに放射性物質を含む液体を閉じ込めることで、放射性物質を含む液体がグローブボックス外に漏れし難い設計とする。	主要材料 ※臨界管理を実施する場合に記載する。 漏れ率 ※GBの要求である。 開口部風速 ※GBの要求である。 漏えい液受皿 ・主要寸法 ※漏えい液受皿を有する場合に記載する。																																																																																					
第十二条 溢水	オープンポートボックス及びフードは、グローブボックス排気設備により開口部からの空気流入風速を確保する設計とする。 発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。 防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	開口部風速 取付箇所(区画番号、配慮が必要な高さ)																																																																																					
第十五条 第三十一条 材料・構造	重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 容器等は、最高使用圧力、最高使用温度及び機械的荷重が負荷されている状態(以下「設計上定める条件」という。)において、全体的な変形を弾性域に抑える設計とする。容器等に属する伸縮継手にあつては、設計上定める条件で応力が繰り返し加わる場合において、疲労破壊が生じない設計とする。 容器等は、設計上定める条件において、座屈が生じない設計とする。	・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料																																																																																					
第二十二 条 遮蔽	放射線業務従事者の立入頻度及び立入時間を考慮し、遮蔽設計の基準となる線量率を設定するとともに、管理区域を線量率に応じて適切に区分し、区分ごとの基準線量率を満足するよう遮蔽設備を設置する設計とする。 遮蔽設備に開口部又は貫通部がある場合で、開口部又は貫通部により遮蔽設計の基準となる線量率を超えるおそれのある場合には、以下に示すような放射線の漏えいを防止するための措置を講じ、遮蔽設計の基準となる線量率を満足する設計とする。 a. 建屋壁遮蔽に開口部を設ける場合、人が容易に接近できないような場所(通路の行き止まり部、高所等)へ設置する。 b. 遮蔽設備を貫通する搬送路、ダクト、配管については、開口部及び貫通部が線源を直接見通さないような場所に設置する。 c. 遮蔽設備の開口部及び貫通部には、遮蔽扉、遮蔽蓋又は補助遮蔽を設置する措置を講ずる。	遮蔽体 ・主要材料 ・厚さ ※遮蔽体を有する場合に、展開する。																																																																																					
第三十三 条 閉じ込め	重大事故の発生を仮定するグローブボックスは、核燃料物質等を閉じ込める機能の喪失が発生した場合において、グローブボックスからの漏えいを一定程度抑制できる設計とする。	漏れ率 ※GBの要求である。																																																																																					

仕様表記載例 15-3 【機種：核物質等取扱ボックス】

[常設] [構造分類：フード] [付属構造：－]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																																
MOX 施設の既認可に仕様表なし	<p>● ○○○設備 (●) フード</p> <table border="1" data-bbox="742 325 1335 976"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th colspan="2">○○○フード (○○-○-○○)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td colspan="2">○○○</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>Pa</td> <td colspan="2">—*3</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td colspan="2">○○○</td> </tr> <tr> <td>漏れ率</td> <td>vol%/h</td> <td colspan="2">—*4</td> </tr> <tr> <td>開口部風速*4</td> <td>m/s</td> <td colspan="2">○○○*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要寸法</td> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>○○○*1</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>○○○*1</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>○○○*1</td> </tr> <tr> <td colspan="2">主要材料</td> <td>—</td> <td>○○○</td> </tr> <tr> <td colspan="2">個数</td> <td>—</td> <td>○○○</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>○○○○室 T. M. S. L ○○○m</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：公称値を示す。 *2：フードの使用時(開口部高さ○○mm)の面風速を示す。 *3：本機器は、大気圧付近の圧力で使用するため「—」とする。 *4：本機器は、開口部を有するため「—」とする。</p> <table border="1" data-bbox="845 1165 1231 1228"> <tr> <td style="background-color: #e0e0e0;"> </td> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #c0c0c0;"> </td> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> </table>	名称		○○○フード (○○-○-○○)		種類	—	○○○		最高使用圧力	Pa	—*3		最高使用温度	℃	○○○		漏れ率	vol%/h	—*4		開口部風速*4	m/s	○○○*2		主要寸法	たて	mm	○○○*1	横	mm	○○○*1	高さ	mm	○○○*1	主要材料		—	○○○	個数		—	○○○	取付箇所	系統名(ライン名)	—	—	設置床	—	○○○○室 T. M. S. L ○○○m	溢水防護上の区画番号	—	—	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—		機種で統一して記載する仕様項目		構造分類に係る仕様項目	<table border="1" data-bbox="1380 283 2122 1701"> <thead> <tr> <th>技術基準</th> <th>機能要求② 様式-6 様式-7</th> <th>主な仕様 (詳細設計)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第四条 臨界</td> <td>(a) 粉末及びペレットを取り扱う工程では、質量管理を基本とし、単一ユニットは設備・機器を収納するグローブボックス、焼結炉等に設定する。 (e) 少量の溶液を取り扱う分析設備では、質量管理とし、単一ユニットは設備・機器を収納するグローブボックスに設定する。 a. 複数ユニットの設定 単一ユニット相互間は、十分な厚さのコンクリート等の設置又は単一ユニット相互間の距離を確保することにより、核的に安全な配置とする。</td> <td>臨界管理 核的制限値 (Pu*質量) ※臨界管理を実施する場合は記載する。</td> </tr> <tr> <td>第十条 閉じ込め</td> <td>核燃料物質を収納する設備・機器の設置に当たっては、通常時に作用している荷重に対して発生する変形が過大とならないように構造強度を持つ構造材を用いて固定する。なお、固定することが困難な設備・機器の場合は、設備・機器の周囲にユニット相互間の間隔を維持するための剛構造物を取り付ける又は設計上、移動範囲を制限する。 グローブボックスは、給気口及び排気口を除き密閉できる設計とする。 また、グローブ1個が破損した場合でもグローブボートの開口部における空気流入風速を設定値以上に維持する設計とする。 また、放射性物質を含む液体を取り扱うグローブボックスは、放射性物質を含む液体が漏れした場合においてもグローブボックス底部を漏えい液受け皿構造とすることにより、グローブボックスに放射性物質を含む液体を閉じ込めることで、放射性物質を含む液体がグローブボックス外に漏れし難い設計とする。 オープンボートボックス及びフードは、グローブボックス排気設備により開口部からの空気流入風速を確保する設計とする。</td> <td>臨界管理 ・単一ユニット相互間距離 ・設置室の周囲の壁厚さ ・核燃料物質の取扱高さ ・壁までの距離 ※臨界管理を実施する場合は記載する。 主要材料 ※臨界管理を実施する場合は記載する。 漏れ率 ※GBの要求である。 開口部風速 ※GBの要求である。 漏えい液受け皿 ・主要寸法(高さ) ※漏えい液受け皿を有する場合は記載する。 開口部風速</td> </tr> <tr> <td>第十二条 溢水</td> <td>発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。 防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td> <td>取付箇所(区画番号、配慮が必要な高さ)</td> </tr> <tr> <td>第十五条 第三十一条 材料・構造</td> <td>重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 容器等は、最高使用圧力、最高使用温度及び機械的荷重が負荷されている状態(以下「設計上定める条件」という。)において、全体的な変形を弾性域に抑える設計とする。 容器等に属する伸縮継手にあつては、設計上定める条件で応力が繰り返し加わる場合において、疲労破壊が生じない設計とする。 容器等は、設計上定める条件において、座屈が生じない設計とする。</td> <td>・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料</td> </tr> <tr> <td>第二十二条 遮蔽</td> <td>放射線業務従事者の立入頻度及び立入時間を考慮し、遮蔽設計の基準となる線量率を設定するとともに、管理区域を線量率に応じて適切に区分し、区分ごとの基準線量率を満足するよう遮蔽設備を設置する設計とする。 遮蔽設備に開口部又は貫通部がある場合で、開口部又は貫通部により遮蔽設計の基準となる線量率を超えるおそれのある場合には、以下に示すような放射線の漏えいを防止するための措置を講じ、遮蔽設計の基準となる線量率を満足する設計とする。 a. 建屋壁遮蔽に開口部を設ける場合、人が容易に接近できないような場所(通路の行き止まり部、高所等)へ設置する。 b. 遮蔽設備を貫通する搬送路、ダクト、配管については、開口部及び貫通部が線源を直接見通さないような場所に設置する。 c. 遮蔽設備の開口部及び貫通部には、遮蔽扉、遮蔽蓋又は補助遮蔽を設置する措置を講ずる。</td> <td>遮蔽体 ・主要材料 ・厚さ ※遮蔽体を有する場合に記載する。</td> </tr> <tr> <td>第三十三条 閉じ込め</td> <td>重大事故の発生を仮定するグローブボックスは、核燃料物質等を閉じ込める機能の喪失が発生した場合において、グローブボックスからの漏えいを一定程度抑制できる設計とする。</td> <td>漏れ率 ※GBの要求のため記載例に展開していない</td> </tr> </tbody> </table>	技術基準	機能要求② 様式-6 様式-7	主な仕様 (詳細設計)	第四条 臨界	(a) 粉末及びペレットを取り扱う工程では、質量管理を基本とし、単一ユニットは設備・機器を収納するグローブボックス、焼結炉等に設定する。 (e) 少量の溶液を取り扱う分析設備では、質量管理とし、単一ユニットは設備・機器を収納するグローブボックスに設定する。 a. 複数ユニットの設定 単一ユニット相互間は、十分な厚さのコンクリート等の設置又は単一ユニット相互間の距離を確保することにより、核的に安全な配置とする。	臨界管理 核的制限値 (Pu*質量) ※臨界管理を実施する場合は記載する。	第十条 閉じ込め	核燃料物質を収納する設備・機器の設置に当たっては、通常時に作用している荷重に対して発生する変形が過大とならないように構造強度を持つ構造材を用いて固定する。なお、固定することが困難な設備・機器の場合は、設備・機器の周囲にユニット相互間の間隔を維持するための剛構造物を取り付ける又は設計上、移動範囲を制限する。 グローブボックスは、給気口及び排気口を除き密閉できる設計とする。 また、グローブ1個が破損した場合でもグローブボートの開口部における空気流入風速を設定値以上に維持する設計とする。 また、放射性物質を含む液体を取り扱うグローブボックスは、放射性物質を含む液体が漏れした場合においてもグローブボックス底部を漏えい液受け皿構造とすることにより、グローブボックスに放射性物質を含む液体を閉じ込めることで、放射性物質を含む液体がグローブボックス外に漏れし難い設計とする。 オープンボートボックス及びフードは、グローブボックス排気設備により開口部からの空気流入風速を確保する設計とする。	臨界管理 ・単一ユニット相互間距離 ・設置室の周囲の壁厚さ ・核燃料物質の取扱高さ ・壁までの距離 ※臨界管理を実施する場合は記載する。 主要材料 ※臨界管理を実施する場合は記載する。 漏れ率 ※GBの要求である。 開口部風速 ※GBの要求である。 漏えい液受け皿 ・主要寸法(高さ) ※漏えい液受け皿を有する場合は記載する。 開口部風速	第十二条 溢水	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。 防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所(区画番号、配慮が必要な高さ)	第十五条 第三十一条 材料・構造	重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 容器等は、最高使用圧力、最高使用温度及び機械的荷重が負荷されている状態(以下「設計上定める条件」という。)において、全体的な変形を弾性域に抑える設計とする。 容器等に属する伸縮継手にあつては、設計上定める条件で応力が繰り返し加わる場合において、疲労破壊が生じない設計とする。 容器等は、設計上定める条件において、座屈が生じない設計とする。	・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料	第二十二条 遮蔽	放射線業務従事者の立入頻度及び立入時間を考慮し、遮蔽設計の基準となる線量率を設定するとともに、管理区域を線量率に応じて適切に区分し、区分ごとの基準線量率を満足するよう遮蔽設備を設置する設計とする。 遮蔽設備に開口部又は貫通部がある場合で、開口部又は貫通部により遮蔽設計の基準となる線量率を超えるおそれのある場合には、以下に示すような放射線の漏えいを防止するための措置を講じ、遮蔽設計の基準となる線量率を満足する設計とする。 a. 建屋壁遮蔽に開口部を設ける場合、人が容易に接近できないような場所(通路の行き止まり部、高所等)へ設置する。 b. 遮蔽設備を貫通する搬送路、ダクト、配管については、開口部及び貫通部が線源を直接見通さないような場所に設置する。 c. 遮蔽設備の開口部及び貫通部には、遮蔽扉、遮蔽蓋又は補助遮蔽を設置する措置を講ずる。	遮蔽体 ・主要材料 ・厚さ ※遮蔽体を有する場合に記載する。	第三十三条 閉じ込め	重大事故の発生を仮定するグローブボックスは、核燃料物質等を閉じ込める機能の喪失が発生した場合において、グローブボックスからの漏えいを一定程度抑制できる設計とする。	漏れ率 ※GBの要求のため記載例に展開していない	該当する施設なし	備考
名称		○○○フード (○○-○-○○)																																																																																		
種類	—	○○○																																																																																		
最高使用圧力	Pa	—*3																																																																																		
最高使用温度	℃	○○○																																																																																		
漏れ率	vol%/h	—*4																																																																																		
開口部風速*4	m/s	○○○*2																																																																																		
主要寸法	たて	mm	○○○*1																																																																																	
	横	mm	○○○*1																																																																																	
	高さ	mm	○○○*1																																																																																	
主要材料		—	○○○																																																																																	
個数		—	○○○																																																																																	
取付箇所	系統名(ライン名)	—	—																																																																																	
	設置床	—	○○○○室 T. M. S. L ○○○m																																																																																	
	溢水防護上の区画番号	—	—																																																																																	
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—																																																																																	
	機種で統一して記載する仕様項目																																																																																			
	構造分類に係る仕様項目																																																																																			
技術基準	機能要求② 様式-6 様式-7	主な仕様 (詳細設計)																																																																																		
第四条 臨界	(a) 粉末及びペレットを取り扱う工程では、質量管理を基本とし、単一ユニットは設備・機器を収納するグローブボックス、焼結炉等に設定する。 (e) 少量の溶液を取り扱う分析設備では、質量管理とし、単一ユニットは設備・機器を収納するグローブボックスに設定する。 a. 複数ユニットの設定 単一ユニット相互間は、十分な厚さのコンクリート等の設置又は単一ユニット相互間の距離を確保することにより、核的に安全な配置とする。	臨界管理 核的制限値 (Pu*質量) ※臨界管理を実施する場合は記載する。																																																																																		
第十条 閉じ込め	核燃料物質を収納する設備・機器の設置に当たっては、通常時に作用している荷重に対して発生する変形が過大とならないように構造強度を持つ構造材を用いて固定する。なお、固定することが困難な設備・機器の場合は、設備・機器の周囲にユニット相互間の間隔を維持するための剛構造物を取り付ける又は設計上、移動範囲を制限する。 グローブボックスは、給気口及び排気口を除き密閉できる設計とする。 また、グローブ1個が破損した場合でもグローブボートの開口部における空気流入風速を設定値以上に維持する設計とする。 また、放射性物質を含む液体を取り扱うグローブボックスは、放射性物質を含む液体が漏れした場合においてもグローブボックス底部を漏えい液受け皿構造とすることにより、グローブボックスに放射性物質を含む液体を閉じ込めることで、放射性物質を含む液体がグローブボックス外に漏れし難い設計とする。 オープンボートボックス及びフードは、グローブボックス排気設備により開口部からの空気流入風速を確保する設計とする。	臨界管理 ・単一ユニット相互間距離 ・設置室の周囲の壁厚さ ・核燃料物質の取扱高さ ・壁までの距離 ※臨界管理を実施する場合は記載する。 主要材料 ※臨界管理を実施する場合は記載する。 漏れ率 ※GBの要求である。 開口部風速 ※GBの要求である。 漏えい液受け皿 ・主要寸法(高さ) ※漏えい液受け皿を有する場合は記載する。 開口部風速																																																																																		
第十二条 溢水	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。 防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所(区画番号、配慮が必要な高さ)																																																																																		
第十五条 第三十一条 材料・構造	重大事故等対処設備の容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な材料を使用する設計とする。 容器等は、最高使用圧力、最高使用温度及び機械的荷重が負荷されている状態(以下「設計上定める条件」という。)において、全体的な変形を弾性域に抑える設計とする。 容器等に属する伸縮継手にあつては、設計上定める条件で応力が繰り返し加わる場合において、疲労破壊が生じない設計とする。 容器等は、設計上定める条件において、座屈が生じない設計とする。	・最高使用圧力 ・最高使用温度 ・主要寸法 ・主要材料																																																																																		
第二十二条 遮蔽	放射線業務従事者の立入頻度及び立入時間を考慮し、遮蔽設計の基準となる線量率を設定するとともに、管理区域を線量率に応じて適切に区分し、区分ごとの基準線量率を満足するよう遮蔽設備を設置する設計とする。 遮蔽設備に開口部又は貫通部がある場合で、開口部又は貫通部により遮蔽設計の基準となる線量率を超えるおそれのある場合には、以下に示すような放射線の漏えいを防止するための措置を講じ、遮蔽設計の基準となる線量率を満足する設計とする。 a. 建屋壁遮蔽に開口部を設ける場合、人が容易に接近できないような場所(通路の行き止まり部、高所等)へ設置する。 b. 遮蔽設備を貫通する搬送路、ダクト、配管については、開口部及び貫通部が線源を直接見通さないような場所に設置する。 c. 遮蔽設備の開口部及び貫通部には、遮蔽扉、遮蔽蓋又は補助遮蔽を設置する措置を講ずる。	遮蔽体 ・主要材料 ・厚さ ※遮蔽体を有する場合に記載する。																																																																																		
第三十三条 閉じ込め	重大事故の発生を仮定するグローブボックスは、核燃料物質等を閉じ込める機能の喪失が発生した場合において、グローブボックスからの漏えいを一定程度抑制できる設計とする。	漏れ率 ※GBの要求のため記載例に展開していない																																																																																		

仕様表記載例 17【機種：変圧器】

[常設] [構造分類：－] [付属構造：－]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																																																																																																			
<table border="1"> <tr><td>名称</td><td>－</td><td>非常用動力用変圧器 A, B (00-000-00, 00)</td></tr> <tr><td>種類</td><td>－</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>設計条件</td><td>耐震クラス</td><td>－</td></tr> <tr><td rowspan="3">仕様</td><td>用塗</td><td>－</td></tr> <tr><td>主要寸法</td><td>高さ mm</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>個数</td><td>－</td><td>〇〇</td></tr> </table> <p>構造図：第 3.2.1.1.12-12 図に示す。</p>	名称	－	非常用動力用変圧器 A, B (00-000-00, 00)	種類	－	〇〇	設計条件	耐震クラス	－	仕様	用塗	－	主要寸法	高さ mm	〇〇	個数	－	〇〇	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td colspan="2">名称</td><td>非常用動力用変圧器 A, B (00-000-00, 00)</td><td></td></tr> <tr><td colspan="2">種類</td><td>－</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td colspan="2">容量</td><td>kVA</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td rowspan="2">電圧</td><td>一次</td><td>V</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>二次</td><td>V</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td colspan="2">周波数</td><td>Hz</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td rowspan="2">結線法</td><td>一次</td><td>－</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>二次</td><td>－</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td colspan="2">冷却法</td><td>－</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td rowspan="3">主要寸法</td><td>幅</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1*}</td></tr> <tr><td>奥行</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1*}</td></tr> <tr><td>高さ</td><td>mm</td><td>〇〇^{*1}</td></tr> <tr><td rowspan="5">取付箇所</td><td>個数</td><td>－</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>系統名 (ライン名)</td><td>－</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>設置床</td><td>－</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>溢水防護上の区画番号</td><td>－</td><td>－</td></tr> <tr><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>－</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>化学薬品防護上の区画番号</td><td>－</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>化学薬品防護上の配慮が必要な高さ</td><td>－</td><td>〇〇</td></tr> </tbody> </table>			変更前	変更後	名称		非常用動力用変圧器 A, B (00-000-00, 00)		種類		－	〇〇	容量		kVA	〇〇	電圧	一次	V	〇〇	二次	V	〇〇	周波数		Hz	〇〇	結線法	一次	－	〇〇	二次	－	〇〇	冷却法		－	〇〇	主要寸法	幅	mm	〇〇 ^{*1*}	奥行	mm	〇〇 ^{*1*}	高さ	mm	〇〇 ^{*1}	取付箇所	個数	－	〇〇	系統名 (ライン名)	－	〇〇	設置床	－	〇〇	溢水防護上の区画番号	－	－	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－	〇〇	化学薬品防護上の区画番号	－	〇〇	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	－	〇〇	<table border="1"> <thead> <tr> <th>技術基準</th> <th>機能要求②</th> <th>主な仕様 (詳細設計)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第十二条 溢水防護</td> <td>様式-6,7 発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ (以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td> <td>取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ (機能喪失高さ) ・防護上の区画番号</td> </tr> <tr> <td>第十三条 化学薬品防護</td> <td>発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ (以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水 (以下「没液」という。)により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td> <td>取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ (機能喪失高さ) ・防護上の区画番号</td> </tr> <tr> <td>第二十九条 保安電源設備</td> <td>非常用の所内高圧系統 (メタルクラッド開閉装置で構成)は、高圧主母線および高圧母線で構成し、安全上重要な負荷等に給電する設計とする。</td> <td rowspan="2">・容量 ・電圧 ・周波数 ・結線法 ・冷却法 ・主要寸法</td> </tr> <tr> <td>第四十六条 電源設備</td> <td>非常用の所内低圧系統は、低圧母線で構成し、安全上重要な負荷等に給電する設計とする。</td> </tr> </tbody> </table>	技術基準	機能要求②	主な仕様 (詳細設計)	第十二条 溢水防護	様式-6,7 発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ (以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ (機能喪失高さ) ・防護上の区画番号	第十三条 化学薬品防護	発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ (以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水 (以下「没液」という。)により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ (機能喪失高さ) ・防護上の区画番号	第二十九条 保安電源設備	非常用の所内高圧系統 (メタルクラッド開閉装置で構成)は、高圧主母線および高圧母線で構成し、安全上重要な負荷等に給電する設計とする。	・容量 ・電圧 ・周波数 ・結線法 ・冷却法 ・主要寸法	第四十六条 電源設備	非常用の所内低圧系統は、低圧母線で構成し、安全上重要な負荷等に給電する設計とする。	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前^{*3}</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td colspan="2">名称</td><td>主要変圧器</td><td></td></tr> <tr><td colspan="2">種類</td><td>－</td><td>屋外用三相二巻線外鉄無圧密封式</td></tr> <tr><td colspan="2">容量</td><td>kVA</td><td>1300000</td></tr> <tr><td rowspan="2">電圧</td><td>一次</td><td>kV^{*1}</td><td>18.525^{*1}</td></tr> <tr><td>二次</td><td>kV</td><td>F293.75/F287.5/F281.25/R275</td></tr> <tr><td colspan="2">相</td><td>－</td><td>3</td></tr> <tr><td colspan="2">周波数</td><td>Hz</td><td>50</td></tr> <tr><td rowspan="3">結線法</td><td>一次</td><td>－</td><td>三角形</td></tr> <tr><td>二次</td><td>－</td><td>星形</td></tr> <tr><td>三次</td><td>－</td><td>－</td></tr> <tr><td colspan="2">冷却法</td><td>－</td><td>導油風冷式</td></tr> </tbody> </table>			変更前 ^{*3}	変更後	名称		主要変圧器		種類		－	屋外用三相二巻線外鉄無圧密封式	容量		kVA	1300000	電圧	一次	kV ^{*1}	18.525 ^{*1}	二次	kV	F293.75/F287.5/F281.25/R275	相		－	3	周波数		Hz	50	結線法	一次	－	三角形	二次	－	星形	三次	－	－	冷却法		－	導油風冷式	<p>変圧器の構造上三次側が存在しないため記載しない。</p>
名称	－	非常用動力用変圧器 A, B (00-000-00, 00)																																																																																																																																																					
種類	－	〇〇																																																																																																																																																					
設計条件	耐震クラス	－																																																																																																																																																					
仕様	用塗	－																																																																																																																																																					
	主要寸法	高さ mm	〇〇																																																																																																																																																				
	個数	－	〇〇																																																																																																																																																				
		変更前	変更後																																																																																																																																																				
名称		非常用動力用変圧器 A, B (00-000-00, 00)																																																																																																																																																					
種類		－	〇〇																																																																																																																																																				
容量		kVA	〇〇																																																																																																																																																				
電圧	一次	V	〇〇																																																																																																																																																				
	二次	V	〇〇																																																																																																																																																				
周波数		Hz	〇〇																																																																																																																																																				
結線法	一次	－	〇〇																																																																																																																																																				
	二次	－	〇〇																																																																																																																																																				
冷却法		－	〇〇																																																																																																																																																				
主要寸法	幅	mm	〇〇 ^{*1*}																																																																																																																																																				
	奥行	mm	〇〇 ^{*1*}																																																																																																																																																				
	高さ	mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																				
取付箇所	個数	－	〇〇																																																																																																																																																				
	系統名 (ライン名)	－	〇〇																																																																																																																																																				
	設置床	－	〇〇																																																																																																																																																				
	溢水防護上の区画番号	－	－																																																																																																																																																				
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－	〇〇																																																																																																																																																				
化学薬品防護上の区画番号	－	〇〇																																																																																																																																																					
化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	－	〇〇																																																																																																																																																					
技術基準	機能要求②	主な仕様 (詳細設計)																																																																																																																																																					
第十二条 溢水防護	様式-6,7 発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ (以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ (機能喪失高さ) ・防護上の区画番号																																																																																																																																																					
第十三条 化学薬品防護	発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ (以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水 (以下「没液」という。)により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ (機能喪失高さ) ・防護上の区画番号																																																																																																																																																					
第二十九条 保安電源設備	非常用の所内高圧系統 (メタルクラッド開閉装置で構成)は、高圧主母線および高圧母線で構成し、安全上重要な負荷等に給電する設計とする。	・容量 ・電圧 ・周波数 ・結線法 ・冷却法 ・主要寸法																																																																																																																																																					
第四十六条 電源設備	非常用の所内低圧系統は、低圧母線で構成し、安全上重要な負荷等に給電する設計とする。																																																																																																																																																						
		変更前 ^{*3}	変更後																																																																																																																																																				
名称		主要変圧器																																																																																																																																																					
種類		－	屋外用三相二巻線外鉄無圧密封式																																																																																																																																																				
容量		kVA	1300000																																																																																																																																																				
電圧	一次	kV ^{*1}	18.525 ^{*1}																																																																																																																																																				
	二次	kV	F293.75/F287.5/F281.25/R275																																																																																																																																																				
相		－	3																																																																																																																																																				
周波数		Hz	50																																																																																																																																																				
結線法	一次	－	三角形																																																																																																																																																				
	二次	－	星形																																																																																																																																																				
	三次	－	－																																																																																																																																																				
冷却法		－	導油風冷式																																																																																																																																																				
<p>基本設計方針で展開。</p> <p>主要設備リストで展開。</p> <p>添付書類に位置づけを変更したため、記載を削除。</p>	<p>注記 *1：公称値を示す。 *2：既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。</p>	<table border="1"> <tr> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> </table>	機種で統一して記載する仕様項目	構造分類に係る仕様項目	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前^{*3}</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="2">個数</td><td>常用</td><td>－</td><td>1</td></tr> <tr><td>予備</td><td>－</td><td>0</td></tr> <tr><td rowspan="4">取付箇所</td><td>系統名 (ライン名)</td><td>－</td><td>主要変圧器</td></tr> <tr><td>設置床</td><td>－</td><td>屋外 EL.約 8 m^{*2}</td></tr> <tr><td>溢水防護上の区画番号</td><td>－</td><td>－</td></tr> <tr><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>－</td><td>－</td></tr> </tbody> </table>			変更前 ^{*3}	変更後	個数	常用	－	1	予備	－	0	取付箇所	系統名 (ライン名)	－	主要変圧器	設置床	－	屋外 EL.約 8 m ^{*2}	溢水防護上の区画番号	－	－	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－	－	<p>注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「18,525V」と記載。 *2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。 *3：記載内容は、既工事計画書 (平成 23 年 11 月 4 日付け発室発第 298 号工事計画届出書) による。なお、本工事計画書は、届け出した工事計画に対して基本設計方針の変更を行うことに伴い申請するものである。</p>																																																																																																																									
機種で統一して記載する仕様項目	構造分類に係る仕様項目																																																																																																																																																						
		変更前 ^{*3}	変更後																																																																																																																																																				
個数	常用	－	1																																																																																																																																																				
	予備	－	0																																																																																																																																																				
取付箇所	系統名 (ライン名)	－	主要変圧器																																																																																																																																																				
	設置床	－	屋外 EL.約 8 m ^{*2}																																																																																																																																																				
	溢水防護上の区画番号	－	－																																																																																																																																																				
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－	－																																																																																																																																																				

仕様表記載例 19【機種：電源盤】

[常設] [構造分類：－] [付属構造：－]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																																	
<table border="1" data-bbox="100 306 709 457"> <tr> <td>名称</td> <td>－</td> <td>6.9kV 非常用メタクラ A, B (00-00)</td> </tr> <tr> <td>設計条件</td> <td>耐震クラス</td> <td>－ ○○</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">仕様</td> <td>用途</td> <td>－ ○○</td> </tr> <tr> <td>電圧</td> <td>V ○○</td> </tr> <tr> <td>主要寸法 高さ</td> <td>mm ○○</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>－ ○○</td> </tr> </table> <p data-bbox="100 474 409 499">構造図：第 3.2.1.1.11-11 図に示す。</p> <div data-bbox="498 520 715 716"> <p>主要設備リストで展開。</p> <p>基本設計方針で展開。</p> <p>添付書類に位置づけ変更したため、記載を削除</p> </div>	名称	－	6.9kV 非常用メタクラ A, B (00-00)	設計条件	耐震クラス	－ ○○	仕様	用途	－ ○○	電圧	V ○○	主要寸法 高さ	mm ○○	個数	－ ○○	<table border="1" data-bbox="739 285 1344 684"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td colspan="2">6.9kV 非常用メタクラ A, B (00-00)</td> </tr> <tr> <td>電圧</td> <td>V</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>電流</td> <td>A</td> <td>○○^{*2}</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要寸法</td> <td>幅</td> <td>○○^{*1*2}</td> <td rowspan="3">変更なし</td> </tr> <tr> <td>奥行</td> <td>○○^{*1*2}</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>○○^{*1}</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>－</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">取付箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>－</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>－</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>－</td> <td>－ ○○</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>－</td> <td>－ ○○</td> </tr> <tr> <td>化学薬品防護上の区画番号</td> <td>－</td> <td>－ ○○</td> </tr> <tr> <td>化学薬品防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>－</td> <td>－ ○○</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="739 688 1344 747">注記 *1：公称値を示す。 *2：既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p> <table border="1" data-bbox="819 764 1205 831"> <tr> <td style="background-color: #e0e0e0;"></td> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #c0c0c0;"></td> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> </table>			変更前	変更後	名称		6.9kV 非常用メタクラ A, B (00-00)		電圧	V	○○		電流	A	○○ ^{*2}		主要寸法	幅	○○ ^{*1*2}	変更なし	奥行	○○ ^{*1*2}	高さ	○○ ^{*1}	個数	－	○○		取付箇所	系統名 (ライン名)	－	○○	設置床	－	○○	溢水防護上の区画番号	－	－ ○○	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－	－ ○○	化学薬品防護上の区画番号	－	－ ○○	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	－	－ ○○		機種で統一して記載する仕様項目		構造分類に係る仕様項目	<table border="1" data-bbox="1374 306 1979 968"> <thead> <tr> <th>技術基準</th> <th>機能要求②</th> <th>主な仕様 (詳細設計)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>様式-6,7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第十二条 溢水防護</td> <td>発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td> <td>取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号</td> </tr> <tr> <td>第十三条 化学薬品防護</td> <td>発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水（以下「没液」という。）により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td> <td>取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号</td> </tr> <tr> <td>第二十九条 保安電源設備 第四十六条 電源設備</td> <td>非常用の所内高圧系統（メタルクラッド開閉装置で構成）は、高圧主母線および高圧母線で構成し、安全上重要な負荷等に給電する設計とする。 非常用の所内低圧系統は、低圧母線で構成し、安全上重要な負荷等に給電する設計とする。</td> <td>・電圧 ・電流 ・主要寸法</td> </tr> </tbody> </table>	技術基準	機能要求②	主な仕様 (詳細設計)		様式-6,7		第十二条 溢水防護	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号	第十三条 化学薬品防護	発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水（以下「没液」という。）により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号	第二十九条 保安電源設備 第四十六条 電源設備	非常用の所内高圧系統（メタルクラッド開閉装置で構成）は、高圧主母線および高圧母線で構成し、安全上重要な負荷等に給電する設計とする。 非常用の所内低圧系統は、低圧母線で構成し、安全上重要な負荷等に給電する設計とする。	・電圧 ・電流 ・主要寸法	<p data-bbox="2009 285 2650 789"><発電炉の要目表なし> 以下発電炉の基本設計方針抜粋 4 非常用電源設備の基本設計方針、適用基準及び適用規格 (1) 基本設計方針 第 2 章 個別項目 1. 非常用電源設備の電源系統 1.2 代替所内電気系統 (省略) これとは別に上記 3 系統の非常用母線等の機能が喪失したことにより発生する重大事故等の対応に必要な設備に電力を給電する代替所内電気設備として、緊急用断路器 (6900V, 1200A のものを 1 個)、緊急用メタルクラッド開閉装置 (6900V, 1200A のものを 1 個)、緊急用動力変圧器 (2000kVA, 6900/480V のものを 1 個)、緊急用パワーセンタ (480V, 3000A のものを 1 個)、緊急用モータコントロールセンタ (480V, 800A のものを 3 個)、可搬型代替低圧電源車接続盤 (交流入出力 (480V, 1600A)、可搬型整流器交流入力 (210V, 600A)、可搬型整流器直流出力 (150V, 400A) のものを 2 個)、緊急用計装交流主母線盤 (50 kVA, 480/240-120V のものを 1 個)、緊急用直流 125V 充電器 (125V, 700A のものを 1 個)、可搬型整流器用変圧器 (150kVA, 480/210V のものを 2 個)、可搬型代替直流電源設備用電源切替盤 (125V, 400A のものを 1 個)、緊急用直流 125V 主母線盤 (125V, 1200A のものを 1 個)、緊急用直流 125V モータコントロールセンタ (125V, 400A のものを 1 個)、緊急用直流 125V 計装分電盤 (125V, 400A のものを 1 個)、緊急用無停電電源装置、緊急用無停電計装分電盤 (120V, 400A のものを 1 個)、緊急用電源切替盤 (緊急用交流電源切替盤 (480V, 65A のものを 2 個)、緊急用直流電源切替盤 (125V, 120A のものを 1 個)、緊急用直流計装電源切替盤 (125V, 50A のものを 2 個)、緊急用無停電計装電源切替盤 (120V, 50A のものを 1 個)) を使用できる設計とする。</p>	
名称	－	6.9kV 非常用メタクラ A, B (00-00)																																																																																			
設計条件	耐震クラス	－ ○○																																																																																			
仕様	用途	－ ○○																																																																																			
	電圧	V ○○																																																																																			
	主要寸法 高さ	mm ○○																																																																																			
	個数	－ ○○																																																																																			
		変更前	変更後																																																																																		
名称		6.9kV 非常用メタクラ A, B (00-00)																																																																																			
電圧	V	○○																																																																																			
電流	A	○○ ^{*2}																																																																																			
主要寸法	幅	○○ ^{*1*2}	変更なし																																																																																		
	奥行	○○ ^{*1*2}																																																																																			
	高さ	○○ ^{*1}																																																																																			
個数	－	○○																																																																																			
取付箇所	系統名 (ライン名)	－	○○																																																																																		
	設置床	－	○○																																																																																		
	溢水防護上の区画番号	－	－ ○○																																																																																		
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－	－ ○○																																																																																		
	化学薬品防護上の区画番号	－	－ ○○																																																																																		
化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	－	－ ○○																																																																																			
	機種で統一して記載する仕様項目																																																																																				
	構造分類に係る仕様項目																																																																																				
技術基準	機能要求②	主な仕様 (詳細設計)																																																																																			
	様式-6,7																																																																																				
第十二条 溢水防護	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号																																																																																			
第十三条 化学薬品防護	発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水（以下「没液」という。）により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号																																																																																			
第二十九条 保安電源設備 第四十六条 電源設備	非常用の所内高圧系統（メタルクラッド開閉装置で構成）は、高圧主母線および高圧母線で構成し、安全上重要な負荷等に給電する設計とする。 非常用の所内低圧系統は、低圧母線で構成し、安全上重要な負荷等に給電する設計とする。	・電圧 ・電流 ・主要寸法																																																																																			

仕様表記載例 20【機種：無停電電源装置】

[常設] [構造分類：－] [付属構造：－]

既認可の仕様表		仕様表案		要求事項の整理		発電炉類似設備要目表		備考																																																																																																																										
<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>105V非常用無停電電源装置A, B (KA-UPS-A, B)</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>静止形定電圧定周波数電源装置</td> </tr> <tr> <td>設計条件</td> <td>耐震クラス A s</td> </tr> <tr> <td>用途</td> <td>非常用系</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>kVA 20</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">電圧</td> <td>交流入力 V 440</td> </tr> <tr> <td>直流入力 V 110</td> </tr> <tr> <td>交流出力 V 105</td> </tr> <tr> <td>周波数</td> <td>出 50</td> </tr> <tr> <td>予備変圧器容量</td> <td>kVA 20</td> </tr> <tr> <td>主要寸法</td> <td>高さ mm 2300</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>2</td> </tr> </table> <p>構造図：第3.2.1.1.7-6図に示す。</p>		名称	105V非常用無停電電源装置A, B (KA-UPS-A, B)	種類	静止形定電圧定周波数電源装置	設計条件	耐震クラス A s	用途	非常用系	容量	kVA 20	電圧	交流入力 V 440	直流入力 V 110	交流出力 V 105	周波数	出 50	予備変圧器容量	kVA 20	主要寸法	高さ mm 2300	個数	2	<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>105V非常用無停電電源装置A, B (00-000-0,0)</td> <td>変更前</td> <td>変更後</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>インバータ盤</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">容量</td> <td>入力 kVA/台</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>出力 kVA/台</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">電圧</td> <td>入力 V</td> <td>交流○○</td> <td>交流○○</td> </tr> <tr> <td>出力 V</td> <td>直流○○</td> <td>直流○○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">周波数</td> <td>入力 Hz</td> <td>○○及び直流</td> <td>○○及び直流</td> </tr> <tr> <td>出力 Hz</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要寸法</td> <td>幅 mm</td> <td>○○^{*1*2}</td> <td>○○^{*1*2}</td> </tr> <tr> <td>奥行 mm</td> <td>○○^{*1*2}</td> <td>○○^{*1*2}</td> </tr> <tr> <td>高さ mm</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">取付箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>化学薬品防護上の区画番号</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>化学薬品防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> </table> <p>注記 *1：公称値を示す。 *2：既設工事申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p> <table border="1"> <tr> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> </table>		名称	105V非常用無停電電源装置A, B (00-000-0,0)	変更前	変更後	種類	インバータ盤	○○	○○	容量	入力 kVA/台	○○	○○	出力 kVA/台	○○	○○	電圧	入力 V	交流○○	交流○○	出力 V	直流○○	直流○○	周波数	入力 Hz	○○及び直流	○○及び直流	出力 Hz	○○	○○	主要寸法	幅 mm	○○ ^{*1*2}	○○ ^{*1*2}	奥行 mm	○○ ^{*1*2}	○○ ^{*1*2}	高さ mm	○○	○○	取付箇所	系統名 (ライン名)	○○	○○	設置床	○○	○○	溢水防護上の区画番号	○○	○○	溢水防護上の配慮が必要な高さ	○○	○○	化学薬品防護上の区画番号	○○	○○	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	○○	○○	機種で統一して記載する仕様項目	構造分類に係る仕様項目	<table border="1"> <tr> <td>技術基準</td> <td>機能要求② 様式-6,7</td> <td>主な仕様 (詳細設計)</td> </tr> <tr> <td>第十二条 溢水防護</td> <td>発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。 防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td> <td>取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号</td> </tr> <tr> <td>第十三条 化学薬品防護</td> <td>発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。 防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水（以下「没液」という。）により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td> <td>取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号</td> </tr> <tr> <td>第二十九条 保安電源設備</td> <td>再処理施設の安全性を確保するために特に必要な設備に対し、計測制御用電源設備として、無停電電源装置を設置する設計とする。</td> <td>・容量 ・電圧 ・周波数 ・主要寸法</td> </tr> <tr> <td>第四十六条 電源設備</td> <td>非常用電源設備及びその附属設備は、多重性を確保し、及び独立性を確保し、その系統を構成する機械又は器具の単一故障が発生した場合であっても、運転時の異常な過渡変化時又は設計基準事故時において安全上重要な施設及び設計基準事故に対処するための設備がその機能を確保するために十分な容量を有する設計とする。 非常用の計測制御用交流電源設備は、安全上重要な負荷のうち、平常時及び異常時の監視制御用に、常に電源を必要とする負荷に給電するための非常用所内電源として、無停電電源装置、非常用無停電交流母線及び計測交流電源の計測母線で構成し、給電する設計とする。</td> <td></td> </tr> </table>		技術基準	機能要求② 様式-6,7	主な仕様 (詳細設計)	第十二条 溢水防護	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。 防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号	第十三条 化学薬品防護	発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。 防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水（以下「没液」という。）により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号	第二十九条 保安電源設備	再処理施設の安全性を確保するために特に必要な設備に対し、計測制御用電源設備として、無停電電源装置を設置する設計とする。	・容量 ・電圧 ・周波数 ・主要寸法	第四十六条 電源設備	非常用電源設備及びその附属設備は、多重性を確保し、及び独立性を確保し、その系統を構成する機械又は器具の単一故障が発生した場合であっても、運転時の異常な過渡変化時又は設計基準事故時において安全上重要な施設及び設計基準事故に対処するための設備がその機能を確保するために十分な容量を有する設計とする。 非常用の計測制御用交流電源設備は、安全上重要な負荷のうち、平常時及び異常時の監視制御用に、常に電源を必要とする負荷に給電するための非常用所内電源として、無停電電源装置、非常用無停電交流母線及び計測交流電源の計測母線で構成し、給電する設計とする。		<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>非常用無停電電源装置</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>静止形定電圧定周波数電源装置</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>kVA/個 35</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">電圧</td> <td>入力 V 交流 440</td> </tr> <tr> <td>出力 V 直流 125</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">周波数</td> <td>入力 Hz 交流 120</td> </tr> <tr> <td>出力 Hz 50 及び 直流</td> </tr> <tr> <td>主要寸法</td> <td>高さ mm 1300*</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>非常用無停電電源装置 A 非常用無停電電源装置 B</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>EL. 8.20 m EL. 8.20 m</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>CS-1-3 CS-1-3</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>EL. 8.20 m以上 EL. 8.20 m以上</td> </tr> </table> <p>注記 *：公称値を示す。</p>		名称	非常用無停電電源装置	種類	静止形定電圧定周波数電源装置	容量	kVA/個 35	電圧	入力 V 交流 440	出力 V 直流 125	周波数	入力 Hz 交流 120	出力 Hz 50 及び 直流	主要寸法	高さ mm 1300*	個数	2	取付箇所	系統名 (ライン名)	非常用無停電電源装置 A 非常用無停電電源装置 B	設置床	EL. 8.20 m EL. 8.20 m	溢水防護上の区画番号	CS-1-3 CS-1-3	溢水防護上の配慮が必要な高さ	EL. 8.20 m以上 EL. 8.20 m以上	
名称	105V非常用無停電電源装置A, B (KA-UPS-A, B)																																																																																																																																	
種類	静止形定電圧定周波数電源装置																																																																																																																																	
設計条件	耐震クラス A s																																																																																																																																	
用途	非常用系																																																																																																																																	
容量	kVA 20																																																																																																																																	
電圧	交流入力 V 440																																																																																																																																	
	直流入力 V 110																																																																																																																																	
	交流出力 V 105																																																																																																																																	
周波数	出 50																																																																																																																																	
予備変圧器容量	kVA 20																																																																																																																																	
主要寸法	高さ mm 2300																																																																																																																																	
個数	2																																																																																																																																	
名称	105V非常用無停電電源装置A, B (00-000-0,0)	変更前	変更後																																																																																																																															
種類	インバータ盤	○○	○○																																																																																																																															
容量	入力 kVA/台	○○	○○																																																																																																																															
	出力 kVA/台	○○	○○																																																																																																																															
電圧	入力 V	交流○○	交流○○																																																																																																																															
	出力 V	直流○○	直流○○																																																																																																																															
周波数	入力 Hz	○○及び直流	○○及び直流																																																																																																																															
	出力 Hz	○○	○○																																																																																																																															
主要寸法	幅 mm	○○ ^{*1*2}	○○ ^{*1*2}																																																																																																																															
	奥行 mm	○○ ^{*1*2}	○○ ^{*1*2}																																																																																																																															
	高さ mm	○○	○○																																																																																																																															
取付箇所	系統名 (ライン名)	○○	○○																																																																																																																															
	設置床	○○	○○																																																																																																																															
	溢水防護上の区画番号	○○	○○																																																																																																																															
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	○○	○○																																																																																																																															
	化学薬品防護上の区画番号	○○	○○																																																																																																																															
化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	○○	○○																																																																																																																																
機種で統一して記載する仕様項目																																																																																																																																		
構造分類に係る仕様項目																																																																																																																																		
技術基準	機能要求② 様式-6,7	主な仕様 (詳細設計)																																																																																																																																
第十二条 溢水防護	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。 防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号																																																																																																																																
第十三条 化学薬品防護	発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。 防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水（以下「没液」という。）により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号																																																																																																																																
第二十九条 保安電源設備	再処理施設の安全性を確保するために特に必要な設備に対し、計測制御用電源設備として、無停電電源装置を設置する設計とする。	・容量 ・電圧 ・周波数 ・主要寸法																																																																																																																																
第四十六条 電源設備	非常用電源設備及びその附属設備は、多重性を確保し、及び独立性を確保し、その系統を構成する機械又は器具の単一故障が発生した場合であっても、運転時の異常な過渡変化時又は設計基準事故時において安全上重要な施設及び設計基準事故に対処するための設備がその機能を確保するために十分な容量を有する設計とする。 非常用の計測制御用交流電源設備は、安全上重要な負荷のうち、平常時及び異常時の監視制御用に、常に電源を必要とする負荷に給電するための非常用所内電源として、無停電電源装置、非常用無停電交流母線及び計測交流電源の計測母線で構成し、給電する設計とする。																																																																																																																																	
名称	非常用無停電電源装置																																																																																																																																	
種類	静止形定電圧定周波数電源装置																																																																																																																																	
容量	kVA/個 35																																																																																																																																	
電圧	入力 V 交流 440																																																																																																																																	
	出力 V 直流 125																																																																																																																																	
周波数	入力 Hz 交流 120																																																																																																																																	
	出力 Hz 50 及び 直流																																																																																																																																	
主要寸法	高さ mm 1300*																																																																																																																																	
個数	2																																																																																																																																	
取付箇所	系統名 (ライン名)	非常用無停電電源装置 A 非常用無停電電源装置 B																																																																																																																																
	設置床	EL. 8.20 m EL. 8.20 m																																																																																																																																
	溢水防護上の区画番号	CS-1-3 CS-1-3																																																																																																																																
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	EL. 8.20 m以上 EL. 8.20 m以上																																																																																																																																

主要設備リストで展開。
基本設計方針で展開。
添付書類に位置づけを変更したため、記載を削除。

仕様表記載例 21a 【機種：電力貯蔵装置（蓄電池）】

[常設] [構造分類：－] [付属構造：－]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																																																																																															
<p>基本設計方針で展開。 主要設備リストで展開。</p> <p>(4) 非常用直流電源設備 (4.1) 蓄電池</p> <table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>-</td> <td>110V第2非常用蓄電池A1, B1</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>-</td> <td>〇〇〇〇 式据置鉛蓄電池</td> </tr> <tr> <td>設計条件</td> <td>耐震クラス</td> <td>A s</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">仕様</td> <td>用途</td> <td>非常用系</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>Ah 〇〇〇</td> </tr> <tr> <td>電圧</td> <td>V 〇〇〇</td> </tr> <tr> <td>主要寸法 高さ</td> <td>mm 〇〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>- 〇</td> </tr> </table> <p>構造図：第3.2.1.1.11-13図及び第3.2.1.1.11-14図に示す。</p> <p>添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除</p>	名称	-	110V第2非常用蓄電池A1, B1	種類	-	〇〇〇〇 式据置鉛蓄電池	設計条件	耐震クラス	A s	仕様	用途	非常用系	容量	Ah 〇〇〇	電圧	V 〇〇〇	主要寸法 高さ	mm 〇〇〇	個数	- 〇	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名称</td> <td></td> <td></td> <td>110V第2非常用蓄電池 (00-00-00)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td></td> <td></td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>Ah</td> <td></td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td>電圧</td> <td>V</td> <td></td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要寸法</td> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1*}</td> <td rowspan="3">変更なし</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1*}</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*1*}</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">個数</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>化学薬品防護上の区画番号</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>化学薬品防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>取付箇所</p> <p>注記 *1：公称値を示す。 *2：既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。</p> <table border="1"> <tr> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> </table>			変更前	変更後		名称			110V第2非常用蓄電池 (00-00-00)		種類			〇〇		容量	Ah		〇〇		電圧	V		〇〇		主要寸法	たて	mm	〇〇 ^{*1*}	変更なし	横	mm	〇〇 ^{*1*}	高さ	mm	〇〇 ^{*1*}	個数	系統名 (ライン名)	-	〇〇		設置床	-	〇〇		溢水防護上の区画番号	-	-	〇〇	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	-	〇〇	化学薬品防護上の区画番号	-	-	〇〇	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	-	-	〇〇		機種で統一して記載する仕様項目	構造分類に係る仕様項目	<table border="1"> <thead> <tr> <th>技術基準</th> <th>機能要求②</th> <th>主な仕様 (詳細設計)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第十二条 溢水防護</td> <td>様式-6,7 発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td> <td>取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号</td> </tr> <tr> <td>第十三条 化学薬品防護</td> <td>発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水（以下「没液」という。）により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td> <td>取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号</td> </tr> <tr> <td>第二十九条 保安電源設備 第四十六条 電源設備</td> <td>非常用直流電源設備は、安全上重要な負荷のうち、平常時及び異常時の監視制御用に、常に電源を必要とする負荷に給電するための非常用所内電源として、110V及び220V蓄電池、110V充電器盤及び110V直流主分電盤で構成し、給電する設計とする。</td> <td>・容量 ・電圧 ・個数 ・主要寸法</td> </tr> </tbody> </table>	技術基準	機能要求②	主な仕様 (詳細設計)	第十二条 溢水防護	様式-6,7 発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号	第十三条 化学薬品防護	発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水（以下「没液」という。）により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号	第二十九条 保安電源設備 第四十六条 電源設備	非常用直流電源設備は、安全上重要な負荷のうち、平常時及び異常時の監視制御用に、常に電源を必要とする負荷に給電するための非常用所内電源として、110V及び220V蓄電池、110V充電器盤及び110V直流主分電盤で構成し、給電する設計とする。	・容量 ・電圧 ・個数 ・主要寸法	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名称</td> <td></td> <td></td> <td>緊急用125V系蓄電池</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td></td> <td></td> <td>制御弁式据置鉛蓄電池</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>Ah/組</td> <td></td> <td>6000 (10時間率)</td> </tr> <tr> <td>電圧</td> <td>V</td> <td></td> <td>125^{*1}</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要寸法</td> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*2}</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*2}</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*2}</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">個数</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>-</td> <td>1 (1組当たり120個)</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>-</td> <td>緊急用125V系蓄電池</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>-</td> <td>EL. 8.20 m / EL. 10.50 m</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">取付箇所</td> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>-</td> <td>EW-1-7</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>-</td> <td>EL. 8.20 m 以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：通常運転時、充電器にて浮動充電電圧を133.8 V±2%に維持する。 *2：公称値を示す。 *3：() 内は架台数を示す。</p>			変更前	変更後	名称			緊急用125V系蓄電池	種類			制御弁式据置鉛蓄電池	容量	Ah/組		6000 (10時間率)	電圧	V		125 ^{*1}	主要寸法	たて	mm	〇〇 ^{*2}	横	mm	〇〇 ^{*2}	高さ	mm	〇〇 ^{*2}	個数	系統名 (ライン名)	-	1 (1組当たり120個)	設置床	-	緊急用125V系蓄電池	設置床	-	EL. 8.20 m / EL. 10.50 m	取付箇所	溢水防護上の区画番号	-	EW-1-7	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	EL. 8.20 m 以上	
名称	-	110V第2非常用蓄電池A1, B1																																																																																																																																																	
種類	-	〇〇〇〇 式据置鉛蓄電池																																																																																																																																																	
設計条件	耐震クラス	A s																																																																																																																																																	
仕様	用途	非常用系																																																																																																																																																	
	容量	Ah 〇〇〇																																																																																																																																																	
	電圧	V 〇〇〇																																																																																																																																																	
	主要寸法 高さ	mm 〇〇〇																																																																																																																																																	
	個数	- 〇																																																																																																																																																	
		変更前	変更後																																																																																																																																																
名称			110V第2非常用蓄電池 (00-00-00)																																																																																																																																																
種類			〇〇																																																																																																																																																
容量	Ah		〇〇																																																																																																																																																
電圧	V		〇〇																																																																																																																																																
主要寸法	たて	mm	〇〇 ^{*1*}	変更なし																																																																																																																																															
	横	mm	〇〇 ^{*1*}																																																																																																																																																
	高さ	mm	〇〇 ^{*1*}																																																																																																																																																
個数	系統名 (ライン名)	-	〇〇																																																																																																																																																
	設置床	-	〇〇																																																																																																																																																
	溢水防護上の区画番号	-	-	〇〇																																																																																																																																															
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	-	〇〇																																																																																																																																															
	化学薬品防護上の区画番号	-	-	〇〇																																																																																																																																															
化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	-	-	〇〇																																																																																																																																																
機種で統一して記載する仕様項目																																																																																																																																																			
構造分類に係る仕様項目																																																																																																																																																			
技術基準	機能要求②	主な仕様 (詳細設計)																																																																																																																																																	
第十二条 溢水防護	様式-6,7 発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号																																																																																																																																																	
第十三条 化学薬品防護	発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水（以下「没液」という。）により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号																																																																																																																																																	
第二十九条 保安電源設備 第四十六条 電源設備	非常用直流電源設備は、安全上重要な負荷のうち、平常時及び異常時の監視制御用に、常に電源を必要とする負荷に給電するための非常用所内電源として、110V及び220V蓄電池、110V充電器盤及び110V直流主分電盤で構成し、給電する設計とする。	・容量 ・電圧 ・個数 ・主要寸法																																																																																																																																																	
		変更前	変更後																																																																																																																																																
名称			緊急用125V系蓄電池																																																																																																																																																
種類			制御弁式据置鉛蓄電池																																																																																																																																																
容量	Ah/組		6000 (10時間率)																																																																																																																																																
電圧	V		125 ^{*1}																																																																																																																																																
主要寸法	たて	mm	〇〇 ^{*2}																																																																																																																																																
	横	mm	〇〇 ^{*2}																																																																																																																																																
	高さ	mm	〇〇 ^{*2}																																																																																																																																																
個数	系統名 (ライン名)	-	1 (1組当たり120個)																																																																																																																																																
	設置床	-	緊急用125V系蓄電池																																																																																																																																																
	設置床	-	EL. 8.20 m / EL. 10.50 m																																																																																																																																																
取付箇所	溢水防護上の区画番号	-	EW-1-7																																																																																																																																																
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	EL. 8.20 m 以上																																																																																																																																																

仕様表記載例 21b 【機種：電力貯蔵装置（充電器盤）】

[常設] [構造分類：－] [付属構造：－]

既認可の仕様表		仕様表案		要求事項の整理		発電炉類似設備要目表		備考																																																																																																																																																								
<p>基本設計方針で展開。</p> <p>主要設備リストで展開。</p> <table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>110V 非常用充電器盤 A, B (00-000-0)</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>設計条件</td> <td>耐震クラス 〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">仕様</td> <td>用途 〇〇</td> </tr> <tr> <td>交流入力 相 〇〇</td> </tr> <tr> <td>周波数 Hz 〇〇</td> </tr> <tr> <td>電圧 V 〇〇</td> </tr> <tr> <td>直流出力 電圧 V 〇〇</td> </tr> <tr> <td>電流 A 〇〇</td> </tr> <tr> <td>主要寸法 高さ mm 〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数 〇〇</td> </tr> </table> <p>構造図：第 3.2.1.1.12-4 図及び第 3.2.1.1.12-5 図に示す</p> <p>添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除</p>		名称	110V 非常用充電器盤 A, B (00-000-0)	種類	〇〇	設計条件	耐震クラス 〇〇	仕様	用途 〇〇	交流入力 相 〇〇	周波数 Hz 〇〇	電圧 V 〇〇	直流出力 電圧 V 〇〇	電流 A 〇〇	主要寸法 高さ mm 〇〇	個数 〇〇	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名称</td> <td>110V 非常用充電器盤 A, B (00-000-0)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>〇〇</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">交流入力</td> <td>相</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>周波数 Hz</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>電圧 V</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">直流出力</td> <td>電圧 V</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>電流 A</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>高さ mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">主要寸法</td> <td>たて mm</td> <td>〇〇^{*1*}</td> </tr> <tr> <td>横 mm</td> <td>〇〇^{*1*}</td> </tr> <tr> <td>高さ mm</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>設置床</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>化学薬品防護上の区画番号</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">化学薬品防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：公称値を示す。 *2：既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。</p> <table border="1"> <tr> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> </table>		変更前		変更後	名称	110V 非常用充電器盤 A, B (00-000-0)		種類	〇〇		交流入力	相	〇〇	周波数 Hz	〇〇	電圧 V	〇〇	直流出力	電圧 V	〇〇	電流 A	〇〇	高さ mm	〇〇 ^{*1}	主要寸法	たて mm	〇〇 ^{*1*}	横 mm	〇〇 ^{*1*}	高さ mm	〇〇 ^{*1}	個数	〇〇	系統名 (ライン名)	〇〇	取付箇所	設置床	〇〇	溢水防護上の区画番号	—	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	化学薬品防護上の区画番号	—	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	—	〇〇	—	〇〇	機種で統一して記載する仕様項目	構造分類に係る仕様項目	<table border="1"> <thead> <tr> <th>技術基準</th> <th>機能要求② 様式-6,7</th> <th>主な仕様 (詳細設計)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第十二条 溢水防護</td> <td>発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。 防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td> <td>取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号</td> </tr> <tr> <td>第十三条 化学薬品防護</td> <td>発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。 防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水（以下「没液」という。）により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td> <td>取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号</td> </tr> <tr> <td>第二十九条 保安電源設備 第四十六条 電源設備</td> <td>非常用直流電源設備は、安全上重要な負荷のうち、平常時及び異常時の監視制御用に、常に電源を必要とする負荷に給電するための非常用所内電源として、110V及び220V蓄電池、110V充電器盤及び110V直流主分電盤で構成し、給電する設計とする。</td> <td>・相 ・周波数 ・電圧 ・電流 ・主要寸法</td> </tr> </tbody> </table>		技術基準	機能要求② 様式-6,7	主な仕様 (詳細設計)	第十二条 溢水防護	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。 防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号	第十三条 化学薬品防護	発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。 防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水（以下「没液」という。）により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号	第二十九条 保安電源設備 第四十六条 電源設備	非常用直流電源設備は、安全上重要な負荷のうち、平常時及び異常時の監視制御用に、常に電源を必要とする負荷に給電するための非常用所内電源として、110V及び220V蓄電池、110V充電器盤及び110V直流主分電盤で構成し、給電する設計とする。	・相 ・周波数 ・電圧 ・電流 ・主要寸法	<p>(1) 無停電電源装置の名称、種類、容量、電圧、周波数、主要寸法、個数及び取付箇所</p> <p>・常設 (計装用電源)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種別</td> <td>計装用電源</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>静止型インバータ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>電圧</td> <td>直流 125 交流 440</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>周波数</td> <td>60</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主要寸法</td> <td>たて mm</td> <td>1,300 (H1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>横 mm</td> <td>2,250 (H2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高さ mm</td> <td>1,900 (H3)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>4</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">系統名 (ライン名)</th> <th colspan="4">変更前</th> <th colspan="4">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>(H1)</td> <td>(H2)</td> <td>(H3)</td> <td>(H4)</td> <td>(H1)</td> <td>(H2)</td> <td>(H3)</td> <td>(H4)</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>(H1)</td> <td>(H2)</td> <td>(H3)</td> <td>(H4)</td> <td>(H1)</td> <td>(H2)</td> <td>(H3)</td> <td>(H4)</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td>(H1)</td> <td>(H2)</td> <td>(H3)</td> <td>(H4)</td> <td>(H1)</td> <td>(H2)</td> <td>(H3)</td> <td>(H4)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注1) 公称値 (注2) 既設工事計画書（平成24年2月22日付け原簿第475号、平成24-02-22第8号 H24.3.29認可）に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成29年8月25日付け原簿第1708254号にて認可された工事計画による。 (注3) 記載内容は、平成29年8月25日付け原簿第1708254号にて認可された工事計画に同じ。</p>		名称		変更前	変更後	種別	計装用電源			容量	静止型インバータ			電圧	直流 125 交流 440			周波数	60			主要寸法	たて mm	1,300 (H1)		横 mm	2,250 (H2)		高さ mm	1,900 (H3)			個数	4			系統名 (ライン名)		変更前				変更後				設置床	—	(H1)	(H2)	(H3)	(H4)	(H1)	(H2)	(H3)	(H4)	溢水防護上の区画番号	—	(H1)	(H2)	(H3)	(H4)	(H1)	(H2)	(H3)	(H4)	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	(H1)	(H2)	(H3)	(H4)	(H1)	(H2)	(H3)	(H4)	
名称	110V 非常用充電器盤 A, B (00-000-0)																																																																																																																																																															
種類	〇〇																																																																																																																																																															
設計条件	耐震クラス 〇〇																																																																																																																																																															
仕様	用途 〇〇																																																																																																																																																															
	交流入力 相 〇〇																																																																																																																																																															
	周波数 Hz 〇〇																																																																																																																																																															
	電圧 V 〇〇																																																																																																																																																															
	直流出力 電圧 V 〇〇																																																																																																																																																															
	電流 A 〇〇																																																																																																																																																															
主要寸法 高さ mm 〇〇																																																																																																																																																																
個数 〇〇																																																																																																																																																																
変更前		変更後																																																																																																																																																														
名称	110V 非常用充電器盤 A, B (00-000-0)																																																																																																																																																															
種類	〇〇																																																																																																																																																															
交流入力	相	〇〇																																																																																																																																																														
	周波数 Hz	〇〇																																																																																																																																																														
	電圧 V	〇〇																																																																																																																																																														
直流出力	電圧 V	〇〇																																																																																																																																																														
	電流 A	〇〇																																																																																																																																																														
	高さ mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																														
主要寸法	たて mm	〇〇 ^{*1*}																																																																																																																																																														
	横 mm	〇〇 ^{*1*}																																																																																																																																																														
	高さ mm	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																														
	個数	〇〇																																																																																																																																																														
	系統名 (ライン名)	〇〇																																																																																																																																																														
取付箇所	設置床	〇〇																																																																																																																																																														
	溢水防護上の区画番号	—																																																																																																																																																														
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—																																																																																																																																																														
	化学薬品防護上の区画番号	—																																																																																																																																																														
化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	—	〇〇																																																																																																																																																														
	—	〇〇																																																																																																																																																														
機種で統一して記載する仕様項目																																																																																																																																																																
構造分類に係る仕様項目																																																																																																																																																																
技術基準	機能要求② 様式-6,7	主な仕様 (詳細設計)																																																																																																																																																														
第十二条 溢水防護	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。 防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号																																																																																																																																																														
第十三条 化学薬品防護	発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。 防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水（以下「没液」という。）により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号																																																																																																																																																														
第二十九条 保安電源設備 第四十六条 電源設備	非常用直流電源設備は、安全上重要な負荷のうち、平常時及び異常時の監視制御用に、常に電源を必要とする負荷に給電するための非常用所内電源として、110V及び220V蓄電池、110V充電器盤及び110V直流主分電盤で構成し、給電する設計とする。	・相 ・周波数 ・電圧 ・電流 ・主要寸法																																																																																																																																																														
名称		変更前	変更後																																																																																																																																																													
種別	計装用電源																																																																																																																																																															
容量	静止型インバータ																																																																																																																																																															
電圧	直流 125 交流 440																																																																																																																																																															
周波数	60																																																																																																																																																															
主要寸法	たて mm	1,300 (H1)																																																																																																																																																														
	横 mm	2,250 (H2)																																																																																																																																																														
高さ mm	1,900 (H3)																																																																																																																																																															
個数	4																																																																																																																																																															
系統名 (ライン名)		変更前				変更後																																																																																																																																																										
設置床	—	(H1)	(H2)	(H3)	(H4)	(H1)	(H2)	(H3)	(H4)																																																																																																																																																							
溢水防護上の区画番号	—	(H1)	(H2)	(H3)	(H4)	(H1)	(H2)	(H3)	(H4)																																																																																																																																																							
溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	(H1)	(H2)	(H3)	(H4)	(H1)	(H2)	(H3)	(H4)																																																																																																																																																							

仕様表記載例 22a-1 【機種：計装／放管設備（計測装置）】

[常設] [構造分類：検出器] [付属構造：-]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																													
<p>MOX 施設にて既認可仕様表なし</p>	<table border="1" data-bbox="483 306 1202 791"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>〇〇〇混合ガス受槽入口 水素濃度検出器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>検出器の種類</td> <td>-</td> <td>〇〇式</td> </tr> <tr> <td>計測範囲</td> <td>%</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>警報動作範囲</td> <td>%</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">取付箇所</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>〇〇〇〇</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>〇〇〇〇 T.M.S.L. 〇m</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>〇〇〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>〇〇〇</td> </tr> <tr> <td>化学薬品防護上の区画番号</td> <td>〇〇〇</td> </tr> <tr> <td>化学薬品防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>〇〇〇</td> </tr> </tbody> </table> <div data-bbox="667 871 1047 905" style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 機種で統一して記載する仕様項目 </div>	名称		〇〇〇混合ガス受槽入口 水素濃度検出器	検出器の種類	-	〇〇式	計測範囲	%	〇〇	警報動作範囲	%	〇〇	個数	-	〇〇	取付箇所	系統名(ライン名)	〇〇〇〇	設置床	〇〇〇〇 T.M.S.L. 〇m	溢水防護上の区画番号	〇〇〇〇	溢水防護上の配慮が必要な高さ	〇〇〇	化学薬品防護上の区画番号	〇〇〇	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	〇〇〇	<p style="text-align: center;">【様式-6,7の整理により機能要求②としたもの】</p> <table border="1" data-bbox="1264 306 1875 1436"> <thead> <tr> <th>技術基準</th> <th>機能要求② 様式-6,7</th> <th>主な仕様 (詳細設計)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第十二条 溢水防護</td> <td> <p>6.6 防護すべき設備を内包する建屋内で発生する溢水に関する溢水評価及び防護設計方針</p> <p>6.6.1 没水の影響に対する評価及び防護設計方針</p> <p>発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。</p> <p>防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。</p> <p>また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。</p> </td> <td>取付箇所(区画番号、配慮が必要な高さ)</td> </tr> <tr> <td>第十八条 警報</td> <td> <p>設計基準対象の施設は、MOX燃料加工施設の設備の機能の喪失、誤操作その他の要因によりMOX燃料加工施設の安全性を著しく損なうおそれが生じたとき(グローブボックス内火災が生じたとき)に、これらを確実に検知して速やかに警報する設備(火災防護設備のグローブボックス温度監視装置(熱感知器))を設置する設計とする。</p> <p>設計基準対象の施設は、放射性廃棄物の排気口又はこれに近接する箇所における排気中の放射性物質の濃度が著しく上昇したときに、これらを確実に検知して速やかに警報する設備(放射線監視設備の排気モニタ)を設置する設計とする。</p> <p>設計基準対象の施設は、液体状の放射性廃棄物の廃棄施設から液体状の放射性物質が著しく漏えいするおそれが生じたときに、これを確実に検知して速やかに警報する設備(低レベル廃液処理設備のサンプル又は漏えい液受皿液位)を設置する設計とする。</p> </td> <td> <p>検出器の種類 計測範囲 警報動作範囲 個数 取付箇所 (設置床等)</p> </td> </tr> <tr> <td>第三十三条 閉じ込め</td> <td> <p>また、上記の対策によりグローブボックス排気設備及び工程室排気設備からの外部への放出経路が遮断されたことを確認するため、ダンパ出口側のダクトに可搬型ダンパ出口風速計を接続し、ダクト内の風速を計測できる設計とする。</p> </td> <td>①取付箇所 ②計測範囲</td> </tr> </tbody> </table>	技術基準	機能要求② 様式-6,7	主な仕様 (詳細設計)	第十二条 溢水防護	<p>6.6 防護すべき設備を内包する建屋内で発生する溢水に関する溢水評価及び防護設計方針</p> <p>6.6.1 没水の影響に対する評価及び防護設計方針</p> <p>発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。</p> <p>防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。</p> <p>また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。</p>	取付箇所(区画番号、配慮が必要な高さ)	第十八条 警報	<p>設計基準対象の施設は、MOX燃料加工施設の設備の機能の喪失、誤操作その他の要因によりMOX燃料加工施設の安全性を著しく損なうおそれが生じたとき(グローブボックス内火災が生じたとき)に、これらを確実に検知して速やかに警報する設備(火災防護設備のグローブボックス温度監視装置(熱感知器))を設置する設計とする。</p> <p>設計基準対象の施設は、放射性廃棄物の排気口又はこれに近接する箇所における排気中の放射性物質の濃度が著しく上昇したときに、これらを確実に検知して速やかに警報する設備(放射線監視設備の排気モニタ)を設置する設計とする。</p> <p>設計基準対象の施設は、液体状の放射性廃棄物の廃棄施設から液体状の放射性物質が著しく漏えいするおそれが生じたときに、これを確実に検知して速やかに警報する設備(低レベル廃液処理設備のサンプル又は漏えい液受皿液位)を設置する設計とする。</p>	<p>検出器の種類 計測範囲 警報動作範囲 個数 取付箇所 (設置床等)</p>	第三十三条 閉じ込め	<p>また、上記の対策によりグローブボックス排気設備及び工程室排気設備からの外部への放出経路が遮断されたことを確認するため、ダンパ出口側のダクトに可搬型ダンパ出口風速計を接続し、ダクト内の風速を計測できる設計とする。</p>	①取付箇所 ②計測範囲	<table border="1" data-bbox="1908 317 2635 642"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名 称</td> <td>格納容器内水素濃度*</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>検出器の種類</td> <td>熱伝導式水素検出器</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計測範囲</td> <td>%</td> <td>0~20 0~100</td> <td></td> </tr> <tr> <td>警報動作範囲</td> <td></td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td></td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所 (ライン名)</td> <td>系統名</td> <td>格納容器内水素濃度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>EL. 20.30 m** EL. 29.00 m**</td> <td></td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>-</td> <td>RB-3-1** RB-4-2**</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>-</td> <td>EL. 20.30 m 以上** EL. 29.00 m 以上**</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *2: 対象計器は、H2E-D23-N002A。 *3: 対象計器は、H2E-D23-N002B。</p>			変更前	変更後	名 称	格納容器内水素濃度*			検出器の種類	熱伝導式水素検出器			計測範囲	%	0~20 0~100		警報動作範囲		-		個数		2		取付箇所 (ライン名)	系統名	格納容器内水素濃度		設置床	EL. 20.30 m** EL. 29.00 m**		溢水防護上の区画番号	-	RB-3-1** RB-4-2**	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	EL. 20.30 m 以上** EL. 29.00 m 以上**	
名称		〇〇〇混合ガス受槽入口 水素濃度検出器																																																																															
検出器の種類	-	〇〇式																																																																															
計測範囲	%	〇〇																																																																															
警報動作範囲	%	〇〇																																																																															
個数	-	〇〇																																																																															
取付箇所	系統名(ライン名)	〇〇〇〇																																																																															
	設置床	〇〇〇〇 T.M.S.L. 〇m																																																																															
	溢水防護上の区画番号	〇〇〇〇																																																																															
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	〇〇〇																																																																															
	化学薬品防護上の区画番号	〇〇〇																																																																															
	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	〇〇〇																																																																															
技術基準	機能要求② 様式-6,7	主な仕様 (詳細設計)																																																																															
第十二条 溢水防護	<p>6.6 防護すべき設備を内包する建屋内で発生する溢水に関する溢水評価及び防護設計方針</p> <p>6.6.1 没水の影響に対する評価及び防護設計方針</p> <p>発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。</p> <p>防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。</p> <p>また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。</p>	取付箇所(区画番号、配慮が必要な高さ)																																																																															
第十八条 警報	<p>設計基準対象の施設は、MOX燃料加工施設の設備の機能の喪失、誤操作その他の要因によりMOX燃料加工施設の安全性を著しく損なうおそれが生じたとき(グローブボックス内火災が生じたとき)に、これらを確実に検知して速やかに警報する設備(火災防護設備のグローブボックス温度監視装置(熱感知器))を設置する設計とする。</p> <p>設計基準対象の施設は、放射性廃棄物の排気口又はこれに近接する箇所における排気中の放射性物質の濃度が著しく上昇したときに、これらを確実に検知して速やかに警報する設備(放射線監視設備の排気モニタ)を設置する設計とする。</p> <p>設計基準対象の施設は、液体状の放射性廃棄物の廃棄施設から液体状の放射性物質が著しく漏えいするおそれが生じたときに、これを確実に検知して速やかに警報する設備(低レベル廃液処理設備のサンプル又は漏えい液受皿液位)を設置する設計とする。</p>	<p>検出器の種類 計測範囲 警報動作範囲 個数 取付箇所 (設置床等)</p>																																																																															
第三十三条 閉じ込め	<p>また、上記の対策によりグローブボックス排気設備及び工程室排気設備からの外部への放出経路が遮断されたことを確認するため、ダンパ出口側のダクトに可搬型ダンパ出口風速計を接続し、ダクト内の風速を計測できる設計とする。</p>	①取付箇所 ②計測範囲																																																																															
		変更前	変更後																																																																														
名 称	格納容器内水素濃度*																																																																																
検出器の種類	熱伝導式水素検出器																																																																																
計測範囲	%	0~20 0~100																																																																															
警報動作範囲		-																																																																															
個数		2																																																																															
取付箇所 (ライン名)	系統名	格納容器内水素濃度																																																																															
	設置床	EL. 20.30 m** EL. 29.00 m**																																																																															
	溢水防護上の区画番号	-	RB-3-1** RB-4-2**																																																																														
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	EL. 20.30 m 以上** EL. 29.00 m 以上**																																																																														

仕様表記載例 22a-1 【機種：計装／放管設備（計測装置）】

[常設] [構造分類：検出器] [付属構造：－]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考
		<p>第三十三条 閉じ込め</p> <p>外部放出抑制設備の可搬型ダンプ出口風速計は、グローブボックス排気設備及び工程室排気設備の放出経路遮断後におけるダンプ出口のダクト内風速を確認するため、重大事故に想定される変動範囲を監視可能な計測範囲を有する設計とする。また、保有数は、必要数並びに予備として故障時及び点検保守による待機除外時のバックアップを含め十分な台数を確保する設計とする。</p> <p>工程室放射線計測設備の可搬型ダストサンプラは、工程室内の放射性物質濃度の測定に必要な容量の充電電池又は乾電池を有する設計とする。また、保有数は、必要数並びに予備として故障時のバックアップを含め十分な台数を確保する設計とする。</p> <p>工程室放射線計測設備のアルファ・ベータ線用サーベイメータは、工程室内の放射性物質濃度の測定に必要な計測範囲を有するとともに、十分な容量の充電電池又は乾電池を有する設計とする。また、保有数は、必要数並びに予備として故障時のバックアップを含め十分な台数を確保する設計とする。</p> <p>代替火災感知設備の火災状況確認用温度計は、重大事故の発生を仮定するグローブボックス内における火災源近傍の温度を確認するため、重大事故時に想定される変動範囲を監視可能な計測範囲を有する設計とする。また、重大事故の発生を仮定するグローブボックス内の火災源となる9箇所に対してそれぞれの火災源近傍の温度を計測できる設計とする。</p> <p>代替火災感知設備の火災状況確認用温度表示装置は、代替消火設備及び外部放出抑制設備を用いた重大事故等対策が完了するまでの間、重大事故の発生を仮定するグローブボックス内における火災源近傍の温度を確認するために必要な容量の充電電池を有する設計とする。</p> <p>代替火災感知設備の可搬型グローブボックス温度表示端末は、代替消火設備及び外部放出抑制設備を用いた重大事故等対策が完了するまでの間、重大事故の発生を仮定するグローブボックス内における火災源近傍の温度を確認するために必要な容量の乾電池を有する設計とする。また、保有数は、必要数並びに予備として故障時のバックアップを含め十分な台数を確保する設計とする。</p>		
		<p>第三十四条 放水</p> <p>再処理施設と共用する放水設備の可搬型放水砲流量計は、放水設備の可搬型放水砲の放水量を監視するため、重大事故時に想定される変動範囲を監視可能な測定範囲を有する設計とする。また、保有数は、必要数並びに予備として故障時及び点検保守による待機除外時のバックアップを含め十分な台数を確保する設計とする。</p> <p>再処理施設と共用する放水設備の可搬型放水砲圧力計は、放水設備の可搬型放水砲の放水時の圧力を監視するため、重大事故時に想定される変動範囲を監視可能な測定範囲を有する設計とする。また、保有数は、必要数及び予備として故障時のバックアップを含め十分な台数を確保する設計とする。</p>		
		<p>第三十五条 水供給</p> <p>水供給設備の第1貯水槽及び第2貯水槽の水位を確認するため、水供給設備の可搬型貯水槽水位計（ロープ式）及び可搬型貯水槽水位計（電波式）により貯水槽水位が確認できる設計とする。</p> <p>水の補給時の流量を確認するため、水の補給系統に水供給設備の可搬型第1貯水槽給水流量計を接続し、水の補給時の流量を確認できる設計とする。</p>		

仕様表記載例 22a-2 【機種：計装／放管設備（計測装置）】

[常設] [構造分類：放管設備] [付属構造：－]

既認可の仕様表		仕様表案		要求事項の整理		発電炉類似設備要目表		備考																																																																																																																																							
<p>主要設備リストで展開</p> <table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>－</td> <td>モニタリングポスト</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>設計条件</td> <td>耐震クラス</td> <td>－</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">仕様</td> <td>検出器の種類</td> <td>－</td> <td>○○^{*1}</td> </tr> <tr> <td>計測範囲</td> <td>μ Gy/h</td> <td>○○～○○ ○○～○○</td> </tr> <tr> <td>警報動作範囲</td> <td>μ Gy/h</td> <td>○○～○○ ○○～○○</td> </tr> <tr> <td>検出器個数</td> <td>－</td> <td>○○ ○○</td> </tr> <tr> <td>表示場所</td> <td>－</td> <td>○○ ○○</td> <td></td> </tr> </table> <p>*1：使用済燃料の受入れ及び貯蔵に係る施設に係る設備で申請。</p> <p>基本設計方針で展開</p>		名称	－	モニタリングポスト	○○	設計条件	耐震クラス	－	○○	仕様	検出器の種類	－	○○ ^{*1}	計測範囲	μ Gy/h	○○～○○ ○○～○○	警報動作範囲	μ Gy/h	○○～○○ ○○～○○	検出器個数	－	○○ ○○	表示場所	－	○○ ○○		<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>－</td> <td>モニタリングポスト</td> <td>変更前</td> <td>変更後</td> </tr> <tr> <td>検出器の種類</td> <td>－</td> <td>○○</td> <td>○○</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>計測範囲</td> <td>μ Gy/h</td> <td>○○～○○</td> <td>○○～○○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>警報動作範囲</td> <td>μ Gy/h</td> <td>○○～○○</td> <td>○○～○○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>個数^{*1}</td> <td>－</td> <td>○○</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>系統名（ライン名）</td> <td>－</td> <td>○○</td> <td>○○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>－</td> <td>○○</td> <td>○○</td> <td>（監視・記録は○○）</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>－</td> <td>－</td> <td>－</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>－</td> <td>－</td> <td>－</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>化学薬品防護上の区画番号</td> <td>－</td> <td>－</td> <td>－</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>化学薬品防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>－</td> <td>－</td> <td>－</td> <td>○○</td> </tr> </table> <p>注記 *1：記載の適正化。既設工認には「検出器個数」と記載。 *2：本計器は○○計(00-00-0-0)による○○の補正を受けて××を測定する。 *3：本計器は○○計(00-00-0-0)の補正に必要な××の測定に使用する。</p> <p>取付箇所</p> <p>機種で統一して記載する仕様項目</p>		名称	－	モニタリングポスト	変更前	変更後	検出器の種類	－	○○	○○	変更なし	計測範囲	μ Gy/h	○○～○○	○○～○○		警報動作範囲	μ Gy/h	○○～○○	○○～○○		個数 ^{*1}	－	○○	○○		系統名（ライン名）	－	○○	○○		設置床	－	○○	○○	（監視・記録は○○）	溢水防護上の区画番号	－	－	－	○○	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－	－	－	○○	化学薬品防護上の区画番号	－	－	－	○○	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	－	－	－	○○	<p>放管設備に係る要求事項は次頁に示す。</p> <table border="1"> <tr> <th>技術基準</th> <th>機能要求②</th> <th>主な仕様（詳細設計）</th> </tr> <tr> <td>第四条 臨界防止</td> <td>様式-6,7</td> <td>・検出器の種類 ・計測範囲 ・警報動作範囲</td> </tr> <tr> <td>第十二条 溢水防護</td> <td>発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td> <td>取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号</td> </tr> <tr> <td>第十三条 化学薬品防護</td> <td>発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水（以下「没液」という。）により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td> <td>取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号</td> </tr> <tr> <td>第二十一条 放射線管理施設</td> <td>・測定値を中央制御室並びに使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の制御室の環境監視盤において指示及び記録し、空間放射線量率又は放射能レベルがあらかじめ設定した値を超えたときは、環境監視盤において警報を発する設計</td> <td>・検出器の種類 ・計測範囲 ・警報動作範囲 ・個数 ・設置床（監視・記録）</td> </tr> </table>		技術基準	機能要求②	主な仕様（詳細設計）	第四条 臨界防止	様式-6,7	・検出器の種類 ・計測範囲 ・警報動作範囲	第十二条 溢水防護	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号	第十三条 化学薬品防護	発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水（以下「没液」という。）により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号	第二十一条 放射線管理施設	・測定値を中央制御室並びに使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の制御室の環境監視盤において指示及び記録し、空間放射線量率又は放射能レベルがあらかじめ設定した値を超えたときは、環境監視盤において警報を発する設計	・検出器の種類 ・計測範囲 ・警報動作範囲 ・個数 ・設置床（監視・記録）	<p>(3) 固定式周辺モニタリング設備の名称、検出器の種類、計測範囲、取付箇所（監視・記録の場所を付記すること。）及び個数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名称</td> <td>モニタリング・ポスト（東海第二発電所共用）^{*1}</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>検出器の種類</td> <td>シンチレーション^{*2}</td> <td>電離箱^{*2}</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計測範囲</td> <td>10¹～10² nGy/h</td> <td>10¹～10¹ Gy/h</td> <td></td> </tr> <tr> <td>警報動作範囲</td> <td>10¹～10² nGy/h^{*3}</td> <td>10¹～10¹ Gy/h^{*3}</td> <td></td> </tr> <tr> <td>系統名（ライン名）</td> <td>－</td> <td>－</td> <td></td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td>屋外 EL 約 4 m、EL 約 8m、EL 約 17 m、EL 約 23 m 発電所周辺監視区域境界近傍 （監視・記録は中央制御室）^{*4}</td> <td></td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>－</td> <td>－</td> <td></td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>－</td> <td>－</td> <td></td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>4^{*5}</td> <td>4^{*5}</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「モニタリングポスト（東海第二発電所共用）」と記載。 *2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「シンチレーション及び電離箱」と記載。 *3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「計測範囲内で可変」と記載。 *4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「発電所周辺監視区域境界近傍に4箇所設置（監視・記録は中央制御室にて行）」と記載。 *5：モニタリング・ポストは4箇所あり、モニタリング・ポスト1箇所あたりの検出器の個数は「1」である。</p>				変更前	変更後	名称	モニタリング・ポスト（東海第二発電所共用） ^{*1}			検出器の種類	シンチレーション ^{*2}	電離箱 ^{*2}		計測範囲	10 ¹ ～10 ² nGy/h	10 ¹ ～10 ¹ Gy/h		警報動作範囲	10 ¹ ～10 ² nGy/h ^{*3}	10 ¹ ～10 ¹ Gy/h ^{*3}		系統名（ライン名）	－	－		取付箇所	屋外 EL 約 4 m、EL 約 8m、EL 約 17 m、EL 約 23 m 発電所周辺監視区域境界近傍 （監視・記録は中央制御室） ^{*4}		変更なし	溢水防護上の区画番号	－	－		溢水防護上の配慮が必要な高さ	－	－		個数	4 ^{*5}	4 ^{*5}		
名称	－	モニタリングポスト	○○																																																																																																																																												
設計条件	耐震クラス	－	○○																																																																																																																																												
仕様	検出器の種類	－	○○ ^{*1}																																																																																																																																												
	計測範囲	μ Gy/h	○○～○○ ○○～○○																																																																																																																																												
	警報動作範囲	μ Gy/h	○○～○○ ○○～○○																																																																																																																																												
	検出器個数	－	○○ ○○																																																																																																																																												
表示場所	－	○○ ○○																																																																																																																																													
名称	－	モニタリングポスト	変更前	変更後																																																																																																																																											
検出器の種類	－	○○	○○	変更なし																																																																																																																																											
計測範囲	μ Gy/h	○○～○○	○○～○○																																																																																																																																												
警報動作範囲	μ Gy/h	○○～○○	○○～○○																																																																																																																																												
個数 ^{*1}	－	○○	○○																																																																																																																																												
系統名（ライン名）	－	○○	○○																																																																																																																																												
設置床	－	○○	○○	（監視・記録は○○）																																																																																																																																											
溢水防護上の区画番号	－	－	－	○○																																																																																																																																											
溢水防護上の配慮が必要な高さ	－	－	－	○○																																																																																																																																											
化学薬品防護上の区画番号	－	－	－	○○																																																																																																																																											
化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	－	－	－	○○																																																																																																																																											
技術基準	機能要求②	主な仕様（詳細設計）																																																																																																																																													
第四条 臨界防止	様式-6,7	・検出器の種類 ・計測範囲 ・警報動作範囲																																																																																																																																													
第十二条 溢水防護	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号																																																																																																																																													
第十三条 化学薬品防護	発生を想定する化学薬品の漏えい量、化学薬品防護区画及び化学薬品の漏えい経路から算出される化学薬品の漏えい液位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。防護すべき設備は、漏えいした液体状の化学薬品による没水（以下「没液」という。）により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、化学薬品の流入状態、化学薬品の漏えい源からの距離、化学薬品が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な液位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した化学薬品の漏えいによる液位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所 ・防護上の配慮が必要な高さ（機能喪失高さ） ・防護上の区画番号																																																																																																																																													
第二十一条 放射線管理施設	・測定値を中央制御室並びに使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の制御室の環境監視盤において指示及び記録し、空間放射線量率又は放射能レベルがあらかじめ設定した値を超えたときは、環境監視盤において警報を発する設計	・検出器の種類 ・計測範囲 ・警報動作範囲 ・個数 ・設置床（監視・記録）																																																																																																																																													
		変更前	変更後																																																																																																																																												
名称	モニタリング・ポスト（東海第二発電所共用） ^{*1}																																																																																																																																														
検出器の種類	シンチレーション ^{*2}	電離箱 ^{*2}																																																																																																																																													
計測範囲	10 ¹ ～10 ² nGy/h	10 ¹ ～10 ¹ Gy/h																																																																																																																																													
警報動作範囲	10 ¹ ～10 ² nGy/h ^{*3}	10 ¹ ～10 ¹ Gy/h ^{*3}																																																																																																																																													
系統名（ライン名）	－	－																																																																																																																																													
取付箇所	屋外 EL 約 4 m、EL 約 8m、EL 約 17 m、EL 約 23 m 発電所周辺監視区域境界近傍 （監視・記録は中央制御室） ^{*4}		変更なし																																																																																																																																												
溢水防護上の区画番号	－	－																																																																																																																																													
溢水防護上の配慮が必要な高さ	－	－																																																																																																																																													
個数	4 ^{*5}	4 ^{*5}																																																																																																																																													

仕様表記載例 22b (機種：計装/放管設備 (インターロック))

[常設] [構造分類：-] [付属構造：-]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																										
<p>MOX 施設にて既認可仕様表なし</p>	<table border="1" data-bbox="608 294 979 1606"> <tr> <td>インターロックの種類</td> <td>〇〇〇〇 混合ガス 水素濃度高*2</td> <td>検出器の種類</td> <td>焼結炉系混合ガス受槽入口 水素濃度検出器</td> <td>個数</td> <td>〇</td> <td>取付箇所</td> <td>系統名 (ライン名) 〇〇〇 設置床 〇〇〇 T.M.S.L. Om 溢水防護上の 区画番号 〇〇〇 T.M.S.L. Om以上</td> <td>インターロックの起動に要する信号の個数</td> <td>〇</td> <td>設定値</td> <td>〇% 以上</td> <td>インターロックの起動信号を発生させない条件</td> <td>-*1</td> </tr> </table> <p data-bbox="994 504 1098 1596"> 注記 *1：本インターロックは、起動信号を発生させない条件を設定しないため、「-」とする。 *2：本インターロックは、燃料加工建屋に受け入れる水素・アルゴン混合ガス中の水素濃度が〇%を超える場合には、焼結炉系混合ガス濃度異常遮断弁により焼結炉への水素・アルゴン混合ガスの供給を遮断する。 </p>	インターロックの種類	〇〇〇〇 混合ガス 水素濃度高*2	検出器の種類	焼結炉系混合ガス受槽入口 水素濃度検出器	個数	〇	取付箇所	系統名 (ライン名) 〇〇〇 設置床 〇〇〇 T.M.S.L. Om 溢水防護上の 区画番号 〇〇〇 T.M.S.L. Om以上	インターロックの起動に要する信号の個数	〇	設定値	〇% 以上	インターロックの起動信号を発生させない条件	-*1	<p data-bbox="1365 241 1765 262">【共通00別紙2の整理により機能要求②としたもの】</p> <table border="1" data-bbox="1261 262 1884 966"> <tr> <th>技術基準</th> <th>機能要求② 様式-6,7</th> <th>主な使用 (詳細設計)</th> </tr> <tr> <td>第十二条 溢水による 損傷の防止</td> <td>発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td> <td>取付箇所(区画番号、配慮が必要な高さ)</td> </tr> <tr> <td>第十一条 火災</td> <td>また、焼結炉等では、温度異常に伴う炉内への空気混入を防止するため、熱的制限値を設定し、温度制御機器により焼結時の温度を制御するとともに、炉内温度が熱的制限値を超えないよう過加熱防止回路により炉内の加熱を自動で停止する設計とする。</td> <td>設定値</td> </tr> <tr> <td>第十八条 警報</td> <td>設計基準対象の施設は、MOX燃料加工施設の設備の機能の喪失、誤操作その他の要因によりMOX燃料加工施設の安全性を著しく損なうおそれが生じたときに、熱的制限値の維持又は火災若しくは爆発の防止のための設備(焼結炉内部温度高による過加熱防止回路、小規模焼結処理装置内部温度高による過加熱防止回路、小規模焼結処理装置への冷却水流量低による加熱停止回路、混合ガス水素濃度高による混合ガス供給停止回路)の作動を速やかに、かつ、自動的に開始させる設計とする。</td> <td>設定値</td> </tr> </table>	技術基準	機能要求② 様式-6,7	主な使用 (詳細設計)	第十二条 溢水による 損傷の防止	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所(区画番号、配慮が必要な高さ)	第十一条 火災	また、焼結炉等では、温度異常に伴う炉内への空気混入を防止するため、熱的制限値を設定し、温度制御機器により焼結時の温度を制御するとともに、炉内温度が熱的制限値を超えないよう過加熱防止回路により炉内の加熱を自動で停止する設計とする。	設定値	第十八条 警報	設計基準対象の施設は、MOX燃料加工施設の設備の機能の喪失、誤操作その他の要因によりMOX燃料加工施設の安全性を著しく損なうおそれが生じたときに、熱的制限値の維持又は火災若しくは爆発の防止のための設備(焼結炉内部温度高による過加熱防止回路、小規模焼結処理装置内部温度高による過加熱防止回路、小規模焼結処理装置への冷却水流量低による加熱停止回路、混合ガス水素濃度高による混合ガス供給停止回路)の作動を速やかに、かつ、自動的に開始させる設計とする。	設定値	<table border="1" data-bbox="1958 399 2418 1627"> <thead> <tr> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> <tr> <th>原子炉非常停止信号の種類</th> <th>取付箇所</th> <th>原子炉非常停止信号の種類</th> <th>取付箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中性子束感測器*17</td> <td>系統名 (ライン名) 〇〇〇〇 設置床 〇〇〇〇 m*18</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>主蒸気管放射能検出器*18, *27</td> <td>系統名 (ライン名) 〇〇〇〇 m*18 設置床 〇〇〇〇 m*18</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1914 409 1958 1617"> 6 原子炉非常停止信号の種類、検出器の種類、個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること)、原子炉非常停止に要する信号の個数及び設定値並びに原子炉非常停止信号を発生させない条件・常設 </p> <p data-bbox="2418 409 2671 1617"> 注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉システム信号の種類」と記載。 *2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉システムに要する個数」と記載。 *3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉システムをバイパスするインターロック」と記載。 *4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「圧力検出器」と記載。 *5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *17：本信号は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。 *18：個数はチャンネル数を示す。 *50：スクラム回路は、個々の検出器からなるA、B2系統のチャンネルで構成され、A、B各々に属する最低個の検出器が同時に動作すれば、原子炉はスクラムされる。 *51：スクラム回路は、個々の検出器からなるA、B2系統のチャンネルで構成され、A、B各々に属する最低個の検出器が同時に動作すれば、原子炉はスクラムされる。 *57：本検出器は、工学的安全施設等の起動信号のうち主蒸気管放射能高として使用する検出器と同じである。 </p>	変更前		変更後		原子炉非常停止信号の種類	取付箇所	原子炉非常停止信号の種類	取付箇所	中性子束感測器*17	系統名 (ライン名) 〇〇〇〇 設置床 〇〇〇〇 m*18	変更なし	変更なし	主蒸気管放射能検出器*18, *27	系統名 (ライン名) 〇〇〇〇 m*18 設置床 〇〇〇〇 m*18	変更なし	変更なし	<p>備考</p>
インターロックの種類	〇〇〇〇 混合ガス 水素濃度高*2	検出器の種類	焼結炉系混合ガス受槽入口 水素濃度検出器	個数	〇	取付箇所	系統名 (ライン名) 〇〇〇 設置床 〇〇〇 T.M.S.L. Om 溢水防護上の 区画番号 〇〇〇 T.M.S.L. Om以上	インターロックの起動に要する信号の個数	〇	設定値	〇% 以上	インターロックの起動信号を発生させない条件	-*1																																	
技術基準	機能要求② 様式-6,7	主な使用 (詳細設計)																																												
第十二条 溢水による 損傷の防止	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ(以下「機能喪失高さ」という。)を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。 また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。	取付箇所(区画番号、配慮が必要な高さ)																																												
第十一条 火災	また、焼結炉等では、温度異常に伴う炉内への空気混入を防止するため、熱的制限値を設定し、温度制御機器により焼結時の温度を制御するとともに、炉内温度が熱的制限値を超えないよう過加熱防止回路により炉内の加熱を自動で停止する設計とする。	設定値																																												
第十八条 警報	設計基準対象の施設は、MOX燃料加工施設の設備の機能の喪失、誤操作その他の要因によりMOX燃料加工施設の安全性を著しく損なうおそれが生じたときに、熱的制限値の維持又は火災若しくは爆発の防止のための設備(焼結炉内部温度高による過加熱防止回路、小規模焼結処理装置内部温度高による過加熱防止回路、小規模焼結処理装置への冷却水流量低による加熱停止回路、混合ガス水素濃度高による混合ガス供給停止回路)の作動を速やかに、かつ、自動的に開始させる設計とする。	設定値																																												
変更前		変更後																																												
原子炉非常停止信号の種類	取付箇所	原子炉非常停止信号の種類	取付箇所																																											
中性子束感測器*17	系統名 (ライン名) 〇〇〇〇 設置床 〇〇〇〇 m*18	変更なし	変更なし																																											
主蒸気管放射能検出器*18, *27	系統名 (ライン名) 〇〇〇〇 m*18 設置床 〇〇〇〇 m*18	変更なし	変更なし																																											

機種で統一して記載する仕様項目

仕様表記載例 23a-1 【機種：建物・構築物（建屋・洞道）】

[常設] [構造分類：建屋] [付属構造：-]

既認可の仕様表		仕様表案		要求事項の整理		発電炉類似設備要目表		備考																																																																																																																																																																																												
<p>①主要設備リストで展開</p> <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <td>燃料加工建屋</td> </tr> <tr> <th>耐震クラス</th> <td>B</td> </tr> <tr> <th>放射線防護(しゃへい)</th> <td>しゃへい設計の基準となる線量率を満足するものとする。</td> </tr> <tr> <th>支持地盤の許容支持力度</th> <td>長期：OMPα 短期：OMPα</td> </tr> <tr> <th>主要構造</th> <td>〇〇〇</td> </tr> <tr> <th>主要寸法</th> <td>南北方向：〇m(外壁外面寸法) 東西方向：〇m(外壁外面寸法) 階数：地上2階,地下3階(一部中2階) 高さ：地上〇m 壁厚等：第1.-3表に示す。</td> </tr> <tr> <th>主要材料</th> <td>鉄筋：JIS 〇〇〇(鉄筋コンクリート用棒鋼)に定める〇及び〇 コンクリート：〇〇〇の規定による普通コンクリート設計基準強度 Fc=〇N/mm² 密度 〇kg/m³以上</td> </tr> <tr> <th>添付図(平面図及び断面図)</th> <td>第1.1-1図～第1.1-9図に示す。</td> </tr> </table> <p>④基本設計方針で展開。</p> <p>⑤⑥基本設計方針で展開</p> <p>⑦基本設計方針で展開。</p> <p>⑧耐震の添付書類(耐震重要度分類)で展開。</p> <p>単一ユニットの装置の仕様表で展開。 以下の記載例に例示を示す。 ●仕様表記載例 15a【機種：ラック/ピット/棚】 ●仕様表記載例 20-1【機種：核物質取扱ボックス】</p>		名称	燃料加工建屋	耐震クラス	B	放射線防護(しゃへい)	しゃへい設計の基準となる線量率を満足するものとする。	支持地盤の許容支持力度	長期：OMPα 短期：OMPα	主要構造	〇〇〇	主要寸法	南北方向：〇m(外壁外面寸法) 東西方向：〇m(外壁外面寸法) 階数：地上2階,地下3階(一部中2階) 高さ：地上〇m 壁厚等：第1.-3表に示す。	主要材料	鉄筋：JIS 〇〇〇(鉄筋コンクリート用棒鋼)に定める〇及び〇 コンクリート：〇〇〇の規定による普通コンクリート設計基準強度 Fc=〇N/mm ² 密度 〇kg/m ³ 以上	添付図(平面図及び断面図)	第1.1-1図～第1.1-9図に示す。	<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <td>燃料加工建屋</td> <th>変更前</th> <td>燃料加工建屋</td> <th>変更後</th> <td>燃料加工建屋*1*2 (再処理施設と共用)</td> </tr> <tr> <th>種類*4</th> <td>鉄筋コンクリート造</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <th rowspan="6">主要寸法</th> <th>たて×横</th> <td>m</td> <td>〇〇*3×〇〇*3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>高さ</th> <td>m</td> <td>〇〇*3</td> <td></td> <td>〇〇*3</td> </tr> <tr> <th rowspan="4">壁厚さ</th> <th>東壁</th> <td>m</td> <td>〇〇～〇〇*3*6</td> <td></td> <td>〇〇～〇〇*3</td> </tr> <tr> <th>西壁</th> <td>m</td> <td>〇〇～〇〇*3*6</td> <td></td> <td>〇〇～〇〇*3</td> </tr> <tr> <th>南壁</th> <td>m</td> <td>〇〇～〇〇*3*6</td> <td></td> <td>〇〇～〇〇*3</td> </tr> <tr> <th>北壁</th> <td>m</td> <td>〇〇～〇〇*3*6</td> <td></td> <td>〇〇～〇〇*3</td> </tr> <tr> <th>床・天井</th> <td>m</td> <td>〇〇～〇〇*3*6</td> <td></td> <td>〇〇～〇〇*3</td> </tr> <tr> <th>主要材料</th> <td></td> <td>鉄筋コンクリート*7</td> <td></td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <th>個数</th> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <th rowspan="4">基礎*9</th> <th>種類*4</th> <td></td> <td>直接基礎(鉄筋コンクリート造)*5</td> <td></td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <th rowspan="2">主要寸法</th> <th>たて×横</th> <td>m</td> <td>〇〇×〇〇</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>高さ</th> <td>m</td> <td>〇〇</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>主要材料</th> <td></td> <td>鉄筋コンクリート</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>底面の標高</th> <td></td> <td>T.M.S.L.〇m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th rowspan="3">支持地盤</th> <th>許容支持力度</th> <td>MPa</td> <td>長期：〇 短期：〇</td> <td></td> <td>-</td> </tr> <tr> <th>極限支持力度</th> <td>MPa</td> <td>-</td> <td></td> <td>〇</td> </tr> <tr> <th>マンメイドロックの強度</th> <td>N/mm²</td> <td>〇*8</td> <td></td> <td>変更なし</td> </tr> </table> <p>注記 *1：燃料加工建屋は、再処理施設と一部共用する。 *2：燃料加工建屋は、MOX燃料加工施設にて設備登録を行っている。 *3：公称値を示す。 *4：記載の適正化。既設工認には「主要構造」と記載。 *5：記載の適正化。既設工認には「鉄筋コンクリート造」と記載。 *6：記載内容は、平成22年10月22日付け平成22-05-21原第9号にて認可を受けた設工認申請書の添付書類「Ⅲ-2-1-1-2 燃料加工建屋の耐震計算書 図面リスト 第14図(5)燃料加工建屋 断面壁断面リスト」並びに平成25年2月28日付け原管研収第121116001号にて認可を受けた設工認申請書の添付書類「Ⅲ-2-1-1-2 燃料加工建屋の耐震計算書 図面リスト 第14図(1)燃料加工建屋 断面壁断面リストから第14図(4)燃料加工建屋 断面壁断面リスト、第14図(6)燃料加工建屋 断面壁断面リスト」及び添付書類「V 添付-1-2-1 燃料加工建屋の航空機に対する防護計算書 図面リスト 第1図 燃料加工建屋 防護壁断面リストから第4図 燃料加工建屋 防護スラブ断面リスト」による。 *7：記載の適正化。既設工認には「鉄筋：JIS 〇〇〇(鉄筋コンクリート用棒鋼)に定める〇及び〇 コンクリート：〇〇〇の規定による普通コンクリート設計基準強度〇N/mm² 密度〇kg/m³以上」と記載。 *8：記載内容は、平成22年10月22日付け平成22-05-21原第9号にて認可を受けた設工認申請書の「別添 1. 建物 1.燃料加工建屋(その1)及び貯蔵容器搬送用洞道 (5)工事の方法」において記載したマンメイドロックの強度による。 *9：周囲の地下水を排水できるように地下水排水設備を設置する。</p>		名称	燃料加工建屋	変更前	燃料加工建屋	変更後	燃料加工建屋*1*2 (再処理施設と共用)	種類*4	鉄筋コンクリート造				変更なし	主要寸法	たて×横	m	〇〇*3×〇〇*3			高さ	m	〇〇*3		〇〇*3	壁厚さ	東壁	m	〇〇～〇〇*3*6		〇〇～〇〇*3	西壁	m	〇〇～〇〇*3*6		〇〇～〇〇*3	南壁	m	〇〇～〇〇*3*6		〇〇～〇〇*3	北壁	m	〇〇～〇〇*3*6		〇〇～〇〇*3	床・天井	m	〇〇～〇〇*3*6		〇〇～〇〇*3	主要材料		鉄筋コンクリート*7		変更なし	個数		1		変更なし	基礎*9	種類*4		直接基礎(鉄筋コンクリート造)*5		変更なし	主要寸法	たて×横	m	〇〇×〇〇			高さ	m	〇〇			主要材料		鉄筋コンクリート			底面の標高		T.M.S.L.〇m			支持地盤	許容支持力度	MPa	長期：〇 短期：〇		-	極限支持力度	MPa	-		〇	マンメイドロックの強度	N/mm ²	〇*8		変更なし	<p>技術基準</p> <p>第五条 第二十六条 地盤</p> <p>機能要求② 様式-6 様式-7</p> <p>主な仕様(詳細設計) ・支持地盤の極限支持力度 ・マンメイドロックの強度</p> <p>安全機能を有する施設のうち、地震の発生によって生じるおそれがあるその安全機能の喪失に起因する放射線による公衆への影響の程度が特に大きい施設(以下「耐震重要施設」という。)及びそれらを支持する建物・構築物、若しくは重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設については、自重や運転時の荷重等に加え、その供用中に大きな影響を及ぼすおそれがある地震動(以下「基準地震動」という。)による地震力が作用した場合においても、接地圧に対する十分な支持性能を有する地盤に設置する。</p> <p>安全機能を有する施設のうち、Sクラスの施設の地盤、若しくは重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設の地盤の接地圧に対する支持力の許容限界については、自重や運転時の荷重等と基準地震動による地震力との組み合わせにより算定される接地圧が、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の極限支持力度に対して、妥当な余裕を有するよう設計する。</p> <p>安全機能を有する施設のうち、耐震重要施設以外の建物・構築物については、自重や運転時の荷重等に加え、耐震重要度分類の各クラスに応じて算定する地震力が作用した場合、若しくは、重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備以外の常設重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設については、自重や運転時の荷重等に加え、代替する機能を有する安全機能を有する施設が属する耐震重要度分類のクラスに適用される地震力が作用した場合においても、接地圧に対する十分な支持性能を有する地盤に設置する。</p> <p>安全機能を有する施設のうち、Bクラス及びCクラスの施設の地盤、若しくは、重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備以外の常設重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設の建物・構築物、機器・配管系の地盤においては、自重や運転時の荷重等と、静的地震力及び動的地震力(Bクラスの共振影響検討に係るもの又はBクラスの施設の機能を代替する常設重大事故防止設備の共振影響検討に係るもの)との組合せにより算定される接地圧に対して、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の短期許容支持力度を許容限界とする。</p> <p>燃料加工建屋の支持地盤は変更前 B クラス、変更後 S クラスのため、許容支持力度と極限支持力度それぞれの項目を記載している。</p>		<p>2 原子炉建屋に係る次の事項 (1) 原子炉建屋原子炉棟の名称、種類、設計気密度、主要寸法、材料及び個数</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> <tr> <td>名</td> <td></td> <td>原子炉建屋原子炉棟*1</td> <td>原子炉建屋原子炉棟*7</td> </tr> <tr> <td>種</td> <td></td> <td>鉄筋コンクリート造 (屋根は鉄骨構造)</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>設計気密度</td> <td>%/d</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th rowspan="5">主要寸法</th> <th>たて×横</th> <td>mm</td> <td></td> </tr> <tr> <th>高さ</th> <td>mm</td> <td></td> </tr> <tr> <th rowspan="4">壁厚さ</th> <th>東壁</th> <td>mm</td> <td></td> </tr> <tr> <th>西壁</th> <td>mm</td> <td></td> </tr> <tr> <th>南壁</th> <td>mm</td> <td></td> </tr> <tr> <th>北壁</th> <td>mm</td> <td></td> </tr> <tr> <th>材料</th> <td></td> <td>鉄筋コンクリート及び鋼材*2</td> <td></td> </tr> <tr> <th>個数</th> <td></td> <td>1*6</td> <td></td> </tr> </table> <p>注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉建屋(原子炉棟(2次格納施設)、付属棟)」と記載。 *2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「<input type="text"/>」と記載。 *3：公称値を示す。 *4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和48年4月9日付け 47 公第 12076 号にて認可された工事計画書の添付図面「第3-2 図 原子炉建物 耐力壁断面リスト(No.1)」、「第3-3 図 原子炉建物 耐力壁断面リスト(No.2)」による。 *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鋼材：JIS G 3101一般構造用圧延鋼材 JIS G 3106溶接構造用圧延鋼材、鉄筋：JIS G 3112鉄筋コンクリート用棒鋼、セメント：JIS R 5210普通ポルトランドセメントおよび中熱セメント JIS R 5213フライアッシュセメント、骨材：天然砂および川砂利」と記載。 *6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *7：圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備(原子炉建屋ガス処理系 非常用ガス再循環系、非常用ガス処理系、水素濃度抑制系)と兼用する。</p> <p>(4) 原子炉建屋基礎スラブの名称、種類、主要寸法及び材料</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> <tr> <td>名</td> <td></td> <td><input type="text"/></td> <td></td> </tr> <tr> <td>種</td> <td></td> <td>鉄筋コンクリート基礎壁</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <th rowspan="3">主要寸法</th> <th>たて×横</th> <td>mm</td> <td></td> </tr> <tr> <th>高さ*2</th> <td>mm</td> <td></td> </tr> <tr> <th>底面の標高*3</th> <td>m</td> <td>EL.-9.00</td> </tr> <tr> <th>材料</th> <td></td> <td>鉄筋コンクリート*4</td> <td></td> </tr> </table> <p>注記 *1：公称値を示す。 *2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「高さ」と記載。 *3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「基礎壁底面の高さ」と記載。 *4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鉄筋：JIS G 3112鉄筋コンクリート用棒鋼、セメント：JIS R 5213フライアッシュセメント、骨材：天然砂および川砂利」と記載。</p>		名称		変更前	変更後	名		原子炉建屋原子炉棟*1	原子炉建屋原子炉棟*7	種		鉄筋コンクリート造 (屋根は鉄骨構造)	変更なし	設計気密度	%/d			主要寸法	たて×横	mm		高さ	mm		壁厚さ	東壁	mm		西壁	mm		南壁	mm		北壁	mm		材料		鉄筋コンクリート及び鋼材*2		個数		1*6		名称		変更前	変更後	名		<input type="text"/>		種		鉄筋コンクリート基礎壁	変更なし	主要寸法	たて×横	mm		高さ*2	mm		底面の標高*3	m	EL.-9.00	材料		鉄筋コンクリート*4		<p>沸騰水型原子炉では、建屋気密性を被ばく評価の条件に用いているが、MOX燃料加工施設では、建屋には気密性を設定していないことから、記載は不要と判断する</p> <p>航空機防護版、Sクラスの床・天井の評価を有するため、発電炉から燃料加工建屋の床・天井の厚さを記載</p> <p>既認可記載事項である地盤の仕様項目(支持地盤の強度)を記載。 また、マンメイドロックの強度を記載。</p>
名称	燃料加工建屋																																																																																																																																																																																																			
耐震クラス	B																																																																																																																																																																																																			
放射線防護(しゃへい)	しゃへい設計の基準となる線量率を満足するものとする。																																																																																																																																																																																																			
支持地盤の許容支持力度	長期：OMPα 短期：OMPα																																																																																																																																																																																																			
主要構造	〇〇〇																																																																																																																																																																																																			
主要寸法	南北方向：〇m(外壁外面寸法) 東西方向：〇m(外壁外面寸法) 階数：地上2階,地下3階(一部中2階) 高さ：地上〇m 壁厚等：第1.-3表に示す。																																																																																																																																																																																																			
主要材料	鉄筋：JIS 〇〇〇(鉄筋コンクリート用棒鋼)に定める〇及び〇 コンクリート：〇〇〇の規定による普通コンクリート設計基準強度 Fc=〇N/mm ² 密度 〇kg/m ³ 以上																																																																																																																																																																																																			
添付図(平面図及び断面図)	第1.1-1図～第1.1-9図に示す。																																																																																																																																																																																																			
名称	燃料加工建屋	変更前	燃料加工建屋	変更後	燃料加工建屋*1*2 (再処理施設と共用)																																																																																																																																																																																															
種類*4	鉄筋コンクリート造				変更なし																																																																																																																																																																																															
主要寸法	たて×横	m	〇〇*3×〇〇*3																																																																																																																																																																																																	
	高さ	m	〇〇*3		〇〇*3																																																																																																																																																																																															
	壁厚さ	東壁	m	〇〇～〇〇*3*6		〇〇～〇〇*3																																																																																																																																																																																														
		西壁	m	〇〇～〇〇*3*6		〇〇～〇〇*3																																																																																																																																																																																														
		南壁	m	〇〇～〇〇*3*6		〇〇～〇〇*3																																																																																																																																																																																														
		北壁	m	〇〇～〇〇*3*6		〇〇～〇〇*3																																																																																																																																																																																														
床・天井	m	〇〇～〇〇*3*6		〇〇～〇〇*3																																																																																																																																																																																																
主要材料		鉄筋コンクリート*7		変更なし																																																																																																																																																																																																
個数		1		変更なし																																																																																																																																																																																																
基礎*9	種類*4		直接基礎(鉄筋コンクリート造)*5		変更なし																																																																																																																																																																																															
	主要寸法	たて×横	m	〇〇×〇〇																																																																																																																																																																																																
		高さ	m	〇〇																																																																																																																																																																																																
	主要材料		鉄筋コンクリート																																																																																																																																																																																																	
底面の標高		T.M.S.L.〇m																																																																																																																																																																																																		
支持地盤	許容支持力度	MPa	長期：〇 短期：〇		-																																																																																																																																																																																															
	極限支持力度	MPa	-		〇																																																																																																																																																																																															
	マンメイドロックの強度	N/mm ²	〇*8		変更なし																																																																																																																																																																																															
名称		変更前	変更後																																																																																																																																																																																																	
名		原子炉建屋原子炉棟*1	原子炉建屋原子炉棟*7																																																																																																																																																																																																	
種		鉄筋コンクリート造 (屋根は鉄骨構造)	変更なし																																																																																																																																																																																																	
設計気密度	%/d																																																																																																																																																																																																			
主要寸法	たて×横	mm																																																																																																																																																																																																		
	高さ	mm																																																																																																																																																																																																		
	壁厚さ	東壁	mm																																																																																																																																																																																																	
		西壁	mm																																																																																																																																																																																																	
		南壁	mm																																																																																																																																																																																																	
北壁		mm																																																																																																																																																																																																		
材料		鉄筋コンクリート及び鋼材*2																																																																																																																																																																																																		
個数		1*6																																																																																																																																																																																																		
名称		変更前	変更後																																																																																																																																																																																																	
名		<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																		
種		鉄筋コンクリート基礎壁	変更なし																																																																																																																																																																																																	
主要寸法	たて×横	mm																																																																																																																																																																																																		
	高さ*2	mm																																																																																																																																																																																																		
	底面の標高*3	m	EL.-9.00																																																																																																																																																																																																	
材料		鉄筋コンクリート*4																																																																																																																																																																																																		

仕様表記載例 23a-1 【機種：建物・構築物（建屋・洞道）】

[常設] [構造分類：建屋] [付属構造：－]

第 1.-2 表 燃料加工建屋と貯蔵容器搬送用洞道の汚染防止に係る措置の範囲、安全上重要な施設である構築物の範囲及びしゃへい設計の基準となる線量率

階数	部屋番号	部屋名称	汚染防止に係る措置	安全上重要な施設である構築物	しゃへい設計の基準となる線量率 (μSv/h)
地下3階	101	原料受払室前室	○	○	○
	102	原料受払室	○	○	○
	103	貯蔵容器一時保管室	○	－	○
	104	貯蔵容器受入第2室	○	－	○
	105	北第1制御盤室	○	－	○
	106	北エレベータ	○	－	○
...

⑨⑩添付書類、
建屋平面図で展開。

第 1.-3 表 燃料加工建屋の壁厚等の主要寸法及び材料

添付図	主要寸法 (m)	材料
第 1.1-1 図	<1>	○○
	<2>	○○
	<3>	○○
	<4>	○○
	<5>	○○
	<6>	○○
	<7>	○○
	<8>	○○
...

遮蔽設備の仕様表で展開。
以下の記載例に例示を示す。
●仕様表記載例 23c-1【機種：建物・構築物（遮蔽設備）】

仕様表記載例 23a-2 【機種：建物・構築物（建屋・洞道）】

[常設] [構造分類：洞道] [付属構造：-]

既認可の仕様表		仕様表案		要求事項の整理		発電炉類似設備要目表		備考																																																																																																																																																														
<table border="1"> <tr> <th colspan="2">名称</th> <td>貯蔵容器搬送用洞道</td> </tr> <tr> <th colspan="2">耐震クラス</th> <td>B</td> </tr> <tr> <th colspan="2">放射線防護(しゃへい)</th> <td>しゃへい設計の基準となる線量率を満足するものとする。</td> </tr> <tr> <th colspan="2">航空機に対する防護</th> <td>航空機の衝突に対し、安全確保上支障がないように設計するものとする。</td> </tr> <tr> <th colspan="2">支持地盤の許容支持力度</th> <td>長期：OMP 短期：OMP</td> </tr> <tr> <th colspan="2">主要構造</th> <td>鉄筋コンクリート造</td> </tr> <tr> <th colspan="2">主要寸法</th> <td>幅：○○m～○○m(外壁外面寸法) 高さ：○○m～○○m(外壁外面寸法) 壁厚等：第1.~4表に示す。</td> </tr> <tr> <th colspan="2">主要材料</th> <td>鉄筋：JIS ○○○(鉄筋コンクリート用棒鋼)に定める○及び○ コンクリート：○○○の規定による普通コンクリート設計基準強度 Fc=ON/mm² 密度 ○kg/m³以上</td> </tr> <tr> <th colspan="2">添付図(平面図及び断面図)</th> <td>第1.1-10図～第1.1-11図に示す。</td> </tr> <tr> <th colspan="2">基本設計方針で展開。</th> <td></td> </tr> <tr> <th colspan="2">特記事項</th> <td>① 管理区域内の汚染のおそれのある部屋の床及び人が触れるおそれのある壁の表面は、除染が容易で腐食し難い材料で仕上げる設計とする。</td> </tr> </table>		名称		貯蔵容器搬送用洞道	耐震クラス		B	放射線防護(しゃへい)		しゃへい設計の基準となる線量率を満足するものとする。	航空機に対する防護		航空機の衝突に対し、安全確保上支障がないように設計するものとする。	支持地盤の許容支持力度		長期：OMP 短期：OMP	主要構造		鉄筋コンクリート造	主要寸法		幅：○○m～○○m(外壁外面寸法) 高さ：○○m～○○m(外壁外面寸法) 壁厚等：第1.~4表に示す。	主要材料		鉄筋：JIS ○○○(鉄筋コンクリート用棒鋼)に定める○及び○ コンクリート：○○○の規定による普通コンクリート設計基準強度 Fc=ON/mm ² 密度 ○kg/m ³ 以上	添付図(平面図及び断面図)		第1.1-10図～第1.1-11図に示す。	基本設計方針で展開。			特記事項		① 管理区域内の汚染のおそれのある部屋の床及び人が触れるおそれのある壁の表面は、除染が容易で腐食し難い材料で仕上げる設計とする。	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">名称</th> <td>貯蔵容器搬送用洞道</td> <td>貯蔵容器搬送用洞道*</td> </tr> <tr> <th colspan="2">種類*</th> <td>鉄筋コンクリート造</td> <td></td> </tr> <tr> <th rowspan="3">主要寸法</th> <th>幅</th> <td>mm</td> <td>○○～○○*3</td> </tr> <tr> <th>高さ*</th> <td>mm</td> <td>○○～○○*3</td> </tr> <tr> <th>壁厚</th> <td>mm</td> <td>○○～○○*3*5</td> </tr> <tr> <th rowspan="2">壁厚さ</th> <th>側壁</th> <td>mm</td> <td>○○～○○*3*5</td> </tr> <tr> <th>頂版</th> <td>mm</td> <td>○○～○○*3*5</td> </tr> <tr> <th colspan="2">主要材料</th> <td>-</td> <td>鉄筋コンクリート*6</td> </tr> <tr> <th colspan="2">個数</th> <td>-</td> <td>1</td> </tr> <tr> <th rowspan="4">基礎*10</th> <th colspan="2">種類</th> <td>直接基礎*5 (鉄筋コンクリート造)</td> </tr> <tr> <th rowspan="2">主要寸法</th> <th>幅</th> <td>mm</td> <td>○○～○○*3</td> </tr> <tr> <th>高さ</th> <td>mm</td> <td>○○*2*4</td> </tr> <tr> <th colspan="2">主要材料</th> <td>-</td> <td>鉄筋コンクリート</td> </tr> <tr> <th colspan="2">底面の標高</th> <td>-</td> <td>T.M.S.L.○m</td> </tr> <tr> <th rowspan="2">支持地盤</th> <th>許容支持力度**</th> <td>MPa</td> <td>長期：○ 短期：○</td> </tr> <tr> <th>マンメイドロックの強度</th> <td>MPa</td> <td>○*8</td> </tr> </table>		名称		貯蔵容器搬送用洞道	貯蔵容器搬送用洞道*	種類*		鉄筋コンクリート造		主要寸法	幅	mm	○○～○○*3	高さ*	mm	○○～○○*3	壁厚	mm	○○～○○*3*5	壁厚さ	側壁	mm	○○～○○*3*5	頂版	mm	○○～○○*3*5	主要材料		-	鉄筋コンクリート*6	個数		-	1	基礎*10	種類		直接基礎*5 (鉄筋コンクリート造)	主要寸法	幅	mm	○○～○○*3	高さ	mm	○○*2*4	主要材料		-	鉄筋コンクリート	底面の標高		-	T.M.S.L.○m	支持地盤	許容支持力度**	MPa	長期：○ 短期：○	マンメイドロックの強度	MPa	○*8	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">機能要求②</th> <td>様式-6 様式-7</td> </tr> <tr> <th colspan="2">主な仕様(詳細設計)</th> <td>・支持地盤の極限支持力度 ・マンメイドロックの強度</td> </tr> <tr> <th colspan="2">技術基準</th> <td>第五条 安全機能を有する施設のうち、地震の発生によって生じるおそれがあるその安全機能の喪失に起因する放射線による公衆への影響の程度が特に大きい施設(以下「耐震重要施設」という。)及びそれらを支持する建物・構築物、若しくは重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設については、自重や運転時の荷重等に加え、その供用中に大きな影響を及ぼすおそれがある地震動(以下「基準地震動」という。)による地震力が作用した場合においても、接地圧に対する十分な支持性能を有する地盤に設置する。</td> </tr> <tr> <th colspan="2">第二十六条 地盤</th> <td>安全機能を有する施設のうち、Sクラスの施設の地盤、若しくは重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設の地盤の接地圧に対する支持力の許容限界については、自重や運転時の荷重等と基準地震動による地震力との組み合わせにより算定される接地圧が、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の極限支持力度に対して、妥当な余裕を有するよう設計する。</td> </tr> <tr> <th colspan="2">地盤</th> <td>安全機能を有する施設のうち、耐震重要施設以外の建物・構築物については、自重や運転時の荷重等に加え、耐震重要度分類の各クラスに応じて算定される地震力が作用した場合、若しくは、重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備以外の常設重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設については、自重や運転時の荷重等に加え、代替する機能を有する安全機能を有する施設が属する耐震重要度分類のクラスに適用される地震力が作用した場合においても、接地圧に対する十分な支持性能を有する地盤に設置する。</td> </tr> <tr> <th colspan="2">地盤</th> <td>安全機能を有する施設のうち、Bクラス及びCクラスの施設の地盤、若しくは、重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備以外の常設重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設の建物・構築物、機器・配管系の地盤においては、自重や運転時の荷重等と、静的地震力及び動的地震力(Bクラスの共振影響検討に係るもの又はBクラスの施設の機能を代替する常設重大事故防止設備の共振影響検討に係るもの)との組合せにより算定される接地圧に対して、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の短期許容支持力度を許容限界とする。</td> </tr> </table>		機能要求②		様式-6 様式-7	主な仕様(詳細設計)		・支持地盤の極限支持力度 ・マンメイドロックの強度	技術基準		第五条 安全機能を有する施設のうち、地震の発生によって生じるおそれがあるその安全機能の喪失に起因する放射線による公衆への影響の程度が特に大きい施設(以下「耐震重要施設」という。)及びそれらを支持する建物・構築物、若しくは重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設については、自重や運転時の荷重等に加え、その供用中に大きな影響を及ぼすおそれがある地震動(以下「基準地震動」という。)による地震力が作用した場合においても、接地圧に対する十分な支持性能を有する地盤に設置する。	第二十六条 地盤		安全機能を有する施設のうち、Sクラスの施設の地盤、若しくは重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設の地盤の接地圧に対する支持力の許容限界については、自重や運転時の荷重等と基準地震動による地震力との組み合わせにより算定される接地圧が、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の極限支持力度に対して、妥当な余裕を有するよう設計する。	地盤		安全機能を有する施設のうち、耐震重要施設以外の建物・構築物については、自重や運転時の荷重等に加え、耐震重要度分類の各クラスに応じて算定される地震力が作用した場合、若しくは、重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備以外の常設重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設については、自重や運転時の荷重等に加え、代替する機能を有する安全機能を有する施設が属する耐震重要度分類のクラスに適用される地震力が作用した場合においても、接地圧に対する十分な支持性能を有する地盤に設置する。	地盤		安全機能を有する施設のうち、Bクラス及びCクラスの施設の地盤、若しくは、重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備以外の常設重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設の建物・構築物、機器・配管系の地盤においては、自重や運転時の荷重等と、静的地震力及び動的地震力(Bクラスの共振影響検討に係るもの又はBクラスの施設の機能を代替する常設重大事故防止設備の共振影響検討に係るもの)との組合せにより算定される接地圧に対して、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の短期許容支持力度を許容限界とする。	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">2 原子炉建屋に係る次の事項</th> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th colspan="4">(1) 原子炉建屋原子炉棟の名称、種類、設計気密度、主要寸法、材料及び個数</th> </tr> <tr> <th colspan="2">名称</th> <td>原子炉建屋原子炉棟*1</td> <td>原子炉建屋原子炉棟*7</td> </tr> <tr> <th colspan="2">種類</th> <td colspan="2">鉄筋コンクリート造 (屋根は鉄骨構造)</td> </tr> <tr> <th colspan="2">設計気密度</th> <td>%/d</td> <td></td> </tr> <tr> <th rowspan="4">主要寸法</th> <th>たて × 横</th> <td>mm</td> <td></td> </tr> <tr> <th>高さ</th> <td>mm</td> <td></td> </tr> <tr> <th>東壁</th> <td>mm</td> <td></td> </tr> <tr> <th>西壁</th> <td>mm</td> <td></td> </tr> <tr> <th rowspan="2">壁厚</th> <th>南壁</th> <td>mm</td> <td></td> </tr> <tr> <th>北壁</th> <td>mm</td> <td></td> </tr> <tr> <th colspan="2">材料</th> <td colspan="2">鉄筋コンクリート及び鋼材*2</td> </tr> <tr> <th colspan="2">個数</th> <td colspan="2">1*6</td> </tr> </table>		2 原子炉建屋に係る次の事項				(1) 原子炉建屋原子炉棟の名称、種類、設計気密度、主要寸法、材料及び個数				名称		原子炉建屋原子炉棟*1	原子炉建屋原子炉棟*7	種類		鉄筋コンクリート造 (屋根は鉄骨構造)		設計気密度		%/d		主要寸法	たて × 横	mm		高さ	mm		東壁	mm		西壁	mm		壁厚	南壁	mm		北壁	mm		材料		鉄筋コンクリート及び鋼材*2		個数		1*6		<p>沸騰水型原子炉では、建屋気密性を被ばく評価の条件に用いているが、MOX燃料加工施設では、洞道には気密性を設定していないことから、記載は不要と判断する</p>
名称		貯蔵容器搬送用洞道																																																																																																																																																																				
耐震クラス		B																																																																																																																																																																				
放射線防護(しゃへい)		しゃへい設計の基準となる線量率を満足するものとする。																																																																																																																																																																				
航空機に対する防護		航空機の衝突に対し、安全確保上支障がないように設計するものとする。																																																																																																																																																																				
支持地盤の許容支持力度		長期：OMP 短期：OMP																																																																																																																																																																				
主要構造		鉄筋コンクリート造																																																																																																																																																																				
主要寸法		幅：○○m～○○m(外壁外面寸法) 高さ：○○m～○○m(外壁外面寸法) 壁厚等：第1.~4表に示す。																																																																																																																																																																				
主要材料		鉄筋：JIS ○○○(鉄筋コンクリート用棒鋼)に定める○及び○ コンクリート：○○○の規定による普通コンクリート設計基準強度 Fc=ON/mm ² 密度 ○kg/m ³ 以上																																																																																																																																																																				
添付図(平面図及び断面図)		第1.1-10図～第1.1-11図に示す。																																																																																																																																																																				
基本設計方針で展開。																																																																																																																																																																						
特記事項		① 管理区域内の汚染のおそれのある部屋の床及び人が触れるおそれのある壁の表面は、除染が容易で腐食し難い材料で仕上げる設計とする。																																																																																																																																																																				
名称		貯蔵容器搬送用洞道	貯蔵容器搬送用洞道*																																																																																																																																																																			
種類*		鉄筋コンクリート造																																																																																																																																																																				
主要寸法	幅	mm	○○～○○*3																																																																																																																																																																			
	高さ*	mm	○○～○○*3																																																																																																																																																																			
	壁厚	mm	○○～○○*3*5																																																																																																																																																																			
壁厚さ	側壁	mm	○○～○○*3*5																																																																																																																																																																			
	頂版	mm	○○～○○*3*5																																																																																																																																																																			
主要材料		-	鉄筋コンクリート*6																																																																																																																																																																			
個数		-	1																																																																																																																																																																			
基礎*10	種類		直接基礎*5 (鉄筋コンクリート造)																																																																																																																																																																			
	主要寸法	幅	mm	○○～○○*3																																																																																																																																																																		
		高さ	mm	○○*2*4																																																																																																																																																																		
	主要材料		-	鉄筋コンクリート																																																																																																																																																																		
底面の標高		-	T.M.S.L.○m																																																																																																																																																																			
支持地盤	許容支持力度**	MPa	長期：○ 短期：○																																																																																																																																																																			
	マンメイドロックの強度	MPa	○*8																																																																																																																																																																			
機能要求②		様式-6 様式-7																																																																																																																																																																				
主な仕様(詳細設計)		・支持地盤の極限支持力度 ・マンメイドロックの強度																																																																																																																																																																				
技術基準		第五条 安全機能を有する施設のうち、地震の発生によって生じるおそれがあるその安全機能の喪失に起因する放射線による公衆への影響の程度が特に大きい施設(以下「耐震重要施設」という。)及びそれらを支持する建物・構築物、若しくは重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設については、自重や運転時の荷重等に加え、その供用中に大きな影響を及ぼすおそれがある地震動(以下「基準地震動」という。)による地震力が作用した場合においても、接地圧に対する十分な支持性能を有する地盤に設置する。																																																																																																																																																																				
第二十六条 地盤		安全機能を有する施設のうち、Sクラスの施設の地盤、若しくは重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設の地盤の接地圧に対する支持力の許容限界については、自重や運転時の荷重等と基準地震動による地震力との組み合わせにより算定される接地圧が、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の極限支持力度に対して、妥当な余裕を有するよう設計する。																																																																																																																																																																				
地盤		安全機能を有する施設のうち、耐震重要施設以外の建物・構築物については、自重や運転時の荷重等に加え、耐震重要度分類の各クラスに応じて算定される地震力が作用した場合、若しくは、重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備以外の常設重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設については、自重や運転時の荷重等に加え、代替する機能を有する安全機能を有する施設が属する耐震重要度分類のクラスに適用される地震力が作用した場合においても、接地圧に対する十分な支持性能を有する地盤に設置する。																																																																																																																																																																				
地盤		安全機能を有する施設のうち、Bクラス及びCクラスの施設の地盤、若しくは、重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備以外の常設重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設の建物・構築物、機器・配管系の地盤においては、自重や運転時の荷重等と、静的地震力及び動的地震力(Bクラスの共振影響検討に係るもの又はBクラスの施設の機能を代替する常設重大事故防止設備の共振影響検討に係るもの)との組合せにより算定される接地圧に対して、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の短期許容支持力度を許容限界とする。																																																																																																																																																																				
2 原子炉建屋に係る次の事項																																																																																																																																																																						
(1) 原子炉建屋原子炉棟の名称、種類、設計気密度、主要寸法、材料及び個数																																																																																																																																																																						
名称		原子炉建屋原子炉棟*1	原子炉建屋原子炉棟*7																																																																																																																																																																			
種類		鉄筋コンクリート造 (屋根は鉄骨構造)																																																																																																																																																																				
設計気密度		%/d																																																																																																																																																																				
主要寸法	たて × 横	mm																																																																																																																																																																				
	高さ	mm																																																																																																																																																																				
	東壁	mm																																																																																																																																																																				
	西壁	mm																																																																																																																																																																				
壁厚	南壁	mm																																																																																																																																																																				
	北壁	mm																																																																																																																																																																				
材料		鉄筋コンクリート及び鋼材*2																																																																																																																																																																				
個数		1*6																																																																																																																																																																				
<p>注1 対応する加工事業許可番号(日付)：平成17・04・20原第18号(平成22年5月13日)</p> <p>注2 本建屋がBクラスのしゃへい壁を有していることを示す。また、本建屋はBクラスのしゃへい壁を有していることから、Bクラスの施設に適用される地震力に耐えるように設計する。なお、本建屋は、Sクラスの設備・機器を設置するため、基準地震動Ssで間接支持構造物としての支持機能が維持されている。</p> <p>耐震の添付書類(耐震重要度分類)で展開。</p> <p>遮蔽設備の仕様表で展開。 以下の記載例に例示を示す。 ●仕様表記載例23c-1【機種：建物・構築物(遮蔽設備)】</p>		<p>注記 *1：貯蔵容器搬送用洞道は、MOX燃料加工施設にて設備登録を行っている。</p> <p>*2：公称値を示す。</p> <p>*3：記載の適正化。既設工認には「主要構造」と記載。</p> <p>*4：記載の適正化。既設工認には「支持地盤の許容支持力度」と記載。</p> <p>*5：記載内容は、平成22年10月22日付け平成22・05・21原第9号にて認可を受けた設工認申請書の添付書類「Ⅲ-2-1-2-1 貯蔵容器搬送用洞道の耐震計算書」による。</p> <p>*6：記載の適正化。既設工認には「鉄筋：JIS G 3112(鉄筋コンクリート用棒鋼)に定める○ コンクリート：JASS5Nの規定による普通コンクリート設計基準強度 Fc=ON/mm² 密度○kg/m³以上」と記載。</p> <p>*7：基礎は洞道の底版についての仕様を示す。</p> <p>*8：記載内容は、平成22年10月22日付け平成22・05・21原第9号にて認可を受けた設工認申請書の「別添 イ. 建物1.燃料加工建屋(その1)及び貯蔵容器搬送用洞道(5)工事の方法」において記載したマンメイドロックの強度による。</p> <p>*9：高さは、基礎(底版)を含めた高さ示す。</p> <p>*10：洞道の基礎は、底版を指す。</p>		<table border="1"> <tr> <th colspan="2">機種で統一して記載する仕様項目</th> <td></td> </tr> <tr> <th colspan="2">構造分類に係る仕様項目</th> <td></td> </tr> </table>		機種で統一して記載する仕様項目			構造分類に係る仕様項目			<p>洞道は曲がり・分岐・合流しているという特徴を踏まえ、主要寸法は幅と高さとしている。洞道の基礎部材は底版と呼び添付書類においても底版と記載していることから基礎(底版)と記載。</p>																																																																																																																																																										
機種で統一して記載する仕様項目																																																																																																																																																																						
構造分類に係る仕様項目																																																																																																																																																																						
<p>第1.~4表 貯蔵容器搬送用洞道の壁厚等の主要寸法及び材料</p> <table border="1"> <tr> <th>添付図</th> <th>主要寸法(m)</th> <th>材料</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">第1.1-10図</td> <td><200></td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td><201></td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>第1.1-11図</td> <td><202></td> <td>○○</td> </tr> </table>		添付図	主要寸法(m)	材料	第1.1-10図	<200>	○○	<201>	○○	第1.1-11図	<202>	○○	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">(4) 原子炉建屋基礎スラブの名称、種類、主要寸法及び材料</th> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th colspan="2">名称</th> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th colspan="2">種類</th> <td colspan="2">鉄筋コンクリート基礎盤</td> </tr> <tr> <th rowspan="3">主要寸法</th> <th>たて × 横</th> <td>mm</td> <td></td> </tr> <tr> <th>高さ*2</th> <td>mm</td> <td></td> </tr> <tr> <th>底面の標高*3</th> <td>m</td> <td>EL.-9.00</td> </tr> <tr> <th colspan="2">材料</th> <td colspan="2">鉄筋コンクリート*4</td> </tr> </table>		(4) 原子炉建屋基礎スラブの名称、種類、主要寸法及び材料				名称				種類		鉄筋コンクリート基礎盤		主要寸法	たて × 横	mm		高さ*2	mm		底面の標高*3	m	EL.-9.00	材料		鉄筋コンクリート*4		<p>注記 *1：公称値を示す。</p> <p>*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「高さ」と記載。</p> <p>*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「基礎盤底面の高さ」と記載。</p> <p>*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鉄筋：JIS G 3112鉄筋コンクリート用棒鋼、セメント：JIS R 5213フライアッシュセメント、骨材：天然砂および川砂利」と記載。</p>																																																																																																																													
添付図	主要寸法(m)	材料																																																																																																																																																																				
第1.1-10図	<200>	○○																																																																																																																																																																				
	<201>	○○																																																																																																																																																																				
第1.1-11図	<202>	○○																																																																																																																																																																				
(4) 原子炉建屋基礎スラブの名称、種類、主要寸法及び材料																																																																																																																																																																						
名称																																																																																																																																																																						
種類		鉄筋コンクリート基礎盤																																																																																																																																																																				
主要寸法	たて × 横	mm																																																																																																																																																																				
	高さ*2	mm																																																																																																																																																																				
	底面の標高*3	m	EL.-9.00																																																																																																																																																																			
材料		鉄筋コンクリート*4																																																																																																																																																																				

仕様表記載例 23b-1 【機種：建物・構築物（排気筒）】

[常設] [構造分類：主排気筒(減衰定数なし)] [付属構造：地盤・基礎]

既認可の仕様表				仕様表案				要求事項の整理				発電炉類似設備要目表				備考																																																																																																																																																												
<p>工程情報を示す項目であり、設備仕様と直接関係しない項目であるため、仕様表に記載しない。</p> <p>主要設備リストで展開。</p> <table border="1"> <tr><td>名称</td><td>—</td><td>主排気筒</td><td>—</td></tr> <tr><td>種類</td><td>—</td><td>〇〇</td><td>—</td></tr> <tr><td>耐震クラス</td><td>—</td><td>〇〇</td><td>—</td></tr> <tr><td>支持地盤の許容支持力度</td><td>MPa</td><td>〇〇</td><td>—</td></tr> <tr><td>流体の種類</td><td>—</td><td>〇〇</td><td>—</td></tr> <tr><td>筒身</td><td>主要寸法</td><td>出口内径</td><td>m</td><td>〇〇</td><td>—</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>地上高さ</td><td>m</td><td>〇〇</td><td>—</td></tr> <tr><td></td><td>主要材料</td><td>主要材料</td><td>—</td><td>〇〇</td><td>—</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>厚さ</td><td>mm</td><td>〇〇</td><td>—</td></tr> <tr><td>支持鉄塔</td><td>主要材料</td><td>—</td><td>—</td><td>〇〇</td><td>—</td></tr> <tr><td>基礎</td><td>主要材料</td><td>—</td><td>—</td><td>〇〇</td><td>—</td></tr> </table> <p>構造図： 第3.2.1.5-1図に示す。</p> <p>注記1)： 支持鉄塔及び基礎は、基準地震動〇で間接支持構造物としての支持機能が維持されていることの確認を行う。</p> <p>2)： 鷹架層の許容支持力度として、重要な建物・構築物ごとに定まる値の最小値とする。</p> <p>3)： 単位 (tf/m²)</p> <p>4)： 厚さは、母材+合せ板を示す。</p> <p>5)： 本設備の基礎上部には、主排気筒管理建屋があり、その重量を考慮して耐震計算を行う。</p> <p>基本設計方針で展開。</p> <p>旧単位系記載のため、SI単位系表記に統一することに伴い適正化。</p> <p>添付書類に位置づけを変更したため、記載を削除。</p>				名称	—	主排気筒	—	種類	—	〇〇	—	耐震クラス	—	〇〇	—	支持地盤の許容支持力度	MPa	〇〇	—	流体の種類	—	〇〇	—	筒身	主要寸法	出口内径	m	〇〇	—			地上高さ	m	〇〇	—		主要材料	主要材料	—	〇〇	—			厚さ	mm	〇〇	—	支持鉄塔	主要材料	—	—	〇〇	—	基礎	主要材料	—	—	〇〇	—	<table border="1"> <tr><td>名称</td><td>—</td><td>主排気筒</td><td>—</td></tr> <tr><td>種類</td><td>—</td><td>〇〇</td><td>—</td></tr> <tr><td>支持地盤の許容支持力度</td><td>MPa</td><td>〇〇</td><td>—</td></tr> <tr><td>支持地盤の極限支持力度</td><td>MPa</td><td>〇〇*</td><td>—</td></tr> <tr><td>筒身</td><td>主要寸法</td><td>出口内径</td><td>m</td><td>〇〇*</td><td>—</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>地上高さ</td><td>m</td><td>〇〇*</td><td>—</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>厚さ</td><td>mm</td><td>〇〇*</td><td>—</td></tr> <tr><td>筒身</td><td>主要材料</td><td>—</td><td>—</td><td>〇〇</td><td>—</td></tr> <tr><td>支持鉄塔</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>〇〇</td><td>—</td></tr> <tr><td>基礎</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>〇〇</td><td>—</td></tr> <tr><td>個数</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>〇〇</td><td>—</td></tr> </table> <p>注記 *1：公称値を示す。 *2：既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。</p> <table border="1"> <tr><td>機種で統一して記載する仕様項目</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>構造分類に係る仕様項目</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>地盤・基礎に係る追加仕様項目</td><td>〇〇</td></tr> </table> <p>地盤、基礎の仕様項目については、仕様表記載例 23a-1 の建屋の仕様表記載例を踏まえ検討中。</p>				名称	—	主排気筒	—	種類	—	〇〇	—	支持地盤の許容支持力度	MPa	〇〇	—	支持地盤の極限支持力度	MPa	〇〇*	—	筒身	主要寸法	出口内径	m	〇〇*	—			地上高さ	m	〇〇*	—			厚さ	mm	〇〇*	—	筒身	主要材料	—	—	〇〇	—	支持鉄塔	—	—	—	〇〇	—	基礎	—	—	—	〇〇	—	個数	—	—	—	〇〇	—	機種で統一して記載する仕様項目	〇〇	構造分類に係る仕様項目	〇〇	地盤・基礎に係る追加仕様項目	〇〇	<table border="1"> <tr><td>技術基準</td><td>機能要求②</td><td>主な仕様 (詳細設計)</td></tr> <tr><td>第五条 地盤</td><td>・建物・構築物を接地圧に対する十分な支持性能を有する事業変更許可を受けた地盤に設置</td><td>支持地盤許容支持力度：〇〇 支持地盤極限支持力度：〇〇</td></tr> <tr><td>第二十四条 廃棄施設</td><td>・周辺監視区域の外の空气中の放射性物質の濃度及び液体状の放射性物質の海洋放出に起因する線量が、それぞれ原子力規制委員会の定める濃度限度及び線量限度以下になる設計</td><td>主要寸法 出口内径：〇〇m 地上高さ：〇〇m 厚さ：〇〇mm 主要材料 筒身：〇〇 支持鉄塔：〇〇 基礎：〇〇</td></tr> <tr><td>第三十六条 重大事故等対処設備</td><td>・想定される重大事故等の収束に必要な個数及び容量</td><td>個数：〇〇</td></tr> </table>				技術基準	機能要求②	主な仕様 (詳細設計)	第五条 地盤	・建物・構築物を接地圧に対する十分な支持性能を有する事業変更許可を受けた地盤に設置	支持地盤許容支持力度：〇〇 支持地盤極限支持力度：〇〇	第二十四条 廃棄施設	・周辺監視区域の外の空气中の放射性物質の濃度及び液体状の放射性物質の海洋放出に起因する線量が、それぞれ原子力規制委員会の定める濃度限度及び線量限度以下になる設計	主要寸法 出口内径：〇〇m 地上高さ：〇〇m 厚さ：〇〇mm 主要材料 筒身：〇〇 支持鉄塔：〇〇 基礎：〇〇	第三十六条 重大事故等対処設備	・想定される重大事故等の収束に必要な個数及び容量	個数：〇〇	<p><発電炉の要目表></p> <table border="1"> <tr><td>名称</td><td>—</td><td>主排気筒</td><td>—</td></tr> <tr><td>種類</td><td>—</td><td>鉄塔支持型鋼製 (制震装置付き [減衰係数：□□*1])</td><td>—</td></tr> <tr><td>主要寸法</td><td>内径*2</td><td>mm</td><td>4500*3, *4</td></tr> <tr><td></td><td>地表上の高さ</td><td>m</td><td>140*4</td></tr> <tr><td>材料</td><td>—</td><td>—</td><td>SS400</td></tr> <tr><td>個数</td><td>—</td><td>—</td><td>1</td></tr> </table> <p>注記 注1：オイルダンパの減衰係数を示す。 注2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「筒身内径」と記載。 注3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「4.5 m」と記載 注4：公称値を示す。</p>				名称	—	主排気筒	—	種類	—	鉄塔支持型鋼製 (制震装置付き [減衰係数：□□*1])	—	主要寸法	内径*2	mm	4500*3, *4		地表上の高さ	m	140*4	材料	—	—	SS400	個数	—	—	1	
名称	—	主排気筒	—																																																																																																																																																																									
種類	—	〇〇	—																																																																																																																																																																									
耐震クラス	—	〇〇	—																																																																																																																																																																									
支持地盤の許容支持力度	MPa	〇〇	—																																																																																																																																																																									
流体の種類	—	〇〇	—																																																																																																																																																																									
筒身	主要寸法	出口内径	m	〇〇	—																																																																																																																																																																							
		地上高さ	m	〇〇	—																																																																																																																																																																							
	主要材料	主要材料	—	〇〇	—																																																																																																																																																																							
		厚さ	mm	〇〇	—																																																																																																																																																																							
支持鉄塔	主要材料	—	—	〇〇	—																																																																																																																																																																							
基礎	主要材料	—	—	〇〇	—																																																																																																																																																																							
名称	—	主排気筒	—																																																																																																																																																																									
種類	—	〇〇	—																																																																																																																																																																									
支持地盤の許容支持力度	MPa	〇〇	—																																																																																																																																																																									
支持地盤の極限支持力度	MPa	〇〇*	—																																																																																																																																																																									
筒身	主要寸法	出口内径	m	〇〇*	—																																																																																																																																																																							
		地上高さ	m	〇〇*	—																																																																																																																																																																							
		厚さ	mm	〇〇*	—																																																																																																																																																																							
筒身	主要材料	—	—	〇〇	—																																																																																																																																																																							
支持鉄塔	—	—	—	〇〇	—																																																																																																																																																																							
基礎	—	—	—	〇〇	—																																																																																																																																																																							
個数	—	—	—	〇〇	—																																																																																																																																																																							
機種で統一して記載する仕様項目	〇〇																																																																																																																																																																											
構造分類に係る仕様項目	〇〇																																																																																																																																																																											
地盤・基礎に係る追加仕様項目	〇〇																																																																																																																																																																											
技術基準	機能要求②	主な仕様 (詳細設計)																																																																																																																																																																										
第五条 地盤	・建物・構築物を接地圧に対する十分な支持性能を有する事業変更許可を受けた地盤に設置	支持地盤許容支持力度：〇〇 支持地盤極限支持力度：〇〇																																																																																																																																																																										
第二十四条 廃棄施設	・周辺監視区域の外の空气中の放射性物質の濃度及び液体状の放射性物質の海洋放出に起因する線量が、それぞれ原子力規制委員会の定める濃度限度及び線量限度以下になる設計	主要寸法 出口内径：〇〇m 地上高さ：〇〇m 厚さ：〇〇mm 主要材料 筒身：〇〇 支持鉄塔：〇〇 基礎：〇〇																																																																																																																																																																										
第三十六条 重大事故等対処設備	・想定される重大事故等の収束に必要な個数及び容量	個数：〇〇																																																																																																																																																																										
名称	—	主排気筒	—																																																																																																																																																																									
種類	—	鉄塔支持型鋼製 (制震装置付き [減衰係数：□□*1])	—																																																																																																																																																																									
主要寸法	内径*2	mm	4500*3, *4																																																																																																																																																																									
	地表上の高さ	m	140*4																																																																																																																																																																									
材料	—	—	SS400																																																																																																																																																																									
個数	—	—	1																																																																																																																																																																									

仕様表記載例 23b-2 【機種：建物・構築物(排気筒)】

[常設] [構造分類：北換気筒(減衰定数あり)] [付属構造：地盤・基礎]

既認可の仕様表		仕様表案		要求事項の整理		発電炉類似設備要目表		備考																																																																																				
<p>工程情報を示す項目であり、設備仕様と直接関係しない項目であるため、仕様表に記載しない。</p> <p>主要設備リストで展開。</p>		<table border="1"> <tr> <th colspan="2">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> <tr> <td>名称</td> <td>北換気筒(ガラス固化体受入れ・貯蔵建屋換気筒)^{*1}2</td> <td>北換気筒(ガラス固化体受入れ・貯蔵建屋換気筒)^{*1}2</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>六角鉄塔支持形(制震装置付き[減衰係数：○○^{*5}])^{*3}</td> <td>六角鉄塔支持形(制震装置付き[減衰係数：○○^{*5}])^{*3}</td> </tr> <tr> <td>支持地盤の許容支持力度</td> <td>MPa</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>支持地盤の限界支持力度</td> <td>MPa</td> <td>○○^{*6}</td> </tr> <tr> <td>主要寸法</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>筒身</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>出口内径</td> <td>m</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>地上高さ^{*4}</td> <td>m</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>厚さ</td> <td>mm</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>筒身</td> <td>—</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>支持鉄塔</td> <td>—</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>基礎</td> <td>—</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td>○○^{*6}</td> </tr> </table> <p>注記 *1：北換気筒(ガラス固化体受入れ・貯蔵建屋換気筒)を支持する支持塔は、再処理施設と共用する。 *2：記載の適正化を行う。既設工認申請書には「ガラス固化体受入れ・貯蔵建屋換気筒」と記載。 *3：記載の適正化を行う。既設工認申請書には「六角鉄塔支持形」と記載。 *4：記載の適正化を行う。既設工認申請書には「地上の高さ」と記載。 *5：オイルダンパの減衰係数を示す。 *6：既設工認申請書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p>		変更前		変更後	名称	北換気筒(ガラス固化体受入れ・貯蔵建屋換気筒) ^{*1} 2	北換気筒(ガラス固化体受入れ・貯蔵建屋換気筒) ^{*1} 2	種類	六角鉄塔支持形(制震装置付き[減衰係数：○○ ^{*5}]) ^{*3}	六角鉄塔支持形(制震装置付き[減衰係数：○○ ^{*5}]) ^{*3}	支持地盤の許容支持力度	MPa	○○	支持地盤の限界支持力度	MPa	○○ ^{*6}	主要寸法			筒身			出口内径	m	○○	地上高さ ^{*4}	m	○○	厚さ	mm	○○	主要材料			筒身	—	○○	支持鉄塔	—	○○	基礎	—	○○	個数	—	○○ ^{*6}	<table border="1"> <tr> <th>技術基準</th> <th>機能要求②</th> <th>主な仕様(詳細設計)</th> </tr> <tr> <td>第五条 地盤</td> <td>・建物・構築物を接地圧に対する十分な支持性能を有する事業変更許可を受けた地盤に設置</td> <td>支持地盤許容支持力度：○○ 支持地盤極限支持力度：○○</td> </tr> <tr> <td>第二十四条 廃棄施設</td> <td>・周辺監視区域の外の空気中の放射性物質の濃度及び液体状の放射性物質の海洋放出に起因する線量が、それぞれ原子力規制委員会の定める濃度限度及び線量限度以下になる設計</td> <td>主要寸法 出口内径：○○m 地上高さ：○○m 厚さ：○○mm 主要材料 筒身：○○ 支持鉄塔：○○ 基礎：○○</td> </tr> <tr> <td>第三十六条 重大事故等対処設備</td> <td>・想定される重大事故等の収束に必要な個数及び容量</td> <td>個数：○○</td> </tr> </table>		技術基準	機能要求②	主な仕様(詳細設計)	第五条 地盤	・建物・構築物を接地圧に対する十分な支持性能を有する事業変更許可を受けた地盤に設置	支持地盤許容支持力度：○○ 支持地盤極限支持力度：○○	第二十四条 廃棄施設	・周辺監視区域の外の空気中の放射性物質の濃度及び液体状の放射性物質の海洋放出に起因する線量が、それぞれ原子力規制委員会の定める濃度限度及び線量限度以下になる設計	主要寸法 出口内径：○○m 地上高さ：○○m 厚さ：○○mm 主要材料 筒身：○○ 支持鉄塔：○○ 基礎：○○	第三十六条 重大事故等対処設備	・想定される重大事故等の収束に必要な個数及び容量	個数：○○	<p><発電炉の要目表></p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td>変更前</td> <td>変更後</td> </tr> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td colspan="2">主排気筒</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td colspan="2">鉄塔支持型鋼製(制震装置付き[減衰係数：□□^{*1}])</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主要寸法</td> <td>内径^{*2}</td> <td>mm</td> <td>4500^{*3, *4}</td> </tr> <tr> <td>地表上の高さ</td> <td>m</td> <td>140^{*4}</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>—</td> <td colspan="2">SS400</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td colspan="2">1</td> </tr> </table> <p>注記 注1：オイルダンパの減衰係数を示す。 注2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「筒身内径」と記載。 注3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「4.5 m」と記載 注4：公称値を示す。</p>		名称		変更前	変更後	名称		主排気筒		種類	—	鉄塔支持型鋼製(制震装置付き[減衰係数：□□ ^{*1}])		主要寸法	内径 ^{*2}	mm	4500 ^{*3, *4}	地表上の高さ	m	140 ^{*4}	材料	—	SS400		個数	—	1		<p>変更なし</p>
変更前		変更後																																																																																										
名称	北換気筒(ガラス固化体受入れ・貯蔵建屋換気筒) ^{*1} 2	北換気筒(ガラス固化体受入れ・貯蔵建屋換気筒) ^{*1} 2																																																																																										
種類	六角鉄塔支持形(制震装置付き[減衰係数：○○ ^{*5}]) ^{*3}	六角鉄塔支持形(制震装置付き[減衰係数：○○ ^{*5}]) ^{*3}																																																																																										
支持地盤の許容支持力度	MPa	○○																																																																																										
支持地盤の限界支持力度	MPa	○○ ^{*6}																																																																																										
主要寸法																																																																																												
筒身																																																																																												
出口内径	m	○○																																																																																										
地上高さ ^{*4}	m	○○																																																																																										
厚さ	mm	○○																																																																																										
主要材料																																																																																												
筒身	—	○○																																																																																										
支持鉄塔	—	○○																																																																																										
基礎	—	○○																																																																																										
個数	—	○○ ^{*6}																																																																																										
技術基準	機能要求②	主な仕様(詳細設計)																																																																																										
第五条 地盤	・建物・構築物を接地圧に対する十分な支持性能を有する事業変更許可を受けた地盤に設置	支持地盤許容支持力度：○○ 支持地盤極限支持力度：○○																																																																																										
第二十四条 廃棄施設	・周辺監視区域の外の空気中の放射性物質の濃度及び液体状の放射性物質の海洋放出に起因する線量が、それぞれ原子力規制委員会の定める濃度限度及び線量限度以下になる設計	主要寸法 出口内径：○○m 地上高さ：○○m 厚さ：○○mm 主要材料 筒身：○○ 支持鉄塔：○○ 基礎：○○																																																																																										
第三十六条 重大事故等対処設備	・想定される重大事故等の収束に必要な個数及び容量	個数：○○																																																																																										
名称		変更前	変更後																																																																																									
名称		主排気筒																																																																																										
種類	—	鉄塔支持型鋼製(制震装置付き[減衰係数：□□ ^{*1}])																																																																																										
主要寸法	内径 ^{*2}	mm	4500 ^{*3, *4}																																																																																									
	地表上の高さ	m	140 ^{*4}																																																																																									
材料	—	SS400																																																																																										
個数	—	1																																																																																										
<p>名称 北換気筒</p> <p>種類 六角鉄塔支持形</p> <p>設計条件</p> <p>耐震クラス ○○</p> <p>支持地盤の許容支持力度 ○○</p> <p>流体の種類 ○○</p> <p>仕様</p> <p>筒身</p> <p>名称 ○○</p> <p>主要寸法</p> <p>出口内径 ○○</p> <p>地上の高さ ○○</p> <p>主要材料</p> <p>主要材料 ○○</p> <p>厚さ ○○</p> <p>支持鉄塔</p> <p>主要材料 ○○</p> <p>基礎</p> <p>主要材料 ○○</p> <p>添付図(構造図) 第1.1.1.1.2-1図に示す。</p> <p>特記事項 北換気筒の筒身への接近を管理、防止するために階段を施錠管理する。</p> <p>注記1)：支持鉄塔及び基礎は、基準地震動○で間接支持構造物としての支持機能が維持されていることの確認を行う。なお、北換気筒は、基準地震動○及び○にて使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設用の冷却水設備安全冷却水系の冷却塔に波及的影響を与えないように設計する。</p> <p>2)：鷹架層の許容支持力度として、重要な建物・構築物ごとに定まる値の最小値とする。</p> <p>基本設計方針で展開。</p> <p>添付書類に位置づけを変更したため、記載を削除。</p> <p>管理情報を示す項目であり、設備仕様と直接関係しない項目であるため、仕様表に記載しない。</p>		<table border="1"> <tr> <td>種</td> <td>種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td>構</td> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> <tr> <td>地</td> <td>地盤・基礎に係る追加仕様項目</td> </tr> </table> <p>地盤、基礎の仕様項目については、仕様表記載例 23a-1 の建屋の仕様表記載例を踏まえ検討中。</p>		種	種で統一して記載する仕様項目	構	構造分類に係る仕様項目	地	地盤・基礎に係る追加仕様項目																																																																																			
種	種で統一して記載する仕様項目																																																																																											
構	構造分類に係る仕様項目																																																																																											
地	地盤・基礎に係る追加仕様項目																																																																																											

仕様表記載例 23c-1【機種：建物・構築物（遮蔽設備）】

[常設] [構造分類：壁] [付属構造：－]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																																										
<p>第 1.-3 表 燃料加工建屋の壁厚等の主要寸法及び材料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>添付図</th> <th>主要寸法(m)</th> <th>材料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>第1.1-1図</td><td><1></td><td>〇〇</td></tr> <tr><td></td><td><2></td><td>〇〇</td></tr> <tr><td></td><td><3></td><td>〇〇</td></tr> <tr><td></td><td><4></td><td>〇〇</td></tr> <tr><td></td><td><5></td><td>〇〇</td></tr> <tr><td></td><td><6></td><td>〇〇</td></tr> <tr><td></td><td><7></td><td>〇〇</td></tr> <tr><td></td><td><8></td><td>〇〇</td></tr> <tr><td></td><td>...</td><td>...</td></tr> </tbody> </table> <p>第 1.-4 表 貯蔵容器搬送用洞道の壁厚等の主要寸法及び材料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>添付図</th> <th>主要寸法(m)</th> <th>材料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>第1.1-10図</td><td><200></td><td>〇〇</td></tr> <tr><td></td><td><201></td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>第1.1-11図</td><td><202></td><td>〇〇</td></tr> </tbody> </table> <p>遮蔽上期待する壁の厚さを階層ごとに記載する。 遮蔽壁の配置は、建屋平面図で示す。</p>	添付図	主要寸法(m)	材料	第1.1-1図	<1>	〇〇		<2>	〇〇		<3>	〇〇		<4>	〇〇		<5>	〇〇		<6>	〇〇		<7>	〇〇		<8>	〇〇		添付図	主要寸法(m)	材料	第1.1-10図	<200>	〇〇		<201>	〇〇	第1.1-11図	<202>	〇〇	<p>仕様表記載例 23a-1【機種：建物・構築物(建屋・洞道)】の既認可仕様表の主要寸法「壁厚等：第 1.-3 表に示す。」から展開。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名称 種類</th> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> <tr> <th>主要寸法 (最小厚さ mm)</th> <th>材料</th> <th>主要寸法 (最小厚さ mm)</th> <th>材料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>燃料加工建屋 地下3階 (T.M.S.L. ◯m)</td> <td>〇〇(〇〇*) 〇〇(〇〇*) 〇〇(〇〇*) 〇〇(〇〇*)</td> <td>〇〇〇〇〇〇 (密度〇 kg/m³以上)</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>燃料加工建屋 地下3中 2階 (T.M.S.L. ◯m)</td> <td>〇〇(〇〇*)</td> <td></td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>貯蔵容器搬送用洞道 (T.M.S.L. ◯m)</td> <td>〇〇(〇〇*) 〇〇(〇〇*) 〇〇(〇〇*)</td> <td>〇〇〇〇〇〇 (密度〇 kg/m³以上)</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>貯蔵容器搬送用洞道 (T.M.S.L. △m)</td> <td>〇〇(〇〇*)</td> <td></td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：公称値を示す。</p>	名称 種類	変更前		変更後		主要寸法 (最小厚さ mm)	材料	主要寸法 (最小厚さ mm)	材料	燃料加工建屋 地下3階 (T.M.S.L. ◯m)	〇〇(〇〇*) 〇〇(〇〇*) 〇〇(〇〇*) 〇〇(〇〇*)	〇〇〇〇〇〇 (密度〇 kg/m ³ 以上)	変更なし	変更なし	燃料加工建屋 地下3中 2階 (T.M.S.L. ◯m)	〇〇(〇〇*)		変更なし	変更なし	貯蔵容器搬送用洞道 (T.M.S.L. ◯m)	〇〇(〇〇*) 〇〇(〇〇*) 〇〇(〇〇*)	〇〇〇〇〇〇 (密度〇 kg/m ³ 以上)	変更なし	変更なし	貯蔵容器搬送用洞道 (T.M.S.L. △m)	〇〇(〇〇*)		変更なし	変更なし	<p>技術基準 第二十条 遮蔽</p> <p>機能要求② 様式-6 様式-7</p> <p>安全機能を有する施設は、放射線業務従事者の放射線障害を防止するために必要な遮蔽設備を適切に設置すること及びMOX燃料加工施設から周辺監視区域境界までの距離を確保することにより、通常時においてMOX燃料加工施設からの直接線及びスカイシャイン線による工場等周辺の線量を合理的に達成できる限り低減し、周辺監視区域外における線量限度に比十分に下回るような遮蔽設計とする。</p> <p>放射線業務従事者の立入頻度及び立入時間を考慮し、遮蔽設計の基準となる線量率を設定するとともに、管理区域を線量率に応じて適切に区分し、区分ごとの基準線量率を満足するよう遮蔽設備を設置する設計とする。</p> <p>遮蔽設備に開口部又は貫通部がある場合で、開口部又は貫通部により遮蔽設計の基準となる線量率を超えるおそれのある場合には、以下に示すような放射線の漏えいを防止するための措置を講じ、遮蔽設計の基準となる線量率を満足する設計とする。</p> <p>a. 建屋壁遮蔽に開口部を設ける場合、人が容易に接近できないような場所（通路の行き止まり部、高所等）へ設置する。</p> <p>b. 遮蔽設備を貫通する搬送路、ダクト、配管については、開口部及び貫通部が線源を直接見通さないような場所に設置する。</p> <p>c. 遮蔽設備の開口部及び貫通部には、遮蔽扉、遮蔽蓋又は補助遮蔽を設置する措置を講ずる。</p> <p>主な仕様 (詳細設計)</p> <p>遮蔽体 ・主要材料 ・厚さ</p> <p>遮蔽体 ・主要材料 ・厚さ</p>	<p>発電炉類似設備要目表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名称 種類</th> <th colspan="2">変更前*</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> <tr> <th>主要寸法 (最小厚さ mm)</th> <th>材料</th> <th>主要寸法 (最小厚さ mm)</th> <th>材料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉遮蔽</td> <td>〇〇* (〇〇* *)</td> <td>〇〇〇〇 (密度 〇〇 g/cm³以上) 〇〇(〇〇)</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>二次遮蔽</td> <td>〇〇(〇〇*) 〇〇(〇〇*) 〇〇(〇〇*) 〇〇(〇〇*) 〇〇(〇〇*)</td> <td>〇〇〇〇 (密度 〇〇 以上)</td> <td>変更なし</td> <td>〇〇〇〇 (密度 〇〇 以上)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：既工事計画図に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *2：網区を含む厚さ。 *3：公称値を示す。</p>	名称 種類	変更前*		変更後		主要寸法 (最小厚さ mm)	材料	主要寸法 (最小厚さ mm)	材料	原子炉遮蔽	〇〇* (〇〇* *)	〇〇〇〇 (密度 〇〇 g/cm ³ 以上) 〇〇(〇〇)	変更なし	変更なし	二次遮蔽	〇〇(〇〇*) 〇〇(〇〇*) 〇〇(〇〇*) 〇〇(〇〇*) 〇〇(〇〇*)	〇〇〇〇 (密度 〇〇 以上)	変更なし	〇〇〇〇 (密度 〇〇 以上)	<p>冷却方法は放射線による温度上昇がわずかであるため記載項目としない。</p>
添付図	主要寸法(m)	材料																																																																																												
第1.1-1図	<1>	〇〇																																																																																												
	<2>	〇〇																																																																																												
	<3>	〇〇																																																																																												
	<4>	〇〇																																																																																												
	<5>	〇〇																																																																																												
	<6>	〇〇																																																																																												
	<7>	〇〇																																																																																												
	<8>	〇〇																																																																																												
																																																																																												
添付図	主要寸法(m)	材料																																																																																												
第1.1-10図	<200>	〇〇																																																																																												
	<201>	〇〇																																																																																												
第1.1-11図	<202>	〇〇																																																																																												
名称 種類	変更前		変更後																																																																																											
	主要寸法 (最小厚さ mm)	材料	主要寸法 (最小厚さ mm)	材料																																																																																										
燃料加工建屋 地下3階 (T.M.S.L. ◯m)	〇〇(〇〇*) 〇〇(〇〇*) 〇〇(〇〇*) 〇〇(〇〇*)	〇〇〇〇〇〇 (密度〇 kg/m ³ 以上)	変更なし	変更なし																																																																																										
燃料加工建屋 地下3中 2階 (T.M.S.L. ◯m)	〇〇(〇〇*)		変更なし	変更なし																																																																																										
貯蔵容器搬送用洞道 (T.M.S.L. ◯m)	〇〇(〇〇*) 〇〇(〇〇*) 〇〇(〇〇*)	〇〇〇〇〇〇 (密度〇 kg/m ³ 以上)	変更なし	変更なし																																																																																										
貯蔵容器搬送用洞道 (T.M.S.L. △m)	〇〇(〇〇*)		変更なし	変更なし																																																																																										
名称 種類	変更前*		変更後																																																																																											
	主要寸法 (最小厚さ mm)	材料	主要寸法 (最小厚さ mm)	材料																																																																																										
原子炉遮蔽	〇〇* (〇〇* *)	〇〇〇〇 (密度 〇〇 g/cm ³ 以上) 〇〇(〇〇)	変更なし	変更なし																																																																																										
二次遮蔽	〇〇(〇〇*) 〇〇(〇〇*) 〇〇(〇〇*) 〇〇(〇〇*) 〇〇(〇〇*)	〇〇〇〇 (密度 〇〇 以上)	変更なし	〇〇〇〇 (密度 〇〇 以上)																																																																																										

仕様表記載例 23c-2 【機種：建物・構築物(遮蔽設備)】

[常設] [構造分類：扉・窓・ハッチ・蓋・プラグ] [付属構造：-]

既認可の仕様表		仕様表案		要求事項の整理		発電炉類似設備要目表		備考																																																
<p>②添付図面で展開</p> <p>①基本設計方針で展開</p> <table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>しゃへい蓋<H1></td> </tr> <tr> <td>耐震クラス</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>放射線防護(しゃへい)</td> <td>しゃへい設計の基準となる線量率を満足するものとする。</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>構造の種類</td> <td>本体：○○</td> </tr> <tr> <td>主要寸法</td> <td>厚さ：第1.1-6表に示す。</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>○○○○○○ 密度 ○kg/m³以上</td> </tr> <tr> <td>添付図(平面図及び断面図)</td> <td>第1.1-2図及び第1.1-13図に示す。 しゃへい蓋番号は、<H1></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td>-</td> </tr> </table> <p>注1 対応する加工事業許可番号(日付)：平成17・04・20原第18号(平成22年5月13日)</p> <p>注2 しゃへい蓋は、開閉のため繰り返し取り扱うことから、コンクリート保護のため○○○○○○により被覆する。</p> <p>③添付図面で展開</p> <p>第1.1-6表 燃料加工建屋のしゃへい蓋のしゃへい厚及び材料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">添付図</th> <th rowspan="2">しゃへい厚(mm)</th> <th rowspan="2">材料</th> <th colspan="2">隣接部屋番号</th> </tr> <tr> <th>線源室</th> <th>線源室外</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1.1-13図</td> <td><H1></td> <td>○○</td> <td>XXX (○○室)</td> <td>YYY (○○室)</td> </tr> </tbody> </table> <p>④添付図面で展開</p>		名称	しゃへい蓋<H1>	耐震クラス	-	放射線防護(しゃへい)	しゃへい設計の基準となる線量率を満足するものとする。	個数	○	構造の種類	本体：○○	主要寸法	厚さ：第1.1-6表に示す。	主要材料	○○○○○○ 密度 ○kg/m ³ 以上	添付図(平面図及び断面図)	第1.1-2図及び第1.1-13図に示す。 しゃへい蓋番号は、<H1>	特記事項	-	添付図	しゃへい厚(mm)	材料	隣接部屋番号		線源室	線源室外	第1.1-13図	<H1>	○○	XXX (○○室)	YYY (○○室)	<table border="1"> <tr> <th>変更後</th> <th>変更前</th> </tr> <tr> <td>名称</td> <td>燃料加工建屋地下3階(T.M.S.L.m)遮蔽蓋</td> </tr> <tr> <td>主要寸法(最小厚さmm)</td> <td>○○(○○*) ○○(○○*) ○○(○○*)</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>○○○○○ (密度○○○○kg/m³以上) ○○○○○(○○)</td> </tr> </table> <p>注記 *1：公称値を示す。</p> <p>機種で統一して記載する仕様項目</p>		変更後	変更前	名称	燃料加工建屋地下3階(T.M.S.L.m)遮蔽蓋	主要寸法(最小厚さmm)	○○(○○*) ○○(○○*) ○○(○○*)	材料	○○○○○ (密度○○○○kg/m ³ 以上) ○○○○○(○○)	<p>技術基準</p> <p>第二十二条 遮蔽</p> <p>安全機能を有する施設は、放射線業務従事者の放射線障害を防止するために必要な遮蔽設備を適切に設置すること及びMOX燃料加工施設から周辺監視区域境界までの距離を確保することにより、通常時においてMOX燃料加工施設からの直接線及びスカイシャイン線による工場等周辺の線量を合理的に達成できる限り低減し、周辺監視区域外における線量限度に比へ十分に下回るような遮蔽設計とする。</p> <p>放射線業務従事者の立入頻度及び立入時間を考慮し、遮蔽設計の基準となる線量率を設定するとともに、管理区域を線量率に応じて適切に区分し、区分ごとの基準線量率を満足するよう遮蔽設備を設置する設計とする。</p> <p>遮蔽設備に開口部又は貫通部がある場合で、開口部又は貫通部により遮蔽設計の基準となる線量率を超えるおそれのある場合には、以下に示すような放射線の漏えいを防止するための措置を講じ、遮蔽設計の基準となる線量率を満足する設計とする。</p> <p>a. 建屋壁遮蔽に開口部を設ける場合、人が容易に接近できないような場所(通路の行き止まり部、高所等)へ設置する。</p> <p>b. 遮蔽設備を貫通する搬送路、ダクト、配管については、開口部及び貫通部が線源を直接見えないような場所に設置する。</p> <p>c. 遮蔽設備の開口部及び貫通部には、遮蔽扉、遮蔽蓋又は補助遮蔽を設置する措置を講ずる。</p>		<p>機能要求②</p> <p>様式-6様式-7</p> <p>主な仕様(詳細設計)</p> <p>遮蔽体 ・主要材料 ・厚さ</p> <p>遮蔽体 ・主要材料 ・厚さ</p>		<p>発電炉類似設備要目表</p> <table border="1"> <tr> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> <tr> <td>名称</td> <td>燃料加工建屋地下3階(T.M.S.L.m)遮蔽蓋</td> </tr> <tr> <td>主要寸法(最小厚さmm)</td> <td>395(400*) 895(900*) 219.2(228*) 110(110*)</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>普通コンクリート(密度2.4g/cm³以上) 鉛ガラス(密度4.3g/cm³以上) 鋼板(S8400)</td> </tr> </table> <p>注記 *：公称値を示す。</p>		変更前	変更後	名称	燃料加工建屋地下3階(T.M.S.L.m)遮蔽蓋	主要寸法(最小厚さmm)	395(400*) 895(900*) 219.2(228*) 110(110*)	材料	普通コンクリート(密度2.4g/cm ³ 以上) 鉛ガラス(密度4.3g/cm ³ 以上) 鋼板(S8400)	<p>冷却方法は放射線による温度上昇がわずかであるため記載項目としない。</p>
名称	しゃへい蓋<H1>																																																							
耐震クラス	-																																																							
放射線防護(しゃへい)	しゃへい設計の基準となる線量率を満足するものとする。																																																							
個数	○																																																							
構造の種類	本体：○○																																																							
主要寸法	厚さ：第1.1-6表に示す。																																																							
主要材料	○○○○○○ 密度 ○kg/m ³ 以上																																																							
添付図(平面図及び断面図)	第1.1-2図及び第1.1-13図に示す。 しゃへい蓋番号は、<H1>																																																							
特記事項	-																																																							
添付図	しゃへい厚(mm)	材料	隣接部屋番号																																																					
			線源室	線源室外																																																				
第1.1-13図	<H1>	○○	XXX (○○室)	YYY (○○室)																																																				
変更後	変更前																																																							
名称	燃料加工建屋地下3階(T.M.S.L.m)遮蔽蓋																																																							
主要寸法(最小厚さmm)	○○(○○*) ○○(○○*) ○○(○○*)																																																							
材料	○○○○○ (密度○○○○kg/m ³ 以上) ○○○○○(○○)																																																							
変更前	変更後																																																							
名称	燃料加工建屋地下3階(T.M.S.L.m)遮蔽蓋																																																							
主要寸法(最小厚さmm)	395(400*) 895(900*) 219.2(228*) 110(110*)																																																							
材料	普通コンクリート(密度2.4g/cm ³ 以上) 鉛ガラス(密度4.3g/cm ³ 以上) 鋼板(S8400)																																																							

仕様表記載例 23d 【機種：建物・構築物（施設外漏えい堰）】

[常設] [構造分類：－] [付属構造：－]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																																															
<p>MOX 施設の既認可に仕様表なし。</p>	<table border="1" data-bbox="730 348 1323 810"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th colspan="2">〇〇〇〇</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>－</th> <th colspan="2">堰</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主要寸法</td> <td>堰の高さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇以上*2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>床面及び壁面の塗装の範囲</td> <td>－</td> <td>床面及び床面から堰の高さ以上までの壁面</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主要材料</td> <td>本体</td> <td>－</td> <td>〇〇〇</td> </tr> <tr> <td>床面及び壁面の塗装</td> <td>－</td> <td>〇〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">取付箇所</td> <td>系統名（ライン名）</td> <td>－</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>－</td> <td>〇〇〇 T.M.S.L.〇m</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>－</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td></td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>－</td> <td>－</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="715 821 1012 873">注記 *1：公称値を示す。 *2：T.M.S.L.〇mからの高さ。</p> <div data-bbox="804 921 1184 957" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> 機種で統一して記載する仕様項目 </div>	名称		〇〇〇〇		種類	－	堰		主要寸法	堰の高さ	mm	〇〇以上*2		床面及び壁面の塗装の範囲	－	床面及び床面から堰の高さ以上までの壁面	主要材料	本体	－	〇〇〇	床面及び壁面の塗装	－	〇〇〇	取付箇所	系統名（ライン名）	－	－	設置床	－	〇〇〇 T.M.S.L.〇m	溢水防護上の区画番号	－	－		溢水防護上の配慮が必要な高さ	－	－	<table border="1" data-bbox="1353 359 1961 905"> <thead> <tr> <th rowspan="2">技術基準</th> <th colspan="2">機能要求②</th> <th rowspan="2">主な仕様（詳細設計）</th> </tr> <tr> <th colspan="2">様式-6 様式-7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第十条 閉じ込め</td> <td colspan="2">液体廃棄物を内包する系統及び機器は、溶接、フランジ又は継手で接続する構造により核燃料物質等が漏えいし難い設計とし、系統及び機器から廃液が漏えいした場合、漏えい検知器により検知できる設計とする。とともに、堰等により漏えいの拡大を防止できる設計とする。</td> <td>主要寸法（高さ） 床面及び壁面の塗装の範囲 主要材料（床面及び壁面の塗装）</td> </tr> <tr> <td>第十二条 溢水防護</td> <td colspan="2">発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。</td> <td>取付箇所（区画番号、配慮が必要な高さ）</td> </tr> </tbody> </table>	技術基準	機能要求②		主な仕様（詳細設計）	様式-6 様式-7		第十条 閉じ込め	液体廃棄物を内包する系統及び機器は、溶接、フランジ又は継手で接続する構造により核燃料物質等が漏えいし難い設計とし、系統及び機器から廃液が漏えいした場合、漏えい検知器により検知できる設計とする。とともに、堰等により漏えいの拡大を防止できる設計とする。		主要寸法（高さ） 床面及び壁面の塗装の範囲 主要材料（床面及び壁面の塗装）	第十二条 溢水防護	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。		取付箇所（区画番号、配慮が必要な高さ）	<p data-bbox="1991 327 2632 453">3 堰その他の設備に係る次の事項 (2) 原子伊格納容器本体外に設置される流体状の放射性廃棄物を内包する容器からの流体状の放射性廃棄物の施設外への漏えいを防止するために施設する堰（放射性廃棄物運搬容器にあつては、流体状の放射性廃棄物の施設外への漏えいを防止するために施設する設備）の名称、主要寸法、材料及び取付箇所並びに床面及び壁面の塗装の範囲及び材料</p> <table border="1" data-bbox="1991 464 2585 1052"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名称</th> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> <tr> <th>キャスク搬出入用 出入口</th> <th>－</th> <th>キャスク搬出入用 出入口*1</th> <th>－</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種類*2</td> <td>－</td> <td colspan="2">堰</td> <td rowspan="5">変更なし</td> </tr> <tr> <td>主要寸法</td> <td>堰の高さ</td> <td>mm</td> <td>150以上*3、*6</td> </tr> <tr> <td></td> <td>床面及び壁面の塗装の範囲*4</td> <td>－</td> <td>床面及び床面から堰の高さ以上までの壁面</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>堰</td> <td>－</td> <td>鉄筋コンクリート</td> </tr> <tr> <td></td> <td>床面及び壁面の塗装*4</td> <td>－</td> <td>エポキシ樹脂</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">取付箇所</td> <td>系統名（ライン名）</td> <td>－</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>－</td> <td>EL. 8.30 m*5</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>－</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td></td> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>－</td> <td>－</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1991 1062 2585 1188">注記 *1：浸水防護施設のうち内郭浸水防護設備と兼用する。 *2：浸水防護施設のうち内郭浸水防護設備に使用する場合は事項を記載。 *3：EL. 8.30 mからの高さ。 *4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「床・壁の塗装」と記載。 *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「サイトバンカトラックエリア（一階）」と記載。</p>	名称	変更前		変更後		キャスク搬出入用 出入口	－	キャスク搬出入用 出入口*1	－	種類*2	－	堰		変更なし	主要寸法	堰の高さ	mm	150以上*3、*6		床面及び壁面の塗装の範囲*4	－	床面及び床面から堰の高さ以上までの壁面	材料	堰	－	鉄筋コンクリート		床面及び壁面の塗装*4	－	エポキシ樹脂	取付箇所	系統名（ライン名）	－	－	設置床	－	EL. 8.30 m*5	溢水防護上の区画番号	－	－		溢水防護上の配慮が必要な高さ	－	－	
名称		〇〇〇〇																																																																																																	
種類	－	堰																																																																																																	
主要寸法	堰の高さ	mm	〇〇以上*2																																																																																																
	床面及び壁面の塗装の範囲	－	床面及び床面から堰の高さ以上までの壁面																																																																																																
主要材料	本体	－	〇〇〇																																																																																																
	床面及び壁面の塗装	－	〇〇〇																																																																																																
取付箇所	系統名（ライン名）	－	－																																																																																																
	設置床	－	〇〇〇 T.M.S.L.〇m																																																																																																
	溢水防護上の区画番号	－	－																																																																																																
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－	－																																																																																																
技術基準	機能要求②		主な仕様（詳細設計）																																																																																																
	様式-6 様式-7																																																																																																		
第十条 閉じ込め	液体廃棄物を内包する系統及び機器は、溶接、フランジ又は継手で接続する構造により核燃料物質等が漏えいし難い設計とし、系統及び機器から廃液が漏えいした場合、漏えい検知器により検知できる設計とする。とともに、堰等により漏えいの拡大を防止できる設計とする。		主要寸法（高さ） 床面及び壁面の塗装の範囲 主要材料（床面及び壁面の塗装）																																																																																																
第十二条 溢水防護	発生を想定する溢水量、溢水防護区画及び溢水経路から算出される溢水水位と防護すべき設備が要求される機能を損なうおそれがある高さ（以下「機能喪失高さ」という。）を比較し評価する。防護すべき設備は、没水により要求される機能を損なうおそれがない設計とする。また、溢水の流入状態、溢水源からの距離、溢水が滞留している区画での人のアクセスによる一時的な水位変動を考慮し、機能喪失高さは発生した溢水による水位に対して安全余裕を確保する設計とする。		取付箇所（区画番号、配慮が必要な高さ）																																																																																																
名称	変更前		変更後																																																																																																
	キャスク搬出入用 出入口	－	キャスク搬出入用 出入口*1	－																																																																																															
種類*2	－	堰		変更なし																																																																																															
主要寸法	堰の高さ	mm	150以上*3、*6																																																																																																
	床面及び壁面の塗装の範囲*4	－	床面及び床面から堰の高さ以上までの壁面																																																																																																
材料	堰	－	鉄筋コンクリート																																																																																																
	床面及び壁面の塗装*4	－	エポキシ樹脂																																																																																																
取付箇所	系統名（ライン名）	－	－																																																																																																
	設置床	－	EL. 8.30 m*5																																																																																																
	溢水防護上の区画番号	－	－																																																																																																
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－	－																																																																																																

仕様表記載例 23e 【機種：建物・構築物（保管・廃棄エリア）】

[常設] [構造分類：－] [付属構造：－]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																													
<p>MOX 施設の既認可に仕様表なし</p>	<table border="1" data-bbox="736 310 1347 716"> <tr> <td colspan="2"></td> <td>変更前</td> <td>変更後</td> </tr> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td colspan="2">廃棄物保管エリア</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>－</td> <td colspan="2">建物</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>－</td> <td colspan="2">200Lドラム缶換算で約〇本</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要寸法*1</td> <td>たて</td> <td>m</td> <td>〇</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>m</td> <td>〇</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>m</td> <td>〇</td> </tr> <tr> <td>設置場所</td> <td>－</td> <td colspan="2">廃棄物保管第1室 T.M.S.L.〇m</td> </tr> </table> <p data-bbox="736 716 1071 737">注記 ※1：保管するエリアの寸法を示す。</p> <table border="1" data-bbox="825 856 1205 953"> <tr> <td style="background-color: #e0e0e0;"></td> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #c0c0c0;"></td> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #a0a0a0;"></td> <td>臨界管理に係る追加仕様項目</td> </tr> </table>			変更前	変更後	名称		廃棄物保管エリア		種類	－	建物		容量	－	200Lドラム缶換算で約〇本		主要寸法*1	たて	m	〇	横	m	〇	高さ	m	〇	設置場所	－	廃棄物保管第1室 T.M.S.L.〇m			機種で統一して記載する仕様項目		構造分類に係る仕様項目		臨界管理に係る追加仕様項目	<table border="1" data-bbox="1371 310 1982 1108"> <thead> <tr> <th>技術基準</th> <th>機能要求②</th> <th>主な仕様 (詳細設計)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第十七条 貯蔵</td> <td>様式-6,7 各工程間の一時保管設備及び貯蔵設備は、次工程への引出しまでに必要な検査等を考慮し、円滑な運転ができる容量を有する設計とする。</td> <td>容量</td> </tr> <tr> <td>第二十条 廃棄</td> <td> <p>廃油保管室の廃油保管エリアは、管理区域内において、機器の点検並びに交換及び装置の稼働に伴って発生する機械油又は分析作業に伴い発生する有機溶媒（以下「油類」という。）のうち、燃料加工建屋の管理区域内で発生する再利用しない油類は、ドラム缶又は金属製容器に封入し油類廃棄物として保管廃棄するために必要な容量を確保する設計とする。</p> <p>MOX 燃料加工施設で発生する放射性固体廃棄物は、可燃性、難燃性及び不燃性の雑固体であり、分別等を行った後、ドラム缶又は金属製角型容器に封入し、廃棄物保管第1室及び廃棄物保管第2室の廃棄物保管エリアで保管廃棄するか、再処理施設の低レベル固体廃棄物貯蔵設備の第2低レベル廃棄物貯蔵系で保管廃棄する。保管廃棄施設（安全機能を有する施設に属するものに限る。）は、放射性廃棄物を保管廃棄するために必要な容量を有する設計とする。</p> <p>液体状の放射性廃棄物のうち油類廃棄物については、吸着剤により固化処理し、ドラム缶又は金属製角型容器に封入後、放射性固体廃棄物として保管廃棄する。</p> <p>放射性固体廃棄物を保管廃棄する場合において、雑固体を容器に封入するときは、ドラム缶又は金属製角型容器は、次に掲げる基準に適合する設計とする。</p> <p>(1) ドラム缶又は金属製角型容器は、水が浸透しにくく、腐食に耐え、及び放射性廃棄物が漏れにくい構造とする設計とする。</p> <p>(2) ドラム缶又は金属製角型容器は、亀裂又は破損が生じるおそれがない構造とする設計とする。</p> <p>(3) ドラム缶又は金属製角型容器の蓋が容易に外れないように固定可能な設計とする。</p> </td> <td>容量</td> </tr> </tbody> </table> <div data-bbox="1418 1178 1908 1289" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p>MOX 燃料加工施設の核燃料物質の輸送容器の保管エリアの臨界管理に係る条件は検討中。</p> </div>	技術基準	機能要求②	主な仕様 (詳細設計)	第十七条 貯蔵	様式-6,7 各工程間の一時保管設備及び貯蔵設備は、次工程への引出しまでに必要な検査等を考慮し、円滑な運転ができる容量を有する設計とする。	容量	第二十条 廃棄	<p>廃油保管室の廃油保管エリアは、管理区域内において、機器の点検並びに交換及び装置の稼働に伴って発生する機械油又は分析作業に伴い発生する有機溶媒（以下「油類」という。）のうち、燃料加工建屋の管理区域内で発生する再利用しない油類は、ドラム缶又は金属製容器に封入し油類廃棄物として保管廃棄するために必要な容量を確保する設計とする。</p> <p>MOX 燃料加工施設で発生する放射性固体廃棄物は、可燃性、難燃性及び不燃性の雑固体であり、分別等を行った後、ドラム缶又は金属製角型容器に封入し、廃棄物保管第1室及び廃棄物保管第2室の廃棄物保管エリアで保管廃棄するか、再処理施設の低レベル固体廃棄物貯蔵設備の第2低レベル廃棄物貯蔵系で保管廃棄する。保管廃棄施設（安全機能を有する施設に属するものに限る。）は、放射性廃棄物を保管廃棄するために必要な容量を有する設計とする。</p> <p>液体状の放射性廃棄物のうち油類廃棄物については、吸着剤により固化処理し、ドラム缶又は金属製角型容器に封入後、放射性固体廃棄物として保管廃棄する。</p> <p>放射性固体廃棄物を保管廃棄する場合において、雑固体を容器に封入するときは、ドラム缶又は金属製角型容器は、次に掲げる基準に適合する設計とする。</p> <p>(1) ドラム缶又は金属製角型容器は、水が浸透しにくく、腐食に耐え、及び放射性廃棄物が漏れにくい構造とする設計とする。</p> <p>(2) ドラム缶又は金属製角型容器は、亀裂又は破損が生じるおそれがない構造とする設計とする。</p> <p>(3) ドラム缶又は金属製角型容器の蓋が容易に外れないように固定可能な設計とする。</p>	容量	<table border="1" data-bbox="2041 260 2525 1499"> <thead> <tr> <th colspan="2">変更後</th> <th colspan="2">変更前</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>種類</th> <th>名称</th> <th>種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建物</td> <td>地上■階建(■エリア)</td> <td>建物</td> <td>地上■階建(■エリア)</td> </tr> <tr> <td>ドラム缶詰固体廃棄物</td> <td>200ℓドラム缶 約■本相当 上段約■本 中段約■本 下段約■本</td> <td>固体廃棄物貯蔵庫</td> <td>ドラム缶詰固体廃棄物 200ℓドラム缶 約■本相当 上段約■本 中段約■本 下段約■本</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td>m</td> <td>たて</td> <td>m</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>m</td> <td>横</td> <td>m</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>m</td> <td>高さ</td> <td>m</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>■</td> <td>材料</td> <td>■</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="2012 1066 2041 1507">(6) 廃棄物貯蔵庫の名称、種類、容量、主要寸法及び材料</p> <p data-bbox="2516 1171 2561 1507">注記：*（ ）内は、貯蔵エリアを示す。変更後の最右欄は今回増設分を示す。</p>	変更後		変更前		名称	種類	名称	種類	建物	地上■階建(■エリア)	建物	地上■階建(■エリア)	ドラム缶詰固体廃棄物	200ℓドラム缶 約■本相当 上段約■本 中段約■本 下段約■本	固体廃棄物貯蔵庫	ドラム缶詰固体廃棄物 200ℓドラム缶 約■本相当 上段約■本 中段約■本 下段約■本	たて	m	たて	m	横	m	横	m	高さ	m	高さ	m	材料	■	材料	■	<p data-bbox="2680 310 2858 394">材料については、建屋の仕様表の主要材料で記載しているため、記載しない。</p> <p data-bbox="2680 415 2858 531">主要寸法の外寸については、建屋の仕様表の主要寸法（たて×横、高さ）で示しているため、保管エリア寸法を記載する。</p>
		変更前	変更後																																																																														
名称		廃棄物保管エリア																																																																															
種類	－	建物																																																																															
容量	－	200Lドラム缶換算で約〇本																																																																															
主要寸法*1	たて	m	〇																																																																														
	横	m	〇																																																																														
	高さ	m	〇																																																																														
設置場所	－	廃棄物保管第1室 T.M.S.L.〇m																																																																															
	機種で統一して記載する仕様項目																																																																																
	構造分類に係る仕様項目																																																																																
	臨界管理に係る追加仕様項目																																																																																
技術基準	機能要求②	主な仕様 (詳細設計)																																																																															
第十七条 貯蔵	様式-6,7 各工程間の一時保管設備及び貯蔵設備は、次工程への引出しまでに必要な検査等を考慮し、円滑な運転ができる容量を有する設計とする。	容量																																																																															
第二十条 廃棄	<p>廃油保管室の廃油保管エリアは、管理区域内において、機器の点検並びに交換及び装置の稼働に伴って発生する機械油又は分析作業に伴い発生する有機溶媒（以下「油類」という。）のうち、燃料加工建屋の管理区域内で発生する再利用しない油類は、ドラム缶又は金属製容器に封入し油類廃棄物として保管廃棄するために必要な容量を確保する設計とする。</p> <p>MOX 燃料加工施設で発生する放射性固体廃棄物は、可燃性、難燃性及び不燃性の雑固体であり、分別等を行った後、ドラム缶又は金属製角型容器に封入し、廃棄物保管第1室及び廃棄物保管第2室の廃棄物保管エリアで保管廃棄するか、再処理施設の低レベル固体廃棄物貯蔵設備の第2低レベル廃棄物貯蔵系で保管廃棄する。保管廃棄施設（安全機能を有する施設に属するものに限る。）は、放射性廃棄物を保管廃棄するために必要な容量を有する設計とする。</p> <p>液体状の放射性廃棄物のうち油類廃棄物については、吸着剤により固化処理し、ドラム缶又は金属製角型容器に封入後、放射性固体廃棄物として保管廃棄する。</p> <p>放射性固体廃棄物を保管廃棄する場合において、雑固体を容器に封入するときは、ドラム缶又は金属製角型容器は、次に掲げる基準に適合する設計とする。</p> <p>(1) ドラム缶又は金属製角型容器は、水が浸透しにくく、腐食に耐え、及び放射性廃棄物が漏れにくい構造とする設計とする。</p> <p>(2) ドラム缶又は金属製角型容器は、亀裂又は破損が生じるおそれがない構造とする設計とする。</p> <p>(3) ドラム缶又は金属製角型容器の蓋が容易に外れないように固定可能な設計とする。</p>	容量																																																																															
変更後		変更前																																																																															
名称	種類	名称	種類																																																																														
建物	地上■階建(■エリア)	建物	地上■階建(■エリア)																																																																														
ドラム缶詰固体廃棄物	200ℓドラム缶 約■本相当 上段約■本 中段約■本 下段約■本	固体廃棄物貯蔵庫	ドラム缶詰固体廃棄物 200ℓドラム缶 約■本相当 上段約■本 中段約■本 下段約■本																																																																														
たて	m	たて	m																																																																														
横	m	横	m																																																																														
高さ	m	高さ	m																																																																														
材料	■	材料	■																																																																														

仕様表記載例 23g-1 【機種：建物・構築物(防水区画構築物)】

[常設] [構造分類：堰] [付属構造：－]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																																			
<p><既認可仕様表なし></p>	<table border="1" data-bbox="736 352 1344 653"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種類</td> <td>堰</td> <td>－</td> <td>〇〇〇</td> </tr> <tr> <td>主要寸法</td> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇^{*4}</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>堰</td> <td>－</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">取付箇所</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>－</td> <td>－^{*1}</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>－</td> <td>〇〇 T. M. S. L. +〇〇m</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>－</td> <td>－^{*2}</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>－</td> <td>－^{*2}</td> </tr> <tr> <td>化学薬品防護上の区画番号</td> <td>－</td> <td>－^{*3}</td> </tr> <tr> <td></td> <td>化学薬品防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>－</td> <td>－^{*3}</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="736 653 1344 737">注記 *1：系統の独立性を要求されないため「－」とする。 *2：溢水防護機能を要求されない設備のため「－」とする。 *3：化学薬品防護機能を要求されない設備のため「－」とする。 *4：T. M. S. L. +〇mからの高さ</p> <table border="1" data-bbox="825 793 1202 856"> <tr> <td>■</td> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> </table>	名称		変更前	変更後	種類	堰	－	〇〇〇	主要寸法	高さ	mm	〇〇 ^{*4}	主要材料	堰	－	〇〇	取付箇所	系統名(ライン名)	－	－ ^{*1}	設置床	－	〇〇 T. M. S. L. +〇〇m	溢水防護上の区画番号	－	－ ^{*2}	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－	－ ^{*2}	化学薬品防護上の区画番号	－	－ ^{*3}		化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	－	－ ^{*3}	■	機種で統一して記載する仕様項目	■	構造分類に係る仕様項目	<table border="1" data-bbox="1374 352 1976 850"> <thead> <tr> <th>技術基準</th> <th>機能要求② 様式-6 様式-7</th> <th>主な仕様 (詳細設計)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第十条 閉じ込め の機能</td> <td>液体状の使用済燃料等を取り扱う設備の周辺部又は施設外に通じる出入口若しくはその周辺部には、堰を設けることにより、液体状の使用済燃料等が施設外へ漏えいすることを防止する設計とする。</td> <td>・主要寸法</td> </tr> <tr> <td>第十二条 溢水防護</td> <td> <p>没水の影響により、防護すべき設備が溢水による水位に対し機能喪失高さを確保できないおそれがある場合は、溢水水位を上回る高さまで、溢水経路に溢水により発生する水位や水圧に対して止水性(以下「止水性」という。)を維持する壁、防水扉、堰等により溢水伝播を防止する等の対策を実施する。</p> <p>止水性を維持する溢水防護設備については、試験又は机上評価にて止水性を確認する設計とする。</p> <p>6.6.4 燃料貯蔵プール・ピット等のスロッシング後の機能維持に関する評価及び防護設計方針 燃料貯蔵プール・ピット等のスロッシングによる溢水量の算出に当たっては、基準地震動による地震力によって生じるスロッシング現象を三次元流動解析により評価し、燃料貯蔵プール・ピット等の外へ漏えいする水量を評価する。</p> <p>その際、燃料貯蔵プール・ピット等の周囲に止水板及び蓋を設置することによりスロッシング水量を低減する設計とする。</p> </td> <td> ・主要寸法 ・主要材料 </td> </tr> </tbody> </table>	技術基準	機能要求② 様式-6 様式-7	主な仕様 (詳細設計)	第十条 閉じ込め の機能	液体状の使用済燃料等を取り扱う設備の周辺部又は施設外に通じる出入口若しくはその周辺部には、堰を設けることにより、液体状の使用済燃料等が施設外へ漏えいすることを防止する設計とする。	・主要寸法	第十二条 溢水防護	<p>没水の影響により、防護すべき設備が溢水による水位に対し機能喪失高さを確保できないおそれがある場合は、溢水水位を上回る高さまで、溢水経路に溢水により発生する水位や水圧に対して止水性(以下「止水性」という。)を維持する壁、防水扉、堰等により溢水伝播を防止する等の対策を実施する。</p> <p>止水性を維持する溢水防護設備については、試験又は机上評価にて止水性を確認する設計とする。</p> <p>6.6.4 燃料貯蔵プール・ピット等のスロッシング後の機能維持に関する評価及び防護設計方針 燃料貯蔵プール・ピット等のスロッシングによる溢水量の算出に当たっては、基準地震動による地震力によって生じるスロッシング現象を三次元流動解析により評価し、燃料貯蔵プール・ピット等の外へ漏えいする水量を評価する。</p> <p>その際、燃料貯蔵プール・ピット等の周囲に止水板及び蓋を設置することによりスロッシング水量を低減する設計とする。</p>	・主要寸法 ・主要材料	<p data-bbox="2006 321 2650 380">2 内部浸水防護設備に係る次の事項 (1) 防水区画構築物の名称、種類、主要寸法、材料及び取付箇所</p> <table border="1" data-bbox="2021 415 2635 898"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名</td> <td>称</td> <td>－</td> <td>タービン建屋管理区域外 伝播防止堰 1-1</td> </tr> <tr> <td>種</td> <td>類</td> <td>－</td> <td>堰</td> </tr> <tr> <td>主要寸法</td> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>450 以上*</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>堰</td> <td>－</td> <td>鉄筋コンクリート</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">取付箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>－</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>－</td> <td>EL. 8.20 m</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の 区画番号</td> <td>－</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td></td> <td>溢水防護上の 配慮が必要な高さ</td> <td>－</td> <td>－</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="2006 898 2650 926">注記 *：EL. 8.20 mからの高さ。</p>	名称		変更前	変更後	名	称	－	タービン建屋管理区域外 伝播防止堰 1-1	種	類	－	堰	主要寸法	高さ	mm	450 以上*	材料	堰	－	鉄筋コンクリート	取付箇所	系統名 (ライン名)	－	－	設置床	－	EL. 8.20 m	溢水防護上の 区画番号	－	－		溢水防護上の 配慮が必要な高さ	－	－	
名称		変更前	変更後																																																																																				
種類	堰	－	〇〇〇																																																																																				
主要寸法	高さ	mm	〇〇 ^{*4}																																																																																				
主要材料	堰	－	〇〇																																																																																				
取付箇所	系統名(ライン名)	－	－ ^{*1}																																																																																				
	設置床	－	〇〇 T. M. S. L. +〇〇m																																																																																				
	溢水防護上の区画番号	－	－ ^{*2}																																																																																				
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－	－ ^{*2}																																																																																				
	化学薬品防護上の区画番号	－	－ ^{*3}																																																																																				
	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	－	－ ^{*3}																																																																																				
■	機種で統一して記載する仕様項目																																																																																						
■	構造分類に係る仕様項目																																																																																						
技術基準	機能要求② 様式-6 様式-7	主な仕様 (詳細設計)																																																																																					
第十条 閉じ込め の機能	液体状の使用済燃料等を取り扱う設備の周辺部又は施設外に通じる出入口若しくはその周辺部には、堰を設けることにより、液体状の使用済燃料等が施設外へ漏えいすることを防止する設計とする。	・主要寸法																																																																																					
第十二条 溢水防護	<p>没水の影響により、防護すべき設備が溢水による水位に対し機能喪失高さを確保できないおそれがある場合は、溢水水位を上回る高さまで、溢水経路に溢水により発生する水位や水圧に対して止水性(以下「止水性」という。)を維持する壁、防水扉、堰等により溢水伝播を防止する等の対策を実施する。</p> <p>止水性を維持する溢水防護設備については、試験又は机上評価にて止水性を確認する設計とする。</p> <p>6.6.4 燃料貯蔵プール・ピット等のスロッシング後の機能維持に関する評価及び防護設計方針 燃料貯蔵プール・ピット等のスロッシングによる溢水量の算出に当たっては、基準地震動による地震力によって生じるスロッシング現象を三次元流動解析により評価し、燃料貯蔵プール・ピット等の外へ漏えいする水量を評価する。</p> <p>その際、燃料貯蔵プール・ピット等の周囲に止水板及び蓋を設置することによりスロッシング水量を低減する設計とする。</p>	・主要寸法 ・主要材料																																																																																					
名称		変更前	変更後																																																																																				
名	称	－	タービン建屋管理区域外 伝播防止堰 1-1																																																																																				
種	類	－	堰																																																																																				
主要寸法	高さ	mm	450 以上*																																																																																				
材料	堰	－	鉄筋コンクリート																																																																																				
取付箇所	系統名 (ライン名)	－	－																																																																																				
	設置床	－	EL. 8.20 m																																																																																				
	溢水防護上の 区画番号	－	－																																																																																				
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	－	－																																																																																				

仕様表記載例 23g-2 【機種：建物・構築物(防水区画構築物)】

[常設] [構造分類：水密ハッチ] [付属構造：-]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																																																											
<p>該当する施設なし</p>	<table border="1" data-bbox="715 352 1317 764"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td>-</td> <td>〇〇水密ハッチ</td> </tr> <tr> <td colspan="2">種類</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主要寸法</td> <td rowspan="2">蓋板</td> <td>たて mm</td> <td>〇〇*1</td> </tr> <tr> <td>横 mm</td> <td>〇〇*1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">小扉</td> <td>厚さ mm</td> <td>〇〇*1</td> </tr> <tr> <td>外径 mm</td> <td>〇〇*1</td> </tr> <tr> <td colspan="2">主要材料</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">系統名(ライン名)</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">設置床</td> <td>-</td> <td>T. M. S. L. 〇〇m</td> </tr> <tr> <td colspan="2">溢水防護上の区画番号</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td colspan="2">溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td colspan="2">化学薬品防護上の区画番号</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td colspan="2">化学薬品防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="715 764 1317 856">注記 *1：公称値を示す。 *2：系統の独立性を要求されないため「-」とする。 *3：溢水防護機能を要求されない設備のため「-」とする。 *4：化学薬品防護機能を要求されない設備のため「-」とする。</p> <table border="1" data-bbox="804 884 1184 951"> <tr> <td style="background-color: #e0e0e0;"> </td> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #c0c0c0;"> </td> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> </table>			変更前	変更後	名称		-	〇〇水密ハッチ	種類		-	〇〇	主要寸法	蓋板	たて mm	〇〇*1	横 mm	〇〇*1	小扉	厚さ mm	〇〇*1	外径 mm	〇〇*1	主要材料		-	〇〇	系統名(ライン名)		-	〇〇	設置床		-	T. M. S. L. 〇〇m	溢水防護上の区画番号		-	-	溢水防護上の配慮が必要な高さ		-	-	化学薬品防護上の区画番号		-	-	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ		-	-		機種で統一して記載する仕様項目		構造分類に係る仕様項目	<table border="1" data-bbox="1350 310 1964 730"> <thead> <tr> <th>技術基準</th> <th>機能要求②</th> <th>主な仕様 (詳細設計)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第十二条 溢水防護</td> <td>様式-6 様式-7 没水の影響により、防護すべき設備が溢水による水位に対し機能喪失高さを確保できないおそれがある場合は、溢水水位を上回る高さまで、溢水経路に溢水により発生する水位や水圧に対して止水性（以下「止水性」という。）を維持する壁、防水扉、堰等により溢水伝播を防止する等の対策を実施する。止水性を維持する溢水防護設備については、試験又は机上評価にて止水性を確認する設計とする。 6.6.4 燃料貯蔵プール・ピット等のスロッシング後の機能維持に関する評価及び防護設計方針 燃料貯蔵プール・ピット等のスロッシングによる溢水量の算出に当たっては、基準地震動による地震力によって生じるスロッシング現象を三次元流動解析により評価し、燃料貯蔵プール・ピット等の外へ漏えいする水量を評価する。 その際、燃料貯蔵プール・ピット等の周囲に止水板及び蓋を設置することによりスロッシング水量を低減する設計とする。</td> <td>・主要寸法 ・主要材料</td> </tr> </tbody> </table>	技術基準	機能要求②	主な仕様 (詳細設計)	第十二条 溢水防護	様式-6 様式-7 没水の影響により、防護すべき設備が溢水による水位に対し機能喪失高さを確保できないおそれがある場合は、溢水水位を上回る高さまで、溢水経路に溢水により発生する水位や水圧に対して止水性（以下「止水性」という。）を維持する壁、防水扉、堰等により溢水伝播を防止する等の対策を実施する。止水性を維持する溢水防護設備については、試験又は机上評価にて止水性を確認する設計とする。 6.6.4 燃料貯蔵プール・ピット等のスロッシング後の機能維持に関する評価及び防護設計方針 燃料貯蔵プール・ピット等のスロッシングによる溢水量の算出に当たっては、基準地震動による地震力によって生じるスロッシング現象を三次元流動解析により評価し、燃料貯蔵プール・ピット等の外へ漏えいする水量を評価する。 その際、燃料貯蔵プール・ピット等の周囲に止水板及び蓋を設置することによりスロッシング水量を低減する設計とする。	・主要寸法 ・主要材料	<table border="1" data-bbox="1988 310 2635 1087"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td>-</td> <td>常設低圧代替注水系格納槽点検用水密ハッチ*1</td> </tr> <tr> <td colspan="2">種類</td> <td>-</td> <td>水密ハッチ</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主要寸法</td> <td rowspan="2">蓋板</td> <td>たて mm</td> <td>3080*2</td> </tr> <tr> <td>横 mm</td> <td>3320*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">小扉</td> <td>厚さ mm</td> <td>29.5 以上 (30*2)</td> </tr> <tr> <td>外径 mm</td> <td>760*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材料</td> <td>厚さ mm</td> <td>21.5 以上 (22*2)</td> </tr> <tr> <td>蓋板</td> <td>-</td> <td>SUS304</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">*3 取付箇所</td> <td>小扉</td> <td>-</td> <td>SUS304</td> </tr> <tr> <td>系統名(ライン名)</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td colspan="2">溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1988 1094 2635 1171">注記 *1：内郭浸水防護設備と兼用する。 *2：公称値を示す。 *3：内郭浸水防護設備に使用する場合の記載事項。</p>			変更前	変更後	名称		-	常設低圧代替注水系格納槽点検用水密ハッチ*1	種類		-	水密ハッチ	主要寸法	蓋板	たて mm	3080*2	横 mm	3320*2	小扉	厚さ mm	29.5 以上 (30*2)	外径 mm	760*2	材料	厚さ mm	21.5 以上 (22*2)	蓋板	-	SUS304	*3 取付箇所	小扉	-	SUS304	系統名(ライン名)	-	-	設置床	-	-	溢水防護上の区画番号	-	-	溢水防護上の配慮が必要な高さ		-	-	
		変更前	変更後																																																																																																												
名称		-	〇〇水密ハッチ																																																																																																												
種類		-	〇〇																																																																																																												
主要寸法	蓋板	たて mm	〇〇*1																																																																																																												
		横 mm	〇〇*1																																																																																																												
	小扉	厚さ mm	〇〇*1																																																																																																												
		外径 mm	〇〇*1																																																																																																												
主要材料		-	〇〇																																																																																																												
系統名(ライン名)		-	〇〇																																																																																																												
設置床		-	T. M. S. L. 〇〇m																																																																																																												
溢水防護上の区画番号		-	-																																																																																																												
溢水防護上の配慮が必要な高さ		-	-																																																																																																												
化学薬品防護上の区画番号		-	-																																																																																																												
化学薬品防護上の配慮が必要な高さ		-	-																																																																																																												
	機種で統一して記載する仕様項目																																																																																																														
	構造分類に係る仕様項目																																																																																																														
技術基準	機能要求②	主な仕様 (詳細設計)																																																																																																													
第十二条 溢水防護	様式-6 様式-7 没水の影響により、防護すべき設備が溢水による水位に対し機能喪失高さを確保できないおそれがある場合は、溢水水位を上回る高さまで、溢水経路に溢水により発生する水位や水圧に対して止水性（以下「止水性」という。）を維持する壁、防水扉、堰等により溢水伝播を防止する等の対策を実施する。止水性を維持する溢水防護設備については、試験又は机上評価にて止水性を確認する設計とする。 6.6.4 燃料貯蔵プール・ピット等のスロッシング後の機能維持に関する評価及び防護設計方針 燃料貯蔵プール・ピット等のスロッシングによる溢水量の算出に当たっては、基準地震動による地震力によって生じるスロッシング現象を三次元流動解析により評価し、燃料貯蔵プール・ピット等の外へ漏えいする水量を評価する。 その際、燃料貯蔵プール・ピット等の周囲に止水板及び蓋を設置することによりスロッシング水量を低減する設計とする。	・主要寸法 ・主要材料																																																																																																													
		変更前	変更後																																																																																																												
名称		-	常設低圧代替注水系格納槽点検用水密ハッチ*1																																																																																																												
種類		-	水密ハッチ																																																																																																												
主要寸法	蓋板	たて mm	3080*2																																																																																																												
		横 mm	3320*2																																																																																																												
	小扉	厚さ mm	29.5 以上 (30*2)																																																																																																												
		外径 mm	760*2																																																																																																												
材料	厚さ mm	21.5 以上 (22*2)																																																																																																													
	蓋板	-	SUS304																																																																																																												
*3 取付箇所	小扉	-	SUS304																																																																																																												
	系統名(ライン名)	-	-																																																																																																												
	設置床	-	-																																																																																																												
	溢水防護上の区画番号	-	-																																																																																																												
溢水防護上の配慮が必要な高さ		-	-																																																																																																												

仕様表記載例 23g-3 【機種：建物・構築物(防水区画構築物)】

[常設] [構造分類：水密扉] [付属構造：－]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																																																																		
<p>該当する施設なし</p>	<table border="1" data-bbox="736 352 1344 703"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td>－</td> <td>〇〇水密扉</td> </tr> <tr> <td colspan="2">種類</td> <td>－</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主要寸法</td> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>〇〇*1</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>〇〇*1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主要材料</td> <td>扉板</td> <td>－</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>芯材</td> <td>－</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">取付箇所</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>－</td> <td>－*2</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>－</td> <td>〇〇 T.M.S.L.〇〇m</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>－</td> <td>－*3</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>－</td> <td>－*3</td> </tr> <tr> <td>化学薬品防護上の区画番号</td> <td>－</td> <td>－*4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>化学薬品防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>－</td> <td>－*4</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="736 703 1344 787"> 注記 *1：公称値を示す。 *2：系統の独立性を要求されないため「－」とする。 *3：溢水防護機能を要求されない設備のため「－」とする。 *4：化学薬品防護機能を要求されない設備のため「－」とする。 </p> <table border="1" data-bbox="816 819 1202 892"> <tr> <td style="background-color: #e0e0e0;"> </td> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #c0c0c0;"> </td> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> </table>			変更前	変更後	名称		－	〇〇水密扉	種類		－	〇〇	主要寸法	たて	mm	〇〇*1	横	mm	〇〇*1	主要材料	扉板	－	〇〇	芯材	－	〇〇	取付箇所	系統名(ライン名)	－	－*2	設置床	－	〇〇 T.M.S.L.〇〇m	溢水防護上の区画番号	－	－*3	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－	－*3	化学薬品防護上の区画番号	－	－*4		化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	－	－*4		機種で統一して記載する仕様項目		構造分類に係る仕様項目	<table border="1" data-bbox="1374 310 1982 709"> <thead> <tr> <th rowspan="2">技術基準</th> <th colspan="2">機能要求②</th> <th rowspan="2">主な仕様 (詳細設計)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">様式-6 様式-7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第十二条 溢水防護</td> <td colspan="2"> 没水の影響により、防護すべき設備が溢水による水位に対し機能喪失高さを確保できないおそれがある場合は、溢水水位を上回る高さまで、溢水経路に溢水により発生する水位や水圧に対して止水性（以下「止水性」という。）を維持する壁、防水扉、堰等により溢水伝播を防止する等の対策を実施する。 止水性を維持する溢水防護設備については、試験又は机上評価にて止水性を確認する設計とする。 </td> <td rowspan="2"> ・主要寸法 ・主要材料 </td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2"> 6.6.4 燃料貯蔵プール・ピット等のスロッシング後の機能維持に関する評価及び防護設計方針 燃料貯蔵プール・ピット等のスロッシングによる溢水量の算出に当たっては、基準地震動による地震力によって生じるスロッシング現象を三次元流動解析により評価し、燃料貯蔵プール・ピット等の外へ漏えいする水量を評価する。その際、燃料貯蔵プール・ピット等の周囲に止水板及び蓋を設置することによりスロッシング水量を低減する設計とする。 </td> </tr> </tbody> </table>	技術基準	機能要求②		主な仕様 (詳細設計)	様式-6 様式-7		第十二条 溢水防護	没水の影響により、防護すべき設備が溢水による水位に対し機能喪失高さを確保できないおそれがある場合は、溢水水位を上回る高さまで、溢水経路に溢水により発生する水位や水圧に対して止水性（以下「止水性」という。）を維持する壁、防水扉、堰等により溢水伝播を防止する等の対策を実施する。 止水性を維持する溢水防護設備については、試験又は机上評価にて止水性を確認する設計とする。		・主要寸法 ・主要材料		6.6.4 燃料貯蔵プール・ピット等のスロッシング後の機能維持に関する評価及び防護設計方針 燃料貯蔵プール・ピット等のスロッシングによる溢水量の算出に当たっては、基準地震動による地震力によって生じるスロッシング現象を三次元流動解析により評価し、燃料貯蔵プール・ピット等の外へ漏えいする水量を評価する。その際、燃料貯蔵プール・ピット等の周囲に止水板及び蓋を設置することによりスロッシング水量を低減する設計とする。		<table border="1" data-bbox="2012 310 2650 892"> <thead> <tr> <th colspan="3"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名</td> <td colspan="2">称</td> <td></td> <td>残留熱除去系 A 系 ポンプ室水密扉</td> </tr> <tr> <td>種</td> <td>類</td> <td>－</td> <td></td> <td>片開き扉</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主要寸法</td> <td>たて</td> <td>mm</td> <td></td> <td>1835*</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td></td> <td>855*</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材</td> <td>扉板</td> <td>－</td> <td></td> <td>SS400</td> </tr> <tr> <td>芯材</td> <td>－</td> <td></td> <td>SS400</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">取付箇所</td> <td colspan="2">系統名(ライン名)</td> <td></td> <td>－</td> </tr> <tr> <td colspan="2">設置床</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">溢水防護上の区画番号</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="2012 892 2650 913">注記 *：公称値を示す。</p>				変更前	変更後	名	称			残留熱除去系 A 系 ポンプ室水密扉	種	類	－		片開き扉	主要寸法	たて	mm		1835*	横	mm		855*	材	扉板	－		SS400	芯材	－		SS400	取付箇所	系統名(ライン名)			－	設置床				溢水防護上の区画番号				溢水防護上の配慮が必要な高さ					
		変更前	変更後																																																																																																																			
名称		－	〇〇水密扉																																																																																																																			
種類		－	〇〇																																																																																																																			
主要寸法	たて	mm	〇〇*1																																																																																																																			
	横	mm	〇〇*1																																																																																																																			
主要材料	扉板	－	〇〇																																																																																																																			
	芯材	－	〇〇																																																																																																																			
取付箇所	系統名(ライン名)	－	－*2																																																																																																																			
	設置床	－	〇〇 T.M.S.L.〇〇m																																																																																																																			
	溢水防護上の区画番号	－	－*3																																																																																																																			
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	－	－*3																																																																																																																			
	化学薬品防護上の区画番号	－	－*4																																																																																																																			
	化学薬品防護上の配慮が必要な高さ	－	－*4																																																																																																																			
	機種で統一して記載する仕様項目																																																																																																																					
	構造分類に係る仕様項目																																																																																																																					
技術基準	機能要求②		主な仕様 (詳細設計)																																																																																																																			
	様式-6 様式-7																																																																																																																					
第十二条 溢水防護	没水の影響により、防護すべき設備が溢水による水位に対し機能喪失高さを確保できないおそれがある場合は、溢水水位を上回る高さまで、溢水経路に溢水により発生する水位や水圧に対して止水性（以下「止水性」という。）を維持する壁、防水扉、堰等により溢水伝播を防止する等の対策を実施する。 止水性を維持する溢水防護設備については、試験又は机上評価にて止水性を確認する設計とする。		・主要寸法 ・主要材料																																																																																																																			
	6.6.4 燃料貯蔵プール・ピット等のスロッシング後の機能維持に関する評価及び防護設計方針 燃料貯蔵プール・ピット等のスロッシングによる溢水量の算出に当たっては、基準地震動による地震力によって生じるスロッシング現象を三次元流動解析により評価し、燃料貯蔵プール・ピット等の外へ漏えいする水量を評価する。その際、燃料貯蔵プール・ピット等の周囲に止水板及び蓋を設置することによりスロッシング水量を低減する設計とする。																																																																																																																					
			変更前	変更後																																																																																																																		
名	称			残留熱除去系 A 系 ポンプ室水密扉																																																																																																																		
種	類	－		片開き扉																																																																																																																		
主要寸法	たて	mm		1835*																																																																																																																		
	横	mm		855*																																																																																																																		
材	扉板	－		SS400																																																																																																																		
	芯材	－		SS400																																																																																																																		
取付箇所	系統名(ライン名)			－																																																																																																																		
	設置床																																																																																																																					
	溢水防護上の区画番号																																																																																																																					
溢水防護上の配慮が必要な高さ																																																																																																																						

仕様表記載例 23h-1【機種：建物・構築物(飛来物防護設備)】

[常設] [構造分類：防護ネット] [付属構造：地盤・基礎, 耐火被覆]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																																																																																																							
<p><既認可仕様表なし></p> <div data-bbox="151 520 676 632" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>地盤、基礎の仕様項目については、仕様表記載例 23a-1 の建屋の仕様表記載例を踏まえ検討中。</p> </div>	<table border="1" data-bbox="736 283 1347 735"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td>—</td> <td>安全冷却水 B 冷却塔 飛来物防護ネット</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>支持地盤</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>〇〇^{*2}</td> </tr> <tr> <td>杭の強度</td> <td>N/mm</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">主要寸法</td> <td rowspan="2">防護ネット</td> <td>線径</td> <td>mm</td> <td>—</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>網目</td> <td>mm</td> <td>—</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">支持架構</td> <td>厚さ</td> <td>mm</td> <td>—</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>—</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>—</td> <td>〇〇^{*1}</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要材料</td> <td>防護ネット</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>防護板</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>支持架構</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">耐火被覆</td> <td>種類</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>〇〇^{*3*4}</td> </tr> <tr> <td>厚さ</td> <td>mm</td> <td>—</td> <td>〇〇以上^{*5}</td> </tr> <tr> <td>基数</td> <td>式</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="736 735 1347 934"> 注記 *1：公称値を示す。 *2：飛来物防護ネットは杭基礎を介して〇〇に支持する。 *3：建築基準法第2条第七号に基づく国土交通大臣の認定番号 FP060CN-0000 を取得した主材及び下塗り材を使用する。 *4：航空機墜落火災による熱影響に対し、機能維持のために必要な部材を塗装対象とする。支持架構については、火災直近の部材は塗装対象とし、別紙「離隔距離表」に基づき塗装範囲を決定する。板厚が表に記載されていない場合は、表に記載されている板厚の内、薄い側の離隔距離を用いる。 *5：主材厚さを示す。 </p> <div data-bbox="780 955 1329 1438" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: right;">別紙</p> <p>波及的影響を及ぼし得る施設に対する離隔距離表^{a)}</p> <table border="1" data-bbox="786 1039 1320 1428"> <thead> <tr> <th>材料^{b)}</th> <th>板厚^{c)} (mm)</th> <th>必要離隔距離(m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="14">炭素鋼^{d)}</td><td>19^{e)}</td><td>1^{e)}</td></tr> <tr><td>14^{e)}</td><td>2^{e)}</td></tr> <tr><td>12^{e)}</td><td>4^{e)}</td></tr> <tr><td>11^{e)}</td><td>5^{e)}</td></tr> <tr><td>10^{e)}</td><td>6^{e)}</td></tr> <tr><td>9^{e)}</td><td>7^{e)}</td></tr> <tr><td>8^{e)}</td><td>8^{e)}</td></tr> <tr><td>6.4^{e)}</td><td>9^{e)}</td></tr> <tr><td>6^{e)}</td><td>10^{e)}</td></tr> <tr><td>4.5^{e)}</td><td>12^{e)}</td></tr> <tr><td>3.9^{e)}</td><td>13^{e)}</td></tr> <tr><td>3.2^{e)}</td><td>15^{e)}</td></tr> <tr><td>2.3^{e)}</td><td>18^{e)}</td></tr> <tr><td>2.11^{e)}</td><td>17^{e)}</td></tr> <tr><td>1.2^{e)}</td><td>19^{e)}</td></tr> <tr><td>20^{e)}</td><td>1^{e)}</td></tr> <tr><td rowspan="3">ステンレス鋼^{d)}</td><td>16^{e)}</td><td>2^{e)}</td></tr> <tr><td>12^{e)}</td><td>4^{e)}</td></tr> <tr><td>9^{e)}</td><td>6^{e)}</td></tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="825 1533 1202 1669" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <table border="1"> <tr> <td style="background-color: #e0e0e0; width: 20px;"></td> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #d0d0d0; width: 20px;"></td> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f0f0f0; width: 20px;"></td> <td>耐火被覆に係る追加仕様項目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #c0c0c0; width: 20px;"></td> <td>地盤・基礎に係る追加仕様項目</td> </tr> </table> </div>			変更前	変更後	名称		—	安全冷却水 B 冷却塔 飛来物防護ネット	種類	—	—	〇〇	支持地盤	—	—	〇〇 ^{*2}	杭の強度	N/mm	—	〇〇	主要寸法	防護ネット	線径	mm	—	〇〇 ^{*1}	網目	mm	—	〇〇 ^{*1}	支持架構	厚さ	mm	—	〇〇 ^{*1}	たて	mm	—	〇〇 ^{*1}	高さ	mm	—	〇〇 ^{*1}	主要材料	防護ネット	—	—	〇〇	防護板	—	—	〇〇	支持架構	—	—	〇〇	耐火被覆	種類	—	—	〇〇 ^{*3*4}	厚さ	mm	—	〇〇以上 ^{*5}	基数	式	—	—	〇〇	材料 ^{b)}	板厚 ^{c)} (mm)	必要離隔距離(m)	炭素鋼 ^{d)}	19 ^{e)}	1 ^{e)}	14 ^{e)}	2 ^{e)}	12 ^{e)}	4 ^{e)}	11 ^{e)}	5 ^{e)}	10 ^{e)}	6 ^{e)}	9 ^{e)}	7 ^{e)}	8 ^{e)}	8 ^{e)}	6.4 ^{e)}	9 ^{e)}	6 ^{e)}	10 ^{e)}	4.5 ^{e)}	12 ^{e)}	3.9 ^{e)}	13 ^{e)}	3.2 ^{e)}	15 ^{e)}	2.3 ^{e)}	18 ^{e)}	2.11 ^{e)}	17 ^{e)}	1.2 ^{e)}	19 ^{e)}	20 ^{e)}	1 ^{e)}	ステンレス鋼 ^{d)}	16 ^{e)}	2 ^{e)}	12 ^{e)}	4 ^{e)}	9 ^{e)}	6 ^{e)}		機種で統一して記載する仕様項目		構造分類に係る仕様項目		耐火被覆に係る追加仕様項目		地盤・基礎に係る追加仕様項目	<table border="1" data-bbox="1371 283 2178 1837"> <thead> <tr> <th rowspan="2">技術基準</th> <th colspan="2">機能要求②</th> <th rowspan="2">主な仕様 (詳細設計)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">様式-6,7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1371 325 1469 420"> 第五条 安全機能を有する施設の地盤 </td> <td data-bbox="1469 325 2033 556"> 2. 地盤 安全機能を有する施設のうち、地震の発生によって生じるおそれがあるその安全機能の喪失に起因する放射線による公衆への影響の程度が特に大きい施設（以下「耐震重要施設」という。）及びそれらを支持する建物・構築物、若しくは重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設については、自重や運転時の荷重等に加え、その供用中に大きな影響を及ぼすおそれがある地震動（以下「基準地震動」という。）による地震力が作用した場合においても、接地圧に対する十分な支持性能を有する地盤に設置する。 </td> <td data-bbox="2033 325 2178 556"> ・支持地盤の極限支持力度 ・マンメイドロックの強度 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1371 556 1469 766"></td> <td data-bbox="1469 556 2033 766"> 安全機能を有する施設のうち、耐震重要施設以外の建物・構築物については、自重や運転時の荷重等に加え、耐震重要度分類の各クラスに応じて算定する地震力が作用した場合、若しくは、重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備以外の常設重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設については、自重や運転時の荷重等に加え、代替する機能を有する安全機能を有する施設が属する耐震重要度分類のクラスに適用される地震力が作用した場合においても、接地圧に対する十分な支持性能を有する地盤に設置する。 </td> <td data-bbox="2033 556 2178 766"> ・支持地盤の短期許容支持力度 ・マンメイドロックの強度 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1371 766 1469 913"></td> <td data-bbox="1469 766 2033 913"> 安全機能を有する施設のうち、Sクラスの施設の地盤、若しくは重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設の建物・構築物の地盤の接地圧に対する支持力の許容限界については、自重や運転時の荷重等と基準地震動による地震力との組み合わせにより算定される接地圧が、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の極限支持力度に対して、妥当な余裕を有するよう設計する。 </td> <td data-bbox="2033 766 2178 913"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1371 913 1469 1018"></td> <td data-bbox="1469 913 2033 1018"> また、上記の安全機能を有する施設の建物・構築物にあつては、自重や運転時の荷重等と弾性設計用地震動による地震力又は静的地震力との組み合わせにより算定される接地圧について、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の短期許容支持力度を許容限界とする。 </td> <td data-bbox="2033 913 2178 1018"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1371 1018 1469 1207"></td> <td data-bbox="1469 1018 2033 1207"> 安全機能を有する施設のうち、Bクラス及びCクラスの施設の地盤、若しくは、重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備以外の常設重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設の建物・構築物及び機器・配管系の地盤においては、自重や運転時の荷重等と、静的地震力及び動的な地震力（Bクラスの共振影響検討に係るもの又はBクラスの施設の機能を代替する常設重大事故防止設備の共振影響検討に係るもの）との組合せにより算定される接地圧に対して、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の短期許容支持力度を許容限界とする。 </td> <td data-bbox="2033 1018 2178 1207"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1371 1207 1469 1396"> 第八条 外部からの衝撃による損傷の防止 </td> <td data-bbox="1469 1207 2033 1396"> (1) 飛来物防護板 飛来物防護板は、防護板（鋼材）とそれを支持する支持架構、もしくは建屋に支持される防護板（鉄筋コンクリート）の構成とし、以下の設計とする。 a. 設計飛来物の貫通を防止することができる設計とする。 b. 設計荷重（竜巻）に対して、支持架構の構造健全性を維持できる設計とする。 c. 竜巻防護対象施設の安全機能に影響を与えない設計とする。 d. 地震、火山の影響及び外部火災により竜巻防護対象施設に波及的影響を与えない設計とする。 </td> <td data-bbox="2033 1207 2178 1396"> ・主要寸法 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1371 1396 1469 1837"></td> <td data-bbox="1469 1396 2033 1837"> (2) 飛来物防護ネット 飛来物防護ネットは、飛来物を捕捉するための防護ネット、飛来物を受け止める防護板（鋼材）及びそれらを支持する支持架構で構成され、以下の設計とする。 a. 防護ネットは、設計飛来物の運動エネルギーを吸収することができる設計とする。 b. 防護ネットは、設計飛来物の通過を防止できる設計とする。 c. 設計荷重（竜巻）に対して、支持架構の構造健全性を維持できる設計とする。 d. 冷却塔の冷却性能に影響を与えない設計とする。 e. 地震、火山の影響及び外部火災により竜巻防護対象施設に波及的影響を与えない設計とする。 f. 防護板（鋼材）は、設計飛来物の貫通を防止することができる設計とする。 g. 防護板（鋼材）は、竜巻防護対象施設の安全機能に影響を与えない設計とする。 h. 架構に直接設置する防護ネットは、構造上生じる隙間から飛来物が侵入することを防止できる設計とする。 </td> <td data-bbox="2033 1396 2178 1837"> ・耐火被覆種類 ・耐火被覆厚さ </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1371 1837 1469 1995"></td> <td data-bbox="1469 1837 2033 1995"> 熱影響により外部火災防護対象施設の安全機能を損なうおそれがある場合には、1時間耐火の大臣認定を取得した耐火被覆を施工する。駆動部等で耐火被覆を施工できない部材は、遮熱板で囲むことにより安全機能を損なわない設計とする。 </td> <td data-bbox="2033 1837 2178 1995"></td> </tr> </tbody> </table>	技術基準	機能要求②		主な仕様 (詳細設計)	様式-6,7		第五条 安全機能を有する施設の地盤	2. 地盤 安全機能を有する施設のうち、地震の発生によって生じるおそれがあるその安全機能の喪失に起因する放射線による公衆への影響の程度が特に大きい施設（以下「耐震重要施設」という。）及びそれらを支持する建物・構築物、若しくは重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設については、自重や運転時の荷重等に加え、その供用中に大きな影響を及ぼすおそれがある地震動（以下「基準地震動」という。）による地震力が作用した場合においても、接地圧に対する十分な支持性能を有する地盤に設置する。	・支持地盤の極限支持力度 ・マンメイドロックの強度		安全機能を有する施設のうち、耐震重要施設以外の建物・構築物については、自重や運転時の荷重等に加え、耐震重要度分類の各クラスに応じて算定する地震力が作用した場合、若しくは、重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備以外の常設重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設については、自重や運転時の荷重等に加え、代替する機能を有する安全機能を有する施設が属する耐震重要度分類のクラスに適用される地震力が作用した場合においても、接地圧に対する十分な支持性能を有する地盤に設置する。	・支持地盤の短期許容支持力度 ・マンメイドロックの強度		安全機能を有する施設のうち、Sクラスの施設の地盤、若しくは重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設の建物・構築物の地盤の接地圧に対する支持力の許容限界については、自重や運転時の荷重等と基準地震動による地震力との組み合わせにより算定される接地圧が、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の極限支持力度に対して、妥当な余裕を有するよう設計する。			また、上記の安全機能を有する施設の建物・構築物にあつては、自重や運転時の荷重等と弾性設計用地震動による地震力又は静的地震力との組み合わせにより算定される接地圧について、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の短期許容支持力度を許容限界とする。			安全機能を有する施設のうち、Bクラス及びCクラスの施設の地盤、若しくは、重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備以外の常設重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設の建物・構築物及び機器・配管系の地盤においては、自重や運転時の荷重等と、静的地震力及び動的な地震力（Bクラスの共振影響検討に係るもの又はBクラスの施設の機能を代替する常設重大事故防止設備の共振影響検討に係るもの）との組合せにより算定される接地圧に対して、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の短期許容支持力度を許容限界とする。		第八条 外部からの衝撃による損傷の防止	(1) 飛来物防護板 飛来物防護板は、防護板（鋼材）とそれを支持する支持架構、もしくは建屋に支持される防護板（鉄筋コンクリート）の構成とし、以下の設計とする。 a. 設計飛来物の貫通を防止することができる設計とする。 b. 設計荷重（竜巻）に対して、支持架構の構造健全性を維持できる設計とする。 c. 竜巻防護対象施設の安全機能に影響を与えない設計とする。 d. 地震、火山の影響及び外部火災により竜巻防護対象施設に波及的影響を与えない設計とする。	・主要寸法		(2) 飛来物防護ネット 飛来物防護ネットは、飛来物を捕捉するための防護ネット、飛来物を受け止める防護板（鋼材）及びそれらを支持する支持架構で構成され、以下の設計とする。 a. 防護ネットは、設計飛来物の運動エネルギーを吸収することができる設計とする。 b. 防護ネットは、設計飛来物の通過を防止できる設計とする。 c. 設計荷重（竜巻）に対して、支持架構の構造健全性を維持できる設計とする。 d. 冷却塔の冷却性能に影響を与えない設計とする。 e. 地震、火山の影響及び外部火災により竜巻防護対象施設に波及的影響を与えない設計とする。 f. 防護板（鋼材）は、設計飛来物の貫通を防止することができる設計とする。 g. 防護板（鋼材）は、竜巻防護対象施設の安全機能に影響を与えない設計とする。 h. 架構に直接設置する防護ネットは、構造上生じる隙間から飛来物が侵入することを防止できる設計とする。	・耐火被覆種類 ・耐火被覆厚さ		熱影響により外部火災防護対象施設の安全機能を損なうおそれがある場合には、1時間耐火の大臣認定を取得した耐火被覆を施工する。駆動部等で耐火被覆を施工できない部材は、遮熱板で囲むことにより安全機能を損なわない設計とする。		<p><発電炉要目表なし></p> <p>以下発電炉の基本設計方針抜粋</p> <p>2.3.3 設計方針 (中略)</p> <p>防護措置として設置する防護対策施設としては、防護ネット（硬鋼線材：線径φ4 mm、網目寸法40 mm）、防護鋼板（炭素鋼：板厚16 mm以上）、架構及び扉（炭素鋼：板厚31.2 mm以上）を設置し、内包する外部事象防護対象施設の機能を損なわないよう、外部事象防護対象施設の機能喪失に至る可能性のある飛来物が外部事象防護対象施設に衝突することを防止する設計とする。</p>	<p>杭基礎に設置する設備は支持地盤、杭の強度を記載する。</p> <p>航空機墜落による火災防護のために必要な耐火塗装について種類、厚さを記載する。</p>
		変更前	変更後																																																																																																																																																								
名称		—	安全冷却水 B 冷却塔 飛来物防護ネット																																																																																																																																																								
種類	—	—	〇〇																																																																																																																																																								
支持地盤	—	—	〇〇 ^{*2}																																																																																																																																																								
杭の強度	N/mm	—	〇〇																																																																																																																																																								
主要寸法	防護ネット	線径	mm	—	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																						
		網目	mm	—	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																						
	支持架構	厚さ	mm	—	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																						
		たて	mm	—	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																						
		高さ	mm	—	〇〇 ^{*1}																																																																																																																																																						
主要材料	防護ネット	—	—	〇〇																																																																																																																																																							
	防護板	—	—	〇〇																																																																																																																																																							
	支持架構	—	—	〇〇																																																																																																																																																							
耐火被覆	種類	—	—	〇〇 ^{*3*4}																																																																																																																																																							
	厚さ	mm	—	〇〇以上 ^{*5}																																																																																																																																																							
基数	式	—	—	〇〇																																																																																																																																																							
材料 ^{b)}	板厚 ^{c)} (mm)	必要離隔距離(m)																																																																																																																																																									
炭素鋼 ^{d)}	19 ^{e)}	1 ^{e)}																																																																																																																																																									
	14 ^{e)}	2 ^{e)}																																																																																																																																																									
	12 ^{e)}	4 ^{e)}																																																																																																																																																									
	11 ^{e)}	5 ^{e)}																																																																																																																																																									
	10 ^{e)}	6 ^{e)}																																																																																																																																																									
	9 ^{e)}	7 ^{e)}																																																																																																																																																									
	8 ^{e)}	8 ^{e)}																																																																																																																																																									
	6.4 ^{e)}	9 ^{e)}																																																																																																																																																									
	6 ^{e)}	10 ^{e)}																																																																																																																																																									
	4.5 ^{e)}	12 ^{e)}																																																																																																																																																									
	3.9 ^{e)}	13 ^{e)}																																																																																																																																																									
	3.2 ^{e)}	15 ^{e)}																																																																																																																																																									
	2.3 ^{e)}	18 ^{e)}																																																																																																																																																									
	2.11 ^{e)}	17 ^{e)}																																																																																																																																																									
1.2 ^{e)}	19 ^{e)}																																																																																																																																																										
20 ^{e)}	1 ^{e)}																																																																																																																																																										
ステンレス鋼 ^{d)}	16 ^{e)}	2 ^{e)}																																																																																																																																																									
	12 ^{e)}	4 ^{e)}																																																																																																																																																									
	9 ^{e)}	6 ^{e)}																																																																																																																																																									
	機種で統一して記載する仕様項目																																																																																																																																																										
	構造分類に係る仕様項目																																																																																																																																																										
	耐火被覆に係る追加仕様項目																																																																																																																																																										
	地盤・基礎に係る追加仕様項目																																																																																																																																																										
技術基準	機能要求②		主な仕様 (詳細設計)																																																																																																																																																								
	様式-6,7																																																																																																																																																										
第五条 安全機能を有する施設の地盤	2. 地盤 安全機能を有する施設のうち、地震の発生によって生じるおそれがあるその安全機能の喪失に起因する放射線による公衆への影響の程度が特に大きい施設（以下「耐震重要施設」という。）及びそれらを支持する建物・構築物、若しくは重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設については、自重や運転時の荷重等に加え、その供用中に大きな影響を及ぼすおそれがある地震動（以下「基準地震動」という。）による地震力が作用した場合においても、接地圧に対する十分な支持性能を有する地盤に設置する。	・支持地盤の極限支持力度 ・マンメイドロックの強度																																																																																																																																																									
	安全機能を有する施設のうち、耐震重要施設以外の建物・構築物については、自重や運転時の荷重等に加え、耐震重要度分類の各クラスに応じて算定する地震力が作用した場合、若しくは、重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備以外の常設重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設については、自重や運転時の荷重等に加え、代替する機能を有する安全機能を有する施設が属する耐震重要度分類のクラスに適用される地震力が作用した場合においても、接地圧に対する十分な支持性能を有する地盤に設置する。	・支持地盤の短期許容支持力度 ・マンメイドロックの強度																																																																																																																																																									
	安全機能を有する施設のうち、Sクラスの施設の地盤、若しくは重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設の建物・構築物の地盤の接地圧に対する支持力の許容限界については、自重や運転時の荷重等と基準地震動による地震力との組み合わせにより算定される接地圧が、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の極限支持力度に対して、妥当な余裕を有するよう設計する。																																																																																																																																																										
	また、上記の安全機能を有する施設の建物・構築物にあつては、自重や運転時の荷重等と弾性設計用地震動による地震力又は静的地震力との組み合わせにより算定される接地圧について、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の短期許容支持力度を許容限界とする。																																																																																																																																																										
	安全機能を有する施設のうち、Bクラス及びCクラスの施設の地盤、若しくは、重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備以外の常設重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設の建物・構築物及び機器・配管系の地盤においては、自重や運転時の荷重等と、静的地震力及び動的な地震力（Bクラスの共振影響検討に係るもの又はBクラスの施設の機能を代替する常設重大事故防止設備の共振影響検討に係るもの）との組合せにより算定される接地圧に対して、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の短期許容支持力度を許容限界とする。																																																																																																																																																										
第八条 外部からの衝撃による損傷の防止	(1) 飛来物防護板 飛来物防護板は、防護板（鋼材）とそれを支持する支持架構、もしくは建屋に支持される防護板（鉄筋コンクリート）の構成とし、以下の設計とする。 a. 設計飛来物の貫通を防止することができる設計とする。 b. 設計荷重（竜巻）に対して、支持架構の構造健全性を維持できる設計とする。 c. 竜巻防護対象施設の安全機能に影響を与えない設計とする。 d. 地震、火山の影響及び外部火災により竜巻防護対象施設に波及的影響を与えない設計とする。	・主要寸法																																																																																																																																																									
	(2) 飛来物防護ネット 飛来物防護ネットは、飛来物を捕捉するための防護ネット、飛来物を受け止める防護板（鋼材）及びそれらを支持する支持架構で構成され、以下の設計とする。 a. 防護ネットは、設計飛来物の運動エネルギーを吸収することができる設計とする。 b. 防護ネットは、設計飛来物の通過を防止できる設計とする。 c. 設計荷重（竜巻）に対して、支持架構の構造健全性を維持できる設計とする。 d. 冷却塔の冷却性能に影響を与えない設計とする。 e. 地震、火山の影響及び外部火災により竜巻防護対象施設に波及的影響を与えない設計とする。 f. 防護板（鋼材）は、設計飛来物の貫通を防止することができる設計とする。 g. 防護板（鋼材）は、竜巻防護対象施設の安全機能に影響を与えない設計とする。 h. 架構に直接設置する防護ネットは、構造上生じる隙間から飛来物が侵入することを防止できる設計とする。	・耐火被覆種類 ・耐火被覆厚さ																																																																																																																																																									
	熱影響により外部火災防護対象施設の安全機能を損なうおそれがある場合には、1時間耐火の大臣認定を取得した耐火被覆を施工する。駆動部等で耐火被覆を施工できない部材は、遮熱板で囲むことにより安全機能を損なわない設計とする。																																																																																																																																																										

仕様表記載例 23h-2【機種：建物・構築物(飛来物防護設備)】

[常設] [構造分類：防護板] [付属構造：地盤・基礎]

既認可の仕様表	仕様表案	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																															
<p><既認可仕様表なし></p>	<table border="1" data-bbox="608 289 1219 632"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">種類</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">支持地盤</td> <td>—</td> <td>〇〇^{*2}</td> </tr> <tr> <td colspan="2">杭の強度</td> <td>N/mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要寸法</td> <td>防護板</td> <td>厚さ</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">支持架構</td> <td>たて</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主要材料</td> <td>防護板</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>支持架構</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">基敷</td> <td>式</td> <td>〇〇</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="608 632 1077 674">注記 *1：公称値を示す。 *2：飛来物防護板は杭基礎を介して〇〇に支持する。</p> <table border="1" data-bbox="694 827 1077 926"> <tr> <td style="background-color: #e0e0e0;"> </td> <td>機種で統一して記載する仕様項目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #d0d0d0;"> </td> <td>構造分類に係る仕様項目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f0f0f0;"> </td> <td>地盤・基礎に係る追加仕様項目</td> </tr> </table> <div data-bbox="647 1058 1163 1167" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p>地盤、基礎の仕様項目については、仕様表記載例 23a-1 の建屋の仕様表記載例を踏まえ検討中。</p> </div>	名称		変更前	変更後	種類		—	〇〇	支持地盤		—	〇〇 ^{*2}	杭の強度		N/mm	〇〇	主要寸法	防護板	厚さ	mm	支持架構	たて	mm	横	mm	主要材料	防護板	—	〇〇	支持架構	—	〇〇	基敷		式	〇〇		機種で統一して記載する仕様項目		構造分類に係る仕様項目		地盤・基礎に係る追加仕様項目	<table border="1" data-bbox="1267 224 2089 1570"> <thead> <tr> <th>技術基準</th> <th>機能要求②</th> <th>主な仕様 (詳細設計)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第五條 安全機能を有する施設の地盤</td> <td>2. 地盤 安全機能を有する施設のうち、地震の発生によって生じるおそれがあるその安全機能の喪失に起因する放射線による公衆への影響の程度が特に大きい施設（以下「耐震重要施設」という。）及びそれらを支える建物・構築物、若しくは重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設については、自重や運転時の荷重等に加え、その供用中に大きな影響を及ぼすおそれがある地震動（以下「標準地震動」という。）による地震力が作用した場合においても、接地圧に対する十分な支持性能を有する地盤に設置する。</td> <td>・支持地盤の極限支持力度 ・マンメイドロックの強度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>安全機能を有する施設のうち、耐震重要施設以外の建物・構築物については、自重や運転時の荷重等に加え、耐震重要度分類の各クラスに応じて算定される地震力が作用した場合、若しくは、重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備以外の常設重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設については、自重や運転時の荷重等に加え、代替する機能を有する安全機能を有する施設が属する耐震重要度分類のクラスに適用される地震力が作用した場合においても、接地圧に対する十分な支持性能を有する地盤に設置する。</td> <td>・支持地盤の短期許容支持力度 ・マンメイドロックの強度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>安全機能を有する施設のうち、Sクラスの施設の地盤、若しくは重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設の建物・構築物の地盤の接地圧に対する支持力の許容限界については、自重や運転時の荷重等と標準地震動による地震力との組み合わせにより算定される接地圧が、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の極限支持力度に対して、妥当な余裕を有するよう設計する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>また、上記の安全機能を有する施設の建物・構築物にあっては、自重や運転時の荷重等と弾性設計用地震動による地震力又は静的地震力との組み合わせにより算定される接地圧について、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の短期許容支持力度を許容限界とする。</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>安全機能を有する施設のうち、Bクラス及びCクラスの施設の地盤、若しくは、重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備以外の常設重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設の建物・構築物及び機器・配管系の地盤においては、自重や運転時の荷重等と、静的地震力及び動的地震力（Bクラスの共振影響検討に係るもの又はBクラスの施設の機能を代替する常設重大事故防止設備の共振影響検討に係るもの）との組合せにより算定される接地圧に対して、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の短期許容支持力度を許容限界とする。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第八條 外部からの衝撃による損傷の防止</td> <td>(1) 飛来物防護板 飛来物防護板は、防護板（鋼材）とそれを支持する支持架構、もしくは建屋に支持される防護板（鉄筋コンクリート）の構成とし、以下の設計とする。 a. 設計飛来物の貫通を防止することができる設計とする。 b. 設計荷重（竜巻）に対して、支持架構の構造健全性を維持できる設計とする。 c. 竜巻防護対象施設の安全機能に影響を与えない設計とする。 d. 地震、火山の影響及び外部火災により竜巻防護対象施設に波及的影響を与えない設計とする。 (2) 飛来物防護ネット 飛来物防護ネットは、飛来物を捕捉するための防護ネット、飛来物を受け止める防護板（鋼材）及びそれらを支える支持架構で構成され、以下の設計とする。 a. 防護ネットは、設計飛来物の運動エネルギーを吸収することができる設計とする。 b. 防護ネットは、設計飛来物の通過を防止できる設計とする。 c. 設計荷重（竜巻）に対して、支持架構の構造健全性を維持できる設計とする。 d. 冷却塔の冷却性能に影響を与えない設計とする。 e. 地震、火山の影響及び外部火災により竜巻防護対象施設に波及的影響を与えない設計とする。 f. 防護板（鋼材）は、設計飛来物の貫通を防止することができる設計とする。 g. 防護板（鋼材）は、竜巻防護対象施設の安全機能に影響を与えない設計とする。 h. 架構に直接設置する防護ネットは、構造上生じる隙間から飛来物が侵入することを防止できる設計とする。</td> <td>・主要寸法</td> </tr> </tbody> </table>	技術基準	機能要求②	主な仕様 (詳細設計)	第五條 安全機能を有する施設の地盤	2. 地盤 安全機能を有する施設のうち、地震の発生によって生じるおそれがあるその安全機能の喪失に起因する放射線による公衆への影響の程度が特に大きい施設（以下「耐震重要施設」という。）及びそれらを支える建物・構築物、若しくは重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設については、自重や運転時の荷重等に加え、その供用中に大きな影響を及ぼすおそれがある地震動（以下「標準地震動」という。）による地震力が作用した場合においても、接地圧に対する十分な支持性能を有する地盤に設置する。	・支持地盤の極限支持力度 ・マンメイドロックの強度		安全機能を有する施設のうち、耐震重要施設以外の建物・構築物については、自重や運転時の荷重等に加え、耐震重要度分類の各クラスに応じて算定される地震力が作用した場合、若しくは、重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備以外の常設重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設については、自重や運転時の荷重等に加え、代替する機能を有する安全機能を有する施設が属する耐震重要度分類のクラスに適用される地震力が作用した場合においても、接地圧に対する十分な支持性能を有する地盤に設置する。	・支持地盤の短期許容支持力度 ・マンメイドロックの強度		安全機能を有する施設のうち、Sクラスの施設の地盤、若しくは重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設の建物・構築物の地盤の接地圧に対する支持力の許容限界については、自重や運転時の荷重等と標準地震動による地震力との組み合わせにより算定される接地圧が、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の極限支持力度に対して、妥当な余裕を有するよう設計する。			また、上記の安全機能を有する施設の建物・構築物にあっては、自重や運転時の荷重等と弾性設計用地震動による地震力又は静的地震力との組み合わせにより算定される接地圧について、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の短期許容支持力度を許容限界とする。			安全機能を有する施設のうち、Bクラス及びCクラスの施設の地盤、若しくは、重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備以外の常設重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設の建物・構築物及び機器・配管系の地盤においては、自重や運転時の荷重等と、静的地震力及び動的地震力（Bクラスの共振影響検討に係るもの又はBクラスの施設の機能を代替する常設重大事故防止設備の共振影響検討に係るもの）との組合せにより算定される接地圧に対して、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の短期許容支持力度を許容限界とする。		第八條 外部からの衝撃による損傷の防止	(1) 飛来物防護板 飛来物防護板は、防護板（鋼材）とそれを支持する支持架構、もしくは建屋に支持される防護板（鉄筋コンクリート）の構成とし、以下の設計とする。 a. 設計飛来物の貫通を防止することができる設計とする。 b. 設計荷重（竜巻）に対して、支持架構の構造健全性を維持できる設計とする。 c. 竜巻防護対象施設の安全機能に影響を与えない設計とする。 d. 地震、火山の影響及び外部火災により竜巻防護対象施設に波及的影響を与えない設計とする。 (2) 飛来物防護ネット 飛来物防護ネットは、飛来物を捕捉するための防護ネット、飛来物を受け止める防護板（鋼材）及びそれらを支える支持架構で構成され、以下の設計とする。 a. 防護ネットは、設計飛来物の運動エネルギーを吸収することができる設計とする。 b. 防護ネットは、設計飛来物の通過を防止できる設計とする。 c. 設計荷重（竜巻）に対して、支持架構の構造健全性を維持できる設計とする。 d. 冷却塔の冷却性能に影響を与えない設計とする。 e. 地震、火山の影響及び外部火災により竜巻防護対象施設に波及的影響を与えない設計とする。 f. 防護板（鋼材）は、設計飛来物の貫通を防止することができる設計とする。 g. 防護板（鋼材）は、竜巻防護対象施設の安全機能に影響を与えない設計とする。 h. 架構に直接設置する防護ネットは、構造上生じる隙間から飛来物が侵入することを防止できる設計とする。	・主要寸法	<p data-bbox="2113 233 2659 443"><発電炉要目表なし> 以下発電炉の基本設計方針抜粋 2.3.3 設計方針 (中略) 防護措置として設置する防護対策施設としては、防護ネット（硬鋼線材：線径φ4 mm、網目寸法40 mm）、防護鋼板（炭素鋼：板厚16 mm以上）、架構及び扉（炭素鋼：板厚31.2 mm以上）を設置し、内包する外部事象防護対象施設の機能を損なわないよう、外部事象防護対象施設の機能喪失に至る可能性のある飛来物が外部事象防護対象施設に衝突することを防止する設計とする。</p>	<p data-bbox="2694 317 2858 380">杭基礎に設置する設備は支持地盤、杭の強度を記載する。</p>
名称		変更前	変更後																																																																
種類		—	〇〇																																																																
支持地盤		—	〇〇 ^{*2}																																																																
杭の強度		N/mm	〇〇																																																																
主要寸法	防護板	厚さ	mm																																																																
	支持架構	たて	mm																																																																
		横	mm																																																																
主要材料	防護板	—	〇〇																																																																
	支持架構	—	〇〇																																																																
基敷		式	〇〇																																																																
	機種で統一して記載する仕様項目																																																																		
	構造分類に係る仕様項目																																																																		
	地盤・基礎に係る追加仕様項目																																																																		
技術基準	機能要求②	主な仕様 (詳細設計)																																																																	
第五條 安全機能を有する施設の地盤	2. 地盤 安全機能を有する施設のうち、地震の発生によって生じるおそれがあるその安全機能の喪失に起因する放射線による公衆への影響の程度が特に大きい施設（以下「耐震重要施設」という。）及びそれらを支える建物・構築物、若しくは重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設については、自重や運転時の荷重等に加え、その供用中に大きな影響を及ぼすおそれがある地震動（以下「標準地震動」という。）による地震力が作用した場合においても、接地圧に対する十分な支持性能を有する地盤に設置する。	・支持地盤の極限支持力度 ・マンメイドロックの強度																																																																	
	安全機能を有する施設のうち、耐震重要施設以外の建物・構築物については、自重や運転時の荷重等に加え、耐震重要度分類の各クラスに応じて算定される地震力が作用した場合、若しくは、重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備以外の常設重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設については、自重や運転時の荷重等に加え、代替する機能を有する安全機能を有する施設が属する耐震重要度分類のクラスに適用される地震力が作用した場合においても、接地圧に対する十分な支持性能を有する地盤に設置する。	・支持地盤の短期許容支持力度 ・マンメイドロックの強度																																																																	
	安全機能を有する施設のうち、Sクラスの施設の地盤、若しくは重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設の建物・構築物の地盤の接地圧に対する支持力の許容限界については、自重や運転時の荷重等と標準地震動による地震力との組み合わせにより算定される接地圧が、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の極限支持力度に対して、妥当な余裕を有するよう設計する。																																																																		
	また、上記の安全機能を有する施設の建物・構築物にあっては、自重や運転時の荷重等と弾性設計用地震動による地震力又は静的地震力との組み合わせにより算定される接地圧について、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の短期許容支持力度を許容限界とする。																																																																		
	安全機能を有する施設のうち、Bクラス及びCクラスの施設の地盤、若しくは、重大事故等対処施設のうち、常設耐震重要重大事故等対処設備以外の常設重大事故等対処設備が設置される重大事故等対処施設の建物・構築物及び機器・配管系の地盤においては、自重や運転時の荷重等と、静的地震力及び動的地震力（Bクラスの共振影響検討に係るもの又はBクラスの施設の機能を代替する常設重大事故防止設備の共振影響検討に係るもの）との組合せにより算定される接地圧に対して、安全上適切と認められる規格及び基準に基づく地盤の短期許容支持力度を許容限界とする。																																																																		
第八條 外部からの衝撃による損傷の防止	(1) 飛来物防護板 飛来物防護板は、防護板（鋼材）とそれを支持する支持架構、もしくは建屋に支持される防護板（鉄筋コンクリート）の構成とし、以下の設計とする。 a. 設計飛来物の貫通を防止することができる設計とする。 b. 設計荷重（竜巻）に対して、支持架構の構造健全性を維持できる設計とする。 c. 竜巻防護対象施設の安全機能に影響を与えない設計とする。 d. 地震、火山の影響及び外部火災により竜巻防護対象施設に波及的影響を与えない設計とする。 (2) 飛来物防護ネット 飛来物防護ネットは、飛来物を捕捉するための防護ネット、飛来物を受け止める防護板（鋼材）及びそれらを支える支持架構で構成され、以下の設計とする。 a. 防護ネットは、設計飛来物の運動エネルギーを吸収することができる設計とする。 b. 防護ネットは、設計飛来物の通過を防止できる設計とする。 c. 設計荷重（竜巻）に対して、支持架構の構造健全性を維持できる設計とする。 d. 冷却塔の冷却性能に影響を与えない設計とする。 e. 地震、火山の影響及び外部火災により竜巻防護対象施設に波及的影響を与えない設計とする。 f. 防護板（鋼材）は、設計飛来物の貫通を防止することができる設計とする。 g. 防護板（鋼材）は、竜巻防護対象施設の安全機能に影響を与えない設計とする。 h. 架構に直接設置する防護ネットは、構造上生じる隙間から飛来物が侵入することを防止できる設計とする。	・主要寸法																																																																	

仕様表記載例4-3【機種：熱交換器】 既認可仕様表「安全冷却水B冷却塔」 記載の相違箇所の設工認展開について

No	既認可仕様表の記載項目	関連条文	設工認申請書																																								
			展開先書類	展開先の内容（添付書類の図表への展開は方針を記載）																																							
1	耐震クラス	第六条 耐震	主要設備リスト	<table border="1"> <caption>表 1-7-4 冷却水設備の主要設備リスト</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">設備区分</th> <th rowspan="2">系統名</th> <th rowspan="2">機種</th> <th colspan="3">変更前</th> <th colspan="3">変更後</th> </tr> <tr> <th>設計基準対象の施設*</th> <th>重大事故等対応設備*</th> <th>名称</th> <th>設計基準対象の施設*</th> <th>重大事故等対応設備*</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th></th> <th>耐震重要度分類</th> <th>機種の種類</th> <th>設備分類</th> <th>名称</th> <th>耐震重要度分類</th> <th>機種の種類</th> <th>設備分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">冷却水設備</td> <td rowspan="2">安全冷却水系</td> <td>熱交換器</td> <td>安全冷却水B冷却塔</td> <td>S</td> <td>-</td> <td>-</td> <td rowspan="2">変更なし</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>主配管</td> <td>安全冷却水B冷却塔～前処理施設</td> <td>S</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *：表 1-7-4 に用いる略語の定義は「付表 1」による</p>	設備区分	系統名	機種	変更前			変更後			設計基準対象の施設*	重大事故等対応設備*	名称	設計基準対象の施設*	重大事故等対応設備*				耐震重要度分類	機種の種類	設備分類	名称	耐震重要度分類	機種の種類	設備分類	冷却水設備	安全冷却水系	熱交換器	安全冷却水B冷却塔	S	-	-	変更なし			主配管	安全冷却水B冷却塔～前処理施設	S	-	-
設備区分	系統名	機種	変更前					変更後																																			
			設計基準対象の施設*	重大事故等対応設備*	名称	設計基準対象の施設*	重大事故等対応設備*																																				
			耐震重要度分類	機種の種類	設備分類	名称	耐震重要度分類	機種の種類	設備分類																																		
冷却水設備	安全冷却水系	熱交換器	安全冷却水B冷却塔	S	-	-	変更なし																																				
		主配管	安全冷却水B冷却塔～前処理施設	S	-	-																																					
1	機器の種類	-	主要設備リスト																																								
2	航空機に対する防護	第八条 外部衝撃	基本設計方針 共通項目 3. 自然現象 3.3 外部からの衝撃による損傷防止 3.3.5 航空機落下																																								
3	特記事項	個別項目	基本設計方針 個別項目 7. その他再処理設備の附属施設 7.4 冷却水設備 7.4.1 給水施設 7.4.1.2 安全冷却水																																								
4	注記																																										
4	注記	4)：安全冷却水B冷却塔基礎の主要寸法は以下とする。 南北方向：0m（外壁外面寸法） 東西方向：0m（外壁外面寸法） 厚さ：0m		第2.2-2図 概略断面図																																							
4	注記	5)：安全冷却水B冷却塔基礎の主要材料は、以下とする。 鉄筋：JIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒網）に定めるSD345 コンクリート：JASS5の規定による普通コンクリート 設計基準強度ON/mm ² （OKgf/cm ² ）	IV-2-1-1-1 安全冷却水B冷却塔の耐震性に関する計算書	第3.2-1表 使用材料の物性値																																							
4	注記			安全冷却水B冷却塔基礎の評価においては、基準地震動Ssによる地震力に対する評価（以下「Ss地震時に対する評価」という。）を行うこととし、その評価は添付書類「安全冷却水B冷却塔基礎の地震応答計算書」の結果を踏まえたものとする。																																							

仕様表記載例11-1【機種：主配管】 既認可仕様表「安全冷却水系B冷却塔まわり配管」 記載の相違箇所の新設展開について

No	既認可仕様表の記載項目	関連条文	設工認申請書																																									
			展開先書類	展開先の内容（添付書類の図表への展開は方針を記載）																																								
1	耐震クラス	第六条 耐震	主要設備リスト	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="6">変更前</th> <th colspan="6">変更後</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>設備の種類</th> <th>最高使用圧力 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (℃)</th> <th>外径" (mm)</th> <th>厚さ" (mm)</th> <th>材料</th> <th>配管番号</th> <th>名称</th> <th>設備の種類</th> <th>最高使用圧力 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (℃)</th> <th>外径 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>材料</th> <th>配管番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="6" style="text-align: center;">[Redacted]</td> <td colspan="6" style="text-align: center;">変更なし</td> </tr> </tbody> </table> <p><small>*1: 図表を参照してください。 *2: 記載の相違箇所を付与。既設工図には「名称」に「安全冷却水系B冷却塔まわり配管」を付与し、「あり配管」と記載。</small></p>	変更前						変更後						名称	設備の種類	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径" (mm)	厚さ" (mm)	材料	配管番号	名称	設備の種類	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	配管番号	[Redacted]						変更なし					
変更前						変更後																																						
名称	設備の種類	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径" (mm)	厚さ" (mm)	材料	配管番号	名称	設備の種類	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	配管番号																													
[Redacted]						変更なし																																						
1	機器の種類	—	主要設備リスト																																									
2	配管番号	0000-00-000-00-000	—	系統図にて配管の位置関係が把握できるようにする。																																								

仕様表記載例23a-1【機種：建物・構築物（建屋・洞道）】 既認可仕様表「燃料加工建屋」 記載の相違箇所の設工認展開について

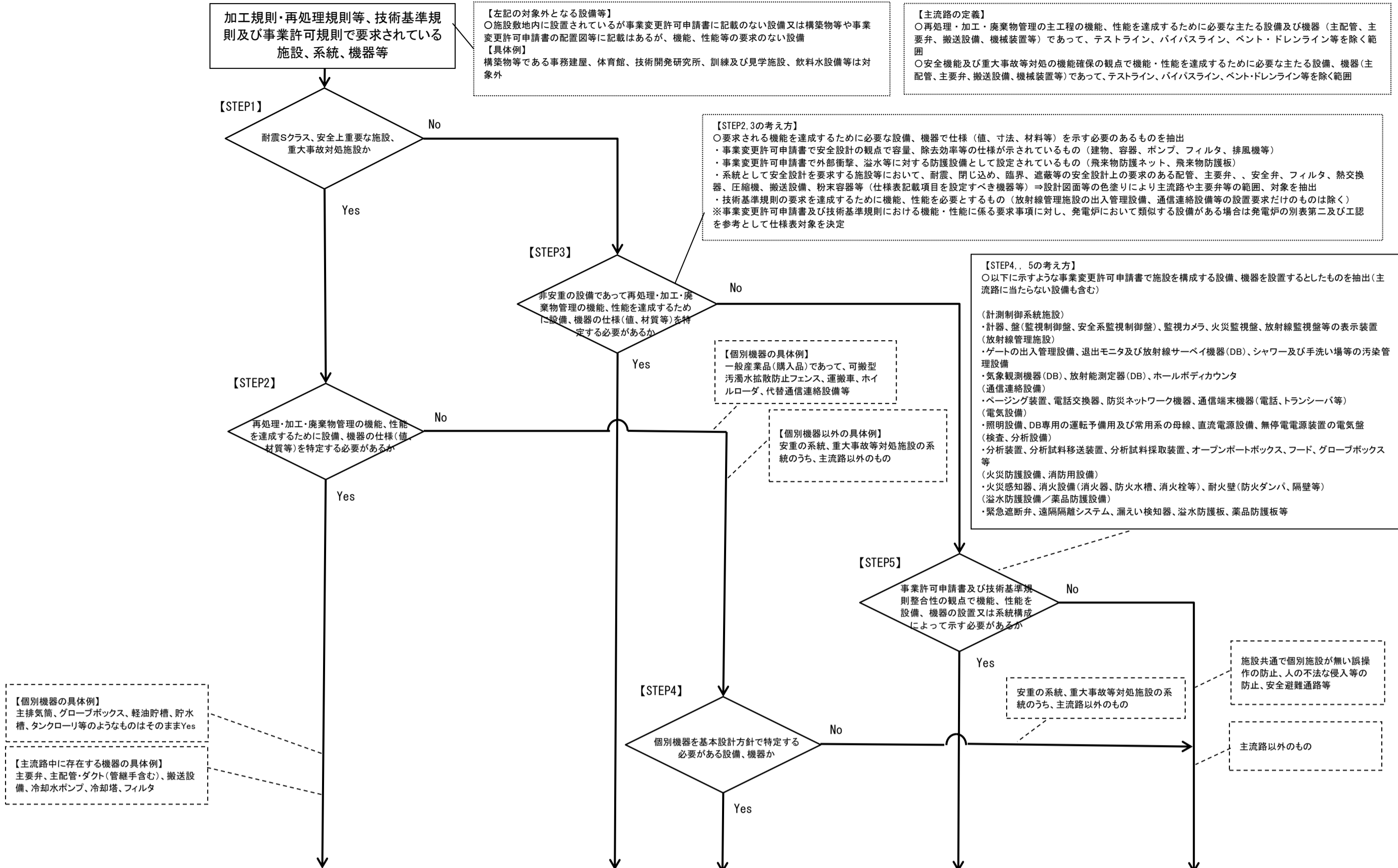
No	既認可仕様表の記載項目		関連条文	設工認申請書																											
				展開先書類	展開先の内容（添付書類の図表への展開は方針を記載）																										
1	耐震クラス	B	第六条 耐震	主要設備リスト	<table border="1"> <caption>表 1-1 成形成設の主要設備リスト</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">設工認区分</th> <th rowspan="2">系統名</th> <th rowspan="2">機種</th> <th colspan="3">変更前</th> <th colspan="3">変更後</th> </tr> <tr> <th>設計基準対象の施設*</th> <th>重大事故等対応設備*</th> <th>設備分類</th> <th>設計基準対象の施設*</th> <th>重大事故等対応設備*</th> <th>設備分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>建物・構築物</td> <td>燃料加工建屋</td> <td>B</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>変更なし</td> <td>B, S</td> <td>—</td> <td>—/L, 25%</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *：表 1-1 に用いる略語の定義は「付表 1」による</p>	設工認区分	系統名	機種	変更前			変更後			設計基準対象の施設*	重大事故等対応設備*	設備分類	設計基準対象の施設*	重大事故等対応設備*	設備分類	—	—	建物・構築物	燃料加工建屋	B	—	—	変更なし	B, S	—	—/L, 25%
設工認区分	系統名	機種	変更前						変更後																						
			設計基準対象の施設*	重大事故等対応設備*	設備分類	設計基準対象の施設*	重大事故等対応設備*	設備分類																							
—	—	建物・構築物	燃料加工建屋	B	—	—	変更なし	B, S	—	—/L, 25%																					
2	放射線防護（しゃへい）	しゃへい設計の基準となる線量率を満足するものとする。	第二十二條 遮蔽	基本設計方針 第1章 共通項目 7. 遮蔽 7.1 遮蔽設計の基本方針	安全機能を有する施設は、周辺監視区域外の線量及び放射線業務従事者の線量が、「核原料物質又は核燃料物質の製錬の事業に関する規則等の規定に基づく線量限度等を定める告示」に定められた線量限度を超えないことはもとより、公衆の線量及び放射線業務従事者が立ち入る場所における線量を合理的に達成できる限り低くする設計とする。																										
3	航空機に対する防護	航空機の衝突に対し、安全確保上支障がないように設計するものとする。	第八條 外部衝撃	基本設計方針 第1章 共通項目 3. 自然現象等 3.3 外部からの衝撃による損傷の防止 3.3.5 航空機落下	想定される人為事象のうち、飛来物（航空機落下）については、三沢対地訓練区域で訓練飛行中の航空機が施設に衝突することを想定したときに、公衆に対して過度の放射線被ばくを及ぼすおそれのある施設は、航空機に対して貫通が防止でき、かつ、航空機による衝撃荷重に対して健全性が確保できる堅固な建物・構築物で適切に保護する等、安全確保上支障がないように設計する。																										
4	主要寸法	階数：地上2階、地下3階（一部中2階）	その他事業許可整合等	基本設計方針で展開 第2章 個別項目 1. 成形施設	【修正予定】燃料加工建屋の主要構造は、地上2階、地下3階の耐火建築物であり、堅固な基礎盤上に設置する設計とする。 <中略> 燃料加工建屋は、地下3階中2階において、貯蔵容器搬送用洞道とエキスパンションジョイントにより接続する設計とする。																										
5	特記事項	管理区域内の汚染のおそれのある部屋の床及び人が触れるおそれのある壁の表面は、除染が容易で腐食し難い材料で仕上げる設計とする。汚染防止に係る措置の範囲を第1.-2表に示す。	第二十一條 汚染の防止	基本設計方針 第1章 共通項目 4. 閉じ込めの機能 4.2 核燃料物質等による汚染の防止の措置	核燃料物質等により管理区域内の汚染のおそれのある部屋の床及び人が触れるおそれのある壁の表面は、除染が容易で腐食しにくい樹脂系塗料等の材料によって仕上げる設計とする。																										
6	特記事項	②「建築基準法」の耐火建築物とする。	その他事業許可整合等	基本設計方針で展開 第2章 個別項目 1. 成形施設	【修正予定】燃料加工建屋の主要構造は、地上2階、地下3階の耐火建築物であり、堅固な基礎盤上に設置する設計とする。																										
7	特記事項	③原料受払室、粉末調整第1室等の部屋で構成する区域の境界の構築物を安全上重要な施設とする。（安全上重要な施設である構築物の範囲を第1.-2表に示す。）	第十條 閉じ込めの機能	基本設計方針 第1章 共通項目 4. 閉じ込めの機能 4.1 閉じ込め	核燃料物質等が漏えいした場合においても、工程室（非密封のMOXを取り扱う設備・機器を収納するグローブボックス等を直接収納する部屋及び当該部屋から廊下への汚染拡大防止を目的として設ける部屋並びにそれらの部屋を介してのみ出入りする部屋をいう。以下同じ。）及び燃料加工建屋内に保持し、核燃料物質を限定された区域に閉じ込める設計とする。																										
8	注釈	注2 本建屋がBクラスのしゃへい壁を有していることを示す。また、本建屋はBクラスのしゃへい壁を有していることから、Bクラスの施設に適用される地震力に耐えるように設計する。なお、本建屋は、Sクラスの設備・機器を設置するため、基準地震動Ssで間接支持構造物としての支持機能が維持されている	第六条 耐震	III-1-1-3 重要度分類及び重大事故等対応設備の設備分類の基本方針	第2.3-1 表 クラス別施設 注記 *5：燃料加工建屋及び貯蔵容器搬送用洞道の主要なコンクリート遮蔽は、Bクラスとする。また、燃料加工建屋は、弾性設計用地震動による地震力又は静的地震力のいずれか大きい方の地震力に対しておおむね弾性範囲に留まるとともに、基準地震動による地震力に対して構造物全体として変形能力について十分な余裕を有するように設計する。																										
9	第1.-2表	しゃへい設計の基準となる線量率	第二十二條 遮蔽	II-2-1 燃料加工建屋及び貯蔵容器搬送用洞道の放射線遮蔽に関する計算書	「第1.-1 図(1) 地下3階遮蔽設計の基準となる線量率及び遮蔽計算代表点等」～「第1.-1 図(7) 塔屋階遮蔽設計の基準となる線量率及び遮蔽計算代表点等」において部屋毎の基準となる線量率を示す。																										
10	第1.-2表	汚染防止に係る措置	第二十一條 汚染の防止	V-1-1-2 加工施設の閉じ込めの機能に関する説明書	【修正予定】「第3.11-2図 樹脂系塗料の塗布範囲」に塗装範囲を示す。																										
11	第1.-2表	安全上重要な施設である構築物	第十條 閉じ込めの機能	V-1-1-2 加工施設の閉じ込めの機能に関する説明書	【修正予定】「第3.11-1図 工程室の範囲図」に示す。																										

仕様表記載例23c-2【機種：建物・構築物（遮蔽設備）】 既認可仕様表「遮蔽蓋」 記載の相違箇所の設工認展開について

No	既認可仕様表の記載項目		関連条文	設工認申請書	
				展開先書類	展開先の内容（添付書類の図表への展開は方針を記載）
1	放射線防護 (しゃへい)	しゃへい設計の基準となる線量率を満足するものとする。	第二十二条 遮蔽	基本設計方針 第1章 共通項目 7. 遮蔽 7.1 遮蔽設計の基本方針	安全機能を有する施設は、周辺監視区域外の線量及び放射線業務従事者の線量が、「核原料物質又は核燃料物質の製錬の事業に関する規則等の規定に基づく線量限度等を定める告示」に定められた線量限度を超えないことはもとより、公衆の線量及び放射線業務従事者が立ち入る場所における線量を合理的に達成できる限り低くする設計とする。
2	個数	○	-	V-2-2-1 燃料加工建屋の平面図及び断面図	【修正予定】建屋平面図において、遮蔽蓋の配置及び個数がわかる情報を追加する。
3	注2	注2 しゃへい蓋は、開閉のため繰り返し取り扱うことから、コンクリート保護のため○により被覆する。	その他事業許可整合等	V-2-2-1 燃料加工建屋の平面図及び断面図	【修正予定】建屋平面図において、注記で記載する。
4	第1.-6表	隣接部屋番号 線源室 XXX (○○室) 線源室外 YYY (△△室)	第二十二条 遮蔽	V-2-2-1 燃料加工建屋の平面図及び断面図	建屋平面図において、遮蔽蓋の配置を示すことで、隣接部屋がわかるようにする。

注記： 遮蔽扉の既認可仕様表についても遮蔽蓋と同様である。

設工認申請設備選定フロー



区分	【グレード①】 仕様表対象機器の具体例	【グレード②-a】 基本設計方針対象機器の具体例	【グレード②-b】 基本設計方針対象の具体例
再処理	<p>【耐震Sクラス, 安全上重要な施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> 安重設備(燃料貯蔵プール等, 溶解槽, よう素追出し槽, 中継槽, 抽出塔, プルトニウム溶液TBP洗浄槽, 分離建屋一時貯留処理槽, プルトニウム濃縮槽, 精製建屋一時貯留処理槽, 一時貯槽, 焙焼炉, 還元炉, 粉末充填機, 保管容器, 粉末缶, 混合酸化燃料貯蔵容器, 高レベル濃縮廃液貯槽, Sクラスグローブボックス, 計測制御設備又は安全保護回路からの信号で作動する主要弁, 固化セル圧力放出系の逆止弁(安全弁及び逃がし弁)等) 安重Sクラスの塔槽類廃ガス処理設備又は換気設備のフィルタ, ダクト, 排風機 安重Sクラスの計測制御設備, 安全保護回路, 制御室換気設備, 主排気筒, 主排気筒ガスモニタ, 遮蔽設備(セル遮蔽, 遮蔽扉, 遮蔽窓といった補助遮蔽等) 電気設備(非常用所内電源系統, 安全冷却水系(冷却塔, ポンプ, 熱交換器等), 安全圧縮空気系(圧縮機, 貯槽等), 安全蒸気系(安全蒸気ボイラ等), プール水冷却系(ポンプ, 熱交換器等), 補給水設備(貯槽, ポンプ)等) <p>【重大事故等対応設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> サイフォンブレーカ, 止水板及び蓋, 代替/重大事故時可溶性中性子吸収材供給系の供給槽, 供給弁等, 代替安全圧縮空気系の可搬型ホースを接続する管路, 系統上に設置する弁及びダンパ, 水封安全器(安全弁及び逃がし弁)等, 代替安全冷却水系の可搬型ホースを接続する管路, 系統上に設置する弁及びダンパ, 可搬型排水貯槽, 可搬型中型移送ポンプ, 代替換気設備/廃ガス貯留設備の廃ガス貯留槽, 廃ガス貯留槽の安全弁, 空圧圧縮機, 凝縮器, 予備凝縮器, 可搬型ダクト, 可搬型フィルタ, 可搬型排風機, 大型移送ポンプ車, 放水砲, 可搬型建屋外ホース, 軽油貯槽, 軽油用タンクローリ, 代替モニタリング設備, 計装設備, 代替電源設備, 代替試料分析関係設備, 代替放射能観測設備, 代替気象観測設備, アルファベータ線用サーベイメータ等 <p>【上記以外】</p> <ul style="list-style-type: none"> 再処理施設の主流路となる塔槽類廃ガス処理設備又は換気設備排気系統, フィルタ, 主排気筒, 北換気筒, 低レベル廃棄物処理建屋換気筒 再処理施設の主流路となる廃液系統に設置される配管, 廃液貯槽, 蒸発缶, ろ過装置, 海洋放出ポンプ, 海洋放出管 再処理施設の主流路となる系統(使用済燃料の受入れ～分離～精製～脱酸～酸回収及び溶媒回収)に設置される配管, 貯槽, 蒸発缶, 搬送設備, 機械装置等 火災防護対象設備の固定式消火設備(ガス消火設備等), 耐火壁のうち火災区域/火災区画構造物(コンクリート壁) 溢水防護対象設備/化学薬品防護設備の防水区画境界に設置する防水区画構造物(堰, 防水扉, 水密扉) 竜巻防護対策設備の飛来物防護ネット及び飛来物防護板 遮蔽設備(外部遮蔽, 遮蔽扉, 遮蔽窓, 遮蔽ハッチ, 遮蔽体付グローブボックスといった補助遮蔽等) 	<p>【設計基準対象施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> 再処理工程のうち, 主たる経路にあたらぬ以下の設備 計測制御系統施設の計器, 盤等 電気設備の照明設備等 溢水防護設備及び化学薬品防護設備の溢水防護板・薬品防護板, 自動検知・遠隔隔離システム, 緊急遮断弁等 分析設備の分析装置, 気送設備, フード等 空キヤスクの保管エリア, 保管廃棄する区画(エリア) 空キヤスクの保守に用いるクレーン, 台車等 DB設備の個人管理設備, 出入管理設備, 気象観測設備, 放射線サーベイ機器 通信連絡設備(通信機, 通信端末) 火災防護設備の火災感知器, 消火器, 固定式消火設備(消火栓等), 耐火壁(防火ダンパ, 隔壁) <p>【重大事故等対応設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型汚濁水拡散防止フェンス, 運搬車, ホイルローダ, 代替通信連絡設備等 	<p>【設計基準対象施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> 誤操作の防止, 人の不法な侵入等の防止, 安全避難通路等 ①, ②-a以外のテストライン, バイパスライン, ペント・ドレンライン等の機器 <p>【重大事故等対応施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①, ②-a以外のテストライン, バイパスライン, ペント・ドレンライン等の機器
MOX	<p>【耐震Sクラス, 安全上重要な施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> 安重設備(Sクラスグローブボックス, 焼結炉, 貯蔵設備, 臨界管理用の高制限ゲート, 混合酸化燃料貯蔵容器等), 安重グローブボックスに内蔵する核燃料物質を取り扱う機器 安重Sクラスのフィルタ, ダクト, 排風機 安重Sクラスのグローブボックス消火装置(ポンベ, 主配管, 主要弁, 安全弁) <p>【重大事故等対応設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> グローブボックス排気設備のダクトのうちSAとして使用する範囲及び可搬型ダクトを接続する管路, 系統上に設置するダンパ, 可搬型排風機付フィルタユニット, 可搬型ダクト等 大型移送ポンプ車, 放水砲, 可搬型建屋外ホース, 軽油貯槽, 軽油用タンクローリ, 代替モニタリング設備, 代替試料分析関係設備, 代替放射能観測設備, 代替気象観測設備, 可搬型ダンパ出口風速計, アルファベータ線用サーベイメータ等 <p>【上記以外】</p> <ul style="list-style-type: none"> 加工施設の主流路となる排気系統, フィルタ, 排気筒 加工施設の主流路となる廃液系統に設置される配管, 検査槽, 廃液貯槽, 検査槽/廃液貯槽間及び排水口から共有する再処理施設への送液用のポンプ, ろ過処理装置, 吸着処理装置(処理装置に付随する貯槽, ポンプ含む) 	<p>【設計基準対象施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> 加工工程のうち, 添加剤, 被覆材等の部材取扱い設備, 立ち合い検査設備等の加工の主たる経路にあたらぬ設備 グローブボックス内に設置する分析設備 オープンポートボックス, フード 排水口から海洋放出管までの経路 輸送容器の保管エリア, 保管廃棄する区画(エリア) DB設備の個人管理設備, 出入管理設備, 気象観測設備, 放射線サーベイ機器 自動火災報知機, 消火器, 耐火壁, 消火栓, 避難・誘導設備, 運転保安灯, 非常用母線, 非常用照明, 通信連絡設備, 水素・アルゴン混合ガス設備(供給停止回路, 遮断弁等を除く), 荷役設備, 選別・保管設備等 <p>【重大事故等対応設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 監視測定用運搬車, 可搬型汚濁水拡散防止フェンス, 運搬車, 代替通信連絡設備等 	<p>【設計基準対象施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> 誤操作の防止, 人の不法な侵入等の防止, 安全避難通路等 ①, ②-a以外のテストライン, バイパスライン, ペント・ドレンライン等の機器 <p>【重大事故等対応施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①, ②-a以外のテストライン, バイパスライン, ペント・ドレンライン等の機器
廃棄物管理	<p>【耐震Sクラス, 安全上重要な施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> 収納管, 通風管 遮蔽設備(床面走行クレーン(遮蔽容器), 貯蔵区域遮蔽等) <p>【上記以外】</p> <ul style="list-style-type: none"> 廃棄物管理施設の主流路(遠送ガラス固化体の受入れ～貯蔵)を行う系統に設置されるクレーン, 台車等の搬送設備, ガラス固化体の各種検査装置, 床面走行クレーン等 廃棄物管理施設の主流路となる排気系統, フィルタ, 排風機, 北換気筒 遮蔽設備(外部遮蔽, 遮蔽扉, 遮蔽窓, 遮蔽ハッチ, 遮蔽体付グローブボックスといった補助遮蔽等) 	<p>【設計基準対象施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> 廃棄物管理工程のうち, 主たる経路にあたらぬ以下の設備 計測制御系統施設の計器, 盤等 電気設備の盤及び照明設備等 空キヤスクの保管エリア, 保管廃棄する区画(エリア) 空キヤスクの保守に用いるクレーン, 台車, 扉等 個人管理設備, 出入管理設備, 気象観測設備, 放射線サーベイ機器 火災防護設備の火災感知器, 消火器, 固定式消火設備(消火栓等), 耐火壁 通信連絡設備(通信機, 通信端末) 	<p>【設計基準対象施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> 誤操作の防止, 人の不法な侵入等の防止, 安全避難通路等 ①, ②-a以外のテストライン, バイパスライン, ペント・ドレンライン等の機器
濃縮	<p>【耐震Sクラス, 安全上重要な施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし <p>【重大事故等対応設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし <p>【上記以外】</p> <ul style="list-style-type: none"> 加工施設の主流路(UF6を内包する系統(第1類, 第2類))に設置される配管, 発生槽, 遠心分離機, 各コールドトラップ, 各回収槽, 排気系統, 廃液系統, フィルタ等 インターロック等の機能を有するロータリポンプ, 高周波インバータ装置 UF6を内包する機器(第1類, 第2類)を搬送するクレーン, 搬送台車 放射線監視測定機器(排気用モニタ, モニタリングポスト等), 非常用設備(無停電電源, DG, 遠隔消火設備等), その他(搬送, 洗浄, 除染設備等) 	<p>【設計基準対象施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> 加工工程のうち, 主たる経路(UF6を内包する系統(第1類, 第2類))にあたらぬ以下の設備 保管廃棄する区画(エリア) 個人管理設備, 出入管理設備, 気象観測設備, 放射線サーベイ機器 自動火災報知機, 消火器, 消火栓, 避難・誘導設備, 非常用照明, 通信連絡設備等 <p>【重大事故等対応設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	<p>【設計基準対象施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> 誤操作の防止, 人の不法な侵入等の防止, 安全避難通路等 ①, ②-a以外のテストライン, バイパスライン, ペント・ドレンライン等の機器

設工認申請対象設備 (申請対象設備リスト)

添付書類の発電炉との比較

【添付書類 ○○】

発電炉（東海第二）	MOX 燃料加工施設	備考
<div data-bbox="80 456 882 855" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>添付書類の記載内容に対して項目単位でその記載程度を発電炉と比較し、記載すべき事項の抜けや論点として扱うべき差がないかを確認する ※規則の名称、添付書類の名称など差があることが明らかな項目は比較対象としない。</p> </div>	<div data-bbox="1122 895 2134 1272" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【備考】 差に対して記載の変更が必要と判断した場合はその旨を記載し、修正案を示す。 差に対して記載修正が必要なく、新たな論点が生じるものではない場合はその旨を示す。 また、記載位置が異なるが、記載がある場合はその旨を記載する。</p> </div>	

発電炉 工認手続きガイド	仕様表対象選定手引き
<p>2. 工事の計画の認可及び届出及び認可手続の範囲 (2) 工事計画に記載すべき設備及び機器等の範囲 工事計画に記載しなければならない事項は、規則第9条第2項又は第12条第2項で発電用原子炉施設の種類に応じて規則別表第2の中欄で定めるものとされており、規則別表第2の中欄において、設備ごとにさらに機器等の単位で記載要求事項を定めている。この規則別表第2に規定されている記載要求事項については、少なくとも技術基準規則への適合性を示す上で必要十分な内容が記載される必要があり、以下では、規則別表第1における設備及び機器等の規定も含めて、機器等の仕様に関する記載要求範囲と設備及び機器等の記載要求範囲に分けて示す。</p>	<p>1. 目的 再処理規則第2条に規定される再処理施設，加工規則第3条の2の2に規定される加工施設，廃棄物管理規則第4条に規定される特定廃棄物管理施設に記載する施設のうち新規制基準対応として事業変更許可申請書への整合及び技術基準規則への適合を機器等の仕様で示す設備（以下「仕様表対象設備」という。）について、設備及び機器等の記載要求範囲，機器等の仕様に関する記載要求範囲に関する記載の統一及び一貫性を図ることを目的とする。</p>
<p>仕様表対象選定手引きの基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発電炉工認ガイドは、法令化されている別表第1及び別表第2を補足する観点から追加記載が必要な事項等について纏められているが、当社はこれが無いことを踏まえて「①設備及び機器等の記載要求範囲（仕様表対象設備の考え方⇒具体的な個別機器⇒個別施設）」「②個別機器の仕様表記載項目（記載項目の考え方，具体的な記載項目）」「③仕様表の記載方法（具体的な記載方法及び記載例）」の順に展開し、わかりやすいように展開して仕様表対象選定手引きを構成，記載する。 ・ 発電炉別表第1及び別表第2が無い場合、記載にあたっては対象としたものの根拠（理由）がわかるように記載する。（空欄を活用） ・ 仕様表対象選定手引きは発電炉工認ガイドの記載内容，記載程度を参考（対比）としているものは比較できるように記載する。 ・ 本手引きで用いる用語の定義は，可能な限り事業指定基準規則，技術基準規則，事業変更許可申請書等において定義しているものと一致させることで，理解し易いように記載する。また，手引きに基づき仕様表対象を選定する作業者が混乱，バラツキが発生しないよう必要に応じて理解できる程度まで噛み砕いた記載とする。 ・ 記載はなるべく簡潔に記載するように努め，特に簡潔に記載するにあたって考え方，対象が極力不明確とならないよう「～を含む。」「～を除く。」といった表現を用いるとともに，「○○等」は対象を列記して記載する場合のみに使用する。 	
	<p>2. 設備及び機器等の記載要求範囲</p>

発電炉 工認手続きガイド	仕様表対象選定手引き
<p>2) 設備及び機器等の記載要求範囲</p> <p>規則別表第2の中欄においては、同表の上欄で示している発電用原子炉施設の種類の種類として、原子炉本体、核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設、原子炉冷却系統施設、計測制御系統施設、放射性廃棄物の廃棄施設、放射線管理施設、原子炉格納施設及びその他発電用原子炉の附属施設に区分し、設備ごとに熱交換器、ポンプ、容器、貯蔵槽、ろ過装置、安全弁及び逃がし弁、主要弁、主配管、送風機、排風機並びにフィルター等の機器等を記載することとされている。これらについて、まず個別機器等の記載要求範囲を示すとともに、個別施設ごとに設備及び機器等の記載要求範囲を示す。</p>	<p>再処理規則第2条に規定される再処理施設、加工規則第3条の2の2に規定される加工施設、廃棄物管理規則第4条に規定される特定廃棄物管理施設に示す施設（以下「個別施設」という。）に区分し、個別施設毎に建物・構築物、熱交換器、ポンプ、容器、貯槽、ろ過装置、安全弁及び逃がし弁、主要弁、主配管、ファン及びフィルタ等の機器（以下「個別機器等」という。）を記載する。これらについて、まず核燃料施設の特徴を踏まえた個別機器等の記載要求範囲を示すとともに、個別施設毎に設備の記載要求範囲を示す。</p> <p>仕様表対象設備は、「事業変更許可申請書本文に示す各施設の主たる機能（当該設備の主たる機能及び安全機能）とその達成のために設置する主要な設備＝主流路※」及び「公衆及び放射線業務従事者への影響を可能な限り低減する」という規制要求事項の主旨を踏まえ、公衆に対する影響の程度に応じた以下に示す3つの分類に該当する個別機器等を対象とする。</p> <p>※主流路とは、当該設備が果たすべき主たる機能（例：使用済燃料の受入れ及び貯蔵、せん断等）を達成するための本流に含まれる個別機器等の纏まり（系統、設備）であり、プロセス・ユーティリティ設備であれば容器、主配管、主要弁といったもの、搬送・機械設備であればクレーン、台車といったものを纏めたものをいう。</p>

発電炉 工認手続きガイド	仕様表対象選定手引き
	<p><仕様表対象設備の基本的な考え方></p> <p>【分類A】</p> <p>・機能の喪失により、公衆又は放射線業務従事者に放射線障害を及ぼすおそれがあるもの及び運転時における異常な過渡変化時、設計基準事故時又は重大事故時等において公衆又は放射線業務従事者に及ぼすおそれがある放射線障害を防止するため、放射性物質又は放射線が核燃料施設を設置する工場又は事業所（以下「工場等」という。）外へ放出されることを抑制し、又は防止するものとして、安全上重要な施設、重大事故等対処施設及び耐震重要施設等（耐震Sクラス設備、常設耐震重要重大事故等対処設備、1.2倍の基準地震動による地震力により機能喪失しない設備及びこれら設備の総称をいう。）のうち主要な個別機器等</p> <p>【分類B】</p> <p>(1) 通常運転状態において公衆又は放射線業務従事者に及ぼすおそれがある放射線障害を防止するため、放射性物質又は放射線が核燃料施設を設置する工場等外へ放出されることを抑制し、又は防止するものとして、安全機能を有する施設 <u>(分類Aを除く)</u> のうち、核燃料物質等の貯蔵・保管・廃棄・<u>落下／転倒防止</u>機能に係る確認を必要とする使用済燃料の貯蔵施設、製品貯蔵施設及び放射性廃棄物の廃棄施設（気体・液体・固体）の主要な個別機器 <u>の他、各施設の状況を把握するための計測制御系統施設（警報設備等及び制御室等を含む）、放射線管理施設の主要な個別機器等</u></p> <p>(2) 事業変更許可申請書本文に記載している再処理、廃棄物管理、MOX燃料加工を行うための使用済燃料又は核燃料物質等を含む溶液又は粉末等を取り扱う主要な個別機器等</p> <p>【分類C】</p> <p>・設計想定事象（自然現象、工場若しくは事業所内又はその周辺における核燃料施設の安全性を損なわせる原因となるおそれがある事象であって人為によるもの（故意によるものを除く。）、火災、溢水その他の核燃料施設の安全性を損なわせる原因となるおそれがある事象）において、安全上重要な施設、重大事故等対処施設、耐震重要施設等の機器等の機能喪失を防止するものとして、安全機能を有する施設 <u>(分類Aを除く)</u> のうち、その他加工施設、その他再処理設備の附属施設、その他廃棄物管理設備の附属施設の火災防護設備、溢水防護設備、竜巻防護対策設備等の主要な個別機器 <u>の他、各施設への必要なユーティリティを供給する電気設備、圧縮空気設備、給水処理設備、冷却水設備、蒸気供給設備、化学薬品貯蔵供給設備等の主要な個別機器等</u></p> <p><u>※次頁以降に示す具体的な個別機器等で、上記分類A～Cにおいて仕様表対象設備が混在することから選定される上位の分類区分にて考え方と対象となるもの、対象外（基本設計方針対象）となるものが識別し易いよう個別機器等を例示する。</u></p>

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き																
(個別機器等事項)	(個別機器等事項) 個別機器等事項では、核燃料施設（再処理施設、廃棄物管理施設、MOX 燃料加工施設）に設置される機器等が、前項で示す基本的な考え方に該当する機器等の仕様を仕様表で記載するにあたり、機能、性能及び構造上の類似性を考慮し、複数の種類（機種）に区分する。 種類（機種）の区分は、 <u>核燃料施設の特徴と仕様表に記載すべき当該個別機器の主要な仕様項目を踏まえ類似性があるものに分けて、以下に示すとおり区分する。</u>																
	(a) 容器⇒主たる機能が流体保持性能（仕様表項目：容量）																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="905 550 1009 588">分類</th> <th data-bbox="1023 550 1576 588">対象（考え方）</th> <th data-bbox="1576 550 2315 588">各施設における個別機器等の例</th> <th data-bbox="2315 550 2691 588">対象外の例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="905 588 1009 814">A</td> <td data-bbox="1023 588 1576 814"> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 設計基準における臨界防止機能、閉じ込め機能、火災及び爆発防止機能、廃棄（浄化含む）機能、落下・転倒防止機能、安全上重要な施設の機能を維持するために必要な支援機能を維持するための安全上重要な施設（常設又は可搬型）のうち、以下に示すもの。 ➤ 設計上の想定を超える条件で発生する臨界事故時における拡大防止、放射線分解による水素爆発防止、冷却機能喪失による蒸発乾固防止、TBP 等の錯体の急激な反応における火災及び爆発防止に対する重大事故等への対処機能（溶液保持、冷却機能、放射性物質の異常な放出防止又は抑制機能、支援機能）を維持するための常設重大事故等対処設備及び可搬型重大事故等対処設備のうち、以下に示すもの。 </td> <td data-bbox="1576 588 2315 814"></td> <td data-bbox="2315 588 2691 814"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="905 814 1009 1491"></td> <td data-bbox="1023 814 1576 1491"> <臨界防止機能、ソースターム制限機能> <ul style="list-style-type: none"> ・単一ユニット及び複数ユニットにおいて核的制限値を設定するもの ・セルから液プルトニウム（低濃度のものを除く）を含む溶液が漏えいした場合において臨界を防止するためのもの ・臨界事故時における拡大防止及び抑制のために中性子吸収材を供給するもの </td> <td data-bbox="1576 814 2315 1491"> 【設計基準対処施設】 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 再処理設備本体の溶解施設のよう素追出し槽、中間ポット、中継槽、可溶性中性子吸収材緊急供給槽等、分離施設の溶解液供給槽、プルトニウム溶液受槽、一時貯留処理槽等、精製施設のプルトニウム溶液供給槽、油水分離槽、一時貯留処理槽等、脱硝施設のシール槽、硝酸プルトニウム貯槽等 その他再処理設備の附属施設（その他主要な事項：分析設備）の分析済溶液受槽、セルから液プルトニウム（低濃度のものを除く）を含む溶液が漏えいした場合において溶液を保持する漏えい液受皿等（事業変更許可申請書の臨界安全管理表に示すもの） ✓ 再処理設備本体の溶解施設の溶解槽において臨界事故が発生した場合に未臨界とするための中性子吸収材を保有する可溶性中性子吸収材緊急供給槽 【重大事故等対処設備】 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 再処理設備本体（溶解施設、精製施設）の代替可溶性中性子吸収材緊急供給系及び重大事故時可溶性中性子吸収材供給系の重大事故時代替可溶性中性子吸収材緊急供給槽、重大事故時可溶性中性子吸収材供給槽等 </td> <td data-bbox="2315 814 2691 1491">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="905 1491 1009 1934"></td> <td data-bbox="1023 1491 1576 1934"> <閉じ込め：放射性物質の保持機能> <ul style="list-style-type: none"> ・プルトニウム（低濃度のものを除く）を含む溶液又は粉末を保有するもの、高レベル放射性液体廃棄物（高レベル廃液、不溶解残渣廃液、抽出廃液等）を保有するもの ・臨界事故時における拡大防止、放射線分解による水素爆発防止、冷却機能喪失による蒸発乾固防止、TBP 等の錯体の急激な反応における火災及び爆発防止に対する重大事故等への対処のうち、重大事故等を仮定する容器で設計基準対処施設と兼用するもの </td> <td data-bbox="1576 1491 2315 1934"> 【設計基準対処施設】 <プルトニウムを含む溶液又は粉末を保有するもの> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 再処理設備本体の溶解施設の溶解槽、よう素追出し槽、中間ポット、リサイクル槽等、分離施設の溶解液中間槽、抽出塔、第1／第2洗浄塔、プルトニウム溶液TBP洗浄器、プルトニウム溶液中間貯槽、一時貯留処理槽等、精製施設の第1脱ガス塔、第1酸化塔、逆抽出塔、核分裂生成物洗浄塔、ウラン洗浄塔、TBP洗浄器、プルトニウム溶液受槽、補助油水分離槽、プルトニウム濃縮缶、一時貯留処理槽等、脱硝施設の混合槽、一時貯槽、定量ポット、固気分離器、粉末ホッパ等 <高レベル放射性液体廃棄物を保有するもの> </td> <td data-bbox="2315 1491 2691 1934"></td> </tr> </tbody> </table>	分類	対象（考え方）	各施設における個別機器等の例	対象外の例	A	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 設計基準における臨界防止機能、閉じ込め機能、火災及び爆発防止機能、廃棄（浄化含む）機能、落下・転倒防止機能、安全上重要な施設の機能を維持するために必要な支援機能を維持するための安全上重要な施設（常設又は可搬型）のうち、以下に示すもの。 ➤ 設計上の想定を超える条件で発生する臨界事故時における拡大防止、放射線分解による水素爆発防止、冷却機能喪失による蒸発乾固防止、TBP 等の錯体の急激な反応における火災及び爆発防止に対する重大事故等への対処機能（溶液保持、冷却機能、放射性物質の異常な放出防止又は抑制機能、支援機能）を維持するための常設重大事故等対処設備及び可搬型重大事故等対処設備のうち、以下に示すもの。 				<臨界防止機能、ソースターム制限機能> <ul style="list-style-type: none"> ・単一ユニット及び複数ユニットにおいて核的制限値を設定するもの ・セルから液プルトニウム（低濃度のものを除く）を含む溶液が漏えいした場合において臨界を防止するためのもの ・臨界事故時における拡大防止及び抑制のために中性子吸収材を供給するもの 	【設計基準対処施設】 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 再処理設備本体の溶解施設のよう素追出し槽、中間ポット、中継槽、可溶性中性子吸収材緊急供給槽等、分離施設の溶解液供給槽、プルトニウム溶液受槽、一時貯留処理槽等、精製施設のプルトニウム溶液供給槽、油水分離槽、一時貯留処理槽等、脱硝施設のシール槽、硝酸プルトニウム貯槽等 その他再処理設備の附属施設（その他主要な事項：分析設備）の分析済溶液受槽、セルから液プルトニウム（低濃度のものを除く）を含む溶液が漏えいした場合において溶液を保持する漏えい液受皿等（事業変更許可申請書の臨界安全管理表に示すもの） ✓ 再処理設備本体の溶解施設の溶解槽において臨界事故が発生した場合に未臨界とするための中性子吸収材を保有する可溶性中性子吸収材緊急供給槽 【重大事故等対処設備】 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 再処理設備本体（溶解施設、精製施設）の代替可溶性中性子吸収材緊急供給系及び重大事故時可溶性中性子吸収材供給系の重大事故時代替可溶性中性子吸収材緊急供給槽、重大事故時可溶性中性子吸収材供給槽等 	-		<閉じ込め：放射性物質の保持機能> <ul style="list-style-type: none"> ・プルトニウム（低濃度のものを除く）を含む溶液又は粉末を保有するもの、高レベル放射性液体廃棄物（高レベル廃液、不溶解残渣廃液、抽出廃液等）を保有するもの ・臨界事故時における拡大防止、放射線分解による水素爆発防止、冷却機能喪失による蒸発乾固防止、TBP 等の錯体の急激な反応における火災及び爆発防止に対する重大事故等への対処のうち、重大事故等を仮定する容器で設計基準対処施設と兼用するもの 	【設計基準対処施設】 <プルトニウムを含む溶液又は粉末を保有するもの> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 再処理設備本体の溶解施設の溶解槽、よう素追出し槽、中間ポット、リサイクル槽等、分離施設の溶解液中間槽、抽出塔、第1／第2洗浄塔、プルトニウム溶液TBP洗浄器、プルトニウム溶液中間貯槽、一時貯留処理槽等、精製施設の第1脱ガス塔、第1酸化塔、逆抽出塔、核分裂生成物洗浄塔、ウラン洗浄塔、TBP洗浄器、プルトニウム溶液受槽、補助油水分離槽、プルトニウム濃縮缶、一時貯留処理槽等、脱硝施設の混合槽、一時貯槽、定量ポット、固気分離器、粉末ホッパ等 <高レベル放射性液体廃棄物を保有するもの>	
分類	対象（考え方）	各施設における個別機器等の例	対象外の例														
A	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 設計基準における臨界防止機能、閉じ込め機能、火災及び爆発防止機能、廃棄（浄化含む）機能、落下・転倒防止機能、安全上重要な施設の機能を維持するために必要な支援機能を維持するための安全上重要な施設（常設又は可搬型）のうち、以下に示すもの。 ➤ 設計上の想定を超える条件で発生する臨界事故時における拡大防止、放射線分解による水素爆発防止、冷却機能喪失による蒸発乾固防止、TBP 等の錯体の急激な反応における火災及び爆発防止に対する重大事故等への対処機能（溶液保持、冷却機能、放射性物質の異常な放出防止又は抑制機能、支援機能）を維持するための常設重大事故等対処設備及び可搬型重大事故等対処設備のうち、以下に示すもの。 																
	<臨界防止機能、ソースターム制限機能> <ul style="list-style-type: none"> ・単一ユニット及び複数ユニットにおいて核的制限値を設定するもの ・セルから液プルトニウム（低濃度のものを除く）を含む溶液が漏えいした場合において臨界を防止するためのもの ・臨界事故時における拡大防止及び抑制のために中性子吸収材を供給するもの 	【設計基準対処施設】 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 再処理設備本体の溶解施設のよう素追出し槽、中間ポット、中継槽、可溶性中性子吸収材緊急供給槽等、分離施設の溶解液供給槽、プルトニウム溶液受槽、一時貯留処理槽等、精製施設のプルトニウム溶液供給槽、油水分離槽、一時貯留処理槽等、脱硝施設のシール槽、硝酸プルトニウム貯槽等 その他再処理設備の附属施設（その他主要な事項：分析設備）の分析済溶液受槽、セルから液プルトニウム（低濃度のものを除く）を含む溶液が漏えいした場合において溶液を保持する漏えい液受皿等（事業変更許可申請書の臨界安全管理表に示すもの） ✓ 再処理設備本体の溶解施設の溶解槽において臨界事故が発生した場合に未臨界とするための中性子吸収材を保有する可溶性中性子吸収材緊急供給槽 【重大事故等対処設備】 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 再処理設備本体（溶解施設、精製施設）の代替可溶性中性子吸収材緊急供給系及び重大事故時可溶性中性子吸収材供給系の重大事故時代替可溶性中性子吸収材緊急供給槽、重大事故時可溶性中性子吸収材供給槽等 	-														
	<閉じ込め：放射性物質の保持機能> <ul style="list-style-type: none"> ・プルトニウム（低濃度のものを除く）を含む溶液又は粉末を保有するもの、高レベル放射性液体廃棄物（高レベル廃液、不溶解残渣廃液、抽出廃液等）を保有するもの ・臨界事故時における拡大防止、放射線分解による水素爆発防止、冷却機能喪失による蒸発乾固防止、TBP 等の錯体の急激な反応における火災及び爆発防止に対する重大事故等への対処のうち、重大事故等を仮定する容器で設計基準対処施設と兼用するもの 	【設計基準対処施設】 <プルトニウムを含む溶液又は粉末を保有するもの> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 再処理設備本体の溶解施設の溶解槽、よう素追出し槽、中間ポット、リサイクル槽等、分離施設の溶解液中間槽、抽出塔、第1／第2洗浄塔、プルトニウム溶液TBP洗浄器、プルトニウム溶液中間貯槽、一時貯留処理槽等、精製施設の第1脱ガス塔、第1酸化塔、逆抽出塔、核分裂生成物洗浄塔、ウラン洗浄塔、TBP洗浄器、プルトニウム溶液受槽、補助油水分離槽、プルトニウム濃縮缶、一時貯留処理槽等、脱硝施設の混合槽、一時貯槽、定量ポット、固気分離器、粉末ホッパ等 <高レベル放射性液体廃棄物を保有するもの>															

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き		
			<p>✓ 再処理設備本体の溶解施設の清澄機，不溶解残渣回収槽等，分離施設のTBP洗浄塔，抽出廃液受槽，一時貯留処理槽等</p> <p>✓ 放射性廃棄物の廃棄施設の液体廃棄物の廃棄施設の高レベル廃液供給槽，高レベル廃液濃縮缶，高レベル濃縮廃液貯槽，不溶解残渣廃液貯槽，高レベル廃液共用貯槽等，固体廃棄物の廃棄施設の高レベル廃液混合槽，供給槽，供給液槽，ガラス溶融炉等</p> <p>【重大事故等対処設備】</p> <p>✓ 臨界事故の発生を仮定する機器（再処理設備本体の溶解施設の溶解槽，ハル洗浄槽，エンドピース酸洗浄槽，精製施設の一時貯留処理槽等）</p> <p>✓ 蒸発乾固の発生を仮定する機器（再処理設備本体の溶解施設の間中ポット，リサイクル槽，中継槽，計量・調整槽等，分離施設の溶解液供給槽，抽出廃液中間貯槽，一時貯留処理槽等，精製施設のプルトニウム濃縮液受槽，希釈槽，一時貯留処理槽等，脱硝施設の混合槽，一時貯槽等，放射性廃棄物の廃棄施設の高レベル廃液濃縮缶，供給液槽，高レベル濃縮廃液貯槽，高レベル廃液共用貯槽等</p> <p>✓ 放射線分解により発生する水素爆発の発生を仮定する機器（再処理設備本体の溶解施設の中継槽，計量前中間貯槽等，分離施設の抽出廃液受槽，プルトニウム溶液受槽，一時貯留処理槽等，精製施設の油水分離槽，リサイクル槽，プルトニウム濃縮缶，一時貯留処理槽等，脱硝施設の硝酸プルトニウム貯槽等，放射性廃棄物の廃棄施設の高レベル廃液濃縮缶，高レベル濃縮廃液一時貯槽，供給槽，高レベル廃液混合槽等）</p> <p>✓ TBP等の錯体の急激な反応による爆発の発生を仮定する機器（再処理設備本体の精製施設のプルトニウム濃縮缶）</p>
	(続き)	<p><閉じ込め：放出経路の維持機能，捕集・浄化機能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷却機能喪失による蒸発乾固が発生した際に，当該機器から気相中に移行する放射性物質を含む廃ガスをセルへ導出し，大気中へ放出される放射性物質を低減するためのもの ・臨界事故又はTBP等の錯体の急激な反応による爆発が発生した際に，当該機器から発生する放射性物質を含む廃ガスを貯留し，大気中へ放出される放射性物質を低減するためのもの 	<p>【設計基準対処施設】</p> <p>該当無し</p> <p>【重大事故等対処設備】</p> <p>✓ 代替換気設備のセル導出設備の高レベル廃液ガラス固化建屋の気液分離器，前処理建屋塔槽類廃ガス処理設備，分離建屋塔槽類廃ガス処理設備（塔槽類廃ガス処理系），精製建屋塔槽類廃ガス処理設備（塔槽類廃ガス処理系（Pu系）），高レベル廃液ガラス固化建屋塔槽類廃ガス処理設備（高レベル濃縮廃液廃ガス処理系）の設計基準対処施設と兼用する水封安全器等</p> <p>✓ 代替換気設備の代替セル排気系の高レベル廃液ガラス固化建屋の可搬型デミスタ等</p> <p>✓ 代替換気設備の廃ガス貯留設備（前処理建屋用，精製建屋用）の廃ガス貯留槽</p>

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き			
	(続き)	<閉じ込め：崩壊熱等の除去機能，燃料貯蔵プール等の水位維持機能> <ul style="list-style-type: none"> 燃料貯蔵プール等の冷却（崩壊熱除去）を行うもの 燃料貯蔵プール等の水位の維持を行うもの 放射性物質の保持機能を有する容器等の冷却（崩壊熱除去）を行うもの 蒸発乾固を防止するための冷却（崩壊熱除去）を行うもの 再処理施設及び燃料加工施設の重大事故等の対処に必要な水源を保持するもの 	【設計基準対処施設】 <ul style="list-style-type: none"> 使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設において燃料貯蔵プール等の冷却を行うためのプール水を保持する燃料取出し設備の燃料取出しピット，燃料仮置きピット，燃料移送設備の燃料移送水路，燃料貯蔵設備の燃料貯蔵プール，チャンネルボックス・バーナブルポイズン取扱ピット，燃料送出し設備の燃料送出しピット 燃料貯蔵プール等の水位を維持するための補給水を保持する補給水設備の補給水槽 高レベル廃液処理設備の高レベル廃液濃縮缶の冷却を行うための高レベル廃液処理設備の高レベル濃縮廃液処理系に設置されている加熱時における凝縮水・冷却時における冷却水を保持するためのフラッシュドラム等 【重大事故等対処設備】 <ul style="list-style-type: none"> 代替安全冷却水系の水を一時的に貯留及び第1貯水槽へ移送し，排水を水源として使用する可搬型排水受槽 重大事故等の対処に必要な水源を保持する水供給設備の第1貯水槽，第2貯水槽，放水設備の大型移送ポンプ車 	✓ 安全冷却水系（内部／外部ループ）の熱膨張を緩和するための膨張槽等（発電炉の原子炉補機冷却設備の膨張槽のようなDBA/SA機能は無いため）
		<火災発生防止：水素掃気機能> <ul style="list-style-type: none"> 安全上重要な施設へ圧縮空気（放射線分解により発生する水素の掃気に使用するもの）を供給するもの 放射線分解により発生する水素爆発に対処するために必要な圧縮空気を供給するもの 臨界事故による発生する放射線分解により発生する水素爆発に対処するために必要な圧縮空気を供給するもの 	【設計基準対処施設】 <ul style="list-style-type: none"> 圧縮空気設備の安全圧縮空気系から放射線分解により発生する水素を掃気するための圧縮空気を供給する水素掃気用空気貯槽等 【重大事故等対処設備】 <ul style="list-style-type: none"> 代替安全圧縮空気系の圧縮空気を供給する圧縮空気自動供給貯槽，圧縮空気自動供給／機器圧縮空気自動供給／圧縮空気手動供給ユニット（ポンプ） 代替安全圧縮空気系の臨界事故時水素掃気系で設計基準対処施設と兼用する再処理設備本体用の一般圧縮空気系及び安全圧縮空気系の圧縮空気貯槽 	
		<閉じ込め：ソースターム制限機能> <ul style="list-style-type: none"> セルから液体状の高レベル放射性液体廃棄物が漏えいした場合において溶液を保持するもの セルから液体状の高レベル放射性液体廃棄物が漏えいした場合において沸騰を防止するための希釈水を保有するもの ガラス溶融炉の流下を停止するための冷却用空気を供給するもの 	【設計基準対処施設】 <ul style="list-style-type: none"> 溶解設備及び清澄・計量設備，高レベル廃液処理設備，高レベル廃液ガラス固化設備の機器から液体状の高レベル放射性液体廃棄物が漏えいした場合において漏えい液を保持する漏えい液受皿 溶解設備及び清澄・計量設備，高レベル廃液処理設備，高レベル廃液ガラス固化設備の機器から液体状の高レベル放射性液体廃棄物が漏えいした場合において沸騰を防止するための希釈水を供給する超音波洗浄槽，漏えい液希釈水供給槽，漏えい液希釈溶液供給槽，純水中間貯槽 高レベル廃液ガラス固化設備のガラス溶融炉の流下を停止するための冷却用空気を供給する流下ノズル冷却用空気貯槽 	

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き		
(続き)	<閉じ込め：グローブボックス火災防止機能> ・燃料加工施設のプルトニウムを含む粉末を取り扱うグローブボックスにおいて火災が発生した場合に消火を行うもの	【設計基準対処施設】 ✓ 火災防護設備のグローブボックス消火装置の消火剤を保有するポンペ 【重大事故等対処設備】 ✓ 代替消火設備の遠隔消火装置の消火剤を保有するポンペ	
	<支援機能：電源供給機能> ・安全上重要な施設へ電源を供給する非常用発電機へ燃料を供給するもの ・重大事故等へ対処するための電源を供給する非常用発電機へ燃料を供給するもの（緊急時対策所に係るものを含む）	【設計基準対処施設】 ✓ 安全上重要な施設の機器へ電源供給を行う非常用ディーゼル発電機への燃料を供給する重油タンク，燃料油貯蔵タンク，燃料デイトンク，燃料油サービスタンク，非常用ディーゼル発電機の起動時に必要な圧縮空気を貯留する空気だめ 【重大事故等対処設備】 ✓ 重大事故等対処設備へ必要な電源供給を行う可搬型発電機への燃料を供給する補機駆動用燃料補給設備の第1軽油貯槽，第2軽油貯槽，軽油タンクローリ及び緊急時対策所に必要な電源供給を行う発電機への燃料を供給する重油貯槽	
	<支援機能：蒸気供給機能> ・安全上重要な施設へ蒸気を供給するもの	【設計基準対処施設】 ✓ セルから液体状の高レベル放射性液体廃棄物が漏えいした場合において沸騰を防止するための特殊ポンプに蒸気供給を行う安全蒸気系ボイラの起動時に必要な可燃性ガスを貯留するポンペ等 【重大事故等対処設備】 該当無し	
	<支援機能：圧縮空気供給機能> ・安全上重要な施設へ圧縮空気（計測制御設備等に使用するもの）を供給するもの ・重大事故等へ対処するための設備に圧縮空気を供給するもの（代替安全圧縮空気系，臨界事故時水素掃気系以外に供給するもの）	【設計基準対処施設】 ✓ 安全上重要な施設の計測制御設備等へ計測用の圧縮空気を供給する安全圧縮空気系の計測制御用空気貯槽等 【重大事故等対処設備】 ✓ 重大事故等へ対処するための設備で廃ガス貯留処理設備の空気圧縮機，主要弁，計装設備への計測用の圧縮空気を供給する一般圧縮空気系及び安全圧縮空気系の空気貯槽等	
	<支援機能：水供給機能> ・気体廃棄物の廃棄施設に係る安全上重要な施設の閉じ込め支援として水を供給するもの	【設計基準対処施設】 ✓ 高レベル廃液ガラス固化設備の吸収塔へ水を供給する純水中間貯槽 【重大事故等対処設備】 該当無し	
	<支援機能：居住性維持機能> ・事故に対処する要員の居住性を確保するうえで必要なもの	【設計基準対処施設】 ※該当する個別機器等はない。 【重大事故等対処設備】 ✓ 緊急時対策所の居住性を維持するための緊急時対策建屋換気設備の加圧ユニット（ポンペ）	

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き								
	B	<p>(1) 安全機能を有する施設 <u>(分類Aを除く)</u> のうち、核燃料物質等の廃棄（処理、廃棄、貯蔵）機能に係る放射性廃棄物の廃棄施設のうち、以下に示すもの</p> <p>(2) 安全機能を有する施設 <u>(分類Aを除く)</u> のうち、事業変更許可申請書本文に記載している再処理、MOX 燃料加工を行うための使用済燃料又は核燃料物質等を含む溶液又は粉末等を取り扱う設備のうち、以下に示すもの</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="1023 367 1576 1266"> <p><廃棄：気体廃棄物の廃棄機能、捕集・浄化機能></p> <p>・ウラン又はプルトニウム（低濃度のものを含む）を含む溶液又は粉末を保有する系統、高レベル放射性液体廃棄物（高レベル廃液、不溶解残渣廃液、抽出廃液等）を保有する系統、低レベル放射性液体廃棄物及び低レベル固体廃棄物を処理・保有・保管する系統、これら系統を収納セル及びグローブボックスからの気体状の放射性廃棄物を処理するためのもの</p> </td> <td data-bbox="1576 367 2309 1266"> <p>【設計基準対処施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ せん断処理・溶解廃ガス処理設備のNOx 吸収塔, よう素追出し塔（本文対象） ✓ 前処理建屋塔槽類廃ガス処理設備、分離建屋塔槽類廃ガス処理設備（塔槽類廃ガス処理系）、精製建屋塔槽類廃ガス処理設備（塔槽類廃ガス処理系（U系及びPu系））、ウラン脱硝建屋塔槽類廃ガス処理設備、ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋塔槽類廃ガス処理設備、低レベル廃液処理建屋塔槽類廃ガス処理設備、低レベル廃棄物処理建屋塔槽類廃ガス処理設備（低レベル濃縮廃液処理廃ガス処理系、廃溶媒処理廃ガス処理系、雑固体廃棄物焼却処理廃ガス処理系）、高レベル廃液ガラス固化建屋塔槽類廃ガス処理設備（高レベル濃縮廃液廃ガス処理系、不溶解残渣廃液廃ガス処理系）、分析建屋塔槽類廃ガス処理設備の廃ガス洗浄塔、NOx 廃ガス洗浄塔、<u>極低レベル廃ガス洗浄塔（本文対象）</u>、スプレイ塔、デミスタ等 ✓ 高レベル廃液ガラス固化廃ガス処理設備の廃ガス洗浄器、吸収塔、ルテニウム吸着塔等 ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設（気体）のうちセル及びグローブボックスの換気を行う高レベル廃液ガラス固化建屋換気設備（固化セル換気系）の洗浄塔、ルテニウム吸着塔 <p>【重大事故等対処設備】</p> <p>該当無し</p> </td> <td data-bbox="2309 367 2691 1266"> <p>・せん断処理・溶解廃ガス処理設備のよう素追出し塔は、当該設備のよう素フィルタで公衆に影響を及ぼす捕集・浄化機能を担保していることを踏まえて基本設計方針対象とする。</p> <p>極低レベル廃ガス洗浄塔は許可整合廃ガス洗浄液槽は捕集・浄化した洗浄水を保有するための容器であるため基本設計方針対象とする。</p> <p>配管収納容器、二重管は主配管側で整理</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1023 1266 1576 1936"> <p><廃棄：液体廃棄物の廃棄機能、捕集・浄化機能></p> <p>・燃料貯蔵プール等のプール水を処理（浄化）するためのもの</p> <p>・各施設で発生する放射性液体廃棄物（アルカリ濃縮廃液、低レベル濃縮廃液、廃溶媒、廃樹脂、分析済溶液）の処理（浄化含む）・貯蔵するためのもの</p> <p>・放射性物質を含む溶液及び低レベル放射性液体廃棄物が漏えいした場合において溶液を保持するもの</p> </td> <td data-bbox="1576 1266 2309 1936"> <p>【設計基準対処施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設のプール水浄化系のろ過装置、脱塩装置等 ✓ 高レベル廃液濃縮設備のアルカリ廃液濃縮系、アルカリ濃縮廃液貯蔵系のアルカリ廃液供給槽、アルカリ廃液濃縮缶、アルカリ濃縮廃液貯槽等 ✓ 低レベル廃液処理設備の低レベル廃液貯槽、低レベル廃液蒸発缶、低レベル濃縮廃液貯槽、除染ピット、海洋放出前貯槽、油分除去装置、洗濯廃液ろ過装置等 ✓ 低レベル固体廃棄物処理設備の低レベル濃縮廃液及び廃溶媒の貯槽及び低レベル固体廃棄物貯蔵設備の廃樹脂貯蔵系の廃樹脂貯槽等 ✓ その他再処理設備の附属施設の分析設備の分析済溶液受槽等 ✓ 廃棄物管理施設の廃水貯槽 ✓ 燃料加工施設の検査槽、廃液貯槽等 ✓ <u>ウラン等の放射性物質を含む溶液及び低レベル放射性液体廃棄物が漏えいした場合において漏えい液を保持する漏えい液受皿</u> </td> <td data-bbox="2309 1266 2691 1936"> <p>・低レベル固体廃棄物を保管するためのドラム缶、収納缶、収納箱、空容器等</p> </td> </tr> </table>	<p><廃棄：気体廃棄物の廃棄機能、捕集・浄化機能></p> <p>・ウラン又はプルトニウム（低濃度のものを含む）を含む溶液又は粉末を保有する系統、高レベル放射性液体廃棄物（高レベル廃液、不溶解残渣廃液、抽出廃液等）を保有する系統、低レベル放射性液体廃棄物及び低レベル固体廃棄物を処理・保有・保管する系統、これら系統を収納セル及びグローブボックスからの気体状の放射性廃棄物を処理するためのもの</p>	<p>【設計基準対処施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ せん断処理・溶解廃ガス処理設備のNOx 吸収塔, よう素追出し塔（本文対象） ✓ 前処理建屋塔槽類廃ガス処理設備、分離建屋塔槽類廃ガス処理設備（塔槽類廃ガス処理系）、精製建屋塔槽類廃ガス処理設備（塔槽類廃ガス処理系（U系及びPu系））、ウラン脱硝建屋塔槽類廃ガス処理設備、ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋塔槽類廃ガス処理設備、低レベル廃液処理建屋塔槽類廃ガス処理設備、低レベル廃棄物処理建屋塔槽類廃ガス処理設備（低レベル濃縮廃液処理廃ガス処理系、廃溶媒処理廃ガス処理系、雑固体廃棄物焼却処理廃ガス処理系）、高レベル廃液ガラス固化建屋塔槽類廃ガス処理設備（高レベル濃縮廃液廃ガス処理系、不溶解残渣廃液廃ガス処理系）、分析建屋塔槽類廃ガス処理設備の廃ガス洗浄塔、NOx 廃ガス洗浄塔、<u>極低レベル廃ガス洗浄塔（本文対象）</u>、スプレイ塔、デミスタ等 ✓ 高レベル廃液ガラス固化廃ガス処理設備の廃ガス洗浄器、吸収塔、ルテニウム吸着塔等 ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設（気体）のうちセル及びグローブボックスの換気を行う高レベル廃液ガラス固化建屋換気設備（固化セル換気系）の洗浄塔、ルテニウム吸着塔 <p>【重大事故等対処設備】</p> <p>該当無し</p>	<p>・せん断処理・溶解廃ガス処理設備のよう素追出し塔は、当該設備のよう素フィルタで公衆に影響を及ぼす捕集・浄化機能を担保していることを踏まえて基本設計方針対象とする。</p> <p>極低レベル廃ガス洗浄塔は許可整合廃ガス洗浄液槽は捕集・浄化した洗浄水を保有するための容器であるため基本設計方針対象とする。</p> <p>配管収納容器、二重管は主配管側で整理</p>	<p><廃棄：液体廃棄物の廃棄機能、捕集・浄化機能></p> <p>・燃料貯蔵プール等のプール水を処理（浄化）するためのもの</p> <p>・各施設で発生する放射性液体廃棄物（アルカリ濃縮廃液、低レベル濃縮廃液、廃溶媒、廃樹脂、分析済溶液）の処理（浄化含む）・貯蔵するためのもの</p> <p>・放射性物質を含む溶液及び低レベル放射性液体廃棄物が漏えいした場合において溶液を保持するもの</p>	<p>【設計基準対処施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設のプール水浄化系のろ過装置、脱塩装置等 ✓ 高レベル廃液濃縮設備のアルカリ廃液濃縮系、アルカリ濃縮廃液貯蔵系のアルカリ廃液供給槽、アルカリ廃液濃縮缶、アルカリ濃縮廃液貯槽等 ✓ 低レベル廃液処理設備の低レベル廃液貯槽、低レベル廃液蒸発缶、低レベル濃縮廃液貯槽、除染ピット、海洋放出前貯槽、油分除去装置、洗濯廃液ろ過装置等 ✓ 低レベル固体廃棄物処理設備の低レベル濃縮廃液及び廃溶媒の貯槽及び低レベル固体廃棄物貯蔵設備の廃樹脂貯蔵系の廃樹脂貯槽等 ✓ その他再処理設備の附属施設の分析設備の分析済溶液受槽等 ✓ 廃棄物管理施設の廃水貯槽 ✓ 燃料加工施設の検査槽、廃液貯槽等 ✓ <u>ウラン等の放射性物質を含む溶液及び低レベル放射性液体廃棄物が漏えいした場合において漏えい液を保持する漏えい液受皿</u> 	<p>・低レベル固体廃棄物を保管するためのドラム缶、収納缶、収納箱、空容器等</p>
<p><廃棄：気体廃棄物の廃棄機能、捕集・浄化機能></p> <p>・ウラン又はプルトニウム（低濃度のものを含む）を含む溶液又は粉末を保有する系統、高レベル放射性液体廃棄物（高レベル廃液、不溶解残渣廃液、抽出廃液等）を保有する系統、低レベル放射性液体廃棄物及び低レベル固体廃棄物を処理・保有・保管する系統、これら系統を収納セル及びグローブボックスからの気体状の放射性廃棄物を処理するためのもの</p>	<p>【設計基準対処施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ せん断処理・溶解廃ガス処理設備のNOx 吸収塔, よう素追出し塔（本文対象） ✓ 前処理建屋塔槽類廃ガス処理設備、分離建屋塔槽類廃ガス処理設備（塔槽類廃ガス処理系）、精製建屋塔槽類廃ガス処理設備（塔槽類廃ガス処理系（U系及びPu系））、ウラン脱硝建屋塔槽類廃ガス処理設備、ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋塔槽類廃ガス処理設備、低レベル廃液処理建屋塔槽類廃ガス処理設備、低レベル廃棄物処理建屋塔槽類廃ガス処理設備（低レベル濃縮廃液処理廃ガス処理系、廃溶媒処理廃ガス処理系、雑固体廃棄物焼却処理廃ガス処理系）、高レベル廃液ガラス固化建屋塔槽類廃ガス処理設備（高レベル濃縮廃液廃ガス処理系、不溶解残渣廃液廃ガス処理系）、分析建屋塔槽類廃ガス処理設備の廃ガス洗浄塔、NOx 廃ガス洗浄塔、<u>極低レベル廃ガス洗浄塔（本文対象）</u>、スプレイ塔、デミスタ等 ✓ 高レベル廃液ガラス固化廃ガス処理設備の廃ガス洗浄器、吸収塔、ルテニウム吸着塔等 ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設（気体）のうちセル及びグローブボックスの換気を行う高レベル廃液ガラス固化建屋換気設備（固化セル換気系）の洗浄塔、ルテニウム吸着塔 <p>【重大事故等対処設備】</p> <p>該当無し</p>	<p>・せん断処理・溶解廃ガス処理設備のよう素追出し塔は、当該設備のよう素フィルタで公衆に影響を及ぼす捕集・浄化機能を担保していることを踏まえて基本設計方針対象とする。</p> <p>極低レベル廃ガス洗浄塔は許可整合廃ガス洗浄液槽は捕集・浄化した洗浄水を保有するための容器であるため基本設計方針対象とする。</p> <p>配管収納容器、二重管は主配管側で整理</p>							
<p><廃棄：液体廃棄物の廃棄機能、捕集・浄化機能></p> <p>・燃料貯蔵プール等のプール水を処理（浄化）するためのもの</p> <p>・各施設で発生する放射性液体廃棄物（アルカリ濃縮廃液、低レベル濃縮廃液、廃溶媒、廃樹脂、分析済溶液）の処理（浄化含む）・貯蔵するためのもの</p> <p>・放射性物質を含む溶液及び低レベル放射性液体廃棄物が漏えいした場合において溶液を保持するもの</p>	<p>【設計基準対処施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設のプール水浄化系のろ過装置、脱塩装置等 ✓ 高レベル廃液濃縮設備のアルカリ廃液濃縮系、アルカリ濃縮廃液貯蔵系のアルカリ廃液供給槽、アルカリ廃液濃縮缶、アルカリ濃縮廃液貯槽等 ✓ 低レベル廃液処理設備の低レベル廃液貯槽、低レベル廃液蒸発缶、低レベル濃縮廃液貯槽、除染ピット、海洋放出前貯槽、油分除去装置、洗濯廃液ろ過装置等 ✓ 低レベル固体廃棄物処理設備の低レベル濃縮廃液及び廃溶媒の貯槽及び低レベル固体廃棄物貯蔵設備の廃樹脂貯蔵系の廃樹脂貯槽等 ✓ その他再処理設備の附属施設の分析設備の分析済溶液受槽等 ✓ 廃棄物管理施設の廃水貯槽 ✓ 燃料加工施設の検査槽、廃液貯槽等 ✓ <u>ウラン等の放射性物質を含む溶液及び低レベル放射性液体廃棄物が漏えいした場合において漏えい液を保持する漏えい液受皿</u> 	<p>・低レベル固体廃棄物を保管するためのドラム缶、収納缶、収納箱、空容器等</p>							

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き		
		<p>【重大事故等対処設備】 該当無し</p> <p><閉じ込め：放射性物質の保持機能> ・業変更許可申請書本文に記載している再処理，MOX 燃料加工を行うためのウラン又はプルトニウム（低濃度のもの）を含む溶液及び粉末等を貯留するもの</p>	<p>【設計基準対処施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 再処理設備本体の溶解施設の溶解設備の水バッファ槽，エンドピース水洗浄槽，硝酸調整槽，硝酸供給槽等 ✓ 再処理設備本体の分離施設の分離設備の補助抽出廃液受槽，分配設備のウラン逆抽出器，ウラン溶液 TBP 洗浄器，ウラン濃縮缶供給槽，ウラン濃縮缶，ウラン濃縮液受槽，ウラン濃縮缶凝縮液受槽等，分離建屋一時貯留処理設備の第 5，6，9，10 一時貯留処理槽等 ✓ 再処理設備本体の精製施設のウラン精製設備のウラン溶液供給槽，抽出器，抽出廃液 TBP 洗浄器，核分裂生成物洗浄器，逆抽出器，ウラン溶液 TBP 洗浄器，ウラン濃縮缶供給槽，ウラン濃縮缶，ウラン濃縮缶凝縮液受槽，ウラン濃縮液第 1 受槽，ウラン濃縮液第 1 中間貯槽，ウラン濃縮液第 2 受槽，ウラン濃縮液第 2 中間貯槽，ウラン濃縮液第 3 中間貯槽，リサイクル槽，ウラナス製造器，第 1 気液分離槽，第 2 気液分離槽，洗浄塔，ウラナス溶液受槽，ウラナス溶液中間貯槽等，プルトニウム精製設備の低濃度プルトニウム溶液受槽，ウラン逆抽出器，逆抽出液 TBP 洗浄器，逆抽出液受槽，凝縮液受槽等，精製建屋一時貯留処理設備の第 2，4，5 一時貯留処理槽等 ✓ 再処理設備本体の脱硝施設のウラン脱硝設備の硝酸ウラニル貯槽，硝酸ウラニル供給槽，濃縮缶，濃縮液受槽，脱硝塔，シール槽，規格外製品受槽，UO₃受槽，UO₃溶解槽等，ウラン・プルトニウム混合脱硝系の凝縮廃液ろ過器，凝縮廃液受槽，凝縮廃液貯槽等 ✓ 再処理設備本体の酸及び溶媒の回収施設の酸回収設備の第 1 酸回収系の第 1，2 供給槽，蒸発缶，精留塔，回収酸受槽，低レベル無塩廃液受槽，相分離槽等，第 2 酸回収系の供給液受槽，供給槽，蒸発缶，精留塔，回収硝酸受槽等，溶媒回収設備の溶媒再生系（分離・分配系，ウラン精製系，プルトニウム精製系）の第 1～3 洗浄器等，溶媒処理系の溶媒供給槽，第 1，2 蒸発缶，溶媒蒸留塔，回収希釈剤中間貯槽，回収希釈剤第 1 貯槽，回収溶媒中間貯槽，回収溶媒第 1 貯槽，廃有機溶媒残渣中間貯槽，回収溶媒第 3 貯槽等 <p>【重大事故等対処設備】 該当無し</p>
	C	<p>➤ 設計想定事象（自然現象，工場若しくは事業所内又はその周辺における核燃料施設の安全性を損なわせる原因となるおそれがある事象であつて人為によるもの（故意によるものを除く。），火災，溢水その他の核燃料施設の安全性を損なわせる原因となるおそれがある事象）において，安全上重要な施設，重大事故等対処施設，耐震重要施設等の機器等の機能喪失を防止するものとして，安全機能を有する施設（分類 A を除く）のうち，その他加工施設，その他再処理設備の附属施設，その他廃棄物管理設備の附属施設の火災防護設備，溢水防護設備，竜巻防護対策設備の他，各施設への必要なユーティリティを供給する電気設備，圧縮空気設備，給水処理設備，冷却水設備，蒸気供給設備，化学薬品貯蔵供給設備等のうち，以下に示すもの。</p>	<p>還元ガス供給系の還元ガス供給槽，還元ガス受槽等</p>

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き		
	<p><支援機能：電源供給機能></p> <ul style="list-style-type: none"> 安全機能を有する施設へ電源を供給する発電機へ燃料を供給するもの 	<p>【設計基準対処施設】</p> <p>該当無し</p> <p>【重大事故等対処設備】</p> <p>該当無し</p>	<ul style="list-style-type: none"> 再処理施設の電気設備の運転予備用廃棄物管理施設の予備電源用ディーゼル発電機は設置すること要求事項としており、非常用ディーゼル発電機のように具体的な対処に必要な期間を有する性能を要求しているものではないため対象外
	<p><支援機能：圧縮空気供給機能></p> <ul style="list-style-type: none"> 安全機能を有する施設へ圧縮空気を供給するもの 	<p>【設計基準対処施設】</p> <p>該当無し</p> <p>【重大事故等対処設備】</p> <p>該当無し</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一般圧縮空気系の使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設用の空気圧縮機、空気貯槽、安全圧縮空気系のかくはん用空気貯槽は各施設への圧縮空気供給のために必要な設備であるが安全機能に直接関係しないため対象外
	<p><支援機能：水供給機能></p> <ul style="list-style-type: none"> 安全機能を有する施設へ水を供給するもの 安全機能を有する施設へ冷却水を供給するもの 	<p>【設計基準対処施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> その他再処理設備の附属施設の給水処理設備のろ過水貯槽 <p>※火災防護機能に係る水源</p> <p>【重大事故等対処設備】</p> <p>該当無し</p>	<ul style="list-style-type: none"> 給水処理設備の純水貯槽は各施設への水供給のために必要な設備であるが安全機能に直接関係しないため対象外 冷却水設備の一般冷却水系の膨張槽等は各施設への圧縮空気供給のために必要な設備であるが安全機能に直接関係しないため対象外
	<p><支援機能：蒸気供給機能></p> <ul style="list-style-type: none"> 安全機能を有する施設へ蒸気を供給するもの 	<p>【設計基準対処施設】</p> <p>該当無し</p> <p>【重大事故等対処設備】</p> <p>該当無し</p>	<ul style="list-style-type: none"> 蒸気供給設備の一般蒸気系の還水タンク、ボイラ給水供給タンク、フラッシュタンク、凝縮水受槽、膨張槽等は各施設への蒸気供給のために必要な設備であるが安全機能に直接関係しないため対象外
	<p><支援機能：化学薬品等供給機能></p> <ul style="list-style-type: none"> 安全機能を有する施設へ化学薬品、窒素ガス、酸素ガスを供給するもの 	<p>【設計基準対処施設】</p> <p>該当無し</p> <p>【重大事故等対処設備】</p> <p>該当無し</p>	<ul style="list-style-type: none"> 化学薬品貯蔵供給設備の化学薬品貯蔵供給系、NO_x製造設備、窒素ガス製造供給系、酸素ガス製造供給系の化学薬品を保有する貯槽、窒素ガス及び酸素ガスを保有する貯槽等は各施設への化学薬品等供給のために必要な設備であるが安全機能に直接関係しないため対象外
	<p><支援機能：火災防護（消火）機能></p> <ul style="list-style-type: none"> 火災区域を設定する安全機能を有する施設及び重大事故等対処施設の消火を行うための消火剤を保有するもの 	<p>【設計基準対処施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> 火災防護設備の消火水供給設備の消火用水貯槽、ろ過水貯槽（給水処理設備と兼用）、緊急時対策建屋の消火水供給設備の消火水槽及び防火水槽（緊急時対策建屋用） 	<ul style="list-style-type: none"> 建築基準法、消防法の一般法令に基づき設置する消火設備のうち、火災区域を設定しない建屋の消火設備に使用する消火設備は対象外

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き			
<p>主配管中に設置される流体を一時的のみ保持するもの又は浄化機能等を期待しない容器（小型ポット等）は、主配管と同等の経路維持のために構造強度を有することで適合性を示す必要がある機器は、基本設計方針及び添付書類（強度及び耐食性に関する説明書、添付図面）で示す。</p> <p>他施設と共用する給水処理設備のろ過水貯槽、圧縮空気設備の空気貯槽、火災防護設備の消火用水貯槽、消火水槽（緊急時対策建屋用）、水供給設備の第1、2貯水槽等の主登録先は再処理施設とする。</p> <p>(b) 運搬・製品容器⇒主たる機能がウラン・MOX 粉末・放射性廃棄物保持性能（仕様表項目：容量）</p>			<p>・火災防護設備の固定式消火設備の消火剤（二酸化炭素、窒素、ハロゲン化物（HFC-227ea, ハロン 1301, FK-5-1-12）、泡消火薬剤）を保有するポンペ</p> <p>【重大事故等対処設備】 無し</p>	
	分類	対象（考え方）	各施設における個別機器等の例	対象外の例
	A	<p>設計基準における臨界防止機能を維持するための安全上重要な施設（可搬型）のうち、以下に示すもの。</p> <p>使用済燃料貯蔵槽の冷却機能喪失に対する重大事故等への対処機能（冷却機能、臨界防止機能、放射性物質の異常な放出防止又は抑制機能）を維持するための可搬型重大事故等対処設備のうち、以下に示すもの。</p> <p><臨界防止機能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨界管理を行うウラン酸化物粉末、MOX 粉末、使用済燃料等を収納するもの ・使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための重大事故等への対処のうち、臨界防止を行うための使用済燃料の仮置き、を行うためのもの 	<p>【設計基準対処施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の燃料送出し設備のバスケット ・再処理設備本体のウラン脱硝設備の規格外製品容器、ウラン・プルトニウム混合脱硝設備の保管容器 ・製品貯蔵施設のウラン酸化物貯蔵設備のウラン酸化物貯蔵容器、貯蔵バスケット、ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵設備の粉末缶、混合酸化物貯蔵容器 <p>【重大事故等対処設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計基準対処施設と兼用する使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の燃料送出し設備のバスケット 	<p>・使用済燃料輸送容器は、発電事業者等で型式認定等により製作される運搬容器であることから対象外</p>
B	<p>(1) 核燃料物質等の臨界防止、廃棄（処理、廃棄、貯蔵）機能に係る安全機能を有する施設（可搬型）のうち、以下に示すもの。</p> <p><臨界防止機能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨界管理を行う MOX 粉末、燃料棒等を収納するもの <p><閉じ込め：廃棄・保管・散逸防止機能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高濃縮度燃料貯蔵ラックへ使用済燃料（破損燃料を含む）を保管するもの ・キャスクから燃料を取り出す際に水中においてキャスクの転倒を防止するためのもの ・溶融ガラスを保管するもの ・固体廃棄物を運搬するもの ・核燃料物質を運搬するもの 	<p>【設計基準対処施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃料加工施設の核燃料物質の貯蔵施設、被覆施設・組立施設において MOX 粉末、ペレット、燃料棒を収納する運搬容器 ・使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の燃料貯蔵設備の使用済燃料収納缶 ・使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の燃料取出し設備の防染バケツ ・放射性廃棄物の廃棄施設の高レベル廃液ガラス固化設備のガラス固化体容器 ・放射性廃棄物の廃棄施設の低レベル固体廃棄物貯蔵設備の運搬容器（高プルトニウムを含む溶液若しくは粉末又は高レベル廃液等により汚染された廃棄物に接触したものであって、運搬容器に補助遮蔽を使用するものに限る。） ・MOX 燃料加工施設の核燃料物質の貯蔵施設等において粉末等の核燃料物質を収納・運搬する粉末、ペレットの収納容器、収納パレット、貯蔵マガジン、組立マガジン <p>【重大事故等対処設備】</p>	<p>・低レベル固体廃棄物を運搬する際に用いる運搬容器、少量の放射性物質を含む分析試料等を運搬する際に用いる運搬容器は対象外</p>	

発電炉 工認手続ガイド		仕様表対象選定手引き			
			該当無し		
C	該当する個別機器等はない。				
> ガラス溶融炉は閉じ込め機能を維持しながら運転状態で保守等を行うための特殊な保守設備（レンガ回収治具，負圧維持治具，メルタ用シャッタ等）を有することから仕様表の注記にこれら必要な保守設備の仕様等（材料，寸法）を纏めて記載する。					
(c)ろ過装置⇒主たる機能が処理性能（仕様表項目：容量(処理量)）					
分類	対象（考え方）	各施設における個別機器等の例		対象外の例	
A	該当する個別機器等はない。				
B	(1)安全機能を有する施設 <u>(分類Aを除く)</u> のうち，核燃料物質等の廃棄（処理，廃棄，貯蔵）機能に係る放射性廃棄物の廃棄施設のうち，以下に示すもの				
	<廃棄：液体廃棄物の廃棄機能，捕集・浄化機能> ・燃料貯蔵プール等のプール水を処理（浄化）するためのもの ・各施設で発生する低レベル放射性液体廃棄物の処理（浄化含む）するためのもの	【設計基準対処施設】 ✓ 使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設のプール水浄化系のろ過装置，脱塩装置等 ✓ 低レベル廃液処理設備のろ過装置，脱塩装置 ✓ MOX燃料加工施設の放射性廃棄物の廃棄施設の低レベル廃液処理設備及びその他の加工施設の分析済液処理装置のろ過装置 【重大事故等対処設備】 該当無し		・低レベル固体廃棄物を保管するためのドラム缶，収納缶，収納箱，空容器等	
C	該当する個別機器等はない。				
(d)熱交換器⇒主たる機能が加熱・冷却性能（仕様表項目：設計熱交換量，伝熱面積，冷却空気流量，蒸気発生量）					
分類	対象（考え方）	各施設における個別機器等の例		対象外の例	
A	> 設計基準における閉じ込め機能（冷却），安全上重要な施設の機能を維持するために必要な支援機能を維持するための安全上重要な施設（常設）のうち，以下に示すもの。 > 設計上の想定を超える条件で発生する臨界事故時における拡大防止，放射線分解による水素爆発防止，冷却機能喪失による蒸発乾固防止，TBP等の錯体の急激な反応における火災及び爆発防止に対する重大事故等への対処機能（溶液保持，冷却機能，放射性物質の異常な放出防止又は抑制機能，支援機能）を維持するための常設重大事故等対処設備及のうち，以下に示すもの。				
	<閉じ込め：崩壊熱等の除去機能> ・燃料貯蔵プール等の冷却（崩壊熱除去）を行うもの ・容器又は固化セル内の冷却（崩壊熱除去）を行うもの ・蒸発乾固を防止するための冷却（崩壊熱除去）を行うもの	【設計基準対処施設】 ✓ 使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設において燃料貯蔵プール等の冷却を行うためのプール水冷却系の熱交換器 ✓ その他再処理設備の附属施設の冷却水設備の安全冷却水系の冷却塔，熱交換器，冷水冷凍機，安全冷水冷却器 【重大事故等対処設備】 ✓ 蒸発乾固の発生を仮定する機器に附属する冷却コイル，冷却ジャケット（再処理設備本体の溶解施設の中間ポット，リサイクル槽，中継槽，計量・調整槽等，分離施設の溶解液供給槽，抽出廃液中間貯槽，一時貯留処理槽等，精製施設のプルトニウム濃縮液受槽，希釈槽，一時貯留処理槽等，脱硝施設の混合槽，一時貯槽等，放射性廃棄物の廃棄施設の高レベル廃液濃縮缶，供給液槽，高レベル濃縮廃液貯槽，高レベル廃液共用貯槽		崩壊熱除去に係らない安全冷却水系に補助的に設置する冷凍機，熱交換器	

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き			
		等) <閉じ込め：捕集・浄化機能> ・冷却機能喪失による蒸発乾固の際に発生した際に、廃ガスを冷却して除湿することにより、廃ガス中の放射性トリチウム、揮発性ルテニウム等を除去するもの <支援機能：冷却機能> ・臨界事故時における拡大防止、TBP等の錯体の急激な反応における火災及び爆発防止に対する重大事故等への対処機能に係る支援として冷却を行うもの <支援機能：捕集・浄化機能> ・廃ガス中の放射性よう素を除去するために加熱を行うもの <支援機能：蒸気供給機能> ・安全上重要な施設へ蒸気を供給するもの	【設計基準対処施設】 該当無し 【重大事故等対処設備】 ✓ 代替換気設備の凝縮器、予備凝縮器 【設計基準対処施設】 該当無し 【重大事故等対処設備】 ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設の廃ガス貯留設備の空気圧縮機の冷却を行うための冷却水を冷却する一般冷却水（各建屋換気空調用）の冷却塔、熱交換器 【設計基準対処施設】 ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設のせん断処理・溶解廃ガス処理設備のよう素除去を行うため設置する加熱器（電気ヒータ） 【重大事故等対処設備】 該当無し 【設計基準対処施設】 ✓ セルから液体状の高レベル放射性液体廃棄物が漏えいした場合において沸騰を防止するための特殊ポンプに蒸気供給を行う安全蒸気系ボイラ 【重大事故等対処設備】 該当無し	
	B	(1)安全機能を有する施設（ <u>分類Aを除く</u> ）のうち、核燃料物質等の廃棄（浄化含む）機能に係る放射性廃棄物の廃棄施設のうち、以下に示すもの <廃棄：捕集・浄化機能> ・廃ガスを冷却して除湿することにより、廃ガス中の放射性トリチウムを除去するもの ・廃ガス中の放射性よう素を除去するために加熱を行うもの	【設計基準対処施設】 ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設（気体）のせん断処理・溶解廃ガス処理設備、塔槽類廃ガス処理設備（前処理建屋塔槽類廃ガス処理設備、分離建屋塔槽類廃ガス処理設備（塔槽類廃ガス処理系）、精製建屋塔槽類廃ガス処理設備（塔槽類廃ガス処理系：ウラン系、プルトニウム系）、ウラン脱硝建屋塔槽類廃ガス処理設備、ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋塔槽類廃ガス処理設備、高レベル廃液ガラス固化建屋塔槽類廃ガス処理設備（不溶解残渣廃液廃ガス処理系、高レベル濃縮廃液廃ガス処理系）、低レベル廃液処理建屋塔槽類廃ガス処理設備、低レベル廃棄物処理建屋塔槽類廃ガス処理設備（低レベル濃縮廃液廃ガス処理系、廃溶媒処理廃ガス処理系、雑固体廃棄物焼却処理廃ガス処理系）、分析建屋塔槽類廃ガス処理設備）、高レベル廃液ガラス固化廃ガス処理設備の凝縮器 ✓ 塔槽類廃ガス処理設備（前処理建屋塔槽類廃ガス処理設備、分離建屋塔槽類廃ガス処理設備（塔槽類廃ガス処理系）、精製建屋塔槽類廃ガス処理設備（塔槽類廃ガス処理系：プルトニウム系）、ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋塔槽類廃ガス処理設備、高レベル廃液ガラス固化建屋塔槽類廃ガス処理設備（不溶解残渣廃液廃ガス処理系、高レベル濃縮廃液廃ガス処理	廃ガスの浄化に係らない換気・空調、製品製造・廃液処理等の機器加熱・冷却用の冷却塔、冷凍機、熱交換器（加熱コイル、加熱ジャケット、凝縮器、冷却器、冷却コイル、冷却ジャケット、温水加熱器、蒸気発生器、一般蒸気系ボイラ等）は除く。

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き				
			系), 低レベル廃液処理建屋塔槽類廃ガス処理設備, 低レベル廃棄物処理建屋塔槽類廃ガス処理設備 (低レベル濃縮廃液廃ガス処理系, 廃溶媒処理廃ガス処理系), 高レベル廃液ガラス固化廃ガス処理設備の加熱器 【重大事故等対処設備】 該当無し		
	C	該当する個別機器等はない。	【設計基準対処施設】 該当無し 【重大事故等対処設備】 該当無し	・冷却水設備の一般冷却水系のうち, 分類A以外の各建屋空調用, 使用済燃料輸送容器管理建屋用, 再処理設備本体用, 運転予備用ディーゼル発電機用, 再処理設備本体の運転予備負荷用の冷却塔, 冷凍機, 熱交換器, 冷却器等は各施設への冷却水供給のために必要な設備であるが安全機能に直接関係しないため対象外 ・蒸気供給設備の一般蒸気系の熱交換器, 温水加熱器等は各施設への蒸気供給のために必要な設備であるが安全機能に直接関係しないため対象外	
		<支援機能: 水供給機能> ・安全機能を有する施設へ冷却水を供給するもの	【設計基準対処施設】 該当無し 【重大事故等対処設備】 該当無し		
		<支援機能: 蒸気供給機能> ・安全機能を有する施設へ蒸気 (温水) を供給するもの	【設計基準対処施設】 無し 【重大事故等対処設備】 無し		
		> 容器等の一部である冷却を行う冷却コイル, 冷却ジャケット等は, 熱交換器に係る仕様項目を当該容器の仕様表に纏めて記載する。 > 容器等の一部である加熱を行う蒸発缶 (加熱部) は, 熱交換器に係る仕様項目を当該容器の仕様表にまとめて記載する。 > 冷却塔/冷凍機/ボイラのようなユニット品である場合は, 当該熱交換器に係る仕様表に関連する仕様項目を纏めて記載する。 (e) ポンプ⇒主たる機能は供給性能 (容量 (供給流量), 吐出圧力, 揚程)			
		分類	対象 (考え方)	各施設における個別機器等の例	対象外の例
	A	> 設計基準における臨界防止機能, 閉じ込め機能, 安全上重要な施設の機能を維持するために必要な支援機能を維持するための安全上重要な施設 (常設又は可搬型) のうち, 以下に示すもの。 > 設計上の想定を超える条件で発生する臨界事故時における拡大防止, 放射線分解による水素爆発防止, 冷却機能喪失による蒸発乾固防止, TBP等の錯体の急激な反応における火災及び爆発防止に対する重大事故等への対処機能 (溶液保持, 冷却機能, 放射性物質の異常な放出防止又は抑制機能, 支援機能) を維持するための常設重大事故等対処設備及び可搬型重大事故等対処設備のうち, 以下に示すもの。	【設計基準対処施設】 ✓ 再処理設備本体の精製施設のプルトニウム精製設備のプルトニウム濃縮液ポンプ, 脱硝施設のウラン・プルトニウム混合脱硝設備の溶液系の一時貯槽ポンプ, 漏えい液移送ポンプ	-	

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き			
			✓ その他再処理設備の附属施設の分析設備の分析残液受槽ポンプ，分析残液受槽濃縮工程移送ポンプ，分析済溶液受槽ポンプ，濃縮液受槽ポンプ，濃縮液供給槽ポンプ，抽出残液受槽濃縮工程移送ポンプ，抽出液受槽かくはんポンプ，分析残液希釈槽ポンプ，凝縮液受槽ポンプ，抽出液受槽ポンプ 【重大事故等対処設備】 該当無し	
		<閉じ込め：崩壊熱等の除去機能，燃料貯蔵プール等の水位維持機能> ・燃料貯蔵プール等の冷却（崩壊熱除去）を行うもの ・燃料貯蔵プール等の水位の維持を行うもの ・容器又は固化セル内の冷却（崩壊熱除去）を行うもの ・燃料貯蔵プール等の損傷による冷却機能を喪失した場合の重大事故対処として冷却を行うもの ・蒸発乾固を防止するための冷却（崩壊熱除去）を行うもの	【設計基準対処施設】 ✓ 使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設において燃料貯蔵プール等の冷却の循環を行うためのプール水冷却系ポンプ ✓ 燃料貯蔵プール等の水位を維持するための補給水を供給する補給水設備の補給水設備ポンプ ✓ その他再処理設備の附属施設の安全冷却水系（外部ループ／内部ループ）の冷却水循環ポンプ ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設の高レベル廃液ガラス固化廃ガス処理設備の冷水循環ポンプ（安全冷却水系） 【重大事故等対処設備】 ✓ 代替注水設備の可搬型中型移送ポンプ ✓ 代替安全冷却水系の可搬型中型移送ポンプ	
		<閉じ込め：放出抑制機能> ・重大事故等が発生した場合に大気への放射性物質の放出を抑制するための水を供給するもの	【設計基準対処施設】 該当無し 【重大事故等対処設備】 ✓ その他再処理設備の附属施設の放出抑制設備の放水設備の大型移送ポンプ車	
	(続き)	<閉じ込め：ソースターム制限機能> ・セルから液体状の高レベル放射性液体廃棄物が漏えいした場合において溶液を回収するもの	【設計基準対処施設】 ✓ セルから液体状の高レベル放射性液体廃棄物が漏えいした場合において沸騰を防止するために漏えい液を回収するためのポンプ（駆動源が電源のもの），スチームジェットポンプ（駆動源が蒸気のもの）	
		<支援機能：電源供給機能> ・安全上重要な施設へ電源を供給する非常用発電機へ燃料を供給するもの ・重大事故等へ対処するための電源を供給する非常用発電機へ燃料を供給するもの（緊急時対策所に係るものを含む）	【設計基準対処施設】 ✓ 安全上重要な施設の機器へ電源供給を行う非常用ディーゼル発電機への燃料を供給する燃料移送ポンプ，燃料油移送ポンプ 【重大事故等対処設備】 ✓ 緊急時対策所に必要な電源供給を行う緊急時対策建屋用発電機への燃料を供給する燃料油移送ポンプ	ドラム缶から発電機等へ燃料を補給する際に使用する可搬型のハンドポンプ
		<支援機能：蒸気供給機能> ・安全上重要な施設へ蒸気を供給するための水を供給するもの	【設計基準対処施設】 ✓ その他再処理設備の附属施設の蒸気供給設備の安全蒸気系の安全蒸気ボイラへ蒸気を発生させるための水を供給する給水ポンプ 【重大事故等対処設備】 該当無し	

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き			
		<支援機能：冷却機能> ・臨界事故時における拡大防止，TBP等の錯体の急激な反応における火災及び爆発防止に対する重大事故等への対処機能に係る支援として冷却を行うもの	【設計基準対処施設】 該当無し 【重大事故等対処設備】 ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設の廃ガス貯留設備の空気圧縮機の冷却を行うための冷却水を供給する一般冷却水（各建屋換気空調用）の冷却水循環ポンプ	
	B	(1)安全機能を有する施設（分類Aを除く）のうち，核燃料物質等の廃棄（浄化含む）機能に係る放射性廃棄物の廃棄施設のうち，以下に示すもの		
		<廃棄：気体廃棄物の廃棄機能，捕集・浄化機能> ・ウラン又はプルトニウム（低濃度のものを含む）を含む溶液又は粉末を保有する系統からの気体状の放射性廃棄物を処理するためのもの	【設計基準対処施設】 ✓ 精製建屋塔槽類廃ガス処理設備（溶媒廃ガス処理系）の真空ポンプ 【重大事故等対処設備】 該当無し	
		<廃棄：液体廃棄物の廃棄機能，捕集・浄化機能> ・燃料貯蔵プール等のプール水を処理（浄化）するためのもの ・低レベル放射性液体廃棄物を海洋へ放出するためのもの ・放射性液体廃棄物を処理するためのもの	【設計基準対処施設】 ✓ 使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設のプール水浄化系のプール水浄化系ポンプ ✓ 低レベル廃液処理設備の海洋放出系の海洋放出ポンプ ✓ MOX燃料加工施設の放射性廃棄物の廃棄施設の低レベル廃液処理設備及びその他の加工施設の分析済液処理装置のポンプ 【重大事故等対処設備】 該当無し	・製品製造，処理等の安全機能に 関係しない溶液移送等を行うポンプは安全機能に直接関係しないため対象外
	C	➤ 設計想定事象（自然現象，工場若しくは事業所内又はその周辺における核燃料施設の安全性を損なわせる原因となるおそれがある事象であって人為によるものを除く。），火災，溢水その他の核燃料施設の安全性を損なわせる原因となるおそれがある事象）において，安全上重要な施設，重大事故等対処施設，耐震重要施設等の機器等の機能喪失を防止するものとして，安全機能を有する施設（分類Aを除く）のうち，その他加工施設，その他再処理設備の附属施設，その他廃棄物管理設備の附属施設の火災防護設備，溢水防護設備，竜巻防護対策設備の他，各施設への必要なユーティリティを供給する電気設備，圧縮空気設備，給水処理設備，冷却水設備，蒸気供給設備，化学薬品貯蔵供給設備等のうち，以下に示すもの。		
		<支援機能：電源供給機能> ・安全機能を有する施設へ電源を供給する発電機へ燃料を供給するもの	【設計基準対処施設】 該当無し 【重大事故等対処設備】 該当無し	・再処理施設の電気設備の運転予備用廃棄物管理施設の予備電源用ディーゼル発電機は設置すること要求事項であり，非常用ディーゼル発電機のように具体的な対処に必要な期間を有する性能を要求しているものではないため対象外
	<支援機能：水供給機能> ・安全機能を有する施設へ水を供給するもの ・安全機能を有する施設へ冷却水を供給するもの	【設計基準対処施設】 該当無し 【重大事故等対処設備】 該当無し	・給水処理設備のろ過水貯槽，純水貯槽は各施設への水供給及び消火用水貯槽への水を補給するためのポンプはあるが安全機能に直接関係しないため対象外 ※水源多様化のためのろ過水供給はポンプを使用しない。 ・冷却水設備の一般冷却水系のう	

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き			
				ち、分類 A 以外の各建屋空調用、使用済燃料輸送容器管理建屋用、再処理設備本体用、運転予備用ディーゼル発電機用、再処理設備本体の運転予備負荷用の各施設への冷却水供給のために必要なポンプはあるが安全機能に直接関係しないため対象外
		<支援機能：蒸気供給機能> ・安全機能を有する施設へ蒸気（温水）を供給するもの	【設計基準対処施設】 該当無し 【重大事故等対処設備】 該当無し	・蒸気供給設備の一般蒸気系の還水、復水（凝縮水）、温水等を移送するポンプはあるが安全機能に直接関係しないため対象外
		<支援機能：化学薬品等供給機能> ・安全機能を有する施設へ化学薬品、窒素ガス、酸素ガスを供給するもの	【設計基準対処施設】 該当無し 【重大事故等対処設備】 該当無し	・化学薬品貯蔵供給設備の化学薬品貯蔵供給系、NO _x 製造設備、窒素ガス製造供給系、酸素ガス製造供給系の化学薬品を保有する貯槽、窒素ガス及び酸素ガスを保有する貯槽から各施設への化学薬品等供給するためのポンプはあるが安全機能に直接関係しないため対象外
(続き)		<支援機能：火災防護（消火）機能> ・火災区域を設定する安全機能を有する施設及び重大事故等対処施設の消火を行うための消火剤（水）を供給するもの	【設計基準対処施設】 ✓ 火災防護設備の消火水供給設備の消火用水貯槽、緊急時対策建屋の消火水供給設備の消火水槽から水を屋内／屋外消火栓設備等への水を供給するためのディーゼル駆動消火ポンプ、電動機駆動消火ポンプ 【重大事故等対処設備】 該当無し	・消火配管の系統内圧力を維持する圧力調整用消火ポンプは対象外。
		<支援機能：地下水位の維持機能> ・耐震重要施設等の建物・構築物の地下水位を維持するためのもの	【設計基準対処施設】 ✓ 耐震重要施設等に附属する地下水排水設備のポンプ 【重大事故等対処設備】 該当無し	・耐震重要施設等の建物・構築物の地下水位を維持するためのポンプは安全機能（設計基準事故又は重大事故等対処）に直接関係しないため対象外
➤ 他施設と共用する消火設備の消火剤（水）を供給するポンプの主登録先は再処理施設とする。				
(f)圧縮機⇒主たる機能は供給性能（容量（供給流量）、吐出圧力）				
分類	対象（考え方）	各施設における個別機器等の例	対象外の例	
A	➤ 設計基準における火災及び爆発防止機能、安全上重要な施設の機能を維持するために必要な支援機能を維持するための安全上重要な施設（常設）のうち、以下に示すもの。 ➤ 設計上の想定を超える条件で発生する臨界事故時における拡大防止、放射線分解による水素爆発防止、TBP等の錯体の急激な反応における火災及び爆発防止に対する重大事			

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き		
	故等への対処機能（溶液保持，冷却機能，放射性物質の異常な放出防止又は抑制機能，支援機能）を維持するための常設重大事故等対処設備及び可搬型重大事故等対処設備のうち，以下に示すもの。		
	<火災発生防止：水素掃気機能> ・安全上重要な施設へ圧縮空気（放射線分解により発生する水素の掃気に使用するもの）を供給するもの ・放射線分解により発生する水素爆発に対処するために必要な圧縮空気を供給するもの ・臨界事故による発生する放射線分解により発生する水素爆発に対処するために必要な圧縮空気を供給するもの	【設計基準対処施設】 ✓ その他再処理設備の附属施設の圧縮空気設備の安全圧縮空気系から放射線分解により発生する水素を掃気するための圧縮空気を供給する空気圧縮機 【重大事故等対処設備】 ✓ その他再処理設備の附属施設の代替安全圧縮空気系から圧縮空気を供給する可搬型空気圧縮機 ✓ 代替安全圧縮空気系の臨界事故時水素掃気系で設計基準対処施設と兼用する再処理設備本体用の一般圧縮空気系及び安全圧縮空気系の空気圧縮機	
	<支援機能：圧縮空気供給機能> ・安全上重要な施設へ圧縮空気（計測制御設備等に使用するもの）を供給するもの ・重大事故等へ対処するための設備に圧縮空気を供給するもの（代替安全圧縮空気系，臨界事故時水素掃気系以外に供給するもの）	【設計基準対処施設】 ✓ 安全上重要な施設の計測制御設備等へ計測用の圧縮空気を供給するその他再処理設備の附属施設の圧縮空気設備の安全圧縮空気系の空気圧縮機 【重大事故等対処設備】 ✓ 重大事故等へ対処するための設備で廃ガス貯留処理設備の空気圧縮機，主要弁，計装設備への計測用の圧縮空気を供給する設計基準対処施設と兼用する再処理設備本体用の一般圧縮空気系及び安全圧縮空気系の空気圧縮機	
	B 該当する個別機器等はない。		
	C 該当する個別機器等はない。		
<支援機能：圧縮空気供給機能> ・安全機能を有する施設へ圧縮空気を供給するもの	【設計基準対処施設】 該当無し 【重大事故等対処設備】 該当無し	・一般圧縮空気系の使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設用の空気圧縮機，運転予備用の負荷へ圧縮空気を供給する空気圧縮機は当該施設への圧縮空気供給のために必要な設備であるが安全機能に直接関係しないため対象外 ・一般圧縮空気系及び安全圧縮空気系の計測制御用の空気を製造するための除湿機は安全機能と直接関係しないことから対象外 ・圧縮空気設備以外で個別に設置する機械装置駆動用，発電機始動用等の空気圧縮機は安全機能に直接関係しないため対象外	
➤ 他施設と共用する圧縮機の主登録先は再処理施設とする。			

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き			
(g) ファン⇒主たる機能は廃棄・換気性能（容量（排気風量）、空気流入率）				
	分類	対象（考え方）	各施設における個別機器等の例	対象外の例
	A	<p>➤ 設計基準における臨界防止機能、閉じ込め機能、火災及び爆発防止機能、廃棄（浄化含む）機能、落下・転倒防止機能、安全上重要な施設の機能を維持するために必要な支援機能を維持するための安全上重要な施設（常設又は可搬型）のうち、以下に示すもの。</p> <p>➤ 設計上の想定を超える条件で発生する臨界事故時における拡大防止、放射線分解による水素爆発防止、冷却機能喪失による蒸発乾固防止に対する重大事故等への対処機能（溶液保持、冷却機能、放射性物質の異常な放出防止又は抑制機能、支援機能）を維持するための常設重大事故等対処設備及び可搬型重大事故等対処設備のうち、以下に示すもの。</p>		
		<p><閉じ込め：排気機能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・プルトニウム（低濃度のものを除く）を含む溶液又は粉末を保有するもの、高レベル放射性液体廃棄物（高レベル廃液、不溶解残渣廃液、抽出廃液等）を保有する系統及びこれら系統を収納するセル及びグローブボックスからの気体状の放射性廃棄物を大気中へ放出される放射性物質の抑制・低減を目的として排気するもの ・重大事故等により大気中へ放出される放射性物質の抑制・低減を目的として放射性気体廃棄物を排気するもの ・重大事故等で核燃料物質等を閉じ込める機能の回復として工程室からグローブボックス排気経路への気流を確保するもの 	<p>【設計基準対処施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設（気体）のせん断処理・溶解廃ガス処理設備、塔槽類廃ガス処理設備（前処理建屋塔槽類廃ガス処理設備、分離建屋塔槽類廃ガス処理設備（塔槽類廃ガス処理系、パルセータ廃ガス処理系）、精製建屋塔槽類廃ガス処理設備（塔槽類廃ガス処理系：プルトニウム系、パルセータ廃ガス処理系）、ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋塔槽類廃ガス処理設備、高レベル廃液ガラス固化建屋塔槽類廃ガス処理設備（不溶解残渣廃液廃ガス処理系、高レベル濃縮廃液廃ガス処理系）、高レベル廃液ガラス固化廃ガス処理設備の排風機 ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設（気体）の前処理建屋換気設備、分離建屋換気設備、精製建屋換気設備、ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋換気設備、高レベル廃液ガラス固化建屋換気設備のセル及びグローブボックスからの排気を行う排風機 ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設（気体）の前処理建屋換気設備、分離建屋換気設備、精製建屋換気設備、ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋換気設備、高レベル廃液ガラス固化建屋換気設備の汚染のおそれのある区域からの排気を行う排風機 ✓ MOX 燃料加工施設の放射性廃棄物の廃棄施設（気体）のグローブボックス排気設備の排風機、窒素循環設備の窒素循環ファン <p>【重大事故等対処設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 代替換気設備の代替セル排気系の可搬型排風機 ✓ MOX 燃料加工施設の放射性廃棄物の廃棄施設の代替グローブボックス排気設備の可搬型排風機付きフィルタユニット 	
	(続き)	<p><保管廃棄：崩壊熱除去機能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・プルトニウムを含む粉末を保有する貯蔵ピット等の冷却を行うもの 	<p>【設計基準対処施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設（気体）のウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋換気設備の貯蔵室の排気を行う排風機 <p>【重大事故等対処設備】</p> <p>該当無し</p>	
		<p><支援機能：居住性維持機能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計基準事故、重大事故等に対処する要員の居住性を確保するうえで必要なもの 	<p>【設計基準対処施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 計測制御系統施設の制御建屋中央制御室換気設備の送風機 <p>【重大事故等対処設備】</p>	<p>・制御室の居住性維持に排風機は関係しないため対象外？</p>

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き		
			<p>✓ 計測制御系統施設の代替制御建屋中央制御室換気設備，代替使用済燃料受入れ・貯蔵建屋制御室換気設備の可搬型送風機，設計基準対処施設と兼用する制御建屋中央制御室換気設備，使用済燃料受入れ・貯蔵建屋制御室換気設備の送風機</p> <p>✓ 緊急時対策所の緊急時対策建屋換気設備の送・排風機</p>
	B	<p>(1)安全機能を有する施設（分類Aを除く）のうち，核燃料物質等の廃棄（浄化含む）機能に係る放射性廃棄物の廃棄施設のうち，以下に示すもの</p> <p><廃棄・換気：排気機能></p> <p>・ウラン・プルトニウム（低濃度のものを）を含む溶液又は粉末を保有するもの，低レベル放射性廃棄物を保有する系統及びこれら系統を収納する室及びフード，収納管等からの気体状の放射性廃棄物を大気中へ放出される放射性物質の抑制・低減を目的として排気するもの</p>	<p>【設計基準対処施設】</p> <p>✓ 放射性廃棄物の廃棄施設（気体）の精製建屋塔槽類廃ガス処理設備（塔槽類廃ガス処理系：ウラン系），ウラン脱硝建屋塔槽類廃ガス処理設備，低レベル廃液処理建屋塔槽類廃ガス処理設備，低レベル廃棄物処理建屋塔槽類廃ガス処理設備（低レベル濃縮廃液廃ガス処理系，廃溶媒処理廃ガス処理系，雑固体廃棄物焼却処理廃ガス処理系，塔槽類廃ガス処理系），チャンネルボックス・バーナブルポイズン処理建屋塔槽類廃ガス処理設備，ハル・エンドピース貯蔵建屋塔槽類廃ガス処理設備，分析建屋塔槽類廃ガス処理設備），高レベル廃液ガラス固化廃ガス処理設備の排風機</p> <p>✓ 放射性廃棄物の廃棄施設（気体）の使用済燃料輸送容器管理建屋，使用済燃料受入れ・貯蔵建屋換気設備，ウラン脱硝建屋換気設備，ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋換気設備，高レベル廃液ガラス固化建屋換気設備，第1ガラス固化体貯蔵建屋換気設備，低レベル廃液処理建屋換気設備，低レベル廃棄物処理建屋換気設備，チャンネルボックス・バーナブルポイズン処理建屋換気設備，ハル・エンドピース貯蔵建屋換気設備，分析建屋換気設備，汚染のおそれのある区域の排気・換気を行う建屋排風機，フード等の排気・換気を行うフード排風機，ガラス固化体を収納する収納管の排気・換気を行う収納管排風機</p> <p>✓ MOX燃料加工施設の放射性廃棄物の廃棄施設（気体）の建屋排気設備，工程室排気設備の排風機</p> <p>【重大事故等対処設備】</p> <p>該当無し</p>
	C	<p>該当する個別機器等はない。</p>	<p>・廃棄・換気・崩壊熱除去機能に係らない換気・空調用の送風機は対象外</p>

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き			
<p>B. 主要弁 主配管に施設する弁のうち、「原子炉冷却材圧力バウンダリの隔離弁」、「原子炉非常停止信号又は工学的安全施設等起動(作動)信号により直接作動する自動操作弁(原子炉格納容器バウンダリの隔離弁を含む。)」及び「加圧水型発電用原子炉施設の主蒸気逃がし弁(設置許可基準規則第2条第2項第14号の重大事故等対処設備として最終的な熱の逃がし場へ輸送する設備として機能するもの)」をいう。</p>	(h) 主要弁⇒主たる機能は開閉性能(仕様表項目: 閉止時間)			
	分類	対象(考え方)	各施設における個別機器等の例	対象外の例
	A	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 設計基準における臨界防止機能, 閉じ込め機能, 火災及び爆発防止機能, 安全上重要な施設の機能を維持するために必要な支援機能を維持するための安全上重要な施設(常設)のうち, 以下に示すもの。 ▶ 設計上の想定を超える条件で発生する臨界事故時における拡大防止, 放射線分解による水素爆発防止, 冷却機能喪失による蒸発乾固防止, TBP等の錯体の急激な反応における火災及び爆発防止に対する重大事故等への対処機能(溶液保持, 冷却機能, 放射性物質の異常な放出防止又は抑制機能, 支援機能)を維持するための常設重大事故等対処設備のうち, 以下に示すもの。 		
	<p><プロセス量等の維持機能> <ソースターム制限機能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・火災, 爆発及び臨界防止, 閉じ込め等のために核的・熱的・化学的制限値等による安全保護動作を行う計測制御系統施設等からの自動操作信号により作動するもの ・重大事故等への対処のために必要な安全保護動作を行う計測制御系統施設等からの自動操作信号により作動するもの 	<p>【設計基準対処施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 計測制御系統施設(計測制御設備, 安全保護回路)及び警報設備等からの安全保護動作信号により作動する弁・ダンパ ・使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設のプール水冷却系及び補給水設備のプール水又は補給水の異常漏出防止を行う遮断弁 ・再処理設備本体の溶解設備の溶解槽の臨界事故の拡大を防止するための可溶性中性子吸収材緊急供給弁 ・再処理設備本体の分配設備のプルトニウム分配塔からプルトニウム洗浄器への有機溶媒の供給を停止する遮断弁, ウラン濃縮缶の加熱を停止するための遮断弁 ・再処理設備本体のプルトニウム精製設備の逆抽出塔の加熱用の温水供給を停止する遮断弁, プルトニウム濃縮缶の加熱を停止するための遮断弁 ・再処理設備本体の酸回収設備の第2酸回収系の蒸発缶の加熱を停止するための遮断弁 ・再処理設備本体のウラン脱硝設備の脱硝塔への硝酸ウラン濃縮液の供給を停止する遮断弁 ・再処理設備本体の, 蒸発缶等の加熱停止遮断弁, 流下停止系の冷却空気供給弁, 建屋給気閉止ダンパ, 固化セル隔離ダンパ, 硝酸ウラン濃縮液供給停止系の遮断弁, 還元ガス供給系の遮断弁, プール水又は冷却水の異常漏出防止を行う遮断弁, プルトニウム洗浄器停止系 ✓ MOX燃料加工施設のグローブボックス内の火災感知信号により作動する火災防護設備の延焼防止ダンパ及びピストンダンパ ✓ MOX燃料加工施設のその他の加工施設の水素・アルゴン混合ガス設備の水素・アルゴン混合ガス濃度異常遮断弁 <p>【重大事故等対処設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 計測制御系統施設(代替可溶性中性子吸収材緊急供給回路, 重大事故時可溶性中性子吸収材供給回路, 重大事故時供給停止回路)からの安全保護動作信号により作動する代替可溶性中性子吸収材緊急供給系, 重大事故時可溶性中性子吸収材供給系の可溶性中性子吸収材供給弁の他, プルトニウム濃縮缶供給槽ゲデオンを停止するための重大事故時供給液停止弁, 廃ガス貯留設備の隔離弁 		

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き															
<p>C. 安全弁及び逃がし弁 通常運転状態, 工学的安全施設の作動状態又は重大事故等対処設備の作動状態において, 容器又は主配管の過圧破損を防止するために設置する安全弁又は逃がし弁をいう。</p>		<p><閉じ込め：放出経路の維持機能> <閉じ込め：崩壊熱除去機能> ・計測制御系統施設等からの自動操作信号により作動する弁, ダンパ以外で, 設計基準事故への対処及び当該系統の安全機能を維持するために必要な主配管に設置する弁のうち, 安全評価上その機能, 性能 (バウンダリ含む) を期待しているもの ・計測制御系統施設等からの自動操作信号により作動する弁, ダンパ以外で, 重大事故等への対処のために必要な主配管に設置する弁のうち有効性評価上その機能, 性能 (バウンダリ含む) を期待しているもの</p>	<p>【設計基準対処施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 高レベル廃液ガラス固化設備の溶融ガラスの漏えい時における固化セル圧力放出系からの放出を行うために作動する逆止弁 ✓ プール水冷却系又は安全冷却水系の機能維持の観点から下位クラスとの接続部に設置され冷却水の異常な漏出を防止するために作動する逆止弁 ✓ 高レベル廃液処理設備の高レベル濃縮缶への加熱蒸気と冷却水の供給を切り替える切替弁 <p>【重大事故等対処設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 放射線分解により発生する水素の発生防止のために代替安全圧縮空気系の圧縮空気自動供給槽から所定の圧力又は流量で水素掃気用の空気を供給するために作動する減圧弁 													
	<p>B</p>	<p>➤ 設計基準における臨界防止機能, 閉じ込め機能, 火災及び爆発防止機能等を維持するための安全機能を有する施設 (常設) のうち, 以下に示すもの。 <プロセス量等の維持機能> ・核的・熱的・化学的制限値等による計測制御系統施設等からのインターロック動作信号により作動するもの</p>	<p>【設計基準対処施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 計測制御系統施設 (計測制御設備) 及び警報設備等からのインターロック動作信号により作動する弁・ダンパのうち以下のもの ・再処理設備本体の分離設備の溶解槽の臨界事故の拡大を防止するための可溶性中性子吸収材緊急供給弁 (抽出塔の停止系, 補助抽出器の停止系) <p>【重大事故等対処設備】</p> <p>該当無し</p>													
	<p>C</p>	<p>該当する個別機器等はない。</p>														
<p>(i) 安全弁及び逃がし弁⇒主たる機能は過圧防止性能 (仕様表項目：吹出圧力, 吹出量)</p>																
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">分類</th> <th style="width: 30%;">対象 (考え方)</th> <th style="width: 40%;">各施設における個別機器等の例</th> <th style="width: 20%;">対象外の例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="905 1281 1003 1554"> <p>A</p> </td> <td data-bbox="1003 1281 1567 1554"> <p>➤ 設計基準における閉じ込め機能, 火災及び爆発防止機能, 安全上重要な施設の機能を維持するために必要な支援機能を維持するための安全上重要な施設 (常設) のうち, 以下に示すもの。 ➤ 設計上の想定を超える条件で発生する臨界事故時における拡大防止, 放射線分解による水素爆発防止, 冷却機能喪失による蒸発乾固防止, TBP 等の錯体の急激な反応における火災及び爆発防止に対する重大事故等への対処機能 (溶液保持, 冷却機能, 放射性物質の異常な放出防止又は抑制機能, 支援機能) を維持するための常設重大事故等対処設備のうち, 以下に示すもの。</p> </td> <td data-bbox="1567 1281 2309 1554"></td> <td data-bbox="2309 1281 2689 1554"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="905 1554 1003 1911"></td> <td data-bbox="1003 1554 1567 1911"> <p>通常運転状態, 安全上重要な施設の作動状態又は重大事故等対処設備の作動状態において, 容器又は主配管の過圧破損を防止するために使用時に密閉過圧状態で使用される系統に設置する安全弁又は逃がし弁 <閉じ込め：放出経路の維持機能, 捕集・浄化機能> ・臨界事故又はTBP等の錯体の急激な反応による爆発が発生した際に, 当該機器から発生する放射性物質を含</p> </td> <td data-bbox="1567 1554 2309 1911"> <p>【設計基準対処施設】</p> <p>該当無し</p> <p>【重大事故等対処設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 重大事故時において放射線分解により発生する水素の発生防止のために代替安全圧縮空気系の圧縮空気自動供給槽等から水素掃気用の空気を供給する系統の容器又は主配管の過圧破損を防止するために設置する安全弁及び逃がし弁 ✓ 臨界事故時における拡大防止又はTBP等の錯体の急激な反応における火災 </td> <td data-bbox="2309 1554 2689 1911"> <p>過圧状態にならない系統に設置される安全弁及び逃がし弁は対象外 労安法に基づき設置している安全弁及び逃がし弁は対象外</p> </td> </tr> </tbody> </table>					分類	対象 (考え方)	各施設における個別機器等の例	対象外の例	<p>A</p>	<p>➤ 設計基準における閉じ込め機能, 火災及び爆発防止機能, 安全上重要な施設の機能を維持するために必要な支援機能を維持するための安全上重要な施設 (常設) のうち, 以下に示すもの。 ➤ 設計上の想定を超える条件で発生する臨界事故時における拡大防止, 放射線分解による水素爆発防止, 冷却機能喪失による蒸発乾固防止, TBP 等の錯体の急激な反応における火災及び爆発防止に対する重大事故等への対処機能 (溶液保持, 冷却機能, 放射性物質の異常な放出防止又は抑制機能, 支援機能) を維持するための常設重大事故等対処設備のうち, 以下に示すもの。</p>				<p>通常運転状態, 安全上重要な施設の作動状態又は重大事故等対処設備の作動状態において, 容器又は主配管の過圧破損を防止するために使用時に密閉過圧状態で使用される系統に設置する安全弁又は逃がし弁 <閉じ込め：放出経路の維持機能, 捕集・浄化機能> ・臨界事故又はTBP等の錯体の急激な反応による爆発が発生した際に, 当該機器から発生する放射性物質を含</p>	<p>【設計基準対処施設】</p> <p>該当無し</p> <p>【重大事故等対処設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 重大事故時において放射線分解により発生する水素の発生防止のために代替安全圧縮空気系の圧縮空気自動供給槽等から水素掃気用の空気を供給する系統の容器又は主配管の過圧破損を防止するために設置する安全弁及び逃がし弁 ✓ 臨界事故時における拡大防止又はTBP等の錯体の急激な反応における火災 	<p>過圧状態にならない系統に設置される安全弁及び逃がし弁は対象外 労安法に基づき設置している安全弁及び逃がし弁は対象外</p>
分類	対象 (考え方)	各施設における個別機器等の例	対象外の例													
<p>A</p>	<p>➤ 設計基準における閉じ込め機能, 火災及び爆発防止機能, 安全上重要な施設の機能を維持するために必要な支援機能を維持するための安全上重要な施設 (常設) のうち, 以下に示すもの。 ➤ 設計上の想定を超える条件で発生する臨界事故時における拡大防止, 放射線分解による水素爆発防止, 冷却機能喪失による蒸発乾固防止, TBP 等の錯体の急激な反応における火災及び爆発防止に対する重大事故等への対処機能 (溶液保持, 冷却機能, 放射性物質の異常な放出防止又は抑制機能, 支援機能) を維持するための常設重大事故等対処設備のうち, 以下に示すもの。</p>															
	<p>通常運転状態, 安全上重要な施設の作動状態又は重大事故等対処設備の作動状態において, 容器又は主配管の過圧破損を防止するために使用時に密閉過圧状態で使用される系統に設置する安全弁又は逃がし弁 <閉じ込め：放出経路の維持機能, 捕集・浄化機能> ・臨界事故又はTBP等の錯体の急激な反応による爆発が発生した際に, 当該機器から発生する放射性物質を含</p>	<p>【設計基準対処施設】</p> <p>該当無し</p> <p>【重大事故等対処設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 重大事故時において放射線分解により発生する水素の発生防止のために代替安全圧縮空気系の圧縮空気自動供給槽等から水素掃気用の空気を供給する系統の容器又は主配管の過圧破損を防止するために設置する安全弁及び逃がし弁 ✓ 臨界事故時における拡大防止又はTBP等の錯体の急激な反応における火災 	<p>過圧状態にならない系統に設置される安全弁及び逃がし弁は対象外 労安法に基づき設置している安全弁及び逃がし弁は対象外</p>													

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き							
<p>A. 主配管</p> <p>通常運転状態, 工学的安全施設の作動状態又は重大事故等時においてその配管が属する系統に求める主たる機能を果たすために本流が流れる配管をいう。使用済樹脂移送配管のように, 流体が常時流れないものも含むこととする。</p> <p>ただし, 放射線管理施設の換気設備においては, 事故時において公衆並びに中央制御室, 緊急時制御室及び緊急時対策所の従事者等の放射線障害の防止の機能として必要なもので他の設備に属さないものとする。</p> <p>本流が流れる箇所の管継手も主配管とし, 要目表に記載する必要があるが, クラス3管, 重大事故等クラス3管又は発電用火力設備に関する技術基準を定める省令(平成9年通商産業省令第51号。以下「火力省令」という。)を準用する管に接続する管継手であって, JIS規格若しくは設計・建設規格に適合し, 管と同等以上の肉厚を有するもの又はそれらと同等の保安水準の確保が達成できるものにあつては, 要目表への記載を必要としないこととする。</p> <p>また, クラス1管, クラス2管, 重大事故等クラス1管又は重大事故等クラス2管であつて, 母管から分岐する主配管に接続するための管台については, 要目表に明記することとする。</p> <p>テストライン, ミニマムフローライン, バイパスライン(沸騰水型発電用原子炉施設に係るタービンバイパスラインは除く。), 循環ライン(容器の攪拌を目的とするライン), ドレンライン, ベントライン及び計装ラインは主たる機能を果たすために本流が流れる配管ではな</p>	<p>む廃ガスを貯留し, 大気中へ放出される放射性物質を低減するためのもの</p>	<p>及び爆発の拡大防止として代替換気設備の廃ガス貯留設備において発生した廃ガスを貯留する容器及び主配管の過圧破損を防止するための安全弁及び逃がし弁</p>						
	B	該当する個別機器等はない。						
	C	該当する個別機器等はない。						
(j) 主配管⇒主たる機能は経路維持性能(仕様表項目: 最高使用温度, 最高使用圧力)								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="914 596 1032 638">分類</th> <th data-bbox="1032 596 1792 638">対象(考え方)</th> <th data-bbox="1792 596 2694 638">対象外の例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="914 638 1032 1125">共通</td> <td data-bbox="1032 638 1792 1125"> <ul style="list-style-type: none"> ・通常運転状態, 安全上重要な施設の作動状態又は重大事故時等において, その配管が属する系統に求める主たる機能を果たすために本流が流れる常設又は可搬型の配管(減衰器含む), ダクト, ホースとする。液体状の放射性廃棄物の移送配管のように, 流体が常時流れないものも含むこととする。 ・計測制御系統施設及びその他再処理設備の附属施設等の制御室換気設備, 緊急時対策建屋の換気設備においては, 設計基準事故及び重大事故等時において公衆並びに使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の制御室, 中央制御室及び緊急時対策所の従事者等の放射線障害の防止の機能として必要なもので, 気体状の放射性物質を含む気体廃棄物の廃棄施設の換気設備に属さない換気設備の常設又は可搬型のダクトとする。 </td> <td data-bbox="1792 638 2694 1125"> <ul style="list-style-type: none"> ・各設備の保守を行う際に使用するテストライン, 主配管へ流体を流す際に一部エア抜き等のための流体が流れるミニマムフローライン, 非定常の流体の移送及び機器等の保守を行う際に流体を流すバイパスライン, 容器の攪拌を目的とする循環ライン, 保守時において主配管中の流体を排出するためにドレンライン, ベントライン, 計測用空気が流れる計装ライン(放射線監視設備のモニタリング設備の計測ライン含む), 流体が容器に過剰供給された際に連結されている容器へ流体を流すための非定常オーバーフローライン, 溶液の液性状を調整するための試薬等を供給する試薬・水・蒸気供給ライン(崩壊熱除去機能に係るものを除く), 溶液の分析溶液を採取するための分析採取ライン, 一般ユーティリティ設備であつて当該流体の供給が安全機能維持及び重大事故等の対処に関係しない機器等へ供給する配管は, 主たる機能を果たすために本流が流れる配管ではないため対象外 ・閉じ込め(廃棄, 換気等)又は居住性維持に関係しない換気設備のダクトは対象外 </td> </tr> </tbody> </table>	分類	対象(考え方)	対象外の例	共通	<ul style="list-style-type: none"> ・通常運転状態, 安全上重要な施設の作動状態又は重大事故時等において, その配管が属する系統に求める主たる機能を果たすために本流が流れる常設又は可搬型の配管(減衰器含む), ダクト, ホースとする。液体状の放射性廃棄物の移送配管のように, 流体が常時流れないものも含むこととする。 ・計測制御系統施設及びその他再処理設備の附属施設等の制御室換気設備, 緊急時対策建屋の換気設備においては, 設計基準事故及び重大事故等時において公衆並びに使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の制御室, 中央制御室及び緊急時対策所の従事者等の放射線障害の防止の機能として必要なもので, 気体状の放射性物質を含む気体廃棄物の廃棄施設の換気設備に属さない換気設備の常設又は可搬型のダクトとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各設備の保守を行う際に使用するテストライン, 主配管へ流体を流す際に一部エア抜き等のための流体が流れるミニマムフローライン, 非定常の流体の移送及び機器等の保守を行う際に流体を流すバイパスライン, 容器の攪拌を目的とする循環ライン, 保守時において主配管中の流体を排出するためにドレンライン, ベントライン, 計測用空気が流れる計装ライン(放射線監視設備のモニタリング設備の計測ライン含む), 流体が容器に過剰供給された際に連結されている容器へ流体を流すための非定常オーバーフローライン, 溶液の液性状を調整するための試薬等を供給する試薬・水・蒸気供給ライン(崩壊熱除去機能に係るものを除く), 溶液の分析溶液を採取するための分析採取ライン, 一般ユーティリティ設備であつて当該流体の供給が安全機能維持及び重大事故等の対処に関係しない機器等へ供給する配管は, 主たる機能を果たすために本流が流れる配管ではないため対象外 ・閉じ込め(廃棄, 換気等)又は居住性維持に関係しない換気設備のダクトは対象外 	<p>管継手及び管台については, 原則として, JIS規格品又はJIS規格相当品の場合は, 仕様表への記載を必要としないこととし, 特殊な異材継手等の管継手及び管台については, 仕様表へ記載し, 系統図において必要な仕様(外径, 厚さ及び材料等)を記載することとする。(管継手の扱いについては, 別添3を参照。)</p> <p>主配管からの分岐部は, 主配管の管台として必要に応じて評価対象となる。評価対象で必要となる管台の仕様は, 添付書類(強度及び耐食性に関する説明書, 系統図)で外径, 厚さ及び材料等を記載する。</p>
分類	対象(考え方)	対象外の例						
共通	<ul style="list-style-type: none"> ・通常運転状態, 安全上重要な施設の作動状態又は重大事故時等において, その配管が属する系統に求める主たる機能を果たすために本流が流れる常設又は可搬型の配管(減衰器含む), ダクト, ホースとする。液体状の放射性廃棄物の移送配管のように, 流体が常時流れないものも含むこととする。 ・計測制御系統施設及びその他再処理設備の附属施設等の制御室換気設備, 緊急時対策建屋の換気設備においては, 設計基準事故及び重大事故等時において公衆並びに使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の制御室, 中央制御室及び緊急時対策所の従事者等の放射線障害の防止の機能として必要なもので, 気体状の放射性物質を含む気体廃棄物の廃棄施設の換気設備に属さない換気設備の常設又は可搬型のダクトとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各設備の保守を行う際に使用するテストライン, 主配管へ流体を流す際に一部エア抜き等のための流体が流れるミニマムフローライン, 非定常の流体の移送及び機器等の保守を行う際に流体を流すバイパスライン, 容器の攪拌を目的とする循環ライン, 保守時において主配管中の流体を排出するためにドレンライン, ベントライン, 計測用空気が流れる計装ライン(放射線監視設備のモニタリング設備の計測ライン含む), 流体が容器に過剰供給された際に連結されている容器へ流体を流すための非定常オーバーフローライン, 溶液の液性状を調整するための試薬等を供給する試薬・水・蒸気供給ライン(崩壊熱除去機能に係るものを除く), 溶液の分析溶液を採取するための分析採取ライン, 一般ユーティリティ設備であつて当該流体の供給が安全機能維持及び重大事故等の対処に関係しない機器等へ供給する配管は, 主たる機能を果たすために本流が流れる配管ではないため対象外 ・閉じ込め(廃棄, 換気等)又は居住性維持に関係しない換気設備のダクトは対象外 						

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き			
<p>いため主配管にはならないが、主配管からの分岐部は主配管の管台として必要に応じて評価対象となるほか、系統図において必要な仕様（外径、厚さ及び材料等）を記載することとする。</p> <p>D. フィルター</p> <p>規則別表第2において「公衆の放射線障害の防止を目的として設置するものに限る。」又は「従事者等の放射線防護を目的として設置するものに限る。」とされており、気体状の放射性よう素を除去するよう素（チャコール）フィルター及び放射性微粒子を除去する微粒子（高性能粒子）フィルターを記載する必要がある。</p> <p>「公衆の放射線障害の防止を目的として設置するもの」としては、環境へ排気することを想定した系統（循環運転が基本であっても排気筒等へ接続する排気系統を有するものを含む。）で、放射性物質の放出を抑制、低減、又は除去するために設置するものとする。ただし、「従事者等の放射線防護を目的として設置するもの」として給気側に設置するものは「公衆の放射線障害の防止を目的として設置するもの」には含めない。</p>	(k) フィルタ⇒主たる機能は浄化性能（仕様表項目：除去効率）			
	分類	対象（考え方）	各施設における個別機器等の例	対象外の例
	A	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 設計基準における閉じ込め機能、火災及び爆発防止機能、安全上重要な施設の機能を維持するために必要な支援機能を維持するための安全上重要な施設（常設）のうち、通常運転時、設計基準事故時において「公衆の放射線障害の防止（環境への放射性物質の放出量を合理的に達成できる限り低くすること）を目的として設置するもの」として以下に示すもの。 ➤ 設計上の想定を超える条件で発生する臨界事故時における拡大防止、放射線分解による水素爆発防止、冷却機能喪失による蒸発乾固防止、TBP等の錯体の急激な反応における火災及び爆発防止に対する重大事故等への対処機能（溶液保持、冷却機能、放射性物質の異常な放出防止又は抑制機能、支援機能）を維持するための常設重大事故等対処設備及び可搬型重大事故等対処設備のうち、「公衆の放射線障害の防止（環境への放射性物質の放出量を合理的に達成できる限り低くすること）を目的として設置するもの」として以下に示すもの。 <p><閉じ込め：捕集・浄化機能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・プルトニウム（低濃度のものを除く）を含む溶液又は粉末を保有するもの、高レベル放射性液体廃棄物（高レベル廃液、不溶解残渣廃液、抽出廃液等）を保有する系統及びこれら系統を収納するセル及びグローブボックスからの気体状の放射性廃棄物を大気中へ放出される放射性物質の抑制・低減を目的として気体状の放射性よう素、放射性微粒子を除去するもの ・重大事故等により大気中へ放出される放射性物質の抑制・低減を目的として気体状の放射性微粒子を除去するもの ・重大事故等における核燃料物質等を閉じ込める機能の回復として工程室からグローブボックス排気経路への気流を確保するもの 	<p>【設計基準対処施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設（気体）のせん断処理・溶解廃ガス処理設備のよう素フィルタ、高性能粒子フィルタ ✓ 塔槽類廃ガス処理設備（前処理建屋塔槽類廃ガス処理設備、分離建屋塔槽類廃ガス処理設備（塔槽類廃ガス処理系、パルセータ廃ガス処理系）、精製建屋塔槽類廃ガス処理設備（塔槽類廃ガス処理系：プルトニウム系、パルセータ廃ガス処理系）、ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋塔槽類廃ガス処理設備、高レベル廃液ガラス固化建屋塔槽類廃ガス処理設備（不溶解残渣廃液廃ガス処理系、高レベル濃縮廃液廃ガス処理系）、高レベル廃液ガラス固化廃ガス処理設備の高性能粒子フィルタ ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設（気体）の前処理建屋換気設備、分離建屋換気設備、精製建屋換気設備、ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋換気設備、高レベル廃液ガラス固化建屋換気設備のセル及びグローブボックスからの排気を行う換気設備のグローブボックス・セル排気フィルタユニットの高性能粒子フィルタ ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設（気体）の前処理建屋換気設備、分離建屋換気設備、精製建屋換気設備、ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋換気設備、高レベル廃液ガラス固化建屋換気設備の汚染のおそれのある区域からの排気を行う換気設備の建屋排気フィルタユニットの高性能粒子フィルタ ✓ MOX燃料加工施設のグローブボックス排気設備の排気フィルタユニット、給気フィルタ及び排気フィルタ並びに工程室排気設備の排気フィルタユニットの高性能エアフィルタ <p>【重大事故等対処設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 代替換気設備のセル導出設備のセル導出ユニットフィルタ、代替セル排気 	放射性よう素、放射性微粒子の除去効率に関係しないミストフィルタ等は対象外

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き			
		<p>系の可搬型フィルタ，設計基準対処施設と兼用するせん断処理・溶解廃ガス処理設備，精製建屋塔槽類廃ガス処理設備（塔槽類廃ガス処理系：プルトニウム系），精製建屋換気設備のセル排気フィルタユニットの高性能粒子フィルタ</p> <p>✓ MOX 燃料加工施設の代替グローブボックス排気設備の可搬型フィルタユニット</p>		
	<p><支援機能：居住性維持機能></p> <p>・設計基準事故，重大事故等に対処する要員の居住性を確保するうえで放射性微粒子を除去するもの必要なもの</p>	<p>【設計基準対処施設】</p> <p>✓ 計測制御系統施設の制御建屋中央制御室換気設備の中央制御室フィルタユニットの高性能粒子フィルタ</p> <p>【重大事故等対処設備】</p> <p>✓ 計測制御系統施設の代替制御建屋中央制御室換気設備，代替使用済燃料受入れ・貯蔵建屋制御室換気設備の設計基準対処施設と兼用する中央制御室フィルタユニット及び制御室フィルタユニットの高性能粒子フィルタ</p> <p>✓ 緊急時対策所の緊急時対策建屋換気設備の緊急時対策建屋フィルタユニットの高性能粒子フィルタ</p>		
	<p>B</p>	<p>(1)通常運転時において核燃料物質等の廃棄（浄化含む）機能に係る放射性廃棄物の廃棄施設から「公衆の放射線障害の防止（環境への放射性物質の放出量を合理的に達成できる限り低くすること）を目的として設置するもの」のうち，以下に示すもの</p>		
		<p><廃棄：捕集・浄化機能></p> <p>・ウラン・プルトニウム（低濃度のものを）を含む溶液又は粉末を保有するもの，低レベル放射性廃棄物を保有する系統及びこれら系統を収納する室及びフード，収納管等からの気体状の放射性廃棄物を大気中へ放出される放射性物質の抑制・低減を目的として気体状の放射性よう素，放射性微粒子を除去するもの</p>	<p>【設計基準対処施設】</p> <p>✓ 放射性廃棄物の廃棄施設（気体）の前処理建屋塔槽類廃ガス処理設備，分離建屋塔槽類廃ガス処理設備（塔槽類廃ガス処理系），精製建屋塔槽類廃ガス処理設備（塔槽類廃ガス処理系：プルトニウム系），ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋塔槽類廃ガス処理設備，高レベル廃液ガラス固化建屋塔槽類廃ガス処理設備（不溶解残渣廃液廃ガス処理系，高レベル濃縮廃液廃ガス処理系）高レベル廃液ガラス固化廃ガス処理設備のよう素フィルタ</p> <p>✓ 精製建屋塔槽類廃ガス処理設備（塔槽類廃ガス処理系：ウラン系），ウラン脱硝建屋塔槽類廃ガス処理設備，低レベル廃液処理建屋塔槽類廃ガス処理設備，低レベル廃棄物処理建屋塔槽類廃ガス処理設備（低レベル濃縮廃液廃ガス処理系，廃溶媒処理廃ガス処理系，雑固体廃棄物焼却処理廃ガス処理系，塔槽類廃ガス処理系），チャンネルボックス・バーナブルポイズン処理建屋塔槽類廃ガス処理設備，ハル・エンドピース貯蔵建屋塔槽類廃ガス処理設備，分析建屋塔槽類廃ガス処理設備の高性能粒子フィルタ</p> <p>✓ 放射性廃棄物の廃棄施設（気体）の使用済燃料輸送容器管理建屋，使用済燃料受入れ・貯蔵建屋換気設備，ウラン脱硝建屋換気設備，ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋換気設備，高レベル廃液ガラス固化建屋換気設備，第1ガラス固化体貯蔵建屋換気設備，低レベル廃液処理建屋換気設備，低レベル廃棄物処理建屋換気設備，チャンネルボックス・バーナブルポイズン処理建屋換気設備，ハル・エンドピース貯蔵建屋換気設備，分析建屋換気設備，汚染のおそれのある区域の排気・換気を行う建屋排風機，</p>	<p>放射性よう素，放射性微粒子の除去効率に関係しないよう素フィルタ，ミストフィルタ，セラミックフィルタ等，放射性物質を含まない建屋（制御室，緊急時対策所を除く）の換気・空調用のフィルタは対象外</p>

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き		
E. 原子炉冷却材圧力バウンダリ及び原子炉格納容器バウンダリ 原子炉冷却材圧力バウンダリについては技術基準規則に定めるものとし、原子炉格納容器バウンダリについては、原子炉冷却材圧力バウンダリ、原子炉格納容器バウンダリの範囲を定める規程（JEAG4602-2004 日本電気協会）に定めるものをいう。			フード等の排気・換気を行うフード排風機、ガラス固化体を収納する収納管からの排気を行うフィルタユニットの高性能粒子フィルタ ✓ MOX 燃料加工施設の放射性廃棄物の廃棄施設（気体）の建屋排気設備の排気フィルタユニット及びグローブボックス排気設備の非安重グローブボックスの給排気に設置する給気フィルタ及び排気フィルタの高性能粒子フィルタ 【重大事故等対処設備】 該当無し
	C	該当する個別機器等はない。	
	該当無し		
(1) 建物・構築物⇒主たる機能は支持性能（閉じ込め、閉じ込め支援）			
(1-1) 建物・構築物			
分類	対象（考え方）	各施設における個別機器等の例	対象外の例
共通	<閉じ込め機能、閉じ込め支援機能> ・閉じ込め機能を維持するため、放射性物質等を内包し、汚染等の発生が想定される建物・構築物 ・施設の閉じ込め機能を支援するため、放射性物質等を内包しないが設計基準事故及び重大事故等の対処のために必要な設備を収納する建物・構築物	✓ 使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の使用済燃料輸送容器管理建屋、使用済燃料受入れ・貯蔵建屋 ✓ 再処理設備本体の前処理建屋、分離建屋、精製建屋、ウラン脱硝建屋、ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋 ✓ 放射性廃棄物の受入施設のガラス固化体受入れ建屋 ✓ 廃棄物管理設備本体のガラス固化体貯蔵建屋、ガラス固化体貯蔵建屋 B 棟 ✓ 加工設備本体の燃料加工建屋、貯蔵容器搬送用洞道 ✓ 製品貯蔵施設のウラン酸化物貯蔵建屋、ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋 ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設の高レベル廃液ガラス固化建屋、使用済燃料受入れ・貯蔵管理建屋、低レベル廃液処理建屋、低レベル廃棄物貯蔵建屋、第 1 ガラス固化体貯蔵建屋、チャンネルボックス・バーナブルポイズン処理建屋、ハル・エンドピース貯蔵建屋、第 1 低レベル廃棄物貯蔵建屋、第 2 低レベル廃棄物貯蔵建屋、第 4 低レベル廃棄物貯蔵建屋、放射性物質を内包する洞道等 ✓ 計測制御系統施設の制御建屋 ✓ 放射線管理施設の主排気筒管理建屋、北換気筒管理建屋	・放射性物質等を内包しないボイラ建屋、ユーティリティ建屋の耐震 C クラスの建物・構築物 ・事務建屋、体育館等の安全機能を有する施設を設置しない建物・構築物

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き			
		✓ その他再処理設備の附属施設の非常用電源建屋，分析建屋，出入管理建屋，第1保管庫・貯水所，第2保管庫・貯水所，緊急時対策建屋，放射性物質等を内包しない洞道		
> 他施設と共用する貯蔵容器搬送用洞道の主登録は燃料加工施設とする。 > 主排気筒，冷却塔等の屋外構築物，電気設備の燃料油貯蔵タンク等の地下埋設物のような耐震重要施設の支持性能に係る仕様項目（基礎関連）は，容器，熱交換器側の仕様表に纏めて記載する。				
(1-2)火災区域構築物，施設外漏えい堰，保管・廃棄エリア⇒主たる機能は閉じ込め支援のための支持性能（仕様表項目：寸法（厚さ，高さ，幅））				
分類	対象（考え方）	各施設における個別機器等の例	対象外の例	
A	該当する個別機器等はない。			
B	(1) 安全機能を有する施設（分類Aを除く）のうち，核燃料物質等の閉じ込め，廃棄・保管機能に係る放射性廃棄物の廃棄施設のうち，以下に示すもの			
	<火災防止機能> ・火災防護の観点から火災区域を設定する安全上重要な施設及び貯蔵閉じ込め，重大事故等対処設備を収納するもの <閉じ込め：施設外への漏えい防止機能> ・液体状の放射性物質等を施設外へ漏えいすることを防止するもの <閉じ込め：保管・廃棄機能> ・使用済燃料輸送容器（実入り），核燃料物質等を一時保管するためのエリア ・ウラン酸化物粉末を貯蔵するためのエリア ・低レベル放射性固体廃棄物を貯蔵するための保管エリア	【設計基準対処施設】 ✓ その他再処理設備の附属施設，その他廃棄物管理設備の附属施設，その他加工施設の火災防護設備の火災区域（区画）構築物 ✓ 液体状の放射性物質等を内包する建物に設置する施設外漏えい防止堰 ✓ 使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の使用済燃料輸送容器受入れ・保管設備の使用済燃料収納使用済燃料輸送容器保管庫 ✓ 製品貯蔵施設のウラン酸化物貯蔵設備の貯蔵バスケット貯蔵エリア ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設（固体）の低レベル固体廃棄物貯蔵設備の第1低レベル廃棄物貯蔵系，使用済燃料受入れ・貯蔵建屋低レベル廃棄物貯蔵系，第2低レベル廃棄物貯蔵系，第4低レベル廃棄物貯蔵系の保管エリア ✓ MOX燃料加工施設の核燃料物質の貯蔵施設のウラン貯蔵エリア，燃料棒受入一時保管エリア，燃料集合体輸送容器一時保管エリア，ウラン輸送容器一時保管エリア ✓ MOX燃料加工施設の放射性廃棄物の廃棄施設の廃油保管エリア，廃棄物保管エリア	・空の使用済燃料輸送容器を保管するための空使用済燃料輸送容器保管庫，空の核燃料物質又は低レベル固体廃棄物を封入するための容器等を保管するエリアは対象外	
C	該当する個別機器等はない。			
> 他施設と共用する第2低レベル廃棄物貯蔵系の保管エリアの主登録は再処理施設とする。				
(m)排気筒				
分類	対象（考え方）	各施設における個別機器等の例	対象外の例	
A	> 設計基準における閉じ込め機能を維持するための安全上重要な施設（常設）のうち，通常運転時，設計基準事故時において「公衆の放射線障害の防止（環境への放射性物質の放出量を合理的に達成できる限り低くすること）を目的として設置するもの」として以下に示すもの。 > 設計上の想定を超える条件で発生する放射線分解による水素爆発防止，冷却機能喪失による蒸発乾固防止に対する重大事故等への対処機能（溶液保持，冷却機能，放射性物質の異常な放出防止又は抑制機能，支援機能）を維持するための常設重大事故等対処設備のうち，「公衆の放射線障害の防止（環境への放射性物質の放出量を合理的に達成できる限り低くすること）を目的として設置するもの」として以下に示すもの。			
	<閉じ込め：放出経路の維持機能>	【設計基準対処施設】	北換気筒，低レベル廃棄筒，MOX	

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き		
	・通常運転時、設計基準事故時及び重大事故等時に おいて「公衆の放射線障害の防止（環境への放射性 物質の放出量を合理的に達成できる限り低くするこ と）を目的として設置するもの」として、環境へ排 気（廃棄）することを想定した排気筒	✓ 気体廃棄物の廃棄施設の主排気筒 【重大事故等対処設備】 ✓ 設計基準対処施設と兼用する主排気筒	加工施設の排気筒は事故時、平常 時においても吹き上げ高さを期待 していないことから対象外
B	該当する個別機器等はない。		
C	該当する個別機器等はない。		
➤ 排気筒内に設置される各筒身の仕様項目及び支持性能に係る仕様項目（基礎関連）は排気筒の仕様項目として纏めて記載する。 ➤ 他施設と共用する北換気筒（鉄塔）の主登録は廃棄物管理施設とする。			
(n) 飛来物防護設備⇒主たる機能は飛来物防護性能（仕様表項目：材料、寸法（厚さ、メッシュ寸法等））			
分類	対象（考え方）	各施設における個別機器等の例	対象外の例
A	該当する個別機器等はない。		
B	該当する個別機器等はない。		
C	➤ 設計想定事象（自然現象、工場若しくは事業所内又はその周辺における核燃料施設の安全性を損なわせる原因となるおそれがある事象であって人為によるもの（故意によるものを除く。）、火災、溢水その他の核燃料施設の安全性を損なわせる原因となるおそれがある事象）において、安全上重要な施設、重大事故等対処施設、耐震重要施設等の機器等の機能喪失を防止するものとして、安全機能を有する施設（分類Aを除く）のうち、その他加工施設、その他再処理設備の附属施設、その他廃棄物管理設備の附属施設の火災防護設備、溢水防護設備、竜巻防護対策設備の他、各施設への必要なユーティリティを供給する電気設備、圧縮空気設備、給水処理設備、冷却水設備、蒸気供給設備、化学薬品貯蔵供給設備等のうち、以下に示すもの。 <支援機能：飛来物防護機能> ・外部衝撃（竜巻等）において想定する設計飛来物からの安全上重要な施設の安全機能及び重大事故等対処設備の機能を確保するためのもの		
	【設計基準対処施設】 ・その他再処理設備の附属施設の竜巻防護対策設備の飛来物防護ネット、飛来物防護板 ・建物・構築物に附属する航空機が衝突した場合に安全機能を防護するために設置する防護扉等		
➤ 飛来物防護ネット及び飛来物防護板の仕様項目及び支持性能に係る仕様項目（基礎関連）は纏めて記載する。 ➤ 防護扉は遮蔽設備（補助遮蔽）と対象が同じである場合に遮蔽設備の仕様項目にて纏めて記載する。			
(o) ラック／ピット／棚⇒主たる機能は閉じ込め、臨界防止等に係る保持・支持性能（仕様表項目：材料、寸法（面間寸法等））			
分類	対象（考え方）	各施設における個別機器等の例	対象外の例
A	➤ 設計基準における閉じ込め機能、安全上重要な施設の機能を維持するために必要な支援機能を維持するための安全上重要な施設（常設）のうち、以下に示すもの。 ➤ 使用済燃料貯蔵槽の冷却機能喪失に対する重大事故等への対処機能（冷却機能、臨界防止機能、放射性物質の異常な放出防止又は抑制機能）を維持するための常設重大事故等対処設備のうち、以下に示すもの。		
	<臨界防止機能> ・使用済燃料又は MOX 粉末を保管するもので単一ユニット及び複数ユニットにおいて核的制限値を設定するもの ・使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための重大事故等へ	【設計基準対処施設】 ✓ 使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の使用済燃料受入れ設備の燃料取出し設備の燃焼度計測前後の燃料仮置きラック、燃料貯蔵設備の低残留濃縮度及び高残留濃縮度の使用済燃料を貯蔵する燃料貯蔵ラック ✓ 製品貯蔵施設のウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵設備の貯蔵ホール	

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き		
	の対処のうち、臨界防止を行うための使用済燃料の仮置き、貯蔵を行うためのもの	✓ MOX 燃料加工施設の核燃料物質の貯蔵施設の一時保管ピット、原料 MOX 粉末缶一時保管装置、粉末一時保管装置、ペレット一時保管棚、スクラップ貯蔵棚、製品ペレット貯蔵棚、燃料棒貯蔵棚、燃料集合体貯蔵チャンネル 【重大事故等対処設備】 ✓ 設計基準対処施設と兼用する使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の使用済燃料受入れ設備の燃料取出し設備の燃焼度計測前後の燃料仮置きラック、燃料貯蔵設備の低残留濃縮度及び高残留濃縮度の使用済燃料を貯蔵する燃料貯蔵ラック	
	<閉じ込め：落下・転倒防止機能> ・キャスクから取り出した使用済燃料の運搬において一時的に使用済燃料集合体を収納するもの	【設計基準対処施設】 ✓ 使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の使用済燃料貯蔵設備の燃料送し設備のバスケット仮置き架台（実入り用／空用）	
	<閉じ込め：保管・崩壊熱除去機能> ・ガラス固化体の保管を行うもの ・ガラス固化体の崩壊熱除去を行うもの	【設計基準対処施設】 ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設（固体）のガラス固化体貯蔵設備の高レベル廃液ガラス固化建屋及び第 1 ガラス固化体貯蔵建屋に設置する貯蔵ピット（収納管及び通風管含む） ✓ 廃棄物管理設備本体のガラス固化体貯蔵設備のガラス固化体貯蔵建屋及びガラス固化体貯蔵建屋 B 棟に設置する貯蔵ピット（収納管及び通風管含む） ✓ ガラス固化体を保管する貯蔵ピットを冷却するための冷却空気出口シャフト	空容器を収納するラックは対象外。
	B 安全機能を有する施設（分類 A を除く）のうち、核燃料物質等の閉じ込め、保管・廃棄機能に係る放射性廃棄物の廃棄施設のうち、以下に示すもの		
	<閉じ込め：落下・転倒防止機能> ・高レベル固体廃棄物（ガラス固化体）の一時保管を行うもの。	【設計基準対処施設】 ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設の高レベル廃液ガラス固化設備、ガラス固化体貯蔵設備でガラス固化体を一時的に保管するガラス固化体仮置き架台 ✓ 廃棄物管理設備本体のガラス固化体受入れ設備、ガラス固化体貯蔵設備においてガラス固化体を一時的に保管するガラス固化体仮置き架台	・人による復旧が可能なウラン粉末等、低レベル固体廃棄物の一時保管を行うものは対象外
	・ウラン粉末の一時保管を行うもの。	✓ MOX 燃料加工施設の核燃料物質の貯蔵施設のウラン貯蔵棚	
	C 該当する個別機器等はない。		
➤ ガラス固化体貯蔵ピットは、収納管での保管に係る仕様項目の他、崩壊熱除去に係る仕様項目（収納管及び通風管の隙間寸法）、冷却空気出口シャフト（建物）の高さ等を纏めて記載する。			
(p) 防水区画構造物⇒主たる機能は水等の侵入防止（溢水防護）性能（仕様表項目：材料、寸法（高さ、隙間等））			
分類	対象（考え方）	各施設における個別機器等の例	対象外の例
A	該当する個別機器等はない。		
B	該当する個別機器等はない。		
C	➤ 設計想定事象（自然現象、工場若しくは事業所内又はその周辺における核燃料施設の安全性を損なわせる原因となるおそれがある事象であって人為によるものを除く。）、火災、溢水その他の核燃料施設の安全性を損なわせる原因となるおそれがある事象）において、安全上重要な施設、重大事故等対処施設、耐震重要施設等の機器等の機能喪失を防止するものとして、安全機能を有する施設（分類 A を除く）のうち、その他加工施設、その他再処理設備の附属施設、その他廃棄物管理設備の附属施設の火災防護設備、溢水防護設備、竜巻防護対策設備の他、各施設への必要なユーティリティを供給する電気設備、圧縮空気設備、給水処理設備、冷却水設備、蒸気供給設		

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き															
	<p>備, 化学薬品貯蔵供給設備等のうち, 以下に示すもの。</p> <p><支援機能：溢水, 薬品漏えい防止></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水又は化学薬品を溢水（化学薬品）防護区画へ侵入させないためのもの ・管理区域内で漏えいした水（薬品）を管理区域外へ流入させないためのもの ・使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための重大事故等への対処へのプール水による悪影響防止するためのもの 	<p>【設計基準対処施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ その他再処理設備の附属施設, その他加工施設の溢水防護設備の堰, 防水扉, 水密扉, 止水板及び蓋 ➤ その他再処理設備の附属施設の化学薬品防護設備の堰, 防水扉, 水密扉 <p>【重大事故等対処設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 設計基準対処施設と兼用するその他再処理設備の附属施設止水板及び蓋 														
	<p>➤ 蒸気拡散を抑制するためのターミナルエンド防護カバーを設置する必要がある場合は仕様表対象とする。（現時点で設置の予定は無い）</p> <p>(q) 遮蔽設備⇒主たる機能は遮蔽性能（仕様項目：材料, 寸法（厚さ））</p>															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="905 730 1032 772">分類</th> <th data-bbox="1032 730 1528 772">対象（考え方）</th> <th data-bbox="1528 730 2312 772">各施設における個別機器等の例</th> <th data-bbox="2312 730 2650 772">対象外の例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="905 772 1032 1045">A</td> <td data-bbox="1032 772 1528 1045"> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 設計基準における閉じ込め機能, 火災及び爆発防止機能, 安全上重要な施設の機能を維持するために必要な支援機能を維持するための安全上重要な施設（常設又は可搬型）のうち, 通常運転時, 設計基準事故時において「公衆の放射線障害の防止（環境への放射性物質の放出量を合理的に達成できる限り低くすること）を目的として設置するもの」として以下に示すもの。 ➤ 設計上の想定を超える条件で発生する臨界事故時における拡大防止, 放射線分解による水素爆発防止, 冷却機能喪失による蒸発乾固防止, TBP 等の錯体の急激な反応における火災及び爆発防止に対する重大事故等への対処機能（溶液保持, 冷却機能, 放射性物質の異常な放出防止又は抑制機能, 支援機能）を維持するための常設重大事故等対処設備のうち, 「公衆の放射線障害の防止（環境への放射性物質の放出量を合理的に達成できる限り低くすること）を目的として設置するもの」として以下に示すもの。 </td> <td data-bbox="1528 772 2312 1045"></td> <td data-bbox="2312 772 2650 1045"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="905 1045 1032 1942"></td> <td data-bbox="1032 1045 1528 1942"> <p><遮蔽機能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウラン又はプルトニウム（低濃度のものを除く）を含む溶液又は粉末を保有する系統, 高レベル放射性液体廃棄物（高レベル廃液, 不溶解残渣廃液, 抽出廃液等）を保有する系統からの放射線を遮蔽するための外部遮蔽（建屋外壁）及びセル遮蔽（セル壁）並びに補助遮蔽（セル壁に設置するもの及び管理区域境界に設置するもの） ・放射性固体廃棄物（ガラス固化体, チャンネルボックス・バーナブルポイズン, ハル・エンドピース）を保有する系統からの放射線を遮蔽するためのセル遮蔽（セル壁）並びに補助遮蔽（セル壁, 機器等に設置するもの） ・重大事故等に対処する要員の放射線による被ばくを低減するために必要なもの </td> <td data-bbox="1528 1045 2312 1942"> <p>【設計基準対処施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 再処理設備本体の前処理建屋, 分離建屋, 精製建屋, ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋の外部遮蔽（建屋外壁）及びセル遮蔽（セル壁）並びに補助遮蔽（セル壁に設置するもの及び管理区域境界に設置するハッチ, 扉, 窓, プラグ, 蓋等） ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設（液体）の高レベル廃液ガラス固化建屋, 第1 ガラス固化体貯蔵建屋, チャンネルボックス・バーナブルポイズン処理建屋, ハル・エンドピース貯蔵建屋, 分離建屋と精製建屋を接続する洞道, 精製建屋とウラン・プルトニウム混合脱硝建屋を接続する洞道, 分離建屋と高レベル廃液ガラス固化建屋を接続する洞道の外部遮蔽（建屋外壁）及びセル遮蔽（セル壁）並びに補助遮蔽（セル壁に設置するもの及び管理区域境界に設置するハッチ, 扉, 窓, プラグ, 蓋等） ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設（固体）の高レベル廃液ガラス固化建屋のガラス固化体除染室, ガラス固化体検査室, ガラス固化体貯蔵ピット（貯蔵区域）, 第1 ガラス固化体貯蔵建屋のガラス固化体貯蔵ピット（貯蔵区域）, 受入れ室の他, 低レベル固体廃棄物貯蔵設備のチャンネルボックス・バーナブルポイズン処理建屋の貯蔵室, ハル・エンドピース貯蔵建屋の貯蔵プールのセル遮蔽（セル壁）並びに補助遮蔽（セル壁に設置するもの及び管理区域境界に設置するハッチ, 扉, 窓, プラグ, 蓋等） ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設（固体）の第1 ガラス固化体貯蔵建屋のガラス固化体 </td> <td data-bbox="2312 1045 2650 1942"> <p>燃料貯蔵プール等の補助遮蔽（水）は遮蔽設備に含まない</p> </td> </tr> </tbody> </table>	分類	対象（考え方）	各施設における個別機器等の例	対象外の例	A	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 設計基準における閉じ込め機能, 火災及び爆発防止機能, 安全上重要な施設の機能を維持するために必要な支援機能を維持するための安全上重要な施設（常設又は可搬型）のうち, 通常運転時, 設計基準事故時において「公衆の放射線障害の防止（環境への放射性物質の放出量を合理的に達成できる限り低くすること）を目的として設置するもの」として以下に示すもの。 ➤ 設計上の想定を超える条件で発生する臨界事故時における拡大防止, 放射線分解による水素爆発防止, 冷却機能喪失による蒸発乾固防止, TBP 等の錯体の急激な反応における火災及び爆発防止に対する重大事故等への対処機能（溶液保持, 冷却機能, 放射性物質の異常な放出防止又は抑制機能, 支援機能）を維持するための常設重大事故等対処設備のうち, 「公衆の放射線障害の防止（環境への放射性物質の放出量を合理的に達成できる限り低くすること）を目的として設置するもの」として以下に示すもの。 				<p><遮蔽機能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウラン又はプルトニウム（低濃度のものを除く）を含む溶液又は粉末を保有する系統, 高レベル放射性液体廃棄物（高レベル廃液, 不溶解残渣廃液, 抽出廃液等）を保有する系統からの放射線を遮蔽するための外部遮蔽（建屋外壁）及びセル遮蔽（セル壁）並びに補助遮蔽（セル壁に設置するもの及び管理区域境界に設置するもの） ・放射性固体廃棄物（ガラス固化体, チャンネルボックス・バーナブルポイズン, ハル・エンドピース）を保有する系統からの放射線を遮蔽するためのセル遮蔽（セル壁）並びに補助遮蔽（セル壁, 機器等に設置するもの） ・重大事故等に対処する要員の放射線による被ばくを低減するために必要なもの 	<p>【設計基準対処施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 再処理設備本体の前処理建屋, 分離建屋, 精製建屋, ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋の外部遮蔽（建屋外壁）及びセル遮蔽（セル壁）並びに補助遮蔽（セル壁に設置するもの及び管理区域境界に設置するハッチ, 扉, 窓, プラグ, 蓋等） ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設（液体）の高レベル廃液ガラス固化建屋, 第1 ガラス固化体貯蔵建屋, チャンネルボックス・バーナブルポイズン処理建屋, ハル・エンドピース貯蔵建屋, 分離建屋と精製建屋を接続する洞道, 精製建屋とウラン・プルトニウム混合脱硝建屋を接続する洞道, 分離建屋と高レベル廃液ガラス固化建屋を接続する洞道の外部遮蔽（建屋外壁）及びセル遮蔽（セル壁）並びに補助遮蔽（セル壁に設置するもの及び管理区域境界に設置するハッチ, 扉, 窓, プラグ, 蓋等） ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設（固体）の高レベル廃液ガラス固化建屋のガラス固化体除染室, ガラス固化体検査室, ガラス固化体貯蔵ピット（貯蔵区域）, 第1 ガラス固化体貯蔵建屋のガラス固化体貯蔵ピット（貯蔵区域）, 受入れ室の他, 低レベル固体廃棄物貯蔵設備のチャンネルボックス・バーナブルポイズン処理建屋の貯蔵室, ハル・エンドピース貯蔵建屋の貯蔵プールのセル遮蔽（セル壁）並びに補助遮蔽（セル壁に設置するもの及び管理区域境界に設置するハッチ, 扉, 窓, プラグ, 蓋等） ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設（固体）の第1 ガラス固化体貯蔵建屋のガラス固化体 	<p>燃料貯蔵プール等の補助遮蔽（水）は遮蔽設備に含まない</p>			
分類	対象（考え方）	各施設における個別機器等の例	対象外の例													
A	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 設計基準における閉じ込め機能, 火災及び爆発防止機能, 安全上重要な施設の機能を維持するために必要な支援機能を維持するための安全上重要な施設（常設又は可搬型）のうち, 通常運転時, 設計基準事故時において「公衆の放射線障害の防止（環境への放射性物質の放出量を合理的に達成できる限り低くすること）を目的として設置するもの」として以下に示すもの。 ➤ 設計上の想定を超える条件で発生する臨界事故時における拡大防止, 放射線分解による水素爆発防止, 冷却機能喪失による蒸発乾固防止, TBP 等の錯体の急激な反応における火災及び爆発防止に対する重大事故等への対処機能（溶液保持, 冷却機能, 放射性物質の異常な放出防止又は抑制機能, 支援機能）を維持するための常設重大事故等対処設備のうち, 「公衆の放射線障害の防止（環境への放射性物質の放出量を合理的に達成できる限り低くすること）を目的として設置するもの」として以下に示すもの。 															
	<p><遮蔽機能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウラン又はプルトニウム（低濃度のものを除く）を含む溶液又は粉末を保有する系統, 高レベル放射性液体廃棄物（高レベル廃液, 不溶解残渣廃液, 抽出廃液等）を保有する系統からの放射線を遮蔽するための外部遮蔽（建屋外壁）及びセル遮蔽（セル壁）並びに補助遮蔽（セル壁に設置するもの及び管理区域境界に設置するもの） ・放射性固体廃棄物（ガラス固化体, チャンネルボックス・バーナブルポイズン, ハル・エンドピース）を保有する系統からの放射線を遮蔽するためのセル遮蔽（セル壁）並びに補助遮蔽（セル壁, 機器等に設置するもの） ・重大事故等に対処する要員の放射線による被ばくを低減するために必要なもの 	<p>【設計基準対処施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 再処理設備本体の前処理建屋, 分離建屋, 精製建屋, ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋の外部遮蔽（建屋外壁）及びセル遮蔽（セル壁）並びに補助遮蔽（セル壁に設置するもの及び管理区域境界に設置するハッチ, 扉, 窓, プラグ, 蓋等） ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設（液体）の高レベル廃液ガラス固化建屋, 第1 ガラス固化体貯蔵建屋, チャンネルボックス・バーナブルポイズン処理建屋, ハル・エンドピース貯蔵建屋, 分離建屋と精製建屋を接続する洞道, 精製建屋とウラン・プルトニウム混合脱硝建屋を接続する洞道, 分離建屋と高レベル廃液ガラス固化建屋を接続する洞道の外部遮蔽（建屋外壁）及びセル遮蔽（セル壁）並びに補助遮蔽（セル壁に設置するもの及び管理区域境界に設置するハッチ, 扉, 窓, プラグ, 蓋等） ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設（固体）の高レベル廃液ガラス固化建屋のガラス固化体除染室, ガラス固化体検査室, ガラス固化体貯蔵ピット（貯蔵区域）, 第1 ガラス固化体貯蔵建屋のガラス固化体貯蔵ピット（貯蔵区域）, 受入れ室の他, 低レベル固体廃棄物貯蔵設備のチャンネルボックス・バーナブルポイズン処理建屋の貯蔵室, ハル・エンドピース貯蔵建屋の貯蔵プールのセル遮蔽（セル壁）並びに補助遮蔽（セル壁に設置するもの及び管理区域境界に設置するハッチ, 扉, 窓, プラグ, 蓋等） ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設（固体）の第1 ガラス固化体貯蔵建屋のガラス固化体 	<p>燃料貯蔵プール等の補助遮蔽（水）は遮蔽設備に含まない</p>													

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き		
			<p>貯蔵設備の床面走行クレーン、トレンチ移送台車の補助遮蔽（機器等に設置するもの蓋、プラグ等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 廃棄物管理設備本体のガラス固化体貯蔵建屋及びガラス固化体貯蔵建屋B棟のガラス固化体貯蔵設備のガラス固化体貯蔵ピット（貯蔵区域）の一次遮蔽（セル壁）並びに補助遮蔽（セル壁に設置するもの及び管理区域境界に設置するハッチ、扉、窓、プラグ、蓋等） ✓ 放射性廃棄物の受入施設のガラス固化体受入れ設備のガラス固化体検査室の一次遮蔽（セル壁）並びに補助遮蔽（セル壁に設置するもの及び管理区域境界に設置するハッチ、扉、窓、プラグ、蓋等） <p>【重大事故等対処設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 設計基準対処施設と兼用する計測制御系統施設の制御室遮蔽設備（中央制御室及び使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の制御室用）の外部遮蔽（建屋外壁） ✓ 緊急時対策所の緊急時対策建屋の外部遮蔽（建屋外壁）
	B	<p>(1)分類Aを除くものであって、通常運転時において核燃料物質等を有する建物・構築物から「公衆の放射線障害の防止（環境への放射性物質の放出量を合理的に達成できる限り低くすること）を目的として設置するもの」のうち、以下に示すもの</p> <p><遮蔽機能></p> <p>・ウラン又はプルトニウム（低濃度のものを含む）を含む溶液又は粉末を保有する系統、低レベル放射性廃棄物を保有する系統からの放射線を遮蔽するための外部遮蔽（建屋外壁）及びセル遮蔽（セル壁）並びに補助遮蔽（セル壁に設置するもの及び管理区域境界に設置するもの）</p>	<p>【設計基準対処施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の使用済燃料輸送容器管理建屋、使用済燃料受入れ・貯蔵建屋の外部遮蔽（建屋外壁）及びセル遮蔽（室等）並びに補助遮蔽（管理区域境界に設置するハッチ、扉、窓、プラグ、蓋等） ✓ 製品貯蔵施設のウラン酸化物貯蔵建屋、ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋の外部遮蔽（建屋外壁）及びセル遮蔽（室等）並びに補助遮蔽（管理区域境界に設置するハッチ、扉、窓、プラグ、蓋等） ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設の使用済燃料受入れ・貯蔵管理建屋、低レベル廃液処理建屋、低レベル廃棄物貯蔵建屋、第1ガラス固化体貯蔵建屋、チャンネルボックス・バーナブルポイズン処理建屋、ハル・エンドピース貯蔵建屋、第1低レベル廃棄物貯蔵建屋、第2低レベル廃棄物貯蔵建屋、第4低レベル廃棄物貯蔵建屋、放射性物質を内包する洞道等の外部遮蔽（建屋外壁）及びセル遮蔽（室等）並びに補助遮蔽（管理区域境界に設置するハッチ、扉、窓、プラグ、蓋等） ✓ その他再処理設備の附属施設の分析建屋、出入管理建屋の外部遮蔽（建屋外壁）及びセル遮蔽（室等）並びに補助遮蔽（管理区域境界に設置するハッチ、扉、窓、プラグ、蓋等） ✓ 放射性廃棄物管理設備本体のガラス固化体受入れ建屋の外部遮蔽（建屋外壁）及び二次遮蔽（室等）及び補助遮蔽（管理区域境界に設置するハッチ、扉、窓、プラグ、蓋等） ✓ 廃棄物管理設備本体のガラス固化体貯蔵建屋、ガラス固化体貯蔵建屋B棟の二次遮蔽（建屋外壁）及び補助遮蔽（管理区域境界に設置するハッチ、扉、窓、プラグ、蓋等）

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド		仕様表対象選定手引き	
		✓ 加工設備本体の燃料加工建屋、貯蔵容器搬送用洞道の遮蔽設備	
C	該当する個別機器等はない。		
▶ プルトニウム（低濃度のものを除く）を含む溶液又は粉末，高レベル放射性液体廃棄物を取り扱う核燃料物質等取扱いボックス，これら溶液又は粉末を取り扱う系統との境界に設置されるポンプ，フィルタ等の個別機器等であって従事者への被ばくを防止するために補助遮蔽を設置しているものはポンプ，核燃料物質等取扱いボックス等側で遮蔽性能に係る仕様項目（材料，寸法等）を纏めて記載する。			
(r) 搬送設備⇒主たる機能は搬送性能（仕様項目：容量，核的制限値）			
分類	対象（考え方）	各施設における個別機器等の例	対象外の例
A	▶ 設計基準における閉じ込め機能，安全上重要な施設の機能を維持するために必要な支援機能を維持するための安全上重要な施設（常設）のうち，使用済燃料等の落下・転倒によって「公衆及び従事者等の放射線障害の防止を目的として設置するもの」として以下に示すもの。		
	<閉じ込め：落下・転倒防止機能> ・使用済燃料等（輸送容器，ガラス固化体を含む）の運搬を行うもの	【設計基準対処施設】 ✓ 使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の燃料取出し設備の使用済燃料受入れ・貯蔵建屋天井クレーン ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設の高レベル廃液ガラス固化設備の固化セル移送台車 【重大事故等対処設備】 該当無し	
B	▶ 通常運転時において臨界防止機能，閉じ込め機能を維持するために必要な安全機能を有する施設（常設）のうち，以下に示すもの。		
	<閉じ込め：落下・転倒防止機能> ・使用済燃料等（輸送容器，ガラス固化体を含む）の運搬を行うもの	【設計基準対処施設】 ✓ 使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の使用済燃料輸送容器受入れ・保管設備の使用済燃料輸送容器管理建屋天井クレーン，使用済燃料輸送容器移送台車，燃料取出し設備の燃料取出し装置，燃料移送設備の燃料水中台車，燃料貯蔵設備の燃料取扱装置，燃料送出し設備のバスケット取扱装置，バスケット搬送機 ✓ 再処理設備本体の溶解施設の燃料供給設備の燃料横転クレーン ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設（固体）の高レベル廃液ガラス固化設備のガラス固化体検査室天井クレーン，除染装置，ガラス固化体取扱ジブクレーン，固化セルパワーマニプレータ，ガラス固化体貯蔵設備の第1ガラス固化体貯蔵建屋床面走行クレーン，トレンチ移送台車，ガラス固化体受入れクレーン，ガラス固化体検査室パワーマニプレータ ✓ 放射性廃棄物の受入施設のガラス固化体受入れ設備の受入れ建屋天井クレーン，ガラス固化体検査室天井クレーン，輸送容器搬送台車 ✓ 廃棄物管理設備本体のガラス固化体貯蔵設備の貯蔵建屋床面走行クレーン ※上記の搬送設備で落下防止等のインターロック機能を有するものはインターロック内容について仕様表注記で記載するものとする。 ✓ MOX 燃料加工施設の加工設備本体及び核燃料物質の貯蔵施設の粉末容器等を搬送する装置	使用済燃料を収納しない輸送容器，空バスケット，公衆への影響が小さいウラン粉末や低レベル固体廃棄物等を運搬する搬送設備は対象外
	<臨界防止機能> ・単一ユニットで核的制限値（質量管理，体数管理，形状寸法管理）を設定しているもの	【設計基準対処施設】 ✓ 使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の燃料取出し設備の燃料取出し装置，燃料貯蔵設備の燃料取扱装置	

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き		
			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 再処理設備本体の燃料供給設備の燃料横転クレーン，せん断機 ✓ 再処理設備本体のウラン脱硝設備の充てん台車，貯蔵容器クレーン，ウラン・プルトニウム混合脱硝設備の保管容器移動装置，保管昇降機，粉末缶払出装 置，充てん台車，搬送台車 ✓ 製品貯蔵施設のウラン酸化物貯蔵設備の貯蔵容器搬送台車，移載クレーン，ウ ラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵設備の昇降機，貯蔵台車，貯蔵容器台車， 移載機，払出台車，洞道搬送台車 ✓ MOX 燃料加工施設の加工設備本体の混合酸化物貯蔵容器，貯蔵マガジン，組立 マガジン，燃料棒及び燃料集合体を搬送する単一ユニットを設定する搬送装置
	C	該当する個別機器等はない。	
▶ 他施設と共用する洞道搬送台車の主登録はMOX燃料加工施設とする。			
(s)機械装置			
(s-1)機械装置（一般）⇒主たる機能は処理性能（仕様項目：容量，核的制限値）			
分類	対象（考え方）	各施設における個別機器等の例	対象外の例
A	▶ 設計基準における臨界防止機能，閉じ込め機能を維持するために必要な支援機能を維持するための安全上重要な施設（常設）のうち，以下に示すもの。 <閉じ込め：放射性物質の保持機能> ・プルトニウム（低濃度のものを除く）を含む粉末を 保有するもの <臨界防止機能> ・単一ユニット及び複数ユニットにおいて核的制限値 を設定するもの	【設計基準対処施設】 ✓ 再処理設備本体の脱硝施設のウラン・プルトニウム混合脱硝設備の脱硝装置， 焙焼炉，還元炉，粉碎機，混合機，粉末充てん機等 【重大事故等対処設備】 該当無し 【設計基準対処施設】 ✓ 再処理設備本体の脱硝施設のウラン・プルトニウム混合脱硝設備の脱硝装置， 焙焼炉，還元炉，粉碎機，混合機，粉末充てん機，脱硝皿取扱装置等 ✓ MOX 燃料の主要な加工工程の装置（一次混合装置等） 【重大事故等対処設備】 該当無し	
B	(1) 安全機能を有する施設（ <u>分類Aを除く</u> ）のうち，核燃料物質等の廃棄（処理，廃棄，貯蔵）機能に係る放射性廃棄物の廃棄施設のうち，以下に示すもの (2) 安全機能を有する施設（ <u>分類Aを除く</u> ）のうち，事業変更許可申請書本文に記載している再処理，MOX 燃料加工を行うための使用済燃料又は核燃料物質等を含む溶液又は粉末等 を取り扱う設備のうち，以下に示すもの		

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き		
	<p>【閉じ込め：廃棄・処理・保管機能】</p> <p>(1) 液体、固体状の放射性廃棄物の廃棄処理（検査を含む）を行うもの</p>	<p>【設計基準対処施設】</p> <p>✓ 放射性廃棄物の廃棄施設（固体）の高レベル廃液ガラス固化設備の溶接機、ガラス固化体外観検査装置、ガラス固化体表面汚染検査装置、ガラス固化体閉じ込め検査装置、低レベル廃棄物処理設備の低レベル濃縮廃液処理系の乾燥装置、圧縮成型装置、固化装置、廃溶媒処理系の熱分解装置、燃焼装置、圧縮成型装置、雑固体廃棄物処理系の焼却装置、圧縮減容装置、チャンネルボックス・バーナブルポイズン処理系のチャンネルボックス切断装置、バーナブルポイズン切断装置</p> <p>✓ 放射性廃棄物の受入施設のガラス固化体受入れ設備のガラス固化体外観検査装置、ガラス固化体表面汚染検査装置、ガラス固化体閉じ込め検査装置、ガラス固化体放射線量測定装置、ガラス固化体重量測定装置、ガラス固化体寸法測定装置、ガラス固化体発熱量測定装置</p>	
C	該当する個別機器等はない。		
(s-2)機械装置（閉じ込め）⇒主たる機能は閉じ込め（非密封 MOX 保持）性能（仕様項目：漏えい率）			
分類	対象（考え方）	各施設における個別機器等の例	対象外の例
A	設計基準における閉じ込め機能を維持するために必要な支援機能を維持するための安全上重要な施設（常設）のうち、以下に示すもの。		
	<p><閉じ込め：放射性物質の保持機能></p> <p>・プルトニウム（低濃度のものを除く）を含む粉末を保有するもの</p>	<p>【設計基準対処施設】</p> <p>✓ MOX 燃料加工施設の焼結炉，小規模焼結処理装置</p> <p>【重大事故等対処設備】</p> <p>該当無し</p>	
B	<p>(1) 安全機能を有する施設（<u>分類Aを除く</u>）のうち、核燃料物質等の廃棄（処理、廃棄、貯蔵）機能に係る放射性廃棄物の廃棄施設のうち、以下に示すもの</p> <p>(2) 安全機能を有する施設（<u>分類Aを除く</u>）のうち、事業変更許可申請書本文に記載している再処理、MOX 燃料加工を行うための使用済燃料又は核燃料物質等を含む溶液又は粉末等を取り扱う設備のうち、以下に示すもの</p>		
	<p><閉じ込め：放射性物質の保持機能></p> <p>・プルトニウム（少量且つ焼結されたもの）を含む粉末を保有するもの</p>	<p>【設計基準対処施設】</p> <p>✓ MOX 燃料加工施設のスタック乾燥装置</p> <p>【重大事故等対処設備】</p> <p>該当無し</p>	
C	該当する個別機器等はない。		
(t)核物質等取扱ボックス⇒主たる機能は閉じ込め（流体保持）性能（仕様項目：漏えい率，開口部風速）			
分類	対象（考え方）	各施設における個別機器等の例	対象外の例
A	<p>➤ 設計基準における臨界防止機能，閉じ込め機能を維持するために必要な支援機能を維持するための安全上重要な施設（常設）のうち、以下に示すもの。</p> <p>➤ 設計上の想定を超える条件で発生する臨界事故時における拡大防止，放射線分解による水素爆発防止，冷却機能喪失による蒸発乾固防止，TBP 等の錯体の急激な反応における火災及び爆発防止，MOX 燃料加工施設におけるグローブボックス内火災に対する重大事故等への対処機能（溶液保持，冷却機能，火災及び爆発防止機能，放射性物質の異常な放出防止又は抑制機能，支援機能）を維持するための常設重大事故等対処設備のうち、以下に示すもの。</p>		
	<p><閉じ込め：流体保持機能></p> <p>・プルトニウム（低濃度のものを除く）を含む溶液又</p>	<p>【設計基準対処施設】</p> <p>✓ 再処理設備本体の精製施設のプルトニウム精製設備，ウラン・プルトニウム混</p>	

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド		仕様表対象選定手引き	
	は粉末を保有するもの ・MOX 燃料加工施設のグローブボックス内における火災における重大事故等の発生及び対処を行うためのもの	合脱硝設備のグローブボックス ✓ MOX 燃料加工施設の成形施設、核燃料物質の貯蔵施設、その他の加工施設の小規模試験設備のグローブボックス 【重大事故等対処設備】 ✓ MOX 燃料加工施設の重大事故等対処設備のグローブボックス	
B	➤ 安全機能を有する施設 <u>(分類Aを除く)</u> のうち、密封されていない核燃料物質（ウラン及びはプルトニウムを含む溶液又は粉末）及び使用済燃料等（放射性廃棄物）を取り扱うものであって、閉じ込め機能（グローブボックスの密閉構造又はフードの風速維持）に係る以下に示すもの		
	密封されていない核燃料物質（ウラン及びはプルトニウムを含む溶液又は粉末）及び使用済燃料等（放射性廃棄物）を取り扱うものであって、閉じ込め機能（グローブボックスの密閉構造又はフードの風速維持）の観点から閉じ込め一次バウンダリとなるもの	【設計基準対処施設】 ✓ 再処理設備本体の溶解施設、分離施設、精製施設、脱硝施設等及びその他再処理設備の附属施設の分析設備のグローブボックス、フード ✓ MOX 燃料加工施設の被覆施設等のグローブボックス、フード、オープンポートボックス 【重大事故等対処設備】 該当無し	
C	該当する個別機器等はない。		

F. 非常用のもの

規則別表第 1 又は別表第 2 の原子炉冷却系統施設、計測制御系統施設、放射線管理施設及びその他発電用原子炉の附属施設の非常用電源設備で記載されており、設計基準事故時に機能が要求される機器等にあつては施設ごとに以下のものをいう。また、重大事故等対処設備を構成する機器等も含むものとする。

発電用原子炉施設の種別	沸騰水型発電用原子炉施設	改良型沸騰水型発電用原子炉施設	加圧水型発電用原子炉施設
原子炉冷却系統施設	○原子炉補機冷却設備にあつては、工学的安全施設等の機器へ冷却水を供給することにより、工学的安全施設等としての機能を間接的に果たすもの。 また、非常用電源設備に冷却水を供給する場合はその範囲も含む。	○原子炉補機冷却設備にあつては、工学的安全施設等の機器へ冷却水を供給することにより、工学的安全施設等としての機能を間接的に果たすもの。 また、非常用電源設備に冷却水を供給する場合はその範囲も含む。	○原子炉補機冷却設備にあつては、工学的安全施設等の機器へ冷却水を供給することにより、工学的安全施設等としての機能を間接的に果たすもの。 また、非常用電源設備、原子炉停止系又は制御用空気設備に冷却水を供給する場合はその範囲も含む。
計測制御系統施設	○制御方式及び制御方法にあつては、発電用原子炉の緊急停止機能又は未臨界維持機能を有する以下のもの。 ・発電用原子炉の反応度の制御方式 ・ほう酸水注入の制御方式 ・制御棒の位置の制御方法 ・ほう酸水注入設備の制御方法 ・安全保護系等の制御	○制御方式及び制御方法にあつては、発電用原子炉の緊急停止機能又は未臨界維持機能を有する以下のもの。 ・発電用原子炉の反応度の制御方式 ・ほう酸水注入の制御方式 ・制御棒の位置の制御方法 ・ほう酸水注入設備の制御方法 ・安全保護系等の制御	○制御方式及び制御方法にあつては、発電用原子炉の緊急停止機能又は未臨界維持機能を有する以下のもの。 ・発電用原子炉の反応度の制御方式 ・制御棒の位置の制御方法 ・一次冷却材のほう酸濃度の制御方法 ・安全保護系等の制御

(u) 変圧器⇒主たる機能は電源供給（変圧）機能（仕様項目：容量、電圧等）

分類	対象（考え方）	各施設における個別機器等の例	対象外の例
A	➤ 設計上の想定を超える条件で発生する臨界事故時における拡大防止、TBP 等の錯体の急激な反応における火災及び爆発防止、MOX 燃料加工施設のグローブボックス内火災に対する重大事故等への対処機能（溶液保持、火災及び爆発防止機能、放射性物質の異常な放出防止又は抑制機能、支援機能）を維持するための常設重大事故等対処設備及び可搬型重大事故等対処設備のうち、以下に示すもの。 <支援機能：電源供給機能> ・重大事故等への対処を行うために必要な電源供給機能を行うもの	【設計基準対処施設】 該当無し 【重大事故等対処設備】 ✓ その他再処理設備の附属施設の電気設備の受電開閉設備の変圧器、動力変圧器	
B	該当する個別機器等はない。		
C	該当する個別機器等はない。		

➤ 他施設と共用する受電開閉設備の変圧器の主登録は再処理施設とする。

(v) 受電開閉設備用遮断器⇒主たる機能は電源供給（遮断）機能（仕様項目：容量、電流等）

分類	対象（考え方）	各施設における個別機器等の例	対象外の例
A	➤ 設計上の想定を超える条件で発生する臨界事故時における拡大防止、TBP 等の錯体の急激な反応における火災及び爆発防止、MOX 燃料加工施設のグローブボックス内火災に対する重大事故等への対処機能（溶液保持、火災及び爆発防止機能、放射性物質の異常な放出防止又は抑制機能、支援機能）を維持するための常設重大事故等対処設備及び可搬型重大事故等対処設備のうち、以下に示すもの。 <支援機能：電源供給機能> ・重大事故等への対処を行うために必要な電源供給機能を行うため、母線構成及び故障箇所の切り離しを行うもの	【設計基準対処施設】 該当無し 【重大事故等対処設備】 その他再処理設備の附属施設の電気設備の受電開閉設備の受電開閉設備用遮断器	

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド				仕様表対象選定手引き			
	方式及び制御方法	方式及び制御方法	方式及び制御方法	B	該当する個別機器等はない。		
			○ほう酸注入機能を有する設備にあっては、未臨界維持機能を有する以下のもの。 ・ほう酸を内包するポンプ、容器、ろ過装置及び主配管	C	該当する個別機器等はない。		
	○制御材駆動装置にあっては、原子炉の緊急停止機能及び未臨界維持機能を有する以下のもの。 ・制御棒駆動機構 ・制御棒駆動水圧設備（スクラム機能に係る容器、主要弁及び主配管に限る。）	○制御材駆動装置にあっては、原子炉の緊急停止機能及び未臨界維持機能を有する以下のもの。 ・制御棒駆動機構 ・制御棒駆動水圧設備（スクラム機能に係る容器、主要弁及び主配管に限る。）		▶ 他施設と共用する受電開閉設備用遮断器の主登録は再処理施設とする。 (x) 電源盤⇒主たる機能は電源供給機能（仕様項目：電圧、電流等）			
				分類	対象（考え方）	各施設における個別機器等の例	対象外の例
				A	▶ 設計基準における臨界防止機能、閉じ込め機能、火災及び爆発防止機能、廃棄（浄化含む）機能、落下・転倒防止機能、安全上重要な施設の機能を維持するために必要な支援機能を維持するための安全上重要な施設（常設又は可搬型）のうち、以下に示すもの。 ▶ 設計上の想定を超える条件で発生する臨界事故時における拡大防止、放射線分解による水素爆発防止、冷却機能喪失による蒸発乾固防止、TBP等の錯体の急激な反応における火災及び爆発防止、MOX燃料加工施設のグローブボックス内火災に対する重大事故等への対処機能（溶液保持、冷却機能、火災及び爆発防止機能、放射性物質の異常な放出防止又は抑制機能、支援機能）を維持するための常設重大事故等対処設備及び可搬型重大事故等対処設備のうち、以下に示すもの。		
					<支援機能：電源供給機能> 外部電源喪失又は交流電源喪失時において、負荷先で使用するための電源を供給及び故障時において内蔵する配線遮断器等により故障箇所の切り離しを行うためのもの	【設計基準対処施設】 ✓ その他再処理設備の附属施設の電気設備の非常用所内電源系統の電源盤（メタルクラッドギア開閉装置、パワーセンタ、モータコントロールセンタ、分電盤、計測交流電源盤、充電器盤） 【重大事故等対処設備】 ✓ その他再処理設備の附属施設の代替電源設備、代替所内電気設備の電源盤（メタルクラッドギア開閉装置、パワーセンタ、モータコントロールセンタ、分電盤、計測交流電源盤、充電器盤）	
				B	該当する個別機器等はない。		
				C	該当する個別機器等はない。		
				▶ 電源供給を行う際に使用するケーブル（常設又は可搬型）は基本設計方針対象とする。			
				分類	対象（考え方）	各施設における個別機器等の例	対象外の例
				A	▶ 設計基準における臨界防止機能、閉じ込め機能、火災及び爆発防止機能、廃棄（浄化含む）機能、落下・転倒防止機能、安全上重要な施設の機能を維持するために必要な支援機能を維持するための安全上重要な施設（常設又は可搬型）のうち、以下に示すもの。 ▶ 設計上の想定を超える条件で発生する臨界事故時における拡大防止、放射線分解による水素爆発防止、冷却機能喪失による蒸発乾固防止、TBP等の錯体の急激な反応における火災及び爆発防止、MOX燃料加工施設のグローブボックス内火災に対する重大事故等への対処機能（溶液保持、冷却機能、火災及び爆発防止機能、放射性物質の異常な放出防止又は抑制機能、支援機能）を維持するための常設重大事故等対処設備及び可搬型重大事故等対処設備のうち、以下に示すもの。		
					<支援機能：電源供給機能> 外部電源喪失又は交流電源喪失時において、負荷先で使用するための動力電源を供給するためのもの	【設計基準対処施設】 ✓ その他再処理設備の附属施設の電気設備の非常用所内電源系統の発電機 ✓ MOX燃料加工施設のその他の加工施設の所内電源設備の非常用ガスタービン発電機 【重大事故等対処設備】 ✓ 計測制御系統施設の情報把握計装設備の発電機 ✓ 放射線管理施設の代替モニタリング設備、代替気象観測設備、環境モニタリング用代替電源設備の発電機	
				(y) 発電機⇒主たる機能は電源供給機能（仕様項目：容量、力率、電圧周波数・回転数（回転速度）、燃料消費量）			

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド				仕様表対象選定手引き			
	に重要な関連機能を有する以下のもの。 ・中央制御室、中央制御室外の原子炉停止機能を有する場所、緊急時制御室及び緊急時対策所に設置する換気設備（事故時に循環及び浄化を行うものに限る。）	に重要な関連機能を有する以下のもの。 ・中央制御室、中央制御室外の原子炉停止機能を有する場所、緊急時制御室及び緊急時対策所に設置する換気設備（事故時に循環及び浄化を行うものに限る。）	に重要な関連機能を有する以下のもの。 ・中央制御室、中央制御室外の原子炉停止機能を有する場所、緊急時制御室及び緊急時対策所に設置する換気設備（事故時に循環及び浄化を行うものに限る。）			<ul style="list-style-type: none"> ✓ その他再処理設備の附属施設の代替電源設備の発電機、緊急時対策建屋代替電源設備の発電機 ✓ MOX 燃料加工施設の放射線管理施設及び所内電源設備の可搬型発電機 	
その他発電用原子炉の附属施設の非常用電源設備	○その他の電源装置にあっては、発電用原子炉の安全性を確保するために工学的安全施設等に電源を供給するもの			B	<支援機能：電源供給機能> 外部電源喪失時において、負荷先である安全機能を有する施設側で使用するための動力電源を供給するためのもの	【設計基準対処施設】 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 廃棄物管理施設のその他再処理設備の附属施設の電気設備の発電機 ✓ MOX 燃料加工施設のその他の加工施設の所内電源設備の第 1 非常用ディーゼル発電機（再処理共用） 	
				C	該当する個別機器等はない。		

※原則として、発電用軽水型原子炉施設の安全機能の重要度分類に関する審査指針（平成 2 年 8 月 3 0 日原子力安全委員会決定）等でクラス 1 又は 2 として規定される構築物、系統又は機器を対象としている。

➤ 電源供給を行う際に使用するケーブル（常設又は可搬型）は基本設計方針対象とする。

(z) 無停電電源装置⇒主たる機能は電源供給機能（仕様項目：容量、電圧等）

分類	対象（考え方）	各施設における個別機器等の例	対象外の例
A	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 設計基準における臨界防止機能、閉じ込め機能、火災及び爆発防止機能、廃棄（浄化含む）機能、落下・転倒防止機能、安全上重要な施設の機能を維持するために必要な支援機能を維持するための安全上重要な施設（常設）のうち、以下に示すもの。 ➤ 設計上の想定を超える条件で発生する臨界事故時における拡大防止、放射線分解による水素爆発防止、冷却機能喪失による蒸発乾固防止、TBP 等の錯体の急激な反応における火災及び爆発防止、MOX 燃料加工施設のグローブボックス内火災に対する重大事故等への対処機能（溶液保持、冷却機能、火災及び爆発防止機能、放射性物質の異常な放出防止又は抑制機能、支援機能）を維持するための常設重大事故等対処設備のうち、以下に示すもの。 		
	<支援機能：電源供給機能> 外部電源喪失又は交流電源喪失時において、負荷先である安全上重要な施設又は重大事故等対処施設側で使用するための無停電電源を供給するためのもの	【設計基準対処施設】 <ul style="list-style-type: none"> ✓ その他再処理設備の附属施設の電気設備の非常用所内電源系統の無停電電源装置 【重大事故等対処設備】 <ul style="list-style-type: none"> ✓ その他再処理設備の附属施設の代替所内電気設備の無停電電源装置 ✓ その他再処理設備の附属施設の代緊急時対策建屋代替電源設備の無停電電源装置 	
B	該当する個別機器等はない。		
C	該当する個別機器等はない。		

(aa) 電力貯蔵装置⇒主たる機能は電源供給機能（仕様項目：容量、電圧等）

分類	対象		
A	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 設計基準における臨界防止機能、閉じ込め機能、火災及び爆発防止機能、廃棄（浄化含む）機能、落下・転倒防止機能、安全上重要な施設の機能を維持するために必要な支援機能を維持するための安全上重要な施設（常設）のうち、以下に示すもの。 ➤ 設計上の想定を超える条件で発生する臨界事故時における拡大防止、放射線分解による水素爆発防止、冷却機能喪失による蒸発乾固防止、TBP 等の錯体の急激な反応における火災及び爆発防止、MOX 燃料加工施設のグローブボックス内火災に対する重大事故等への対処機能（溶液保持、冷却機能、火災及び爆発防止機能、放射性物質の異常な放出防止又は抑制機能、支援機能）を維持するための常設重大事故等対処設備のうち、以下に示すもの。 		
	<支援機能：電源供給機能> 外部電源喪失又は交流電源喪失時において、負荷先である安全上重要な施設又は重大事故等対処施設側で使用するための直流電源を供給するためのもの	【設計基準対処施設】 <ul style="list-style-type: none"> ✓ その他再処理設備の附属施設の電気設備の非常用所内電源系統の蓄電池及び充電器盤 ✓ MOX 燃料加工施設のその他の加工施設の所内電源設備の蓄電池 	

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き		
		<p>【重大事故等対処設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ その他再処理設備の附属施設の代替所内電気設備の蓄電池及び充電器盤 ✓ その他再処理設備の附属施設の代替緊急時対策建屋代替電源設備の蓄電池及び充電器盤 	
B	該当する個別機器等はない。		
C	該当する個別機器等はない。		
(ab)計装/放管設備			
<計装設備>⇒主たる機能は計測機能・インターロック（仕様項目：計測範囲，警報範囲，設定値等）			
分類	対象（考え方）	各施設における個別機器等の例	対象外の例
A	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 設計基準における臨界防止機能，閉じ込め機能，火災及び爆発防止機能，廃棄（浄化含む）機能，落下・転倒防止機能，安全上重要な施設の機能を維持するために必要な支援機能を維持するための安全上重要な施設（常設）のうち，以下に示すもの。 ➤ 設計上の想定を超える条件で発生する臨界事故時における拡大防止，放射線分解による水素爆発防止，冷却機能喪失による蒸発乾固防止，TBP等の錯体の急激な反応における火災及び爆発防止，MOX燃料加工施設のグローブボックス内火災に対する重大事故等への対処機能（溶液保持，冷却機能，火災及び爆発防止機能，放射性物質の異常な放出防止又は抑制機能，支援機能）を維持するための常設重大事故等対処設備及び可搬型重大事故等対処設備のうち，以下に示すもの。 		
	<p>通常運転状態，運転時の異常な過渡変化時，設計基準事故時及び重大事故等時において安全上重要な施設の安全機能及び重大事故等へ対処するための機能を確保するためにプラントの状態を監視又は推定，制御（計測制御設備，安全保護回路及び代替安全保護回路からの信号による安全保護動作含む）するための計器等（設計基準対処施設の計測制御設備，安全保護回路，警報設備等，重大事故等対処設備の計装設備。また，制御室及び緊急時対策所における居住性が維持されていることを確認するための計器を含む。</p> <p><プロセス量の維持機能：臨界防止機能関連> <ソースターム制限機能：臨界防止関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設，せん断処理施設，溶解施設，分離施設，精製施設，脱硝施設の核的制限値等の維持に係る計器，インターロック，警報装置 ・溶解槽において設計基準事故の臨界事故が発生した場合においてその拡大を防止に係る計器，インターロック ・臨界事故の拡大防止に係る重大事故等対処に係る計 	<p><設計基準対処施設></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の計測制御設備（核計装）の燃料度計測装置 ✓ せん断処理施設及び溶解施設の計測制御設備（工程計装）の燃料せん断異常によるせん断停止回路，エンドピースせん断位置異常によるせん断停止回路，せん断刃位置異常によるせん断停止回路，溶解槽溶解液温度低によるせん断停止回路，溶解槽溶解液密度高によるせん断停止回路，硝酸供給槽硝酸密度低によるせん断停止回路，溶解槽供給硝酸流量低によるせん断停止回路，エンドピース酸洗浄槽洗浄液密度高によるせん断停止回路，エンドピース酸洗浄槽洗浄液温度低によるせん断停止回路，エンドピース酸洗浄槽供給硝酸密度低によるせん断停止回路，エンドピース酸洗浄槽供給硝酸流量低によるせん断停止回路，可溶性中性子吸収材緊急供給槽液位低によるせん断停止回路，よう素追出し槽溶解液密度高警報 ✓ 溶解施設の安全保護回路の可溶性中性子吸収材緊急供給回路及びせん断停止回路 ✓ 分離施設，精製施設の計測制御設備（核計装）のプルトニウム洗浄器アルファ線検出器の計数率高警報，耐震性が確保できないアルファ線検出器の故障検知として計測制御設備（工程計装）のアルファモニタ流量計測ポット流量低警報，アルファ線検出器故障警報（校正用ディスク駆動系故障），アルファ線検出器故障警報（試料採取ドラム駆動系故障警報） ✓ 分離施設の安全保護回路のプルトニウム洗浄器中性子計数率高による工程停止回路 ✓ 脱硝施設の計測制御設備（工程計装）の粉末缶MOX粉末重量確認による粉末 	<p>分離施設，精製施設の耐震性が確保できないアルファ線検出器の故障検知として計測制御設備（工程計装）の手動による工程停止回路は基本設計方針対象</p>

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き		
		器, インターロック	缶払出装の起動回路, 脱硝塔内部温度低による硝酸ウラニル溶液の供給停止回路, ウラン酸化物貯蔵容器充てん位置の検知による UO3 粉末の充てん起動回路, 脱硝装置の温度高による脱硝皿取扱装置の起動回路及び照度計によるシャッタの起動回路, 空気輸送終了検知及び脱硝皿の重量確認による脱硝皿取扱装置の起動回路, 保管容器の充てん位置による MOX 粉末の充てん起動回路, 粉末缶充てん位置の検知による MOX 粉末の充てん起動回路 <重大事故等対処設備> ✓ 計測制御系統施設の臨界事故の拡大を防止するための計装設備（常設又は可搬型）のものとして, 臨界検知用放射線検出器, 廃ガス貯留設備の圧力計, 廃ガス貯留設備の流量計, 廃ガス貯留設備の放射線モニタ, 設計基準対処施設の計測制御設備と兼用する溶解槽圧力計, 廃ガス洗浄塔入口圧力計, 可搬型放射線レベル（γ, n）計, 可搬型貯槽掃気圧縮空気流量計 ✓ 計測制御系統施設の臨界事故の拡大を防止するための代替可溶性中性子吸収材緊急供給回路, 可溶性中性子吸収材供給回路
		<プロセス量の維持機能：火災防止機能関連> ・分離施設, 精製施設, 脱硝施設, 酸及び溶媒の回収施設, 放射性廃棄物の廃棄施設の熱的, 化学制限値等の維持に係る計器, インターロック ・水素爆発の防止に係る重大事故等対処に必要な計器 ・有機溶媒等による火災及び爆発の防止に係る重大事故等対処に必要な計器, インターロック ・MOX 燃料加工施設の火災及び爆発の防止に係る計器, インターロック	<設計基準対処施設> ✓ 分離施設の安全保護回路のウラン濃縮缶加熱蒸気温度高による加熱停止回路 ✓ 精製施設の安全保護回路の逆抽出塔溶液温度高による加熱停止回路, プルトニウム濃縮缶加熱蒸気温度高による加熱停止回路, ✓ 酸及び溶媒の回収施設の安全保護回路の第2酸回収系蒸発缶加熱蒸気温度高による加熱停止回路 ✓ 脱硝施設の安全保護回路の還元ガス受槽水素濃度高による還元ガス供給停止回路 ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設の安全保護回路の高レベル廃液濃縮缶加熱蒸気温度高による加熱停止回路 ✓ MOX 燃料加工施設の成形施設の焼結炉及びその他の加工施設の小規模焼結処理装置の炉内温度の熱的制限値を維持するための過加熱防止回路及び熱検知器 ✓ MOX 燃料加工施設のその他の加工施設の小規模焼結処理装置の冷却水流量低による加熱停止回路及び流量計 ✓ MOX 燃料加工施設のその他の加工施設の水素・アルゴン混合ガス設備の混合ガス水素濃度高による混合ガス供給停止回路及び水素濃度検出器 ✓ MOX 燃料加工施設のその他の加工施設の火災防護設備のグローブボックス温度監視装置の熱感知器 <重大事故等対処設備> ✓ 計測制御系統施設の放射性分解水素による爆発を防止するための計装設備（可搬型）のものとして, 圧縮空気自動供給貯槽圧力計, 圧縮空気自動供給ユニット圧力計, 機器圧縮空気自動供給ユニット圧力計, 圧縮空気手動供給ユニット接続系統圧力計, 貯槽掃気圧縮空気流量計, 水素濃度計, 水素掃気系統圧縮空気圧力計, かくはん系統圧縮空気圧力計の他, 蒸発乾固の防止に用いる計装設

緊急停止系は基本設計方針

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き		
		<p>備と一部兼用するセル導出ユニット流量計,セル導出ユニットフィルタ差圧計,フィルタ差圧計, 廃ガス洗浄塔入口圧力計, 導出先セル圧力計, 貯槽温度計</p> <p>✓ 計測制御系統施設の有機溶媒等による火災及び爆発を防止するための計装設備(常設)及び重大事故時供給停止回路のものとして, 分解反応検知器(プルトニウム濃縮缶圧力計, プルトニウム濃縮缶気相部温度計, プルトニウム濃縮缶液相部温度計), プルトニウム濃縮缶供給槽液位計, 供給槽ゲデオン流量計, プルトニウム濃縮缶加熱蒸気温度計, 廃ガス貯留設備の圧力計, 廃ガス貯留設備の流量計, 廃ガス洗浄塔入口圧力計</p> <p>✓ MOX 燃料加工施設の重大事故等対処に使用する可搬型ダンパ出口風速計, 火災状況確認用温度計</p>	
		<p><プロセス量の維持機能: 閉じ込め機能関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設, 溶解施設, 分離施設, 精製施設, 脱硝施設, 放射性廃棄物の廃棄施設における熱的, 化学制限値等の維持に係る計器, インターロック, 警報装置 ・使用済燃料貯蔵槽の冷却の重大事故等対処に必要な計器 ・冷却機能喪失による蒸発乾固の重大事故等対処に必要な係る計器 	<p><設計基準対処施設></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の計測制御設備(工程計装)のプール水浄化系入口圧力低警報及び系統分離弁閉止回路, プール水冷却系浄化系入口流量高警報及び系統分離弁閉止回路, キャスク冷却水入口流量高警報及び系統分離弁閉止回路, 補給水槽液位低警報及び系統分離弁閉止回路, プール水冷却系ポンプ故障警報, 補給水設備ポンプ故障警報 ✓ 溶解施設, 分離施設, 精製施設, 脱硝施設, 放射性廃棄物の廃棄施設の計測制御設備(工程計装)のセル等からの漏えい検知警報, 超音波洗浄廃液受槽液位, 漏えい液希釈水供給槽水位警報, 漏えい液希釈溶液供給槽水位警報, 純水中間貯槽水位低警報, ✓ 脱硝施設の安全保護回路の焙焼炉及び還元炉ヒータ部温度高による加熱停止回路 ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設の計測制御設備(工程計装)のせん断処理・溶解廃ガス処理設備, 塔槽類廃ガス処理設備, 高レベル廃液ガラス固化廃ガス処理設備の系統の圧力警報, 結合装置圧力信号による流下ノズル加熱停止回路, 廃ガス加熱器温度, ミストフィルタ入口圧力 ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設の安全保護回路の高レベル廃液濃縮缶凝縮器排気出口温度高による加熱停止回路, 外部電源喪失による建屋給気閉止ダンパ閉止回路(分離建屋及び精製建屋), 固化セル圧力高による固化セル隔離ダンパの閉止回路, 固化セル台車上の質量高によるガラス流下停止回路, 膨張槽水位低による冷却ユニットへの安全冷水の供給を停止回路, 流下ノズル冷却用空気槽の圧力低により流下ノズル加熱停止回路 <p><重大事故等対処施設></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 計測制御系統施設の蒸発乾固を防止するための計装設備(可搬型)のものとして, 貯槽温度計, 冷却水流量計, 冷却コイル通水流量計, 貯槽液位計, 機器注水流量計, 凝縮器出口排気温度計, 凝縮器通水流量計, 凝縮水槽液位計, セル導出ユニットフィルタ差圧計, フィルタ差圧計, 膨張槽液位計, 冷却コイル圧力計, 廃ガス洗浄塔入口圧力計, 導出先セル圧力計, 漏えい液受皿液位計, 建

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き		
			<p>屋供給冷却水流量計，冷却水排水線量計</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 計測制御系統施設の使用済燃料貯蔵槽の冷却のために必要な計装設備(可搬型)のものとして，燃料貯蔵プール等水位計（超音波式，メジャー，電波式，エアパージ式），燃料貯蔵プール等温度計（サーミスタ，測温抵抗体），代替注水設備流量計，スプレイ設備流量計，燃料貯蔵プール等空間線量率計（サーベイメータ，線量計），建屋内線量率計，
		<p><プロセス量の維持機能：支援機能関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他再処理設備の附属施設の安全上重要な施設の支援機能に係る計器，インターロック，警報装置 ・重大事故等への対処に必要な水の供給に係る計器 ・重大事故等への対処に必要な制御室，緊急対策所の居住性維持機能に係る計器 	<p><設計基準対処施設></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ その他再処理設備の附属施設の計測制御設備（工程計装）の水素掃気用空気貯槽圧力低警報，計測制御用空気貯槽圧力低警報，安全冷却水系膨張槽液位低警報及び系統分離弁閉止回路及び安全冷却水系循環ポンプ停止回路，安全冷却水系循環ポンプ故障警報 <p><重大事故等対処設備></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 計測制御系統施設の重大事故等への対処に必要な水の供給に必要な計装設備（可搬型）のものとして，貯水槽水位計（ロープ式，電波式），第1貯水槽給水流量計 ✓ 重大事故等へ対処するための要員の居住性に必要な中央制御制御室環境測定設備及び使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の制御室環境測定設備，緊急時対策建屋環境測定設備に必要な計装設備（可搬型）のものとして，酸素濃度計，二酸化炭素濃度計，窒素酸化物濃度計 ✓ 重大事故等へ対処するための要員の居住性に必要な緊急時対策建屋換気設備に必要な計装設備（常設）のものとして，対策本部室差圧計，待機室差圧計
	B	<p>通常運転時において核燃料施設から「公衆の放射線障害の防止（環境への放射性物質の放出量を合理的に達成できる限り低くすること）を目的として設置するもの」に係るプラントの状態を監視するための安全機能を有する施設の計装設備のうち，以下に示すもの</p> <p><プロセス量の維持機能：火災防止機能関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ・火災防護機能に関連する設備のプラントの状態を監視・制御するための計器，インターロック，警報装置 	<p><設計基準対処施設></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 分離施設のウラン逆抽出器温度高による逆抽出用硝酸供給停止インターロック ✓ 精製施設のウラン精製設備の逆抽出器温度高による逆抽出用硝酸供給停止インターロック，プルトニウム精製設備のウラン逆抽出器温度高による加熱停止インターロック，ウラン精製設備のウラン濃縮缶加熱蒸気温度高による加熱停止インターロック ✓ 脱硝施設の還元ガス供給系の還元ガス供給槽水素濃度高による還元ガス供給停止インターロック ✓ 酸及び溶媒の回収施設の溶媒回収設備の溶媒再生系（分離・分配系，ウラン精製系，プルトニウム精製系）の第1及び第3洗浄器溶液温度高による加熱停止インターロック，溶媒処理系の第1蒸発缶及び溶媒蒸留塔圧力高による不活性ガス（窒素）の注入，有機溶媒の供給停止及び加熱蒸気の供給を停止インターロック ✓ 放射性廃棄物の廃棄施設の廃溶媒処理系の熱分解装置温度高による加熱停止及び廃溶媒供給停止インターロック，燃焼装置温度低による廃溶媒供給停止イン

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き		
		ターロック	
	<プロセス量の維持機能：閉じ込め機能関連> ・閉じ込め機能に関連する設備のプラントの状態を監視・制御するための計器，インターロック，警報装置	<設計基準対処施設> ✓ 使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設の燃料貯蔵プール等からの漏えい検知警報 ✓ 使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設，溶解施設，分離施設，精製施設，脱硝施設，酸及び溶媒の回収施設，放射性廃棄物の廃棄施設の室等からの漏えい検知警報，冷却水設備等の冷媒（熱媒）を介して加熱及び冷却を行う系統からの漏えい検知警報，排気筒からの排気風量計，海洋放出管からの海洋放出流量計，塔槽類廃ガス処理設備の系統圧力計，建屋換気設備の室等の負圧計及び排風機風量計，貯蔵ピット等の排気温度，圧力警報等	
	C 設計想定事象（自然現象，工場若しくは事業所内又はその周辺における核燃料施設の安全性を損なわせる原因となるおそれがある事象であって人為によるもの（故意によるものを除く。），火災，溢水その他の核燃料施設の安全性を損なわせる原因となるおそれがある事象）において，安全上重要な施設，重大事故等対処施設，耐震重要施設等の機器等の機能喪失を防止するものとして，安全機能を有する施設（分類Aを除く）のうち，その他加工施設，その他再処理設備の附属施設，その他廃棄物管理設備の附属施設の火災防護設備，溢水防護設備，竜巻防護対策設備の他，各施設への必要なユーティリティを供給する電気設備，圧縮空気設備，給水処理設備，冷却水設備，蒸気供給設備，化学薬品貯蔵供給設備等のうち，以下に示すもの。		
<支援機能> ・耐震重要施設等の地下水対策設備の排水を行うために必要な計器	<設計基準対処施設> ・建物に附属する地下水排水設備のサブドレンピット水位計		
	▶ 電源供給を行う際に使用するケーブル及び信号伝送に使用するケーブル，無線伝送装置（アンテナ含む）及び制御盤，監視盤で常設又は可搬型のものは基本設計方針対象とする。 ▶ 重大事故等の対処において使用する可搬型の水素濃度計や燃料貯蔵プール等の監視装置は，容器，ホース，ファン，凝縮器等のユニット品で構成されることから機能，性能に係る仕様を纏めて記載する。 ▶ 他施設と共用する計装設備の主登録は再処理施設とする。 ▶ 搬送設備の落下・転倒防止のインターロックは搬送設備側の仕様表注記で記載する。 ▶ 計装設備のインターロック機能についてはインターロック内容を仕様表注記で記載する。		
	<放管設備>⇒主たる機能は電源供給機能（仕様項目：計測範囲，警報範囲）		
	分類 A	対象（考え方） 設計基準事故時及び重大事故等時において公衆又は従事者の放射線障害の防止（環境への放射性物質の放出量を合理的に達成できる限り低くすること）を目的として放射線又は放射性物質の濃度等を監視する放管設備（常設又は可搬型）のうち，以下に示すもの	各施設における個別機器等の例 対象外の例
	<事故時の放射性物質の放出量の監視機能> ・設計基準事故時において大気中へ放出される放射性物質の濃度及び線量を監視及び測定するもの ・重大事故時において大気中へ放出される放射性物質の濃度及び線量を監視及び測定するもの ・制御室及び緊急時対策所における居住性が維持されていることを確認するためのもの	<設計基準対処施設> ✓ 設計基準事故時において大気中へ放出される放射性物質の濃度を監視するための屋外モニタリング設備の主排気筒モニタ <重大事故等対処設備> ✓ 重大事故時において大気中へ放出される放射性物質の濃度を監視するための設計基準対処施設と兼用する屋外モニタリング設備の主排気筒モニタ，北換気筒モニタ	排気サンプリング設備は対象外 ダストサンブラは対象外 気象観測設備は対象外

仕様表対象選定手引き
 <比較検討>

参考

発電炉 工認手続ガイド	仕様表対象選定手引き		
			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 重大事故時における周辺監視区域の空気中の放射線量率を連続で監視するための設計基準対処施設と兼用する屋外モニタリング設備の環境モニタリング設備のモニタリングポスト及び空気中の放射性物質の濃度を測定するダストモニタ、代替モニタリング設備の可搬型ガスモニタ、可搬型線量率計、可搬型線量率計、可搬型ダストモニタ、サーベイメータ（重大事故時に使用するガンマ線用、中性子線用、アルファ・ベータ線用）、代替試料分析設備の可搬型放射能測定装置、可搬型核種分析装置、可搬型トリチウム測定装置、代替放射能測定設備のサーベイメータ（重大事故時に使用するガンマ線用、中性子線用、アルファ・ベータ線用） ✓ 制御室放射線計測設備及び緊急時対策建屋放射線計測設備の可搬型エアモニタ、サーベイメータ（重大事故時に使用するガンマ線用、アルファ・ベータ線用）、可搬型線量率計、可搬型ダストモニタ ✓ MOX 燃料加工施設の放射性廃棄物の廃棄施設の工程室放射線計測設備の可搬型ダストサンブラ、アルファ・ベータ線用サーベイメータ
	B	<平常時の放射性物質の放出量の監視機能> ・大気中へ放出される放射性物質の濃度及び線量を監視及び測定し、並びにその結果を記録するためのもの ・管理区域における外部放射線に関わる線量当量、空気中の濃度、放射性物質に汚染されたものの表面密度を測定するもの	<設計基準対処施設> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 各施設内の主要な箇所の作業環境の線量当量率及び空気中の放射能濃度を監視するエアモニタ、ダストモニタ ✓ 臨界事故等の発生のおそれがある機器を収納する建屋において従事者への被ばくを防止する観点からセル等近傍に設置する臨界警報装置 ✓ 大気中へ放出される放射性物質の濃度を監視するための低レベル廃棄物貯蔵建屋排気筒モニタ ✓ 高レベル廃液ガラス固化建屋、第1ガラス固化体貯蔵建屋、廃棄物管理施設のガラス固化体貯蔵建屋及びガラス固化体貯蔵建屋B棟の冷却空気出口シャフトから放出される放射性希ガスを監視するための冷却空気出口シャフトモニタ ✓ 低レベル廃液処理設備の海洋放出管理系から放出される排水の放射能濃度を監視するための排水モニタ ✓ MOX 燃料加工施設の放射線管理施設の排気モニタ、エアモニタ、ダストモニタ及び臨界検知用ガスモニタ
	C	該当する個別機器等はない。	
	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 電源供給を行う際に使用するケーブル及び信号伝送に使用するケーブル、無線伝送装置（アンテナ含む）及び制御盤、監視盤で常設又は可搬型のものとは基本設計方針対象とする。 ➤ 他施設と共用する放管設備の主登録は再処理施設とする。 		